

茨城県教育財団文化財調査報告第240集

# 宮後遺跡 2

やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う  
埋蔵文化財調査報告書Ⅲ

下 卷

平成 17 年 3 月

茨 城 県  
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第240集

<sup>みや</sup>宮 <sup>うしろ</sup>後 遺 跡 2

やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う  
埋 蔵 文 化 財 調 査 報 告 書 Ⅲ

下 卷

平成 17 年 3 月

茨 城 県  
財団法人 茨城県教育財団

# 目 次

## —下 卷—

### 第3章 調査の成果

#### 第3節 遺構と遺物

3 土坑 .....	325
4 土坑墓 .....	530
5 土器埋設土坑 .....	545
6 ピット群 .....	550
7 ピット .....	553
8 陥し穴 .....	559
9 遺構外出土遺物 .....	561

第4節 まとめ .....	566
---------------	-----

#### 写真図版

第1465号土坑（第304図）

**位置** 調査2区の北部，C3g6区。住居跡群域に位置する。

**重複関係** 第1455号土坑の北東側を掘り込み，第1460号土坑に北東側の上部を掘り込まれている。

**規模と形状** 南東壁が崩落しているため，開口部の平面形と規模は不明であるが，現状では長径1.40m，短径1.02m程度の楕円形である。底面はほぼ平坦で，平面形は長径1.50m，短径1.28mの楕円形である。壁は内傾するが，南東壁のみは崩落しているため外傾している。深さは88cmである。ピットは1か所で，東壁際に位置している。ピットの深さは41cmである。

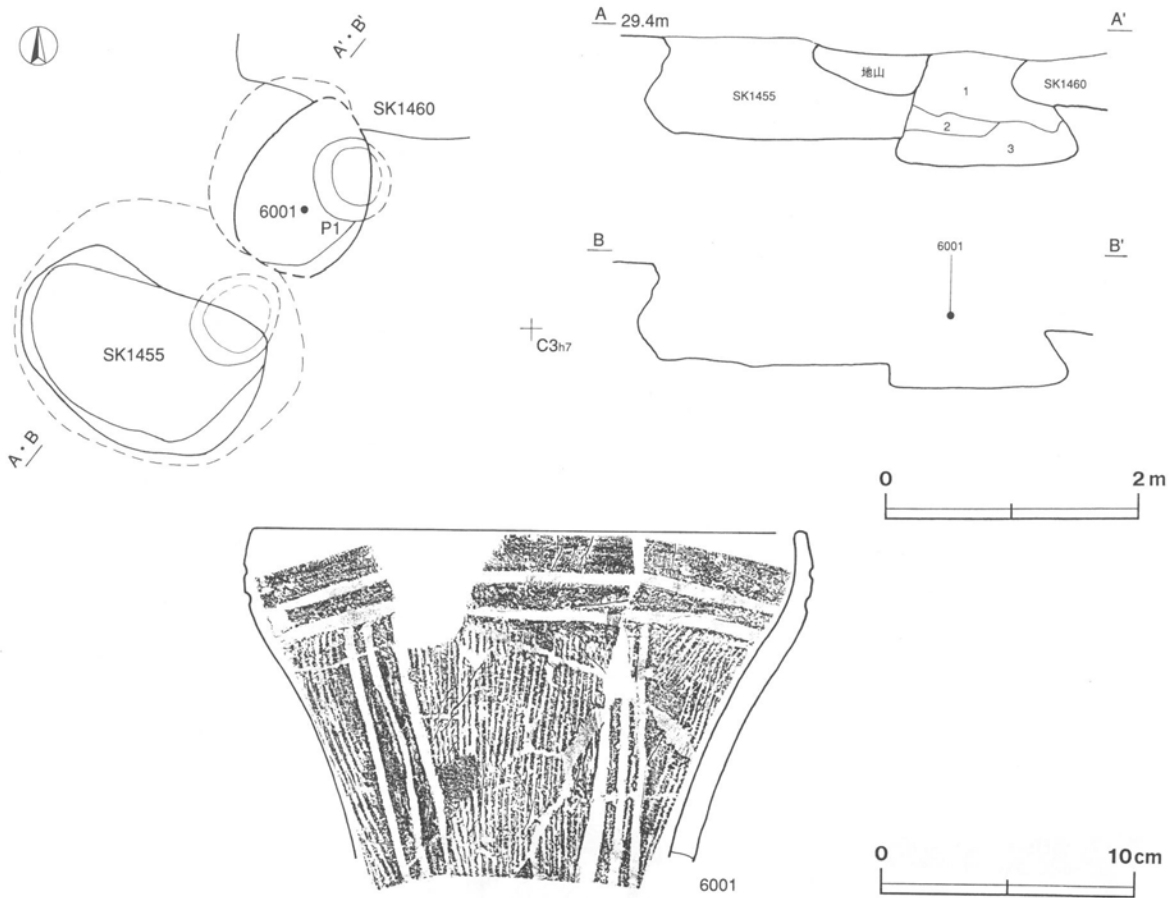
**覆土** 3層に分層される。第1・2層はレンズ状に堆積していることから自然堆積，第3層はロームブロックを多く含むことから南東壁の内傾する壁が崩落したものと考えられる。

**土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・鹿沼パミス粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量，鹿沼パミスブロック少量

**遺物出土状況** 縄文土器片41点が出土している。6001の深鉢は覆土上層から出土している。

**所見** 本跡の廃絶時期は，底面や覆土下層から出土した土器がないため明確にすることはできないが，覆土上層の堆積時期は出土土器から中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。



第304図 第1465号土坑・出土遺物実測図

第1465号土坑出土遺物観察表（第304図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6001	縄文土器	深鉢	[21.4]	(13)	-	口縁部は沈線文を巡らしている。胴部は懸垂文間を磨り消す。地文は櫛歯状工具による条線文。	長石・石英	普通	にぶい褐色	覆土上層	

第1467号土坑 (第305・306図)

**位置** 調査2区の北部, C3e6区。土坑墓群と住居跡群に挟まれた区域に位置する。

**重複関係** 第233号土坑墓に掘り込まれている。本跡の第2層上面に第16号屋外炉がつくられている。

**規模と形状** 平面形は、長径3.18m, 短径2.70mの楕円形で、底面はほぼ平坦で、長径2.94m, 短径2.60mの楕円形である。壁は外傾して立ち上がり、深さは85cmである。ピットは7か所で、P1は中央部に、P2～P5は壁際に、P6・P7は壁寄りに位置している。深さは、P1が54cm, P2が25cm, P3が38cm, P4が40cm, P5が59cm, P6が72cm, P7が56cmである。

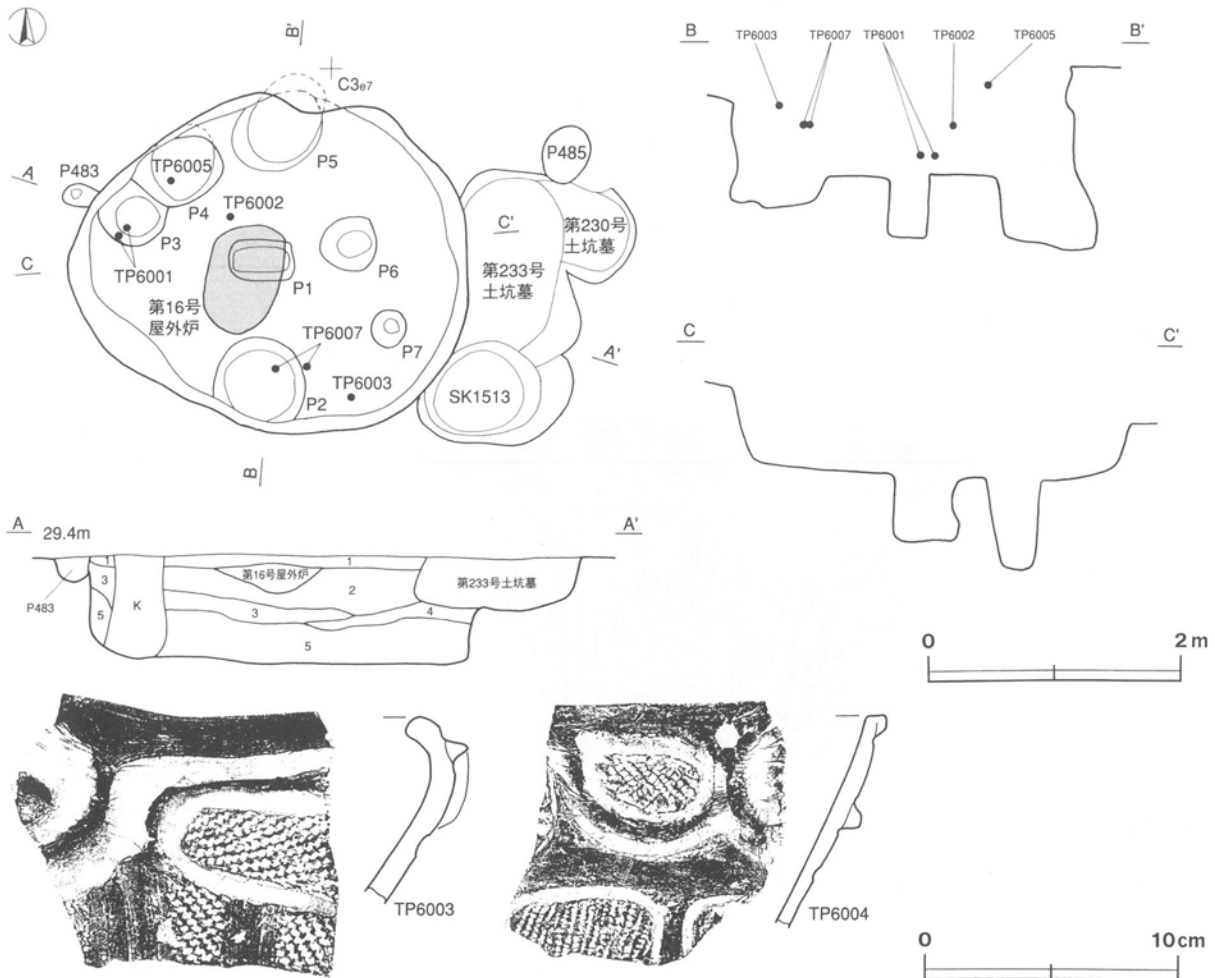
**覆土** 第1層が第16号屋外炉廃絶後の覆土で、その下部に第16号屋外炉がつくられている。本跡の覆土は第2～5層で、4層に分層される。第2・3層はレンズ状に堆積していることから自然堆積、第4・5層はロームブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。

**土層解説**

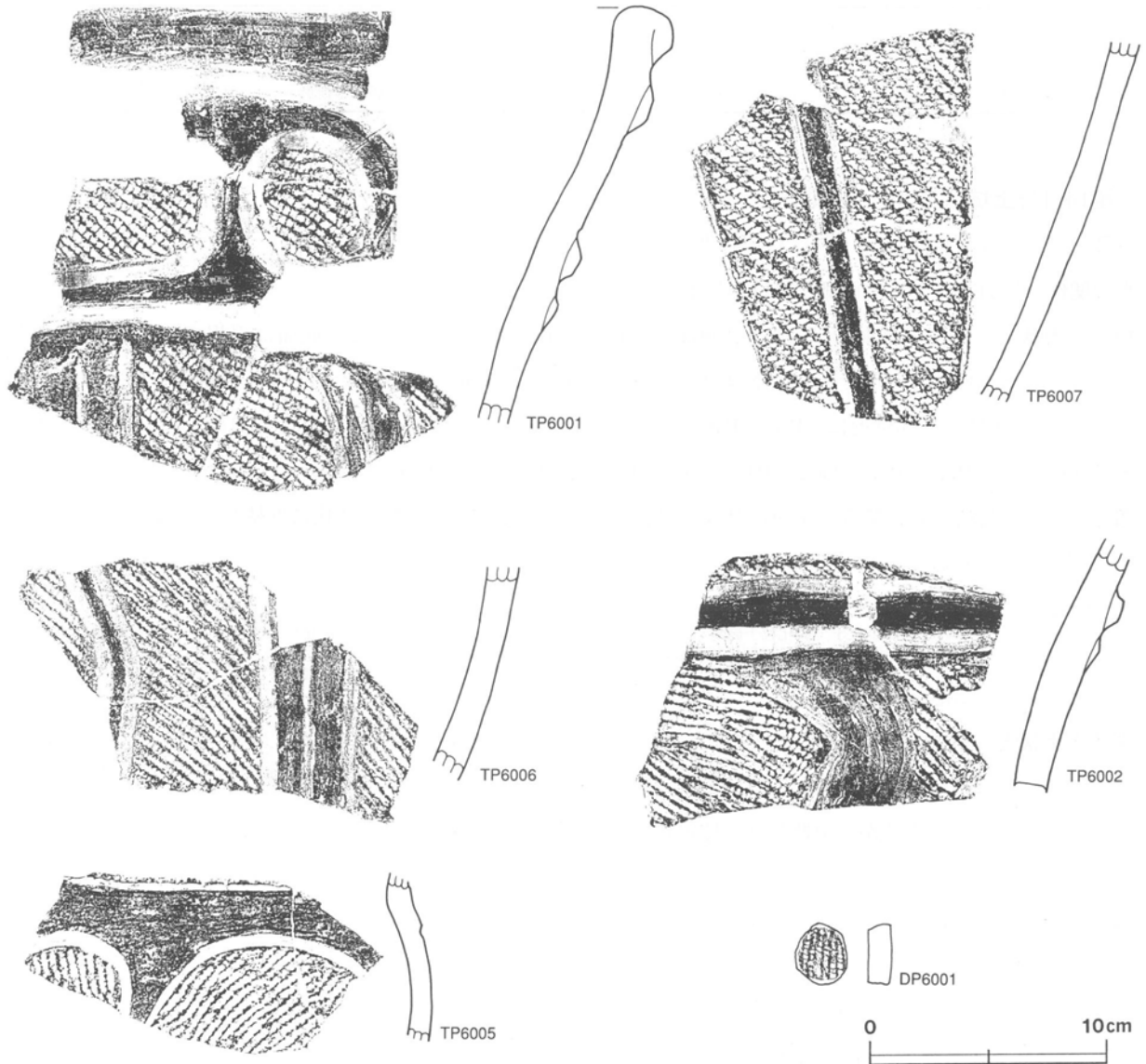
- |       |                      |      |                           |
|-------|----------------------|------|---------------------------|
| 2 黒褐色 | 炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック中量, 鹿沼バミス粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量     | 5 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量         |

**遺物出土状況** 縄文土器片631点, 土器片円盤1点, 剥片1点が覆土から満遍なく出土している。TP6001の深鉢片は覆土下層から, TP6002・6007の深鉢片は覆土中層から, TP6003・6005の深鉢片は覆土上層から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から中期後葉(加曾利EⅢ式期)と考えられる。



第305図 第1467号土坑・出土遺物実測図



第306図 第1467号土坑出土遺物実測図

第1467号土坑出土遺物観察表（第305・306図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP6001	縄文土器	深鉢	—	(17.7)	—	口縁部は沈線が沿う隆帯文により描出。胴部は懸垂文間を磨り消す。地文はLRの単節縄文。	長石・石英	普通	黒褐	覆土下層	
TP6002	縄文土器	深鉢	—	(10.7)	—	沈線が沿う隆帯文により描出。胴部は懸垂文間を磨り消す。LRの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	黒褐	覆土中層	TP6001と同一個体
TP6003	縄文土器	深鉢	—	(7.4)	—	口縁部は沈線が沿う隆帯文により描出。胴部は懸垂文間を磨り消す。LRの複節縄文。	長石・石英・雲母	良好	にぶい褐	覆土上層	
TP6004	縄文土器	深鉢	—	(8.3)	—	口縁部は沈線が沿う隆帯文。胴部は沈線による逆U字状文外を磨り消す。RLの単節縄文。	長石・石英	良好	暗褐	覆土	
TP6005	縄文土器	深鉢	—	(6.6)	—	沈線による逆U字状文外を磨り消す。RLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	褐	覆土上層	
TP6006	縄文土器	深鉢	—	(9.1)	—	3条一組の懸垂文間を磨り消す。LRの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	橙	覆土	
TP6007	縄文土器	深鉢	—	(15.6)	—	沈線による懸垂文間を磨り消す。LRの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	橙	覆土中層	

番号	器種	計測値				胎土・色調	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
DP6001	土器片円盤	2.6	2.2	1	6.7	石英・長石 黒褐	L Rの単節縄文。周縁は研磨。	覆土	

### 第1471号土坑（第307～309図）

**位置** 調査2区の北部，C3f0区。住居跡群域に位置する。

**重複関係** 第1470号土坑の西側と第1472号土坑の東側を掘り込んでいる。

**規模と形状** 開口部の平面形は，長径2.66m，短径2.54mのほぼ円形である。底面は平坦で，平面形は長径2.42m，短径2.30mの円形である。壁はほぼ直立し，深さは45cmである。ピットは8か所で，P1は中央部に，P2とP3は中央部付近に，P4～P8は壁際に位置する。ピットの深さは，P1が71cm，P2が61cm，P3が59cm，P4が24cm，P5が25cm，P6が34cm，P7が63cm，P8が16cmである。

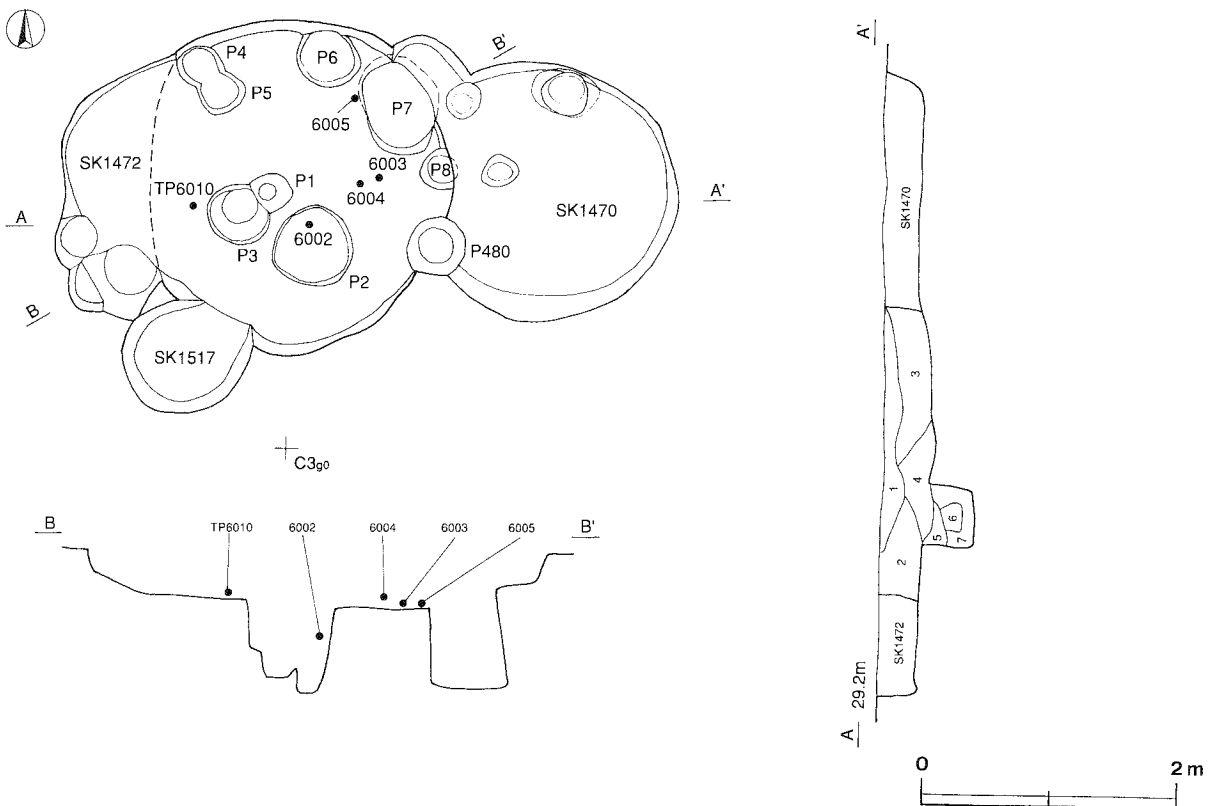
**覆土** 7層に分層され，第5～7層はP3の覆土である。第1～4層はレンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

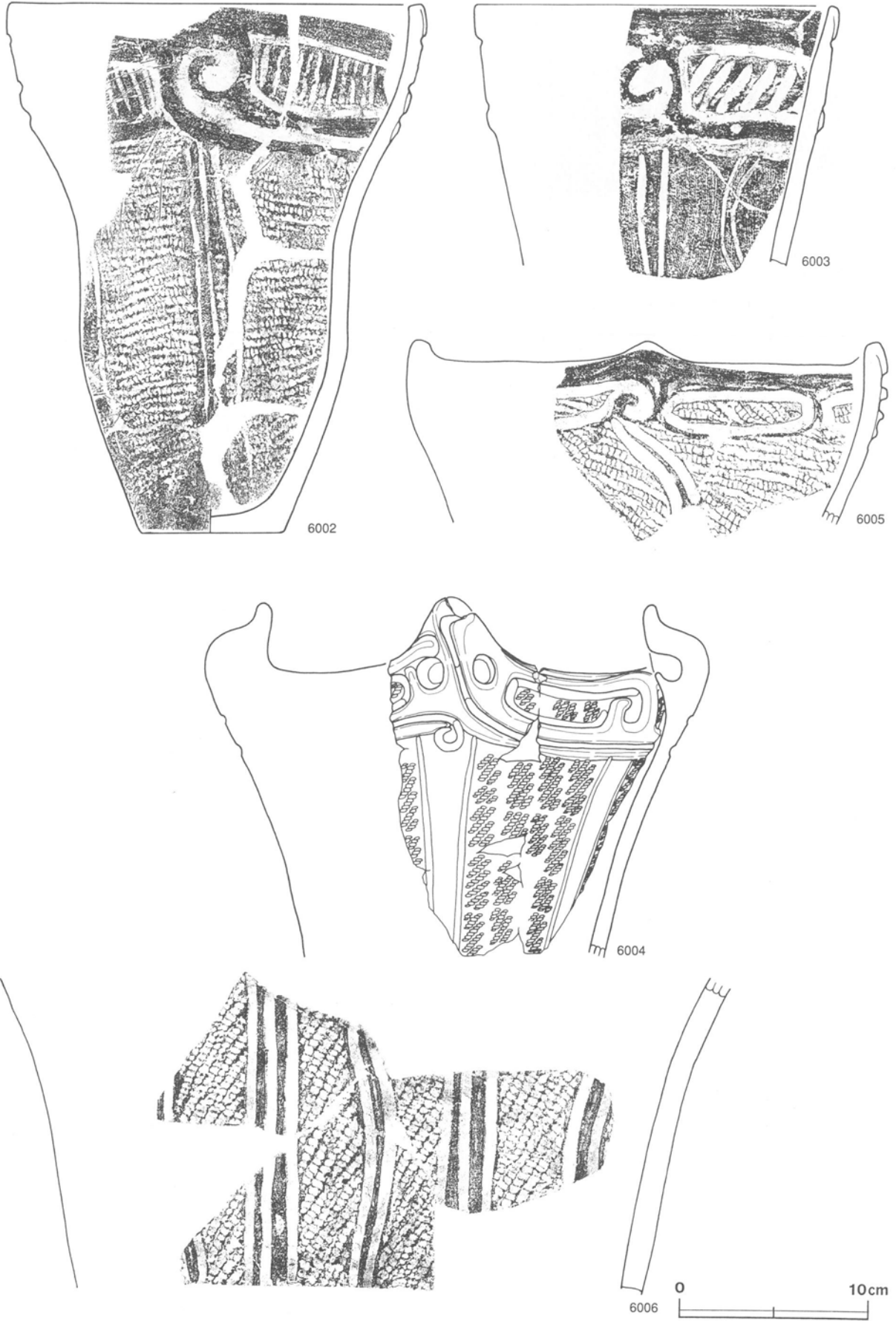
- |       |                      |       |                       |
|-------|----------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量    | 5 黒褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色  | ローム小ブロック微量            |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック少量，炭化粒子微量    | 7 褐色  | ローム小ブロック少量            |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量              |       |                       |

**遺物出土状況** 縄文土器片365点が主に覆土下層から出土している。6002の深鉢はP2覆土から，6003・6004・6005の深鉢片は覆土下層から出土している。

**所見** 時期は，出土土器から中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。

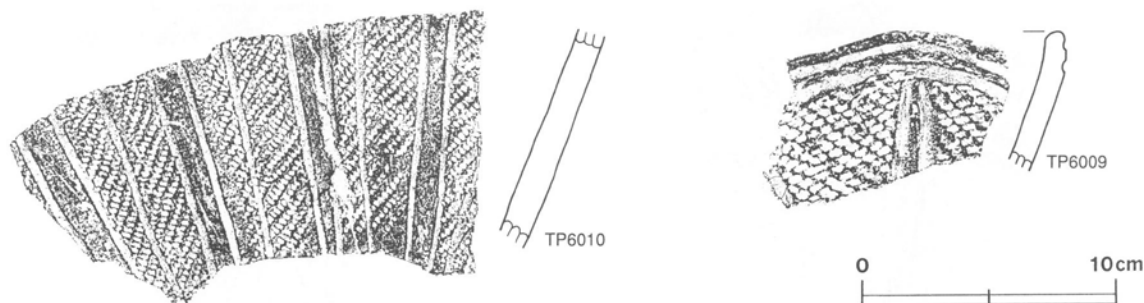


第307図 第1471号土坑実測図



第308图 第1471号土坑出土遗物实测图(1)





第309図 第1471号土坑出土遺物実測図(2)

第1471号土坑出土遺物観察表(第308・309図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6002	縄文土器	深鉢	[21.6]	28.1	7.6	口縁部は隆帯による渦巻文と縦位の沈線文。胴部は懸垂文間を磨り消す。RLの単節縄文。	長石・石英・雲母	良好	にぶい褐	P2覆土	
6003	縄文土器	深鉢	[18.8]	(13.7)	—	口縁部は隆帯による渦巻文と斜位の沈線文。胴部は懸垂文間を磨り消す。地文は燃糸文。	長石・石英・雲母	良好	にぶい褐	覆土下層	
6004	縄文土器	深鉢	[20.6]	(18.8)	—	眼鏡状把手。口縁部は隆帯による区画文。胴部は懸垂文間を磨り消す。RLの単節縄文。	長石・石英	やや不良	にぶい橙	覆土下層	
6005	縄文土器	深鉢	[24.7]	(10.0)	—	口縁部は隆帯による渦巻文。胴部は懸垂文間を磨り消す。地文はLRの単節縄文。	長石・石英・雲母	良好	黒褐	覆土下層	
6006	縄文土器	深鉢	—	(16.5)	—	胴部は懸垂文間を磨り消す。地文はRLの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	覆土	
TP6009	縄文土器	深鉢	—	(5.5)	—	口唇部直下に沈線文。以下は懸垂文間を磨り消す。地文はLRの単節縄文。	長石・石英	普通	にぶい赤褐	覆土	
TP6010	縄文土器	深鉢	—	(8.8)	—	沈線による懸垂文間を磨り消す。地文はRLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	良好	褐	覆土下層	

### 第1473号土坑(第310・311図)

**位置** 調査2区の北部、C3e0区。住居跡群域に位置する。

**規模と形状** 本跡の北東部が調査区域外にあるため、開口部の平面形は径2.20mの円形と推定される。底面はほぼ平坦で、平面形は径2.45mの円形と推定される。確認面からの深さは63cmであるが、土層観察では深さは75cmである。壁は南壁の一部は直立する以外は内傾して立ち上がっているが、土層観察では中位まで内傾して立ち上がり、上位で外傾して立ち上がることが確認されている。底面からくびれ部までの高さは、平均42cmである。ピットは2か所で、P1は壁際に位置し、深さは40cmである。P2はやや壁寄りであるが、そのほとんどが調査区域外にあるため、深さは不明である。

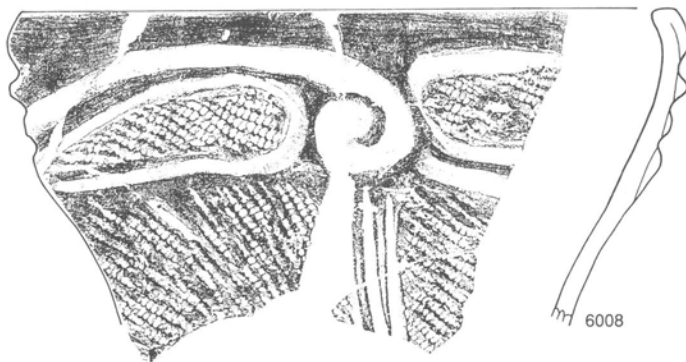
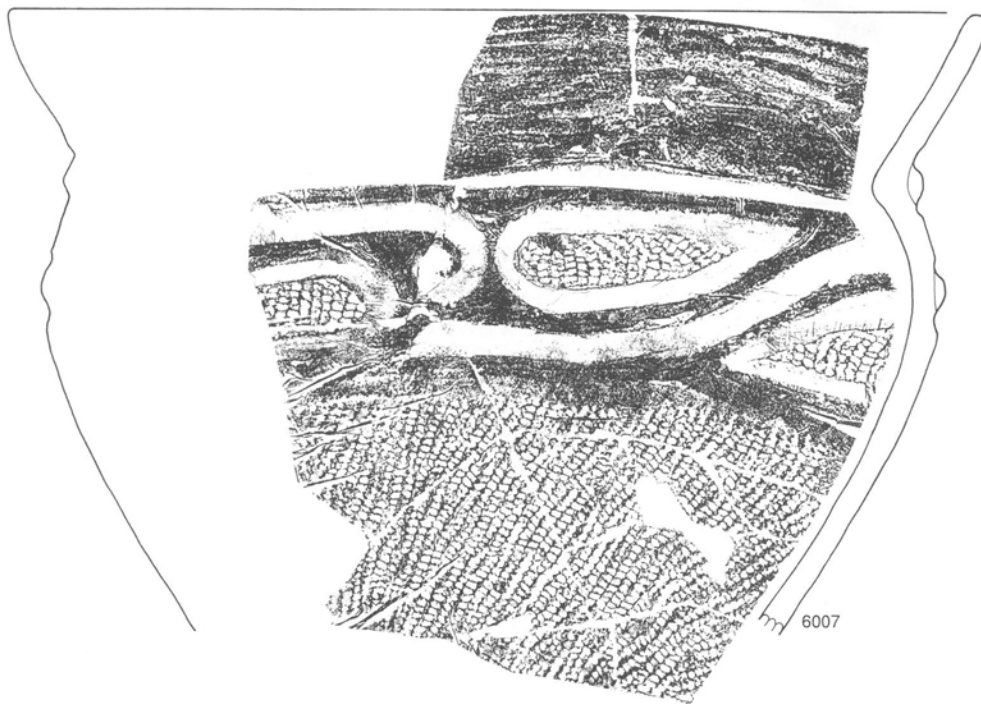
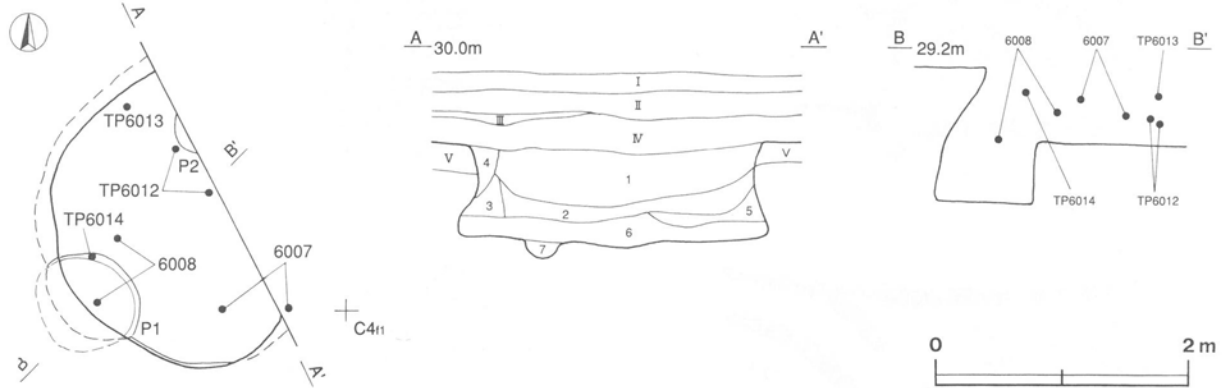
**覆土** 7層に分層され、第7層はP2の上部に堆積する覆土である。第1・2層は黒褐色を呈し、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第5層はロームブロックを多く含み、壁が崩落している南壁際にも堆積していることから崩落土と考えられる。

#### 土層解説

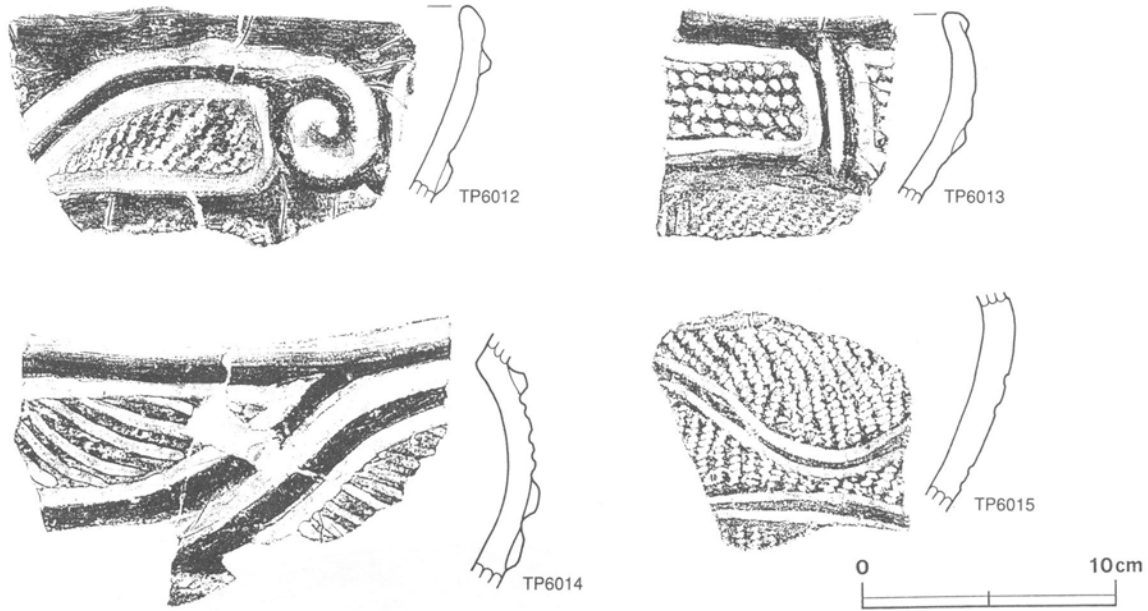
- |        |                      |       |           |
|--------|----------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色  | ローム粒子・鹿沼パミス小ブロック微量   | 5 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色  | ロームブロック少量、炭化粒子微量     | 6 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色  | ローム粒子微量              | 7 褐色  | ロームブロック中量 |
| 4 極暗褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |       |           |

**遺物出土状況** 縄文土器片189点が、主に覆土下層に廃棄されたような状態で出土している。6007の鉢と6008の深鉢片は覆土中層から出土している。

所見 覆土下層に遺物の集中がみられ、一括廃棄された様相を呈している。時期は覆土下層に廃棄された遺物から、中期後葉（加曾利 E II 式期）と考えられる。



第310図 第1473号土坑・出土遺物実測図



第311図 第1473号土坑出土遺物実測図

第1473号土坑出土遺物観察表（第310・311図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6007	縄文土器	鉢	[38.2]	(24.7)	—	口縁部無文。胴部上位は沈線が沿う隆帯文。RLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	赤褐	覆土中層	
6008	縄文土器	深鉢	[25.5]	(12.5)	—	口縁部は隆帯による渦巻文。胴部は懸垂文間を磨り消す。地文はLRの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	暗赤褐	覆土中層	
TP6011	縄文土器	深鉢	—	(8.0)	—	口縁部は隆帯による渦巻文。胴部は懸垂文間を磨り消す。地文はLRの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	暗赤褐	覆土下層	
TP6012	縄文土器	深鉢	—	(7.7)	—	口縁部は隆帯による渦巻文。胴部は懸垂文間を磨り消す。地文はRLの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土下層	
TP6013	縄文土器	深鉢	—	(7.5)	—	口縁部は隆帯による区画文。区画文内は刺突文を充填。RLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	覆土下層	
TP6014	縄文土器	深鉢	—	(10.0)	—	胴部上位は2本一組の隆帯により文様を描出。区画文内は沈線文を充填している。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土下層	
TP6015	縄文土器	深鉢	—	(8.6)	—	頸部は2条一組の沈線文間を磨り消している。RLの単節縄文を横方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい黄橙	覆土下層	

### 第1476号土坑（第312図）

**位置** 調査2区の北部，D3 b2区。住居跡群域に位置する。

**重複関係** 覆土上面を第165号住居の土器埋設炉が掘り込んでいる。第1360・1391・1423号土坑と重複するが、新旧関係は不明である。

**規模と形状** 開口部の平面形は、長径2.22m，短径1.92mの楕円形である。深さは30cmで、壁はほぼ直立する。ピットは3か所で、P1は壁際に、P2とP3は中央部に位置している。P1はピットの南東壁際の底面に深さ5cmの小ピットがある。ピットの深さはP1が61cm，P2が89cm，P3が47cmである。

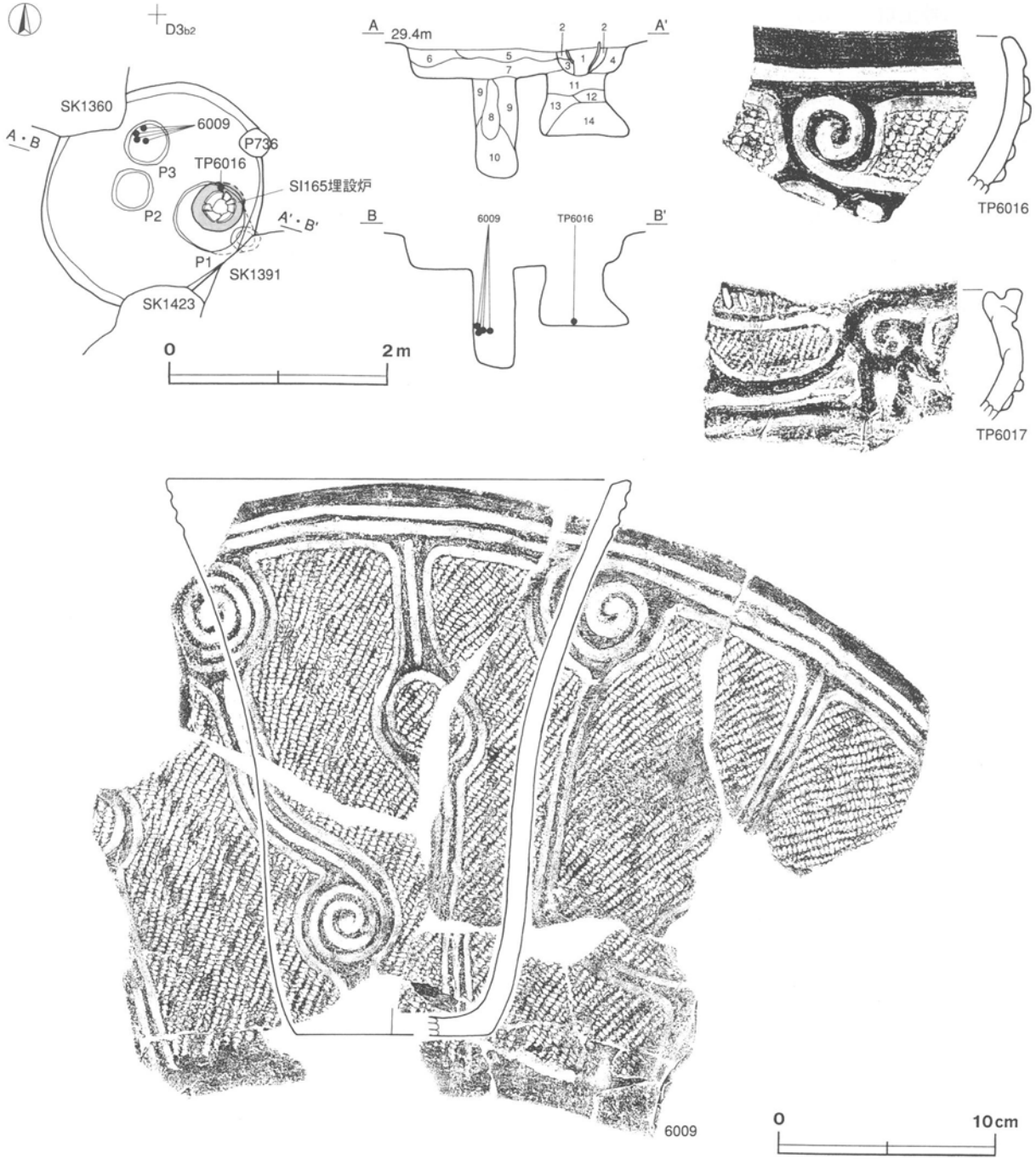
**覆土** 11層に分層され、第1～3層は第165号住居跡の炉の覆土と掘り方の土層である。第4～7層は本跡の主体となる覆土で、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第8～10層は本跡のP2の覆土，第11～14層は本跡のP1の覆土である。

土層解説

- |        |                         |        |                            |
|--------|-------------------------|--------|----------------------------|
| 4 暗褐色  | ローム小ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム小ブロック中量                 |
| 5 黒褐色  | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量    | 11 黒褐色 | ローム小ブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色  | ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量      | 12 黒褐色 | ローム粒子中量                    |
| 7 黒褐色  | ローム小ブロック中量, 炭化粒子微量      | 13 黒褐色 | ローム小ブロック中量, 鹿沼バミス粒子微量      |
| 8 黒褐色  | ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量      | 14 暗褐色 | ローム小ブロック中量, 鹿沼バミス粒子微量      |
| 9 極暗褐色 | ローム小ブロック中量              |        |                            |

遺物出土状況 縄文土器片81点が出土している。6009の深鉢はP3の覆土から、TP6016の深鉢片はP1の底面から出土している。

所見 時期は、ピットから出土した6009から中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。



第312図 第1476号土坑・出土遺物実測図

第1476号土坑出土遺物観察表（第312図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6009	縄文土器	深鉢	25.5	26.0	8.9	口唇部直下は沈線文。以下は沈線による渦巻文を起点に懸垂文間を磨り消す。RLの単節縄文。	長石・石英	普通	褐灰にぶい褐	P 3底面	
TP6016	縄文土器	深鉢	—	(7.3)	—	口縁部は隆帯による渦巻文。RLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	P 1底面	
TP6017	縄文土器	深鉢	—	(6.0)	—	口縁部は隆帯による渦巻文。LRの単節縄文を横方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土	

第1478号土坑（第313・314図）

位置 調査2区の北部，C4fl区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1477号土坑に南側を，第1491号土坑に北側を掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形は長径2.51m，短径2.21mの楕円形である。深さは30cmで，壁は外傾して立ち上がる。底面は平坦である。ピットは1か所で，西壁寄りに位置し，深さが48cmである。P1は本跡のピットとしたが，壁寄りに位置するピットとしては小形であることから，本跡に伴わない可能性もある。

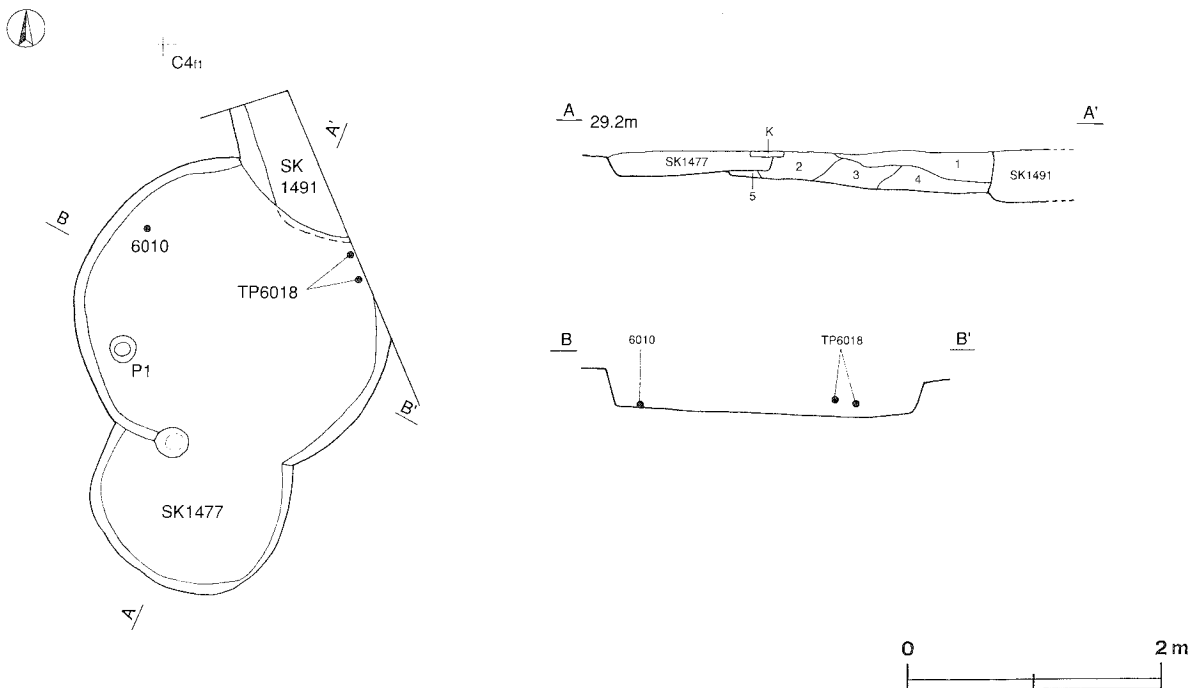
覆土 5層に分層される。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

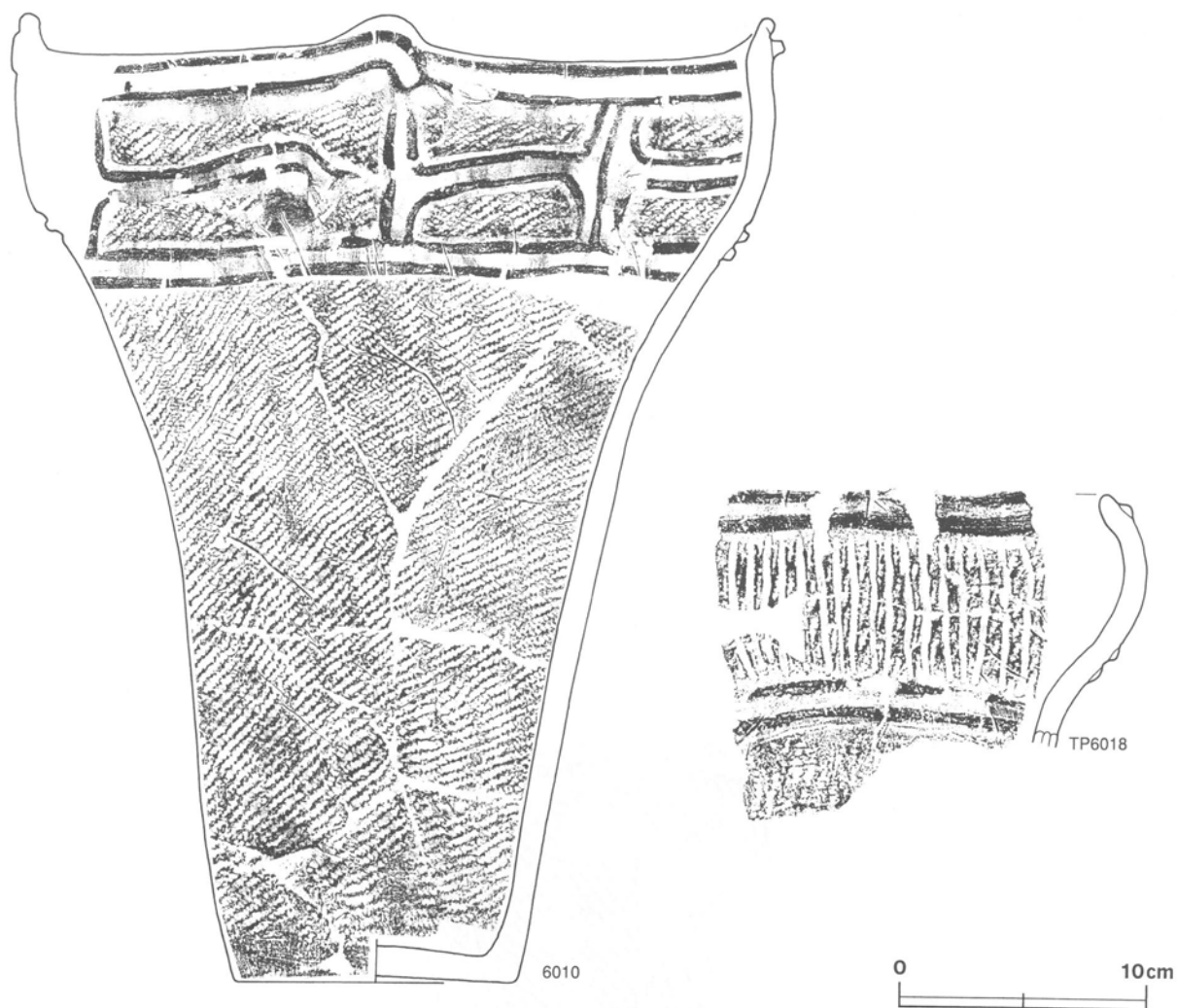
- |        |                   |       |            |
|--------|-------------------|-------|------------|
| 1 黒褐色  | ローム小ブロック・炭化粒子微量   | 4 黒褐色 | ローム小ブロック中量 |
| 2 黒褐色  | ローム小ブロック少量，炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量  |
| 3 極暗褐色 | ローム小ブロック少量        |       |            |

遺物出土状況 縄文土器片54点が覆土から出土している。6010の深鉢は壁際の底面から横位の状態で出土している。

所見 時期は，底面から出土した6010の深鉢から中期後葉（加曾利E I 式期）と考えられる。



第313図 第1478号土坑実測図



第314図 第1478号土坑出土遺物実測図

第1478号土坑出土遺物観察表（第314図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6010	縄文土器	深鉢	[30.1]	39.5	11.4	口縁部は沈線に沿う細い隆帯文。RLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	底面	上半スス付着 P L 49
TP6018	縄文土器	深鉢	—	(10.2)	—	口縁部は隆帯による区画文。区画文内は縦位の沈線文を充填。胴部はRLの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	覆土	

### 第1479号土坑（第315図）

**位置** 調査2区の北部，C3g0区。住居跡群域に位置する。

**重複関係** 第1482号土坑に西側を掘り込まれている。第1481号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

**規模と形状** 開口部の平面形は円形で，規模は現状では径1.94m程度である。底面はほぼ平坦である。確認面からの深さは24cmであり，壁は直立する。

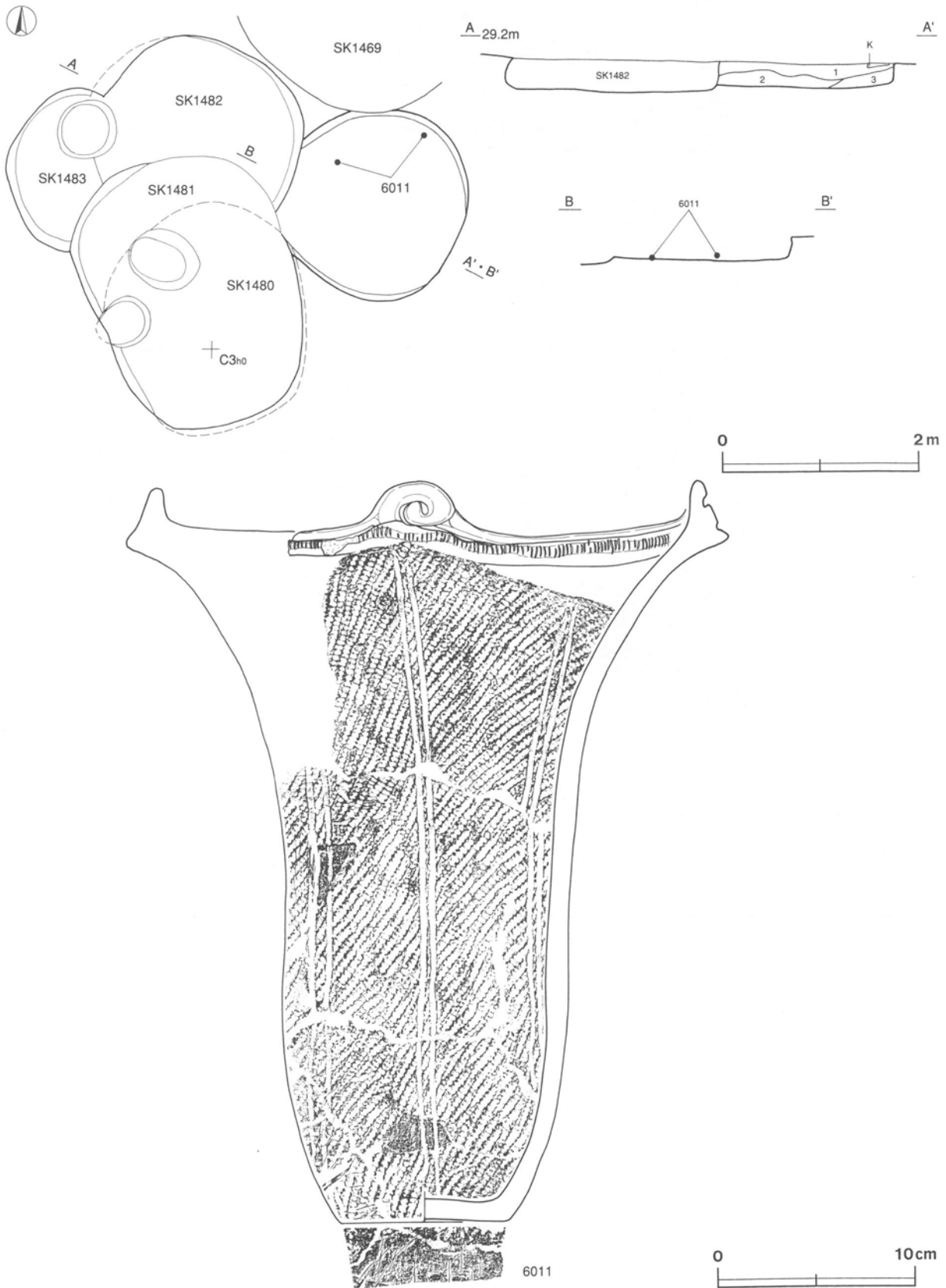
**覆土** 3層に分層される。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量

**遺物出土状況** 縄文土器片19点が出土している。6011の深鉢は底面から出土している。

所見 時期は、底面から出土した6011の深鉢から中期後葉（加曾利 E I 式期）と考えられる。



第315図 第1479号土坑・出土遺物実測図

第1479号土坑出土遺物観察表（第315図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6011	縄文土器	深鉢	[27.7]	37.6	8.6	波頂部に渦巻文を施す4単位の波状口縁。口唇部直下はキザミを有する隆帯文。RLの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	橙	底面	上半スス付着

第1480号土坑（第316・317図）

位置 調査2区の北部，C3g9区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1481号土坑を掘り込み，第1482号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形は，第1481・1482号土坑と重複しているため，現状では長径2.26m，短径1.98mの楕円形と推定される。底面はほぼ平坦である。確認面からの深さは42cmであり，壁は内傾して立ち上がる。西壁だけは崩落しているためか，外傾して立ち上がる。ピットは2か所で，いずれも壁際に位置している。ピットの深さはP1が53cm，P2が42cmである。

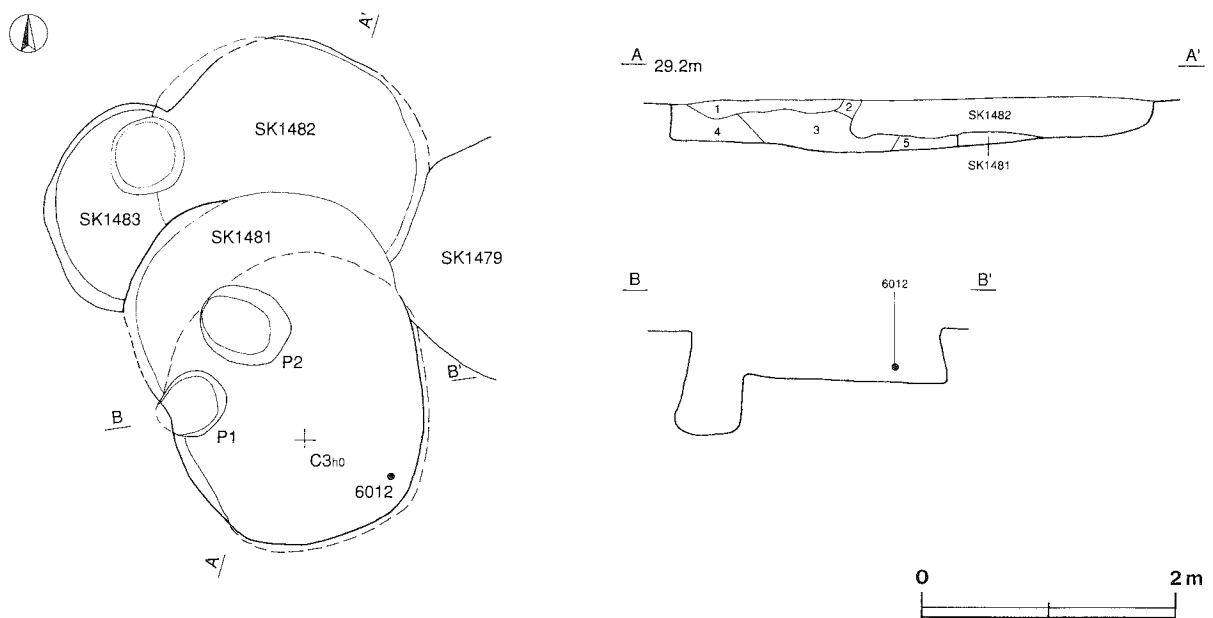
覆土 5層に分層される。第2・4・5層はロームブロックを多く含み，特に第4層は内傾する壁が崩落したと考えられる西壁際付近に堆積にしていることから，崩落土と考えられる。

土層解説

- |       |                   |       |            |
|-------|-------------------|-------|------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量    | 4 暗褐色 | ロームブロック中量  |
| 2 褐色  | ローム小ブロック多量        | 5 暗褐色 | ローム小ブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック中量，炭化粒子微量 |       |            |

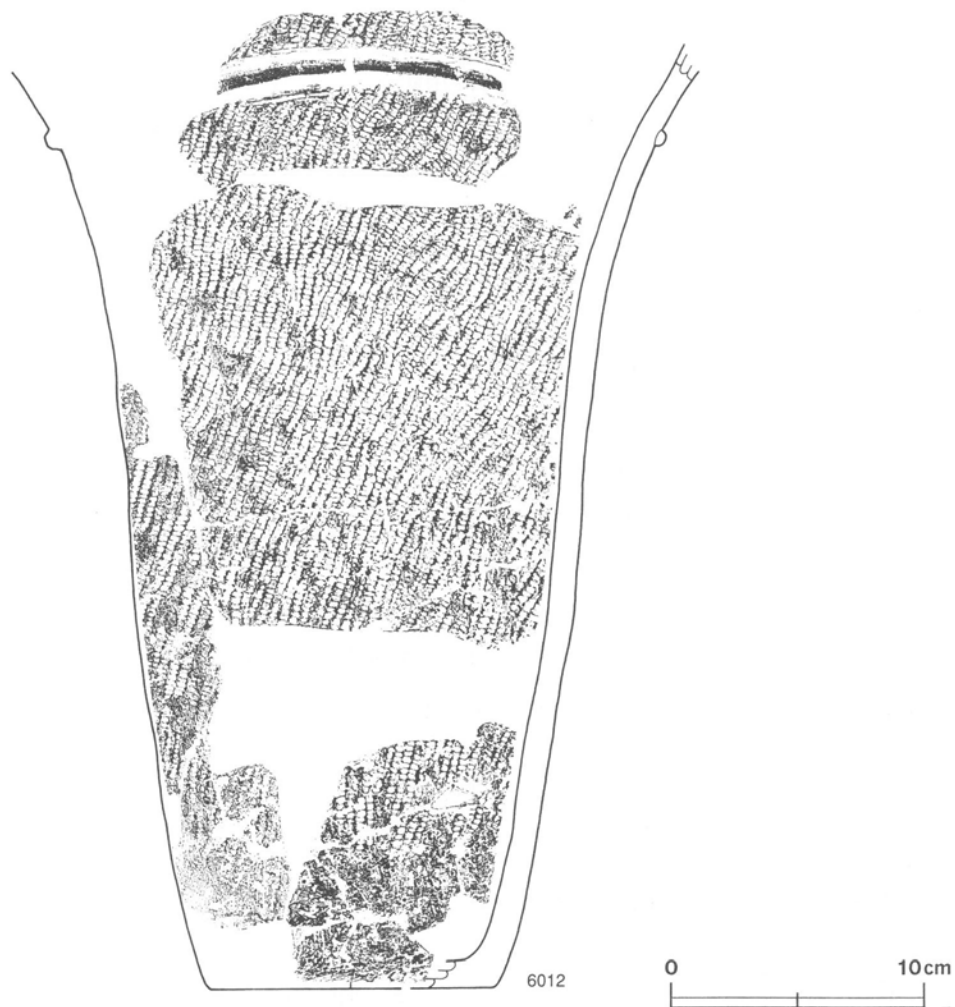
遺物出土状況 縄文土器片198点，剥片3点が覆土から出土している。6012の深鉢は覆土下層から出土している。

所見 時期は，覆土下層から出土した6012の深鉢から中期後葉（加曾利E I 式期）と考えられる。



第316図 第1480号土坑実測図





第317図 第1480号土坑出土遺物実測図

第1480号土坑出土遺物観察表（第317図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6012	縄文土器	深鉢	—	(36.3)	11.4	口縁部と胴部の境に隆帯文。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土下層	上半スス附着

### 第1487号土坑（第318図）

**位置** 調査2区の北部，C4 g1区。住居跡群域に位置する。

**重複関係** 第1493号土坑との新旧関係は，出土土器から本跡が新しい。第1492号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

**規模と形状** 開口部の平面形は，第1492号土坑と重複しているため，現状では長径2.26m，短径1.96mの楕円形と推定される。底面はほぼ平坦で，平面形は長径2.24m，短径2.10mのほぼ円形である。確認面からの深さは52cmで，壁は内傾する。

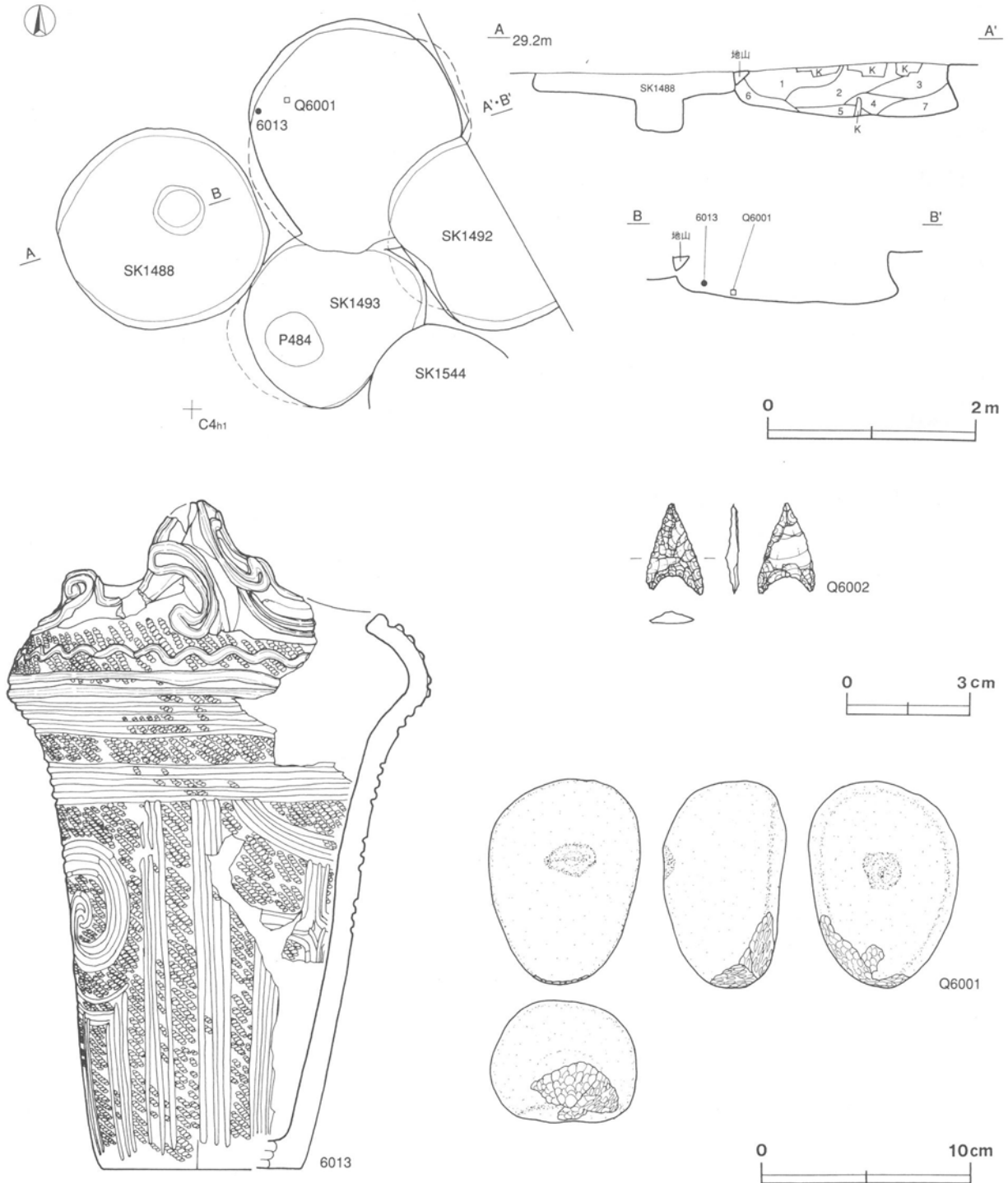
**覆土** 7層に分層される。各層とも壁際から流れ込んだような堆積状況であることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

- |       |                   |       |                    |
|-------|-------------------|-------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量  | 5 暗褐色 | ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック少量, 炭化物微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック微量          |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック・炭化粒子微量   | 7 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量      |
| 4 暗褐色 | ローム小ブロック少量        |       |                    |

遺物出土状況 縄文土器片149点, 敲石1点, 石鏃1点, 剥片4点が, 主に覆土下層から出土している。6013の深鉢は, 西壁際の覆土下層から横位の状態で出土している。

所見 時期は, 6013の深鉢が覆土下層から出土していることから中期後葉(加曾利 E I 式期)と考えられる。



第318図 第1487号土坑・出土遺物実測図

第1487号土坑出土遺物観察表（第318図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6013	縄文土器	深鉢	15.3	31.8	9.4	眼鏡状把手。口縁部は細い隆帯による波状文。胴部は沈線により描出。地文はLRの単節縄文。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土下層	PL49

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	重量(g)				
Q6001	敲石	9.9	7.2	6.0	584.5	砂岩	下端に敲打痕あり。凹石に併用。	覆土下層	PL62
Q6002	石鏃	2.2	1.4	0.3	0.6	チャート	縦長剥片を素材。基部中央が大きく湾入。	覆土	PL59

第1493号土坑（第319・320図）

位置 調査2区の北部，C4g1区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1492号土坑と第484号ピットに掘り込まれている。第1487号土坑との新旧関係は，出土土器から本跡が古い。第1544号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状 開口部の平面形は，第1487・1544号土坑と重複しているため，現状では長径1.78m，短径1.52mの楕円形である。底面はほぼ平坦で，平面形は長径1.88m，短径1.48mの楕円形である。確認面からの深さは37cmで，壁は内傾して立ち上がる。重複している北壁から南東壁にかけての壁はほぼ直立している。

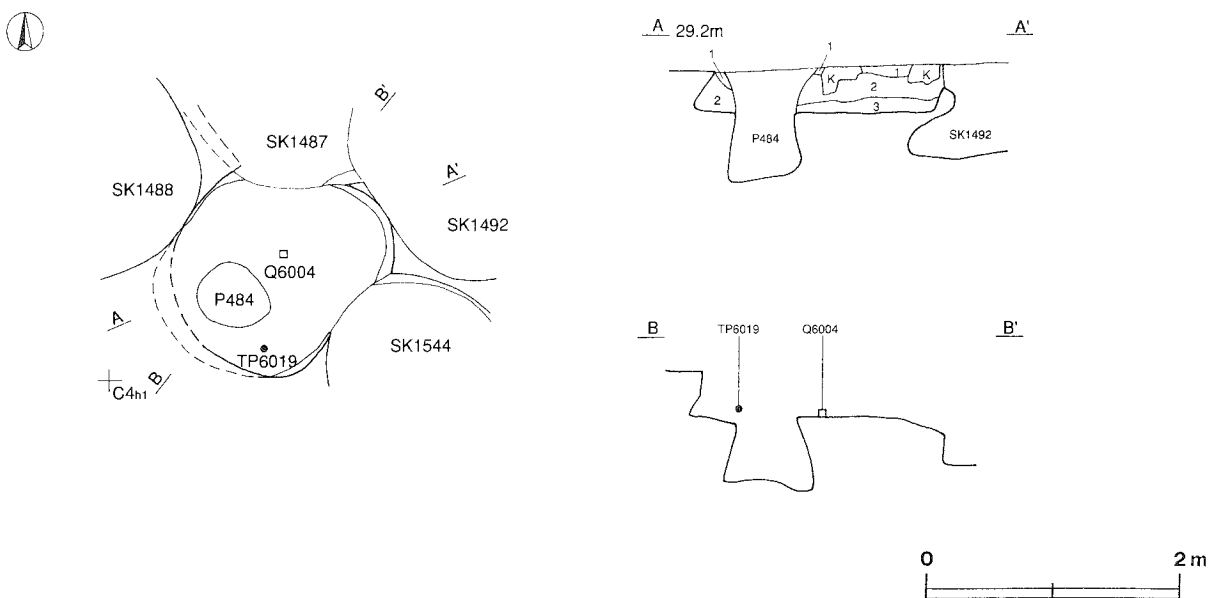
覆土 3層に分層される。各層ともほぼ水平に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

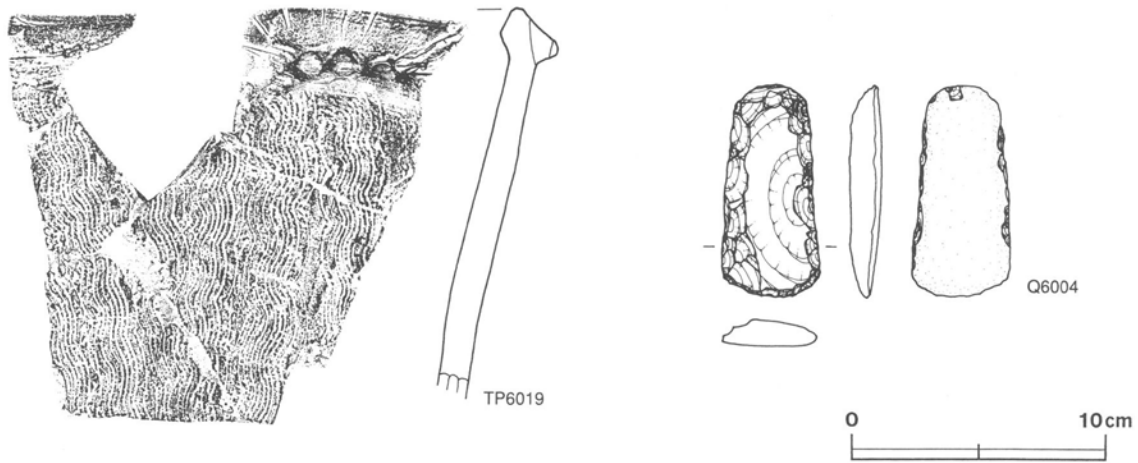
- 1 暗褐色 ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片12点，打製石斧1点が，主に覆土下層から出土している。TP6019の深鉢片は覆土下層から出土している。

所見 時期は，覆土下層から出土したTP6019の深鉢片から中期中葉（阿玉台Ⅲ・Ⅳ式期）と考えられる。



第319図 第1493号土坑実測図



第320図 第1493号土坑出土遺物実測図

第1493号土坑出土遺物観察表 (第320図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP6019	縄文土器	深鉢	—	(15.3)	—	口唇部直下に押圧文を有する隆帯を巡らしている。櫛歯状工具による波状の条線文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	覆土下層	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q6004	打製石斧	8.4	3.9	1.2	56.1	砂岩	片面調整。裏面に原礫面を残す。	覆土下層	

第1495号土坑 (第321図)

位置 調査2区の北部, C3g7区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1496号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 開口部の平面形は、長径2.88m, 短径2.32mの楕円形である。底面はほぼ平坦で、平面形は長径2.88m, 短径2.30mの楕円形である。確認面からの深さは88cmである。壁は北壁から東壁にかけては内傾し、それ以外は直立する。ピットは6か所で、いずれも壁際に位置している。ピットの深さは、P1が36cm, P2が22cm, P3が40cm, P4が27cm, P5が55cm, P6は30cmである。

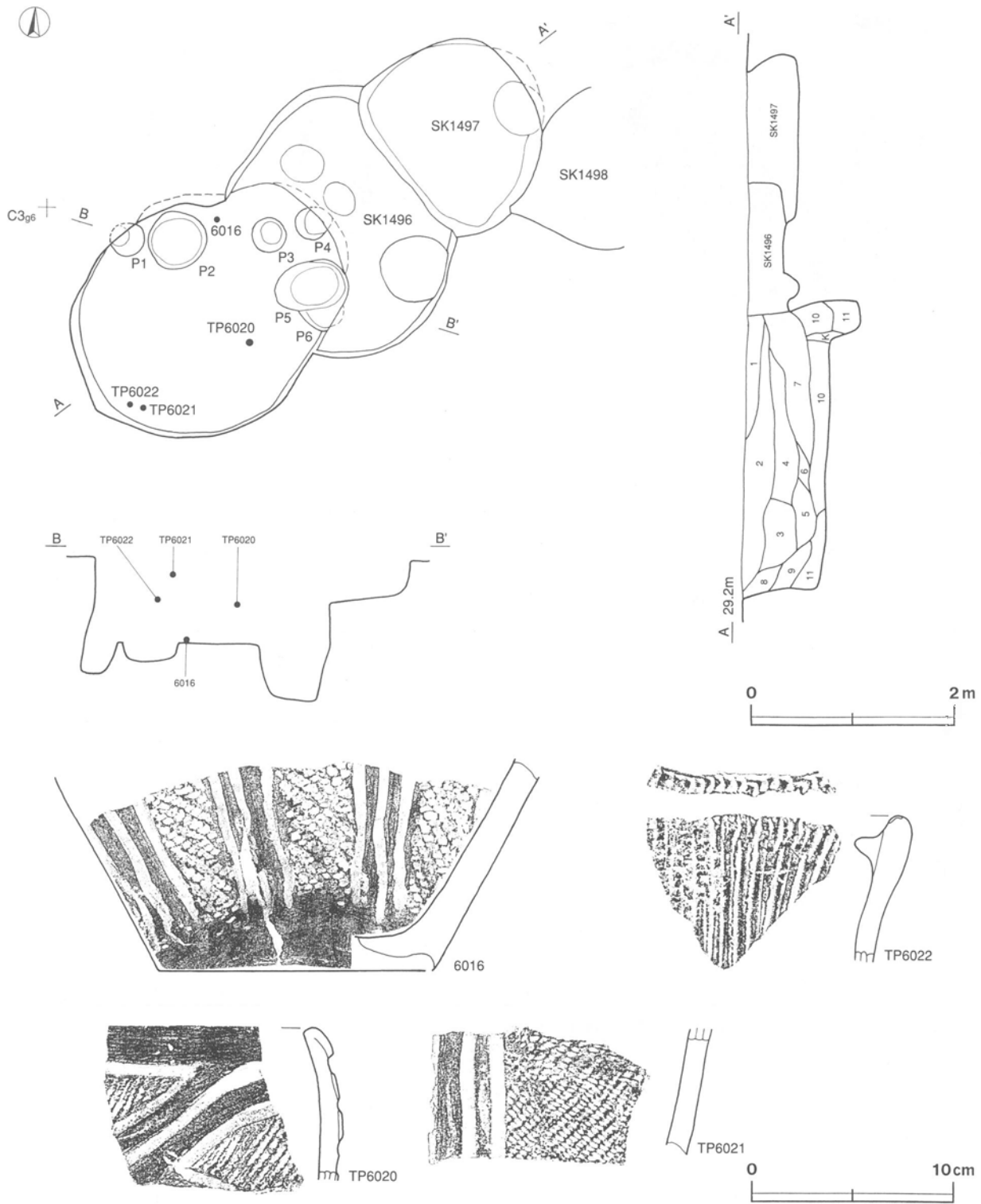
覆土 11層に分層される。第8・9・11層は壁が直立する西壁側から堆積し、ロームブロックを多く含むことから、内傾する壁が崩落したものと考えられる。第1～7層はレンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- |       |                    |         |                        |
|-------|--------------------|---------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・炭化粒子少量    | 7 黒褐色   | ロームブロック中量, 炭化粒子微量      |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量 | 8 黒褐色   | ロームブロック中量              |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量  | 9 黒褐色   | ロームブロック少量              |
| 4 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量  | 10 暗褐色  | ロームブロック多量, 鹿沼バミスブロック少量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量     | 11 極暗褐色 | ローム小ブロック中量             |
| 6 暗褐色 | ローム小ブロック中量, 炭化粒子微量 |         |                        |

遺物出土状況 縄文土器片204点, 剥片2点が、覆土から出土している。6016の深鉢片は壁際の底面から出土している。

所見 時期は、底面から出土した6016の深鉢片から中期後葉(加曾利EⅡ式期)と考えられる。



第321図 第1495号土坑・出土遺物実測図

第1495号土坑出土遺物観察表（第321図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6016	縄文土器	深鉢	—	(10.4)	[13.8]	胴部は沈線による3条一組の懸垂文間を磨り消している。地文はLRの単節縄文。	長石・石英	良好	にぶい褐	底面	

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP6020	縄文土器	深鉢	—	(7.5)	—	口縁部は沈線が沿う2本・組の隆帯により文様を描出。地文はR Lの単節縄文。	長石・石英・雲母	良好	にぶい褐	覆土中層	
TP6021	縄文土器	深鉢	—	(6.2)	—	胴部は沈線による3条・組の懸垂文間を磨り消している。地文はR Lの単節縄文。	長石・石英・雲母	良好	橙	覆土上層	
TP6022	縄文土器	深鉢	—	(7.3)	—	口唇部は半截竹管による刺突文。口縁部は半截竹管による平行沈線文。	長石・石英	良好	にぶい赤褐	覆土中層	内面炭化物附着

### 第1506号土坑（第322・323図）

**位置** 調査2区の北部，C3h0区。住居跡群域に位置する。

**重複関係** 第1507号土坑に掘り込まれている。第1549号土坑との新旧関係は，出土土器から本跡が古い。

**規模と形状** 第1507・1549号土坑と重複し，東壁は崩落していると考えられるため，本来の開口部は復元できないが，現況では平面形は長径1.50m，短径1.32mの楕円形である。底は鹿沼パミス層の上面を底面とし，ほぼ平坦である。底部の平面形は長径1.96m，短径1.74mの楕円形である。確認面からの深さは62cmで，壁は東壁だけが直立する以外は内傾する。

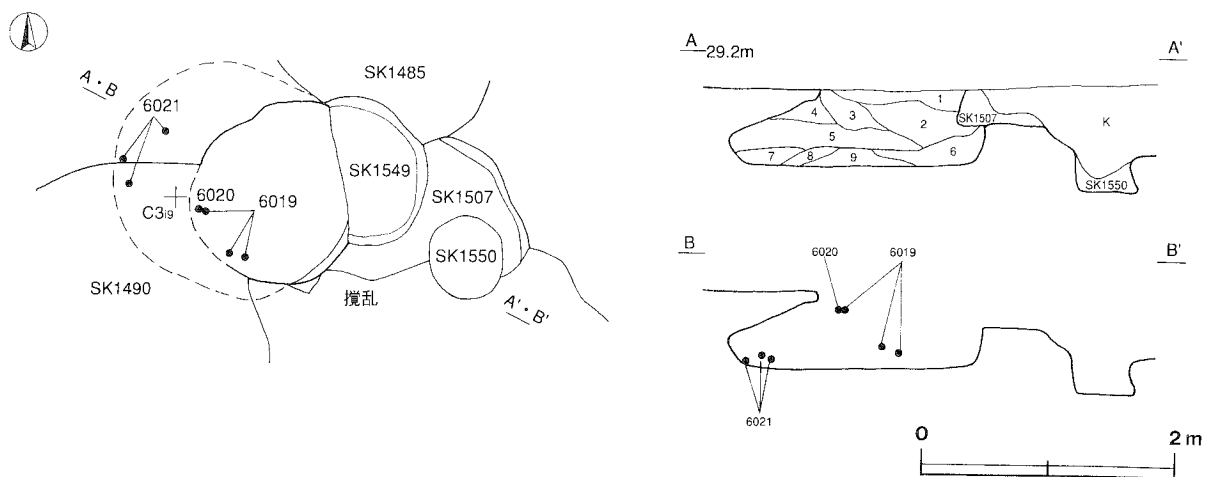
**覆土** 9層に分層される。第9層は床面中央部に凸状に堆積した土層で，開口部から流入した最下層である。第6～8層は壁際に堆積し，ロームブロックを多く含む土層で，内傾した壁の崩落土と考えられる。第1～5層はレンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

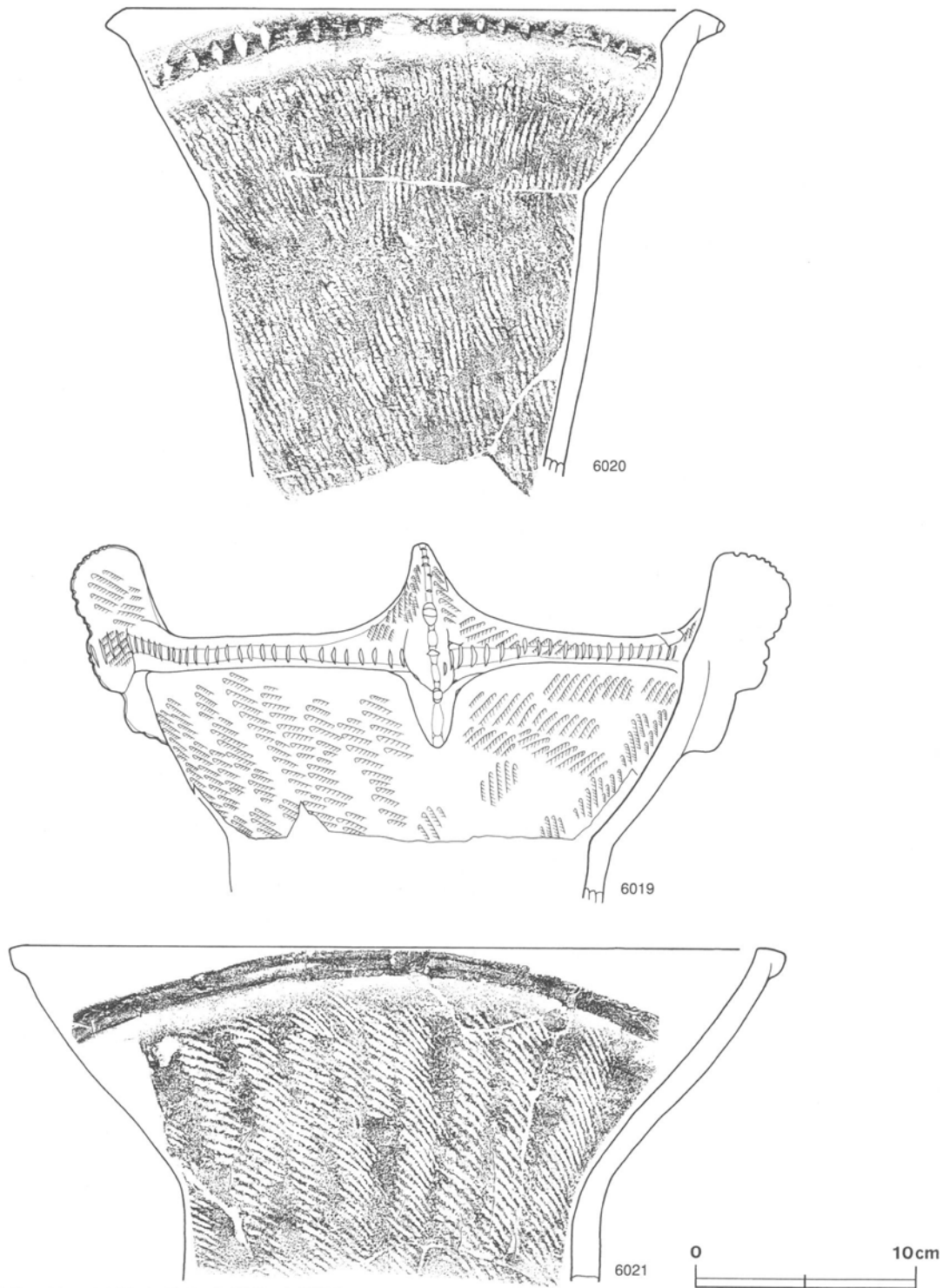
- |       |                   |        |                     |
|-------|-------------------|--------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・炭化粒子微量   | 6 黒褐色  | 炭化粒子少量，ローム小ブロック微量   |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック少量，炭化粒子微量 | 7 極暗褐色 | ローム小ブロック中量，炭化物微量    |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック・炭化粒子微量   | 8 黒褐色  | ロームブロック少量，鹿沼パミス粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量    | 9 黒褐色  | ロームブロック少量，炭化粒子微量    |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量     |        |                     |

**遺物出土状況** 縄文土器片121点が出土している。遺物は覆土中層から上層にかけて廃棄されたような状態で出土している。6019・6020の深鉢は覆土上層から，6021の深鉢は覆土下層（第7層）から出土している。

**所見** 土器の多くは覆土中層から上層にかけて廃棄されたような状態で出土していることから，東壁が崩落した直後に廃棄されものと考えられる。時期は，遺構の新旧関係や出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅱ式期）と考えられる。



第322図 第1506号土坑実測図



第323図 第1506号土坑出土遺物実測図

第1506号土坑出土遺物観察表（第323図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6019	縄文土器	深鉢	[28.3]	(16.1)	—	4単位の山形状把手。口唇部直下にキザミを有する隆帯文。Lの無節縄文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	覆土上・中層	スス付着
6020	縄文土器	深鉢	[25.7]	(21.5)	—	口唇部直下にキザミを有する隆帯文。Lの無節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土上層	上半スス付着
6021	縄文土器	深鉢	[35.0]	(15.4)	—	口唇部直下に隆帯文。Lの無節縄文を縦方向に施文。	長石・雲母・針状鉱物	普通	にぶい褐	覆土下層	上半スス付着

### 第1511号土坑（第324～327図）

**位置** 調査2区の北部，C3i5区。住居跡群域に位置する。

**重複関係** 第1512号土坑の南西側を掘り込み，第1518号土坑に南東側を掘り込まれている。

**規模と形状** 開口部の平面形は，現状では長径2.20m，短径1.60mの楕円形と推定される。底面はほぼ平坦で，平面形は長径2.50m，短径1.94mの楕円形である。確認面からの深さは54cmである。壁は内傾して立ち上がり，土層では第1512号土坑と重複している北東壁だけが直立することが確認されている。

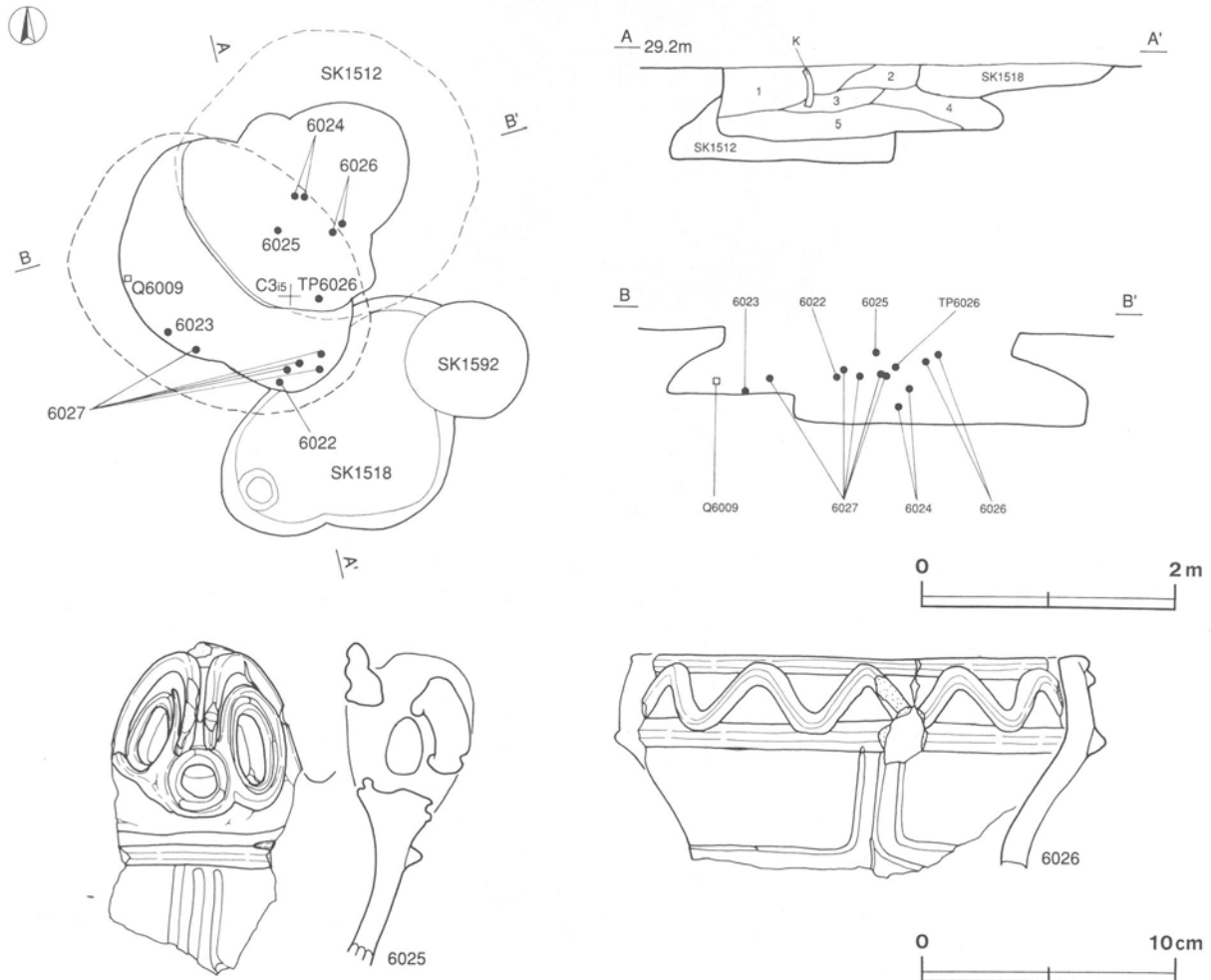
**覆土** 5層に分層される。第5層は床面の中央部に凸状に堆積しているローム小ブロックを多量に含む土層で，一度に堆積した状況から人為堆積と考えられる。第1～4層はレンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

**土層解説**

- |       |                   |       |                   |
|-------|-------------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・炭化物微量    | 4 黒褐色 | ローム小ブロック中量，炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック少量，炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム小ブロック多量        |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック少量，炭化粒子微量 |       |                   |

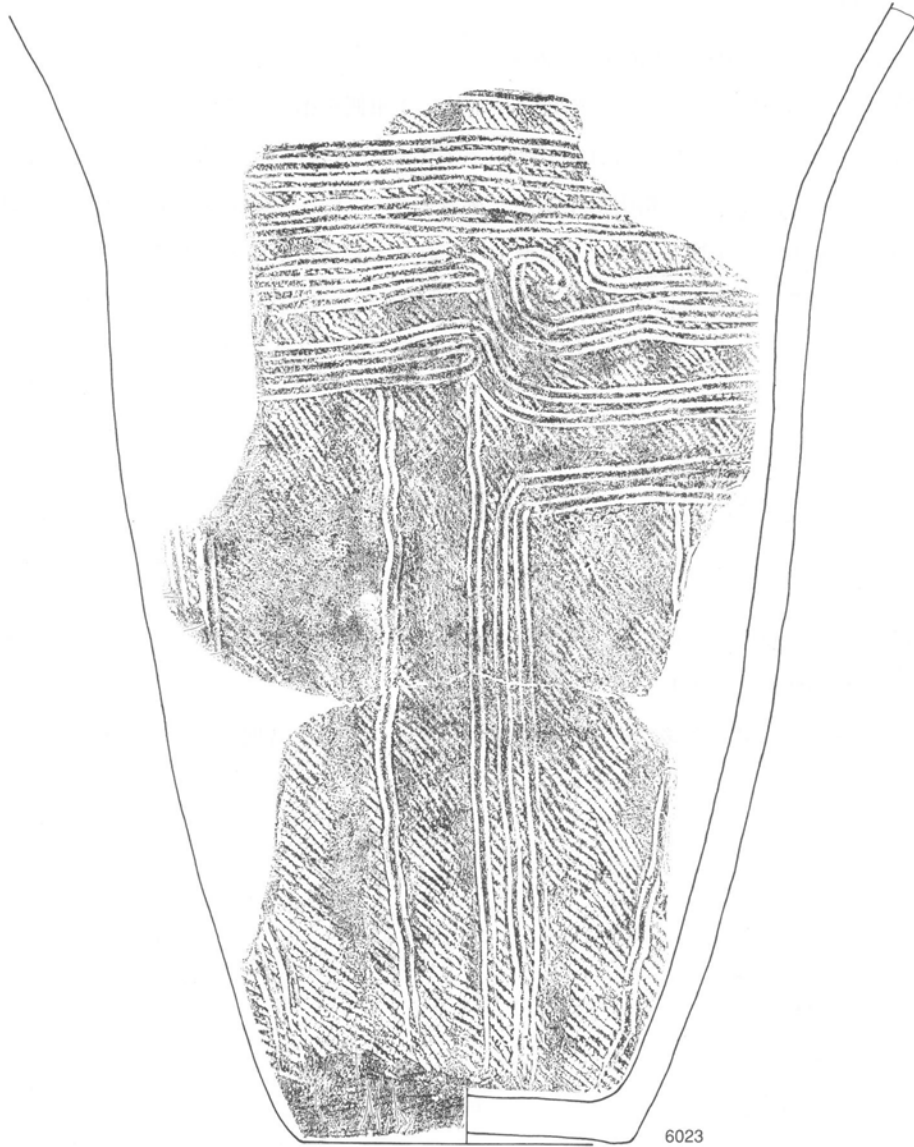
**遺物出土状況** 縄文土器片114点，磨製石斧1点が出土している。主な遺物は第5層上面付近の覆土中層あるいは第5層が堆積していない壁際の底面付近から廃棄されたような状態で出土している。6022・6023の深鉢は壁際の覆土下層から横位の状態で出土している。

**所見** 遺物の多くは第5層が堆積した後に廃棄されたものと考えられる。時期は，出土土器から中期後葉（加曽利E I式期）と考えられる。

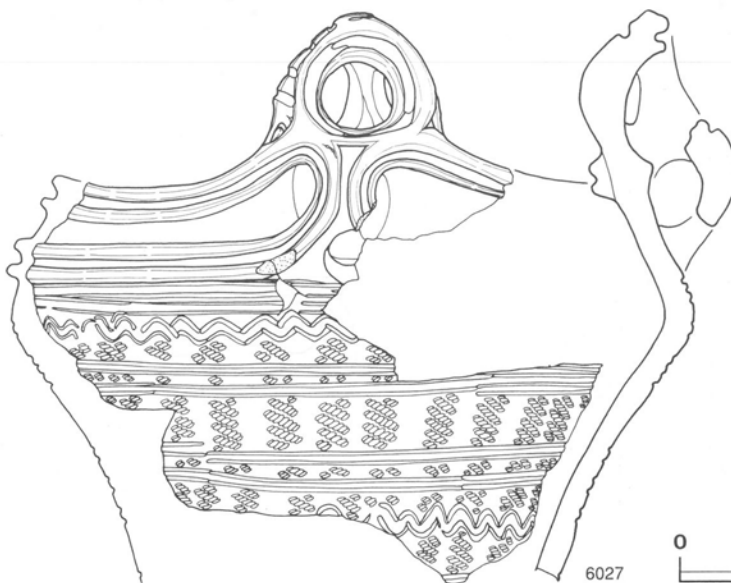


第324図 第1511号土坑・出土遺物実測図

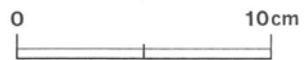




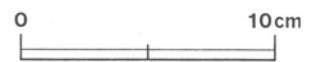
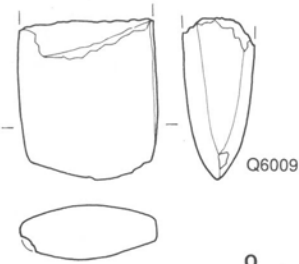
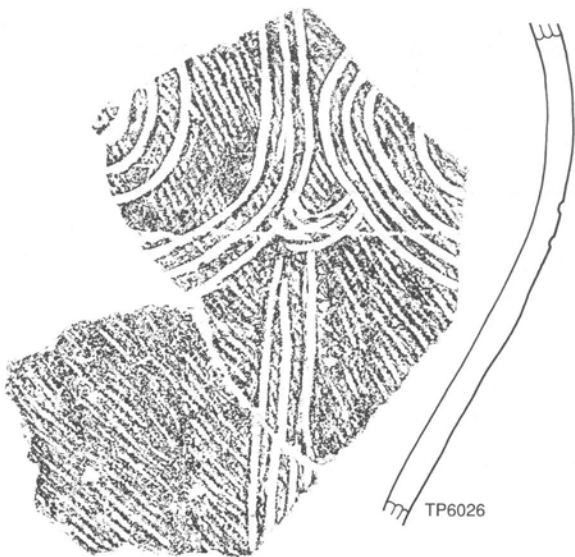
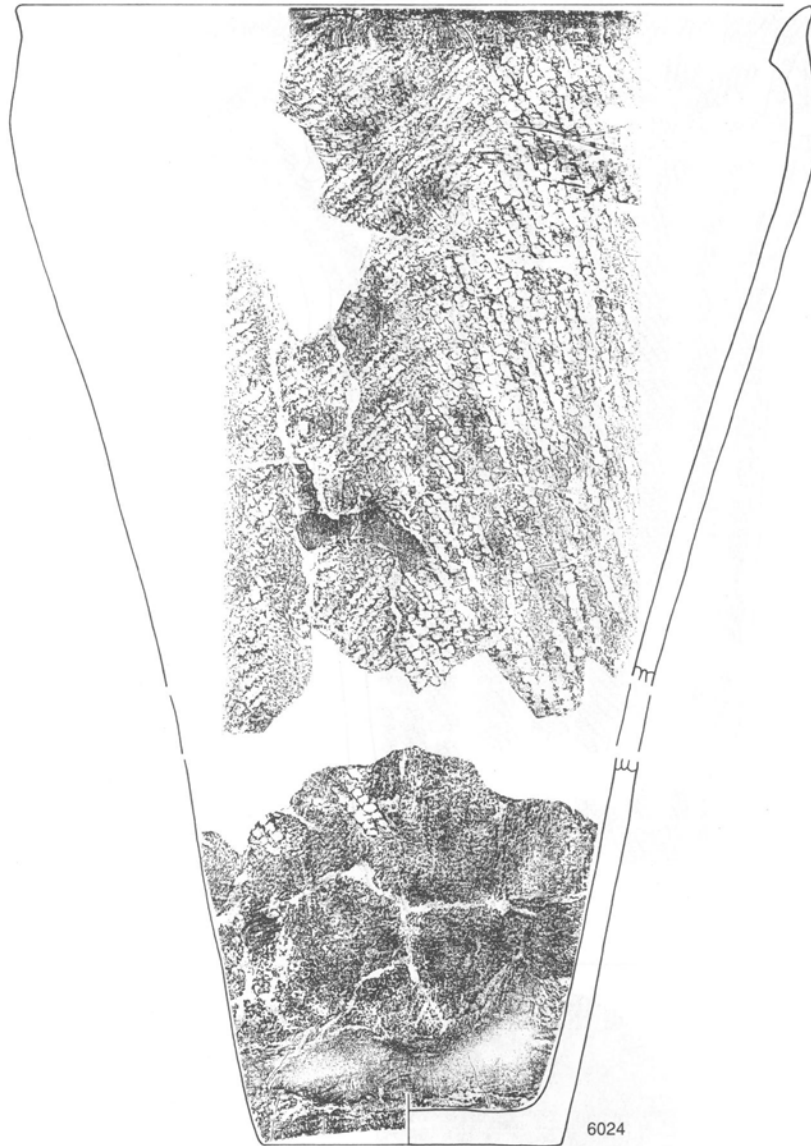
6023



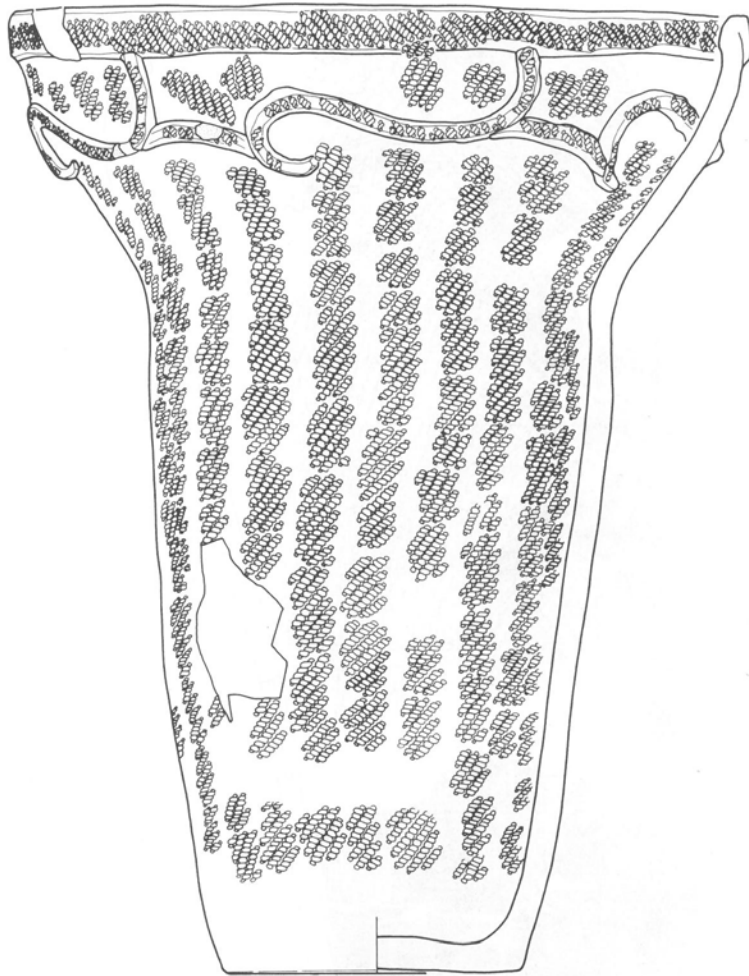
6027



第325图 第1511号土坑出土遺物実測図(1)



第326图 第1511号土坑出土遗物实测图(2)



6022



第327図 第1511号土坑出土遺物実測図(3)

第1511号土坑出土遺物観察表(第324~327図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6022	縄文土器	深鉢	28.6	38.0	11.6	口縁部は隆帯による横S字状文。LRの単節縄文を隆帯上は横方向に、それ以外は縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐 橙	覆土下層	底部網 代痕 P L 50
6023	縄文土器	深鉢	—	(44.5)	13.1	胴部は半截竹管による平行沈線文で文様を描出。LRの単節縄文を縦方向に施文。	長石・雲母	普通	にぶい橙	覆土下層	
6024	縄文土器	深鉢	[31.4]	[45.0]	11.9	RLとLRの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐 にぶい褐	覆土下層	
6025	縄文土器	深鉢	—	(13.2)	—	眼鏡状把手。口縁部と頸部の境に隆帯文。頸部は沈線文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土中層	
6026	縄文土器	深鉢	[17.8]	(8.5)	—	口縁部と頸部の境に隆帯文。口縁部は隆帯による波状文。頸部は沈線文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土中層	P6025 と同一 個体

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6027	縄文土器	深鉢	[23.2]	(22.8)	—	眼鏡状把手。口縁部は沈線を有する隆帯文。胴部は半截竹管による平行沈線文。LRの単節縄文。	長石・石英	普通	黒褐	覆土中層	
TP6026	縄文土器	深鉢	—	(20.6)	—	胴部は沈線により文様を描出。LRの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土中層	
TP6027	縄文土器	深鉢	—	(6.3)	—	口縁部は背に沈線を有する隆帯文と半截竹管による平行沈線文を巡らしている。	長石・石英	普通	にぶい赤褐	覆土	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q6009	磨製石斧	(6.3)	5.4	2.8	(153.3)	砂岩	器体研磨入念。	覆土下層	

### 第1512号土坑（第328～330図）

**位置** 調査2区の北部、C3i6区。住居跡群域に位置する。

**重複関係** 第1511号土坑に南西部を掘り込まれている。

**規模と形状** 開口部は第1511号土坑に掘り込まれているため、南西側は残存していないが、現状から径1.12m程度の円形と推定される。底は鹿沼パミス層の上面を底面とし、ほぼ平坦である。確認面からの深さは72cmである。壁は下位からくびれ部にかけて内傾し、くびれ部から上位にかけては直立する。底面からくびれ部までの高さは、54cmである。

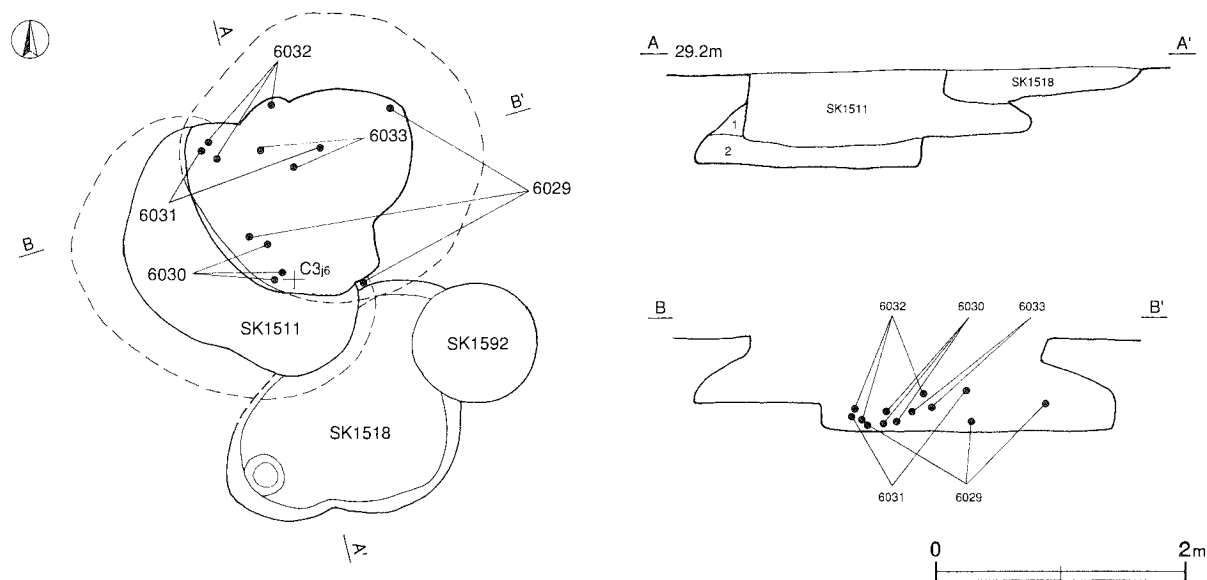
**覆土** 上位から中位にかけて第1511号土坑に掘り込まれているため、確認できた土層は下位に堆積している2層である。最下層の第2層はローム小ブロックと炭化物を含む土層で、遺物が集中して出土していることから、遺物の廃棄活動に伴う人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

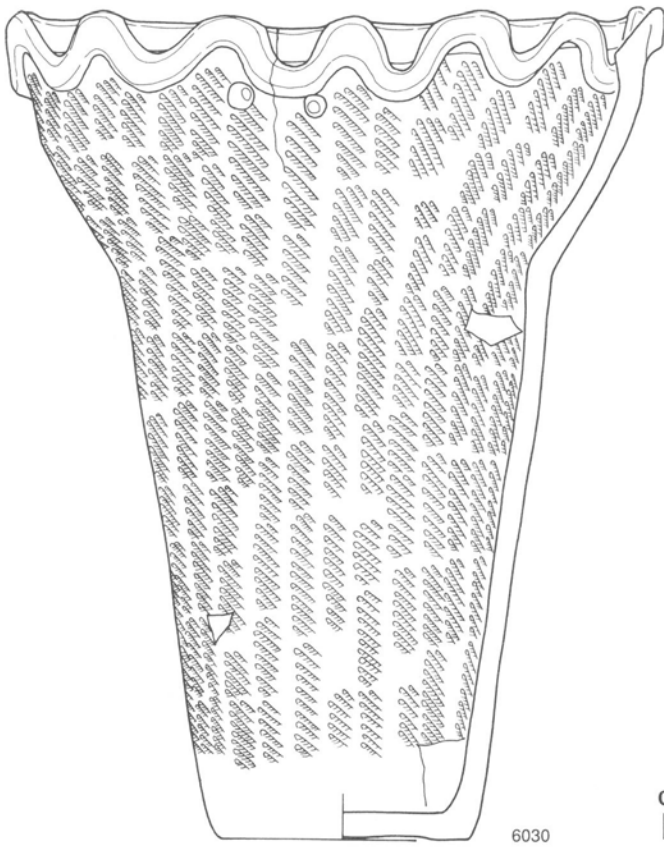
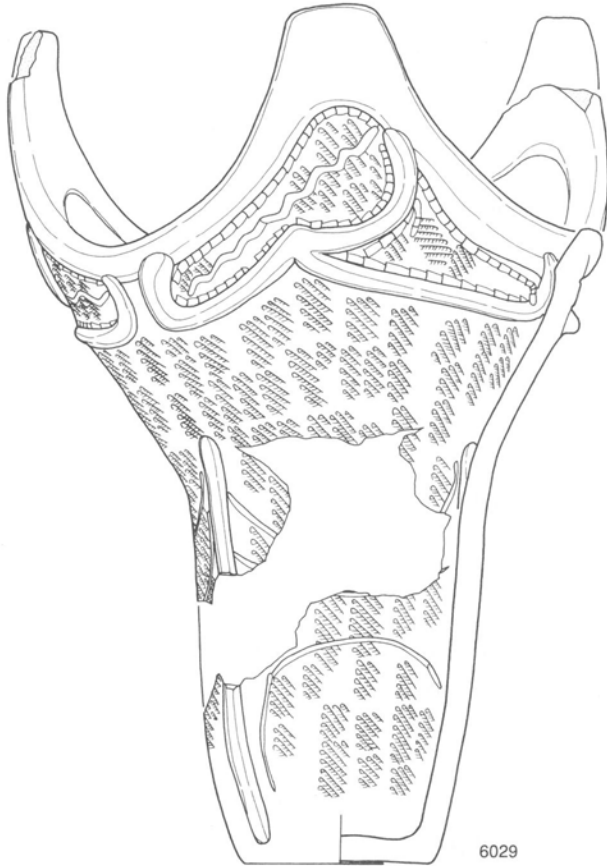
- 1 黒褐色 ロームブロック微量  
2 極暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化物微量

**遺物出土状況** 縄文土器片126点、石核1点が覆土下層から出土している。6029・6030の深鉢、6031の深鉢片、6032の浅鉢片、6033の鉢片は、いずれも廃棄されたような状態で出土している。

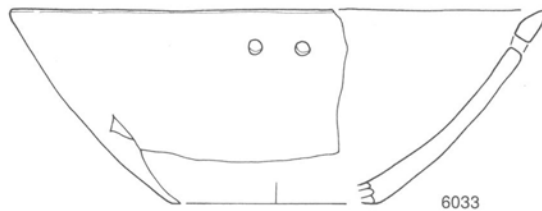
**所見** 第2層に遺物の集中がみられ、一括廃棄されたことがうかがわれる。時期は、廃棄された土器から期中中葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。



第328図 第1512号土坑実測図

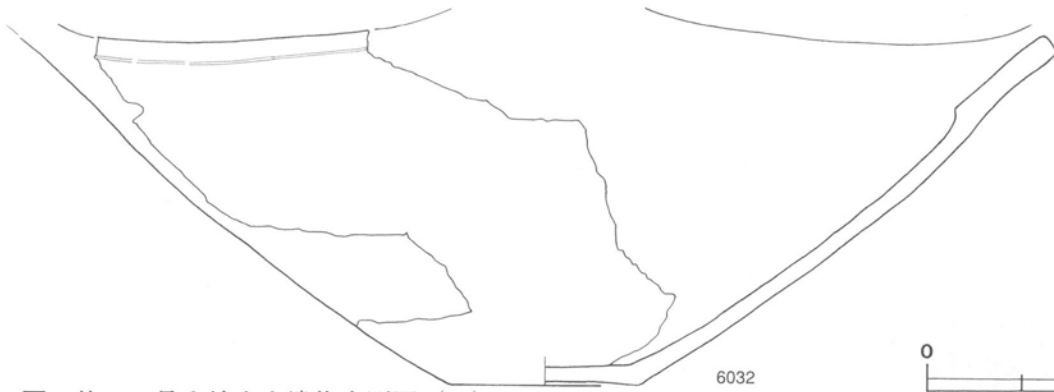


第329图 第1512号土坑出土遗物实测图(1)

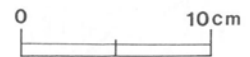


6031

6033



6032



第330図 第1512号土坑出土遺物実測図(2)

第1512号土坑出土遺物観察表(第329・330図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6029	縄文土器	深鉢	[22.9]	34.0	7.7	口縁部は結節沈線文が沿う隆帯文。胴部は隆帯により縦位に4分割。沈線による上下対向弧線文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土下層	上半スス附着 P L 50
6030	縄文土器	深鉢	24.7	32.7	10.1	口唇部直下は隆帯による波状文。地文はLRの単節縄文。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土下層	上半スス附着 P L 50
6031	縄文土器	深鉢	[31.8]	(25.5)	—	口唇部直下は交互刺突による連続コの字状文。以下は沈線文。地文はLRの単節縄文。	長石・石英・雲母	良好	黒	覆土下層	
6032	縄文土器	浅鉢	(52.6)	(18.8)	10.0	無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土下層	

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6033	縄文土器	鉢	[21.2]	7.6	[7.9]	無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土下層	内・外面赤彩

### 第1514号土坑（第331図）

**位置** 調査2区の北部，C3f7区。住居跡群域に位置する。

**重複関係** 第11号井戸に掘り込まれている。第1503・1538・1547号土坑と重複するが，新旧関係は不明である。

**規模と形状** 開口部の平面形は，長径2.36m，短径2.20mのほぼ円形である。底面はほぼ平坦で，確認面からの深さは64cmである。壁は一部が外傾するが，ほとんどは直立している。ピットは4か所で，いずれも壁際に位置している。ピットの深さは，P1が41cm，P2が34cm，P3が43cm，P4が24cmである。

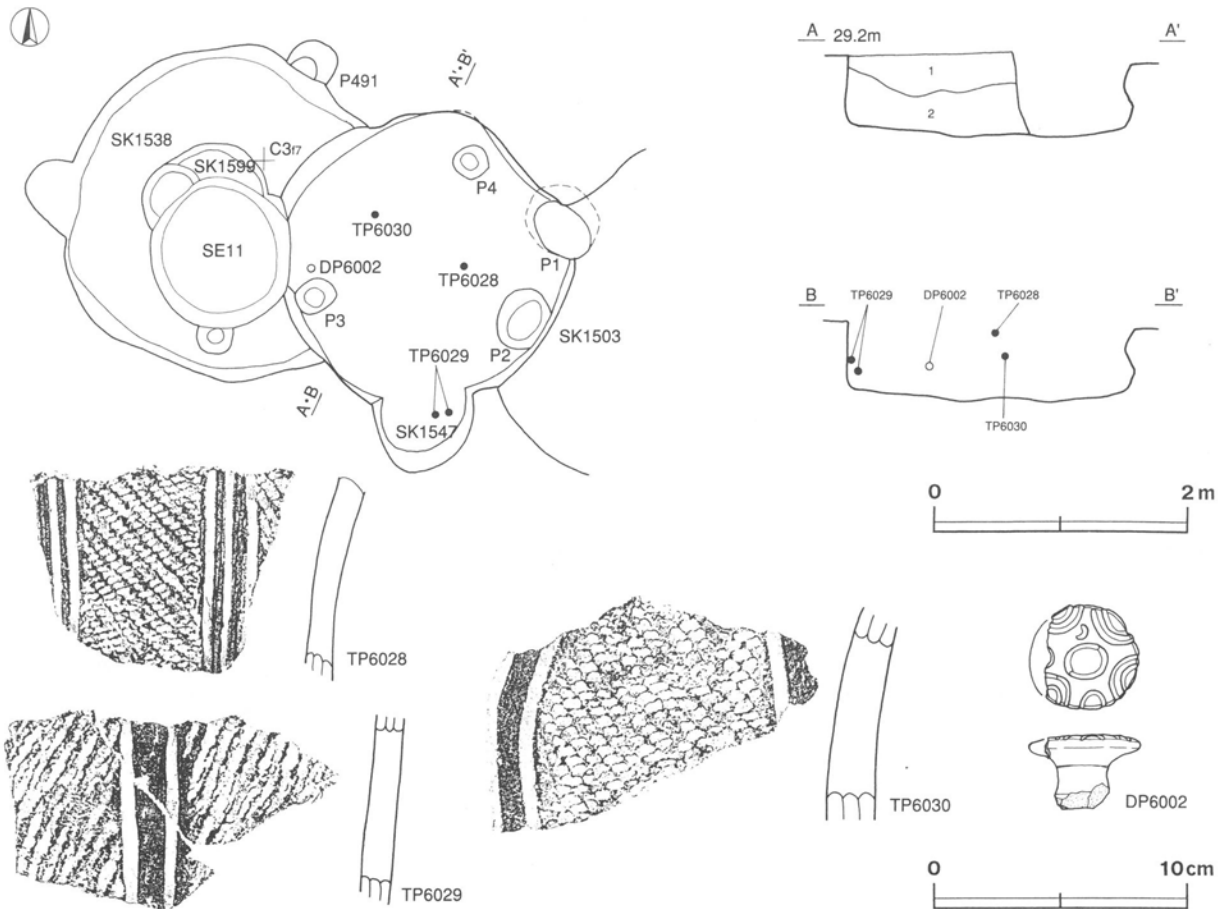
**覆土** 2層に分層される。ほぼ水平に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量，炭化粒子微量      2 暗褐色 ロームブロック少量

**遺物出土状況** 縄文土器片11点，土製耳飾1点が出土している。遺物は，第1層の下部から第2層の上部にかけて出土している。なお，TP6029は，第1547号土坑の遺物である可能性がある。

**所見** 時期は，出土土器から中期後葉（加曽利EⅡ式期）と考えられる。



第331図 第1514号土坑・出土遺物実測図

第1514号土坑出土遺物観察表（第331図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP6028	縄文土器	深鉢	—	(8.0)	—	胴部は沈線による3条一組の懸垂文間を磨り消す。地文はLRの単節縄文。	長石・石英	良好	暗赤褐	覆土上層	
TP6029	縄文土器	深鉢	—	(7.5)	—	胴部は沈線による懸垂文間を磨り消す。RLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	良好	にぶい褐	覆土下層	
TP6030	縄文土器	深鉢	—	(8.5)	—	胴部は沈線による懸垂文間を磨り消す。LRの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	良好	灰褐	覆土下層	

番号	器種	計測値				胎土・色調	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
DP6002	耳飾	4.1	[4.4]	2.9	(30.1)	長石・石英 褐灰	沈線により文様を描出。	覆土下層	P L 58

第1526号土坑（第332・333図）

**位置** 調査2区の北部，C3j9区。住居跡群域に位置する。

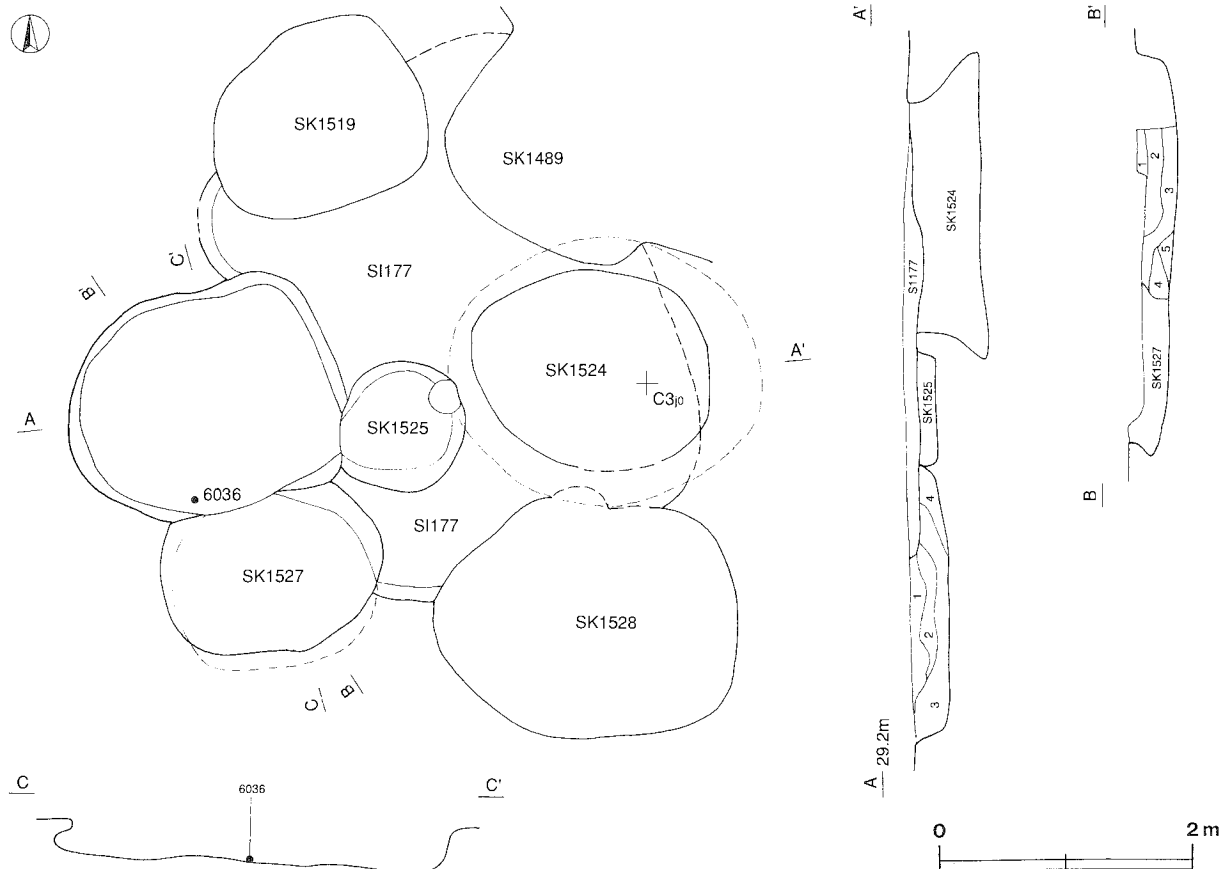
**重複関係** 第1527号土坑を掘り込み，第177号住居に東側上面を掘り込まれている。

**規模と形状** 開口部の平面形は，現状では長径2.18m，短径1.80mの不整楕円形である。底面はほぼ平坦で，確認面からの深さは30cmである。壁は外傾して立ち上がる。

**覆土** 5層に分層される。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

**土層解説**

- |       |                   |        |                |
|-------|-------------------|--------|----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量    | 4 黒褐色  | ローム粒子少量        |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック少量，炭化粒子微量 | 5 極暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量  |        |                |

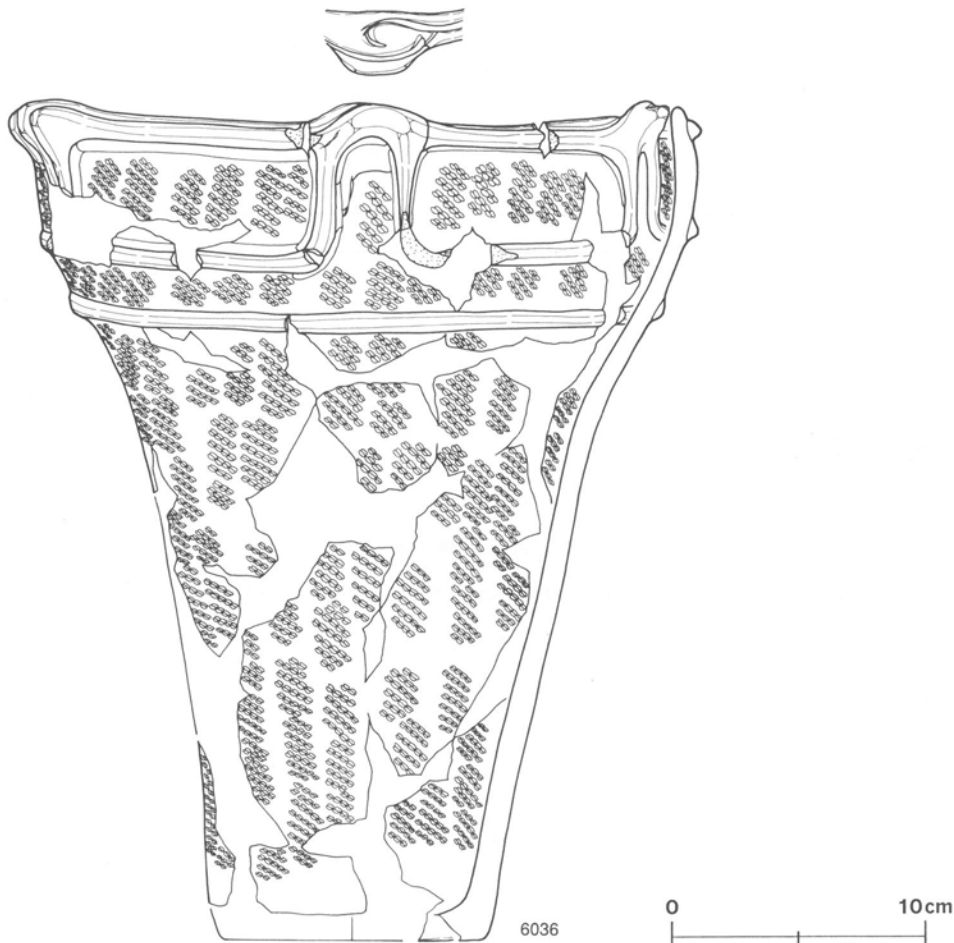


第332図 第1526号土坑実測図



**遺物出土状況** 縄文土器片44点が出土している。6036の深鉢は底面から横位の状態で出土している。

**所見** 時期は、底面から出土した6036の深鉢から中期後葉（加曾利 E I 式期）と考えられる。



第333図 第1526号土坑出土遺物実測図

第1526号土坑出土遺物観察表（第333図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6036	縄文土器	深鉢	25.3	33.1	[10.4]	口唇部外面に渦巻文を有する突起。口縁部は隆帯により文様を描出。LRLの複節縄文。	長石・石英	普通	にぶい褐	底面	

### 第1536号土坑（第334・335図）

**位置** 調査2区の北部，C3i6区。住居跡群域に位置する。

**重複関係** 第1537号土坑の東側を掘り込んでいる。第1584号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模と形状** 開口部の平面形は楕円形と推定され、規模は長径2.45m，短径1.65mである。底は鹿沼パミス層上面を底面とし、ほぼ平坦であるが、第1537号土坑の覆土を底面とする範囲ではわずかに沈んでいる。底面の平面形は長径2.62m，短径1.96mの楕円形である。確認面からの深さは92cmである。壁は崩落していると考えられる北壁以外は内傾する。

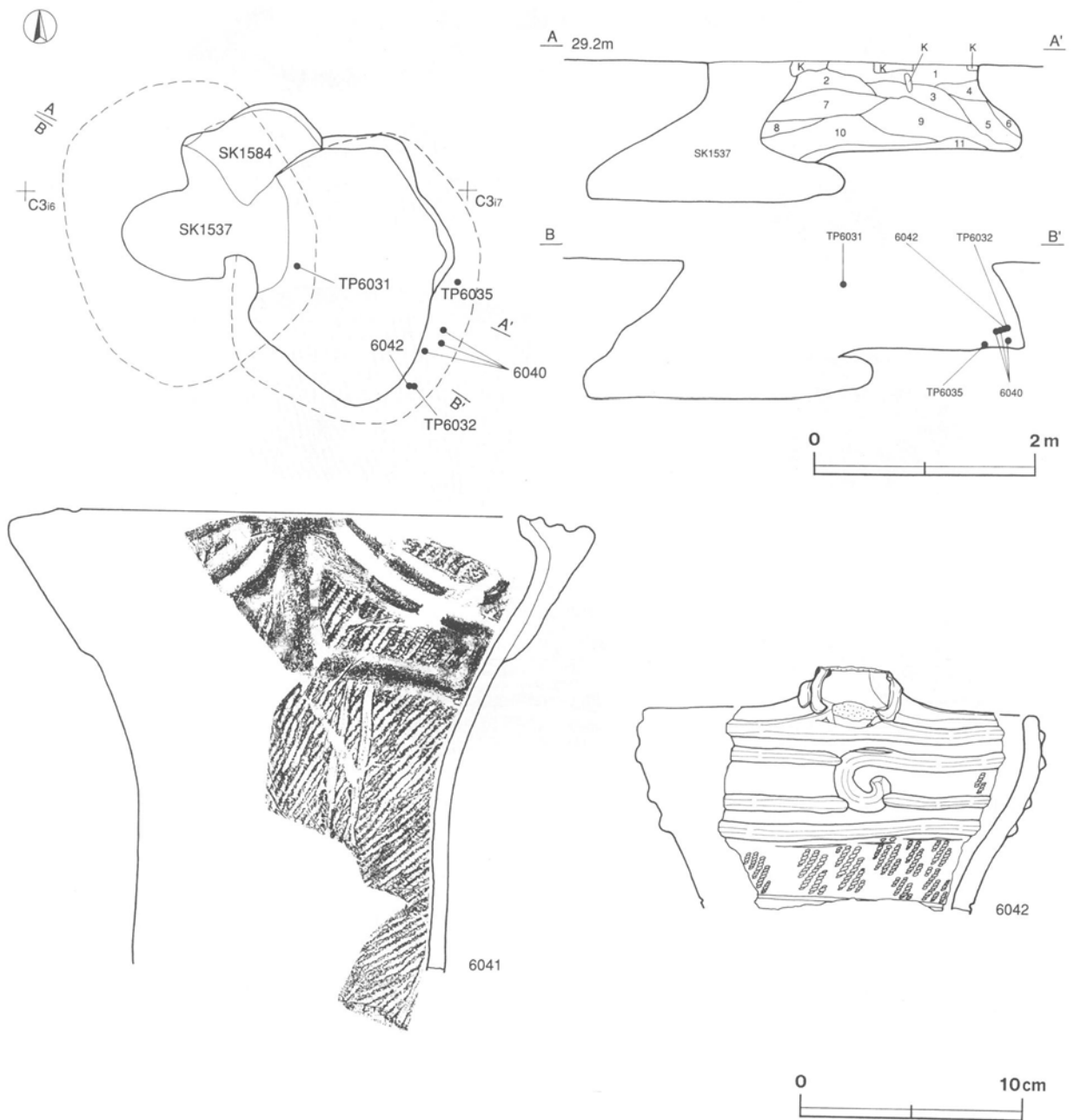
**覆土** 11層に分層される。第9～11層はローム粒子を多く含む褐色土で、底面中央に凸状に堆積していることから、短期間に埋め戻された人為堆積と考えられる。第1～8層はレンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

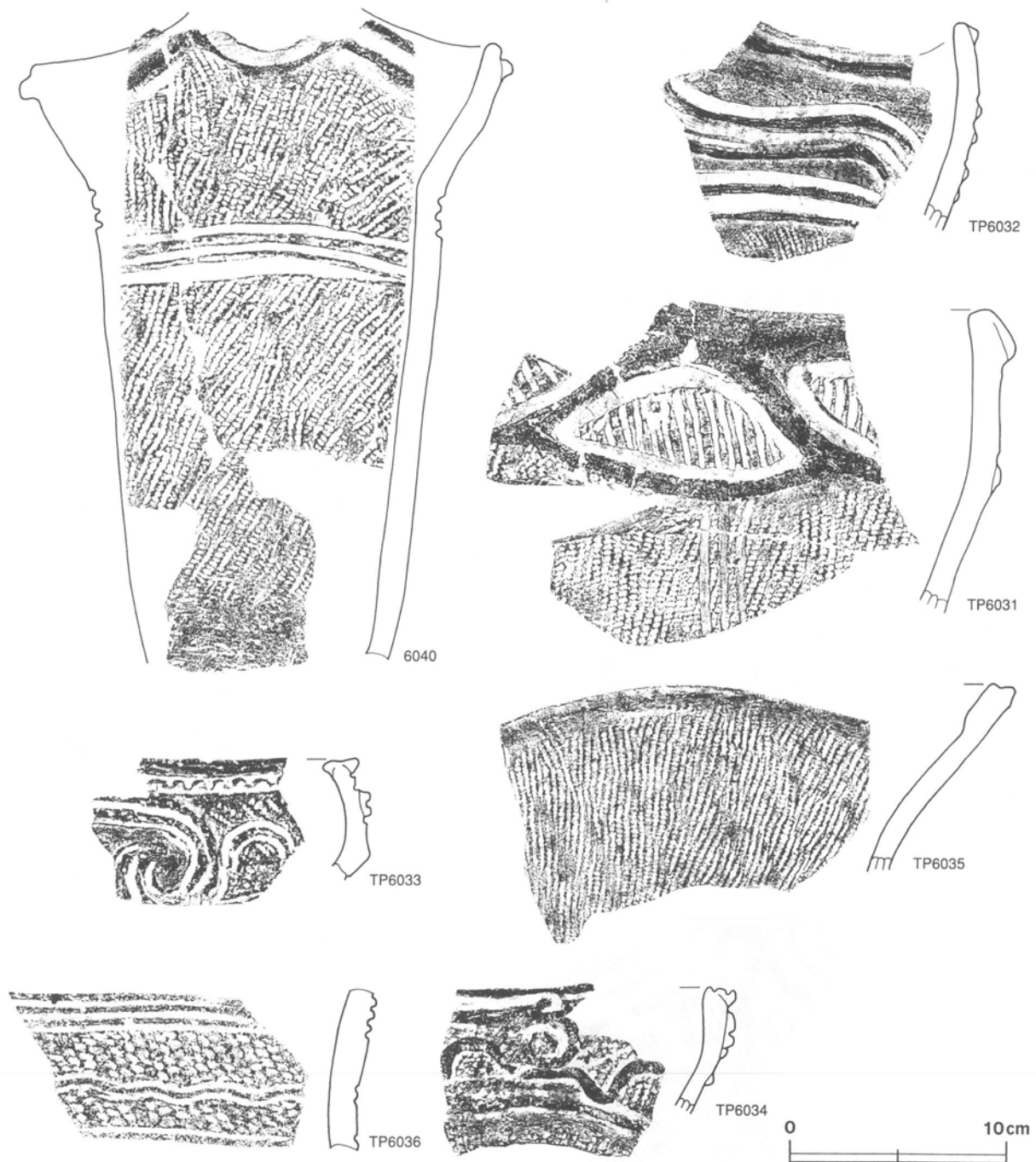
- |        |                    |       |                    |
|--------|--------------------|-------|--------------------|
| 1 黒褐色  | ローム粒子少量            | 7 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量  |
| 2 黒褐色  | ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ローム小ブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色  | ローム小ブロック・炭化粒子微量    | 9 褐色  | ロームブロック少量, 炭化粒子微量  |
| 4 黒褐色  | ローム小ブロック少量         | 10 褐色 | ロームブロック中量          |
| 5 極黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量  | 11 褐色 | ローム小ブロック中量         |
| 6 暗褐色  | ローム粒子中量, 鹿沼バミス粒子微量 |       |                    |

遺物出土状況 縄文土器片45点, 磨製石斧片1点が出土している。遺物は壁際の覆土中層に集中して出土している。6040の深鉢は, 覆土中層の下部から破片の状態出土している。

所見 遺物が壁際の覆土中層の下部に集中して出土している状況は, それらの遺物が凸状に堆積した第9~11層上面に廃棄され, 壁際に転落したと考えられる。時期は, 覆土中層の下部から出土した6040の深鉢から中期後葉(加曾利E I 式期)と考えられる。



第334図 第1536号土坑・出土遺物実測図



第335図 第1536号土坑出土遺物実測図

第1536号土坑出土遺物観察表（第334・335図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6040	縄文土器	深鉢	21.1	(30.2)	—	口縁部直下に隆帯を巡らしている。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐 に ぶい 褐	覆土中層	P L 49
6041	縄文土器	深鉢	[20.0]	(20.8)	—	口縁部は渦巻文を有する突起を起点に2本一組の隆帯文。地文はR Lの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	に ぶい 褐	覆土	上半ス ス附着
6042	縄文土器	深鉢	[18.0]	(10.1)	—	口縁部は隆帯文。地文はR Lの単節縄文。	長石・石英	普通	灰褐	覆土中層	
TP6031	縄文土器	深鉢	—	(14.2)	—	口縁部は隆帯文。区画文内は縦位の沈線文。胴部は沈線による懸垂文。地文はR Lの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	暗褐	覆土上層	

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP6032	縄文土器	深鉢	—	(9.8)	—	口縁部は2本一組の隆帯により文様を描出。胴部はLRの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	黒褐	覆土中層	
TP6033	縄文土器	深鉢	—	(5.7)	—	口唇部直下に交互刺突による連続コの字状文。沈線を有する隆帯により描出。RLの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	暗赤褐	覆土	
TP6034	縄文土器	深鉢	—	(5.8)	—	口縁部は隆帯による渦巻文。RLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	暗赤褐	覆土	
TP6035	縄文土器	深鉢	—	(8.8)	—	RLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	覆土中層	
TP6036	縄文土器	深鉢	—	(7.1)	—	半截竹管による平行沈線文を巡らしている。LRの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土	

### 第1537号土坑（第336・337図）

**位置** 調査2区の北部，C3i6区。住居跡群域に位置する。

**重複関係** 第1536号土坑に東側を掘り込まれている。第1584号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

**規模と形状** 開口部の平面形は，第1536号土坑に掘り込まれているため，長径0.94m，短径0.82mの楕円形と推定される。底面はほぼ平坦で，平面形は長径2.70m，短径2.20mの楕円形である。確認面からの深さは128cmである。壁は下位から中位にかけて内傾して立ち上がる。くびれ部より上位はほぼ直立する。底面からくびれ部までの高さは平均で98cmである。

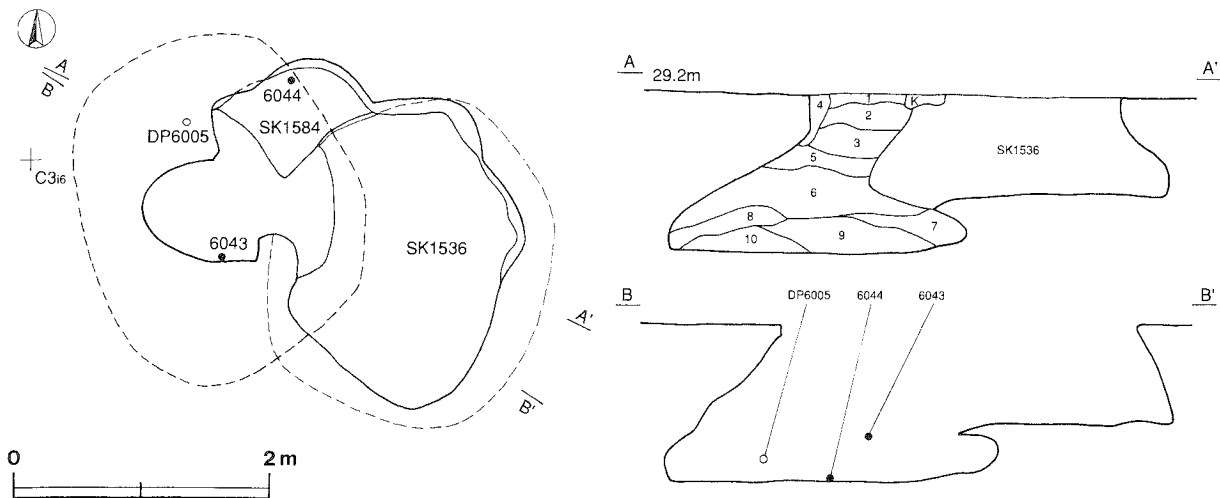
**覆土** 10層に分層される。第9・10層は，ローム粒子を多く含む褐色土で，床面中央に凸状に堆積していることから，短期間に埋め戻された土層と考えられる。第1～8層はほぼ平行に堆積していることから，それらの層は自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

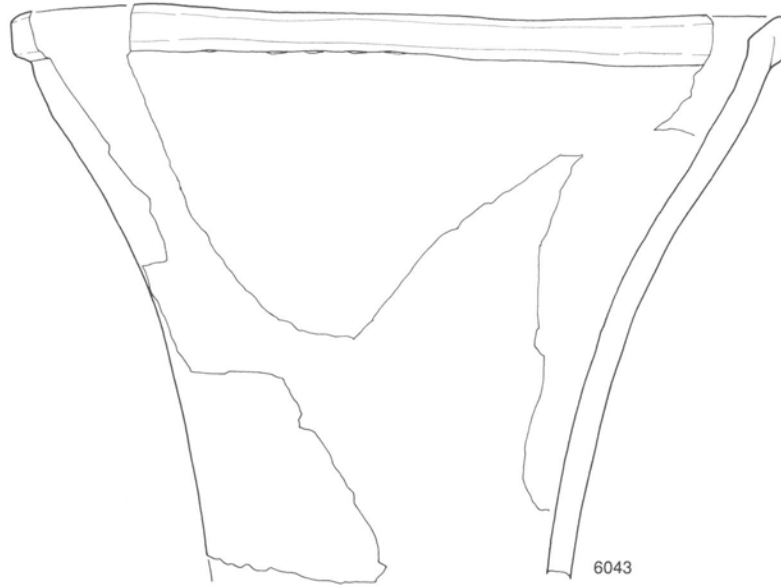
- |       |                    |       |                                |
|-------|--------------------|-------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量  | 6 黒褐色 | 炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・鹿沼パミス小ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化物少量 | 7 黒褐色 | ローム小ブロック少量，鹿沼パミス小ブロック微量        |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック少量，炭化粒子微量  | 8 黒褐色 | ローム小ブロック少量，焼土粒子微量              |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量          | 9 褐色  | ローム粒子・鹿沼パミス小ブロック少量             |
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量     | 10 褐色 | ローム粒子・鹿沼パミス粒子中量                |

**遺物出土状況** 縄文土器片76点，土製耳飾1点，石錘1点が出土している。6043の深鉢は覆土中層（第6層）から，6044の深鉢片は底面から出土している。

**所見** 時期は，出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。



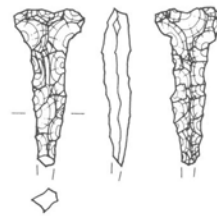
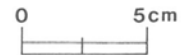
第336図 第1537号土坑実測図



6044



DP6005



Q6014



第337図 第1537号土坑出土遺物実測図

第1537号土坑出土遺物観察表 (第337図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6043	縄文土器	深鉢	29.8	(22.9)	—	無文で、研磨している。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙褐色	覆土中層	底部網代痕
6044	縄文土器	深鉢	—	(15.7)	10.0	Lの無節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい黄橙	底面	

番号	器種	計測値				胎土・色調	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
DP6005	耳飾	3.0	3.0	1.9	15.7	長石・石英・雲母 にぶい橙	中央部に円孔。無文。	覆土下層	P L 58

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q6014	石錐	(3.1)	1.4	0.6	(1.4)	チャート	両面調整。側縁に押圧剥離調整を施す。	覆土	P L62

### 第1539号土坑（第338・339図）

**位置** 調査2区の北部，C3j4区。住居跡群域に位置する。

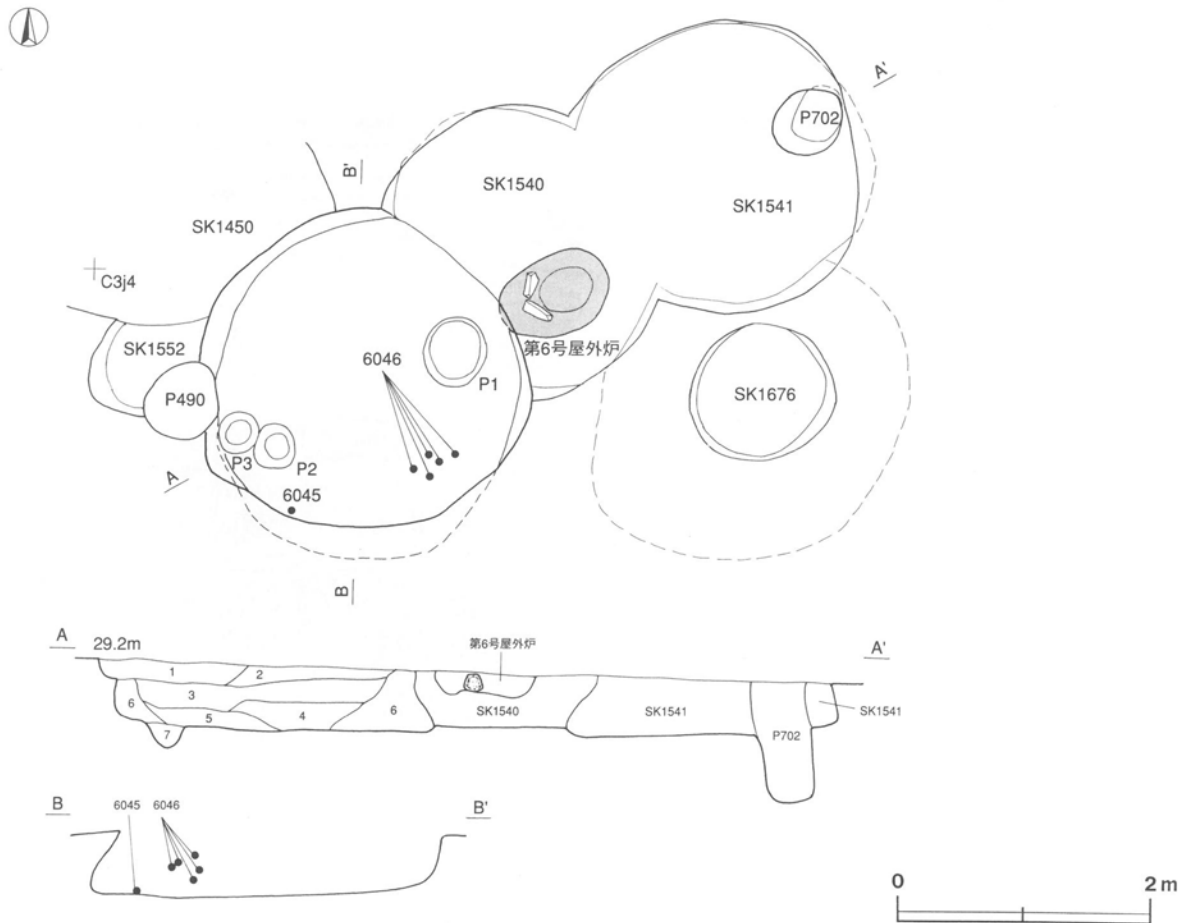
**重複関係** 第1540号土坑の西部を掘り込んでいる。

**規模と形状** 開口部の平面形は，北半の内傾する壁が崩落しているため本来の規模は不明であるが，現状では径2.52m程度の円形である。底面はほぼ平坦で，平面形は長径2.70m，短径2.34mの楕円形である。確認面からの深さは48cmである。壁は崩落している北壁付近以外は内傾する。ピットは3か所で壁際に位置している。ピットの深さは，P1が46cm，P2が21cm，P3が55cmである。

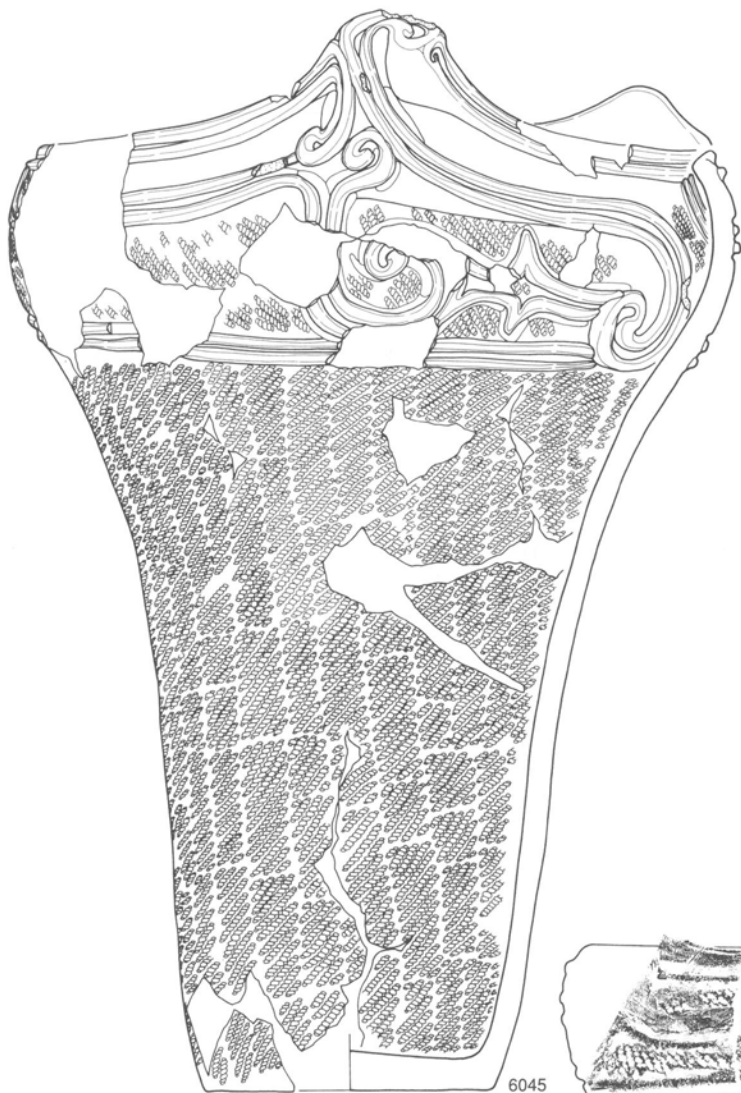
**覆土** 7層に分層される。第7層はP3の覆土上層である。第4・5層はロームブロックを多く含み，内傾する壁が崩落している北西壁側から堆積していることから，崩落土と考えられる。第1～3層は平行に堆積していることから自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

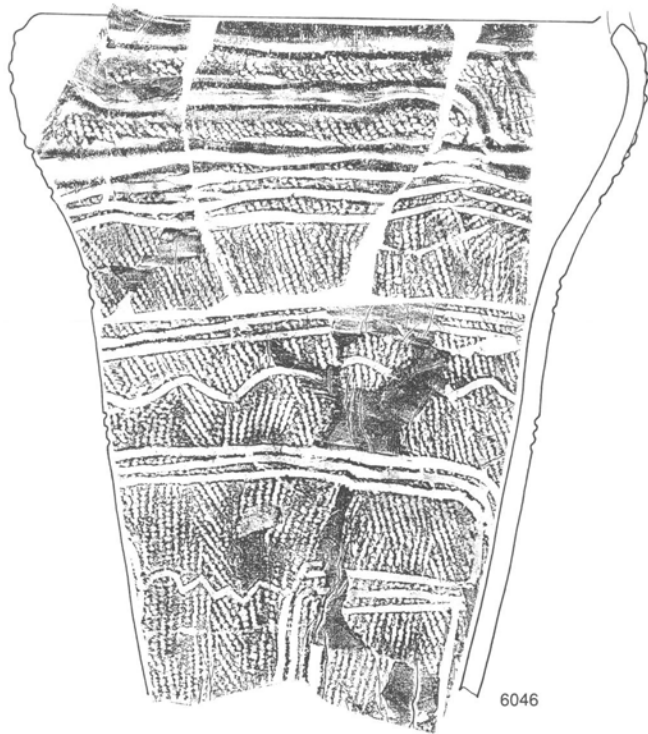
- |       |                   |       |                        |
|-------|-------------------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量      | 5 暗褐色 | ロームブロック中量，鹿沼バミス粒子微量    |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック少量，焼土粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック少量，炭化粒子微量 | 7 黒色  | ローム小ブロック・焼土粒子微量        |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量  |       |                        |



第338図 第1539号土坑実測図



6045



6046



第339图 第1539号土坑出土遗物实测图

**遺物出土状況** 縄文土器片94点が覆土から出土している。6045の深鉢は底面から、6046の深鉢は覆土中層から出土している。

**所見** 時期は、6045の深鉢が底面から出土していることから中期後葉（加曽利 E I 式期）と考えられる。

第1539号土坑出土遺物観察表（第339図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6045	縄文土器	深鉢	[26.1]	42.4	11.2	眼鏡状把手。口縁部は背に沈線を有する隆帯と隆帯による剣先状文。地文はRLの単節縄文。	長石・石英	普通	にぶい赤褐	底面	上半ス ス付着 P L 50
6046	縄文土器	深鉢	[31.0]	(36.0)	—	口縁部は2本一組の隆帯によるクランク文。胴部は沈線により文様を描出。LRの単節縄文。	長石・石英 ・雲母	普通	黒褐 にぶい橙	覆土中層	

第1541号土坑（第340・341図）

**位置** 調査2区の北部、C3i5区。住居跡群域に位置する。

**重複関係** 第1540号土坑の東部を掘り込んでおり、第702号ピットに掘り込まれている。第1676号土坑との新旧関係は出土土器から本跡が新しい。

**規模と形状** 開口部の平面形は、現状では径2.34mの円形である。底面はほぼ平坦で、確認面からの深さは43cmである。壁は南壁付近が外傾する以外は内傾する。

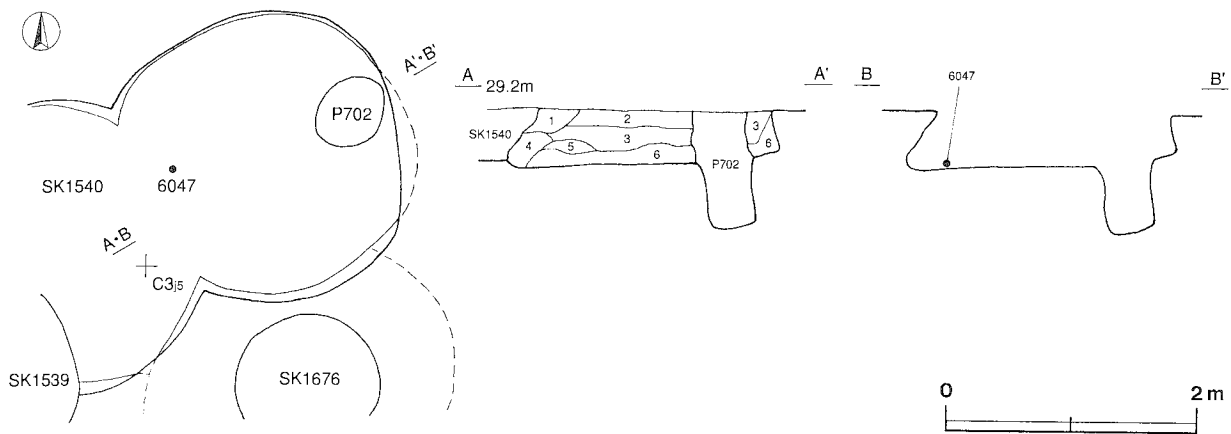
**覆土** 6層に分層される。第6層はロームブロックを多く含み、壁が外傾する南壁側から堆積していることから、人為堆積と考えられる。それ以外の層は平行に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- |        |                   |        |                        |
|--------|-------------------|--------|------------------------|
| 1 黒褐色  | ローム小ブロック中量、炭化粒子微量 | 4 極暗褐色 | ローム小ブロック少量             |
| 2 極暗褐色 | ローム小ブロック少量        | 5 極暗褐色 | ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色  | ローム小ブロック少量        | 6 暗褐色  | ローム小ブロック多量             |

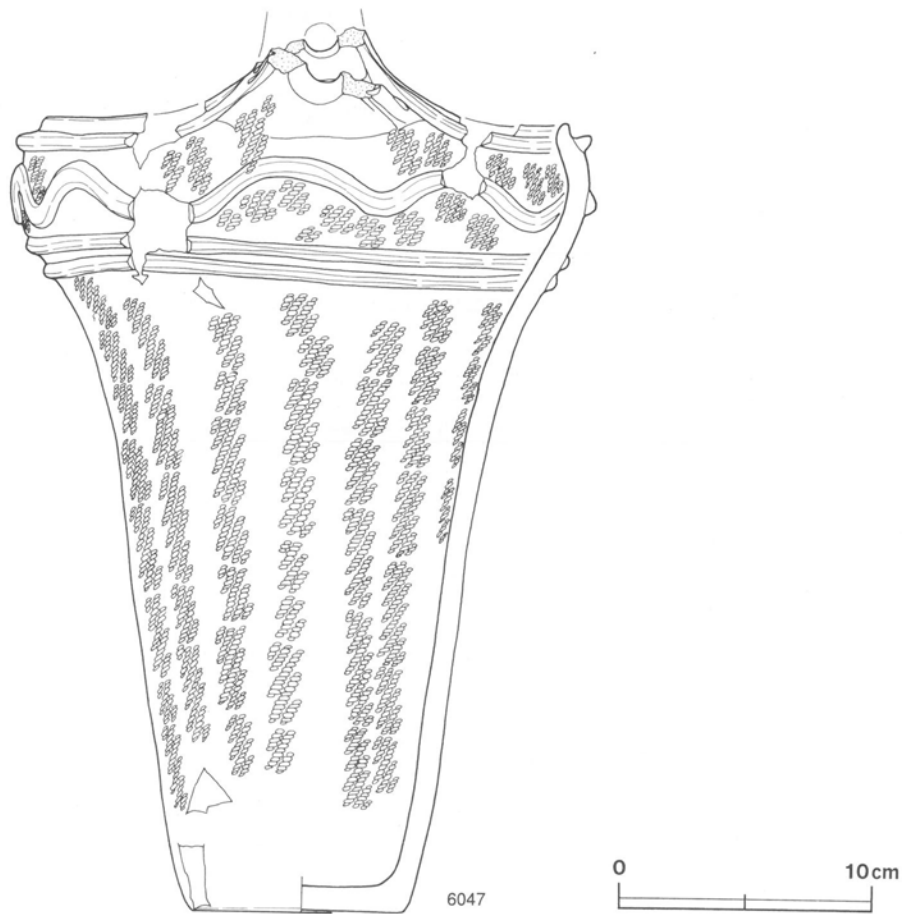
**遺物出土状況** 縄文土器片19点、石核2点が出土している。6047の深鉢は底面から横位の状態で出土している。

**所見** 時期は、6047の深鉢が底面から出土していることから中期後葉（加曽利 E I 式期）と考えられる。



第340図 第1541号土坑実測図





第341図 第1541号土坑出土遺物実測図

第1541号土坑出土遺物観察表（第341図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6047	縄文土器	深鉢	20.4	(34.6)	8.5	眼鏡状把手。口縁部は隆帯による波状文。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	黒褐橙	底面	P L 51

### 第1550号土坑（第342・343図）

**位置** 調査2区の北部，C3i0区。住居跡群域に位置する。

**確認状況** 第1507号土坑の底面で確認したが，土層が攪乱を受けていたために第1507号土坑のピットかどうかの確認ができなかった。本跡は第1507号土坑のピットである可能性もあるが，第1507号土坑から出土する遺物は少なく，本跡には多いことから，別の遺構と判断した。

**規模と形状** 開口部の平面形は，長径0.68m，短径0.57mの楕円形である。底面はほぼ平坦で，平面形は長径0.64m，短径0.61mのほぼ円形である。壁は直立するが，東壁のみは内傾している。深さは第1507号土坑の底面から48cmである。

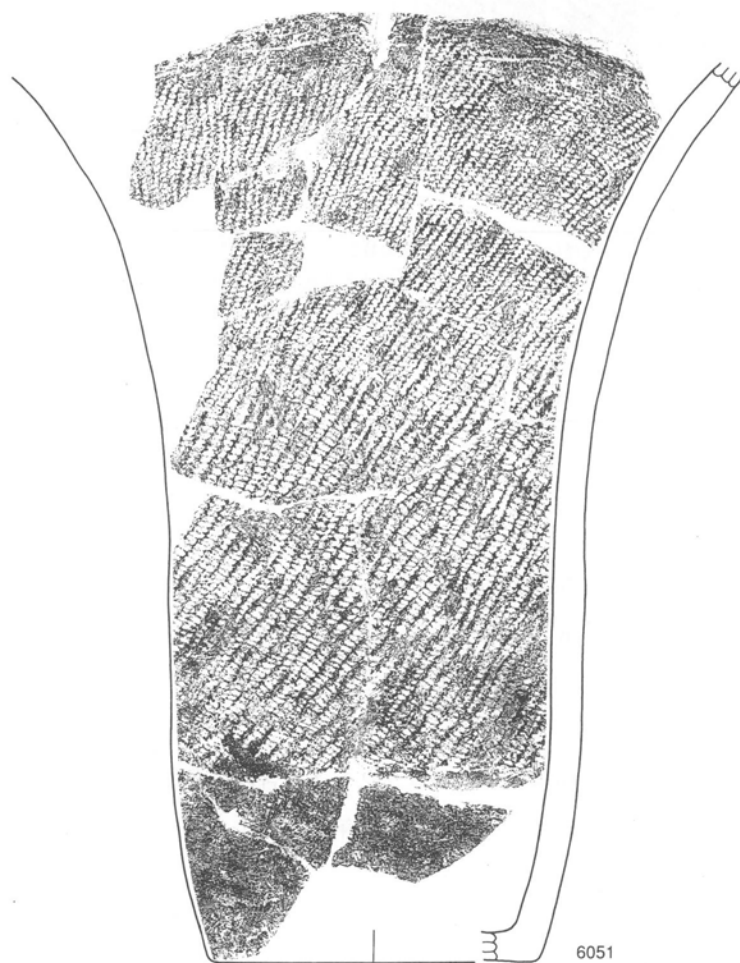
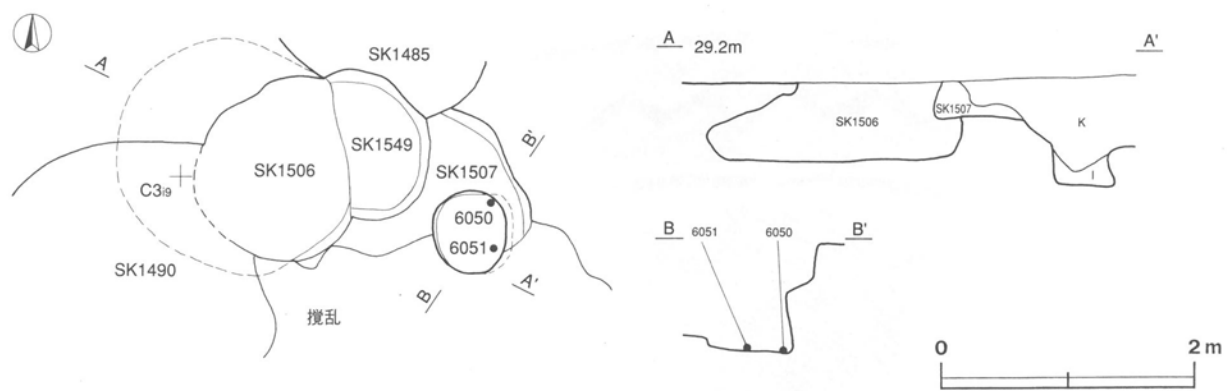
**覆土** 攪乱を受けているため，1層だけを確認する。

**土層解説**

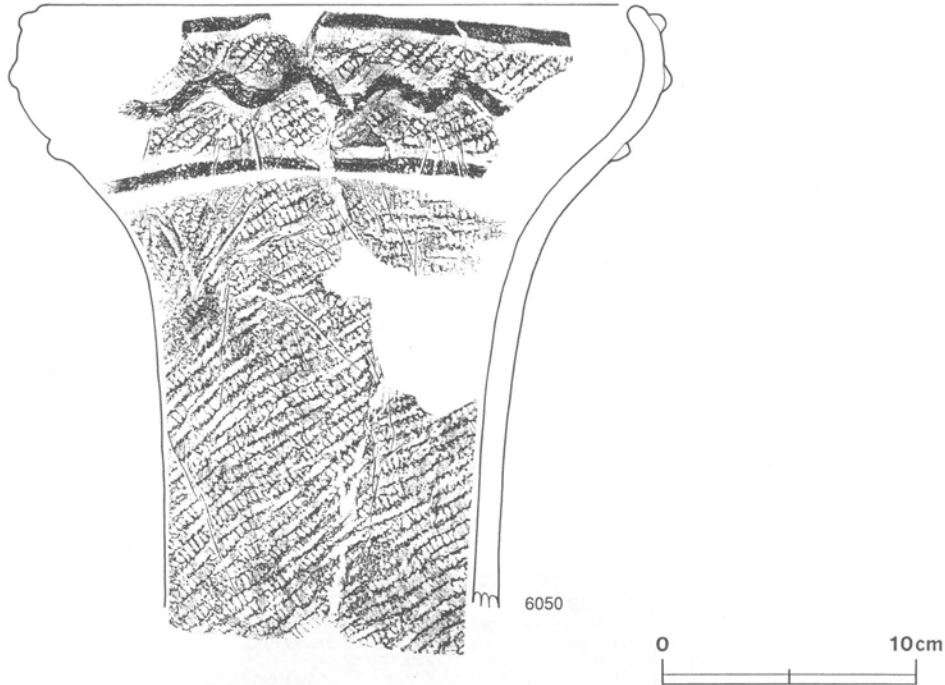
1 黒褐色 ロームブロック少量

**遺物出土状況** 縄文土器片30点が覆土から出土している。6050の深鉢は横位の状態で，6051の深鉢の下半部片は逆位の状態で，いずれも底面から出土している。

**所見** 時期は，出土土器から中期後葉（加曾利E I式期）と考えられる。



第342図 第1550号土坑・出土遺物実測図



第343図 第1550号土坑出土遺物実測図

第1550号土坑出土遺物観察表（第342・343図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6050	縄文土器	深鉢	[23.2]	(23.6)	—	口縁部は隆帯による波状文。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい橙 黒褐	底面	
6051	縄文土器	深鉢	—	(35.5)	[13.0]	R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	黒褐 にぶい橙	底面	

### 第1559号土坑（第344・345図）

**位置** 調査2区の北部，D2g9区。住居跡群の外周域に位置する。

**規模と形状** 開口部の平面形は，径1.67mの円形である。底面はほぼ平坦で，平面形は径1.75m程度の円形である。壁は南壁が直立する以外は，わずかに内傾する。深さは99cmである。ピットは1か所で，P1は北東壁際に位置しており，深さは50cmである。

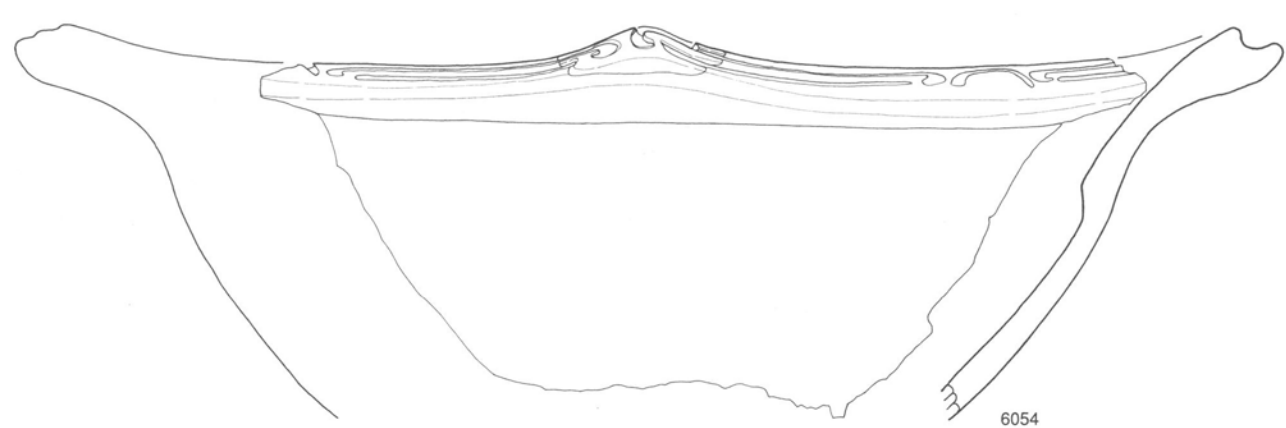
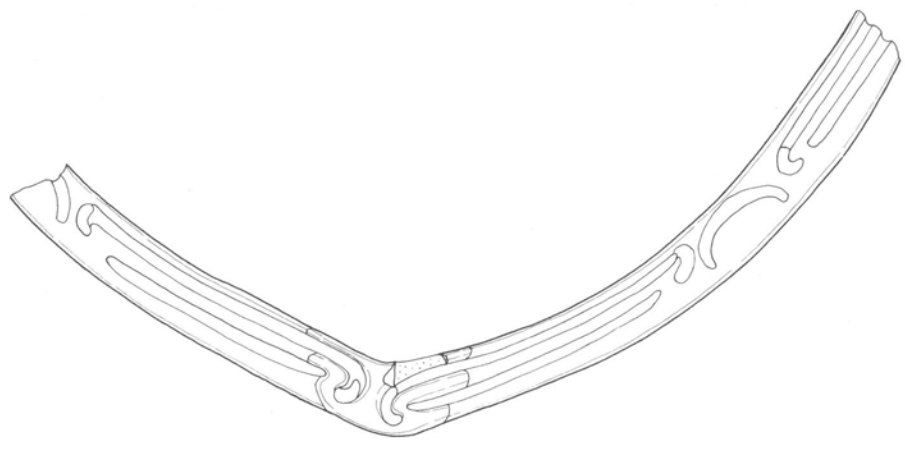
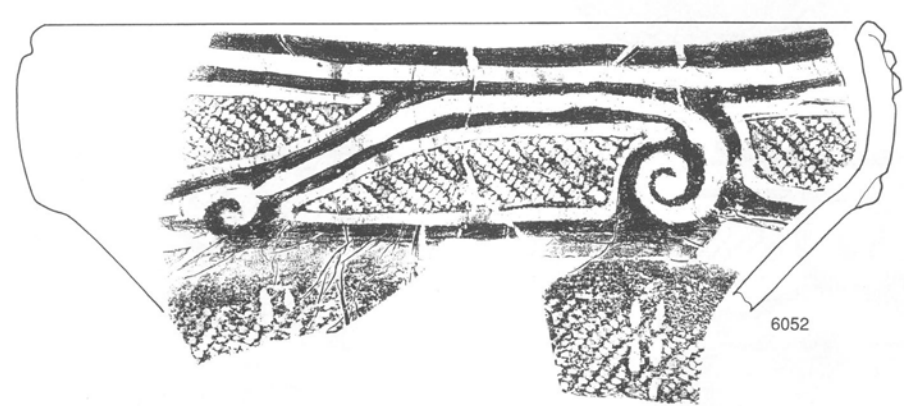
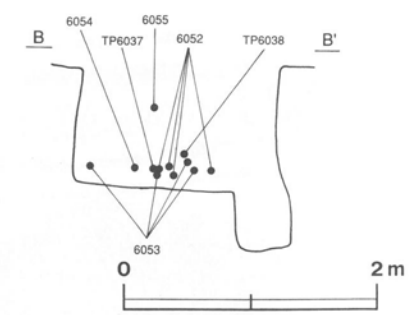
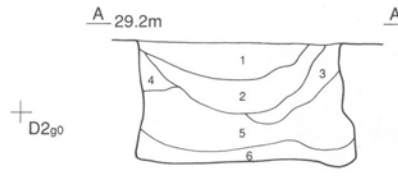
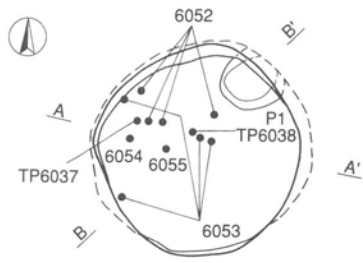
**覆土** 6層に分層される。第2・5・6層はロームブロックを多く含み，遺物が廃棄されたような状態で出土していることから，廃棄活動による人為堆積と考えられる。第1・3・4層はレンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

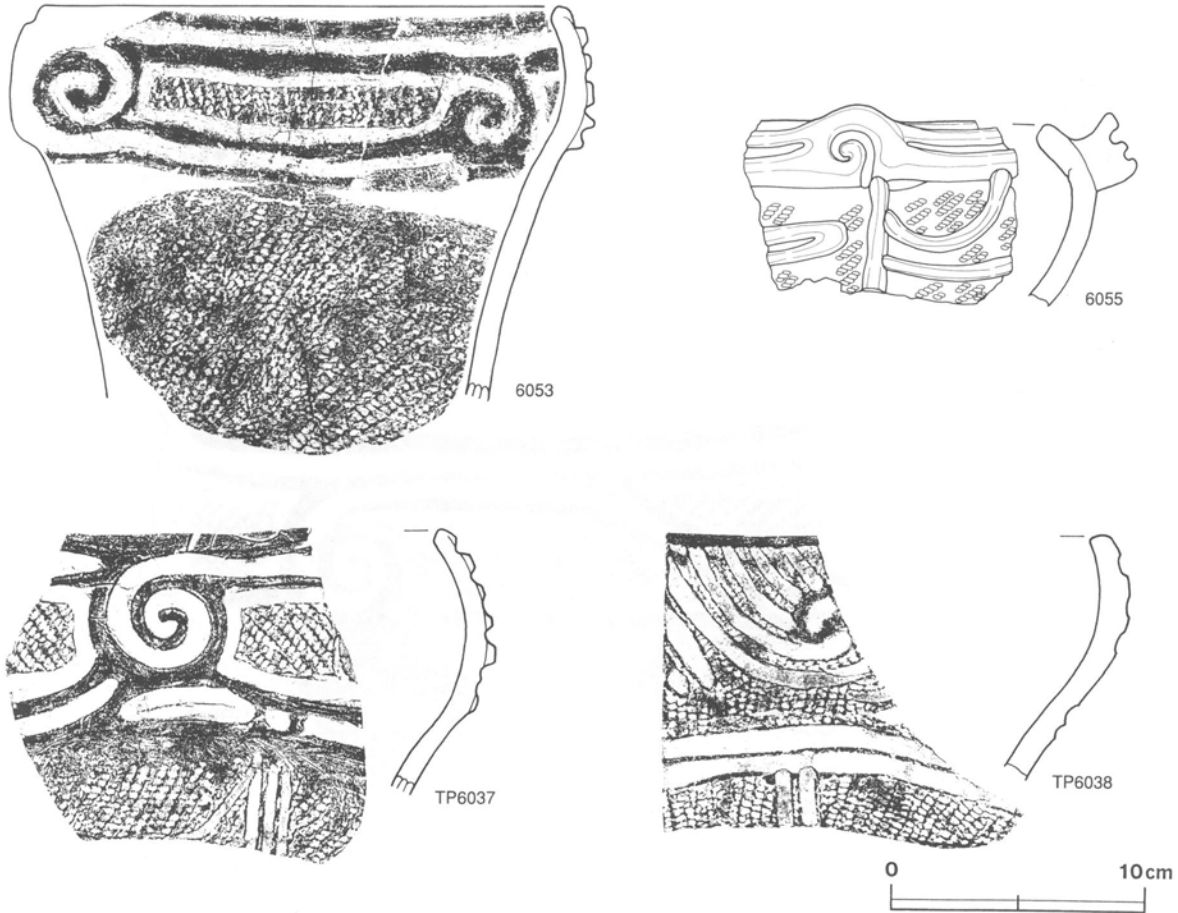
- |       |                      |       |                      |
|-------|----------------------|-------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量              | 4 暗褐色 | ローム粒子微量              |
| 2 褐色  | ローム粒子・鹿沼バミス粒子中量      | 5 褐色  | ロームブロック多量，炭化粒子微量     |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック少量，鹿沼バミス粒子微量 | 6 褐色  | ローム小ブロック中量，鹿沼バミス粒子微量 |

**遺物出土状況** 縄文土器片188点が出土している。遺物は覆土上層（第2層）と覆土下層（第5層）に集中し，廃棄されたような状態で出土している。6052・6053の深鉢と6054の浅鉢は覆土下層から，6055の深鉢片は覆土上層から出土している。

**所見** 遺物の出土状況から二度の廃棄活動が行われたことがうかがわれる。時期は，覆土下層から出土した土器から中期後葉（加曽利E I式期）と考えられる。



第344图 第1559号土坑·出土遺物実測図



第345図 第1559号土坑出土遺物実測図

第1559号土坑出土遺物観察表（第344・345図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6052	縄文土器	深鉢	[32.8]	(11.5)	—	口縁部は隆帯による渦巻文。頸部は2条一組の結節沈線による懸垂文。R Lの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	覆土下層	
6053	縄文土器	深鉢	[20.5]	(15.5)	—	口縁部は隆帯による渦巻文。R Lの単節縄文を口縁部は横方向に、胴部は縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙黒褐	覆土下層	
6054	縄文土器	浅鉢	[46.0]	(15.6)	—	口唇部は沈線により描出している。胴部は無文で、研磨している。	長石・石英	良好	にぶい褐	覆土下層	赤彩痕
6055	縄文土器	深鉢	—	(7.8)	—	口縁部の上位には渦巻状の突起を有する隆帯を巡らす。口縁部は隆帯で描出。R Lの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	覆土上層	
TP6037	縄文土器	深鉢	—	(10.4)	—	口縁部は隆帯による渦巻文。胴部は沈線による懸垂文。地文はR Lの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土下層	
TP6038	縄文土器	深鉢	—	(9.7)	—	口縁部は沈線により文様を描出。胴部は沈線による懸垂文。地文はR Lの単節縄文。	長石・石英・雲母	良好	にぶい赤褐	覆土下層	

### 第1581号土坑（第346図）

位置 調査2区の北部、D2g0区。住居跡群の外周域に位置する。

重複関係 第181号住居に南側を掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形は、長径2.41m、短径2.16mの楕円形である。底面は平坦で、平面形は長径2.26m、短径2.01mの楕円形である。壁は外傾し、深さは34cmである。ピットは3か所で、P1とP3は壁寄

りに、P2は壁際に位置している。ピットの深さは、P1が52cm、P2が14cm、P3が45cmである。

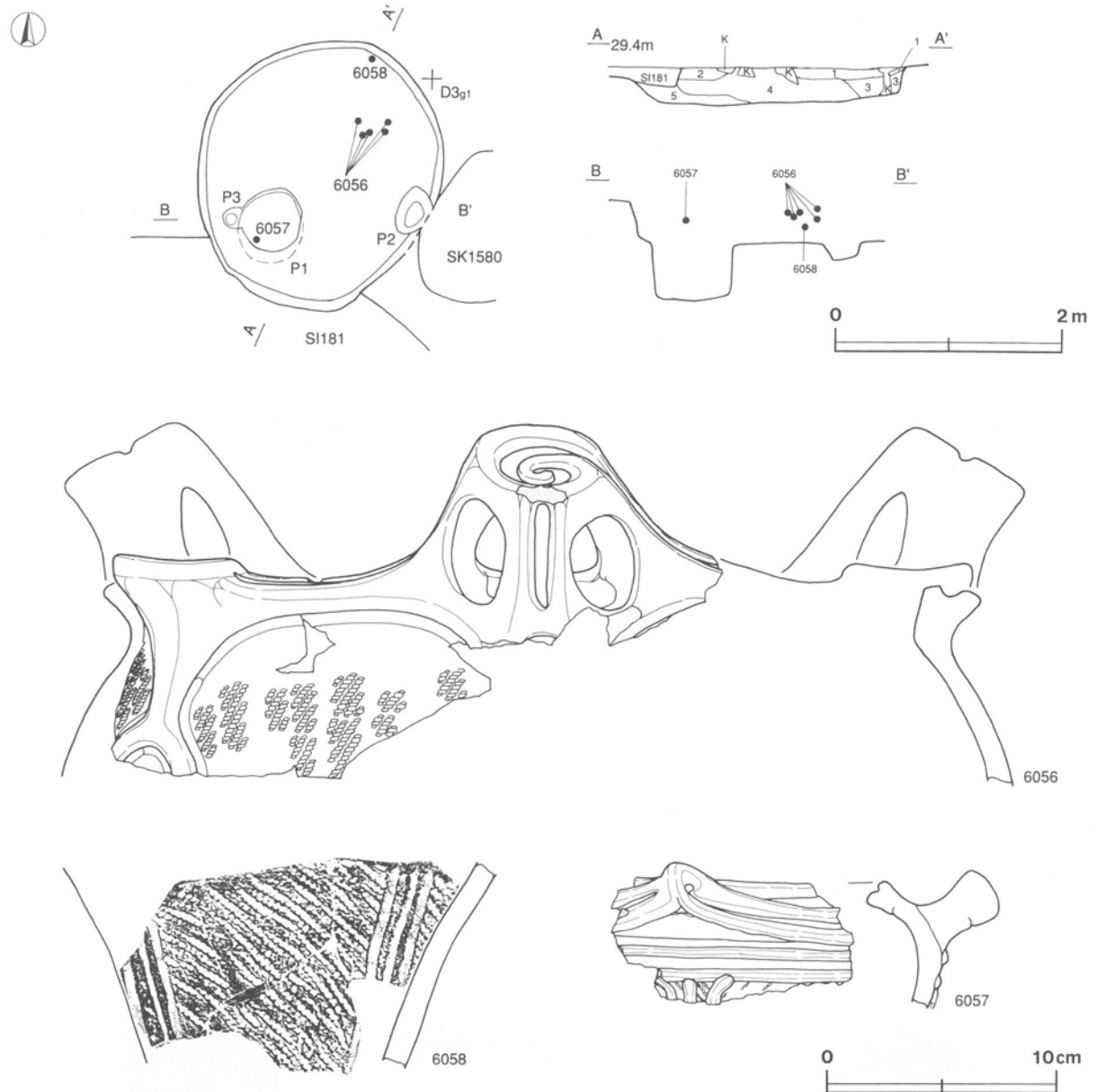
**覆土** 5層に分層される。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

**土層解説**

- |       |                        |       |                   |
|-------|------------------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック微量、            | 4 暗褐色 | ローム小ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック少量、炭化粒子微量      | 5 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量  |
| 3 黒褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子・鹿沼バミス粒子微量 |       |                   |

**遺物出土状況** 縄文土器片387点が出土している。6056・6057・6058の深鉢片は、いずれも覆土中層から出土している。

**所見** 時期は、覆土中層から出土した土器から中期後葉（加曾利E I式期）と考えられる。



第346図 第1581号土坑・出土遺物実測図

第1581号土坑出土遺物観察表（第346図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6056	縄文土器	深鉢	[34.0]	(15.6)	—	眼鏡状把手。把手頂部は隆帯による渦巻文。口縁部は沈線に沿う隆帯文。地文はRLの単節縄文。	長石・石英・雲母	良好	明赤褐	覆土中層	

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6057	縄文土器	深鉢	—	(6.1)	—	渦巻状の突起を有する隆帯を巡らしている。地文は捺糸文を施している。	長石・石英・雲母	良好	にぶい橙	覆土中層	
6058	縄文土器	深鉢	—	(9.1)	—	3条一組の懸垂文間を磨り消している。LRの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	良好	にぶい橙	覆土中層	

### 第1600号土坑（第347・348図）

**位置** 調査2区の北部，C3j6区。住居跡群域に位置する。

**重複関係** 第1601号土坑に東側を，第495号ピットに西側を掘り込まれている。

**規模と形状** 東壁が崩落しているため，開口部の平面形は長径1.14m，短径1.03mの楕円形と推定される。底面はほぼ平坦で，平面形は長径1.78m，短径1.50mの楕円形である。確認面からの深さは90cmである。壁は崩落している東壁以外は，内傾して立ち上がり，上位はほぼ直立する。底面からくびれ部までの高さは，平均で40cmである。

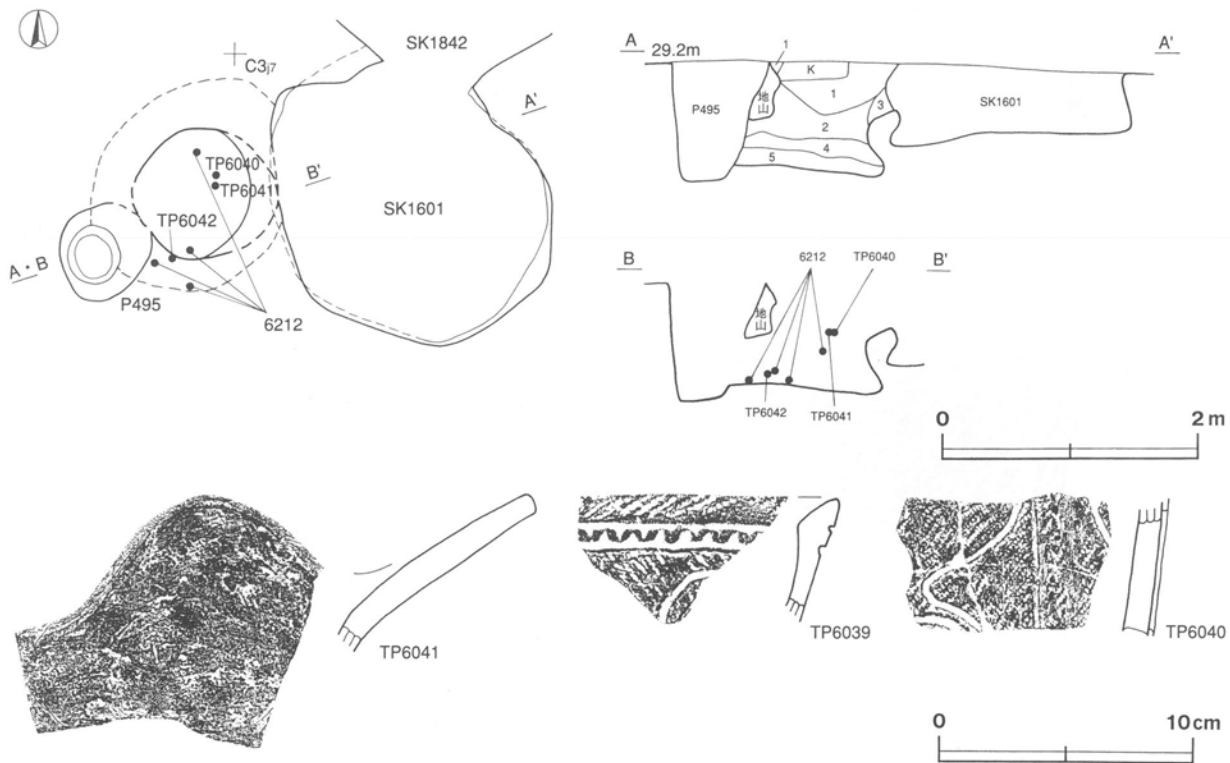
**覆土** 5層に分層される。第4層はロームブロックを多く含み，東壁が崩落していることから，崩落土と考えられる。第1・2層は黒褐色を呈し，レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

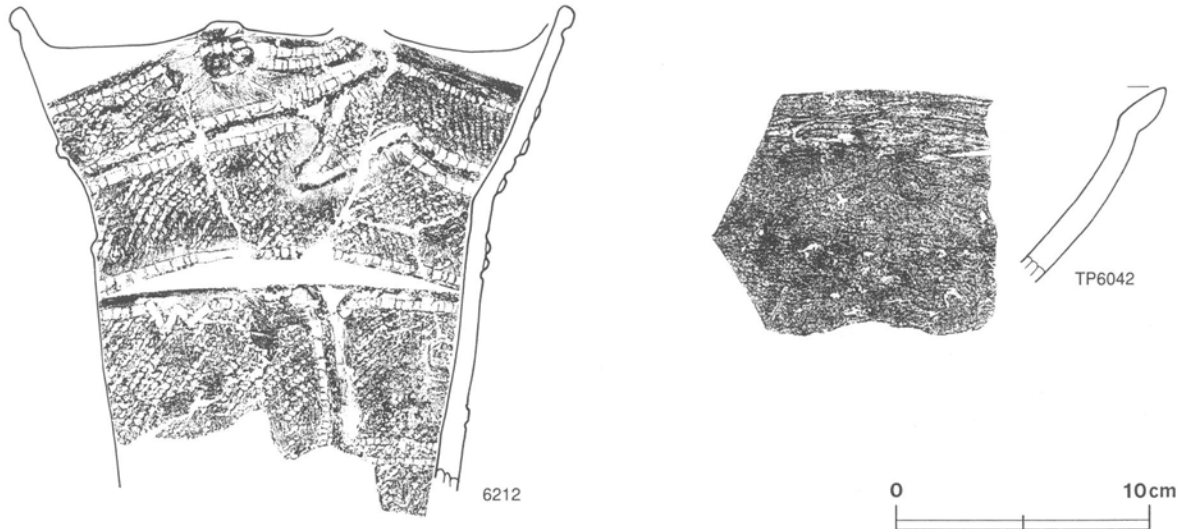
- |       |                   |       |                        |
|-------|-------------------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量      | 4 暗褐色 | ロームブロック中量，鹿沼バミス小ブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック少量，炭化粒子微量 | 5 黒色  | ロームブロック少量，鹿沼バミス小ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量         |       |                        |

**遺物出土状況** 縄文土器片105点が，主に底面から覆土中層にかけて廃棄されたような状態で出土している。6212の深鉢は底面から出土している。

**所見** 時期は，底面から出土した6212の深鉢から中期中葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。



第347図 第1600号土坑・出土遺物実測図



第348図 第1600号土坑出土遺物実測図

第1600号土坑出土遺物観察表（第347・348図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6212	縄文土器	深鉢	[21.6]	(19.2)	—	口縁部は隆帯に沿った結節沈線文。胴部は隆帯によるY字状文。地文はRLの単節縄文。	石英・長石	普通	黒褐	底面	
TP6039	縄文土器	深鉢	—	(4.9)	—	口唇部直下に交互刺突による連続コの字状文を巡らしている。Lの無節縄文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	覆土	
TP6040	縄文土器	深鉢	—	(5.4)	—	隆帯による懸垂文。沈線により文様を描出。0段多条によるRLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	明赤褐	覆土上層	
TP6041	縄文土器	浅鉢	—	(6.5)	—	無文で、入念に研磨している。	長石・石英・雲母	普通	暗赤褐	覆土上層	
TP6042	縄文土器	浅鉢	—	(7.6)	—	無文で、入念に研磨している。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土下層	内面赤彩

### 第1604号土坑（第349図）

**位置** 調査2区の北部、D3j5区。住居跡群の外周域に位置する。

**重複関係** 第1605号土坑に南東側を掘り込まれている。

**規模と形状** 開口部の平面形は、径2.29mの円形である。深さは85cmで、壁は北西壁が外傾する以外は内傾する。ピットは2か所で、いずれも壁際に位置している。ピットの深さは、P1が54cm、P2のが53cmである。

**覆土** 8層に分層される。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

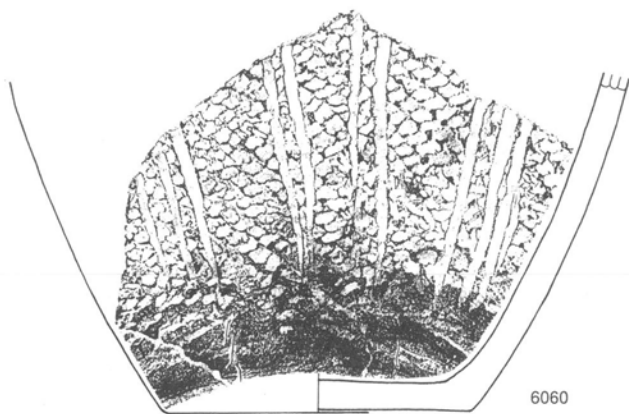
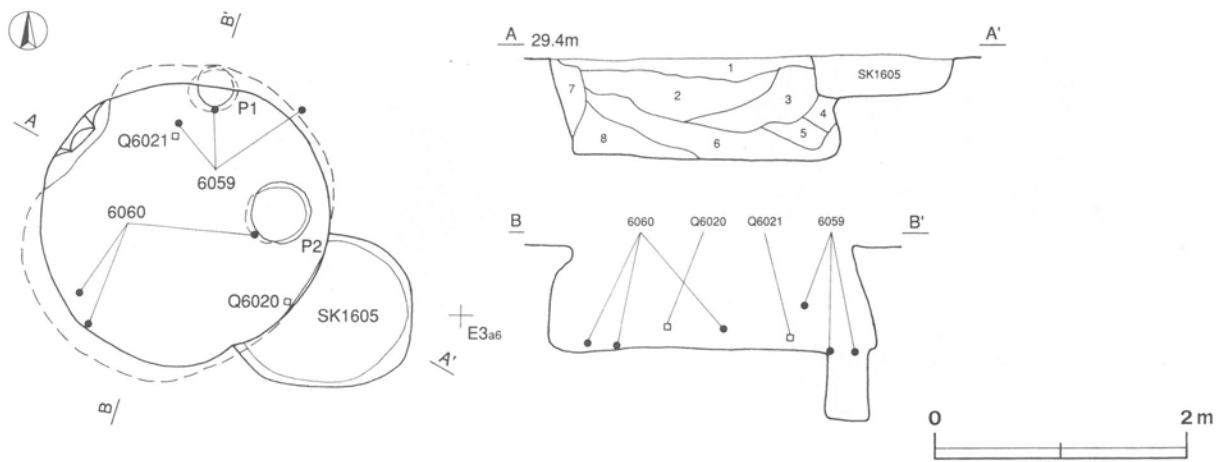
#### 土層解説

- |       |                     |       |                |
|-------|---------------------|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量             | 5 黒褐色 | ローム粒子少量        |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量        | 6 褐色  | ローム粒子中量        |
| 3 黒褐色 | ローム粒子微量、第1層より色調が明るい | 7 暗褐色 | ローム小ブロック少量     |
| 4 褐色  | ローム粒子中量             | 8 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |

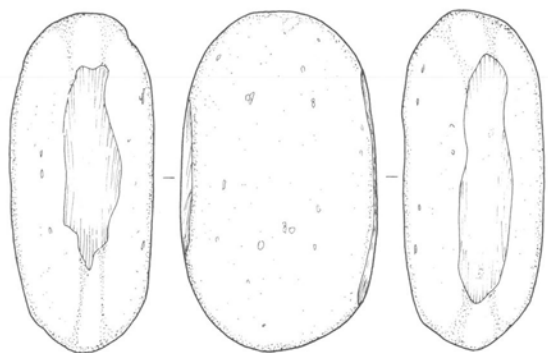
**遺物出土状況** 縄文土器片92点、磨石1点、打製石斧1点が覆土から出土している。6059の鉢片と6060の深鉢片は散在する破片が接合したもので、いずれも覆土下層から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利E I式期）と考えられる。

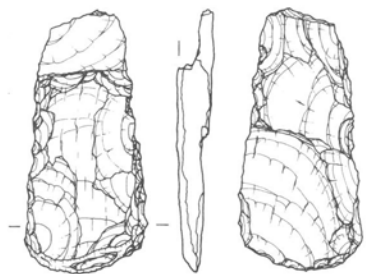




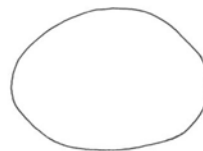
6060



Q6020



Q6021



0 10cm

第349图 第1604号土坑·出土遺物実測図

第1604号土坑出土遺物観察表 (第349図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6059	縄文土器	鉢	[38.6]	(15.0)	—	無文で、入念に研磨している。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土下層	内・外面赤彩
6060	縄文土器	深鉢	—	(13.2)	12.2	沈線による懸垂文を施している。L R Lの複節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	良好	にぶい黄橙 黒褐	覆土下層	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q6020	磨石	13.5	7.8	5.7	848.5	安山岩	両側縁に擦痕。	覆土下層	P L62
Q6021	打製石斧	10.3	4.7	1.4	72.8	粘板岩	剥離による両面調整後、刃部付近を局部研磨。	覆土下層	

第1608号土坑 (第350~353図)

位置 調査2区の北部、D3g2区。住居跡群域に位置する。

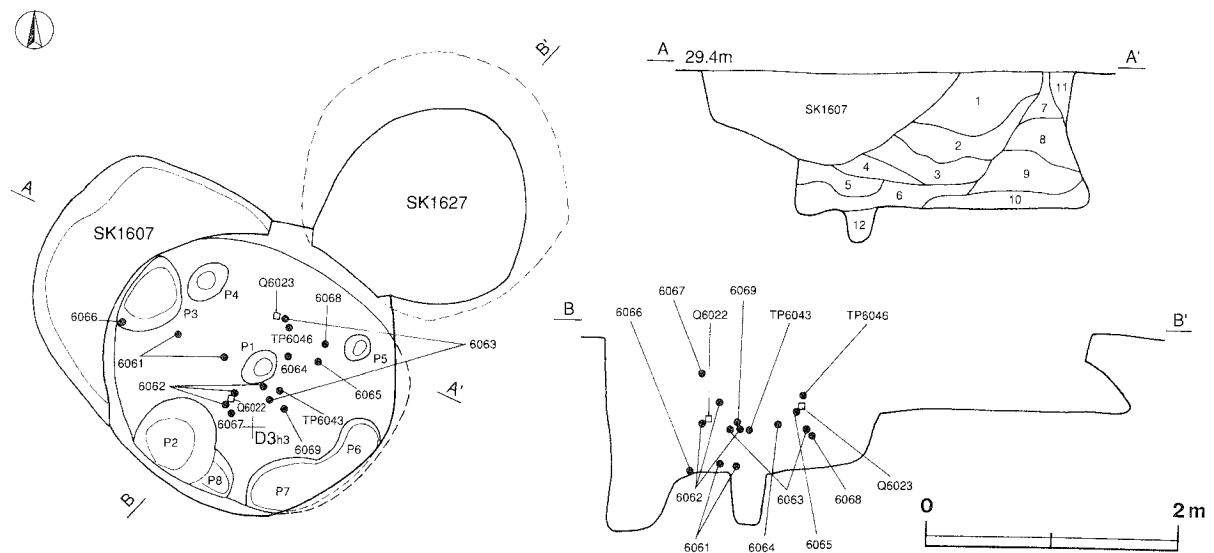
重複関係 第1627号土坑の南西側を掘り込み、第1607号土坑に西側を掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形は長径2.36m、短径2.20mのほぼ円形である。底面は平坦で、底部の平面形は長径2.30m、短径2.00mの楕円形である。深さは110cmである。壁は北東壁が外傾する以外は、内傾あるいは直立する。ピットは8か所で、P1は中央部に、P2からP8は壁際に位置している。ピットの深さは、P1が41cm、P2が44cm、P3が52cm、P4が27cm、P5が36cm、P6が21cm、P7が31cm、P8が17cmである。

覆土 12層に分層される。第6~10層はロームブロックを多く含み、北東壁側から堆積していることから、内傾する壁の崩落土と考えられる。第2~4層からは散在した破片が接合する土器が多量に出土していることから、廃棄活動による人為堆積と考えられる。

土層解説

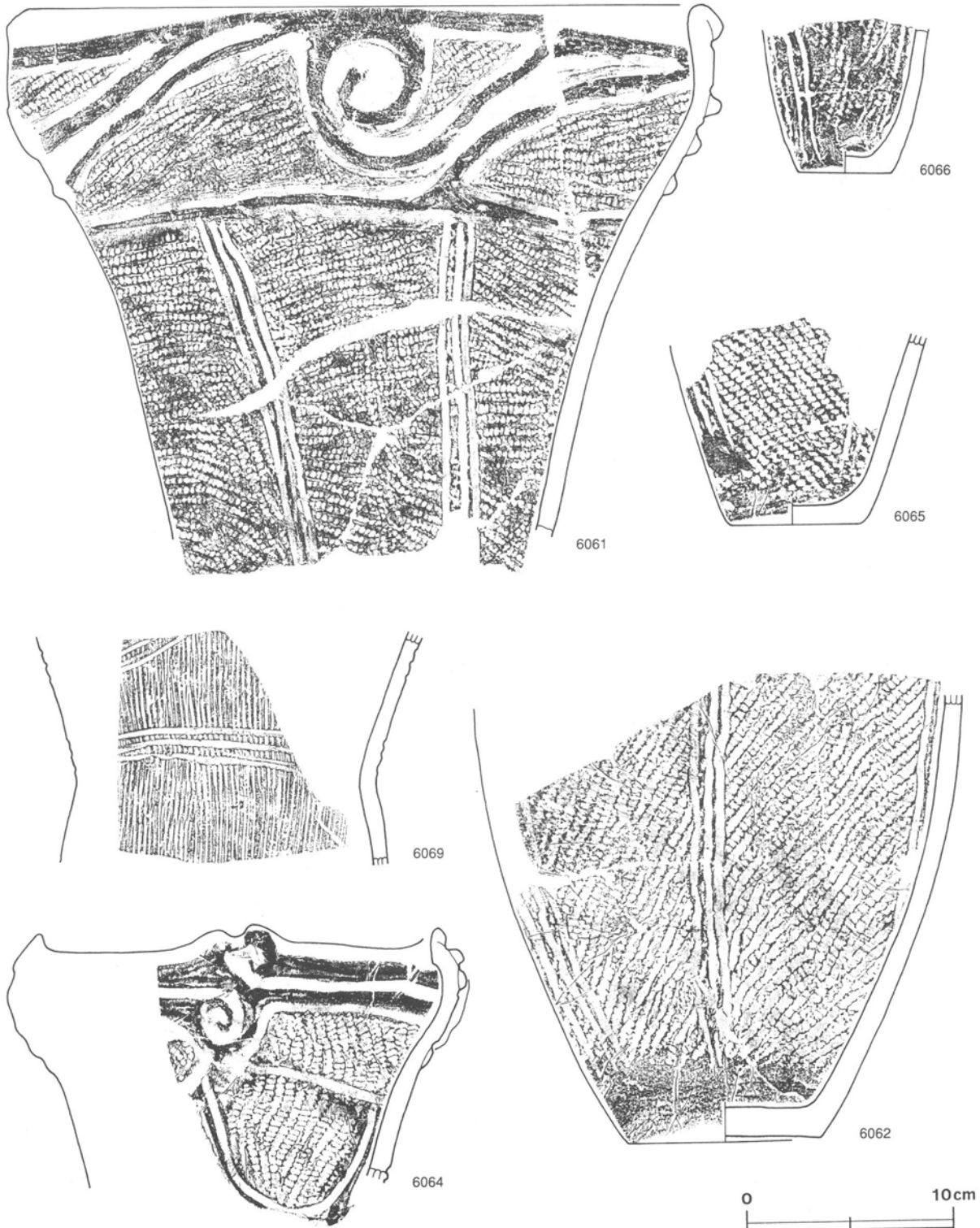
- |       |                        |        |                           |
|-------|------------------------|--------|---------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量                | 7 黒褐色  | ローム粒子微量                   |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・炭化物微量         | 8 黒褐色  | ロームブロック中量、炭化物少量、鹿沼バミス粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック・炭化物・鹿沼バミス粒子微量 | 9 暗褐色  | ロームブロック少量、炭化物微量           |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・炭化物少量、鹿沼バミス粒子微量  | 10 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物・砂質粘土小ブロック微量 |
| 5 褐色  | ローム小ブロック少量             | 11 暗褐色 | ローム小ブロック中量                |
| 6 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量          | 12 暗褐色 | ローム小ブロック少量                |



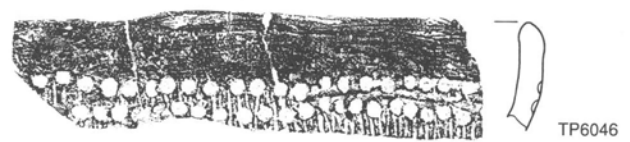
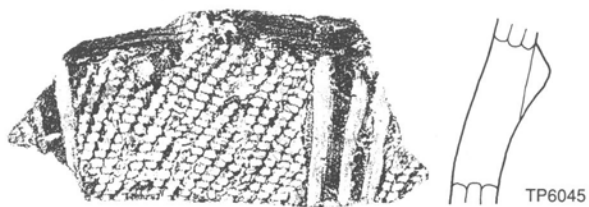
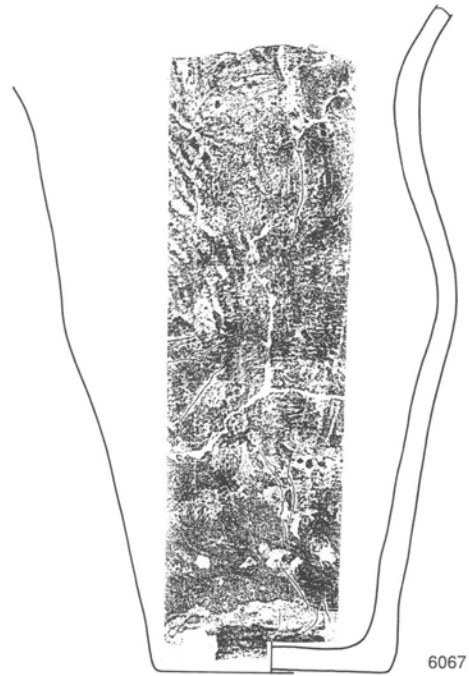
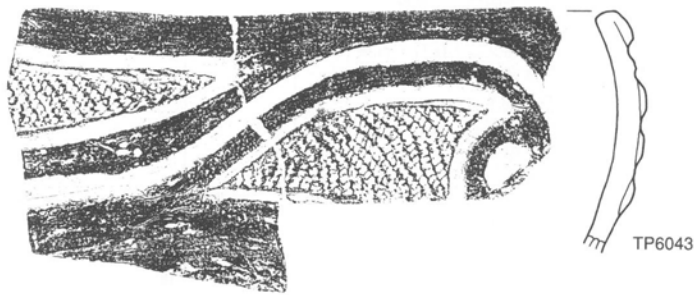
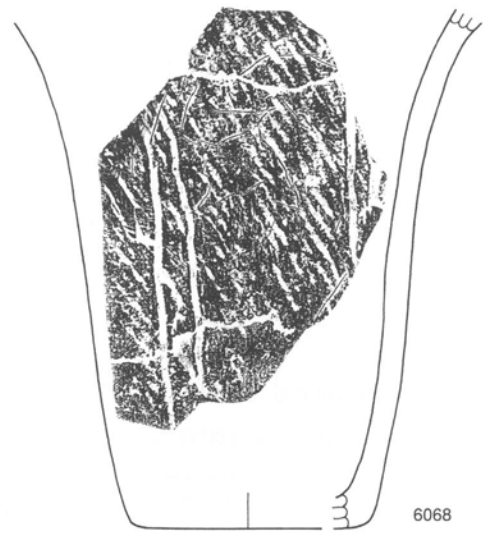
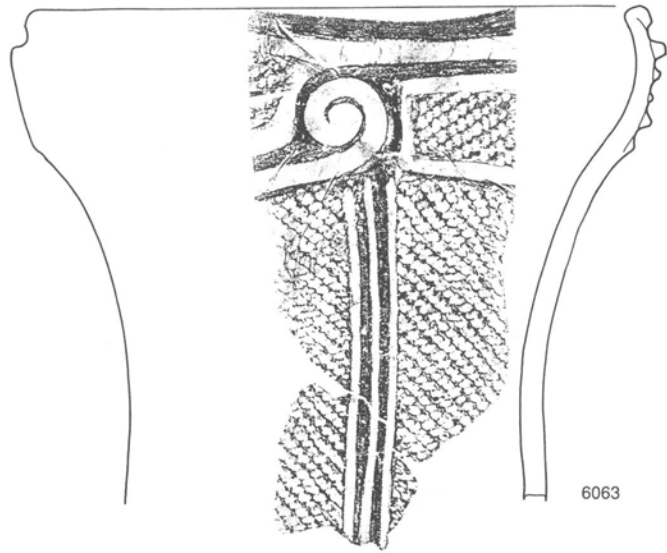
第350図 第1608号土坑実測図

**遺物出土状況** 縄文土器片551点、石皿片1点、磨石1点、凹石片1点、石鏃1点が出土している。主な遺物は覆土上層（第2～4層）から廃棄されたような状態で出土している。6061・6066の深鉢は覆土下層から、6062～6065、6067～6069の深鉢片は覆土上層（第2～4層）から出土している。

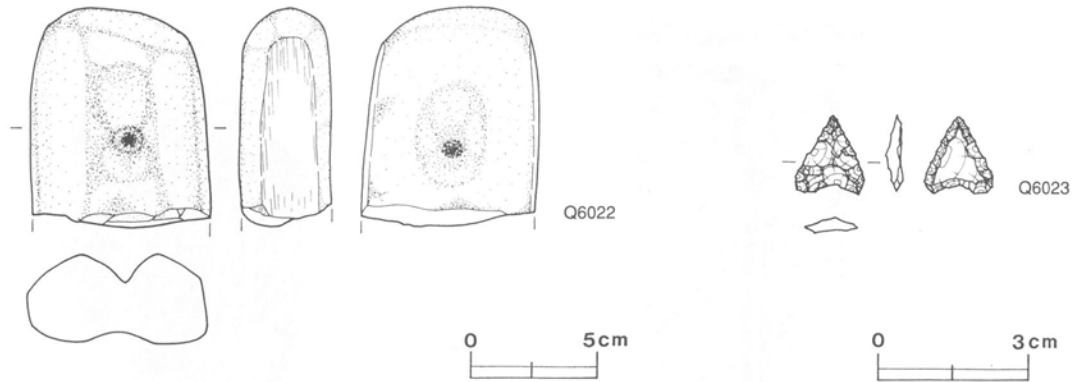
**所見** 覆土上層（第2～4層）に遺物の集中が見られ、一括廃棄された様相がうかがわれる。本跡の廃絶時期と覆土上層の堆積時期は、それらの出土土器からいずれも中期後葉（加曾利EⅡ式期）であり、本跡の廃絶から覆土上層が堆積するまでは短期間であったと考えられる。



第351図 第1608号土坑出土遺物実測図（1）



第352图 第1608号土坑出土遺物实测图(2)



第353図 第1608号土坑出土遺物実測図

第1608号土坑出土遺物観察表 (第351~353図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6061	縄文土器	深鉢	33.0	(25.9)	—	口縁部は隆帯による渦巻文。胴部は3条一組の沈線による懸垂文。LRの単節縄文。	長石・石英	普通	橙灰褐	覆土下層	
6062	縄文土器	深鉢	—	(21.3)	9.5	3条一組の沈線による懸垂文を施している。RLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土上層	
6063	縄文土器	深鉢	[24.2]	(19.7)	—	口縁部は隆帯による渦巻文。胴部は沈線による懸垂文間を磨り消す。LRLの複節縄文。	長石・石英	良好	黒褐	覆土上層	
6064	縄文土器	深鉢	[19.2]	(12.3)	—	口縁部は隆帯による渦巻文。胴部は沈線間を磨り消す。地文はRLの単節縄文。	長石・石英	良好	灰褐	覆土上層	
6065	縄文土器	深鉢	—	(9.0)	6.5	3条一組の沈線による懸垂文。LRの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	良好	にぶい褐	覆土下層	
6066	縄文土器	深鉢	—	(6.9)	4.5	3条一組の沈線による懸垂文。RLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	良好	にぶい褐	覆土上層	PL50
6067	縄文土器	深鉢	—	(26.0)	9.0	Lの無節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	灰褐 にぶい褐	覆土上層	
6068	縄文土器	深鉢	—	(20.2)	[9.4]	2条一組の沈線による懸垂文。Lの無節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐 にぶい褐	覆土上層	
6069	縄文土器	深鉢	—	(11.4)	—	頸部は3条一組の沈線による連弧文。櫛歯状工具による条線文。	長石・石英	普通	にぶい黄橙	覆土上層	
TP6043	縄文土器	深鉢	—	(9.6)	—	2本一組の隆帯により文様を描出。RLの単節縄文を横方向に施文。	長石・石英	普通	暗赤褐	覆土上層	
TP6044	縄文土器	深鉢	—	(5.6)	—	波頂部に隆帯による渦巻文を施している。RLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	赤褐	覆土	
TP6045	縄文土器	深鉢	—	(7.4)	—	3条一組の沈線による懸垂文。RLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい褐	覆土	
TP6046	縄文土器	深鉢	—	(4.3)	—	口縁部に円形刺突文を巡らしている。櫛歯状工具による条線文。	長石・石英	普通	黒褐	覆土上層	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q6022	磨石	(8.7)	7.2	3.5	(368.4)	砂岩	両側縁に擦痕。凹石に併用。	覆土上層	PL61
Q6023	石鏃	1.5	1.4	0.3	0.4	オパール	剥片を素材。基部が湾入する。	覆土上層	PL59

第1612号土坑（第354・355図）

**位置** 調査2区の北部，D3 d2区。住居跡群の外周域に位置する。

**重複関係** 規模がひとまわり大きい第1611号土坑の中心部を掘り込んでいる。

**規模と形状** 第1611号土坑の底面で確認した平面形は，長径1.96m，短径1.75mの楕円形である。底面はほぼ平坦である。確認面からの深さは78cmで，壁は直立する。ピットは2か所で，いずれも壁際に位置している。ピットの深さは，P1が38cm，P2が18cmである。

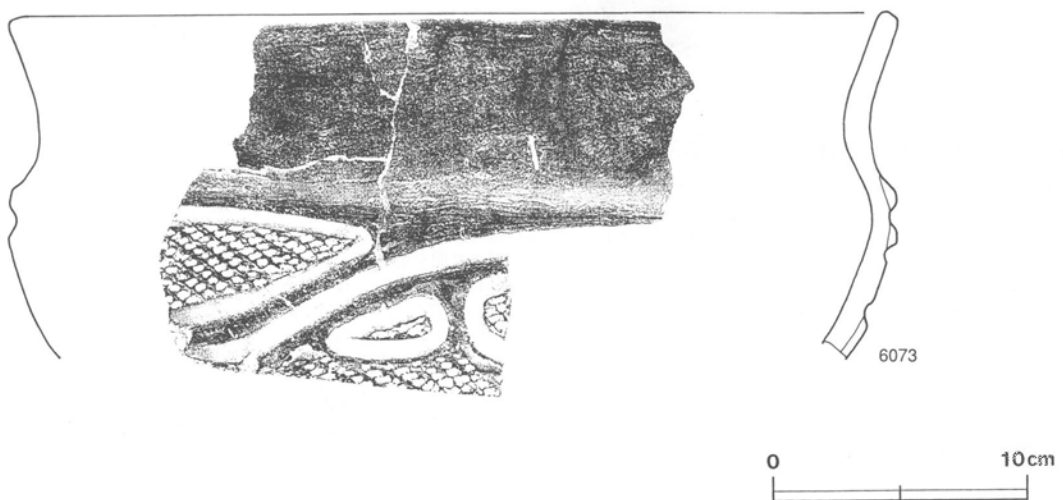
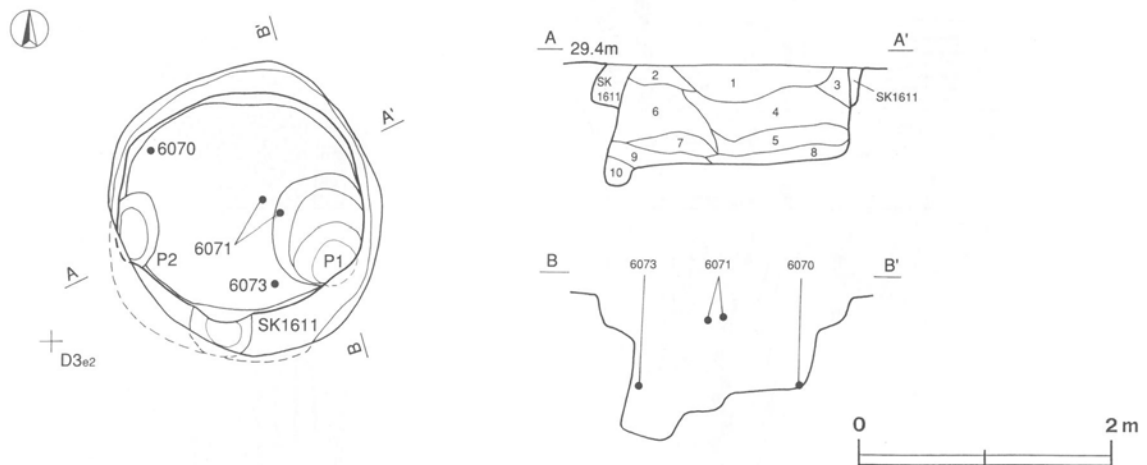
**覆土** 10層に分層され，第10層はP2の覆土である。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

**土層解説**

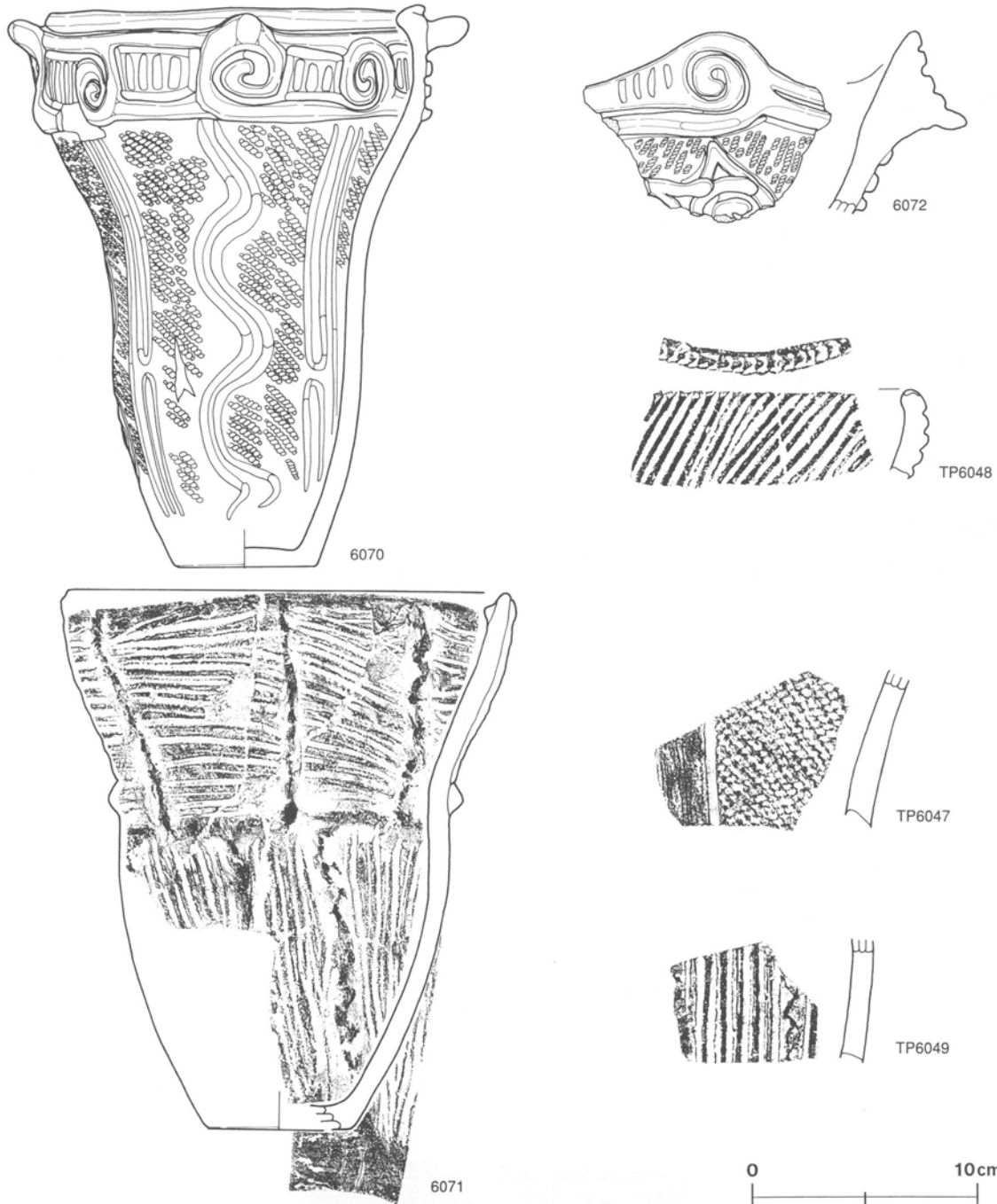
- |       |                       |        |                          |
|-------|-----------------------|--------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量           | 6 暗褐色  | ローム小ブロック・炭化物微量           |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・炭化物微量        | 7 黒褐色  | 炭化物少量，ローム粒子微量            |
| 3 黒褐色 | ローム粒子微量               | 8 暗褐色  | ローム粒子少量，鹿沼パミス粒子微量        |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック少量，炭化物微量      | 9 黒褐色  | ローム小ブロック少量，炭化物・鹿沼パミス粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化物微量 | 10 黒褐色 | ローム粒子微量                  |

**遺物出土状況** 縄文土器片114点が出土している。6070の深鉢は底面から横位の状態で出土している。6071の曾利式土器の深鉢片は，覆土上層から廃棄されたような状態で出土している。

**所見** 時期は，底面から出土した6070の深鉢から中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。



第354図 第1612号土坑・出土遺物実測図



第355図 第1612号土坑出土遺物実測図

第1612号土坑出土遺物観察表（第354・355図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6070	縄文土器	深鉢	16.5	24.9	6.1	口縁部は隆帯による渦巻文。胴部は懸垂文間を磨り消す。地文はLRの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	底面	上半ス ス附着 P L 50
6071	縄文土器	深鉢	[19.3]	24.0	[6.4]	頸部に隆帯文を巡らす。それ以外は交互に押圧された隆帯文。地文は半截竹管による平行沈線文。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土上層	上半ス ス附着 P L 51
6072	縄文土器	深鉢	—	(4.5)	—	波頂部直下に隆帯による渦巻文。口縁部は沈線が沿う隆帯文。地文はRLの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土	
6073	縄文土器	鉢	[34.0]	(13.7)	—	口縁部は無文。胴部上位は沈線が沿う隆帯文。地文はLRの単節縄文。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土下層	

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP6047	縄文土器	深鉢	—	(6.9)	—	沈線による懸垂文間を磨り消している。LRLの複節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	褐	覆土	
TP6048	縄文土器	深鉢	—	(4.0)	—	口唇部は半截竹管による刺突文。口縁部は半截竹管による平行沈線文。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土	
TP6049	縄文土器	深鉢	—	(5.4)	—	押圧文を有する隆帯による懸垂文。半截竹管による平行沈線文。	長石・石英	普通	橙	覆土	

### 第1614号土坑（第356・357図）

**位置** 調査2区の北部，D3d3区。住居跡群の外周域に位置する。

**重複関係** 第1613号土坑を掘り込み，第1659号土坑に上面を掘り込まれている。

**規模と形状** 開口部の平面形は，第1659号土坑に掘り込まれているため，現状では長径2.13m，短径1.72mの楕円形である。底面はほぼ平坦で，平面形は長径2.01m，短径1.85mの楕円形である。確認面からの深さは44cmである。壁は内傾して立ち上がるが，南壁と北壁は崩落しており，外傾している。

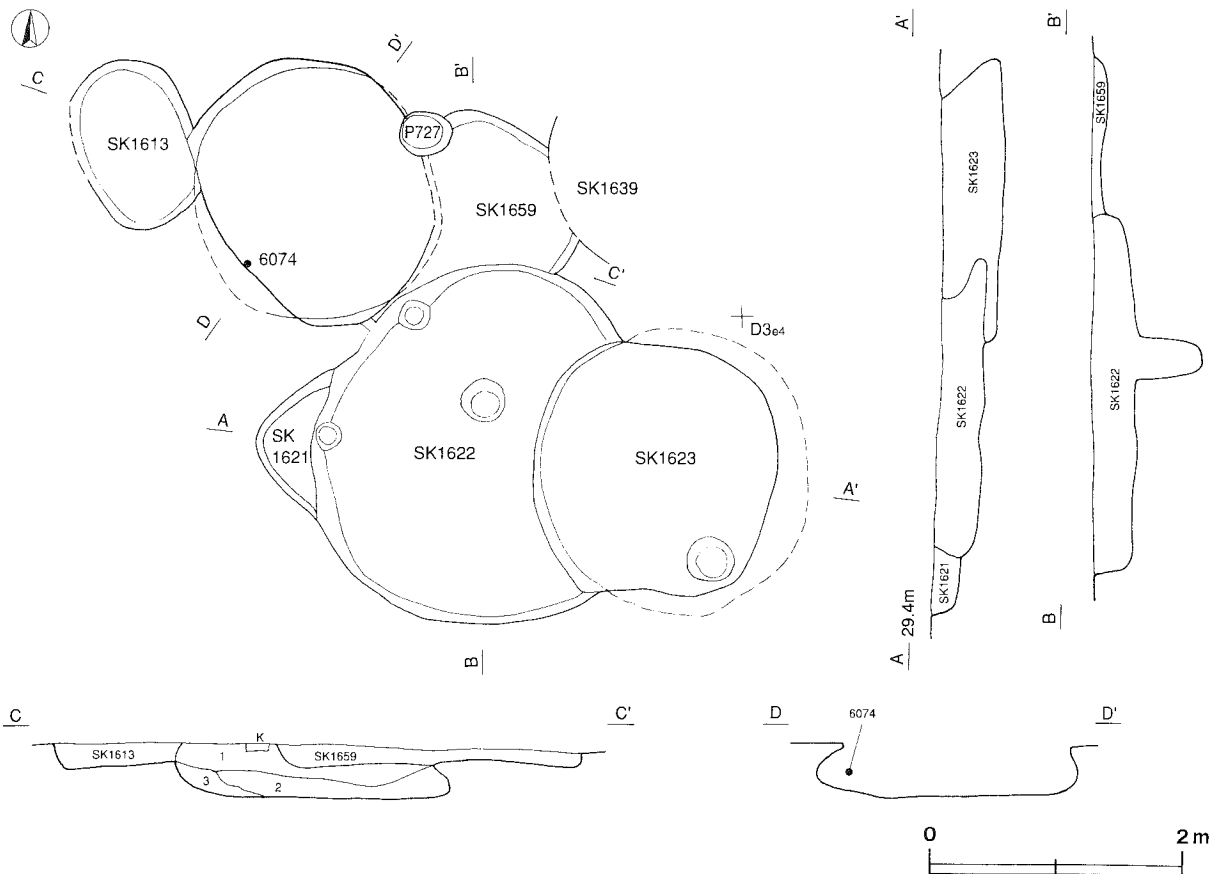
**覆土** 3層に分層される。第2層はロームブロックを多く含み，内傾する壁が崩落したと考えられる北壁側から堆積していることから，崩落土と考えられる。

#### 土層解説

- |                         |                      |
|-------------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 ローム小ブロック少量，炭化粒子微量 | 3 暗褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量         |                      |

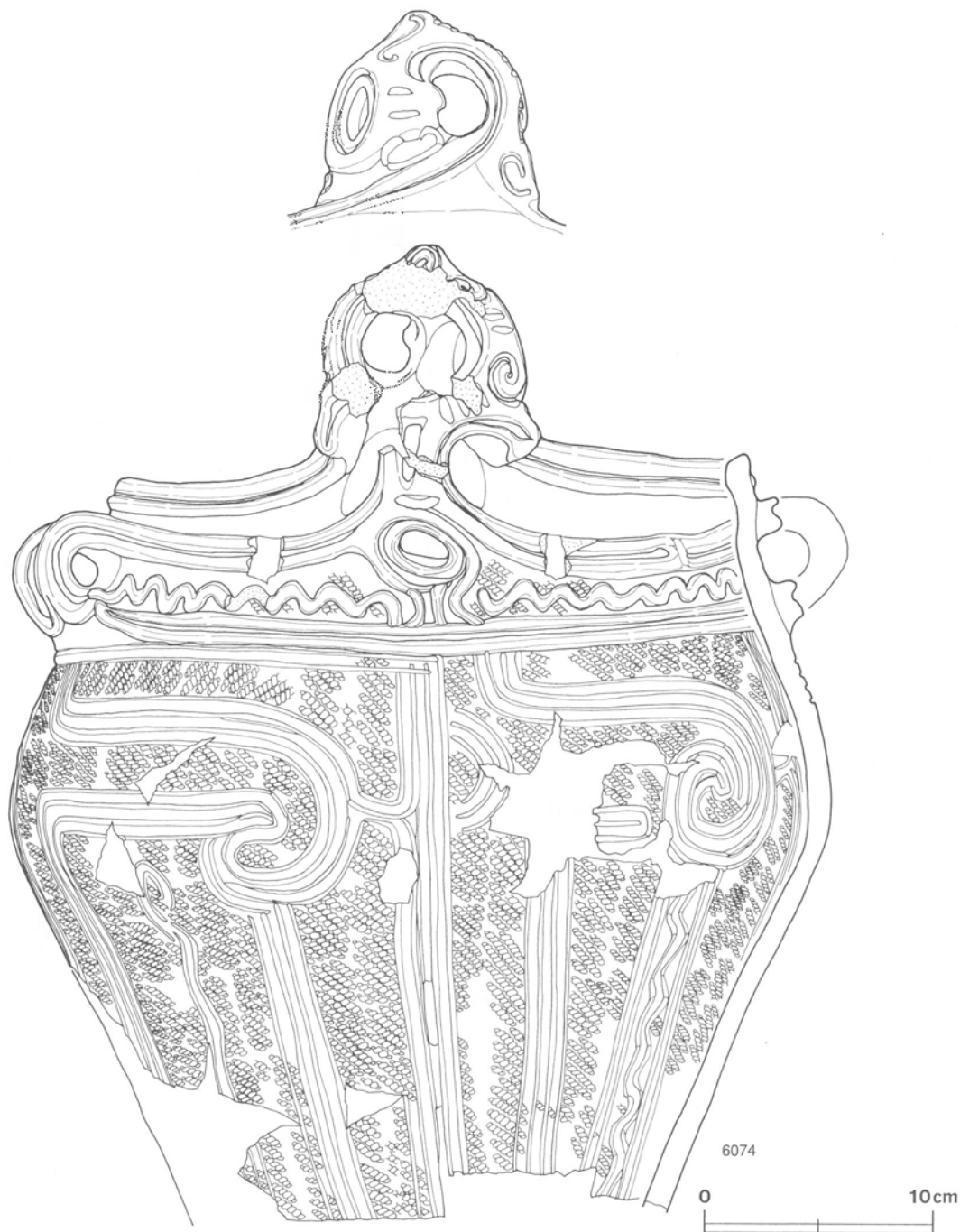
**遺物出土状況** 縄文土器片15点が出土している。6074の深鉢は南東壁際の覆土下層から出土している。

**所見** 時期は，覆土下層から出土した6074の深鉢から中期後葉（加曽利E I式期）と考えられる。



第356図 第1614号土坑実測図





第357図 第1614号土坑出土遺物実測図

第1614号土坑出土遺物観察表（第357図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6074	縄文土器	深鉢	[27.0]	(42.4)	—	眼鏡状把手。口縁部は沈線を有する隆帯文。胴部は半截竹管による平行沈線文。LRの単節縄文。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土下層	P L 51

第1622号土坑（第358図）

位置 調査2区の北部，D3e3区。住居跡群の外周域に位置する。

重複関係 第1621・1623・1659号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 開口部の平面形は、第1623号土坑と重複しているため、現状では径2.83mほどの円形と推定される。底面はほぼ平坦である。確認面からの深さは37cmである。壁は外傾しているが、土層断面では内傾することが確認されている。ピットは3か所で、P1は中央部に、P2とP3は壁際に位置している。ピットの深さは、P1が56cm、P2が33cm、P3が40cmである。

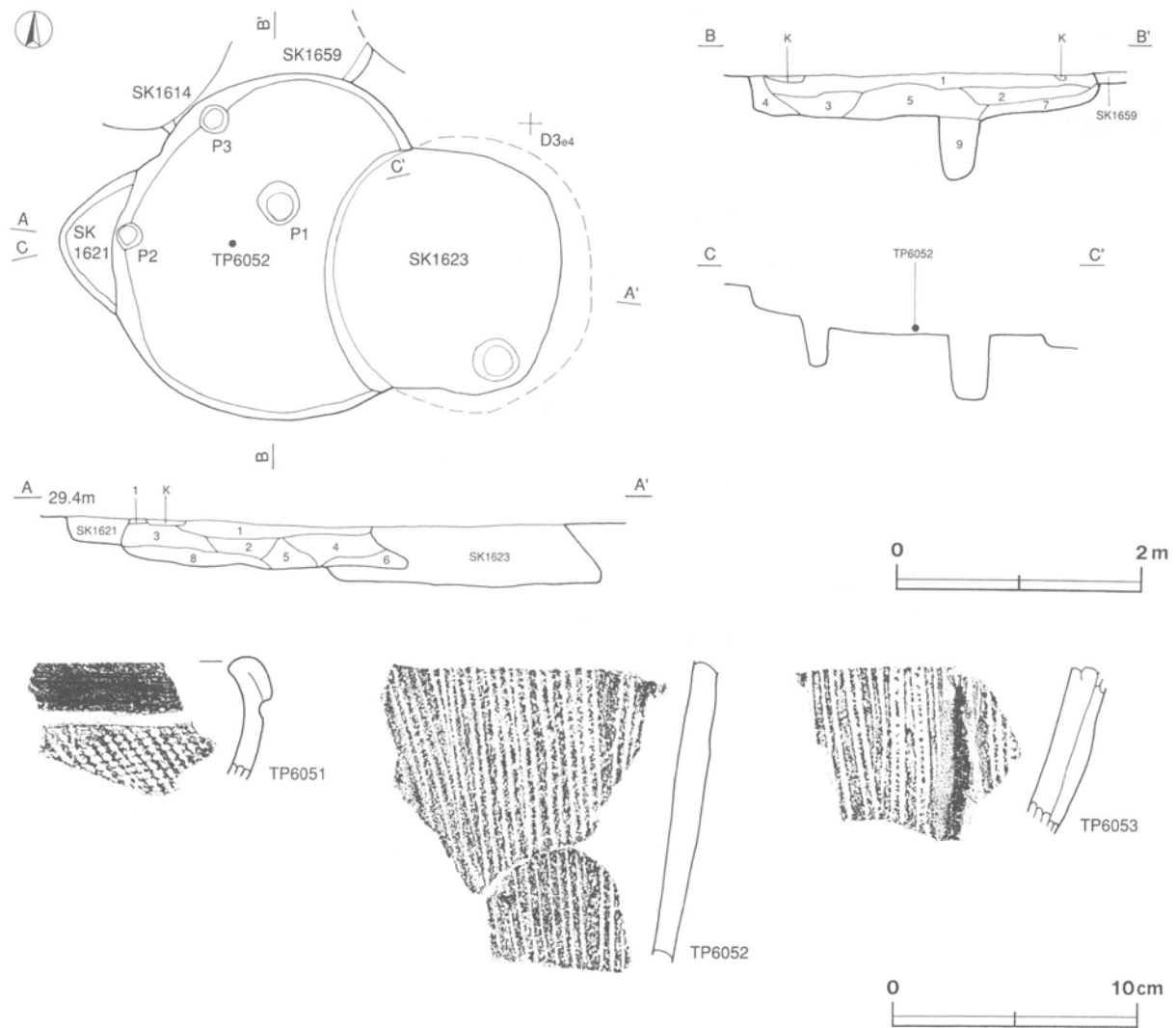
**覆土** 9層に分層される。第9層はP1の覆土である。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

**土層解説**

- |       |                  |       |                    |
|-------|------------------|-------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック少量，炭化物微量 | 6 黒褐色 | ローム小ブロック中量         |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量        | 7 黒褐色 | ロームブロック微量          |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック中量       | 8 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化物微量    |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック多量       | 9 黒褐色 | ローム小ブロック・鹿沼バミス粒子少量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック多量        |       |                    |

**遺物出土状況** 縄文土器片136点が出土している。TP6052・TP6053の深鉢片は曾利式土器で、TP6052は覆土下層から出土している。覆土から出土した土器は加曾利 E II・III式土器と併行する時期の曾利式土器で、他時期の土器は出土していない。

**所見** 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利 E II・III式期）と考えられる。



第358図 第1622号土坑・出土遺物実測図

第1622号土坑出土遺物観察表（第358図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP6051	縄文土器	深鉢	—	(4.9)	—	口唇部外面を肥厚させ、直下に沈線文を巡らしている。LRLの複節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい黄褐	覆土	
TP6052	縄文土器	深鉢	—	(12.2)	—	半截竹管による平行沈線文を施している。	長石・石英	普通	橙	覆土下層	
TP6053	縄文土器	深鉢	—	(6.9)	—	隆帯による懸垂文。半截竹管による平行沈線文。	長石・石英	普通	にぶい褐	覆土	

第1623号土坑（第359～361図）

位置 調査2区の北部、D3e3区。住居跡群の外周域に位置する。

重複関係 第1622号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形は、第1622号土坑に掘り込まれているため、現状では径1.98mの円形である。底面はほぼ平坦で、平面形は長径2.29m、短径2.11mのほぼ円形である。確認面からの深さは49cmで、壁は内傾して立ち上がる。ピットは1か所で、壁寄りに位置している。P1の深さは、11cmである。

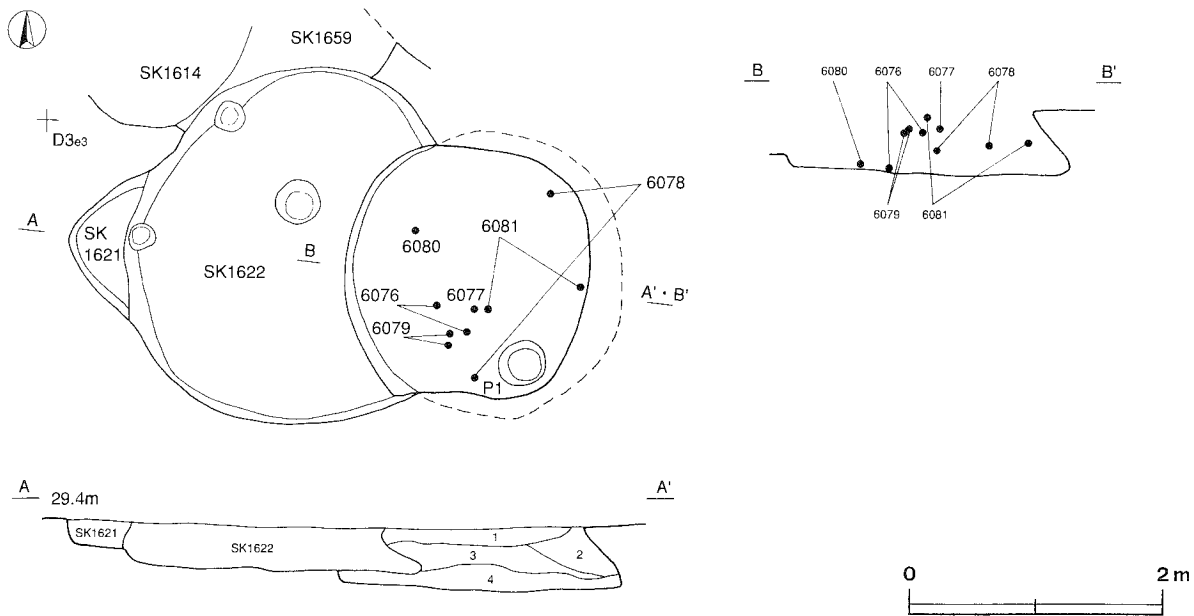
覆土 4層に分層される。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

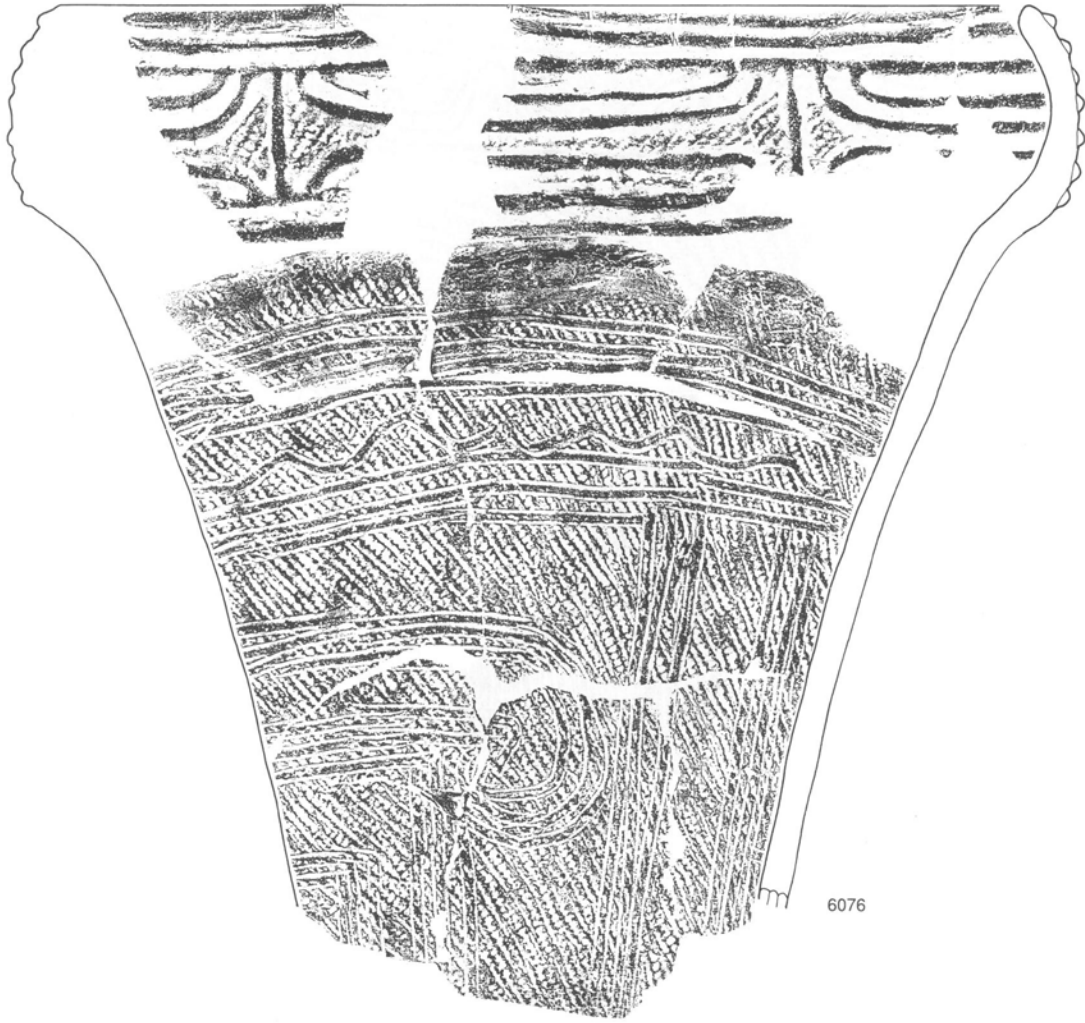
- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
- 2 黒色 ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片176点が出土している。出土土器の多くは覆土中層（第3層）から廃棄されたような状態で出土している。6076～6079の深鉢片は覆土中層（第3層）から出土している。

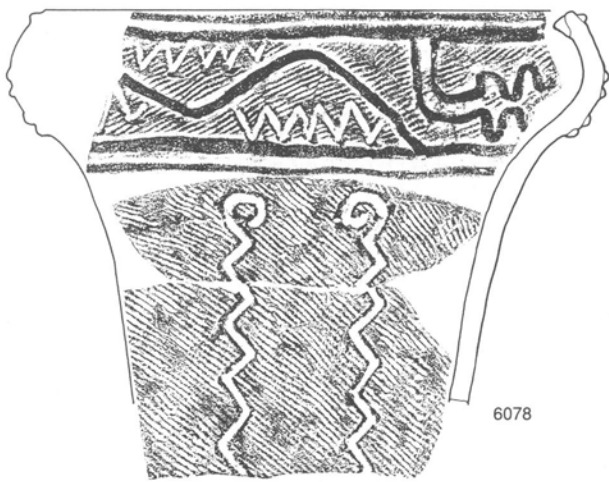
所見 覆土中層（第3層）に遺物の集中がみられ、一括廃棄された様相がうかがわれる。本跡の廃絶時期は明確にすることはできないが、覆土中層の堆積時期は出土土器から中期後葉（加曾利E I式期）と考えられる。



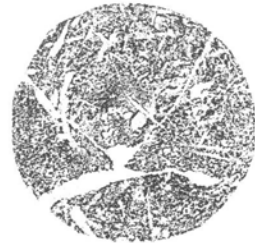
第359図 第1623号土坑実測図



6076



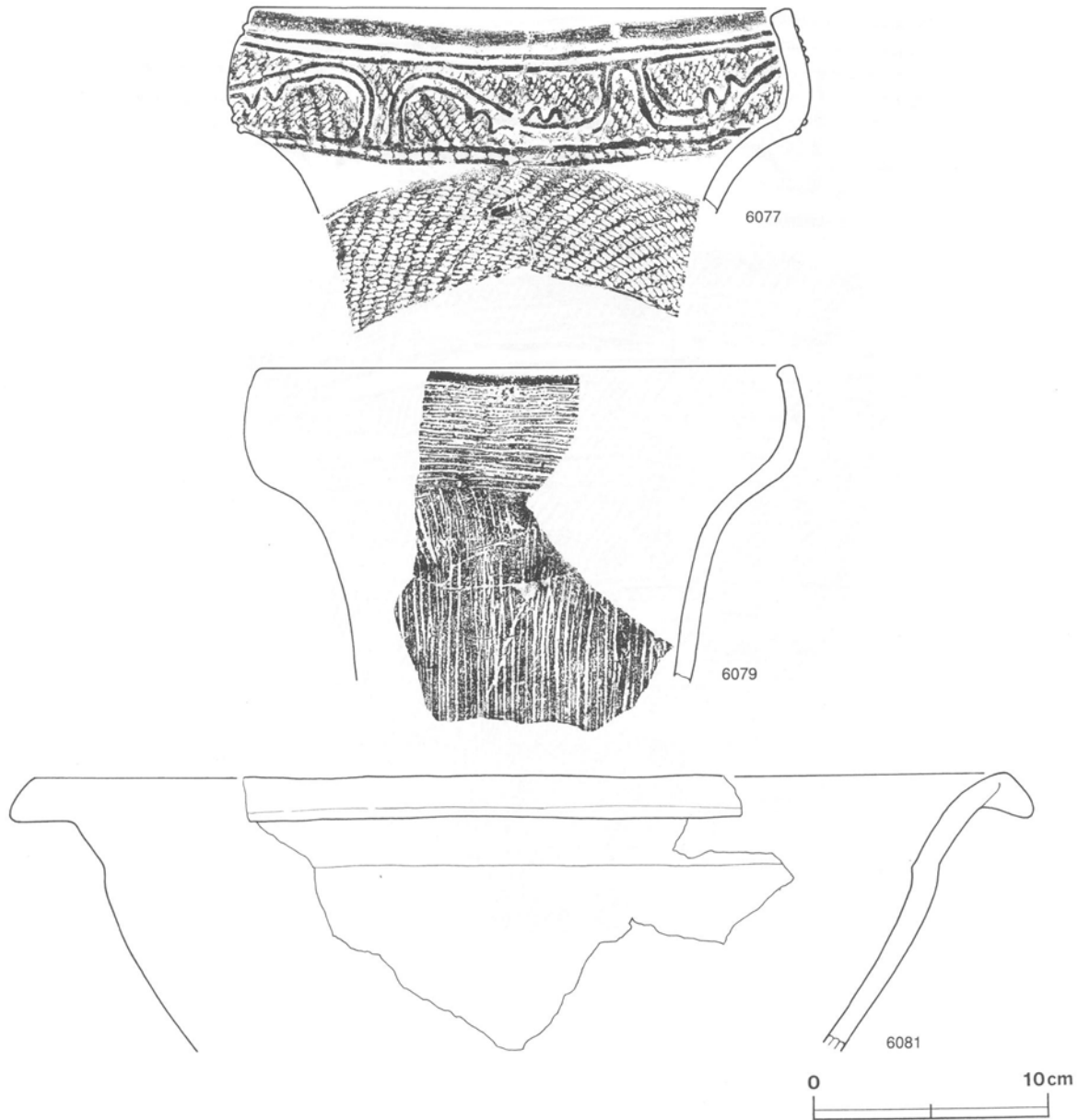
6078



6080



第360图 第1623号土坑出土遗物实测图(1)



第361図 第1623号土坑出土遺物実測図(2)

第1623号土坑出土遺物観察表(第360・361図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6076	縄文土器	深鉢	[38.6]	(35.8)	—	口縁部は隆帯文。胴部は半截竹管による平行沈線文。地文はLRの単節縄文。	長石・石英	普通	黒褐色	第3層	
6077	縄文土器	深鉢	[23.0]	(8.9)	—	口縁部は細い隆帯文。RLの単節縄文を口縁部は横方向、胴部は縦方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい橙	第3層	
6078	縄文土器	深鉢	[20.6]	(15.7)	—	口縁部は細い隆帯文。胴部は沈線による鋸歯状の懸垂文。地文はLの無節縄文。	長石・石英	普通	にぶい褐	第3層	
6079	縄文土器	深鉢	[23.0]	(13.5)	—	口縁部は条線文を横方向に、胴部は縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	橙	第3層	口縁部スス付着
6080	縄文土器	深鉢	—	(6.9)	9.4	条線文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	底面	底部網代痕
6081	縄文土器	浅鉢	[41.4]	(11.9)	—	無文で、内・外面を入念に研磨。	長石・石英	良好	にぶい橙	第3層	

**第1627号土坑（第362～363図）**

**位置** 調査2区の北部，D3g3区。住居群の外周域に位置する。

**重複関係** 第1608号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 開口部の平面形は第1608号土坑に掘り込まれているため，径1.53mほどの円形と推定される。底面はほぼ平坦で，平面形は長径が推定で2.10m，短径2.08mのほぼ円形である。確認面からの深さは62cmで，壁は内傾している。

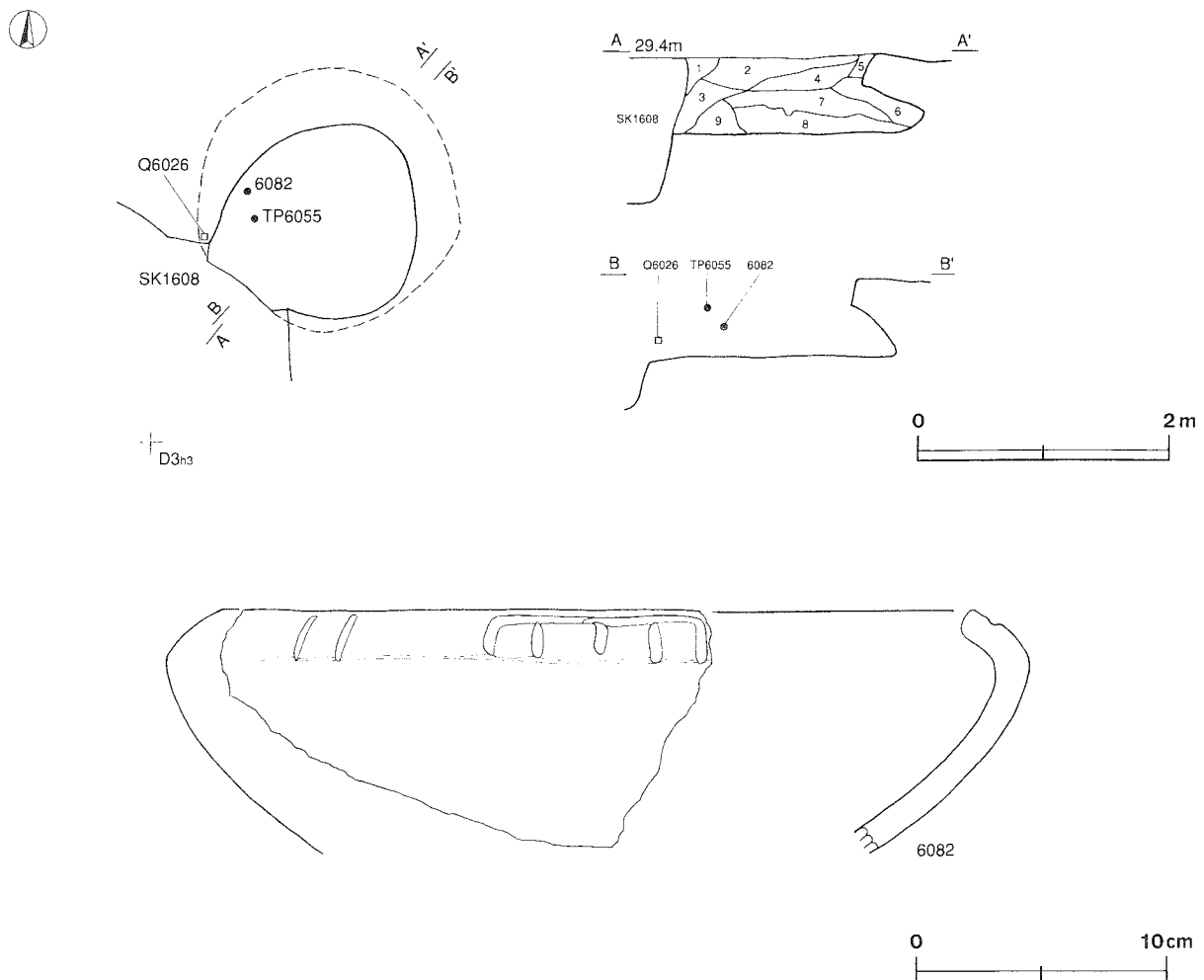
**覆土** 9層に分層される。第8・9層が底面の中央部に凸状に堆積している以外は，レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

**土層解説**

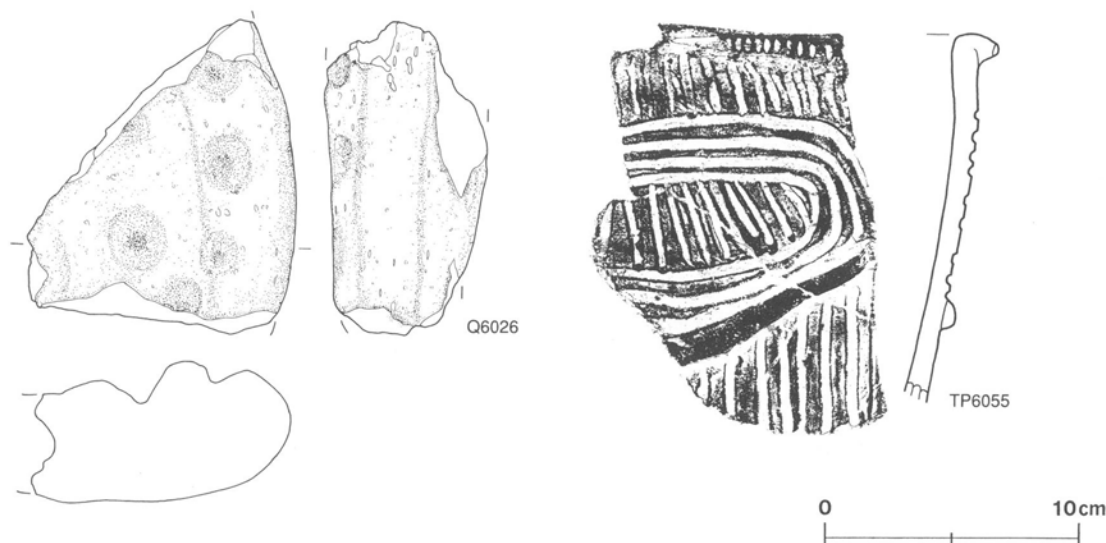
- |       |                      |       |                   |
|-------|----------------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量         | 6 黒褐色 | ローム小ブロック少量        |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ローム小ブロック少量，炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量         | 8 褐色  | ローム小ブロック多量        |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム小ブロック少量        |
| 5 黒褐色 | ローム小ブロック少量           |       |                   |

**遺物出土状況** 縄文土器片152点，石皿片1点が覆土から出土している。6082の浅鉢片は，壁際の覆土中層から出土している。

**所見** 本跡の廃絶時期は明確にすることができないが，覆土中層の堆積時期は6082の浅鉢片から中期後葉（加曾利E I式期）と考えられる。



第362図 第1627号土坑・出土遺物実測図



第363図 第1627号土坑出土遺物実測図

第1627号土坑出土遺物観察表（第362・363図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6082	縄文土器	浅鉢	[29.8]	(9.6)	—	口縁部は沈線により描出している。胴部は無文で、入念に研磨している。	長石・石英・雲母	良好	にぶい赤褐	覆土中層	内・外面赤彩
TP6055	縄文土器	深鉢	—	(14.6)	—	口唇部直下にキザミを有する隆帯をめぐらしている。沈線により文様を描出している。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土上層	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q6023	石皿	(12.5)	(10.4)	6.5	(598.6)	安山岩	表面に皿状のくぼみを有する。	覆土中層	

### 第1633号土坑（第364図）

**位置** 調査2区の北部，D2g9区。住居跡群の外周域に位置する。

**規模と形状** 開口部の平面形は長径1.82m，短径1.56mの楕円形である。底は鹿沼パミス層中を底面とし，ほぼ平坦である。底部の平面形は長径2.00m，短径1.88mのほぼ円形である。確認面からの深さは115cmである。壁は内傾して立ち上がり，西壁以外は中位でくびれ，開口部付近はわずかに外傾する。

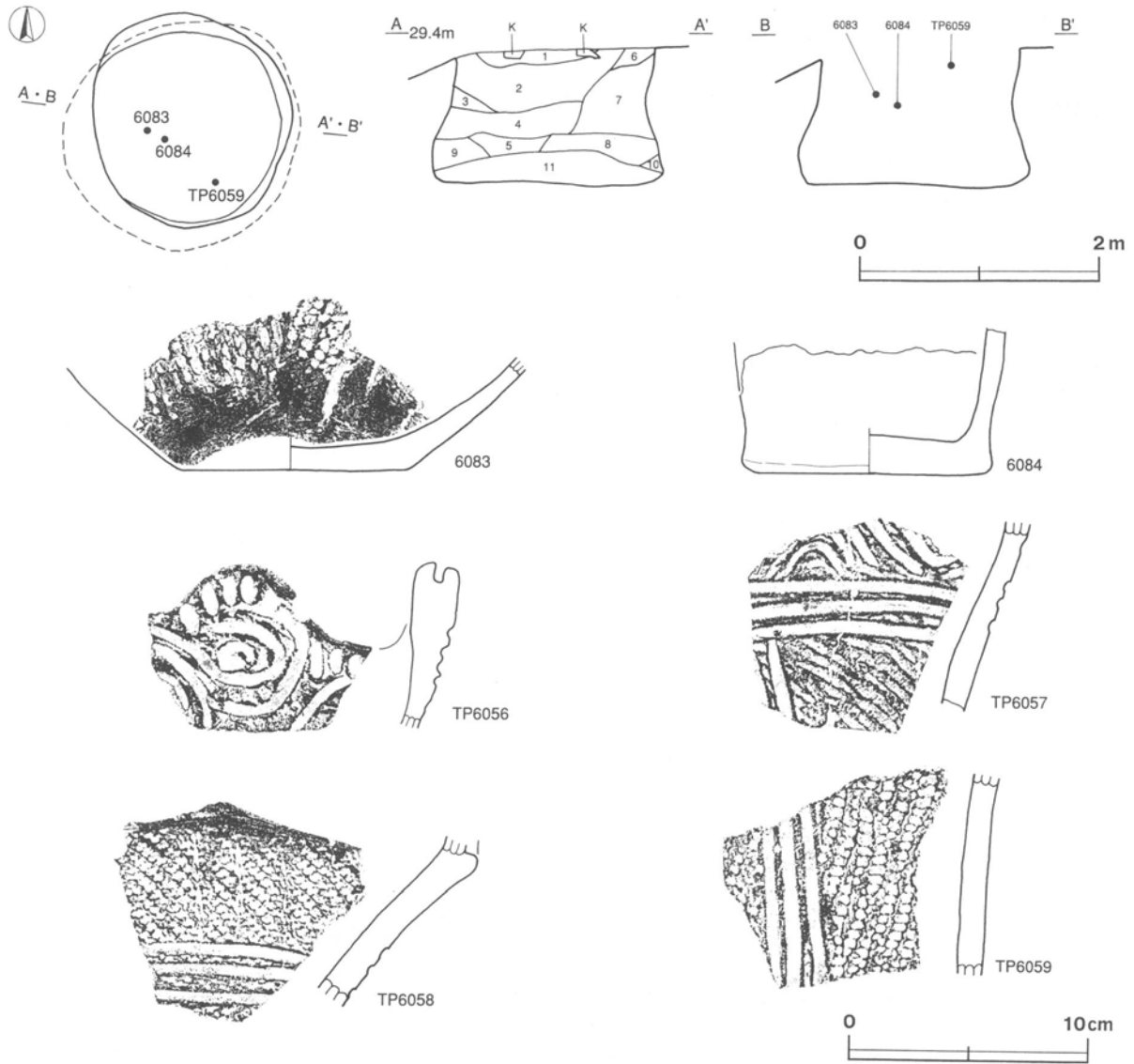
**覆土** 11層に分層される。第7～10層は壁際に堆積し，ローム粒子を多く含む土層であることから，内傾した壁の崩落土と考えられる。第1～6層はレンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- |       |                   |        |                       |
|-------|-------------------|--------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック少量，炭化粒子微量 | 7 暗褐色  | ローム小ブロック多量            |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック少量，炭化粒子微量 | 8 褐色   | ローム小ブロック多量（第9層より粘性あり） |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック少量        | 9 褐色   | ローム小ブロック多量            |
| 4 暗褐色 | ローム小ブロック中量        | 10 褐色  | ローム小ブロック多量，白色粘土粒子中量   |
| 5 暗褐色 | ローム小ブロック中量        | 11 暗褐色 | ローム小ブロック多量，鹿沼パミス粒子微量  |
| 6 暗褐色 | ローム小ブロック少量        |        |                       |

**遺物出土状況** 縄文土器片124点が出土している。土器の多くが廃棄されたような状態で覆土上層から出土しており，6083の鉢片と6084の深鉢片はその覆土上層から出土したものである。

**所見** 覆土上層に遺物の集中が見られ，一括廃棄されたことがうかがわれる。本跡の廃絶時期は明確にすることができないが，覆土上層の堆積時期は出土土器から中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。



第364図 第1633号土坑・出土遺物実測図

第1633号土坑出土遺物観察表（第364図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6083	縄文土器	鉢	—	(4.3)	9.5	R L Rの複節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	暗赤褐	覆土上層	
6084	縄文土器	深鉢	—	(6.0)	9.5	無文。	長石・石英	良好	にぶい橙	覆土上層	
TP6056	縄文土器	深鉢	—	(7.0)	—	沈線により文様を描出している。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	覆土	
TP6057	縄文土器	深鉢	—	(7.9)	—	沈線により文様を描出している。Lの無節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	覆土	TP6056と同一個体
TP6058	縄文土器	深鉢	—	(7.0)	—	頸部に沈線を巡らしている。L R Lの複節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい褐	覆土	
TP6059	縄文土器	深鉢	—	(8.5)	—	沈線による3条一組の懸垂文間を磨り消している。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土上層	



### 第1636号土坑 (第365・366図)

**位置** 調査2区の北部, D3 d3区。住居跡群域に位置する。

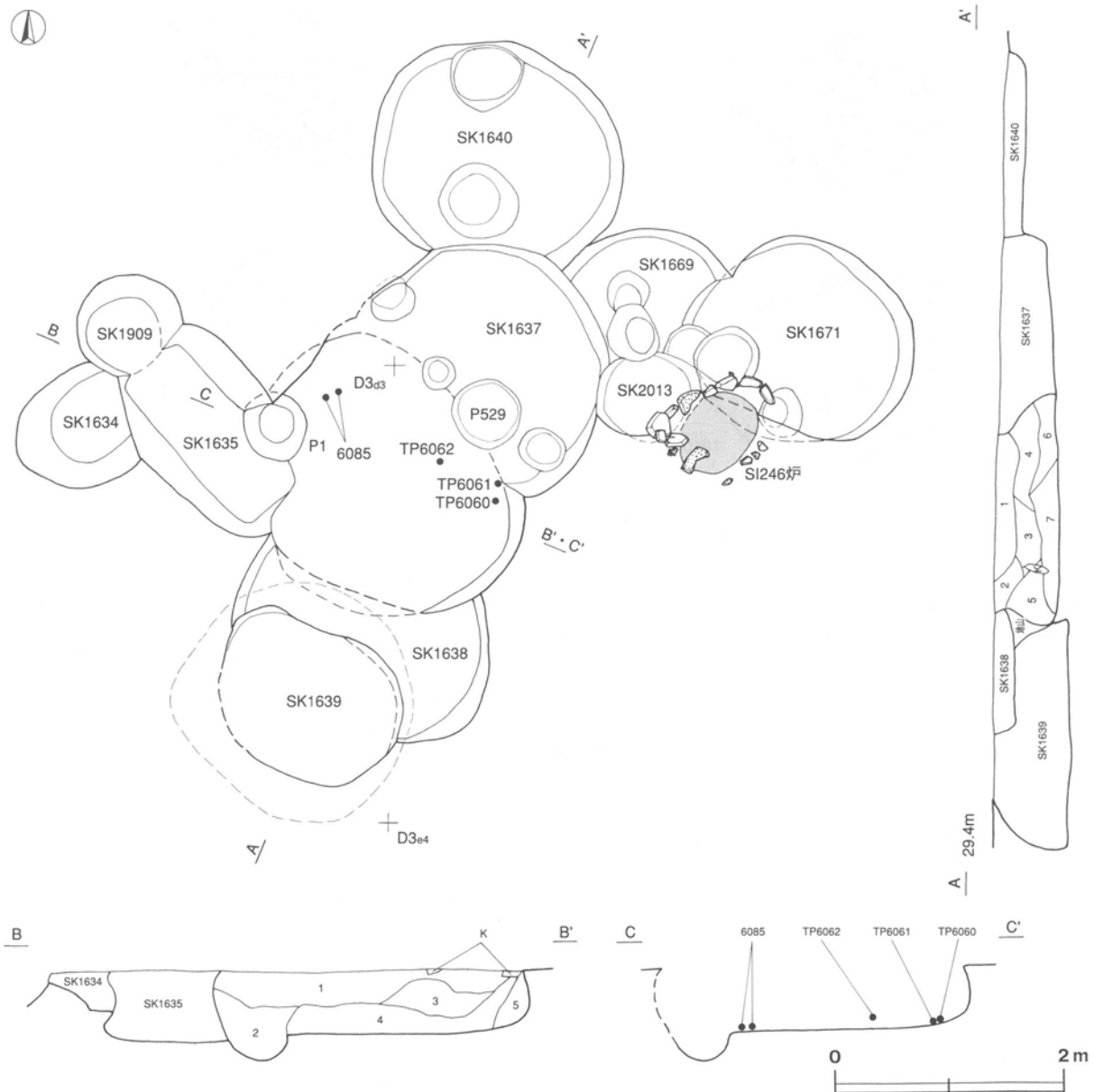
**重複関係** 第1635号土坑の東側と第1637号土坑の南側と第1638号土坑の北側を掘り込んでいる。

**規模と形状** 開口部の平面形は, 現状では長径2.46m, 短径2.00mの楕円形である。底面はほぼ平坦で, 平面形は長径2.50m, 短径2.10mの楕円形である。確認面からの深さは54cmである。壁は内傾して立ち上がり, 南東壁だけが外傾している。ピットは1か所で, 壁際に位置している。P1の深さは28cmである。

**覆土** 7層に分層される。最下層の第7層が床面中央部に凸状に堆積しており, それ以外はレンズ状に堆積していることから, 自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

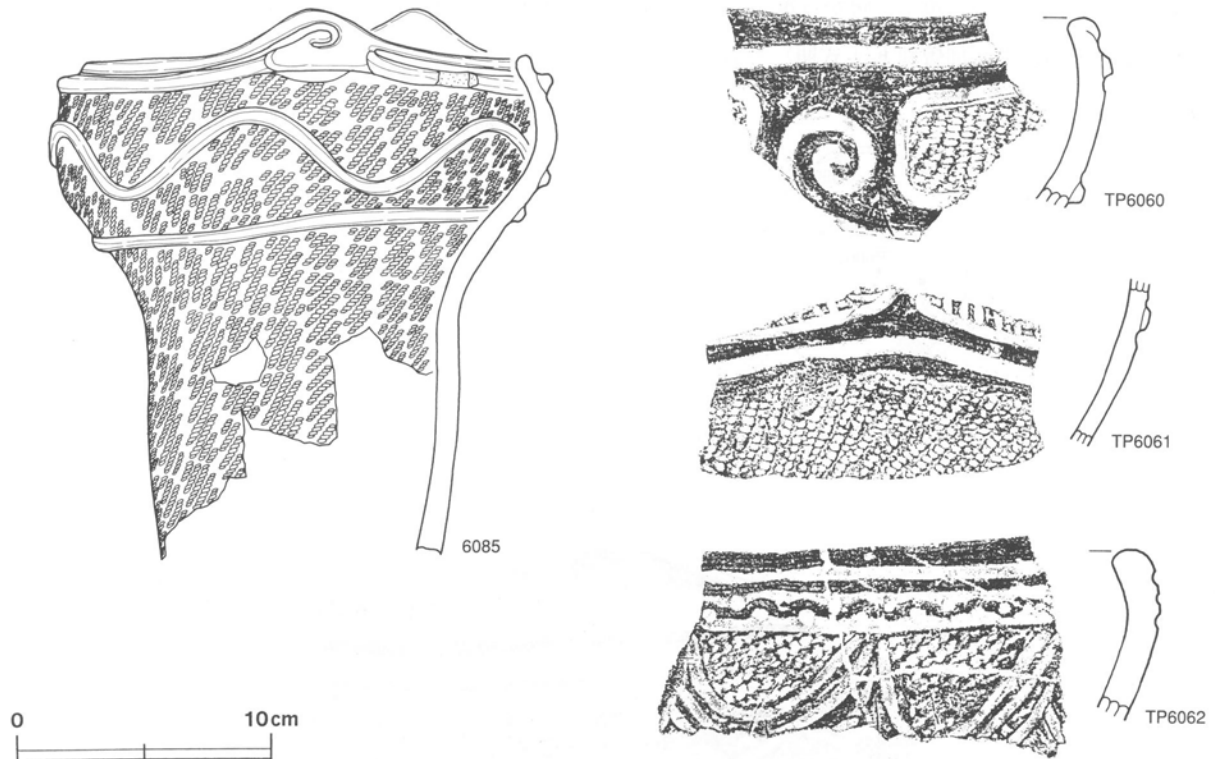
- |       |                 |       |                   |
|-------|-----------------|-------|-------------------|
| 1 黒色  | ローム粒子・炭化粒子微量    | 5 暗褐色 | ローム小ブロック中量        |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 6 黒色  | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量         |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量       |       |                   |



第365図 第1636号土坑実測図

**遺物出土状況** 縄文土器片115点が出土している。6085の深鉢と TP6060・TP6061の深鉢片は底面から、TP6062の深鉢片は覆土下層から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から中期後葉（加曽利 E I 式期）と考えられる。



第366図 第1636号土坑出土遺物実測図

第1636号土坑出土遺物観察表（第366図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6085	縄文土器	深鉢	17.1	(21.8)	—	波頂部に隆帯による渦巻文。口縁部は隆帯による波状文。地文はRLの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	底面	P L51
TP6060	縄文土器	深鉢	—	(7.5)	—	沈線に沿う隆帯により渦巻文を施している。RLの単節縄文を斜方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい褐	底面	
TP6061	縄文土器	深鉢	—	(6.6)	—	隆帯により文様を描出し、区画文内に沈線を充填している。RLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	底面	
TP6052	縄文土器	深鉢	—	(6.8)	—	交互刺突による連続コの字状文と沈線による連弧文。LRの単節縄文を横方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	覆土下層	

### 第1641号土坑（第367～369図）

**位置** 調査2区の北部、D3f3区。住居跡群の外周域に位置する。

**規模と形状** 開口部は、現状では径1.82mの円形である。底面はほぼ平坦で、平面形は径1.90mの円形である。確認面からの深さは36cmで、壁は北壁が直立する以外は内傾する。

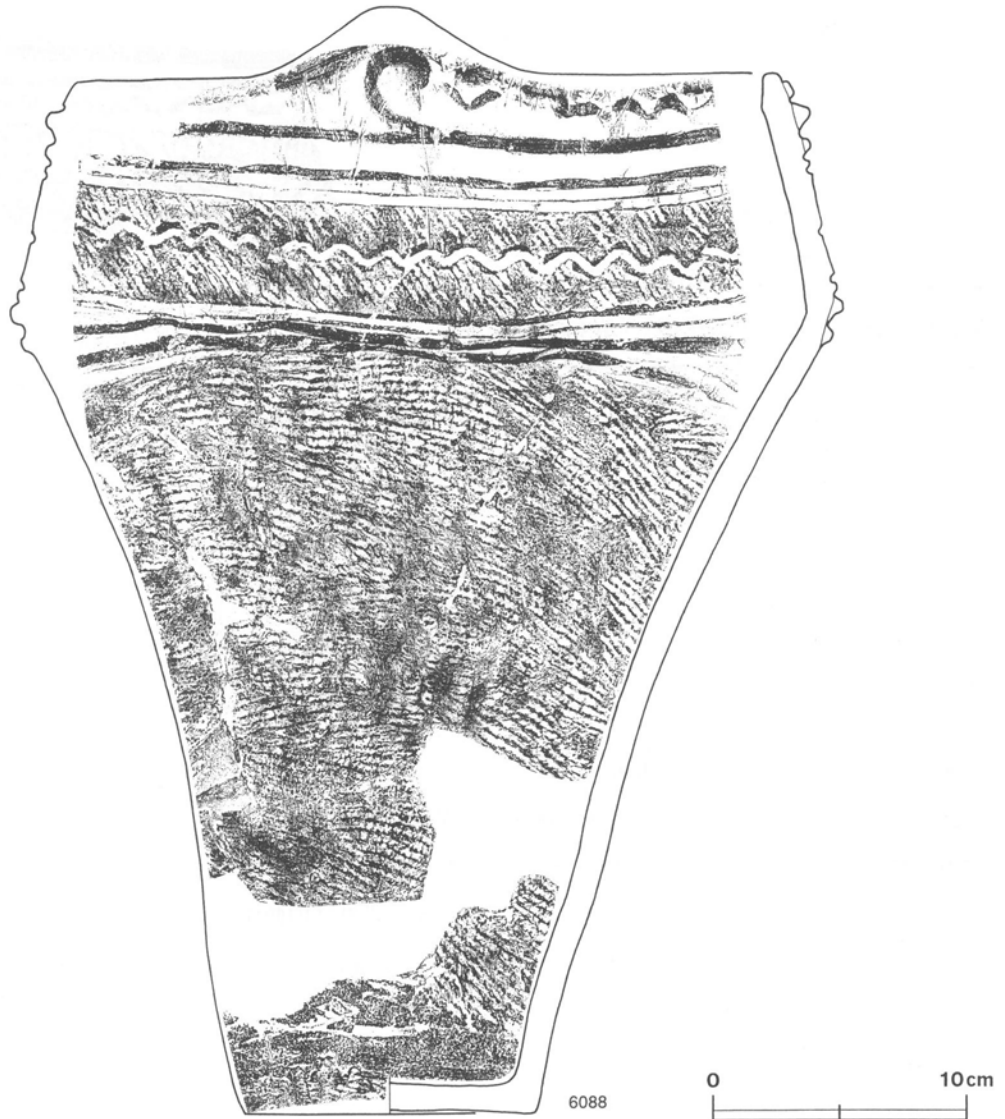
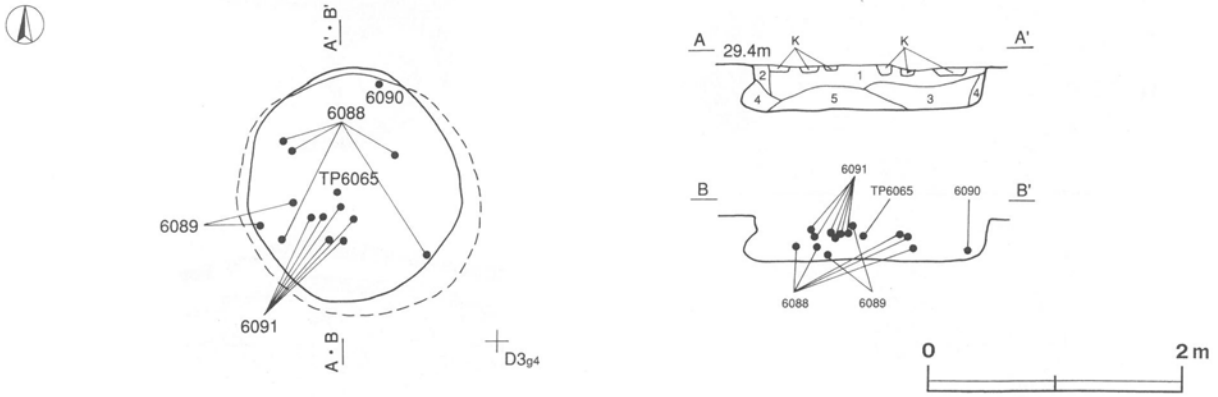
**覆土** 5層に分層される。最下層の第5層が床面の中央部に凸状に堆積しており、それ以外はレンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

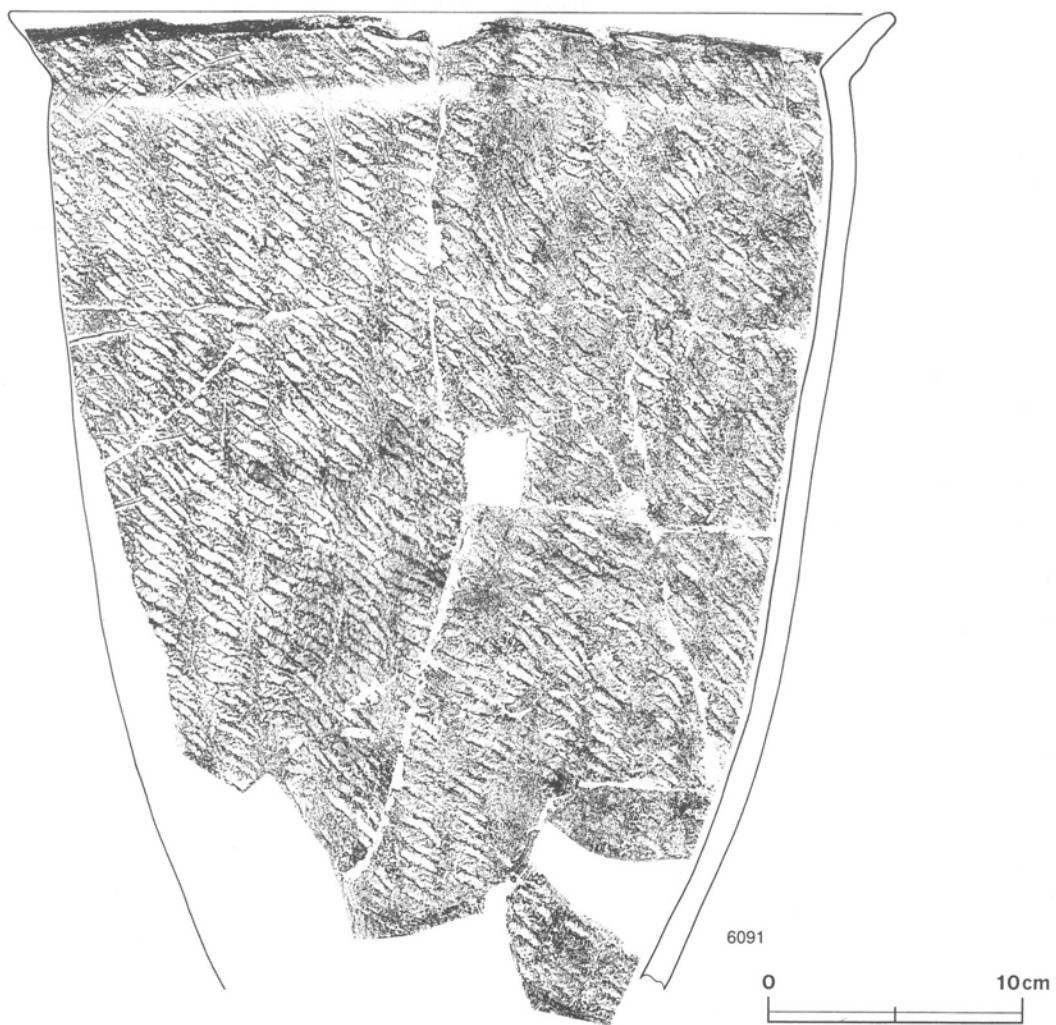
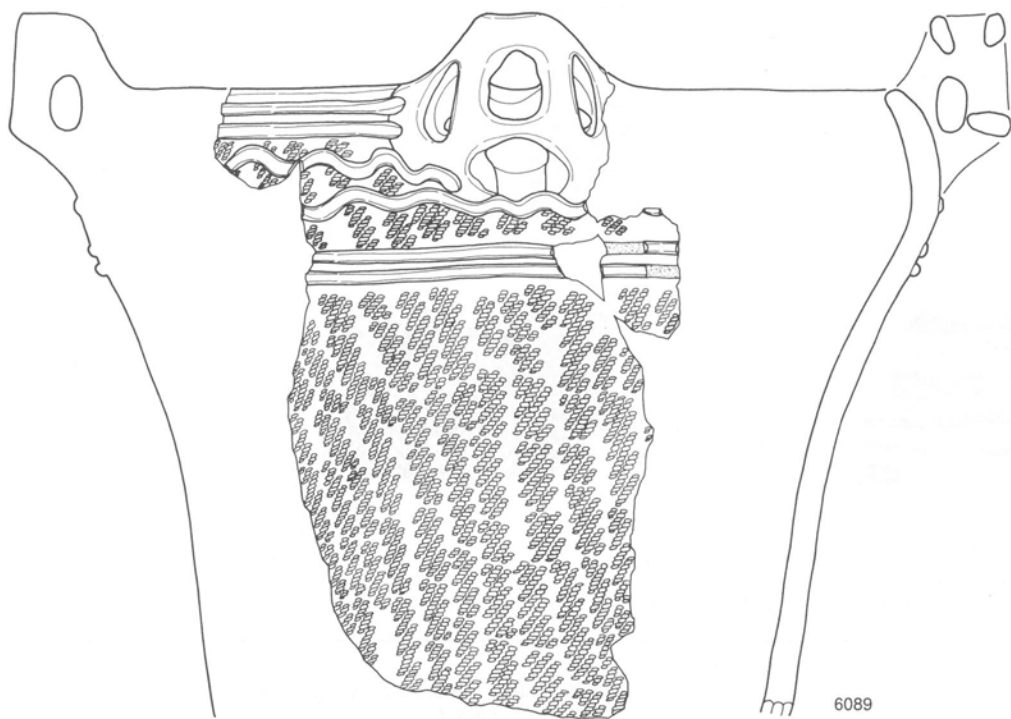
- |       |                   |       |            |
|-------|-------------------|-------|------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量      | 4 暗褐色 | ローム粒子微量    |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック中量、焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム小ブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック少量、炭化粒子微量 |       |            |

**遺物出土状況** 縄文土器片72点が覆土上層から覆土下層にかけて廃棄されたような状態で出土している。6088の深鉢は接合するとほぼ完形となるもので、破片は東壁寄りと西壁寄りに離れた状態で出土している。6091の甕は破片が接合したもので、破片は離れて中央部付近から出土している。

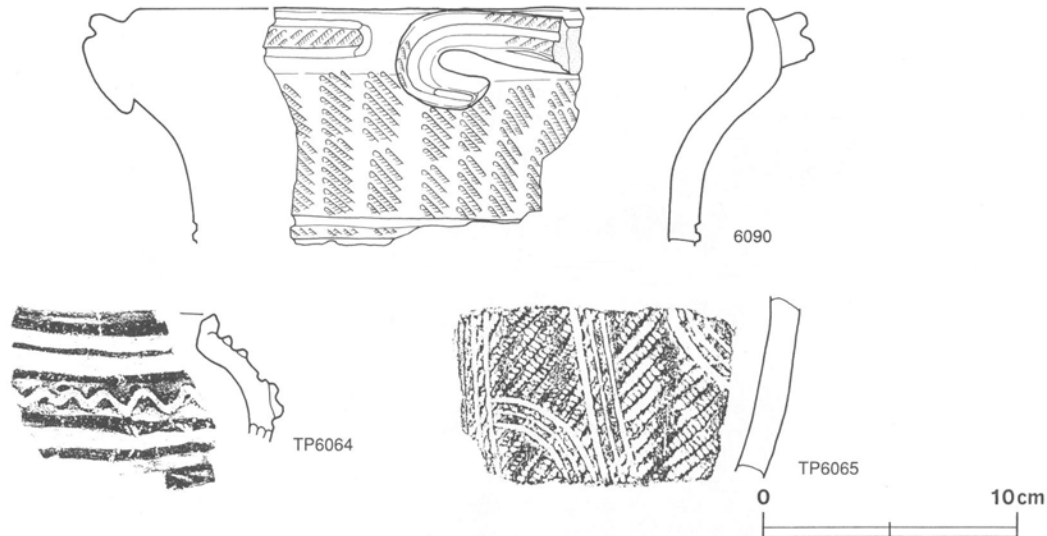
**所見** 図示した土器は、覆土上層から覆土下層にかけての堆積時に廃棄されたものである。時期は、廃棄された土器から中期後葉（加曾利 E I 式期）と考えられる。



第367図 第1641号土坑・出土遺物実測図



第368图 第1641号土坑出土遗物实测图 (1)



第369図 第1641号土坑出土遺物実測図(2)

第1641号土坑出土遺物観察表(第367~369図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6088	縄文土器	深鉢	[27.2]	47.8	11.4	口縁上部は隆帯文。口縁部と頸部の境には背に沈線を有する隆帯文。地文はLの無節縄文。	長石・石英	普通	黒褐 にぶい橙	覆土上層	P L 51
6089	縄文土器	深鉢	[30.4]	(27.7)	—	眼鏡状把手。口縁部は隆帯による波状文。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい橙 灰褐	覆土下層	
6090	縄文土器	深鉢	[24.0]	(9.4)	—	口縁部は背に沈線を有する隆帯による横S字状文。地文はLの無節縄文。	長石・石英	普通	黒褐	覆土下層	
6091	縄文土器	甕	[34.6]	(38.6)	—	Lの無節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	褐灰 にぶい橙	覆土上層	
TP6064	縄文土器	深鉢	—	(4.9)	—	2本一組の隆帯により文様を描出。	長石・石英 ・雲母	普通	灰褐	覆土	
TP6065	縄文土器	深鉢	—	(7.2)	—	3条一組の沈線により文様を描出。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英 ・雲母	普通	黒褐	覆土上層	

### 第1642号土坑(第370・371図)

**位置** 調査2区の北部, D3 a5区。住居跡群域に位置する。

**重複関係** 第1849号土坑を掘り込んでいる。第1656・1848号土坑と重複しているが, 新旧関係は不明である。

**規模と形状** 開口部の平面形は, 径1.75mの円形である。底面はほぼ平坦である。確認面からの深さは60cmで, 壁は直立する。ピットは3か所で, P1が中央部に, P2・P3が壁際に位置している。ピットの深さは, P1が42cm, P2が57cm, P3が40cmである。

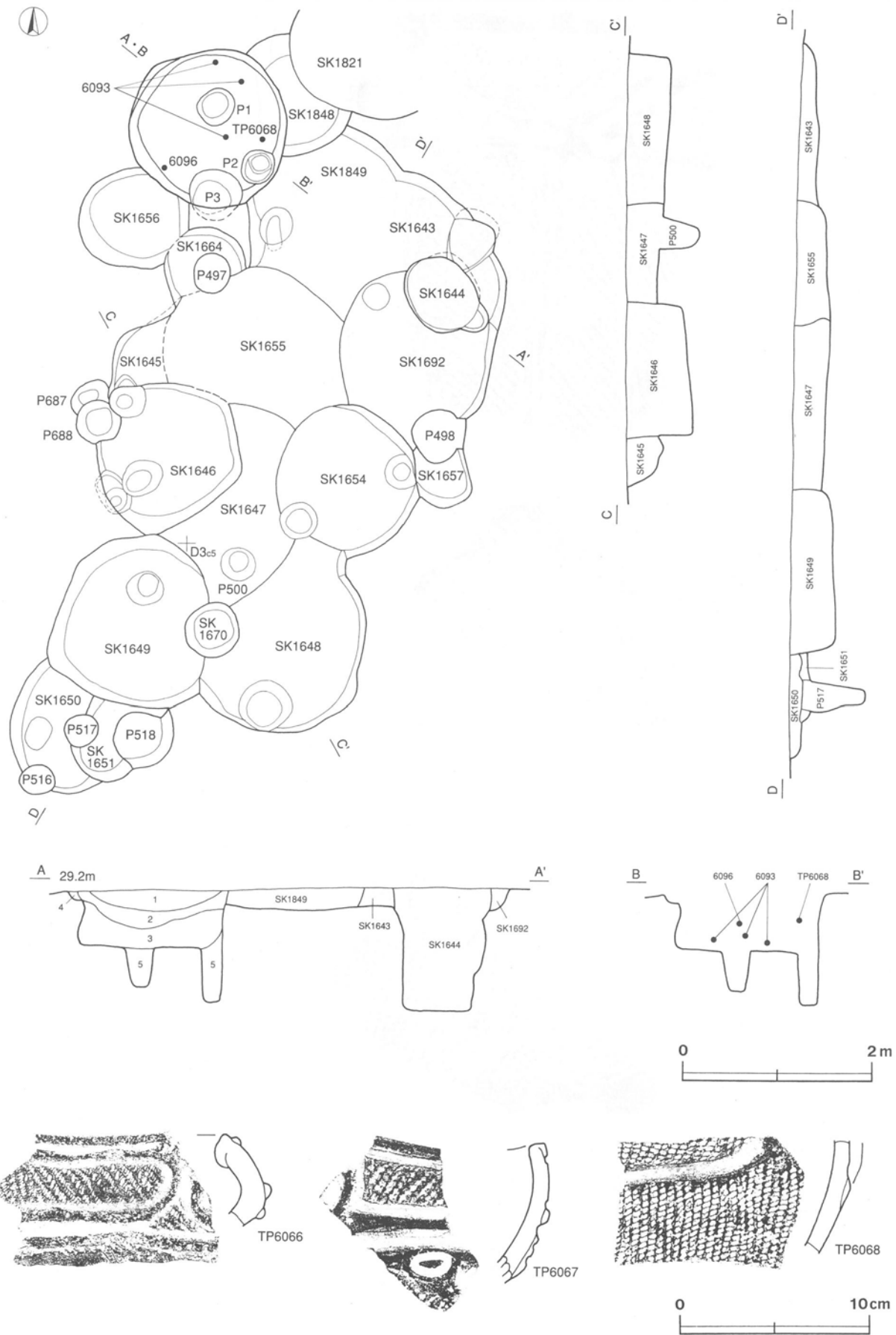
**覆土** 5層に分層され, 第5層はP1とP2の覆土である。レンズ状に堆積していることから, 自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

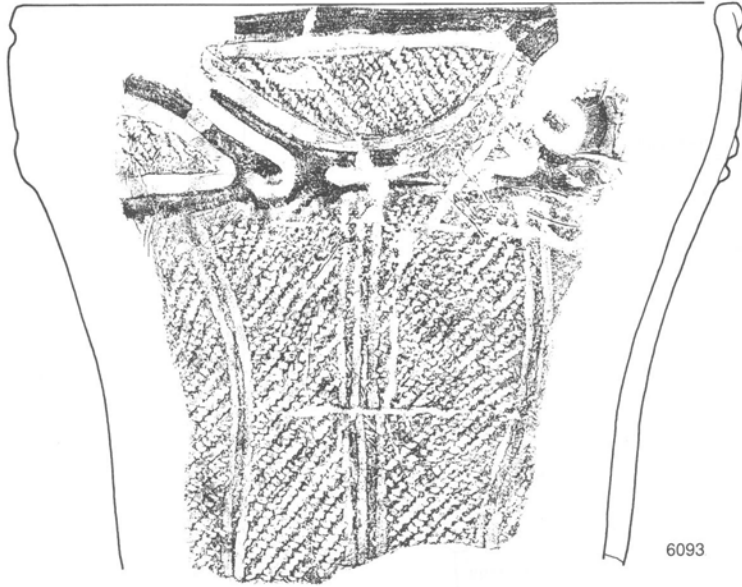
- |       |                    |       |                       |
|-------|--------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子少量               |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック中量, 炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム小ブロック中量, 鹿沼バミス粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化物微量   |       |                       |

**遺物出土状況** 縄文土器片113点が出土している。6093の深鉢片は覆土下層から出土している。

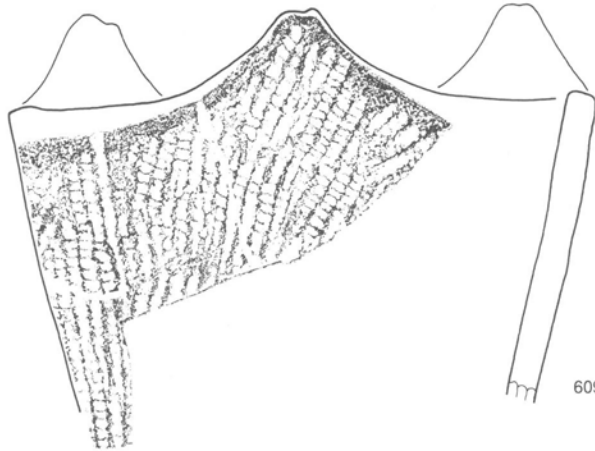
**所見** 時期は, 出土土器から中期後葉(加曽利E I式期)と考えられる。



第370图 第1642号土坑·出土遺物实测图



6093



6095



6096



第371図 第1642号土坑出土遺物実測図

第1642号土坑出土遺物観察表 (第370・371図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6093	縄文土器	深鉢	[28.0]	(22.3)	—	口縁部は隆帯による渦卷文。胴部は3条一組の沈線による懸垂文。地文はRLの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	覆土下層	
6095	縄文土器	深鉢	[21.4]	(15.7)	—	RLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	褐	覆土	

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6096	縄文土器	鉢	—	(12.0)	—	LRLの複節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	黄橙	覆土	
TP6066	縄文土器	深鉢	—	(4.9)	—	隆帯により文様を描出。0段多条によるRLの単節縄文を横方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土	
TP6067	縄文土器	深鉢	—	(7.4)	—	沈線に沿う隆帯により文様を描出。RLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	黒褐	覆土	
TP6068	縄文土器	深鉢	—	(5.9)	—	隆帯により文様を描出。RLの単節縄文を斜方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい黄褐	覆土上層	

### 第1646号土坑（第372・373図）

**位置** 調査2区の北部，D3b4区。住居跡群域に位置する。

**重複関係** 第1645土坑の南側と第1647号土坑の北西側を掘り込んでいる。第1655号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

**規模と形状** 開口部の平面形は，現状では径1.51mの円形と推定される。底面はほぼ平坦で，確認面からの深さは70cmである。壁は直立する。ピットは4か所で，いずれも壁際に位置している。ピットの深さは，P1が43cm，P2が32cm，P3が20cm，P4が66cmである。

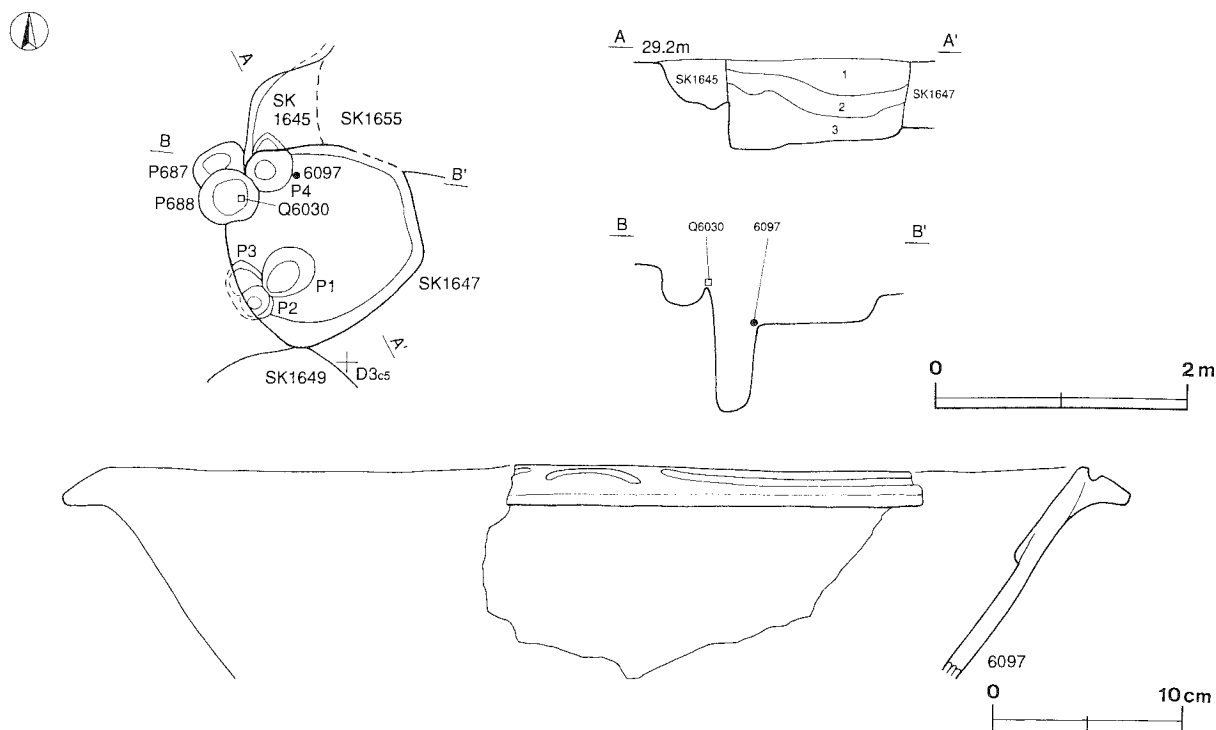
**覆土** 3層に分層される。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量

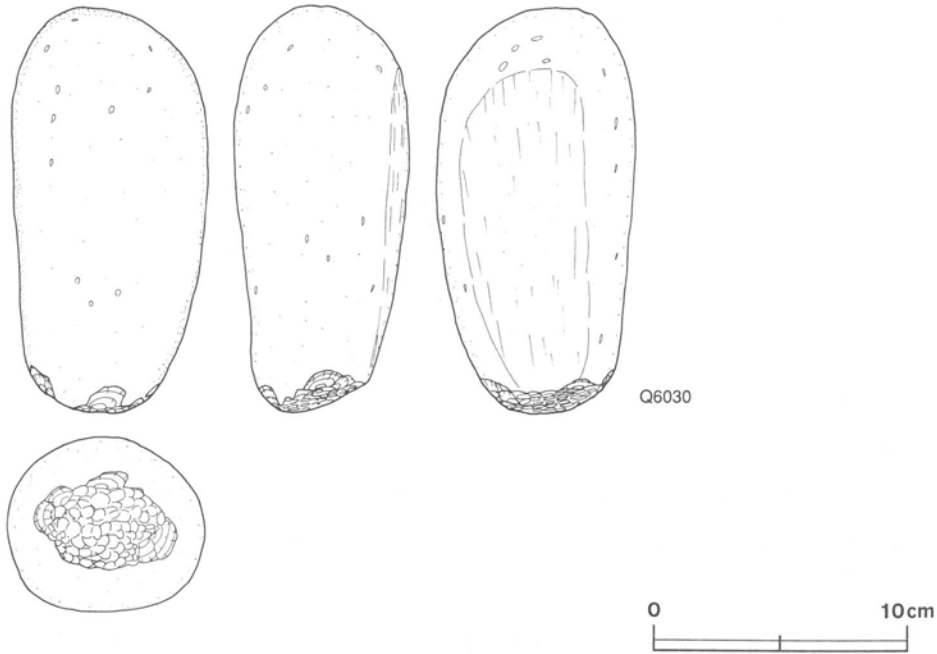
**遺物出土状況** 縄文土器片15点，敲石1点が覆土から出土している。6097の浅鉢は覆土下層から出土している。

**所見** 時期は，覆土下層から出土している6097の浅鉢から中期後葉（加曾利E I式期）と考えられる。



第372図 第1646号土坑・出土遺物実測図





第373図 第1646号土坑出土遺物実測図

第1646号土坑出土遺物観察表 (第372・373図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6097	縄文土器	浅鉢	[51.6]	(11.3)	—	突出させた口唇部には沈線により文様を描出している。胴部は無文で、研磨している。	長石・石英・雲母	良好	にぶい褐	覆土下層	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q6030	敲石	16.1	7.8	7.0	1295.7	安山岩	下端に敲打痕あり。裏面に擦痕あり。	覆土下層	P L.62

### 第1649号土坑 (第374図)

**位置** 調査2区の北部, D3c4区。住居跡群域に位置する。

**重複関係** 第1647号土坑の南西側と第1651号土坑の北東側を掘り込んでいる。第1648・1670号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模と形状** 開口部の平面形は、径1.87mほどの円形である。底面はほぼ平坦である。確認面からの深さは42cmで、壁は外傾する。ピットは1か所で、中央部のやや北寄りに位置している。P1の深さは28cmである。

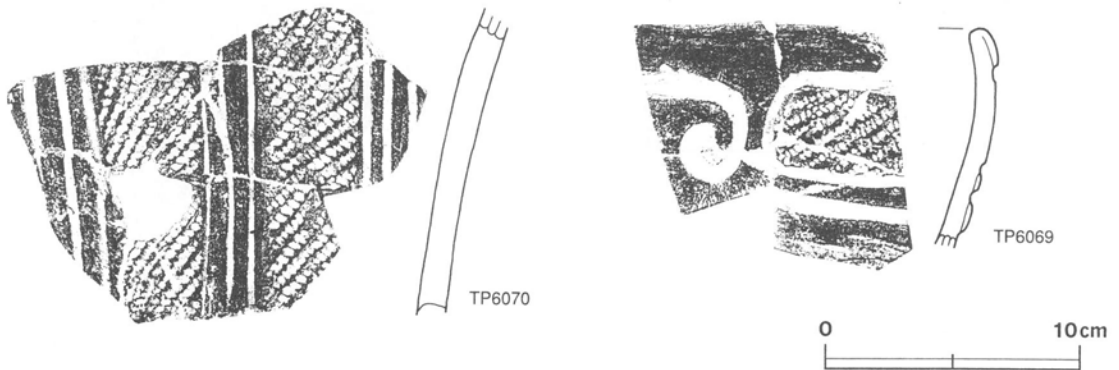
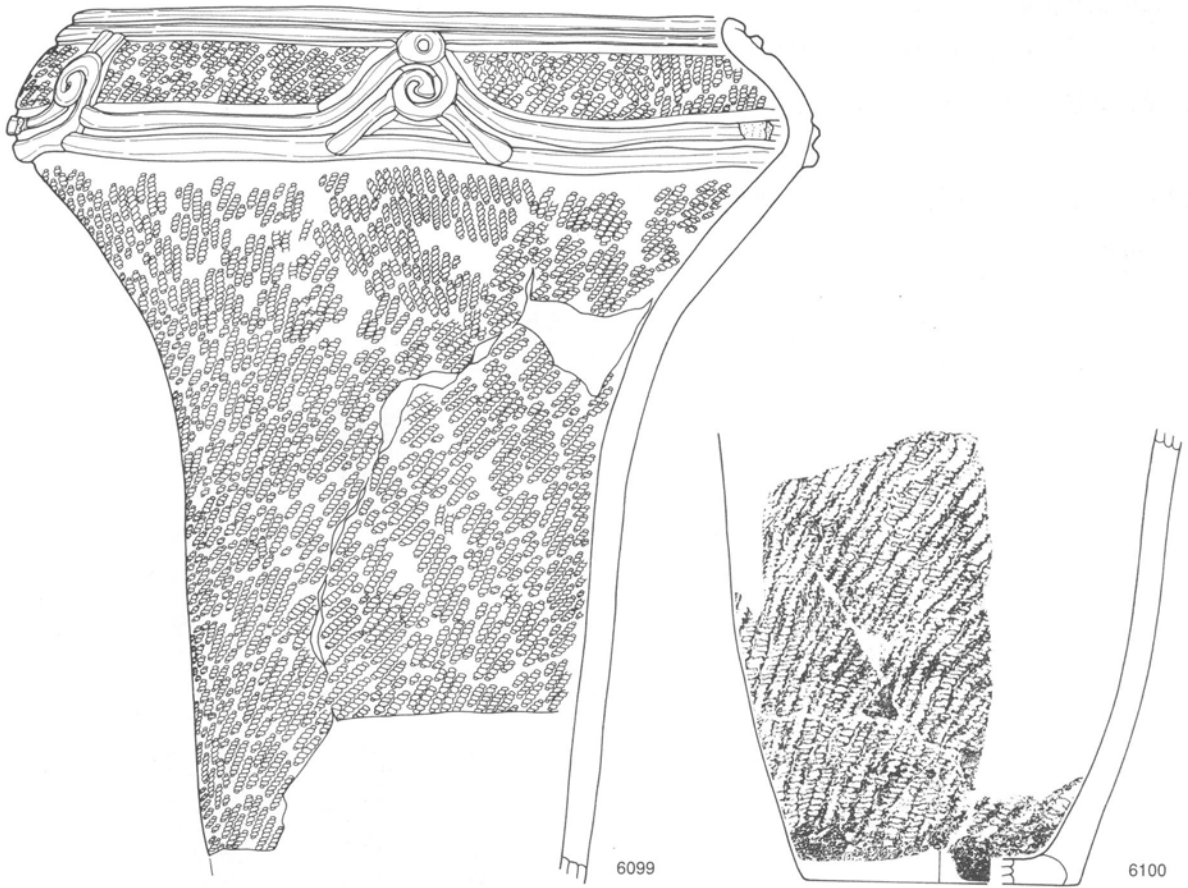
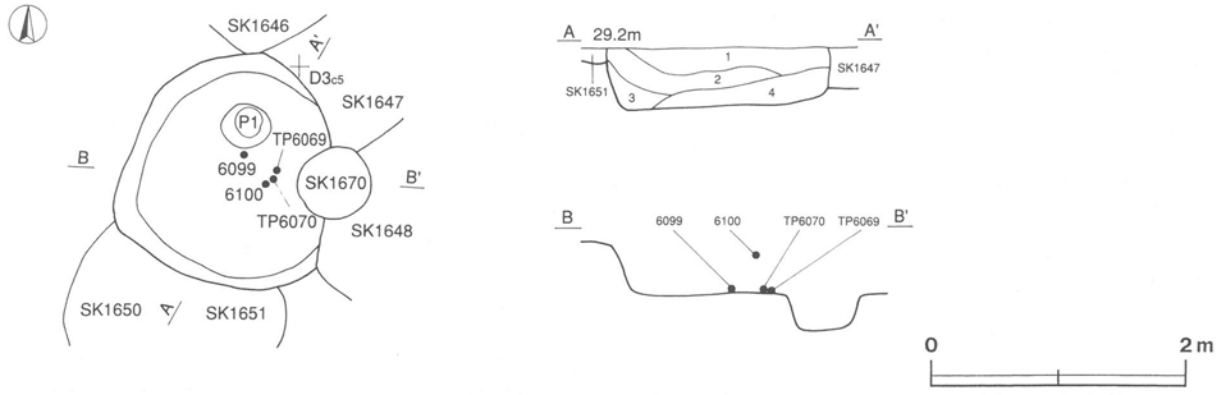
**覆土** 4層に分層される。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- |       |                      |       |                    |
|-------|----------------------|-------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 黒褐色 | ローム小ブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量   | 4 黒褐色 | ローム小ブロック多量         |

**遺物出土状況** 縄文土器片21点が出土している。6099の深鉢は、底面から斜位の状態で出土している。

**所見** 時期は、底面から出土している6099の深鉢から中期後葉 (加曾利 E I 式期) と考えられる。



第374图 第1649号土坑·出土遗物实测图

第1649号土坑出土遺物観察表（第374図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6099	縄文土器	深鉢	25.5	(34.3)	—	口縁部は沈線に沿う隆帯により渦巻文を施す。RLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐にぶい橙	底面	P L 51
6100	縄文土器	深鉢	—	(18.0)	[10.8]	0段多条によるRLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土上層	
TP6069	縄文土器	深鉢	—	(8.6)	—	沈線に沿う隆帯により渦巻文を施している。	長石・石英	普通	黒褐	底面	
TP6070	縄文土器	深鉢	—	(12.3)	—	沈線による3条一組の懸垂文間を磨り消している。RLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	底面	

第1658号土坑（第375・376図）

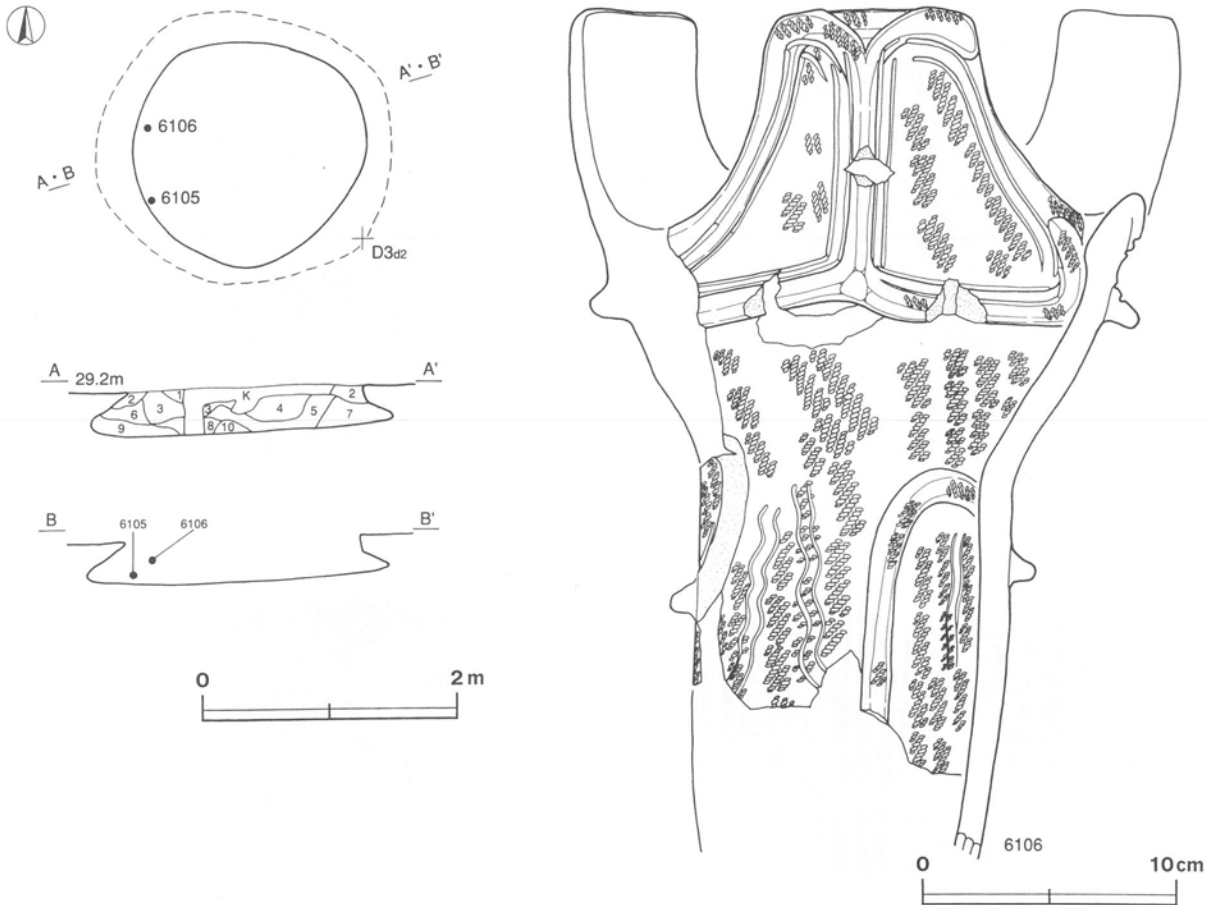
位置 調査2区の北部，D3c1区。住居跡群域に位置する。

規模と形状 開口部の平面形は，径1.84mの円形である。底面はほぼ平坦で，平面形は長径2.36m，短径2.14mのほぼ円形である。確認面からの深さは36cmで，壁は内傾する。

覆土 10層に分層される。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

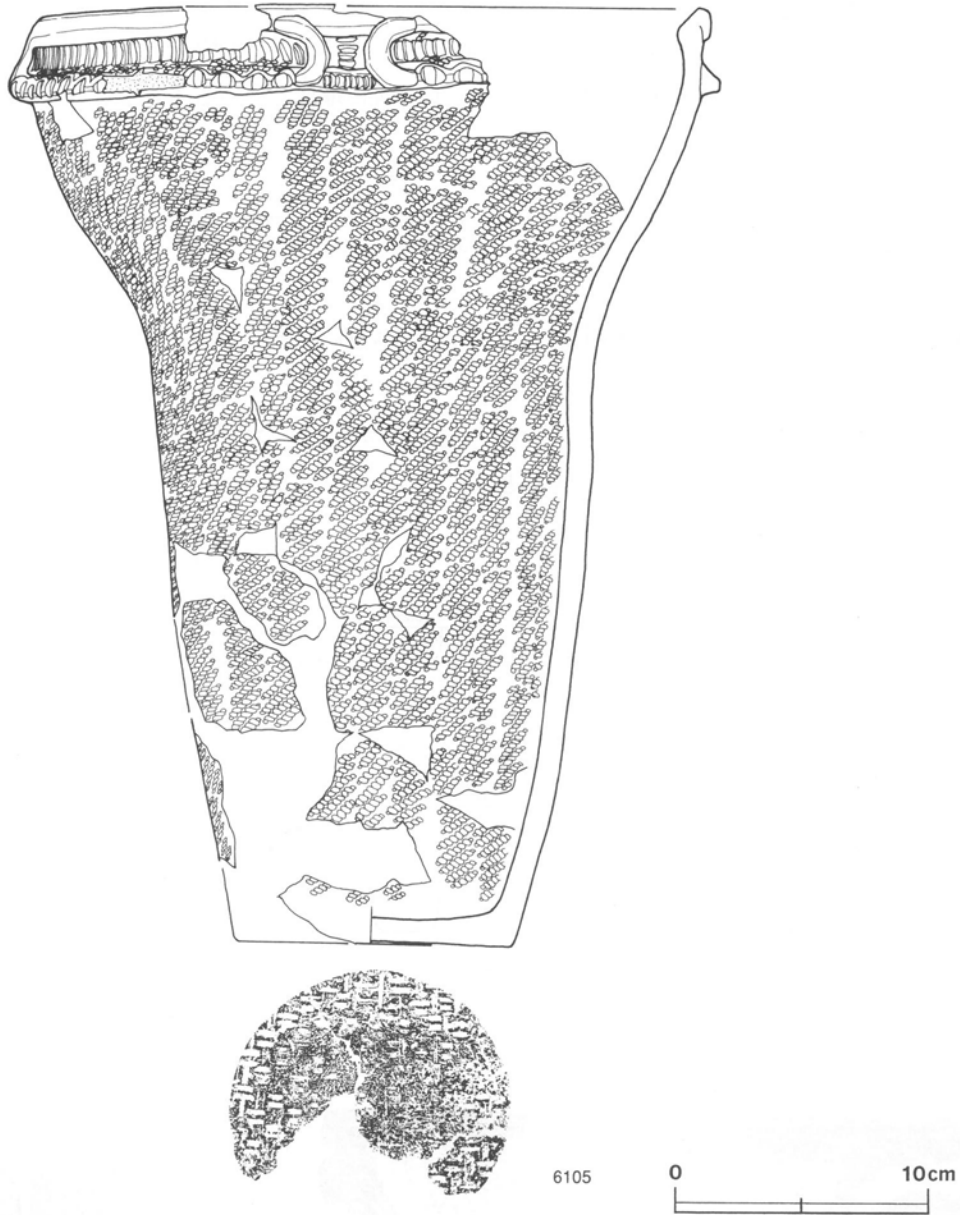
- |       |                        |       |            |
|-------|------------------------|-------|------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量                | 6 黒褐色 | ローム粒子微量    |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量         | 7 暗褐色 | 炭化粒子微量     |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・鹿沼バミス粒子微量        | 8 暗褐色 | ローム小ブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ローム小ブロック少量             | 9 暗褐色 | ローム小ブロック中量 |
| 5 黒褐色 | ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 褐色 | ローム粒子中量    |



第375図 第1658号土坑・出土遺物実測図

**遺物出土状況** 縄文土器片77点が出土している。6105の深鉢は西壁際の覆土下層から横位の状態で、6106の深鉢は西壁際の覆土上層から出土している。

**所見** 時期は、覆土下層から出土している6105の深鉢から中期中葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。



第376図 第1658号土坑出土遺物実測図

第1658号土坑出土遺物観察表（第375・376図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6105	縄文土器	深鉢	26.0	37.1	10.8	口縁部は隆帯に沿って爪形文。RLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	褐灰にぶい橙	覆土下層	PL52底部網代痕
6106	縄文土器	深鉢	[21.0]	(33.5)	—	口縁部は隆帯に沿って半截竹管による平行沈線文。RLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土上層	

第1662号土坑（第377・378図）

位置 調査2区の北部，D3c6区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第691号ピットに掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形は，現状では長径2.44m，短径2.26mのほぼ円形である。底面はほぼ平坦である。確認面からの深さは32cmで，壁はほぼ直立する。ピットは4か所で，P1とP2は壁際に，P3とP4は中央部付近に位置している。ピットの深さは，P1が51cm，P2が65cm，P3が67cm，P4は18cmである。

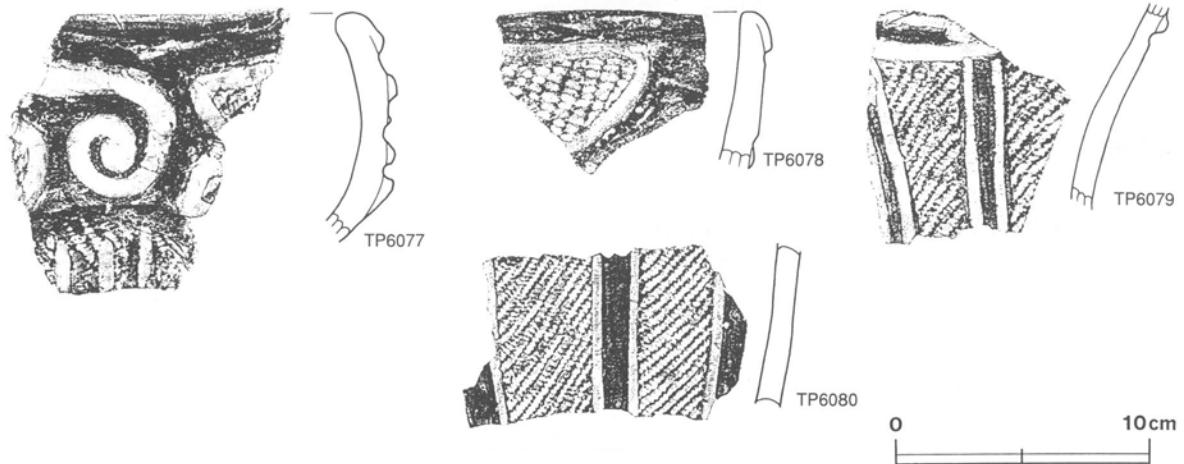
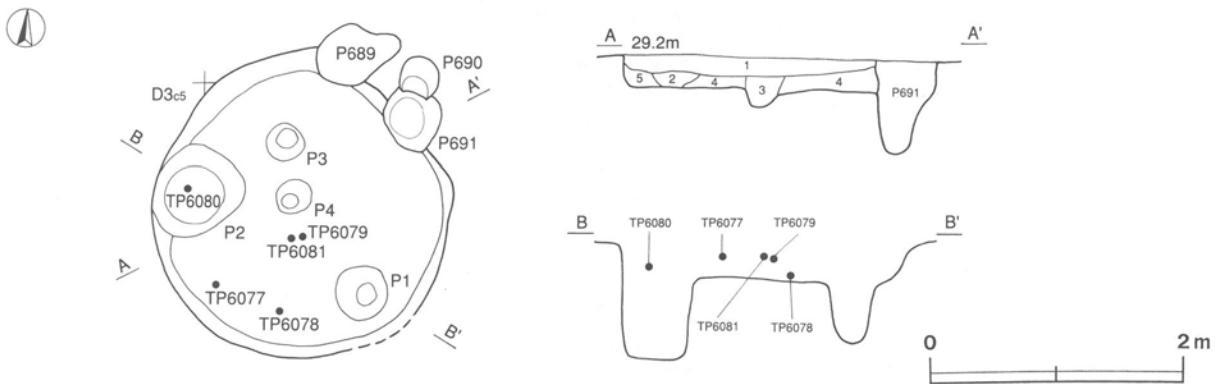
覆土 5層に分層される。第3層はP4の覆土である。レンズに堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

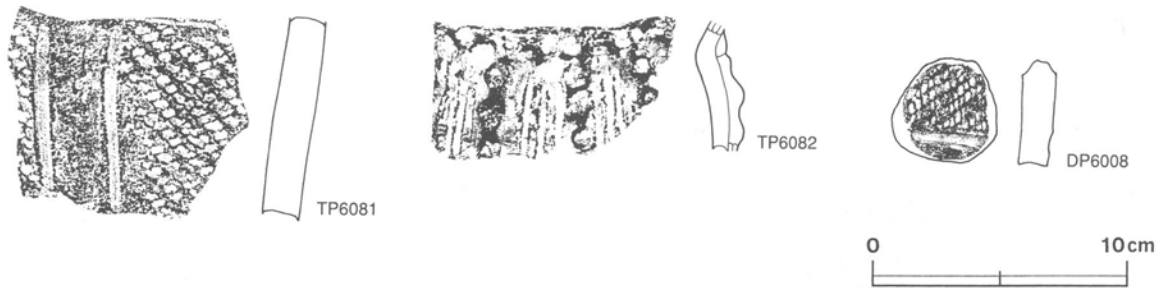
- |       |                 |       |                      |
|-------|-----------------|-------|----------------------|
| 1 黒色  | ロームブロック少量，炭化物微量 | 4 暗褐色 | ローム小ブロック少量           |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック中量      | 5 暗褐色 | ローム小ブロック中量，鹿沼バミス粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック中量      |       |                      |

遺物出土状況 縄文土器片630点，土器片円盤2点が出土している。土器片は接合するものが少なく，その大部分が覆土上層から出土している。

所見 本跡の廃絶時期は底面や覆土下層から出土している土器が少ないため明確ではないが，覆土上層の堆積時期は出土土器から中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。



第377図 第1662号土坑・出土遺物実測図



第378図 第1662号土坑出土遺物実測図

第1662号土坑出土遺物観察表 (第377・378図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP6077	縄文土器	深鉢	—	(9.0)	—	沈線に沿う隆帯により渦巻文を施している。LRの単節縄文。	長石・石英	普通	赤褐	覆土上層	
TP6078	縄文土器	深鉢	—	(6.2)	—	沈線に沿う隆帯により文様を描出。RLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	橙	覆土下層	
TP6079	縄文土器	深鉢	—	(8.4)	—	胴部は沈線による懸垂文間を磨り消している。RLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	覆土上層	
TP6080	縄文土器	深鉢	—	(6.5)	—	胴部は沈線による懸垂文間を磨り消している。RLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	橙	覆土上層	
TP6081	縄文土器	深鉢	—	(8.0)	—	胴部は沈線による懸垂文間を磨り消している。LRの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい褐	覆土上層	
TP6082	縄文土器	深鉢	—	(5.1)	—	交互刺突文を有する隆帯を巡らし、押圧文を有する隆帯を垂下。半截竹管による平行沈線文。	長石・石英	普通	黒褐	覆土上層	

番号	器種	計測値				胎土・色調	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
DP6008	土器片円盤	4.1	4.0	1.8	22.7	長石・石英 灰褐	沈線文とLRの単節縄文。周縁は研磨。	覆土	P L 59

第1663号土坑 (第379図)

位置 調査2区の北部、C3h4区。住居跡群域に位置する。

規模と形状 開口部の平面形は、径0.78mの円形である。底面はほぼ平坦で、平面形は長径2.68m、短径2.32mの楕円形である。確認面からの深さは92cmで、壁は内傾する。

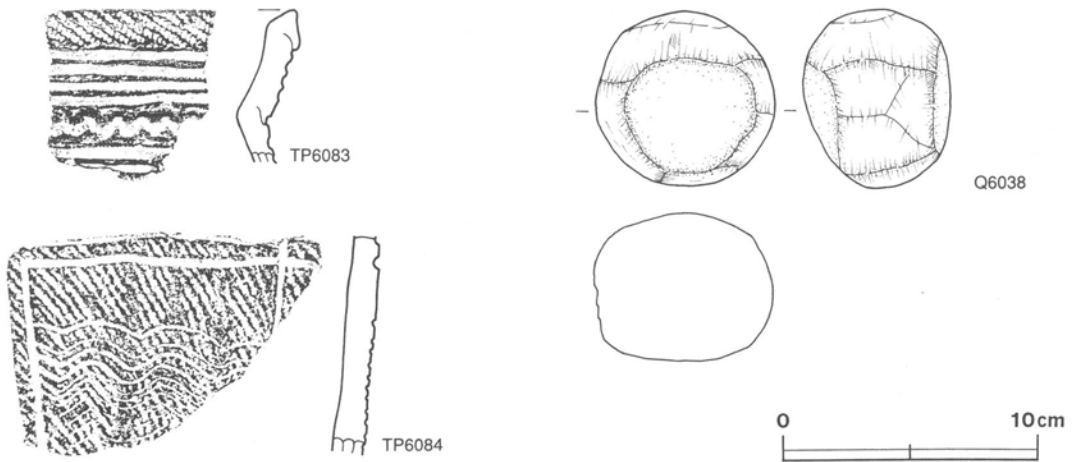
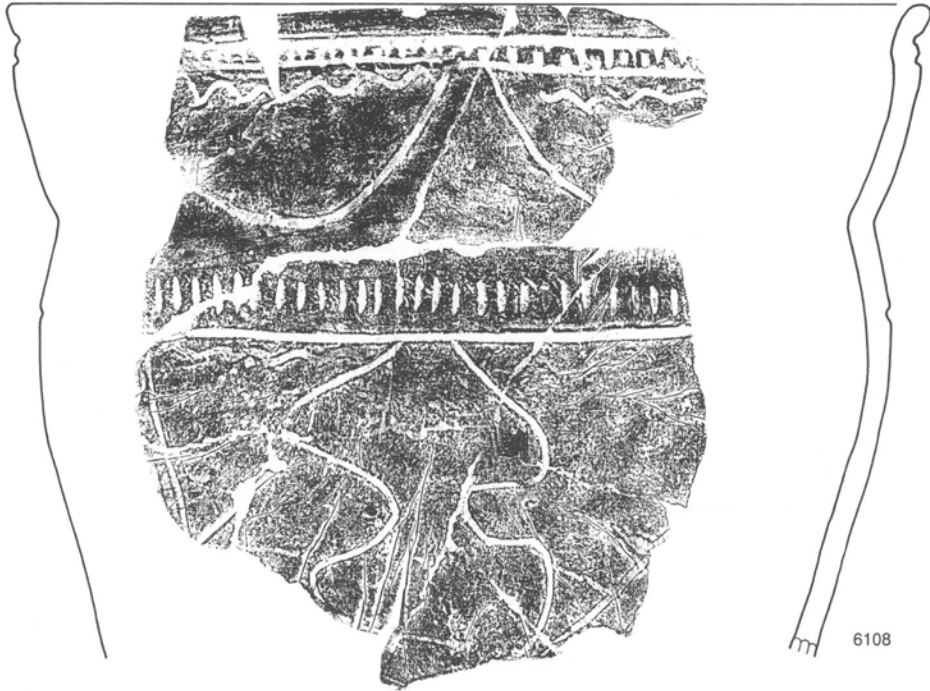
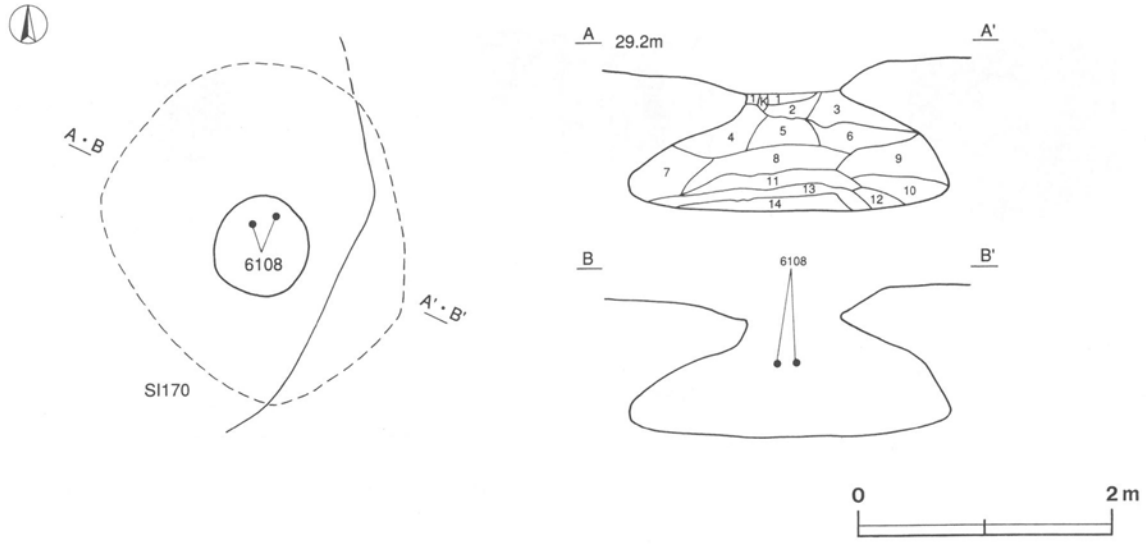
覆土 14層に分層される。第8～14層は底面の中央部に凸状に堆積しており、短時間に堆積したと判断できることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

- |       |                        |        |                             |
|-------|------------------------|--------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック少量             | 8 黒褐色  | 炭化物中量、ローム小ブロック少量            |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量      | 9 暗褐色  | 焼土粒子少量、ローム小ブロック微量           |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量           | 10 黒褐色 | ローム粒子・鹿沼バミス粒子微量             |
| 4 暗褐色 | ローム小ブロック少量、炭化粒子微量      | 11 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子・鹿沼バミス小ブロック微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量       | 12 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子・鹿沼バミス小ブロック微量     |
| 6 黒褐色 | ローム小ブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 13 黒褐色 | 炭化物少量、ローム小ブロック・鹿沼バミス小ブロック少量 |
| 7 黒褐色 | ローム小ブロック少量             | 14 暗褐色 | 炭化物・ローム粒子少量、鹿沼バミス小ブロック微量    |

遺物出土状況 縄文土器片48点、磨製石斧2点が出土している。6108の深鉢片は、覆土上層から出土している。

所見 本跡の廃絶時期は底面や覆土下層から出土している土器がないため明確でないが、覆土上層の堆積時期は出土土器から中期中葉(阿玉台Ⅱ式期)と考えられる。



第379图 第1663号土坑·出土遺物実測図

第1663号土坑出土遺物観察表（第379図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6108	縄文土器	深鉢	[36.0]	(25.8)	—	口唇部直下は刺突による連続コの字状文を、胴部上位はキザミ目列を巡らしている。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	覆土上層	
TP6083	縄文土器	深鉢	—	(6.1)	—	口縁部は沈線文を巡らしている。口唇部外面にはR Lの単節縄文を横方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土	
TP6084	縄文土器	深鉢	—	(8.7)	—	結節沈線文により文様を描出している。Lの無節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q6038	磨石	7.0	7.2	5.9	415.6	安山岩	周縁に擦痕。	覆土	P L 61

第1666号土坑（第380・381図）

位置 調査2区の北部、C3h7区。住居跡群域に位置する。

規模と形状 開口部は内傾する南西壁が第5層の堆積後に大きく崩落しているため、南西側が沈下してテラス状になっている。平面形は残存している形状から径0.80mの円形と推定される。底面はほぼ平坦で、平面形は長径2.75m、短径2.64mのほぼ円形である。確認面からの深さは84cmで、壁は内傾している。

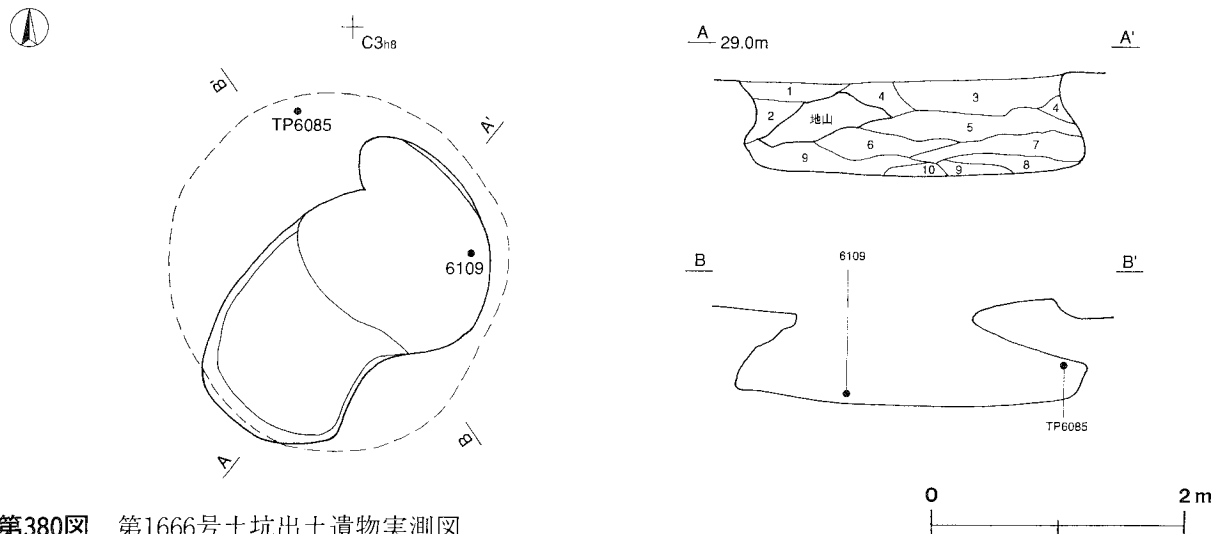
覆土 10層に分層される。大きく崩落した南西壁は第5層上面に堆積しており、第1～4層は崩落後に堆積したものである。第5～7層はレンズ状に堆積していることから自然堆積、第8～10層はロームブロックを多く含むことから崩落土と考えられる。

土層解説

- |       |                   |        |                             |
|-------|-------------------|--------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック少量，炭化粒子微量 | 6 黒褐色  | ローム小ブロック少量                  |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量      | 7 黒褐色  | ローム小ブロック・炭化粒子微量             |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量  | 8 黒褐色  | ローム小ブロック中量，鹿沼バミスブロック微量      |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量  | 9 黒色   | ロームブロック・炭化粒子少量              |
| 5 黒褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量  | 10 黒褐色 | ローム小ブロック中量，鹿沼バミス粒子少量，炭化粒子微量 |

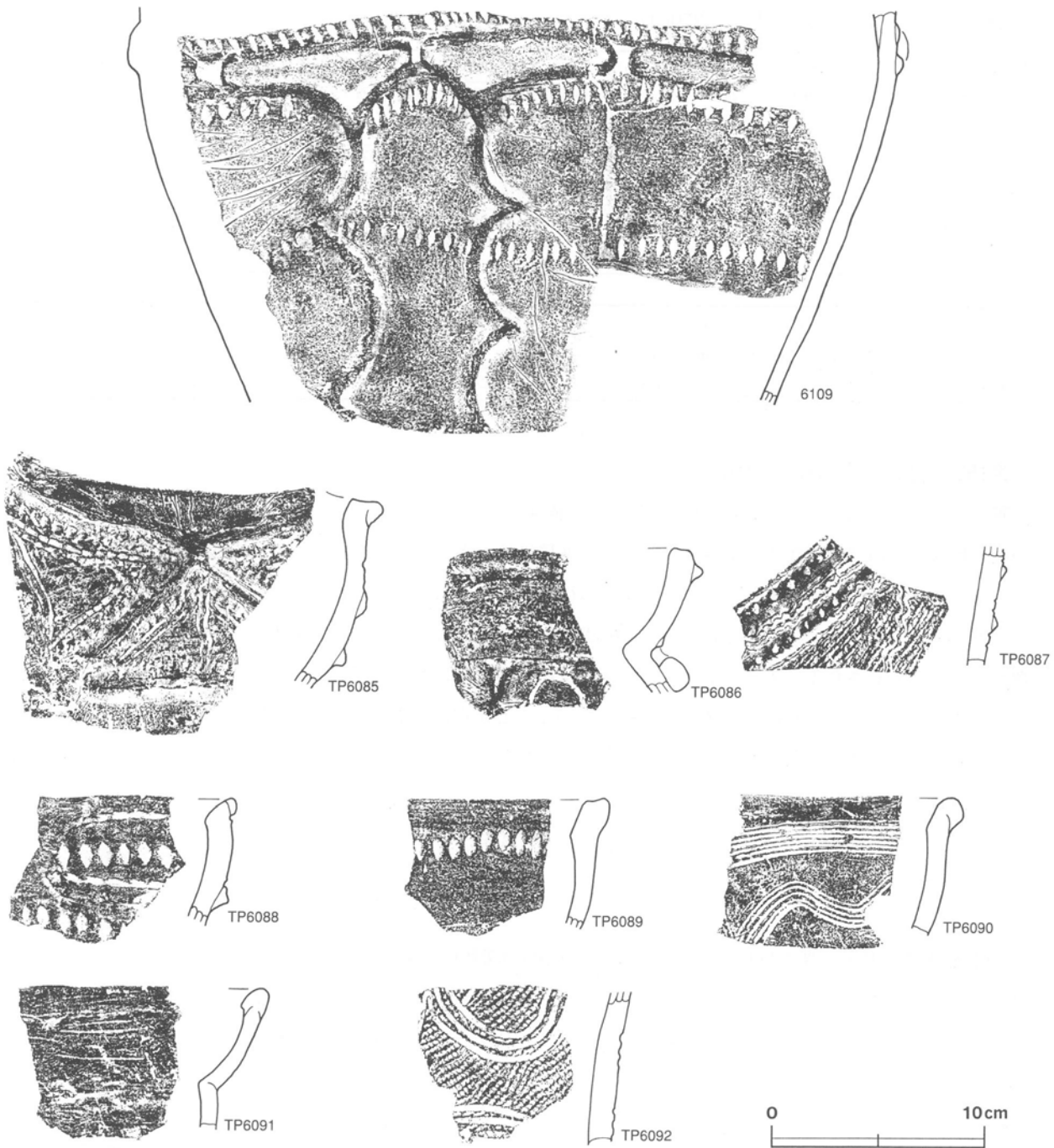
遺物出土状況 縄文土器片250点が出土している。6109の深鉢片は底面から出土している。

所見 廃絶時における土坑内の状態は、大きく崩落した南西壁の下位の堆積状況が自然堆積と崩落土であることから空洞であったと判断できる。時期は、底面から出土した6109の深鉢片から中期中葉（阿玉台Ⅱ式期）と考えられる。



第380図 第1666号土坑出土遺物実測図





第381図 第1666号土坑出土遺物実測図

第1666号土坑出土遺物観察表 (第381図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6109	縄文土器	深鉢	—	(18.5)	—	胴部上位に隆帯によるX字状文。キザミ目列を巡らしている。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	底面	
TP6085	縄文土器	深鉢	—	(8.9)	—	隆帯により文様を描出し、隆帯に沿ってアナダラ属の貝による刺突文を施している。	長石・石英・雲母	普通	赤褐	覆土下層	
TP6086	縄文土器	深鉢	—	(6.8)	—	胴部上位に隆帯によるV字状文。隆帯に沿って結節沈線文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	覆土	
TP6087	縄文土器	深鉢	—	(5.5)	—	キザミを有する隆帯文を巡らし、半截竹管による結節平行沈線文を施している。Lの無節縄文。	長石・石英・雲母	普通	灰黄褐	覆土	

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP6088	縄文土器	深鉢	—	(6.0)	—	口縁部は隆帯による区画文。隆帯に沿って結節沈線文。キザミ目列を巡らしている。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土	
TP6089	縄文土器	深鉢	—	(6.1)	—	キザミ目列を巡らしている。	長石・石英・雲母	普通	灰褐色	覆土	
TP6090	縄文土器	深鉢	—	(6.5)	—	櫛歯状工具による波状文を施している。	長石・石英・雲母	普通	暗赤褐	覆土	
TP6091	縄文土器	深鉢	—	(6.6)	—	無文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	覆土	
TP6092	縄文土器	深鉢	—	(7.3)	—	3条一組の沈線により文様を描出。RLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土	

### 第1671号土坑 (第382・383図)

**位置** 調査2区の北部, D3c4区。住居跡群域に位置する。

**重複関係** 第1669号土坑を掘り込み, 第246号住居に掘り込まれている。

**規模と形状** 開口部の平面形は, 長径2.02m, 短径1.62mの楕円形である。底面はほぼ平坦で, 確認面からの深さは52cmである。壁は南壁が内傾している以外は外傾している。ピットは2か所で, いずれも壁際に位置している。ピットの深さは, P1が56cm, P2が58cmである。

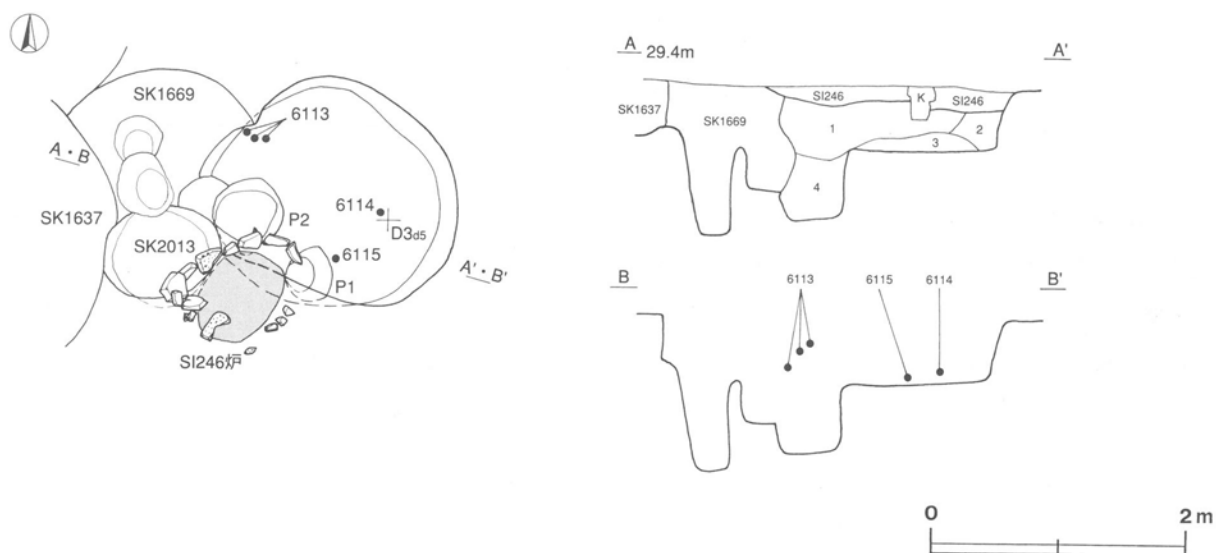
**覆土** 4層に分層される。第4層はP2の覆土である。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

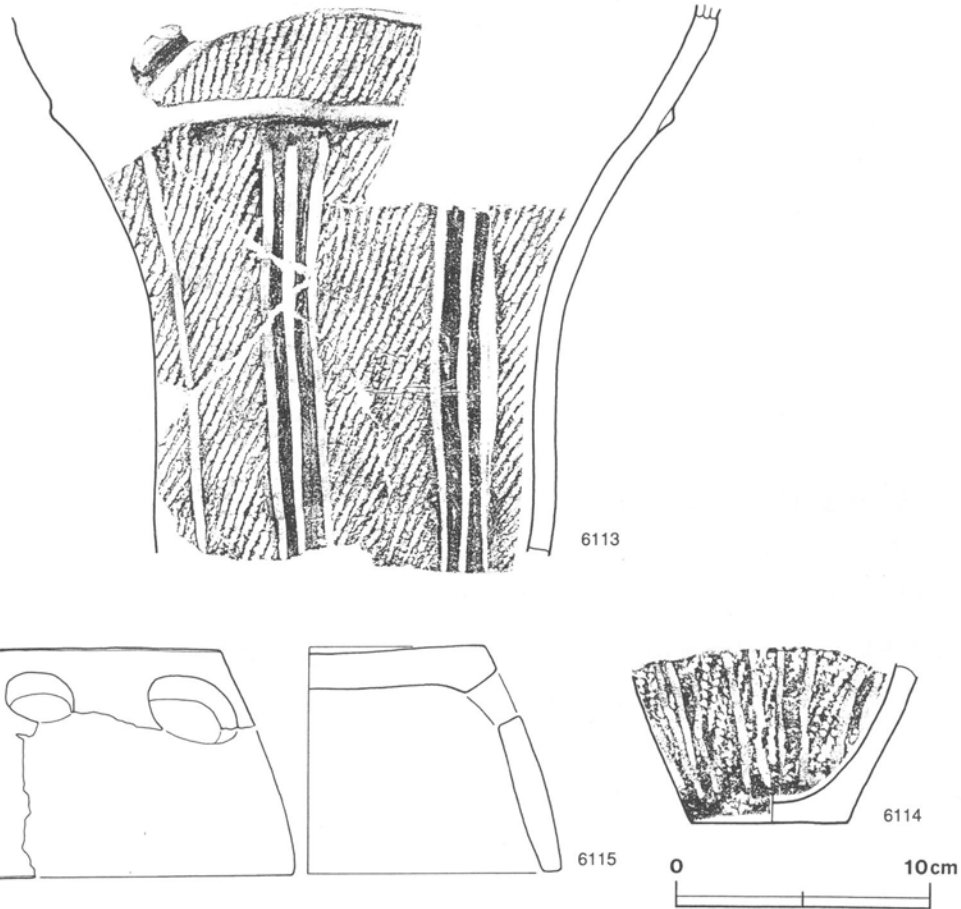
- |       |                      |       |                      |
|-------|----------------------|-------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 鹿沼バミス粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム小ブロック・炭化粒子少量      |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量    | 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 鹿沼バミス粒子微量 |

**遺物出土状況** 縄文土器片70点が出土している。6113の深鉢片は覆土上層から, 6114の深鉢片と6115の器台は覆土下層から出土している。

**所見** 時期は, 覆土下層から出土した6114の深鉢片と6115の器台から中期後葉(加曾利EⅡ式期)と考えられる。



第382図 第1671号土坑実測図



第383図 第1671号土坑出土遺物実測図

第1671号土坑出土遺物観察表（第383図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6113	縄文土器	深鉢	—	(21.6)	—	胴部は沈線による3条一組の懸垂文間を磨り消している。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	覆土上層	
6114	縄文土器	深鉢	—	(5.8)	6.2	胴部は沈線による懸垂文を施し、R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土下層	
6115	縄文土器	器台	14.0	(9.0)	19.8	体部上位に大・小4単位ずつの透かし孔がある。無文で、入念に研磨している。	長石・石英	普通	にぶい褐	覆土下層	P L 52

### 第1672号土坑（第384図）

**位置** 調査2区の北部，D3e4区。住居跡群域に位置する。

**重複関係** 第1681号土坑を掘り込んでおり，第1673号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 開口部の平面形は，第1673号土坑に掘り込まれているため，長径が推定で2.38m，短径1.88mの楕円形である。底面はほぼ平坦で，確認面からの深さは34cmである。壁は内傾している。

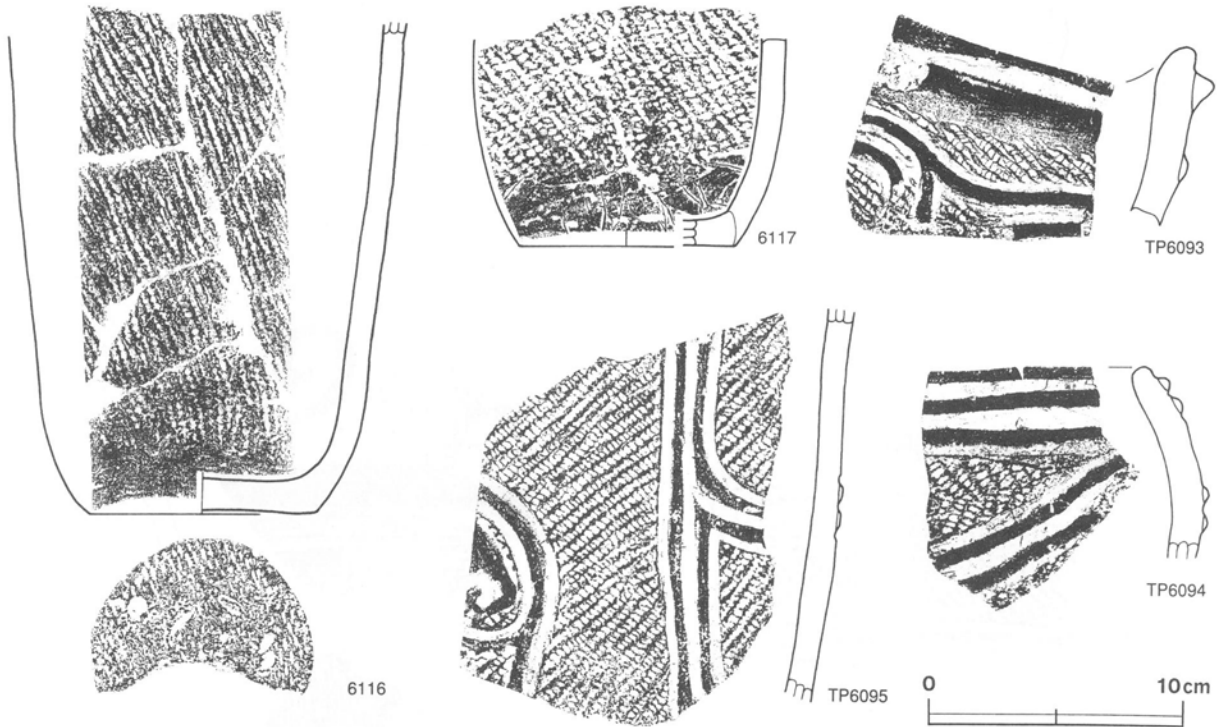
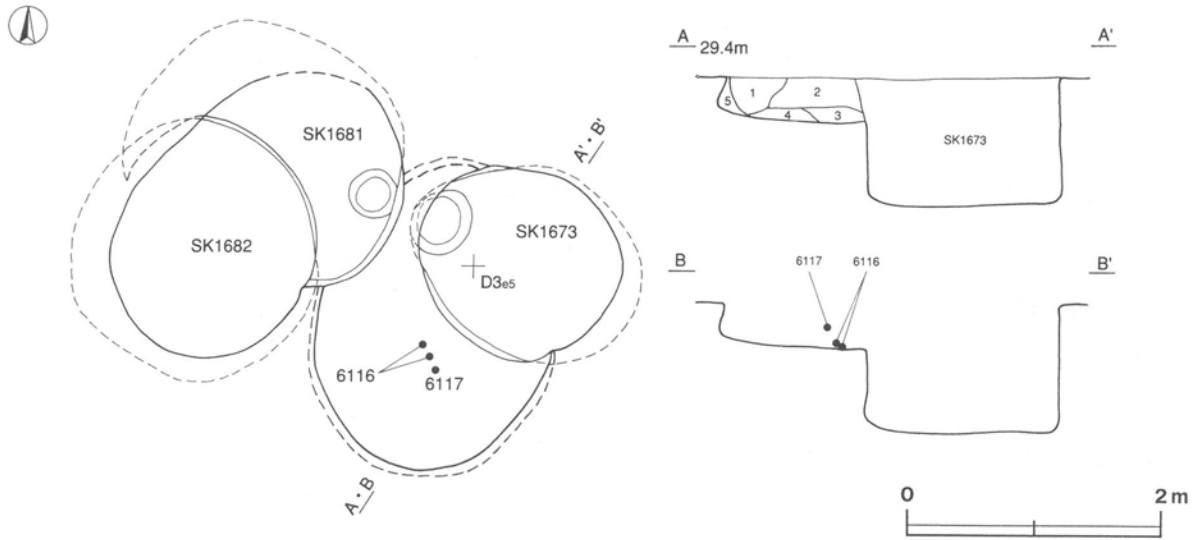
**覆土** 5層に分層される。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- |       |                   |       |            |
|-------|-------------------|-------|------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量  | 4 暗褐色 | ローム小ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量      | 5 暗褐色 | ローム粒子微量    |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック少量，炭化粒子微量 |       |            |

遺物出土状況 縄文土器片71点が出土している。6116の深鉢片は底面から、6117の深鉢片は覆土中層から出土している。

所見 時期は、底面から出土した6116の深鉢片から中期後葉（加曾利 E I 式期）と考えられる。



第384図 第1672号土坑・出土遺物実測図

第1672号土坑出土遺物観察表（第384図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6116	縄文土器	深鉢	—	(19.4)	8.8	Lの無節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	赤褐	底面	底部網代痕

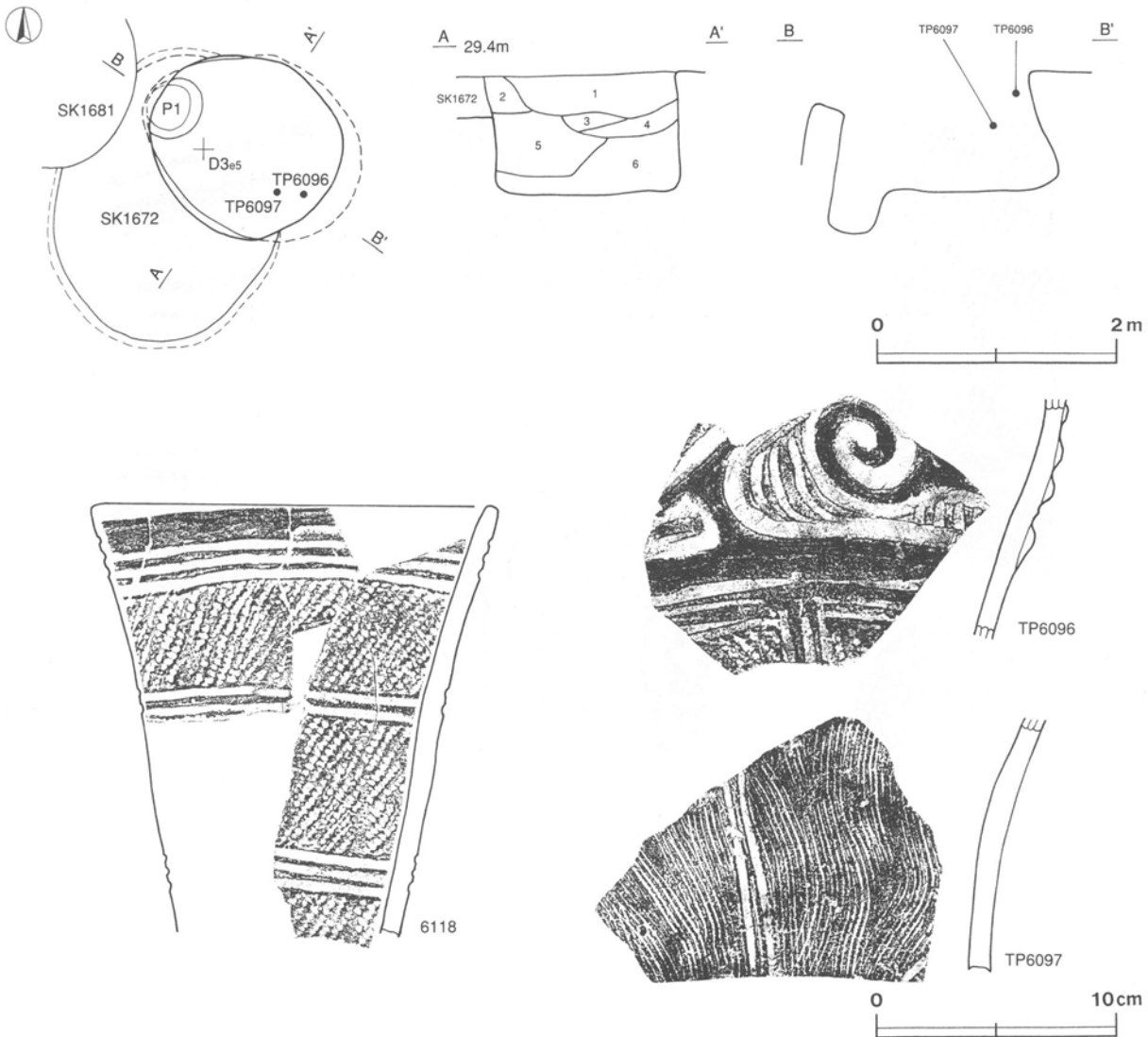
番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6117	縄文土器	深鉢	—	(8.5)	[8.5]	L Rの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	明赤褐	覆土中層	
TP6093	縄文土器	深鉢	—	(7.0)	—	口唇部直下に隆帯を巡らし、口縁部は細い隆帯により文様を描出。Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	褐灰	覆土	
TP6094	縄文土器	深鉢	—	(7.6)	—	2本一組の隆帯により文様を描出。R Lの単節縄文を縦方向と横方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土	
TP6095	縄文土器	深鉢	—	(15.6)	—	沈線が沿う2本一組の隆帯により文様を描出。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	橙黒褐	覆土	

### 第1673号土坑（第385図）

**位置** 調査2区の北部，D3e5区。住居跡群域に位置する。

**重複関係** 第1672号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 開口部の平面形は、長径1.61m，短径1.46mの楕円形である。底面はほぼ平坦で，確認面からの深さは100cmである。壁は直立する南西壁以外は内傾している。ピットは1か所で，深さは38cmである。



第385図 第1673号土坑・出土遺物実測図

**覆土** 6層に分層される。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

**土層解説**

- |       |                        |       |                        |
|-------|------------------------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量           | 4 黒褐色 | ローム小ブロック・炭化粒子微量        |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子・鹿沼バミス粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量              |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量           | 6 暗褐色 | ロームブロック中量・鹿沼バミス小ブロック微量 |

**遺物出土状況** 縄文土器片237点が出土している。TP6096と TP6097の深鉢片は覆土上層から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利 E II 式期）と考えられる。

第1673号土坑出土遺物観察表（第385図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6118	縄文土器	深鉢	[16.0]	(18.0)	—	口縁部と胴部に沈線を巡らし、沈線間を磨り消している。地文はRしの単節縄文。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土	
TP6096	縄文土器	深鉢	—	(10.0)	—	口縁部は沈線に沿う隆帯により文様を描出。胴部は3条一組の懸垂文間を磨り消している。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	覆土上層	
TP6097	縄文土器	深鉢	—	(10.5)	—	沈線による2条一組の懸垂文を施している。櫛歯状工具による条線文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	暗赤褐	覆土上層	内面炭化物付着

**第1676号土坑（第386～388図）**

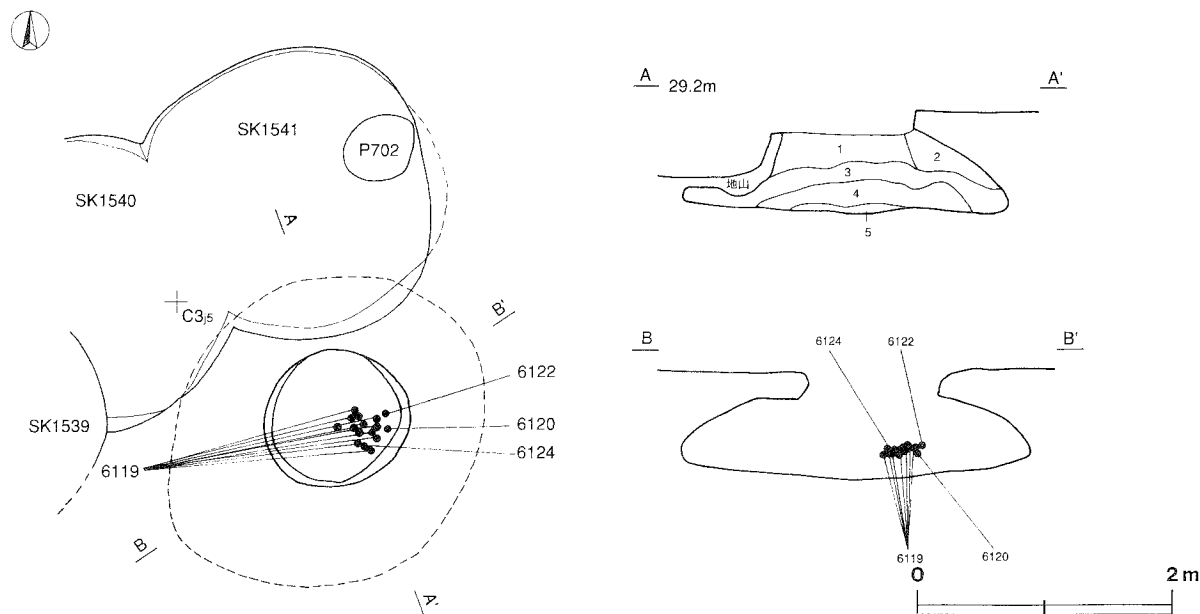
**位置** 調査2区の北部、C3j5区。住居跡群域に位置する。

**規模と形状** 開口部の平面形は、径1.12mの円形である。底面はほぼ平坦で、平面形は長径2.65m、短径2.38mの楕円形である。壁は内傾している。北壁は第1541号土坑が上部にあるため沈下しており、内傾する壁の立ち上がる角度が小さくなっている。深さは85cmである。

**覆土** 5層に分層される。第4・5層が底面の中央部に凸状に堆積している以外は、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

**土層解説**

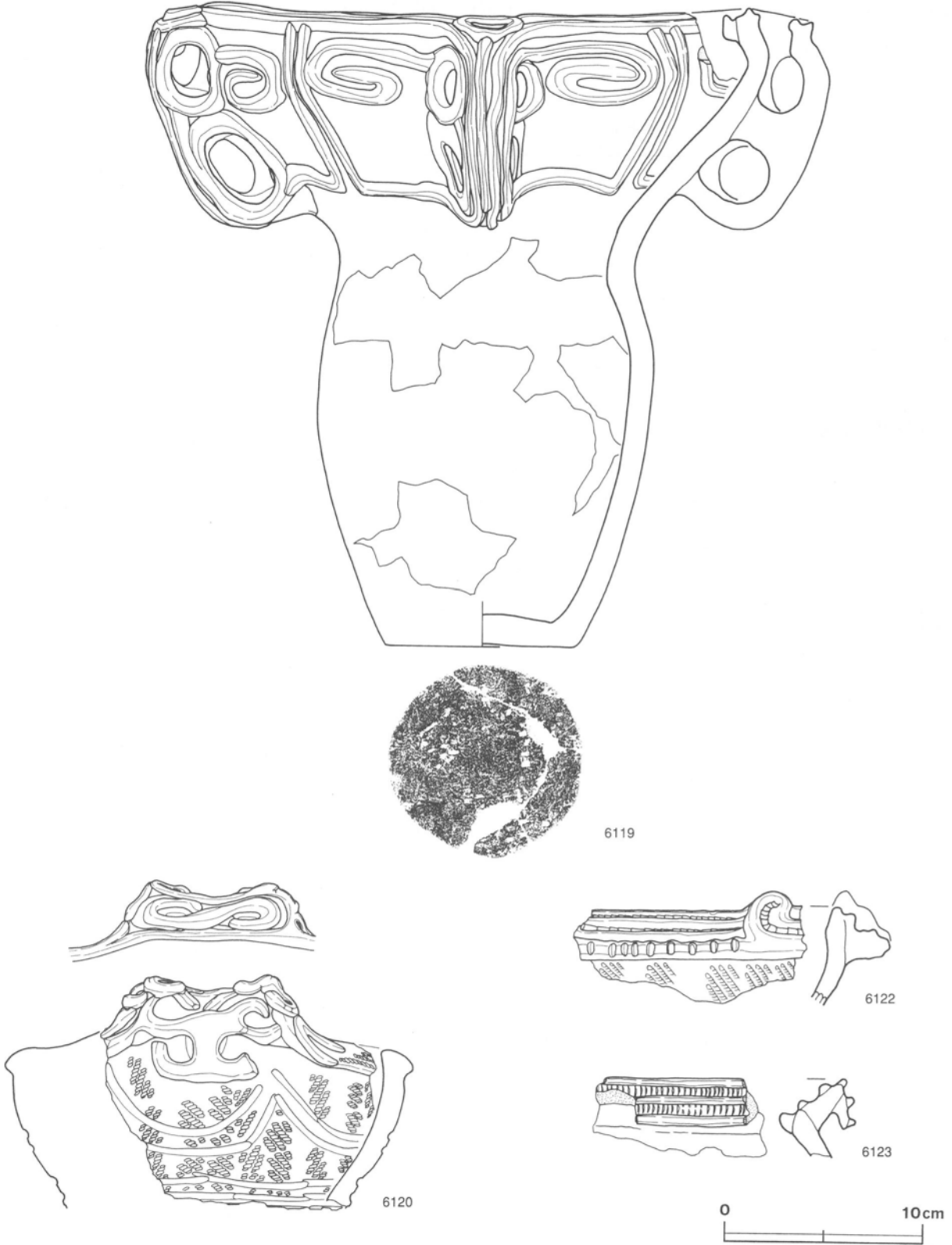
- |       |                  |       |                       |
|-------|------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック多量、鹿沼バミスブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量        | 5 暗褐色 | ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック微量 |
| 3 黒色  | ロームブロック少量、炭化物微量  |       |                       |



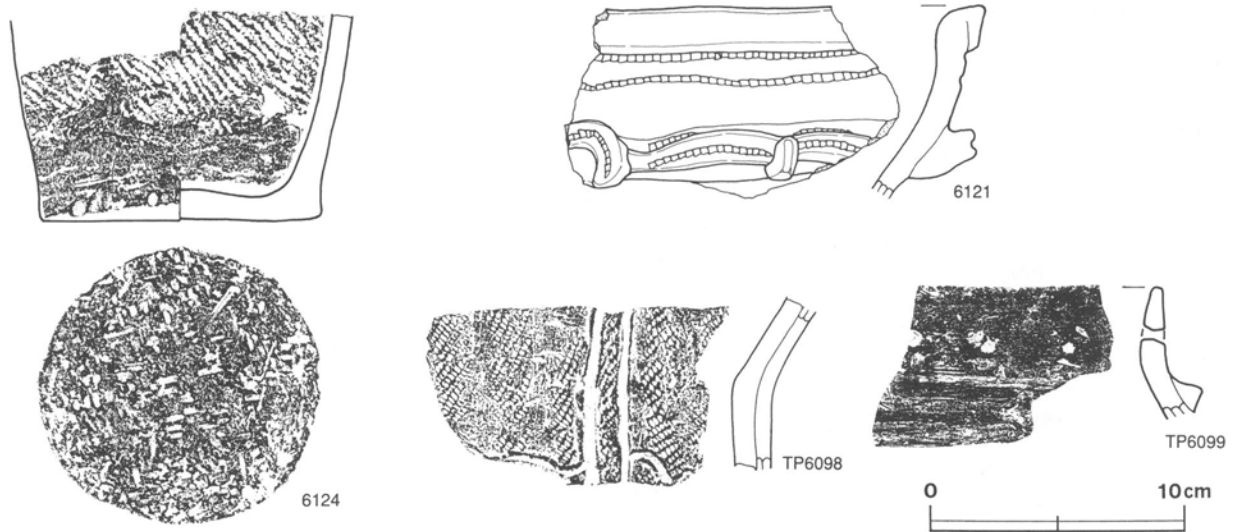
第386図 第1676号土坑実測図

**遺物出土状況** 縄文土器片147点が出土している。6119の深鉢，6122と6124の深鉢片は，いずれも第4層上面から出土している。

**所見** 6119の深鉢は胎土が在地の土器と異なることから，搬入されたものと考えられる。時期は，出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅲ式併行期）と考えられる。



第387図 第1676号土坑出土遺物実測図（1）



第388図 第1676号土坑出土遺物実測図（2）

第1676号土坑出土遺物観察表（第387・388図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6119	縄文土器	深鉢	27.6	32.2	9.7	二段の橋状把手。口縁部は隆帯により文様を描出。胴部は無文で、研磨している。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐色	第4層上	P L52 底部網代痕
6120	縄文土器	深鉢	[17.6]	(11.7)	—	把手及び口唇部直下は隆帯、口縁部は沈線により文様を描出。地文はRLとLRの単節縄文。	長石・石英	普通	褐色	第4層上	
6121	縄文土器	深鉢	—	(7.5)	—	口縁部は、結節沈線文を有し、突出させた隆帯文を巡らしている。	長石・石英・雲母	普通	灰褐色	覆土	
6122	縄文土器	深鉢	—	(5.7)	—	口唇部外面は、結節沈線文とキザミを有し、突出させ隆帯文を巡らしている。Lの無節縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐色	第4層上	
6123	縄文土器	深鉢	—	(4.0)	—	口唇部外面は上下に突出させた隆帯文を巡らし、隆帯に沿って結節沈線文を施している。	長石・石英	普通	にぶい橙色	覆土	
6124	縄文土器	深鉢	—	(8.2)	11.0	LRの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	橙色	第4層上	底部網代痕
TP6098	縄文土器	深鉢	—	(6.6)	—	隆帯による懸垂文。沈線により文様を描出。RLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	橙色	覆土	
TP6099	縄文土器	有孔罎付土器	—	(5.2)	—	無文で、研磨している。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐色	覆土	内・外面赤彩

### 第1680号土坑（第389図）

**位置** 調査2区の北部，C4i2区。住居跡群域に位置する。

**確認状況** 平安時代の第173号住居跡の掘り方調査で確認する。

**重複関係** 第173・182号住居と第1839号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 開口部の平面形は、第173・182号住居跡に掘り込まれているため、径1.86mの円形と推定される。底面はほぼ平坦である。壁は直立し、深さは40cmである。ピットは3か所で、いずれも壁寄りに位置している。ピットの深さは、P1が25cm，P2が23cm，P3が35cmである。

**覆土** 3層に分層される。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

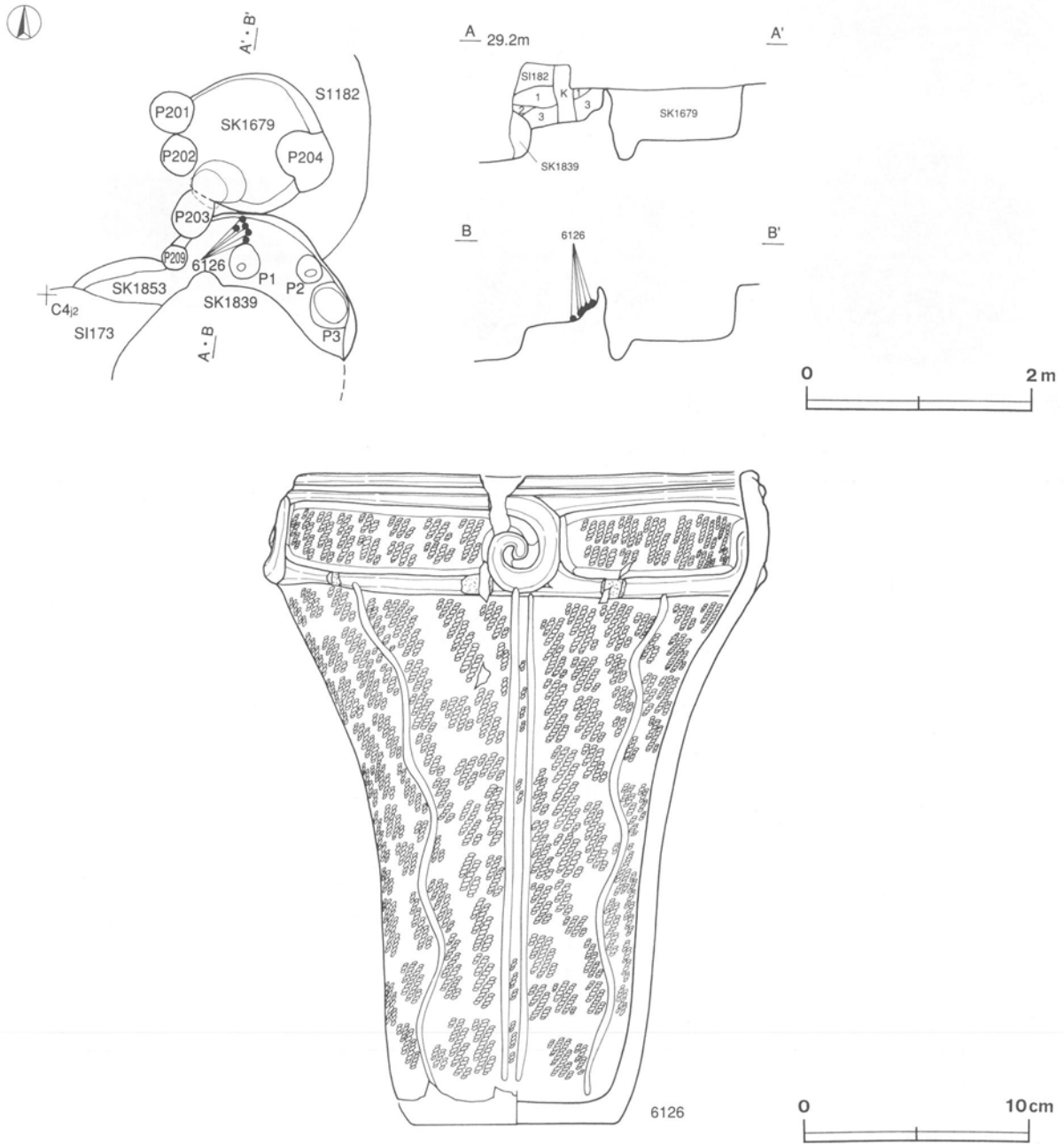
1 黒褐色 ロームブロック少量  
2 極暗褐色 ロームブロック中量

3 暗褐色 ロームブロック中量



遺物出土状況 縄文土器片75点が出土している。6126の深鉢は、北壁寄りの底面から出土している。

所見 時期は、底面から出土した6126の深鉢から中期後葉（加曽利 E I 式期）と考えられる。



第389図 第1680号土坑・出土遺物実測図

第1680号土坑出土遺物観察表（第389図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6126	縄文土器	深鉢	19.6	29.0	[9.0]	口縁部は沈線に沿う隆帯による渦巻文。胴部は沈線による懸垂文。地文はRLの単節縄文。	長石・石英	普通	暗赤褐	底面	P L 52

第1681号土坑（第390・391図）

位置 調査2区の北部，D3 d4区。住居跡群の外周域に位置する。

重複関係 南側を第1672・1682号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 開口部の平面形は、第1672・1682号土坑に掘り込まれているため、現状では径1.72mの円形である。底面はほぼ平坦で、径2.16mの円形である。壁は第1672号土坑に掘り込まれて直立している南壁以外は内傾している。深さは56cmである。ピットは1か所で、東壁際に位置している。P1の深さは54cmである。

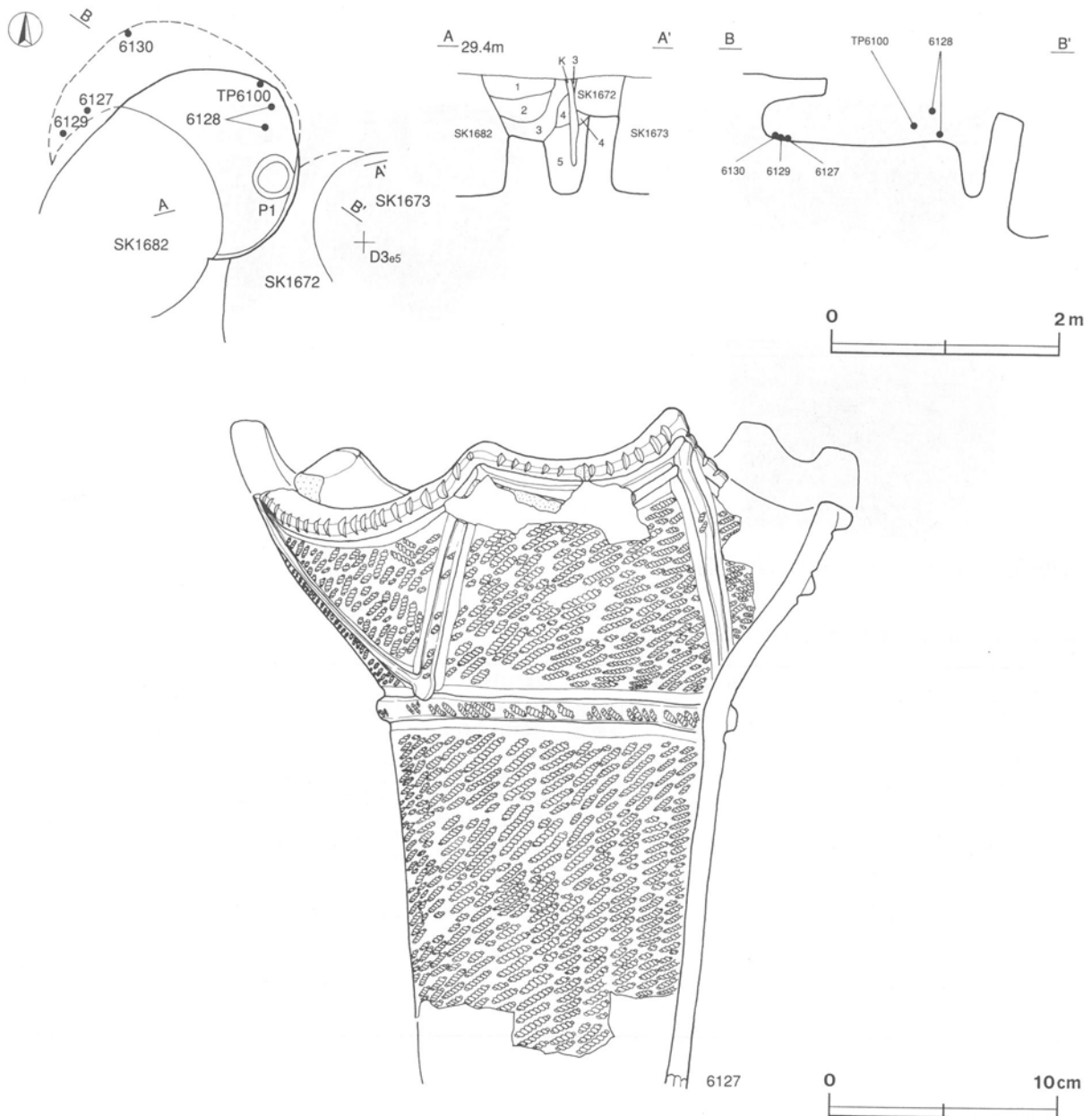
**覆土** 5層に分層され、第5層はP1の覆土である。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

**土層解説**

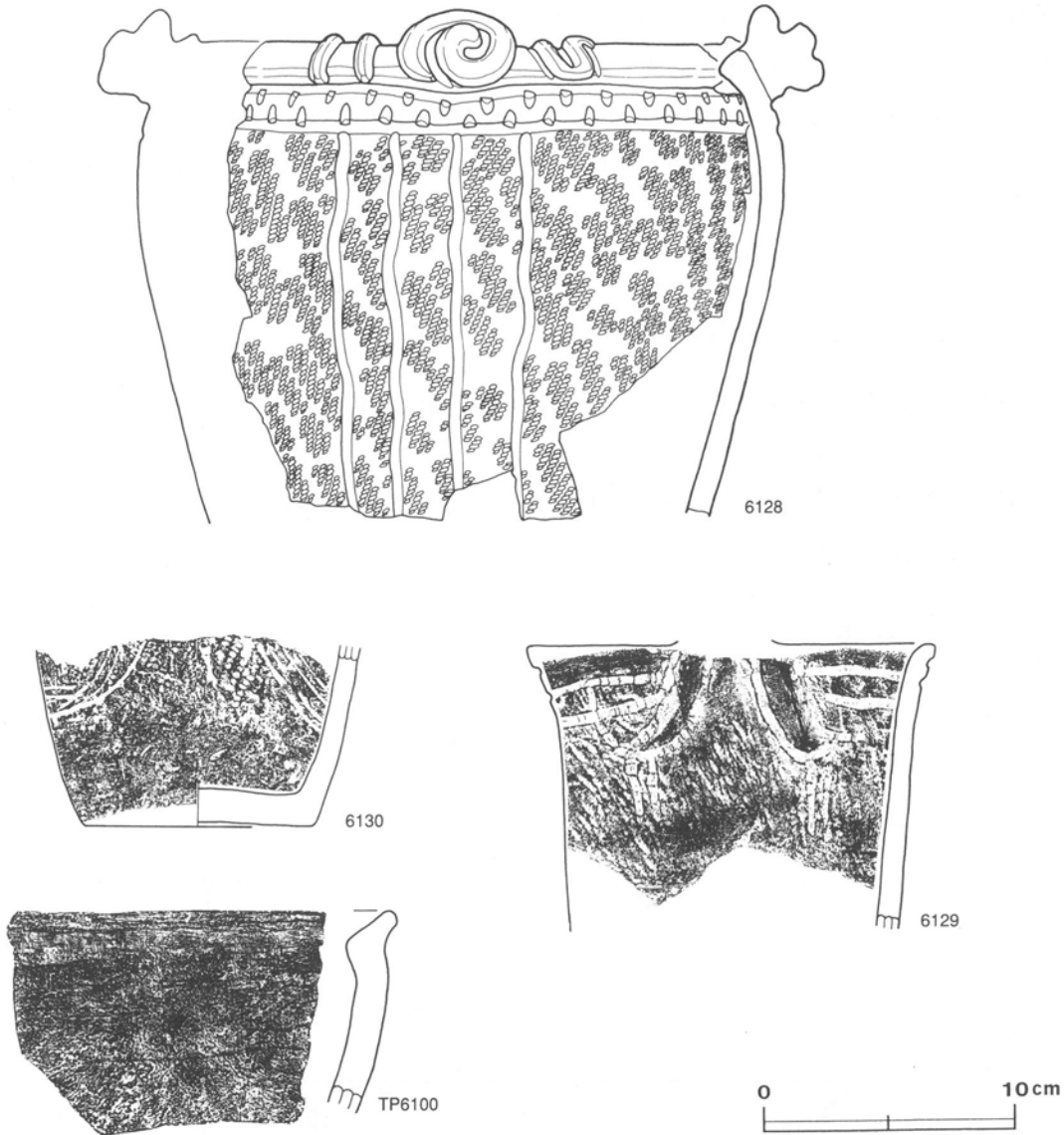
- |       |                           |       |                 |
|-------|---------------------------|-------|-----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量        | 4 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・鹿沼バミス粒子微量 | 5 黒褐色 | 炭化粒子微量          |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量          |       |                 |

**遺物出土状況** 縄文土器片23点が出土している。6127・6129・6130の深鉢片は、いずれも壁際の底面から出土している。

**所見** 時期は、底面から出土した6127・6129・6130から中期中葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。



第390図 第1681号土坑・出土遺物実測図



第391図 第1681号土坑出土遺物実測図

第1681号土坑出土遺物観察表（第390・391図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6127	縄文土器	深鉢	[24.2]	(29.9)	—	口唇部外面にキザミを有する隆帯文。口縁部は隆帯文。R Lの単節縄文。	長石・石英	普通	灰褐 にぶい橙	底面	P L 52
6128	縄文土器	深鉢	[22.2]	(20.2)	—	口唇部外面に渦巻状の突起を有する。口縁部は交互刺突による連続コの字状文。R Lの単節縄文。	長石・石英 ・雲母	普通	褐灰 にぶい橙	覆土下層	
6129	縄文土器	深鉢	16.0	(11.3)	—	口縁部は結節沈線文を巡らしている。地文はLの無節縄文で、縦方向に施文。	長石・石英 ・雲母	普通	黒褐	底面	
6130	縄文土器	深鉢	—	(7.1)	9.2	半截竹管による平行沈線文により文様を描出している。地文はR Lの単節縄文。	長石・石英 ・雲母	普通	明赤褐	底面	
TP6100	縄文土器	深鉢	—	(8.1)	—	無文。	長石・石英	普通	灰褐	覆土下層	

第1682号土坑 (第392・393図)

位置 調査2区の北部, D3d4区。住居跡群の外周域に位置する。

重複関係 第1681号土坑の南西側を掘り込んでいる。

規模と形状 開口部の平面形は長径1.90m, 短径1.60mの楕円形である。底面はほぼ平坦で, 平面形は長径2.07m, 短径1.94mのほぼ円形である。確認面からの深さは108cmで, 壁は内傾している。

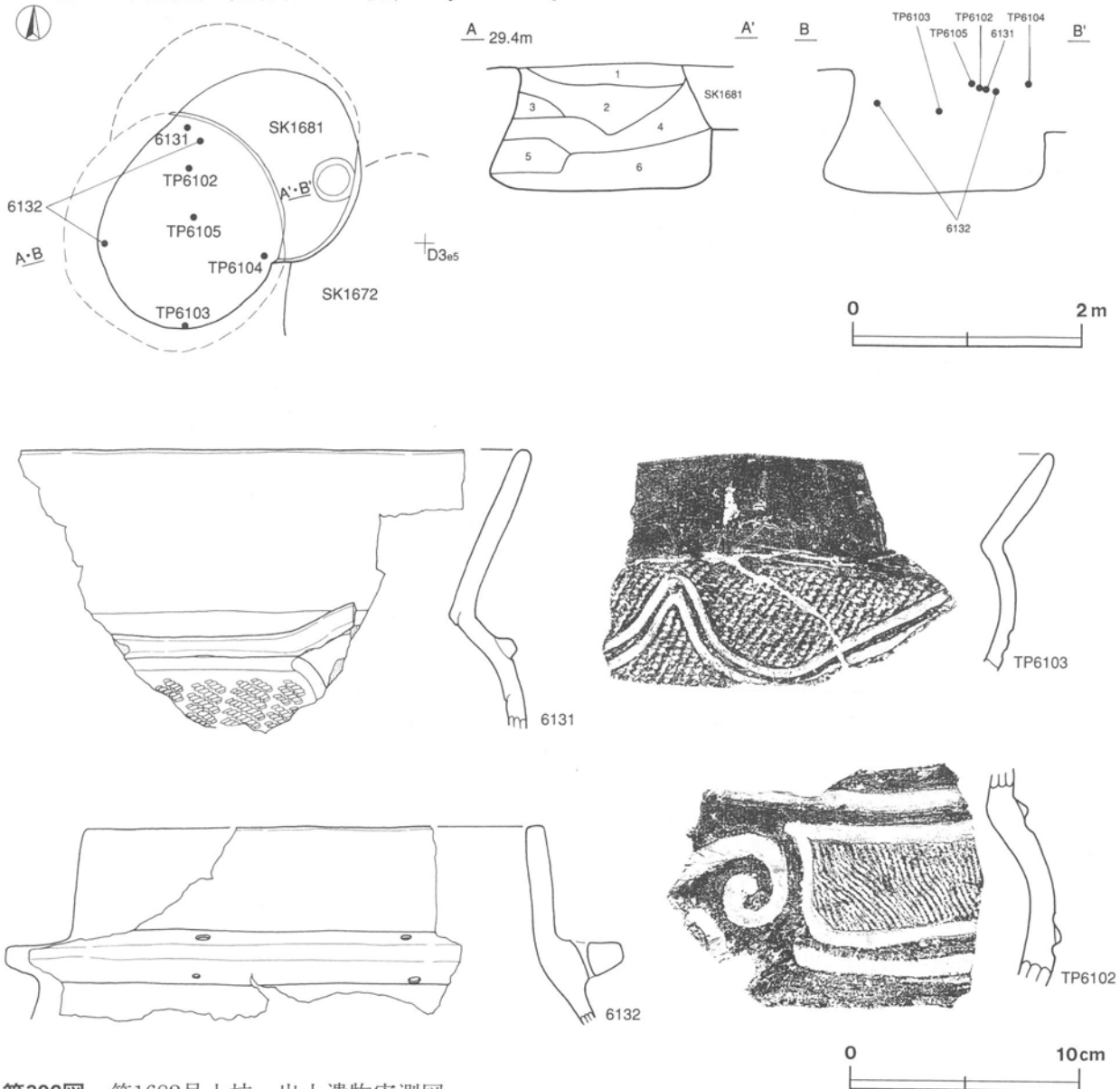
覆土 6層に分層される。レンズ状に堆積していることから, 自然堆積と考えられる。

土層解説

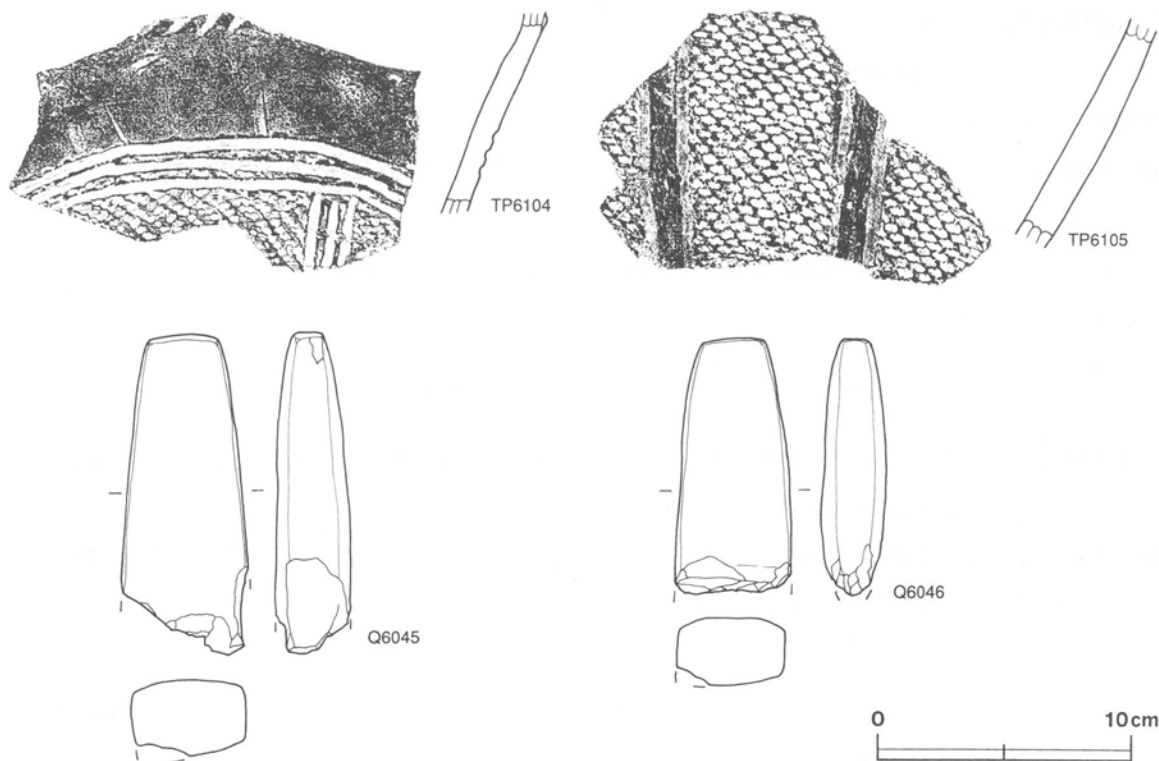
- |       |                         |       |                         |
|-------|-------------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量          | 4 黒褐色 | ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量      |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子・鹿沼バミス粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量               |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量            | 6 暗褐色 | ロームブロック中量, 鹿沼バミス小ブロック微量 |

遺物出土状況 縄文土器片158点, 磨製石斧片4点, 剥片3点が出土している。遺物の多くは覆土上層から出土しており, 図示した土器はいずれも覆土上層から出土したものである。

所見 本跡の廃絶時期は覆土下層から出土した土器がないため明確ではないが, 覆土上層の堆積時期は出土土器から中期後葉(加曾利EⅡ式期)と考えられる。



第392図 第1682号土坑・出土遺物実測図



第393図 第1682号土坑出土遺物実測図

第1682号土坑出土遺物観察表（第392・393図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6131	縄文土器	鉢	—	(12.3)	—	口縁部は無文で、研磨している。胴部上位は隆帯により文様を描出。地文はL Rの単節縄文。	長石・石英	普通	にぶい褐	覆土上層	
6132	縄文土器	有孔鏝付土器	[19.3]	(8.7)	—	無文で、入念に研磨している。	長石・石英	普通	橙色	覆土上層	内・外面赤彩
TP6102	縄文土器	鉢	—	(9.4)	—	沈線に沿う隆帯により文様を描出。撚糸文を横方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土上層	
TP6103	縄文土器	鉢	—	(9.5)	—	口縁部は無文。胴部上位は沈線による2条一組の波状文。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土上層	
TP6104	縄文土器	深鉢	—	(8.0)	—	頸部は無文。胴部は沈線による3条一組の懸垂文。L Rの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	覆土上層	
TP6105	縄文土器	鉢	—	(9.0)	—	沈線による懸垂文間を磨り消している。L R Lの複節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土上層	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q 6045	磨製石斧	(12.2)	5.1	3.0	(311.0)	緑色凝灰岩	器体研磨入念。刃部欠損。	覆土	
Q 6046	磨製石斧	(10.1)	4.6	2.8	(206.9)	緑色凝灰岩	器体研磨入念。刃部欠損。	覆土	

第1685号土坑（第394～396図）

位置 調査2区の北部，D3 f4区。住居跡群の外周域に位置する。

規模と形状 開口部の平面形は、径1.88mの円形である。底面は平坦で、径2.30mの円形である。深さは52cmで、壁は内傾する。

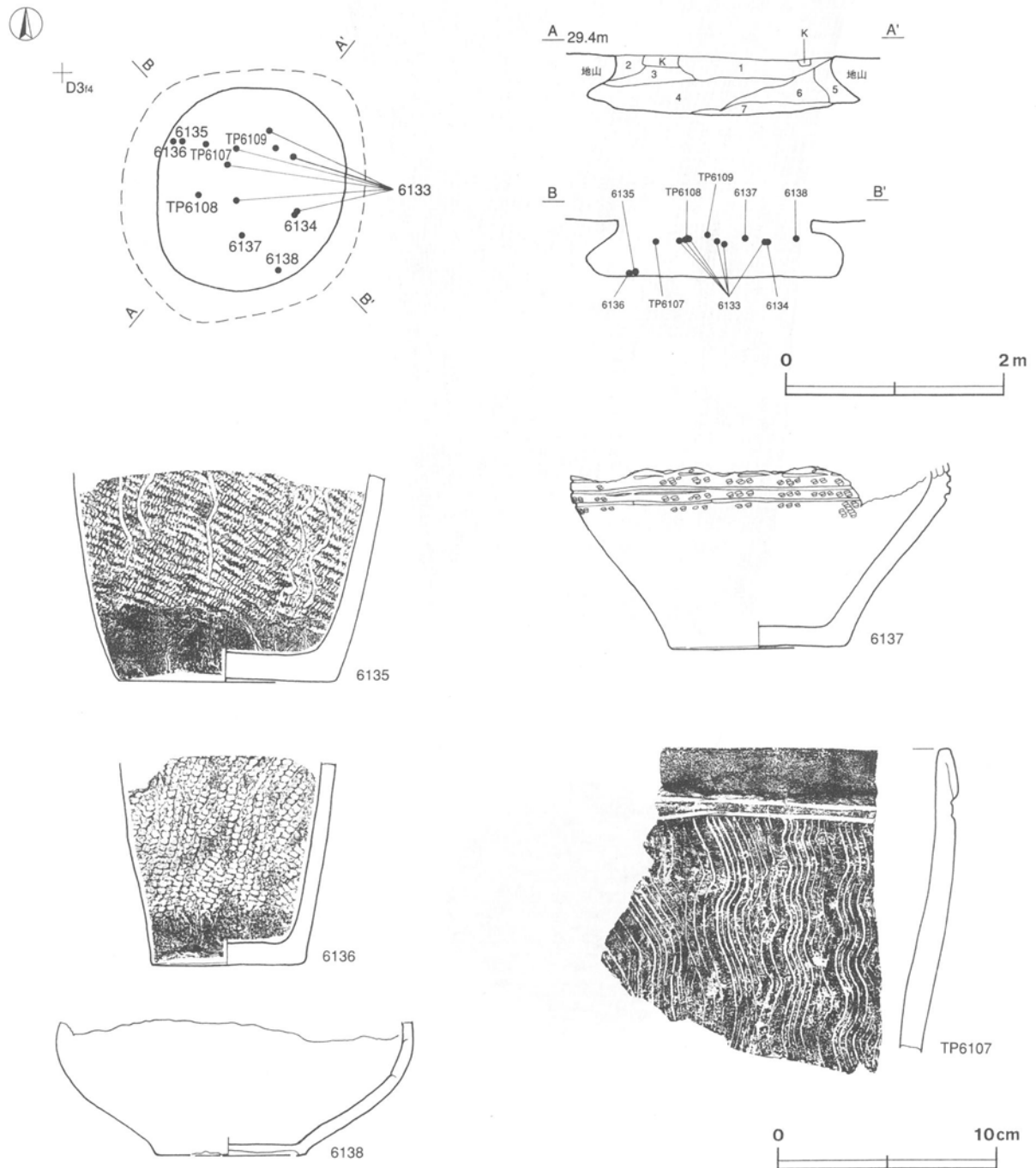
**覆土** 7層に分層される。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

**土層解説**

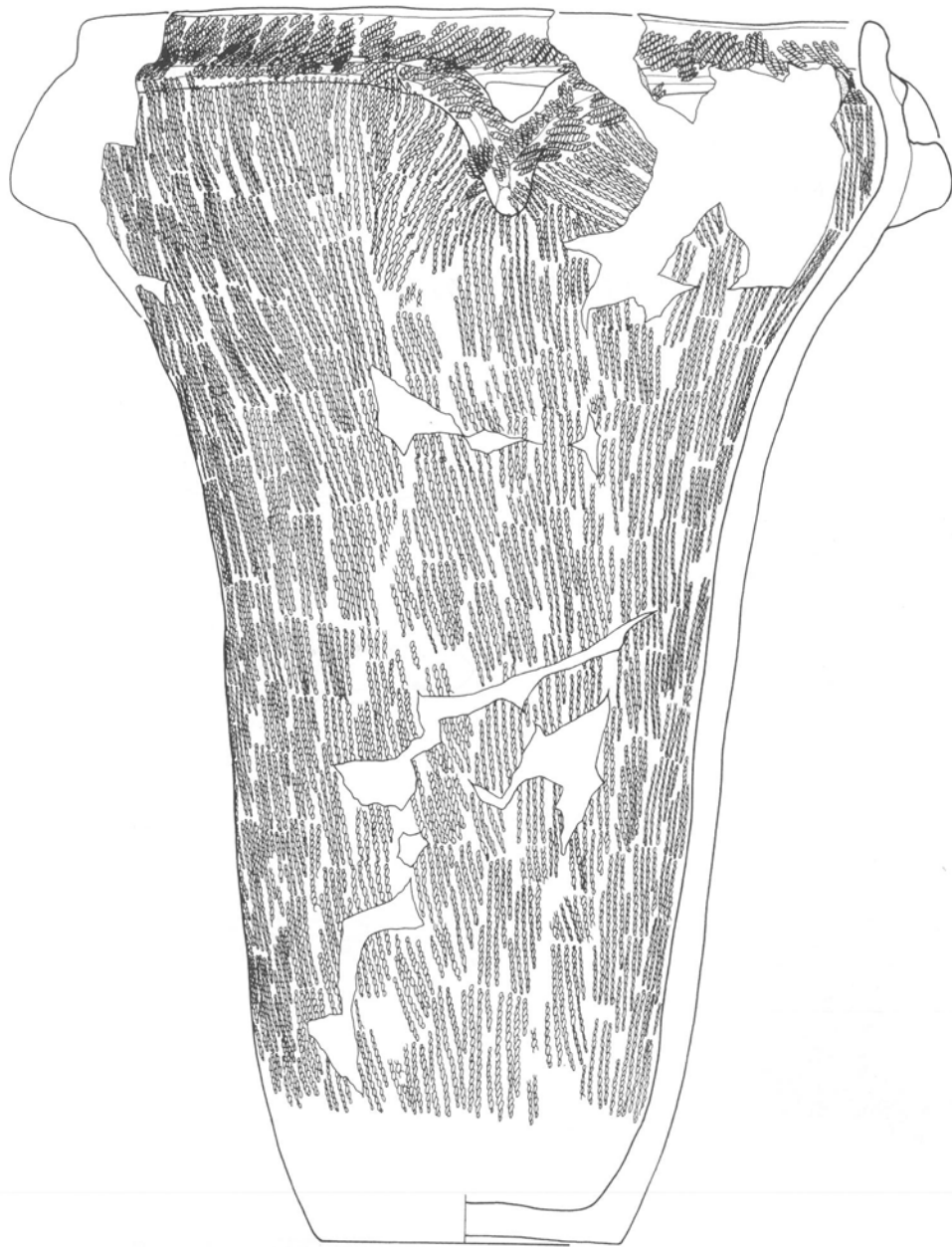
- |                        |                             |
|------------------------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 炭化物少量, ロームブロック微量 | 5 暗褐色 ロームブロック少量             |
| 2 褐色 ロームブロック中量         | 6 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量     |
| 3 黒褐色 ロームブロック・炭化物微量    | 7 褐色 ロームブロック中量, 第2層より粘性がある。 |
| 4 暗褐色 ロームブロック中量        |                             |

**遺物出土状況** 縄文土器片113点, 打製石斧片1点, 搔器片1点が主に覆土上層から廃棄されたような状態で出土している。6133と6134の深鉢は, いずれも覆土上層から出土している。

**所見** 覆土上層に遺物が集中し, 一括廃棄されたことがうかがわれる。本跡の廃絶時期は明確ではないが, 覆土上層の堆積時期は出土土器から中期中葉(阿玉台Ⅳ式期)と考えられる。



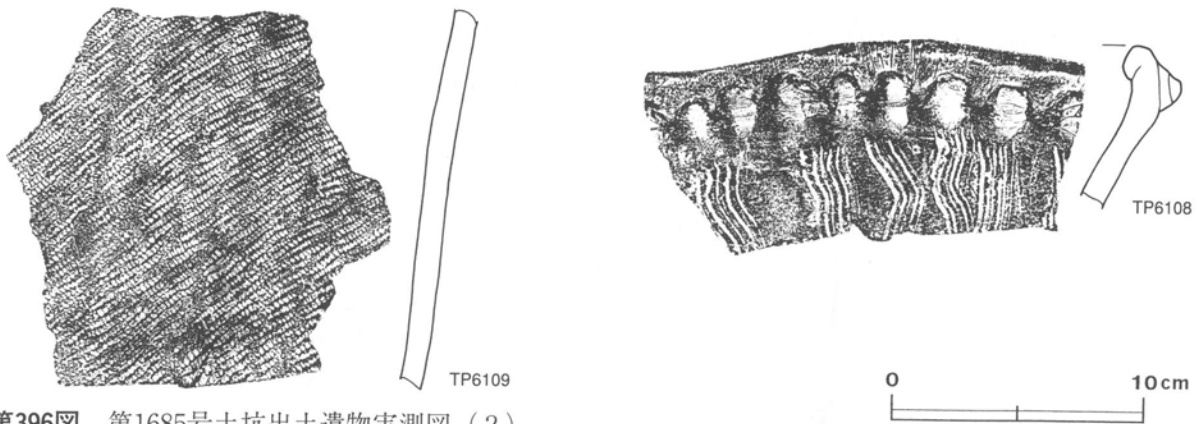
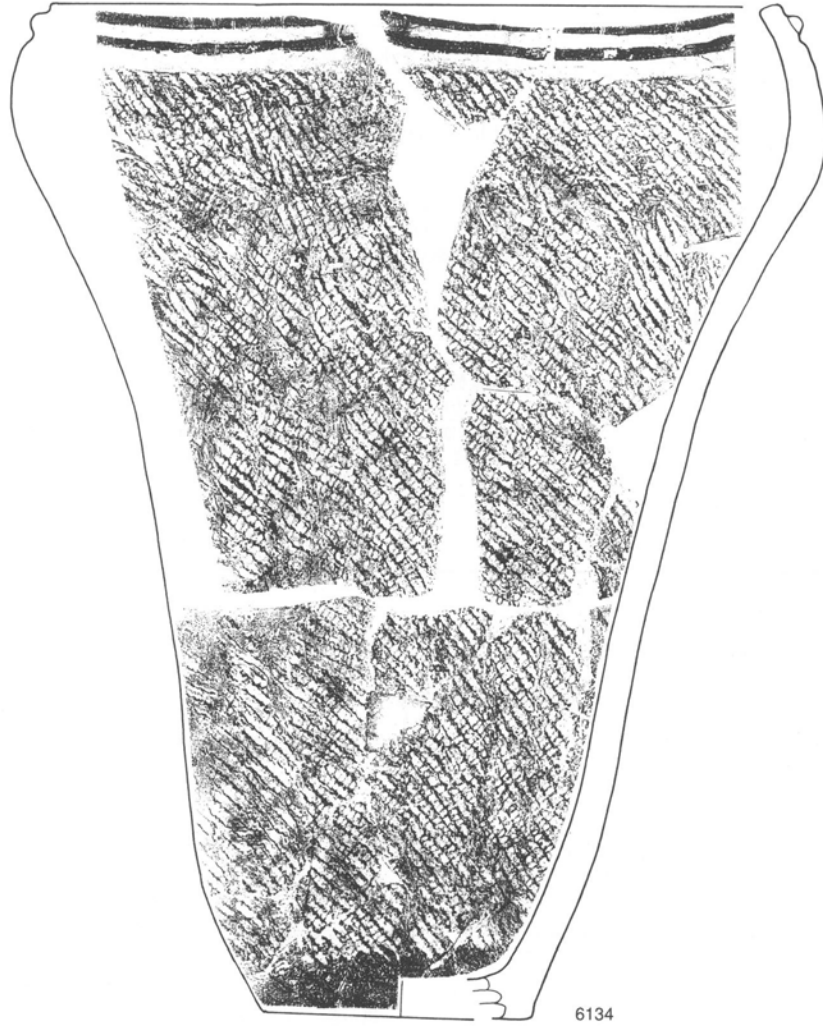
第394図 第1685号土坑・出土遺物実測図



6133



第395图 第1685号土坑出土遗物实测图(1)



第396図 第1685号土坑出土遺物実測図(2)

第1685号土坑出土遺物観察表(第394~396図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6133	縄文土器	深鉢	[30.7]	48.8	11.8	口縁部は隆帯によるV字状文。口唇部外面はLRの単節縄文。それ以外は燃糸文。	長石・石英	普通	橙	第4層上面	PL53 底部 網代痕
6134	縄文土器	深鉢	28.5	40.2	10.5	口唇部外面に沈線が沿う隆帯を巡らしている。LRの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	第4層上面	PL52



番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6135	縄文土器	深鉢	—	(9.3)	10.0	沈線による懸垂文。地文はL Rの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	底面	
6136	縄文土器	深鉢	—	(9.3)	6.8	R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	黒褐	底面	
6137	縄文土器	鉢	—	(8.2)	7.9	胴部は沈線文と沈線による鋸歯状文。地文はL Rの単節縄文で、縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	暗赤褐	覆土上層	内・外面赤彩 P L 53
6138	縄文土器	鉢	—	(6.2)	6.9	無文で、入念に研磨。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土上層	
TP6107	縄文土器	深鉢	—	(14.1)	—	口縁部は肥厚して、無文。胴部は櫛歯状工具による波状文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	覆土上層	
TP6108	縄文土器	深鉢	—	(6.5)	—	口唇部直下に押圧文を有する隆帯を巡らしている。櫛歯状工具による波状文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	覆土上層	
TP6109	縄文土器	深鉢	—	(15.2)	—	L Rの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土上層	

### 第1687号土坑（第397～400図）

**位置** 調査2区の北部，C3j6区。住居跡群域に位置する。

**重複関係** 南側を平安時代の第178号住居に掘り込まれている。第1686号土坑との新旧関係は，出土土器から本跡が古い。

**規模と形状** 開口部の平面形は，第178号住居と第1686号土坑に掘り込まれているため径1.26mの円形と推定される。底面は平坦で，平面形は径2.10mの円形である。深さは78cmで，壁は残存している北壁が内傾している。

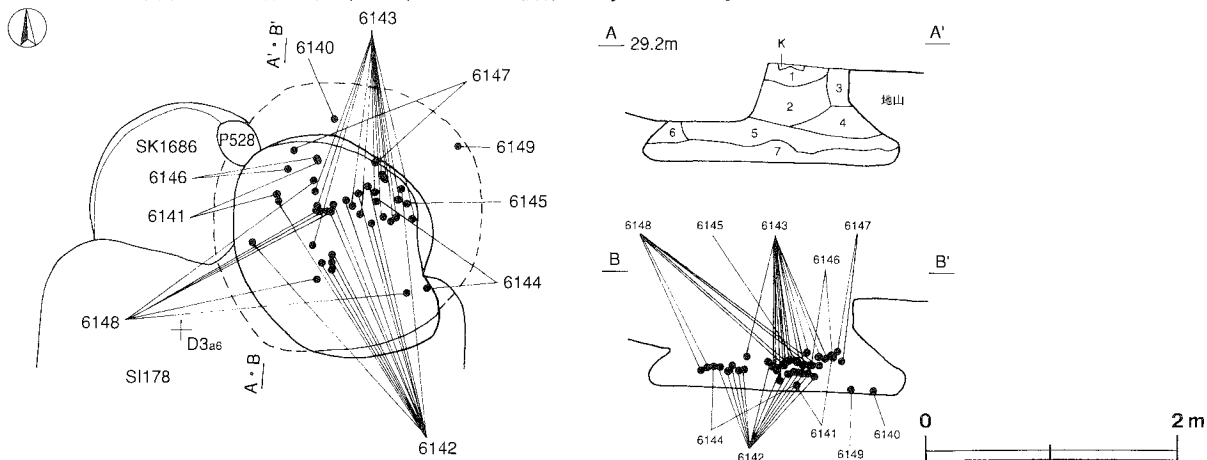
**覆土** 7層に分層される。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

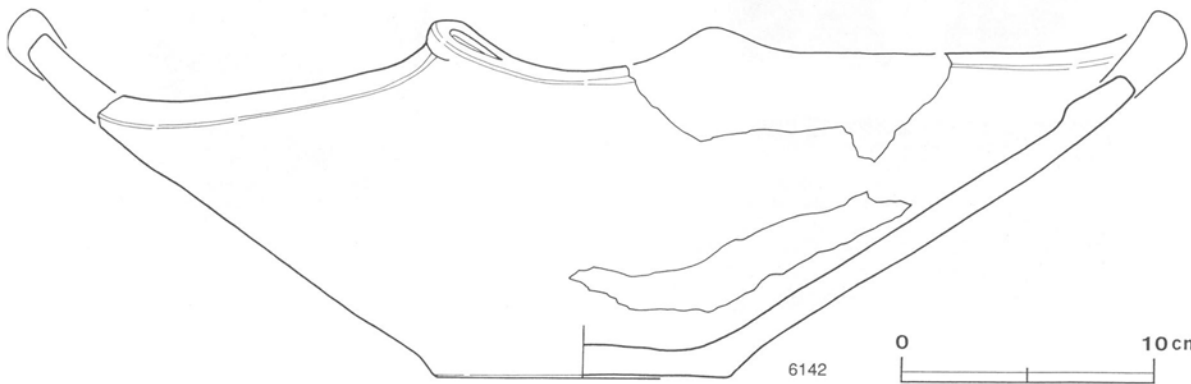
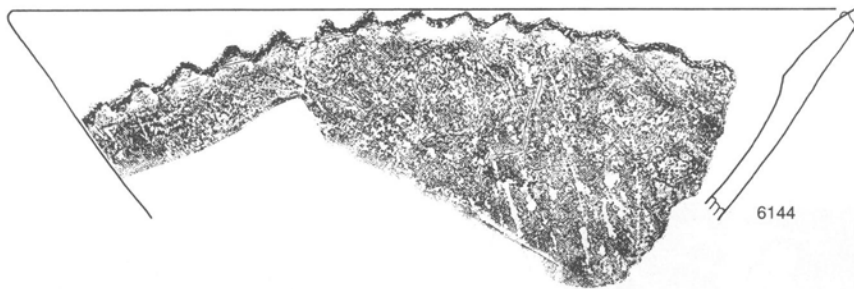
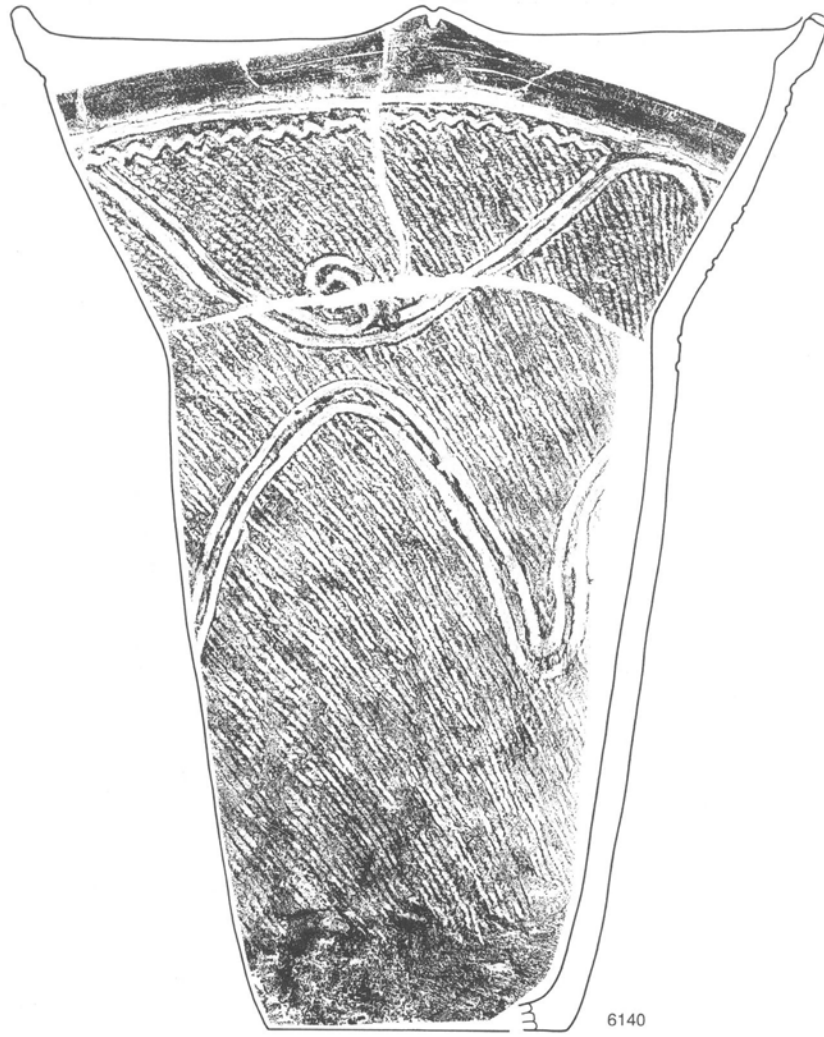
- |       |                  |       |                          |
|-------|------------------|-------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量          | 5 黒色  | ロームブロック・鹿沼バミス粒子少量，炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量        | 6 黒褐色 | ロームブロック・鹿沼バミスブロック少量      |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量        | 7 黒褐色 | ロームブロック中量，鹿沼バミス粒子少量      |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 |       |                          |

**遺物出土状況** 縄文土器片300点，磨石1点が出土している。主な遺物は底面から覆土下層にかけて廃棄されたような状態で出土している。6140の深鉢は底面から，6141の深鉢と6142・6143の浅鉢は覆土下層から破片が散在する状態で出土している。6146と6147の深鉢は，接合しないが同一個体である。

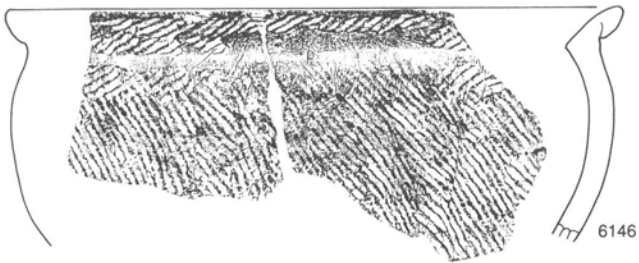
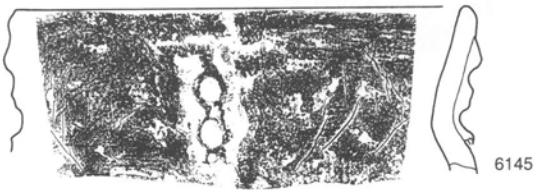
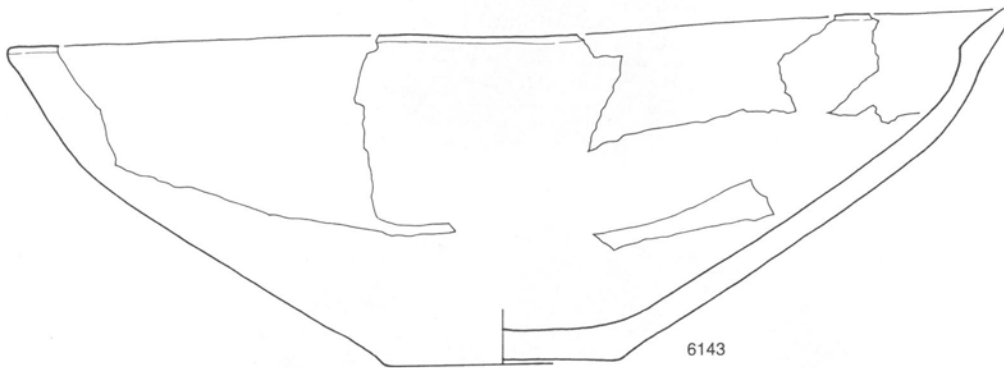
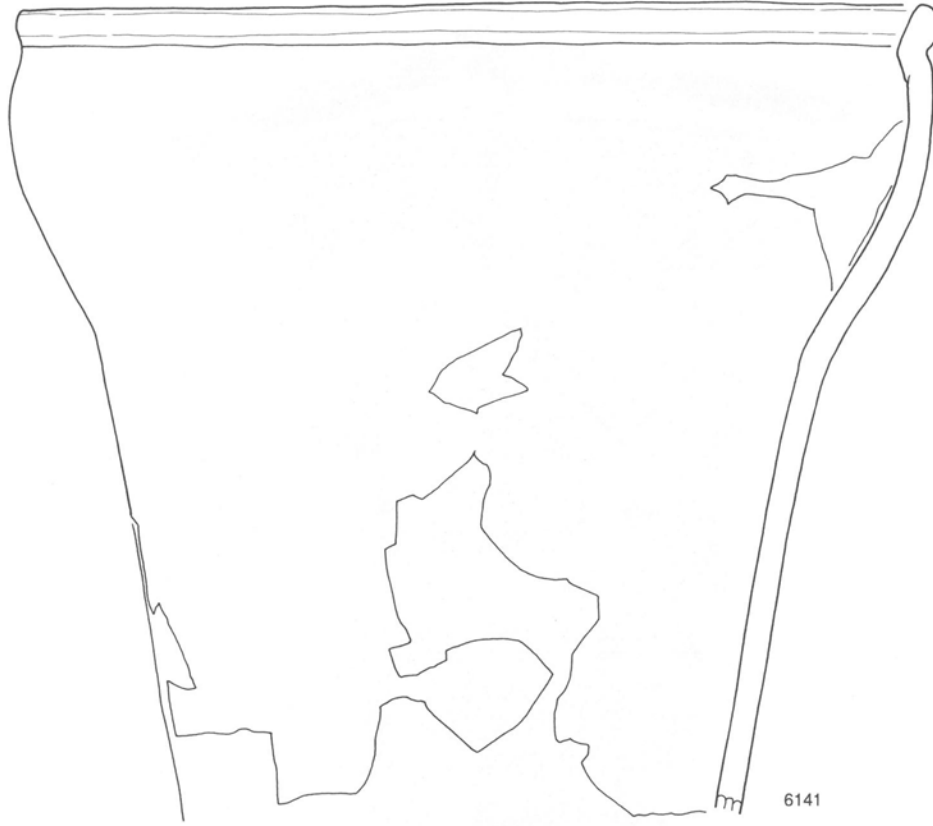
**所見** 底面から覆土下層にかけて遺物が集中し，一括廃棄されたことがうかがわれる。時期は，底面から出土した6140の深鉢から中期中葉（阿玉台Ⅱ～Ⅲ式期）と考えられる。



第397図 第1687号土坑出土遺物実測図



第398图 第1687号土坑出土遗物实测图（1）



第399图 第1687号土坑出土遺物実測図(2)



第400図 第1687号土坑出土遺物実測図(3)

第1687号土坑出土遺物観察表(第398~400図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6140	縄文土器	深鉢	[31.4]	40.3	11.8	口縁部と胴部に沈線による大振りの波状文を巡らしている。地文はLの無節縄文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐にぶい橙	底面	P L53
6141	縄文土器	深鉢	35.8	(32.1)	—	無文で、研磨。	長石・石英・雲母	普通	黒褐にぶい橙	覆土下層	
6142	縄文土器	浅鉢	[44.2]	14.6	11.5	無文で、入念に研磨。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土下層	P L53
6143	縄文土器	浅鉢	[39.2]	13.8	9.4	無文で、入念に研磨。	長石・石英・雲母	普通	暗赤褐	覆土下層	P L53
6144	縄文土器	鉢	[33.2]	(8.4)	—	口唇部外面に押圧文を施している。無文で、研磨。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土下層	
6145	縄文土器	深鉢	[17.8]	(6.5)	—	押圧文を有する隆帯を懸垂させている。	長石・石英	普通	にぶい赤褐	覆土下層	
6146	縄文土器	深鉢	[24.0]	(9.4)	—	Lの無節縄文を口唇部外面は横方向、それ以外は縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土下層	
6147	縄文土器	深鉢	[24.0]	(9.5)	—	Lの無節縄文を口唇部外面は横方向、それ以外は縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	覆土下層	
6148	縄文土器	深鉢	—	(12.5)	[11.5]	胴部に隆帯を懸垂させ、器面を4分割している。LRの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土下層	
6149	縄文土器	深鉢	—	(4.5)	9.8	無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	底面	底部網代痕

第1690号土坑(第401・402図)

位置 調査2区の北部、C3h9区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第175号住居と第1522号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 平面形は、第175号住居と第1522号土坑に掘り込まれているため、現状では長径2.48m、短径2.20mの楕円形である。底面はほぼ平坦である。確認面からの深さは41cmである。壁は直立しているが、北壁が土層断面から内傾することが確認されている。

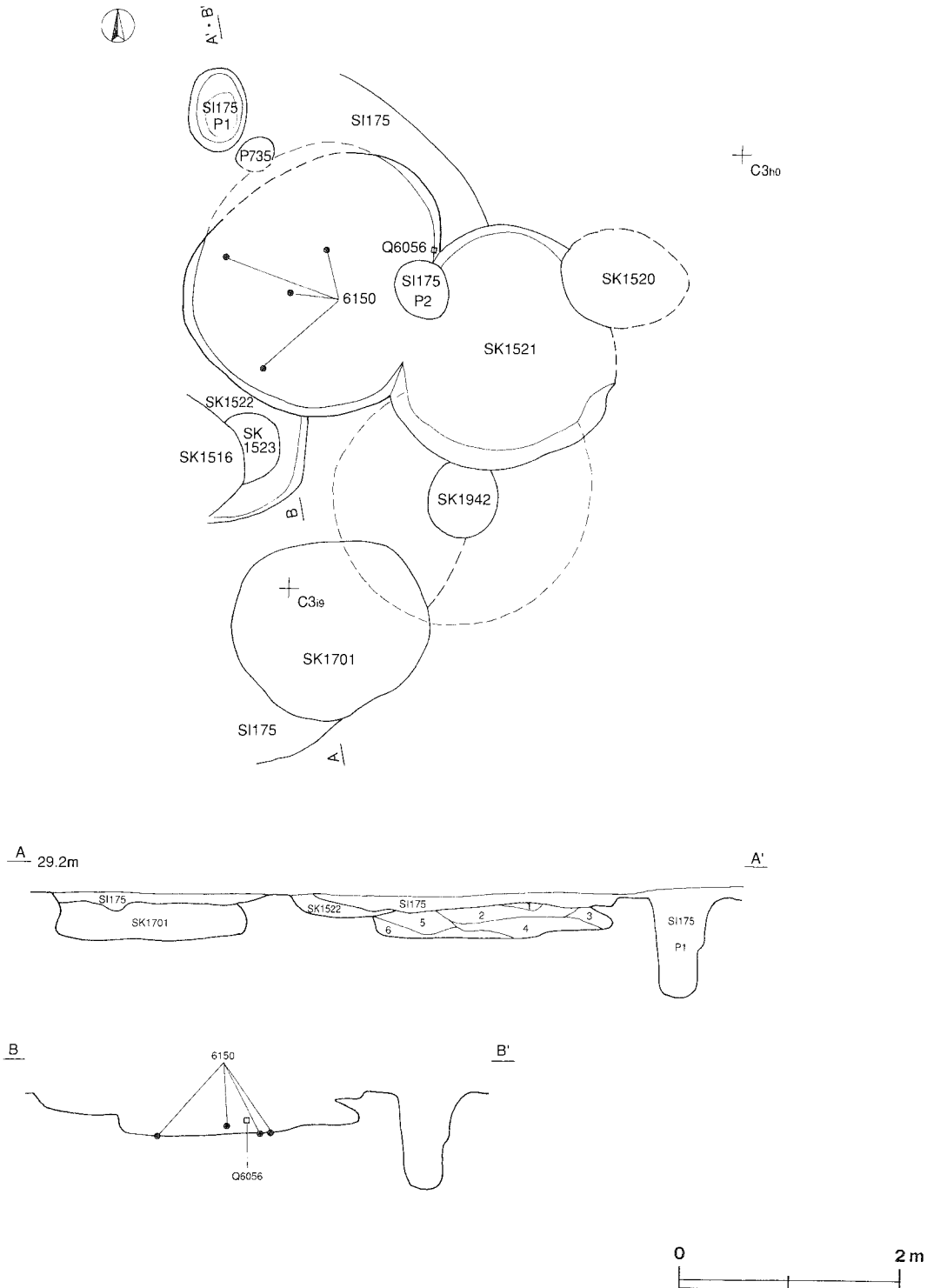
覆土 6層に分層される。第1・2層の上面は第175号住居の床面であり、踏み締まっている。第3・4層はロームブロックを多く含み、北壁側から堆積していることから、内傾する壁の崩落土と考えられる。第5・6層は、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

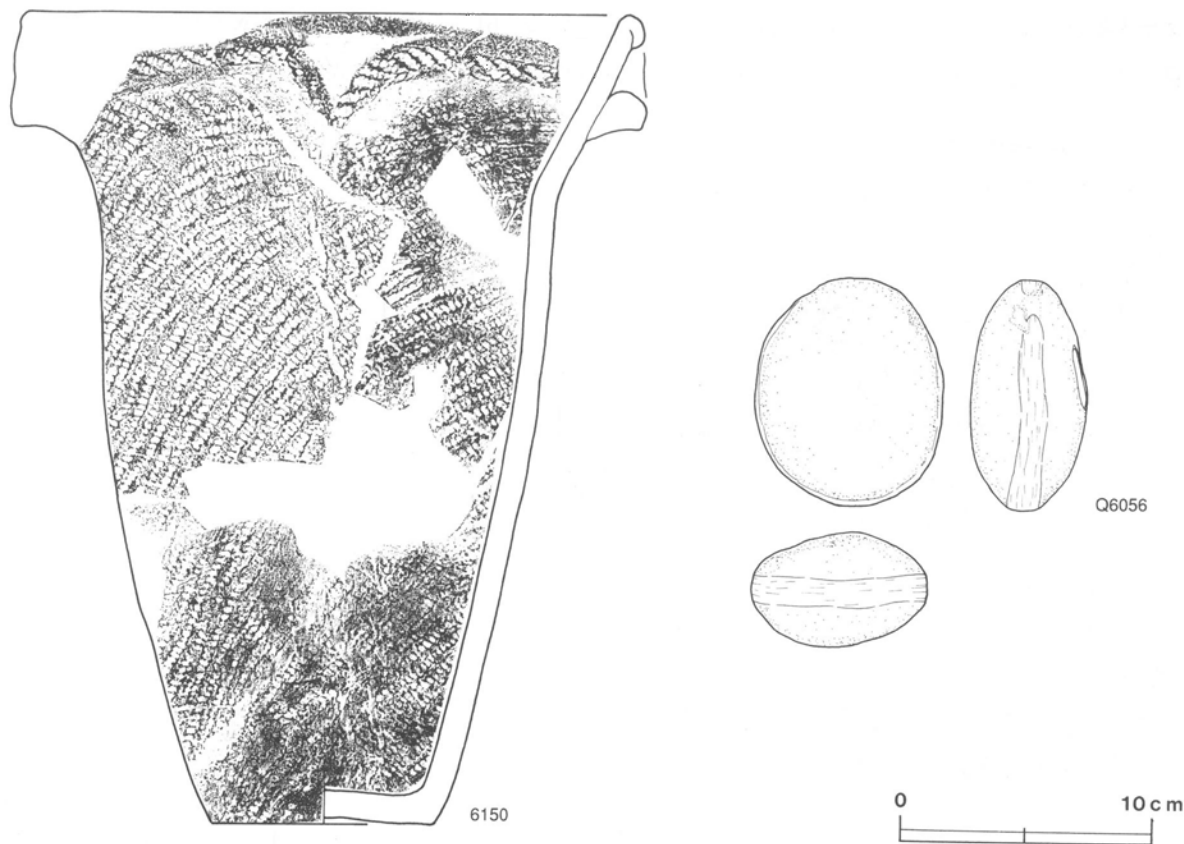
- |        |           |        |                      |
|--------|-----------|--------|----------------------|
| 1 黒褐色  | ローム粒子少量   | 4 暗褐色  | ロームブロック多量            |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子中量   | 5 極暗褐色 | ローム粒子少量              |
| 3 極暗褐色 | ロームブロック中量 | 6 極暗褐色 | ローム粒子中量, 第2層より締まりがない |

遺物出土状況 縄文土器片54点, 磨石1点が出土している。6150の深鉢は散在して底面から出土している。

所見 6150の深鉢は, 廃絶時に廃棄されたことがうかがえる。時期は, 6150の深鉢から中期中葉(阿玉台IV式期)と考えられる。



第401図 第1690号土坑実測図



第402図 第1690号土坑出土遺物実測図

第1690号土坑出土遺物観察表（第402図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6150	縄文土器	深鉢	23.3	32.1	8.8	口縁部は隆帯によるV字状文。R Lの単節縄文。V字状文下には綾線文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐にぶい赤褐	覆土下層	底部網代痕 P L 53

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q6056	磨石	9.0	7.5	4.6	431.6	砂岩	側縁に擦痕。	覆土下層	

### 第1697号土坑（第403図）

**位置** 調査2区の北部，C3j0区。住居跡群の外周域に位置する。

**重複関係** 第1696号土坑と第1699号土坑を掘り込み，第1698号土坑に掘り込まれている。

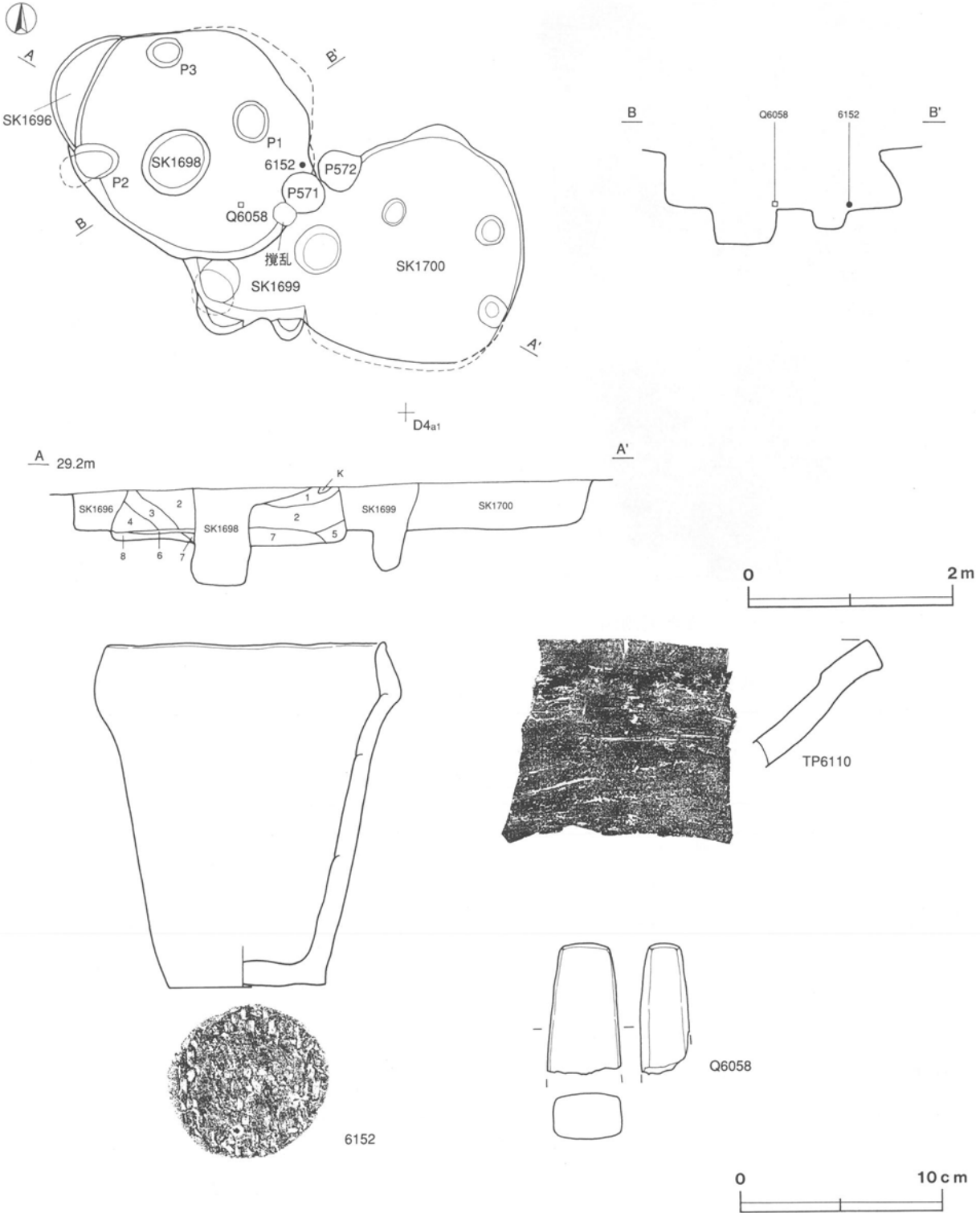
**規模と形状** 開口部の平面形は，土層断面から長径2.18m，短径2.08mの円形である。底面はほぼ平坦である。深さは57cmである。壁は南壁が直立しているが，土層断面から内傾していることが確認されている。ピットは3か所で，いずれも壁際に位置している。ピットの深さは，P1が19cm，P2が41cm，P3が27cmである。

**覆土** 8層に分層される。第7・8層はロームブロックを多く含み，内傾する壁の崩落土と考えられる。第1～6層は，レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- |       |                |        |                   |
|-------|----------------|--------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量        | 5 黒褐色  | ローム粒子中量，鹿沼バミス粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量        | 6 極暗褐色 | ローム粒子・鹿沼バミス粒子少量   |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 | 7 暗褐色  | ロームブロック中量         |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量      | 8 暗褐色  | ロームブロック多量         |

**遺物出土状況** 縄文土器片75点、磨製石斧1点が出土している。6152の深鉢は、覆土下層から出土している。  
**所見** 時期は、覆土下層から出土した6152の深鉢から中期中葉（阿玉台Ⅲ・Ⅳ式期）と考えられる。



第403図 第1697号土坑・出土遺物実測図

第1697号土坑出土遺物観察表（第403図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6152	縄文土器	深鉢	13.6	16.8	7.7	無文で、研磨。	長石・石英・雲母	普通	黒褐にぶい橙	覆土下層	底部網代痕

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP6110	縄文土器	浅鉢	—	(6.3)	—	無文で、研磨。	長石・石英・雲母	普通	暗赤褐	覆土下層	内面・口唇部赤彩

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q6058	磨製石斧	(6.3)	3.6	2.3	(93.6)	緑色凝灰岩	器体研磨入念。刃部欠損。	覆土下層	

### 第1698号土坑（第404・405図）

**位置** 調査2区の北部，C3j0区。住居跡群域に位置する。

**確認状況** 確認面では検出できず，土層断面と第1697号土坑の底面で確認した。

**重複関係** 第1697号土坑の中央部を掘り込んでいる。

**規模と形状** 平面形は，1697号土坑の底面では長径0.66m，短径0.59mのほぼ円形である。底面はほぼ平坦である。深さは96cmで，1697号土坑の底面からの深さは41cmである。壁は直立しているが，土層断面では東壁の上位が緩やかに外傾していることが確認されている。

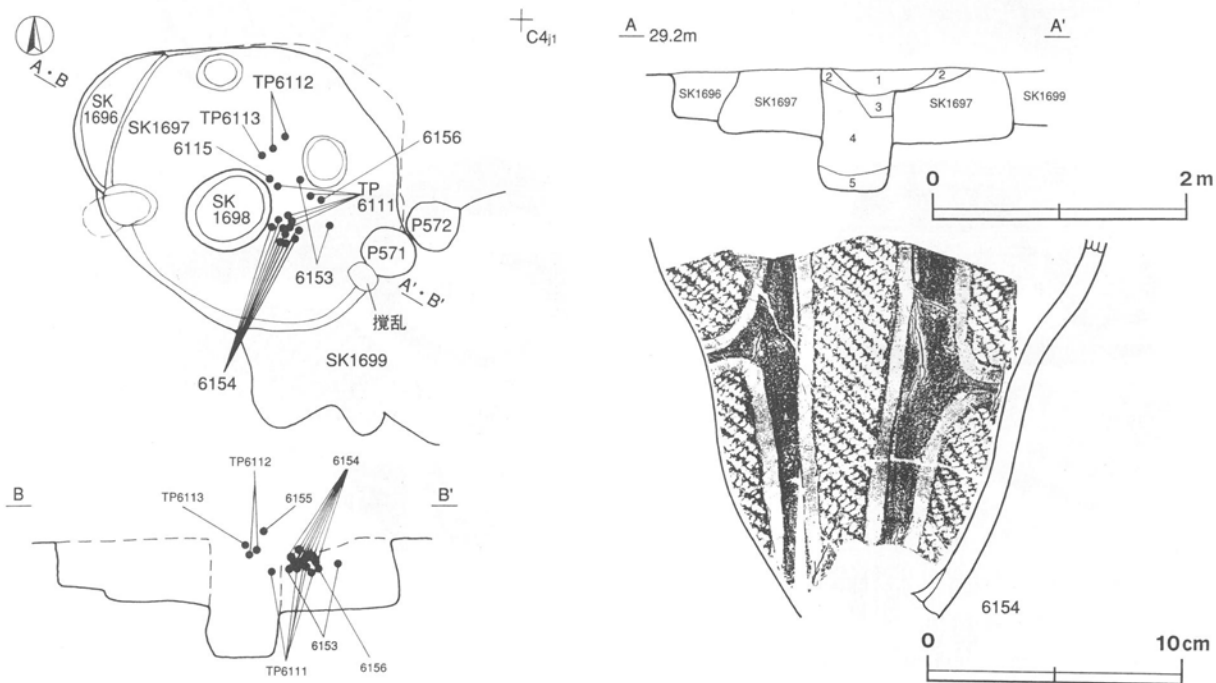
**覆土** 5層に分層される。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- |                      |                         |
|----------------------|-------------------------|
| 1 黒色 炭化粒子少量，ローム粒子微量  | 4 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量    |
| 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量   | 5 黒褐色 ロームブロック・鹿沼バミス粒子少量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |                         |

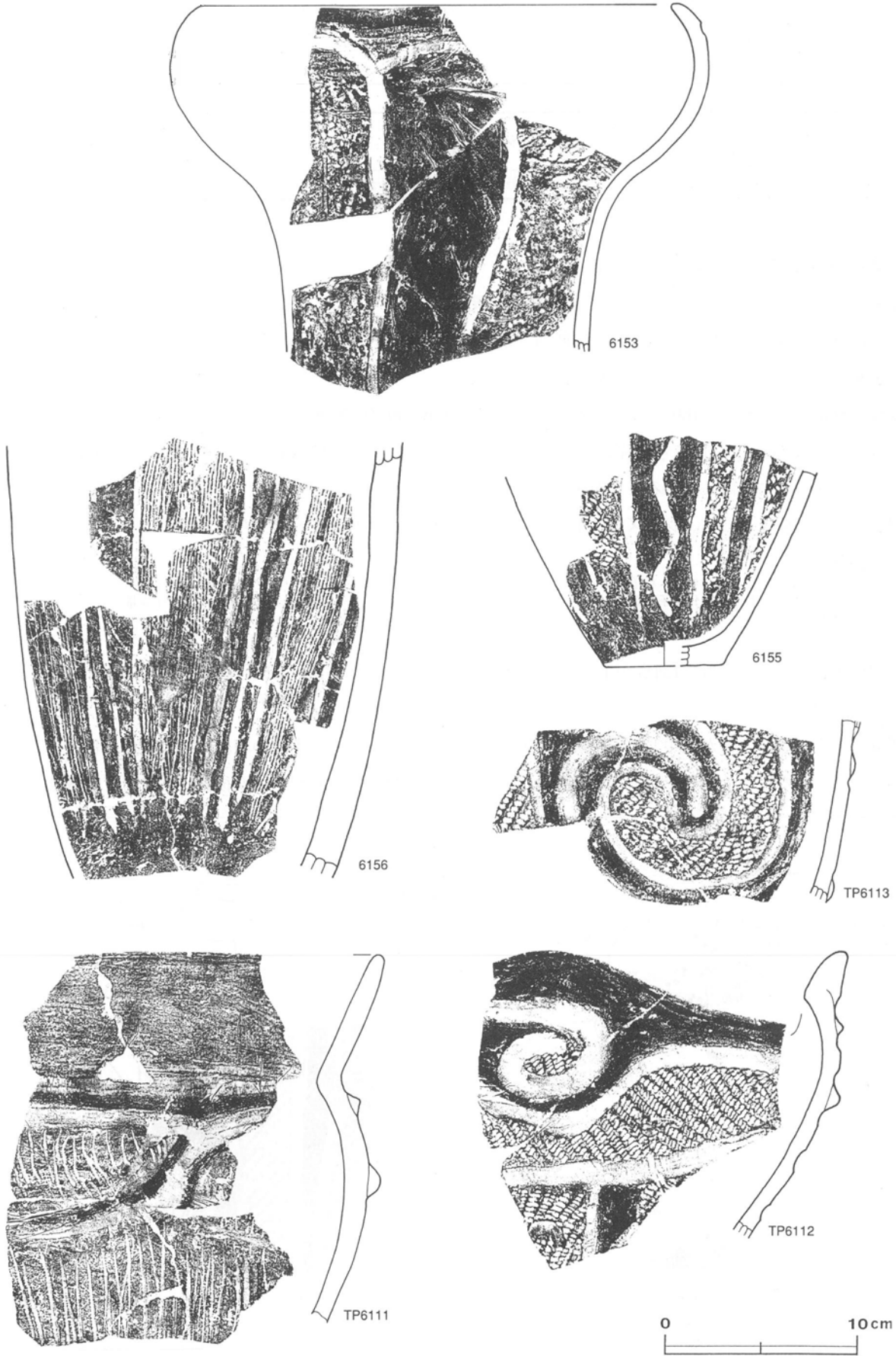
**遺物出土状況** 縄文土器片134点が主に覆土上層から出土している。6153・6154・6155・6156の深鉢片は覆土上層から出土している。

**所見** 覆土上層に土器が集中し，一括廃棄されたことがうかがわれる。本跡の廃絶時期は底面や覆土下層からの出土遺物がないため明確ではないが，覆土上層の堆積時期は出土土器から中期後葉（加曾利EⅢ式期）と考えられる。



第404図 第1698号土坑・出土遺物実測図





第405图 第1698号土坑出土遗物实测图

第1698号土坑出土遺物観察表（第404・405図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6153	縄文土器	深鉢	[24.6]	(18.1)	—	沈線により区画文を施し、区画文外を磨り消している。L Rの単節縄文。	長石・石英	良好	にぶい褐	覆土上層	
6154	縄文土器	深鉢	—	(15.0)	—	沈線により区画文を施し、区画文外を磨り消している。L Rの単節縄文。	長石・石英	普通	にぶい赤褐 橙	覆土上層	
6155	縄文土器	深鉢	—	(10.0)	[6.2]	沈線による懸垂文間を磨り消している。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	良好	にぶい褐	覆土上層	
6156	縄文土器	深鉢	—	(22.7)	—	沈線による懸垂文間を磨り消している。条線文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土上層	
TP6111	縄文土器	鉢	—	(19.2)	—	口縁部は無文。胴部上位は隆帯により文様を描出。条線文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい褐	覆土上層	
TP6112	縄文土器	深鉢	—	(14.9)	—	口縁部は波頂部下に隆帯による渦巻文。胴部は懸垂文間を磨り消す。R Lの単節縄文。	長石・石英	普通	にぶい黄褐	覆土上層	
TP6113	縄文土器	深鉢	—	(9.4)	—	2本一組の隆帯による渦巻文。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい褐	覆土上層	

第1701号土坑（第406・407図）

位置 調査2区の北部，C3i9区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第175号住居に掘り込まれている。

規模と形状 平面形は、第175号住居に掘り込まれているため、現状では長径1.72m、短径1.60mのほぼ円形である。底面はほぼ平坦である。確認面からの深さは40cmで、第175号住居の床面からの深さは34cmである。壁は外傾しているが、北壁と南壁の一部は内傾している。ピットは2か所で、壁寄りに位置している。ピットの深さは、P1が49cm、P2が39cmである。

覆土 2層に分層される。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

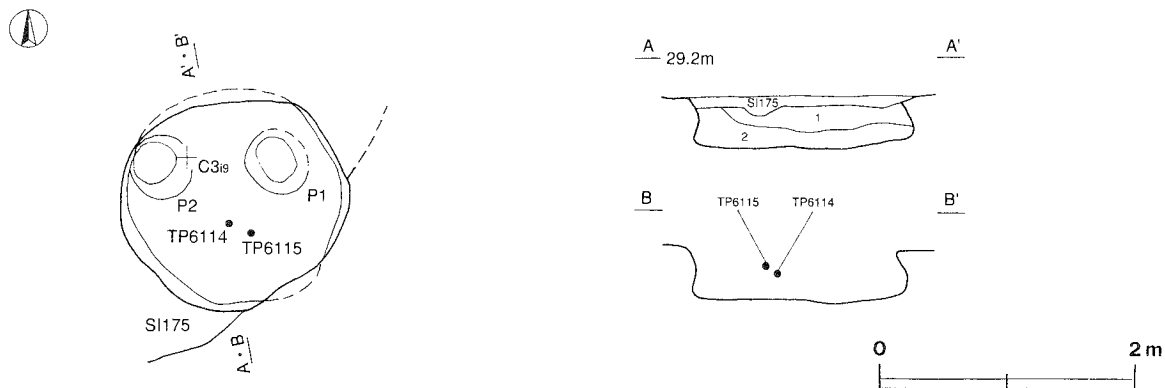
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

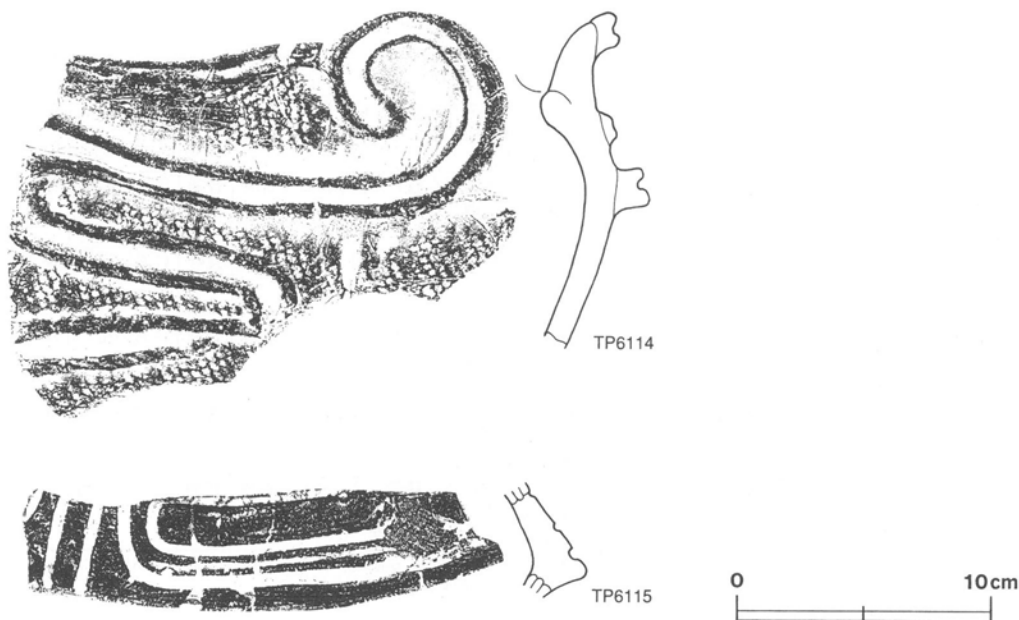
2 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片165点が出土している。出土土器の多くは廃棄されたような状態で覆土上層から出土している。TP6114の深鉢片とTP6115の浅鉢片は覆土上層（第1層）から出土している。

所見 覆土上層に遺物が集中し、一括廃棄されたことがうかがわれる。本跡の廃絶時期は底面や覆土下層からの出土遺物がないため明確ではないが、覆土上層の堆積時期は、その出土土器から中期後葉(加曾利E I式期)と考えられる。



第406図 第1701号土坑実測図



第407図 第1701号土坑出土遺物実測図

第1701号土坑出土遺物観察表（第407図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP6114	縄文土器	深鉢	—	(13.2)	—	背に沈線を有する隆帯と2本一組の隆帯により文様を描出。L・Rの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐にぶい褐	覆土上層	
TP6115	縄文土器	浅鉢	—	(4.5)	—	口縁部は沈線により文様を描出している。	長石・石英	普通	暗赤褐	覆土上層	内・外面赤彩

第1761号土坑（第408・409図）

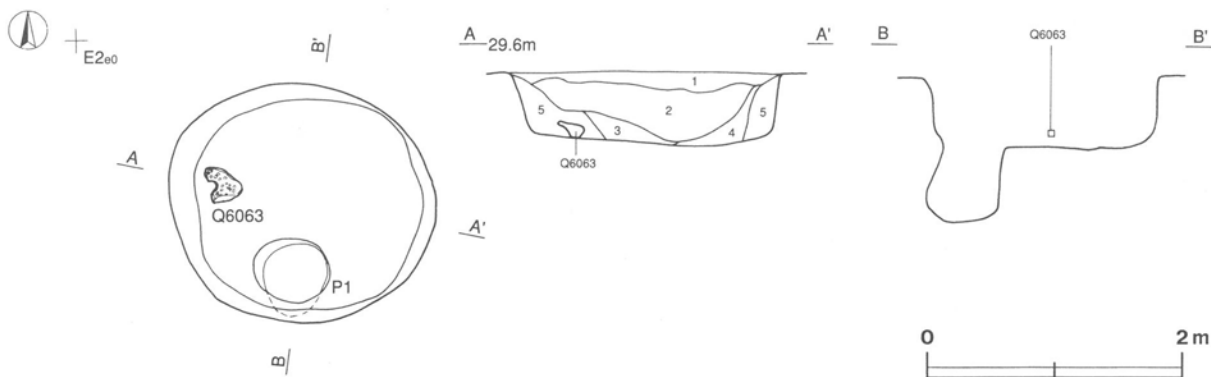
位置 調査2区の中央部，E2e0区。住居群の外周域に位置する。

規模と形状 平面形は，径2.12mの円形である。底面は平坦で，深さは58cmである。壁は西壁が外傾している以外は直立している。

覆土 5層に分層される。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

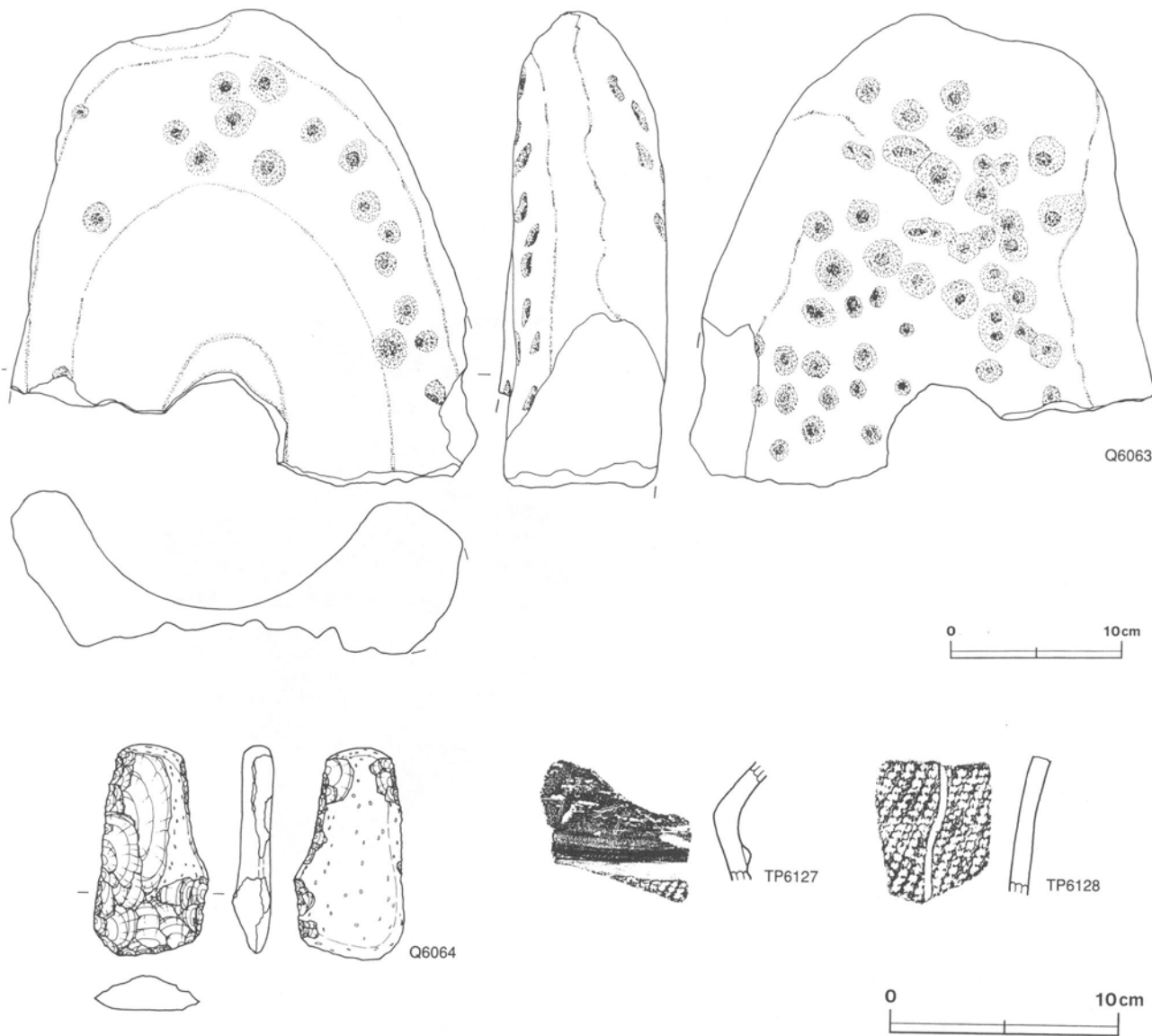
- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量，第2層より色調が明るい
- 5 褐色 ロームブロック多量



第408図 第1761号土坑出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片21点、石皿1点、打製石斧1点が出土している。Q6063の石皿は覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。



第409図 第1761号土坑出土遺物実測図

第1761号土坑出土遺物観察表（第409図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP6127	縄文土器	鉢	—	(5.3)	—	口縁部は無文。隆帯により文様を描出。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土	
TP6128	縄文土器	深鉢	—	(6.1)	—	沈線による懸垂文。R L Rの複節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	黒褐	覆土	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q6063	石皿	(27.8)	27.4	9.9	(5634.6)	安山岩	表面に皿状のくぼみを有する。凹石に併用。欠損。	覆土下層	P L 61
Q6064	打製石斧	9.3	5.0	1.6	92.3	緑色凝灰岩	片面調整。表面の一部と裏面に原石面を残す。	覆土下層	P L 60

第1771号土坑（第410図）

位置 調査2区の中央部，E3c4区。住居跡群の外周域に位置する。

規模と形状 平面形は長径2.34m，短径2.06mの楕円形である。底面は鹿沼パミス層中で，ほぼ平坦である。深さは71cmで，壁は直立する。ピットは1か所で，東壁際に位置している。

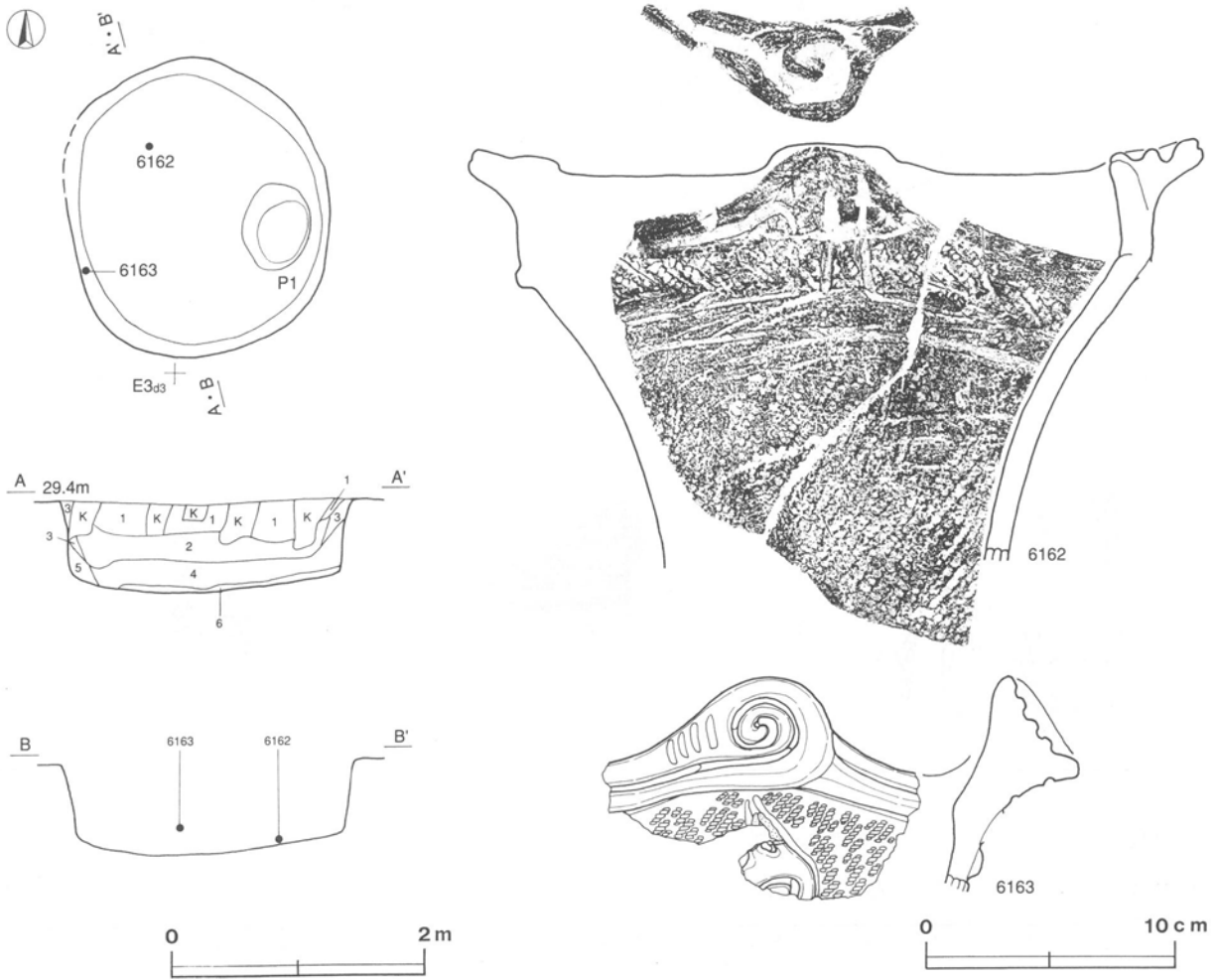
覆土 6層に分層される。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

- |       |                     |       |                       |
|-------|---------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量   | 4 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子・焼土粒子微量   |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量             | 6 暗褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子・焼土粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片124点が出土している。6162と6163の深鉢片は覆土下層から出土している。

所見 時期は，覆土下層から出土した6162と6163の深鉢片から中期後葉（加曽利E I式期）と考えられる。



第410図 第1771号土坑・出土遺物実測図

第1771号土坑出土遺物観察表（第410図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6162	縄文土器	深鉢	[22.6]	(16.8)	—	口唇部外面に渦巻文を施す突起を有する。口縁部は隆帯により文様を描出。RLの単節縄文。	長石・石英	普通	黒褐にぶい橙	覆土下層	
6163	縄文土器	深鉢	—	(8.9)	—	波頂部下に隆帯による渦巻文。口縁部は沈線に沿う隆帯文により描出。地文はRLの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土下層	

第1772号土坑（第411・412図）

位置 調査2区の中央部，E3e2区。住居跡群の外周域に位置する。

規模と形状 平面形は，長径2.18m，短径1.96mの楕円形である。底面はほぼ平坦で，深さは118cmである。壁はほぼ直立し，西壁の一部だけが内傾している。

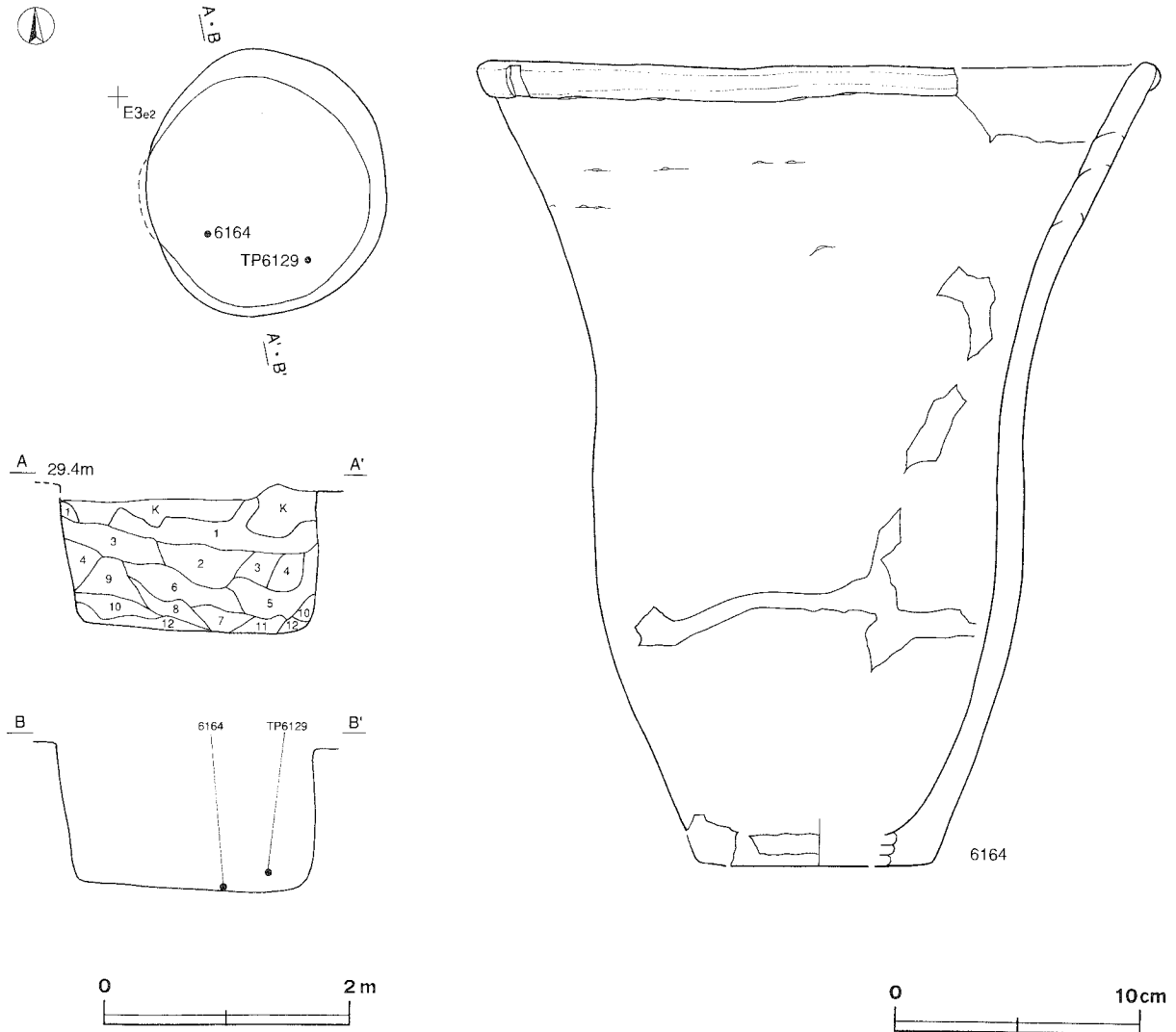
覆土 12層に分層される。第4～12層は，ロームブロックを含む層がレンズ状あるいは凸状に堆積していることから，壁の崩落を繰り返しながら自然堆積したものと考えられる。第1～3層は，レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

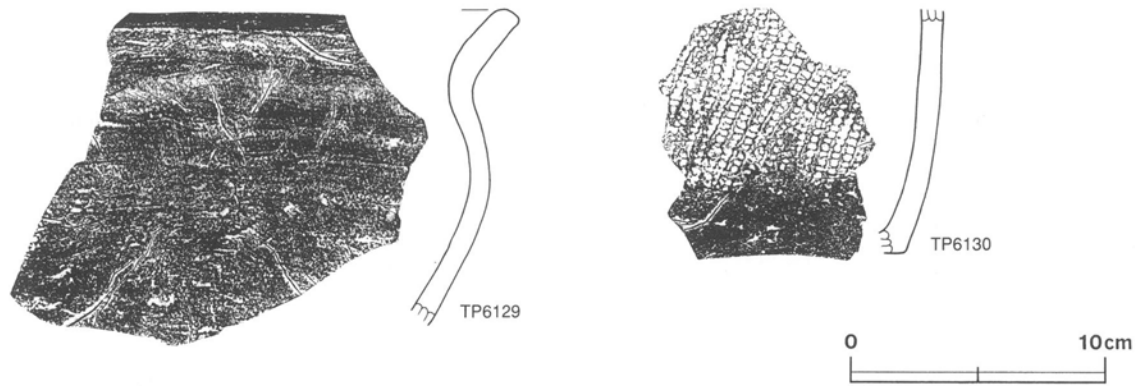
1 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック少量，鹿沼バミス粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック少量，鹿沼バミス粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック中量
4 褐色	ロームブロック少量	10 暗褐色	ロームブロック少量
5 褐色	ローム粒子中量	11 暗褐色	ロームブロック中量
6 暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子微量	12 褐色	ロームブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片43点が出土している。6164の深鉢は底面から横位の状態で出土している。

所見 時期は，底面から出土している6164の深鉢から中期後葉（加曽利 E I 式期）と考えられる。



第411図 第1772号土坑・出土遺物実測図



第412図 第1772号土坑出土遺物実測図

第1772号土坑出土遺物観察表（第411・412図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6164	縄文土器	深鉢	26.0	33.2	[8.4]	無文で、研磨。	長石・石英	普通	褐灰橙	底面	P L 53
TP6129	縄文土器	鉢	—	(12.0)	—	無文で、研磨。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土下層	口縁部内・外面赤彩
TP6130	縄文土器	深鉢	—	(9.6)	—	R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土	

第1814号土坑（第413・414図）

**位置** 調査2区の南部，E 3 g7区。住居跡群の外周域に位置する。

**重複関係** 第1815号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 平面形は、径1.14mの不整形円形である。底面はほぼ平坦である。深さは52cmで、壁は直立する。

第1815号土坑と重複している北東壁はテラス状になっている。

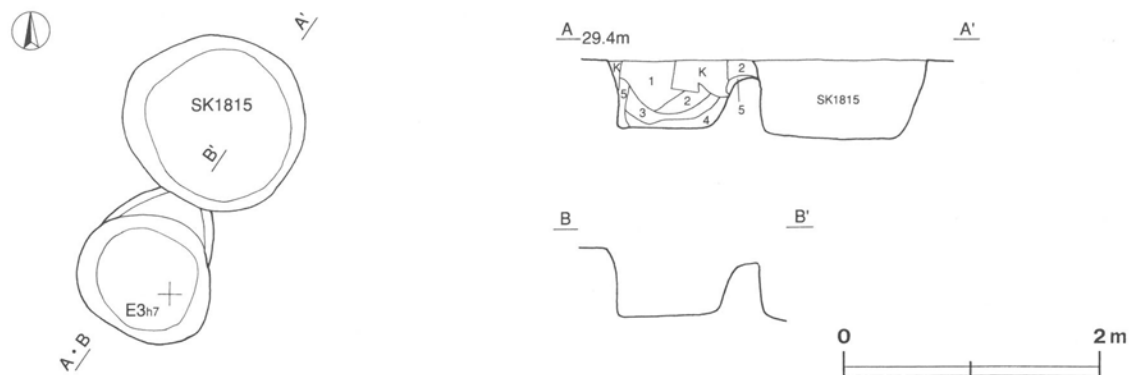
**覆土** 5層に分層される。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

**土層解説**

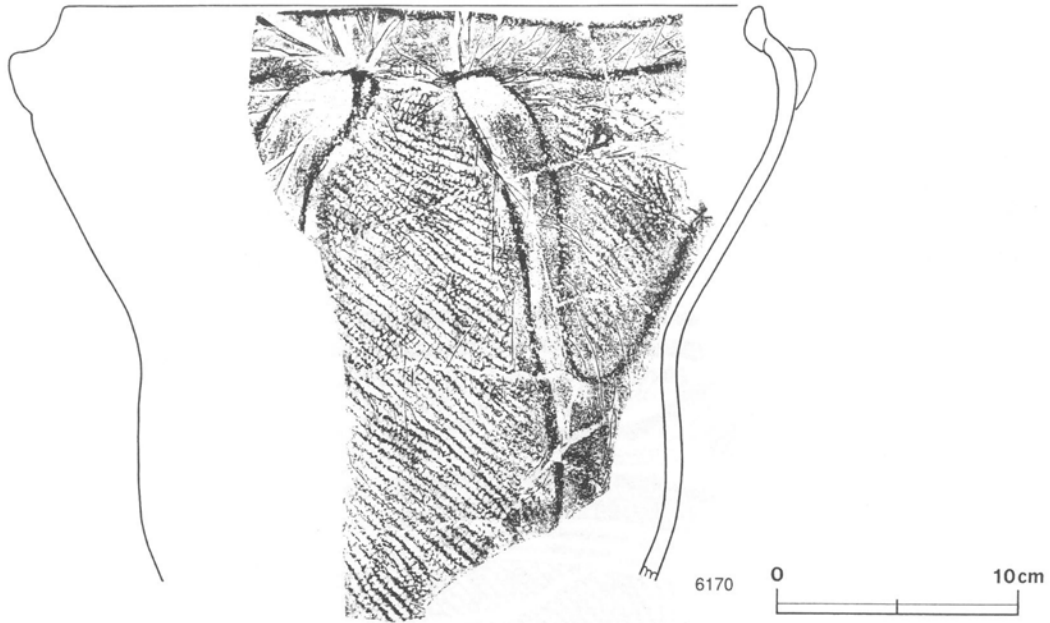
- |       |                |       |           |
|-------|----------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化物微量    | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 | 5 褐色  | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量        |       |           |

**遺物出土状況** 縄文土器片13点が出土している。6170の深鉢片は覆土から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利 E IV 式期）と考えられる。



第413図 第1814号土坑実測図



第414図 第1814号土坑出土遺物実測図

第1814号土坑出土遺物観察表 (第414図)

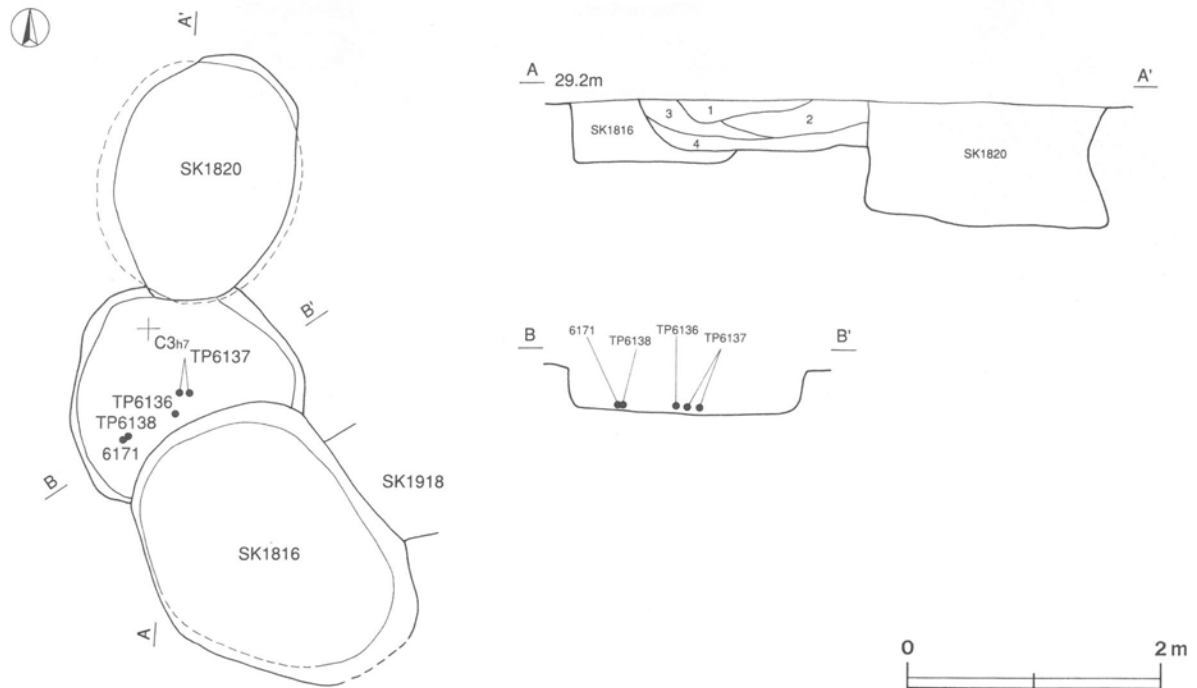
番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6170	縄文土器	深鉢	[29.0]	(24.0)	—	微隆帯により文様を描出している。区画文内にL Rの単節縄文を充填している。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土	

第1817号土坑 (第415・416図)

位置 調査2区の北部, C3h7区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1816号土坑を掘り込み, 第1820号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 平面形は, 第1820号土坑に掘り込まれているため, 径1.86mの円形と推定される。底面はほぼ平



第415図 第1817号土坑実測図



坦である。深さは38cmで、壁はほぼ直立する。

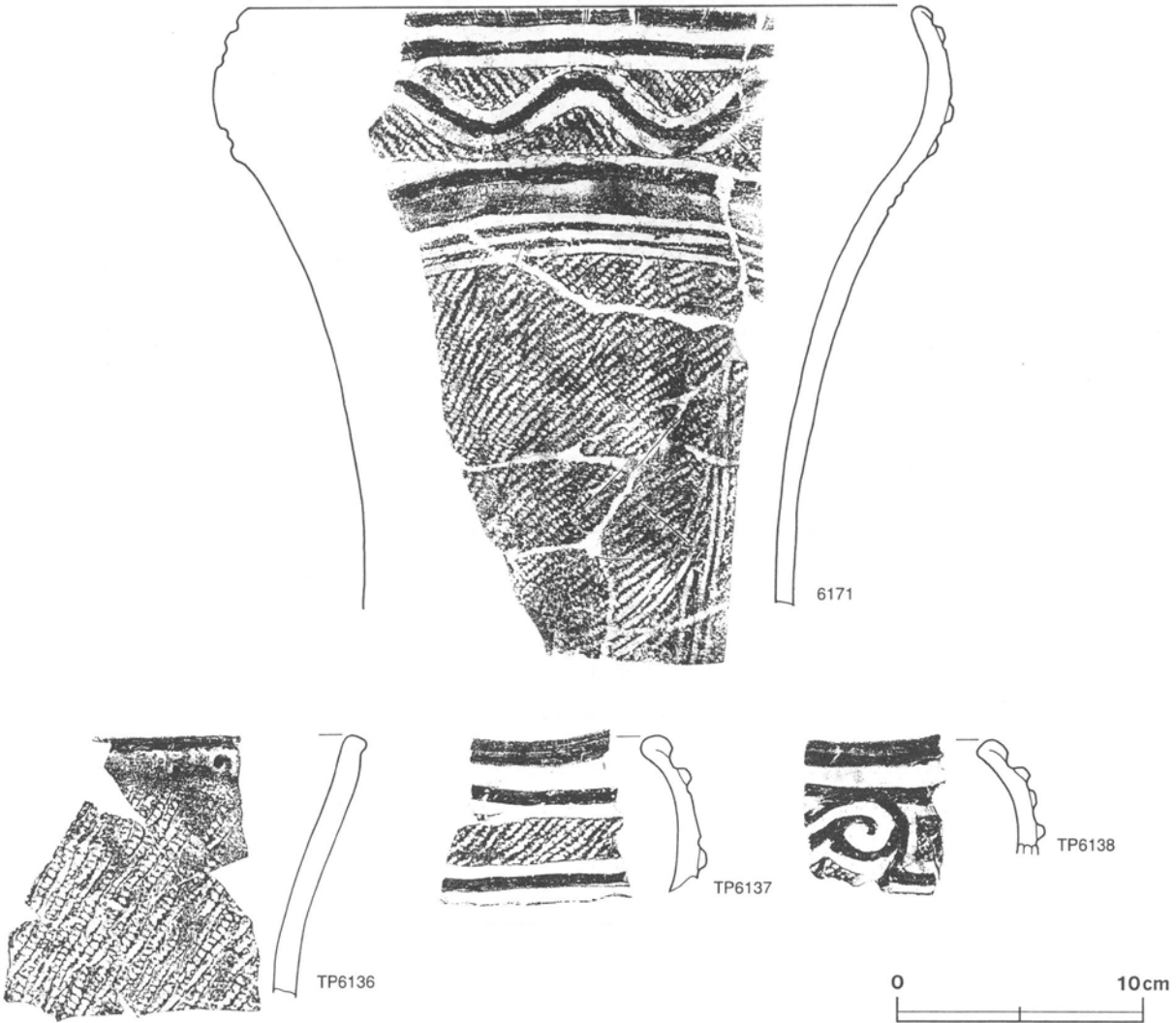
**覆土** 4層に分層される。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

**土層解説**

- |        |                 |        |           |
|--------|-----------------|--------|-----------|
| 1 黒褐色  | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 3 黒褐色  | ロームブロック微量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック少量       | 4 極暗褐色 | ローム粒子中量   |

**遺物出土状況** 縄文土器片73点が出土している。6171の深鉢片は覆土下層から出土している。

**所見** 時期は、覆土下層から出土している6171の深鉢片から中期後葉（加曾利 E I 式期）と考えられる。



第416図 第1817号土坑出土遺物実測図

第1817号土坑出土遺物観察表（第416図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6171	縄文土器	深鉢	[27.6]	(24.5)	—	口縁部は隆帯による波状文。頸部は無文。胴部は沈線により文様を描出。RLの単節縄文。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土下層	
TP6136	縄文土器	深鉢	—	(10.7)	—	RLの単節縄文を縦方向に施文している。	長石・石英	普通	にぶい赤褐	覆土下層	
TP6137	縄文土器	深鉢	—	(6.4)	—	沈線が沿う隆帯により文様を描出している。RLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい褐	覆土下層	
TP6138	縄文土器	深鉢	—	(4.6)	—	沈線が沿う隆帯による渦巻文。LRの単節縄文を横方向に施文。	長石・石英	普通	橙	覆土下層	

第1821号土坑 (第417・418図)

位置 調査2区の北部, D3a5区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1822土坑に東側を掘り込まれている。第1848号土坑と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と形状 開口部の平面形は, 径1.96mの円形である。底面はほぼ平坦で, 平面形は径2.26mの円形である。深さは96cmで, 壁は内傾している。ピットは5か所で, いずれも壁際に位置している。ピットの深さは, P1が38cm, P2が45cm, P3が32cm, P4が38cm, P5が25cmである。

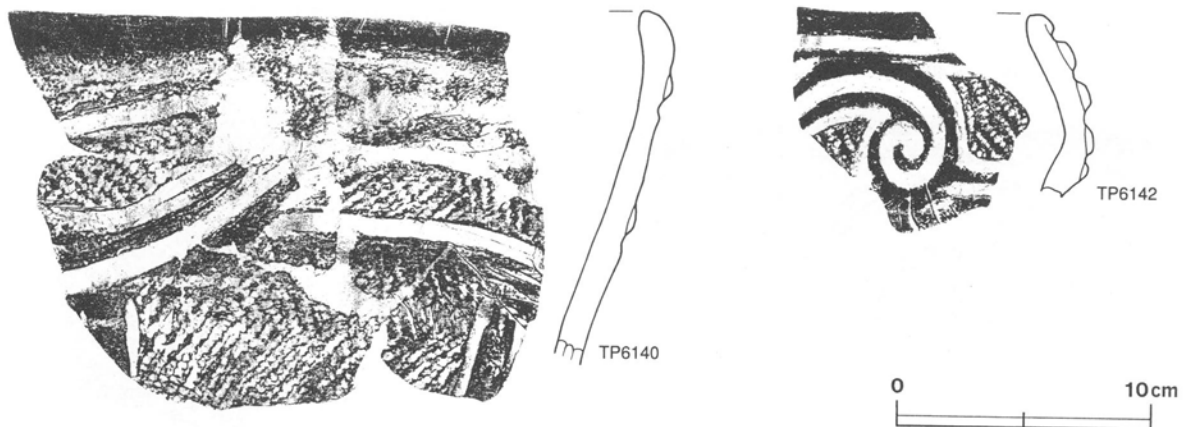
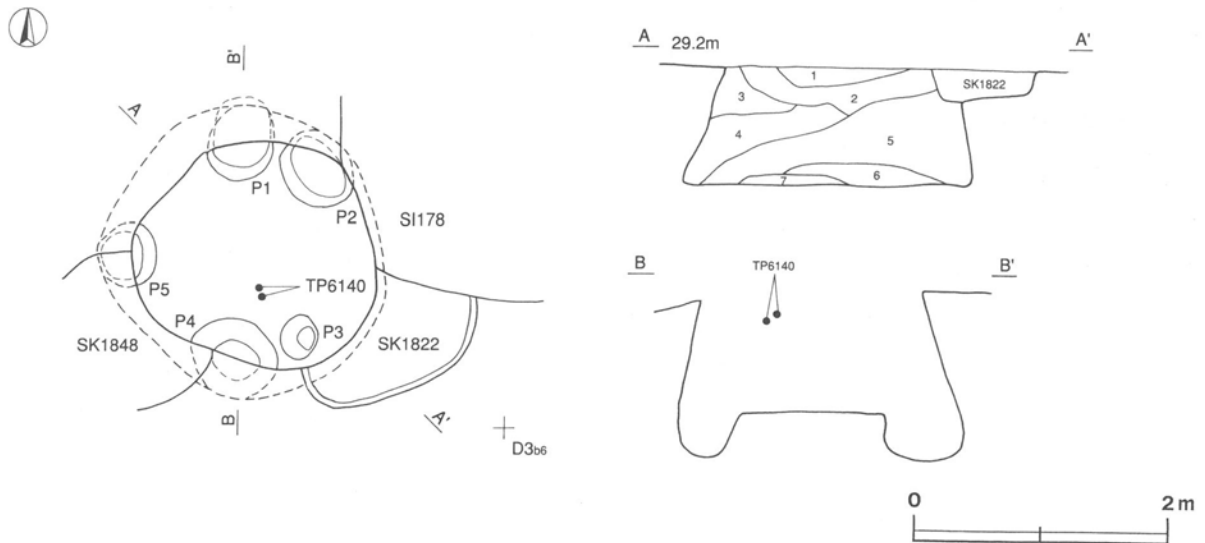
覆土 7層に分層される。第6・7層が底面中央部に凸状に堆積している以外は, レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

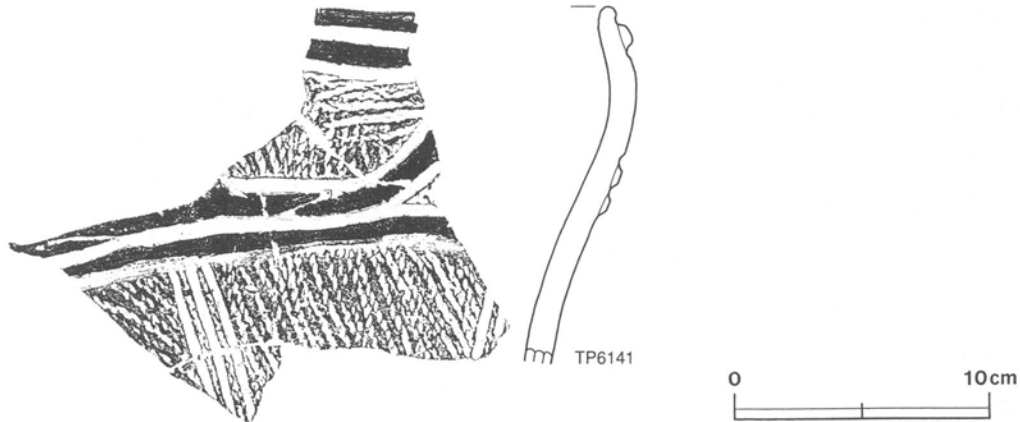
- |       |                  |       |                     |
|-------|------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量          | 5 暗褐色 | ロームブロック・鹿沼バミスブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量        | 6 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量    |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量          | 7 褐色  | ローム粒子少量             |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量 |       |                     |

遺物出土状況 縄文土器片104点, 剥片1点が覆土から出土している。TP6140の深鉢片は覆土上層から出土している。

所見 廃絶時期は底面や覆土下層から出土している遺物がないため明確にはできないが, 覆土上層の堆積時期は, 出土土器から中期後葉(加曾利E II式期)と考えられる。



第417図 第1821号土坑・出土遺物実測図



第418図 第1821号土坑出土遺物実測図

第1821号土坑出土遺物観察表（第417・418図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP6140	縄文土器	深鉢	—	(13.9)	—	口縁部は隆帯により文様を描出。胴部は沈線による懸垂文間を磨り消す。RLの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土上層	
TP6141	縄文土器	深鉢	—	(14.1)	—	口縁部は2本一組の隆帯により文様を描出。胴部は沈線による懸垂文。燃糸文。	長石・石英	良好	灰褐	覆土	
TP6142	縄文土器	深鉢	—	(7.3)	—	沈線が沿う隆帯による渦巻文。RLの単節縄文を横方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土	外面スス附着

第1829号土坑（第419～421図）

位置 調査2区の北部、D3a8区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1830号土坑の西側を掘り込み、第217・218号住居と第1831号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 平面形は、第217号住居と第1831号土坑に掘り込まれているため、現状では長径2.16m、短径1.62mの楕円形である。底面はほぼ平坦である。確認面からの深さは68cmで、第217号住居の底面からの深さは54cmである。壁は内傾している。ピットは1か所で、北壁寄りに位置している。P1の深さは25cmである。

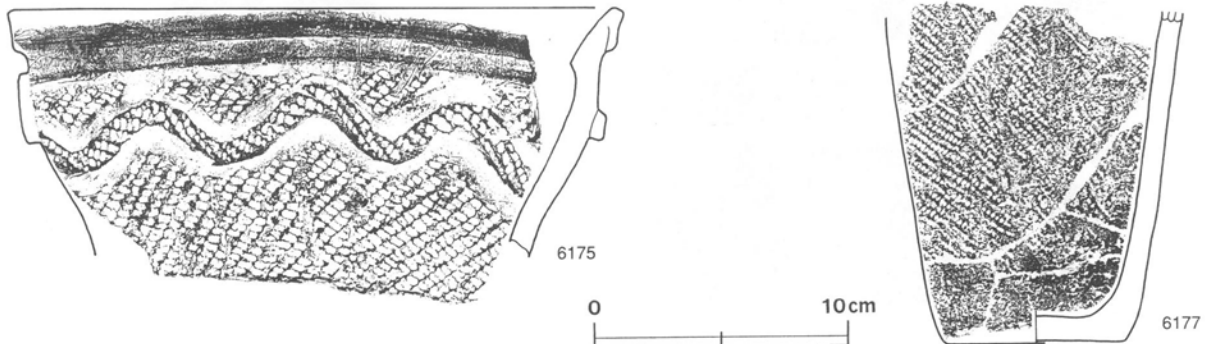
覆土 5層に分層される。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

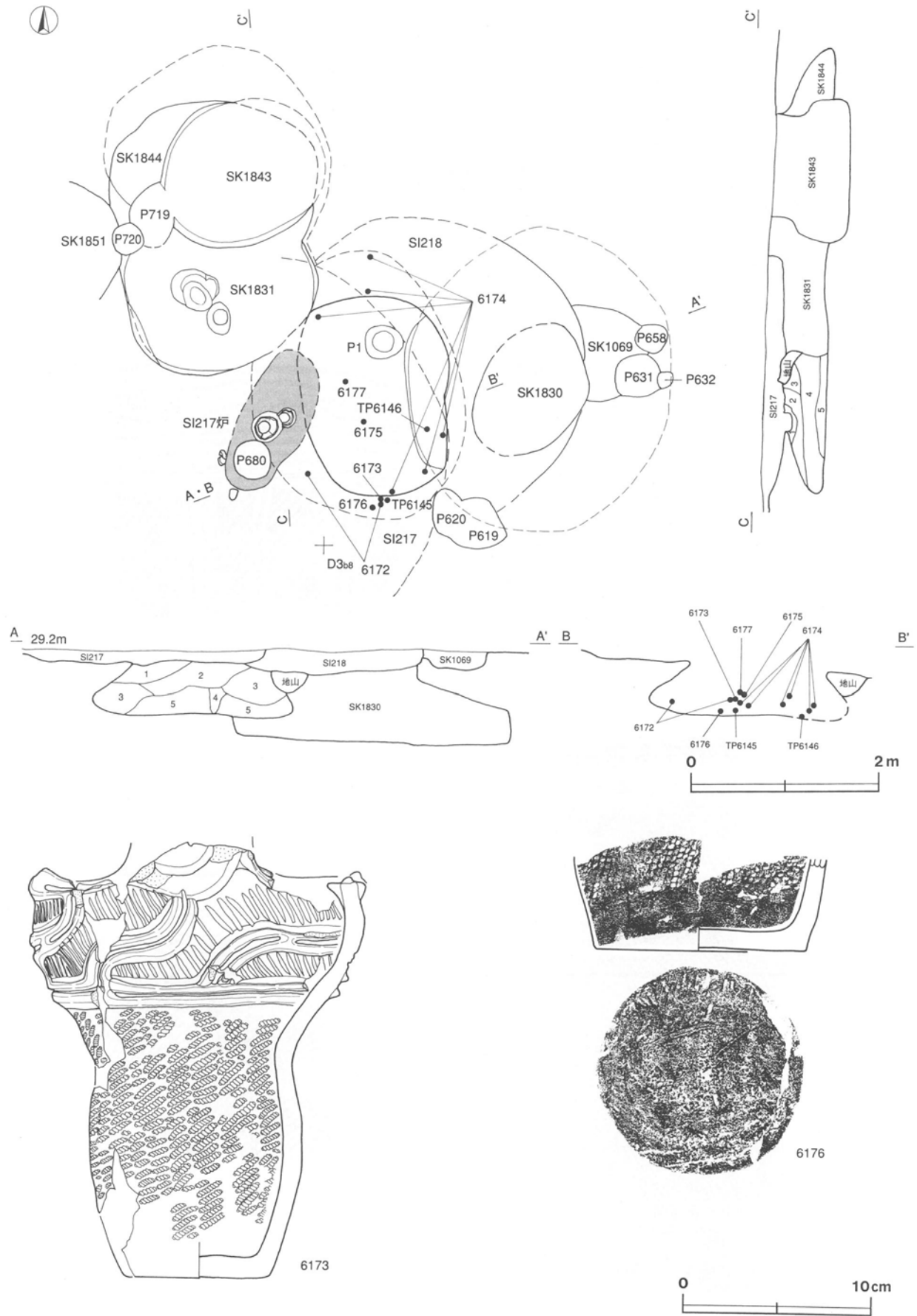
- |        |                |       |         |
|--------|----------------|-------|---------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック中量      | 4 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色  | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子多量 |
| 3 暗褐色  | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |       |         |

遺物出土状況 縄文土器片57点が、主に覆土下層から廃棄されたような状態で出土している。6172と6173の深鉢は壁際の覆土下層から、6174の深鉢は覆土下層から破片が散在している状態で出土している。

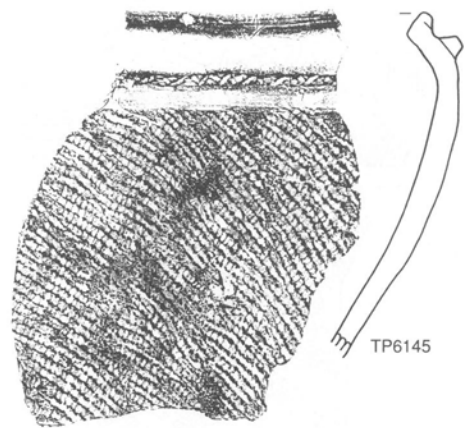
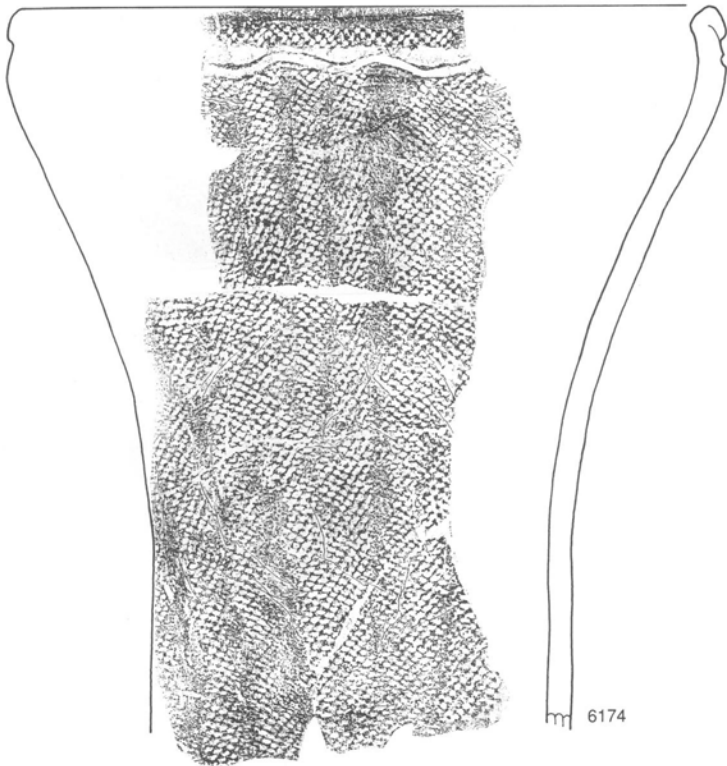
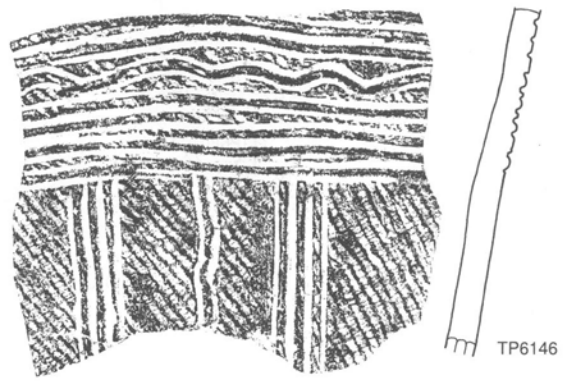
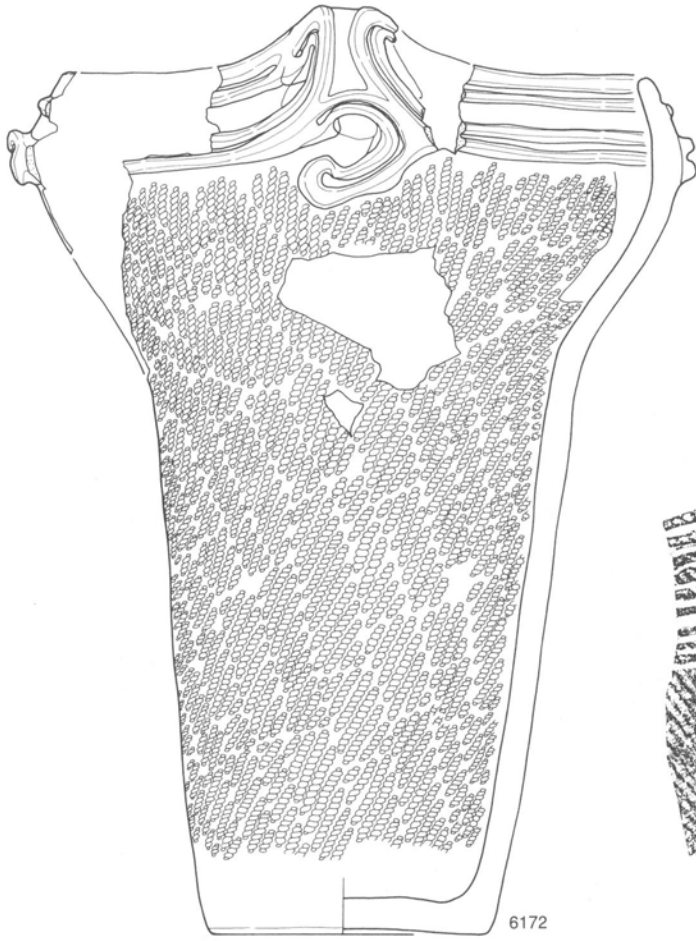
所見 時期は、覆土下層から出土している6172と6173の深鉢から中期後葉（加曾利E I式期）と考えられる。



第419図 第1829号土坑出土遺物実測図（1）



第420图 第1829号土坑·出土遗物实测图



第421图 第1829号土坑出土遗物实测图(2)

第1829号土坑出土遺物観察表（第419～421図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6172	縄文土器	深鉢	[23.1]	36.6	10.8	口縁部は眼鏡状把手と背に沈線を有する隆帯文。RLの単節縄文を縦方向に施す。	長石	普通	黒褐にぶい橙	覆土下層	P L 54
6173	縄文土器	深鉢	[16.6]	(23.1)	7.7	口縁部は2本一組の隆帯により描出し、縦位の沈線を充填している。胴部はRLの単節縄文。	長石・石英	普通	黒褐にぶい赤褐	覆土下層	P L 54
6174	縄文土器	深鉢	[27.0]	(28.7)	—	口縁部は沈線による波状文。RLの単節縄文を、口唇部外面に横方向、それ以外は縦方向に施す。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	覆土下層	
6175	縄文土器	深鉢	[23.8]	(9.8)	—	口縁部は隆帯による波状文を施している。RLの単節縄文を縦方向に施す。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	覆土下層	
6176	縄文土器	深鉢	—	(5.0)	11.2	RLの単節縄文を縦方向に施す。	長石・石英・雲母	普通	にぶい黄橙	覆土下層	
6177	縄文土器	深鉢	—	(13.2)	7.1	LRの単節縄文を縦方向に施す。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土下層	
TP6145	縄文土器	深鉢	—	(13.5)	—	口唇部直下に隆帯を巡らしている。LRの単節縄文を縦方向に施す。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	覆土下層	
TP6146	縄文土器	深鉢	—	(13.8)	—	半截竹管による平行沈線文により文様を描出。0段多条によるLRの単節縄文を縦方向に施す。	長石・石英	普通	黒褐	覆土下層	

第1830号土坑（第422・423図）

位置 調査2区の北部、D3 a8区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第218号住居と第1829号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形は、第218号住居と第1829号土坑に掘り込まれているため、現状では長径1.52m、短径1.09mの楕円形である。底面はほぼ平坦で、平面形は長径3.21m、短径2.82mの楕円形である。確認面からの深さは102cmで、第218号住居跡の床面からの深さは86cmである。壁は内傾して立ち上がり、中位でくびれ、上位は直立する。底面からくびれ部までの高さは平均で70cmである。

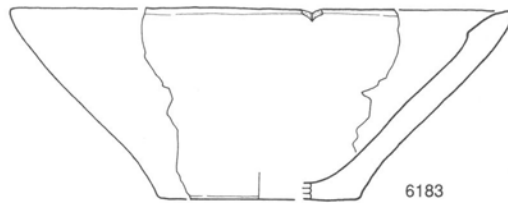
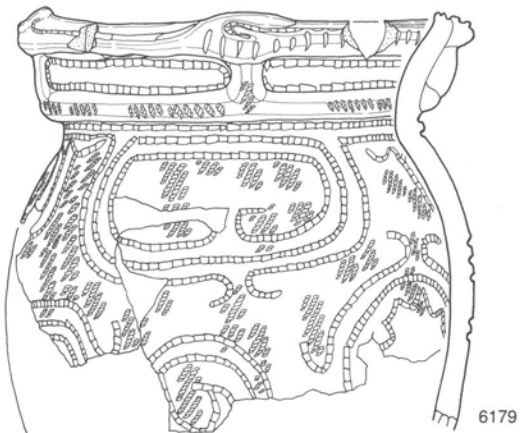
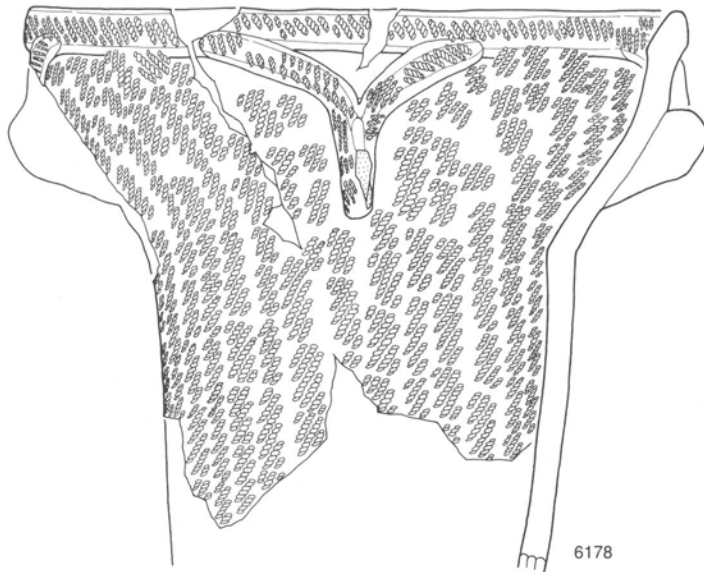
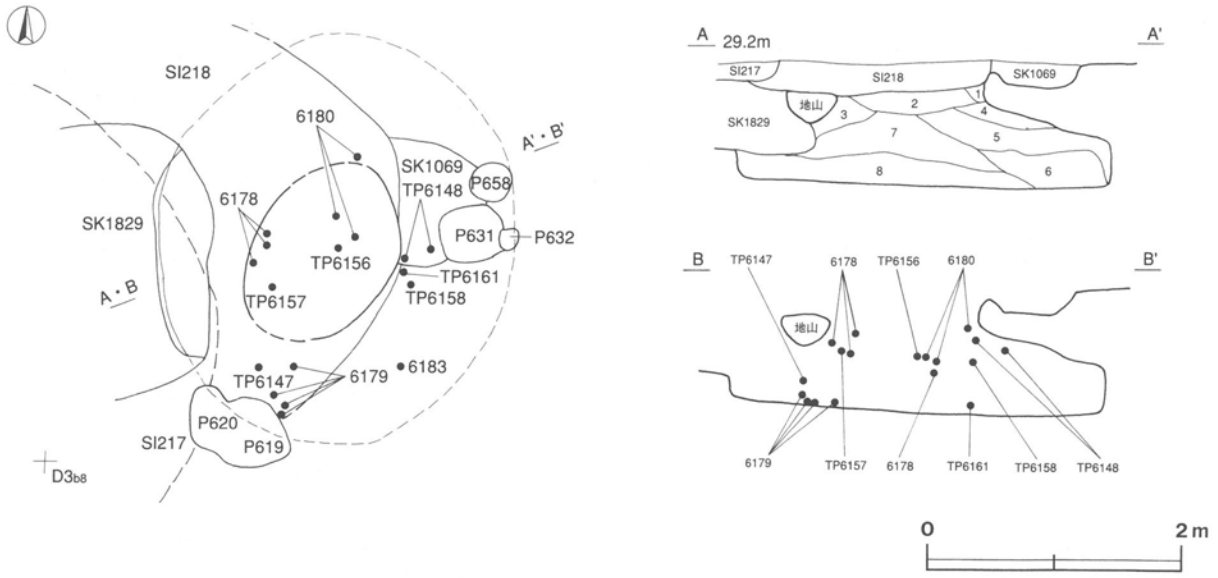
覆土 8層に分層される。第8層はロームブロックを多く含み、粘性がある土層であることから、内傾する壁の崩落土と考えられる。覆土中層は炭化粒子を少量含み、遺物が集中していることから、廃棄活動に伴う人為堆積と考えられる。覆土上層はレンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

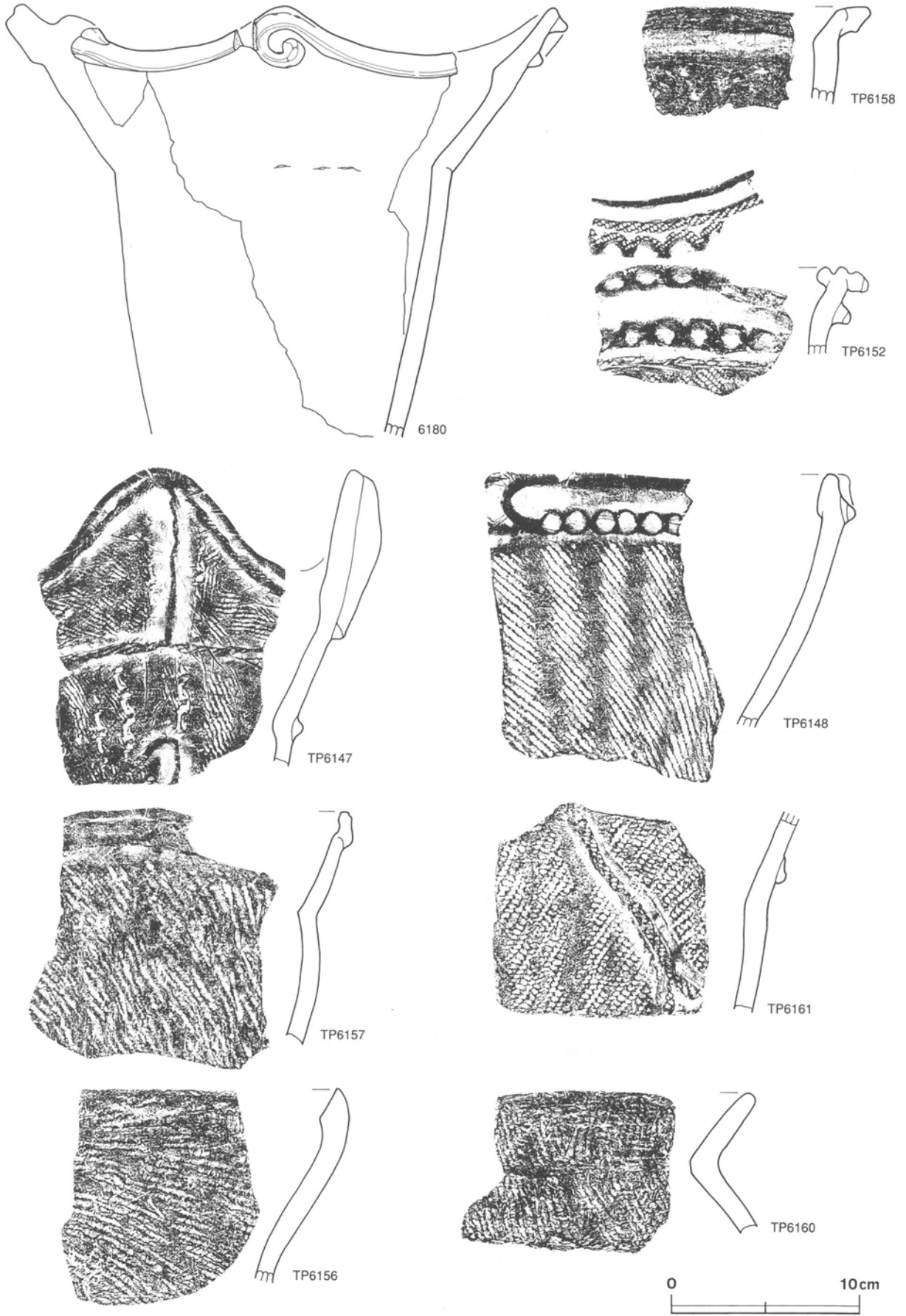
- |       |                |       |                     |
|-------|----------------|-------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量      | 5 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量    |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量      |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量   | 7 黒色  | 炭化粒子少量、ローム粒子微量      |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量、鹿沼バミス粒子少量 |

遺物出土状況 縄文土器片442点が出土している。土器は覆土下層と覆土中層に遺物が集中し、特に覆土中層からの出土量が多い。6179の深鉢は底面から TP6147の深鉢片は南壁際の覆土下層から出土している。6178と6180の深鉢は覆土中層から出土している。

所見 遺物の集中が覆土下層と覆土中層に大別されることから、二度にわたる廃棄活動が行われたことがうかがわれる。時期は、底面から出土している6179の深鉢と覆土下層から出土している TP6147の深鉢片から期中中葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。



第422图 第1830号土坑·出土遗物实测图



第423图 第1830号土坑出土遗物实测图



第1830号土坑出土遺物観察表（第422・423図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6178	縄文土器	深鉢	[23.1]	(22.2)	—	口縁部は隆帯によるV字状文。R Lの単節縄文を口唇部外面は横方向に、以外は縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	褐灰	覆土上層	
6179	縄文土器	深鉢	[16.6]	(16.9)	—	口縁部は2本の隆帯文を巡らしている。胴部は結節沈線を描出。地文はR Lの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	褐灰 明赤褐	底面	P L 54
6180	縄文土器	深鉢	[27.0]	(22.9)	—	口唇部外面に隆帯を巡らし、波頂部に渦巻文を施している。無文で、研磨している。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土上層	
6183	縄文土器	鉢	[19.8]	7.5	[7.9]	無文で、入念に研磨している。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土中層	内・外面赤彩
TP6147	縄文土器	深鉢	—	(15.8)	—	口縁部は隆帯により文様を描出。Lの無節縄文と綾線文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	覆土下層	
TP6148	縄文土器	深鉢	—	(13.5)	—	口縁部は押圧文を有する隆帯により文様を描出。L Rの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	黒褐	覆土上層	
TP6152	縄文土器	深鉢	—	(4.7)	—	押圧文を有する隆帯を巡らしている。L Rの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐 にぶい橙	覆土	
TP6156	縄文土器	深鉢	—	(10.4)	—	Lの無節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	覆土上層	
TP6157	縄文土器	深鉢	—	(12.6)	—	口唇部外面は無文。以下はLの無節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	覆土上層	
TP6158	縄文土器	深鉢	—	(5.2)	—	無文で、入念に研磨している。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土上層	
TP6160	縄文土器	甕	—	(7.7)	—	Lの無節縄文を口縁部の一部は横方向に、以外は縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	覆土	
TP6161	縄文土器	深鉢	—	(10.8)	—	隆帯により文様を描出。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	覆土下層	

第1831号土坑（第424図）

位置 調査2区の北部、D3a7区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1829号土坑を掘り込み、第1843号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形は、第1843号土坑に掘り込まれているため、現状では径2.04mの円形と推定される。底面はほぼ平坦である。深さは65cmで、壁はほぼ直立する。ピットは2か所で、いずれも中央部に位置している。P1は北壁と北東壁がテラス状となっており、2か所のピットが重複している可能性がある。ピットの深さは、P1が67cm、P2が50cmである。

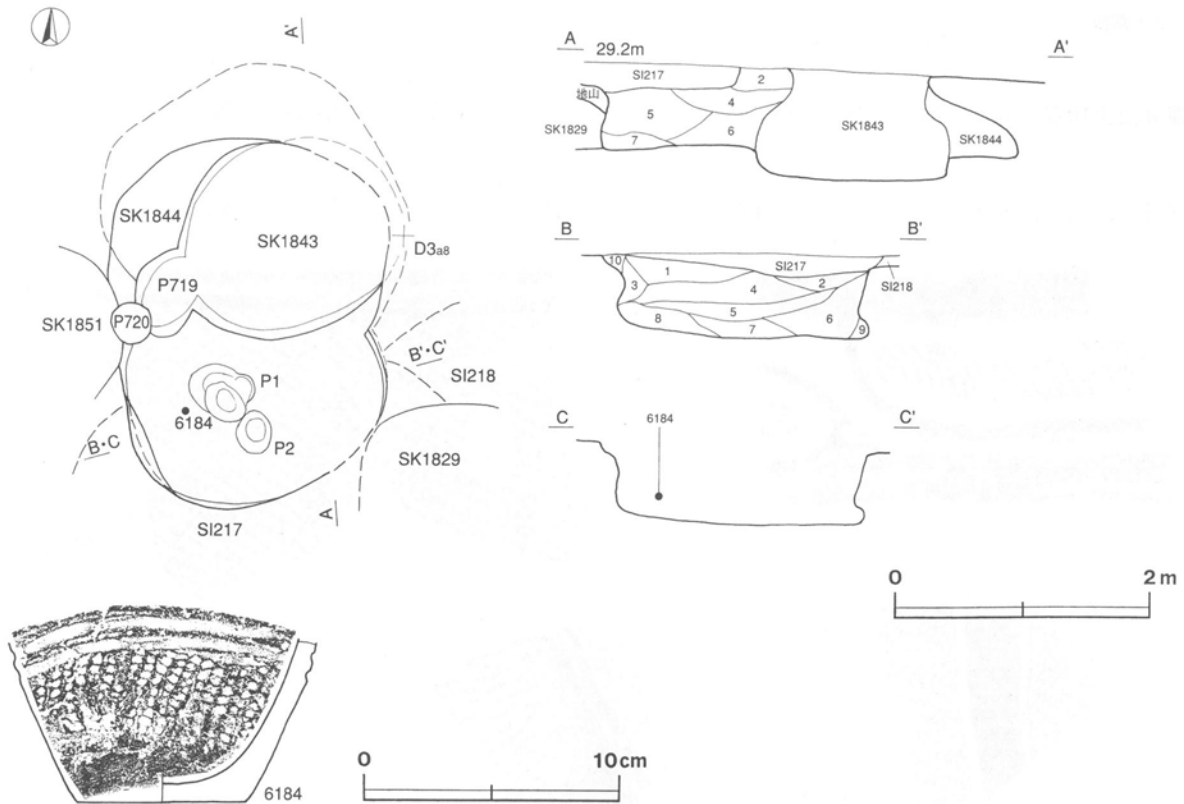
覆土 9層に分層される。レンズに堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

- |       |                 |        |           |
|-------|-----------------|--------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化物微量   | 6 黒褐色  | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量       | 7 暗褐色  | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量         | 8 暗褐色  | ローム粒子中量   |
| 4 黒褐色 | ローム粒子微量         | 9 極暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子・鹿沼バミス粒子少量 |        |           |

遺物出土状況 縄文土器片46点が出土している。6184の深鉢片は、覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曽利E I式期）と考えられる。



第424図 第1831号土坑・出土遺物実測図

第1831号土坑出土遺物観察表 (第424図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6184	縄文土器	深鉢	—	(6.4)	6.7	沈線文を巡らしている。地文はRLの単節縄文で、縦方向に施文。	長石・石英	普通	橙	覆土中層	

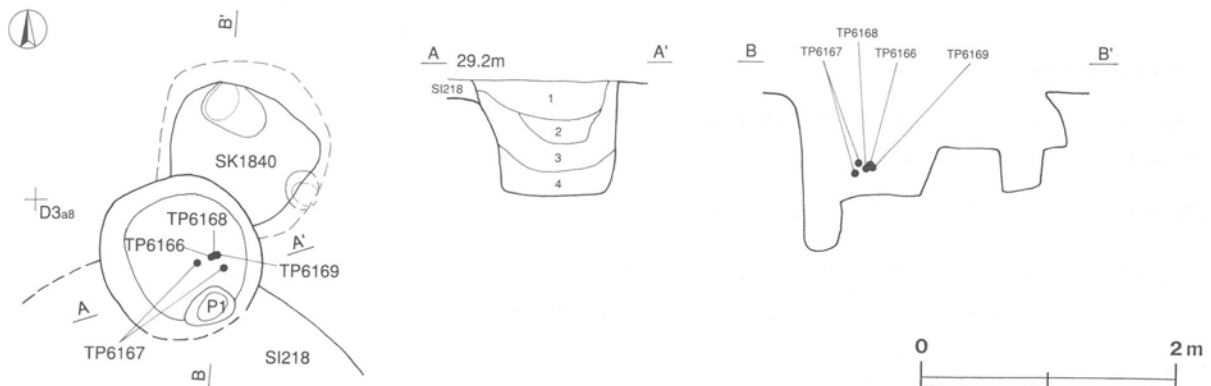
第1832号土坑 (第425・426図)

位置 調査2区の北部, D3a8区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第218号住居跡を掘り込んでいる。第1840号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 平面形は、長径1.37m, 短径1.23mの楕円形である。底面はほぼ平坦である。深さは92cmで、壁は外傾している。

覆土 4層に分層される。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。



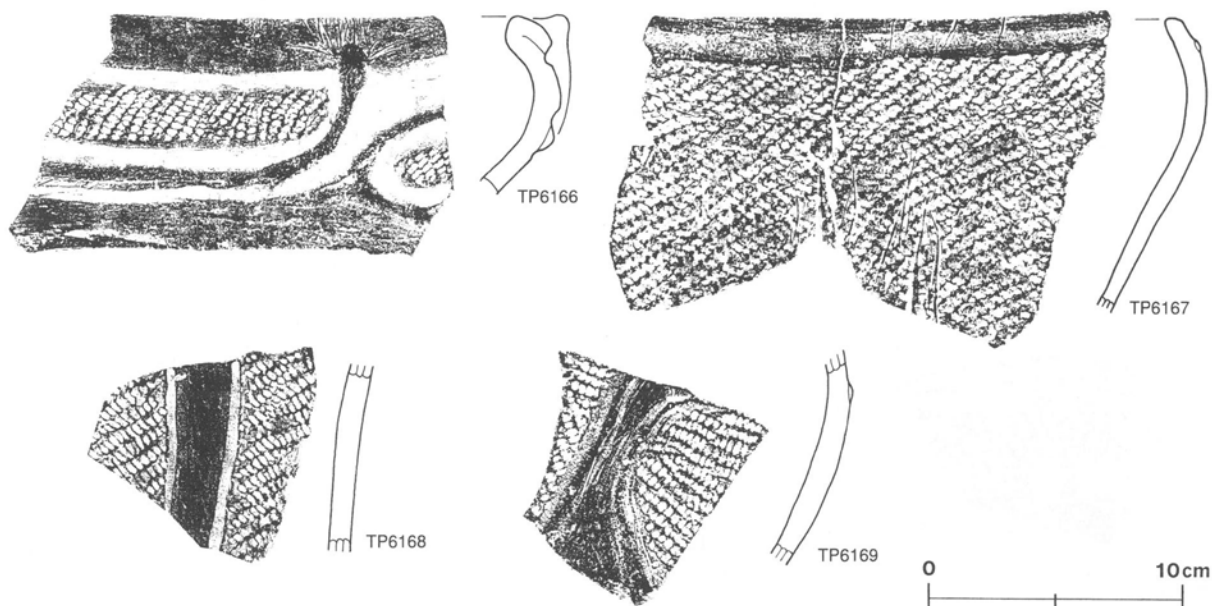
第425図 第1832号土坑実測図

土層解説

- 1 黒色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量  
 2 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量  
 3 黒褐色 ローム粒子多量, 鹿沼バミス粒子少量, 炭化粒子微量  
 4 極暗褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片132点, 石核1点が出土している。TP6166~6169の深鉢片は覆土下層から出土している。

所見 時期は, 覆土下層から出土した TP6166~6169の深鉢片から中期後葉(加曾利 E Ⅲ式期)と考えられる。



第426図 第1832号土坑出土遺物実測図

第1832号土坑出土遺物観察表(第426図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP6166	縄文土器	深鉢	—	(7.1)	—	口縁部は沈線に沿う隆帯により文様を描出。RLの単節縄文を縦方向に施文。頸部は無文。	長石・石英	普通	灰褐	覆土下層	
TP6167	縄文土器	深鉢	—	(11.8)	—	口唇部外面は無文。以下はRLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい褐	覆土下層	
TP6168	縄文土器	深鉢	—	(7.3)	—	沈線による懸垂文間を磨り消している。RLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい褐	覆土下層	
TP6169	縄文土器	深鉢	—	(8.5)	—	微隆帯による区画文内にLRの単節縄文を充填。微隆帯に沿って磨り消しを施す。	長石・石英	普通	にぶい褐	覆土下層	

第1841号土坑(第427図)

位置 調査2区の北部, C3i7区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1842号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形は, 第1842号土坑に掘り込まれているため, 径1.24mの円形と推定される。底面はほぼ平坦で, 平面形は長径2.64m, 短径2.38mの楕円形である。壁は内傾して立ち上がり, 上位で強くくびれている。深さは64cmで, 底面からくびれ部までの高さは56cmである。

覆土 8層に分層される。第6~8層が底面中央部に凸状に堆積し, 第1~5層はレンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

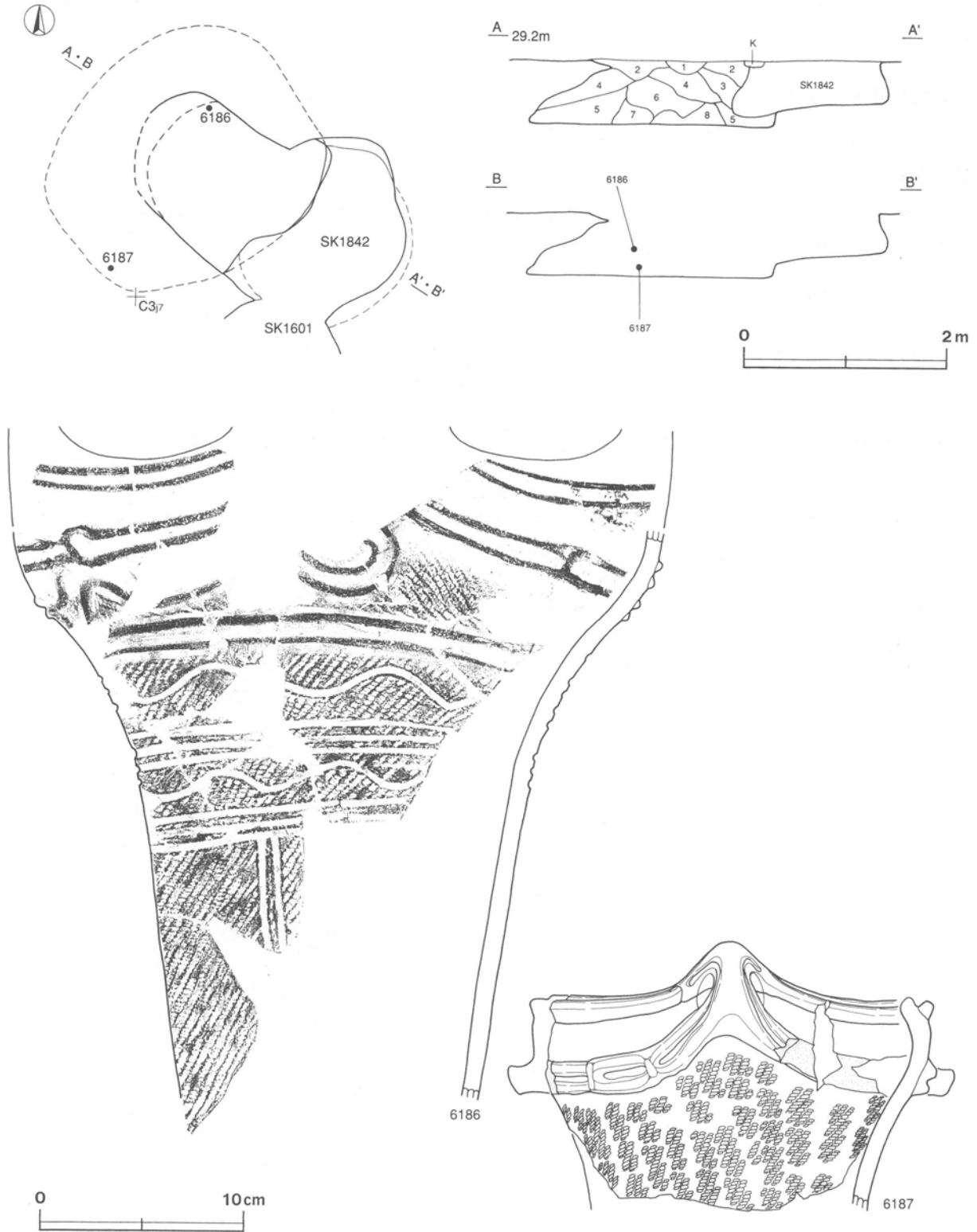
土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化物微量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量

- 5 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化物微量
- 6 暗褐色 ローム粒子多量, 鹿沼バミスブロック微量
- 7 暗褐色 ローム粒子少量, 鹿沼バミス粒子微量
- 8 褐色 鹿沼バミスブロック多量

遺物出土状況 縄文土器片140点が出土している。6186と6187の深鉢片は覆土下層から出土している。

所見 時期は、覆土下層から出土した6186と6187の深鉢片から中期後葉（加曾利 E I 式期）と考えられる。



第427図 第1841号土坑・出土遺物実測図

第1841号土坑出土遺物観察表（第427図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6186	縄文土器	深鉢	[32.0]	(34.0)	—	口縁部は隆帯文。胴部は沈線文。R Lの単節縄文を、口縁部は横方向、胴部は縦方向に施す。	長石・石英	普通	黒褐	覆土下層	
6187	縄文土器	深鉢	[17.4]	(13.4)	—	口縁部は眼鏡状把手を起点に背に沈線を有する隆帯を巡らす。R Lの単節縄文を縦方向に施す。	長石・石英	普通	橙	覆土下層	

第1842号土坑（第428・429図）

位置 調査2区の北部，C3i7区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1841号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 開口部の平面形は、径1.30mの円形と推定される。底面はほぼ平坦で、平面形は長径1.82m，短径1.52mの楕円形である。深さは45cmで、壁は内傾している。

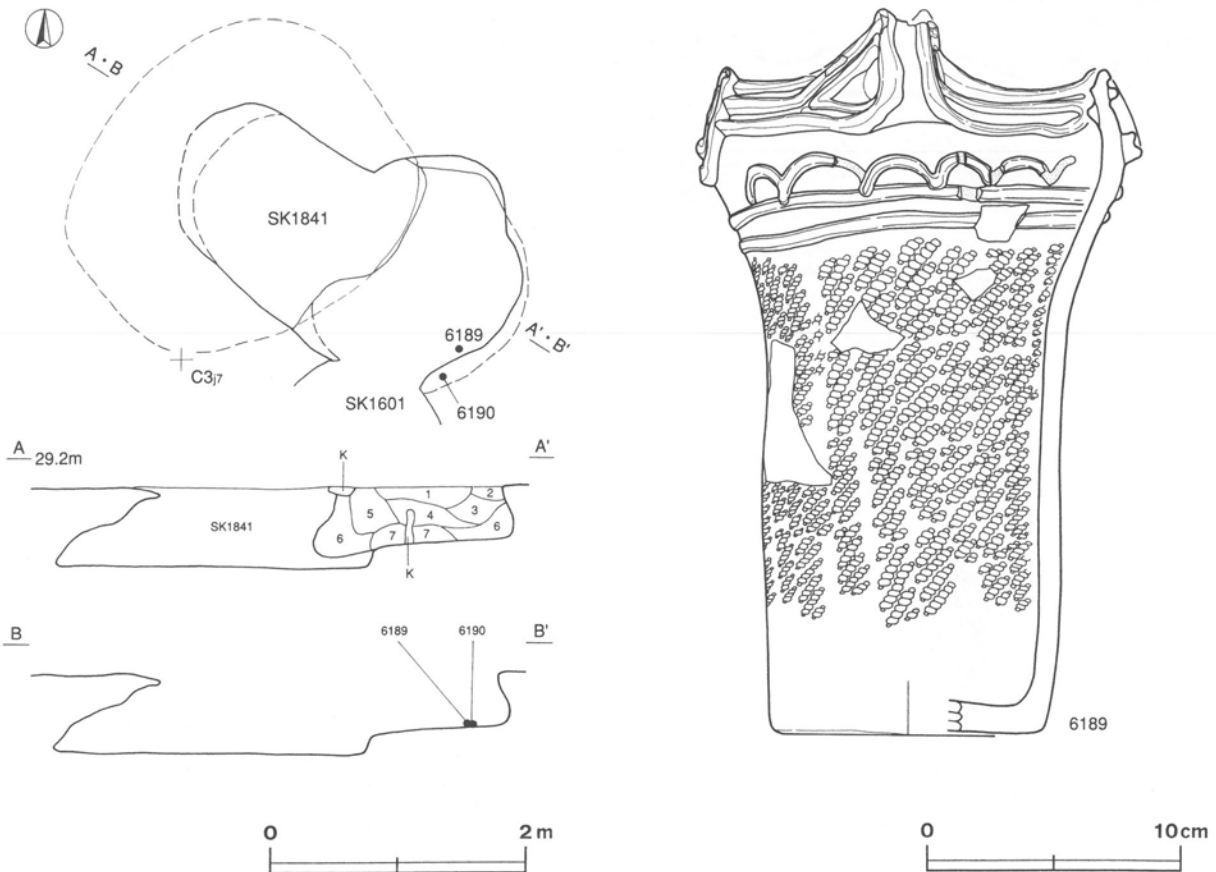
覆土 7層に分層される。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

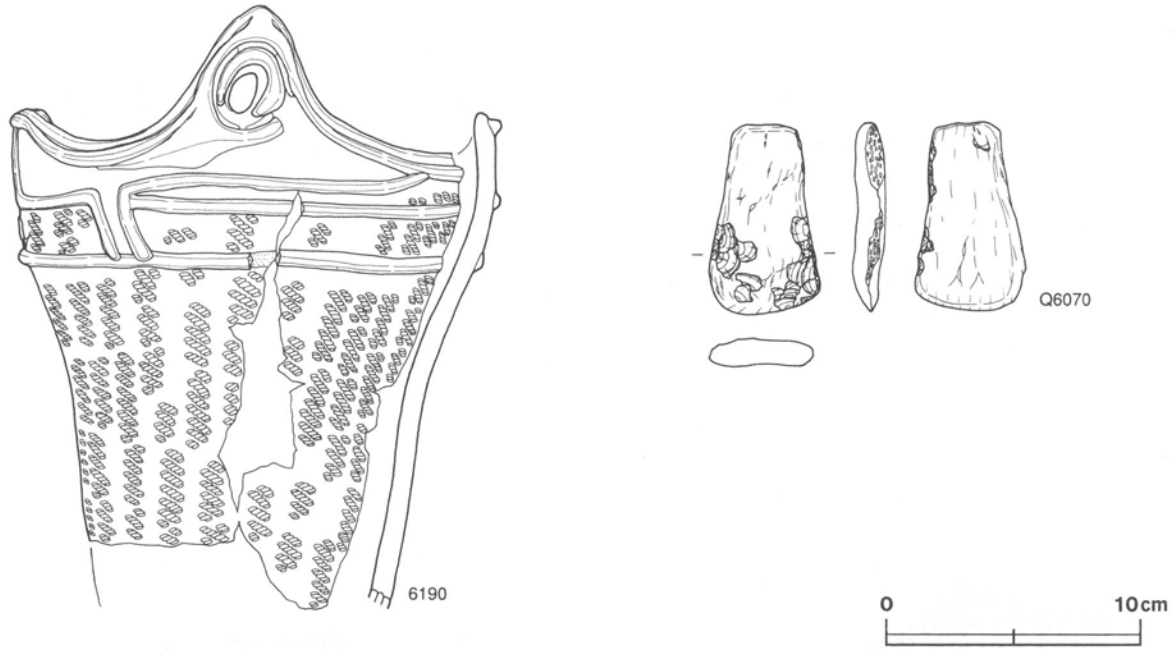
- |       |                  |        |         |
|-------|------------------|--------|---------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量     | 5 黒褐色  | ローム粒子中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量          | 6 暗褐色  | ローム粒子多量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量   | 7 極暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 4 黒色  | ロームブロック少量，炭化粒子微量 |        |         |

遺物出土状況 縄文土器片7点，磨製石斧1点が出土している。6189の深鉢と6190の深鉢片は壁際の底面から出土している。

所見 時期は、底面から出土した6189の深鉢から中期後葉（加曾利E I式期）と考えられる。



第428図 第1842号土坑・出土遺物実測図



第429図 第1842号土坑出土遺物実測図

第1842号土坑出土遺物観察表（第428・429図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6189	縄文土器	深鉢	14.9	28.5	[10.6]	口縁部は眼鏡状把手と背に沈線を有する隆帯文。RLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	黒褐 明赤褐	底面	P L 54
6190	縄文土器	深鉢	[19.4]	(23.7)	—	孔を有する山形状把手。口縁部は隆帯により文様を描出。LRの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	黒褐 にぶい黄橙	底面	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q6070	磨製石斧	7.5	4.3	1.2	55.9	緑色凝灰岩	右側面に敲打痕が残る。器体研磨入念。	覆土	

### 第1843号土坑（第430図）

**位置** 調査2区の北部、D3a7区。住居跡群域に位置する。

**重複関係** 南側で第1831号土坑を北西側で1844号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 開口部の平面形は、径1.12mの円形と推定される。底面は平坦で、平面形は長径1.72m、短径1.44mの楕円形である。壁はわずかに内傾して立ち上がり、中位でくびれ、上位はほぼ直立する。深さは83cmで、底面からくびれ部までの高さは54cmである。

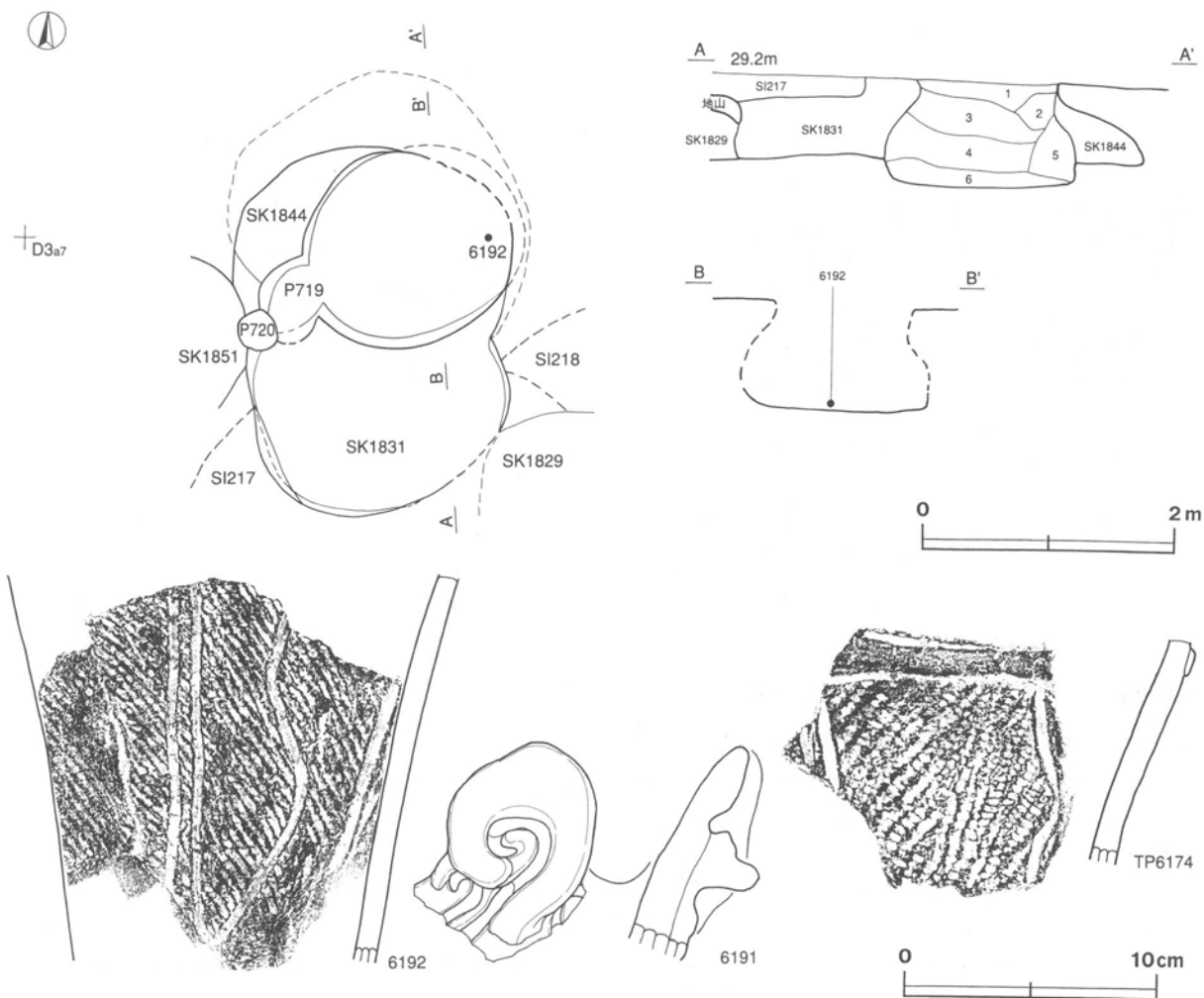
**覆土** 6層に分層される。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- |       |                     |       |                     |
|-------|---------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化物微量         | 4 黒褐色 | ローム粒子少量，炭化物微量       |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量             | 5 黒褐色 | ローム粒子中量             |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量，第2層より色調が明るい | 6 黒褐色 | ロームブロック・鹿沼パミスブロック少量 |

**遺物出土状況** 縄文土器片76点が出土している。6192の深鉢片は覆土下層から出土している。

**所見** 時期は、覆土下層から出土した6192から中期後葉（加曾利E I式期）と考えられる。



第430図 第1843号土坑出土遺物実測図

第1843号土坑出土遺物観察表（第430図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6191	縄文土器	深鉢	—	(8.8)	—	波頂部下に隆帯による渦巻文を施している。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土	
6192	縄文土器	深鉢	—	(15.3)	—	沈線による懸垂文を施している。地文はLの無節縄文で、縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	明赤褐	覆土下層	
TP6174	縄文土器	深鉢	—	(9.0)	—	口縁部と胴部の境に隆帯を巡らし、胴部は沈線による懸垂文を施している。RLの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土	

### 第1847号土坑（第431・432図）

**位置** 調査2区の北部，D3b9区。住居跡群域に位置する。

**重複関係** 第683号ピットと第721号ピットと重複しているが，新旧関係は不明である。

**規模と形状** 開口部の平面形は，現状では長径1.78m，短径1.54mの楕円形である。底面はほぼ平坦で，平面形は長径1.88m，短径1.66mの楕円形である。深さは43cmで，壁は外傾しているが，南西壁だけは内傾している。ピットは3か所で，いずれも壁際に位置している。ピットの深さは，P1が42cm，P2が57cm，P3が28cmである。

**覆土** 7層に分層される。第5～7層はロームブロックを多く含む層で，壁際に堆積していることから内傾す

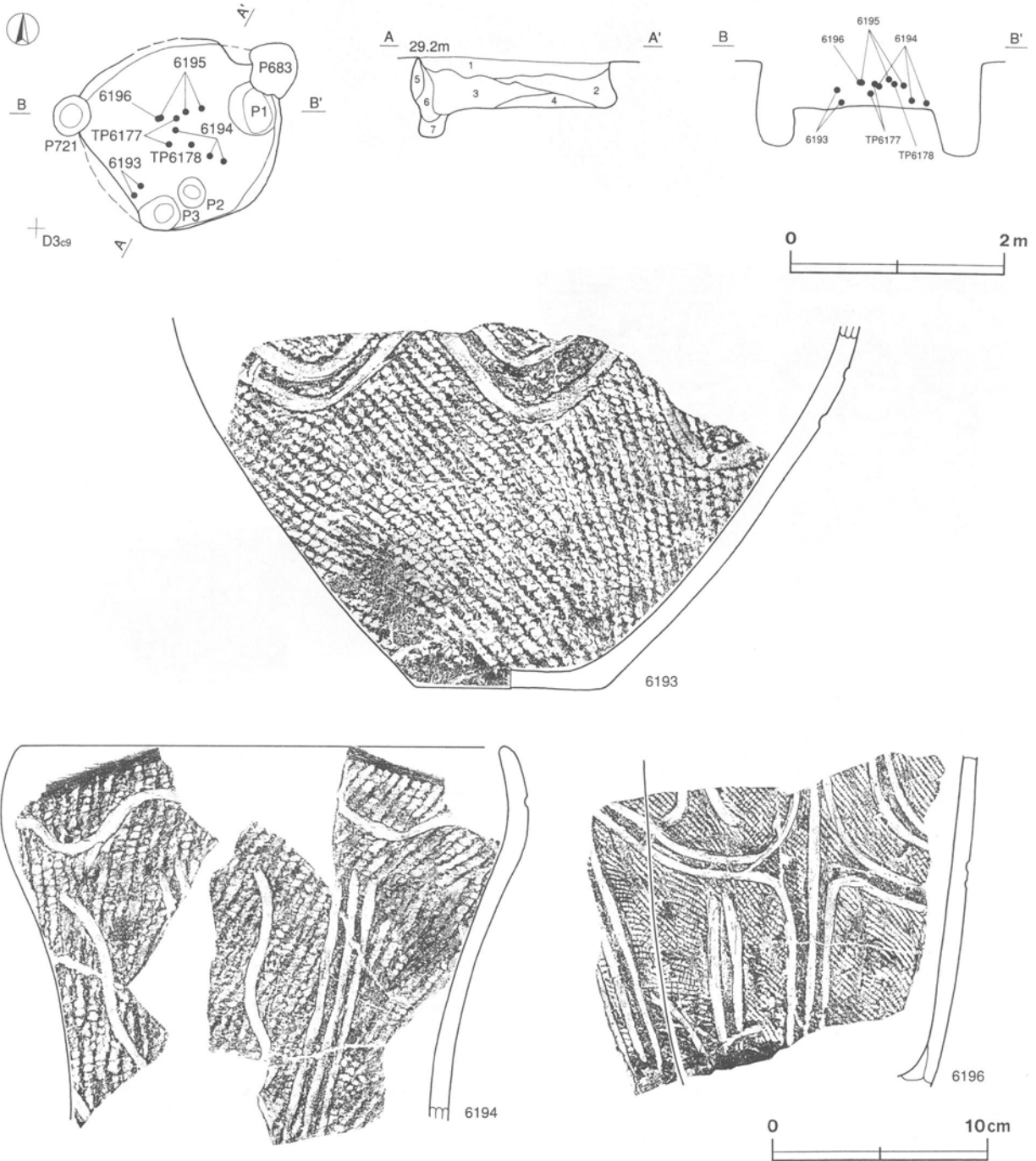
る壁の崩落土と考えられる。第1～4層は、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

**土層解説**

- |       |                   |       |                   |
|-------|-------------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量   | 5 暗褐色 | ロームブロック中量         |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量   | 6 暗褐色 | ロームブロック少量         |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・鹿沼バミス粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子多量           |       |                   |

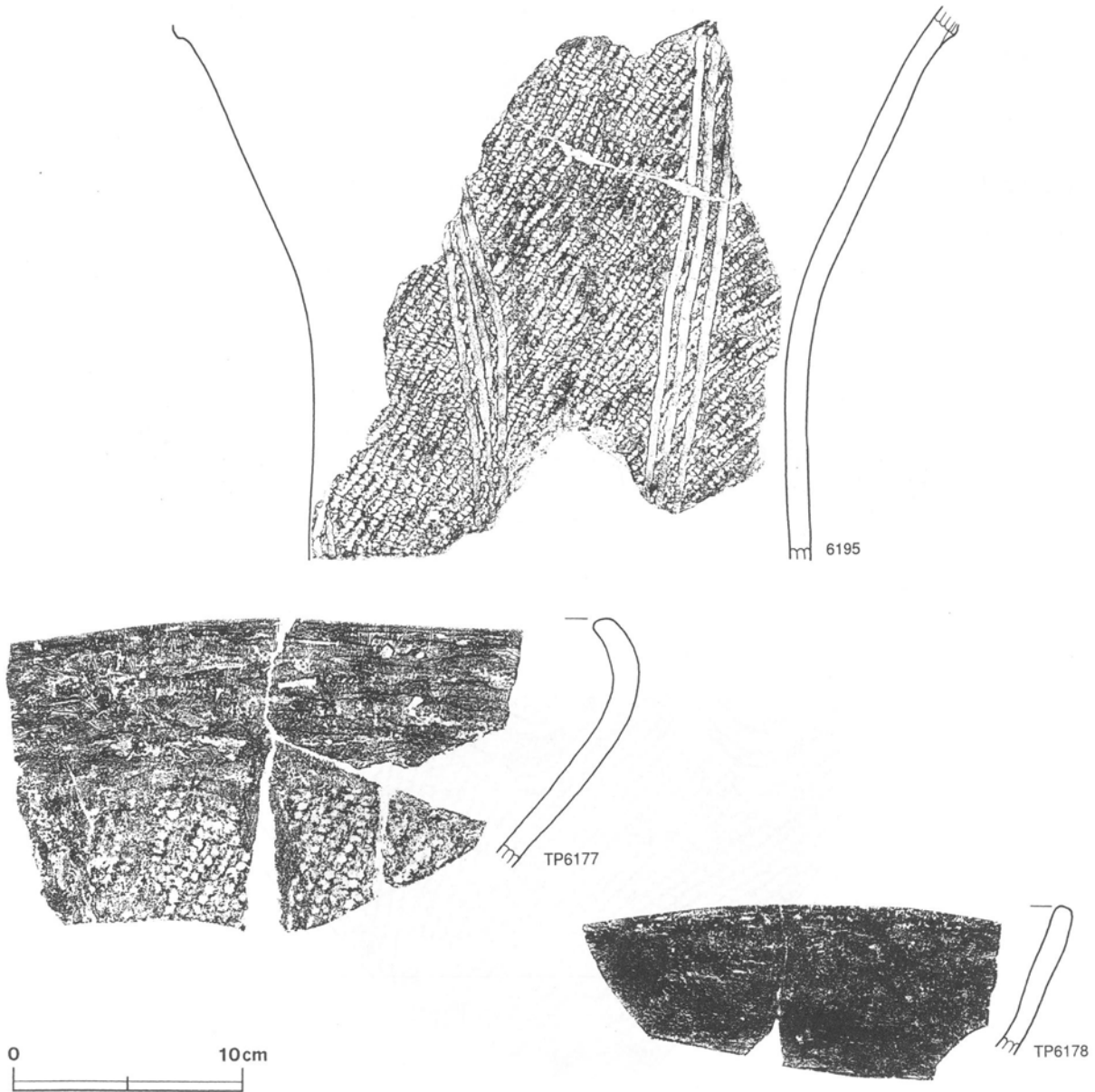
**遺物出土状況** 縄文土器片122点, 磨製石斧片1点が出土している。6193の鉢片と6194の深鉢片は覆土下層から出土している。

**所見** 時期は, 覆土下層から出土した6193の鉢片と6194の深鉢片から中期後葉(加曾利E II式期)と考えられる。



第431図 第1847号土坑・出土遺物実測図





第432図 第1847号土坑出土遺物実測図

第1847号土坑出土遺物観察表（第431・432図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6193	縄文土器	鉢	—	(17.2)	8.6	胴部上位は沈線による波状文を巡らしている。地文はLRの複節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	橙	覆土下層	
6194	縄文土器	深鉢	[22.2]	(17.5)	—	口縁部は沈線による波状文。胴部は3条一組の懸垂文間を磨り消している。RLの単節縄文。	長石・石英	普通	黒褐	覆土下層	
6195	縄文土器	深鉢	—	(24.2)	—	胴部は沈線による3条一組の懸垂文を施している。RLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい黄橙	覆土中層	
6196	縄文土器	深鉢	—	(15.1)	—	胴部は沈線により縦位に4分割し、沈線により描出。LRの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	明赤褐	覆土中層	
TP6177	縄文土器	鉢	—	(10.9)	—	口縁部は無文。RLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい黄橙	覆土中層	
TP6178	縄文土器	鉢	—	(6.6)	—	無文で、研磨。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土中層	

第1851号土坑 (第433・434図)

位置 調査2区の北部, D3a7区。住居跡群域に位置する。

重複関係 南側で第1850号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 開口部の平面形は, 長径1.36m, 短径1.21mのほぼ円形である。底面はほぼ平坦で, 平面形は長径1.29m, 短径1.18mのほぼ円形である。深さは56cmで, 壁は東壁が外傾する以外は内傾している。

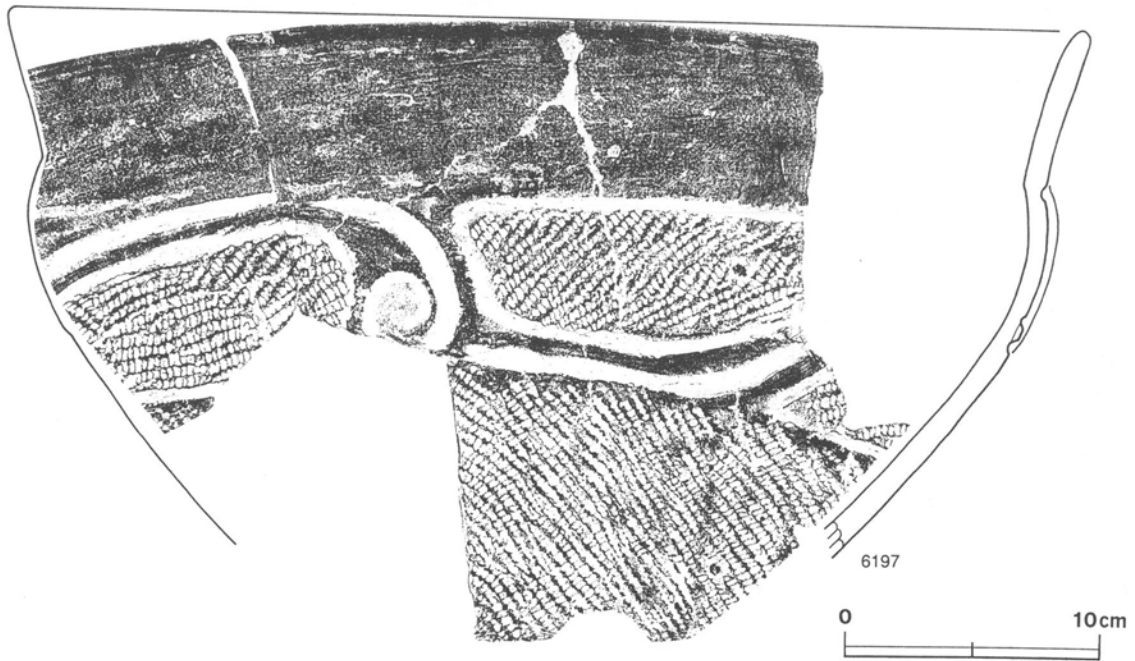
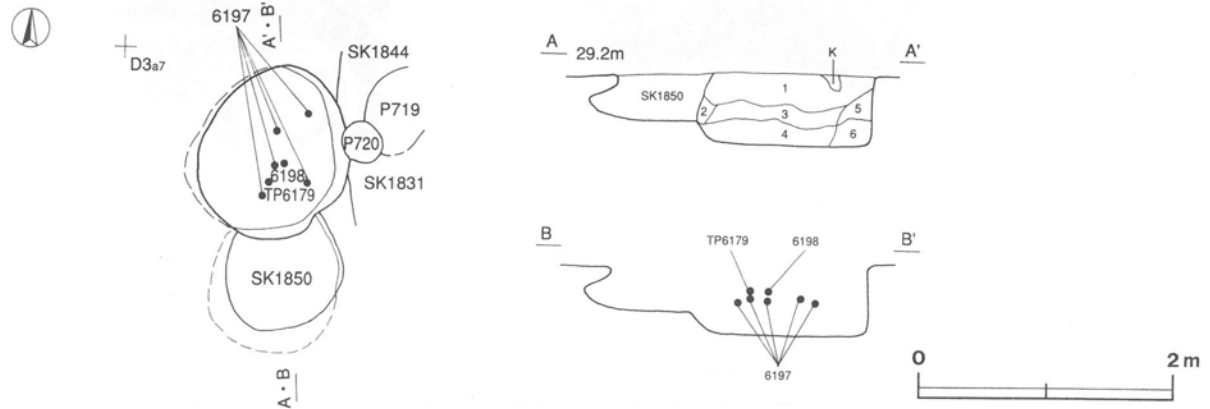
覆土 6層に分層される。第5・6層は外傾する東壁側から堆積していることから, 内傾する壁の崩落土と考えられる。第1~4層はレンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

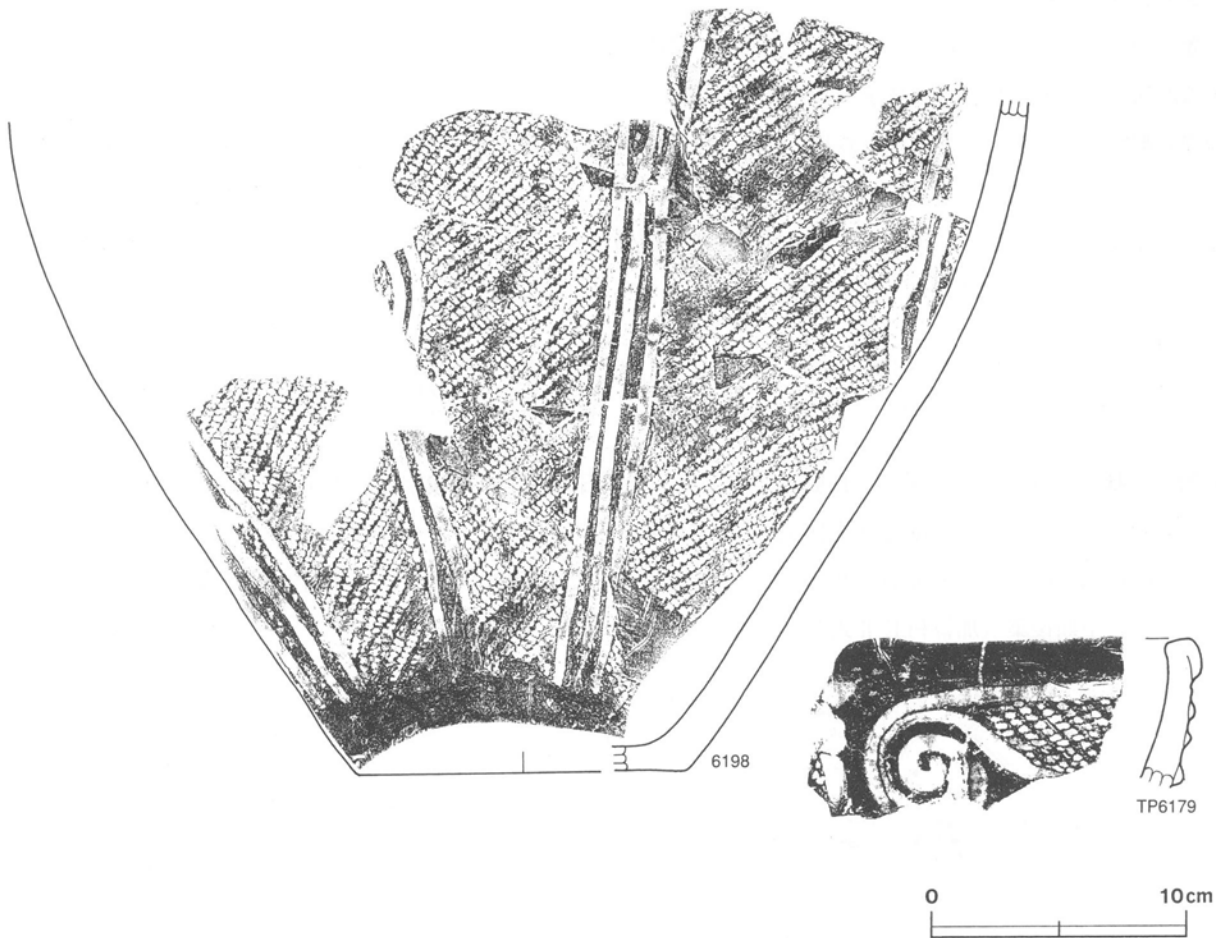
- |                       |                         |
|-----------------------|-------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック少量         |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量         | 5 暗褐色 ロームブロック中量         |
| 3 極暗褐色 ロームブロック少量      | 6 暗褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片86点, 打製石斧片1点, 磨製石斧片1点が覆土から出土している。6197の鉢片と6198の深鉢片は, いずれも覆土中層から出土している。

所見 時期は底面や覆土下層から出土している土器がないため明確ではないが, 覆土中層の堆積時期はその出土土器から中期後葉(加曾利EⅡ式期)と考えられる。



第433図 第1851号土坑・出土遺物実測図



第434図 第1851号土坑出土遺物実測図

第1851号土坑出土遺物観察表（第433・434図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6197	縄文土器	鉢	[42.2]	(21.1)	—	口縁部は無文。胴部上位は沈線が沿う隆帯文。地文はL Rの単節縄文。	長石・石英	普通	にぶい赤褐	覆土中層	
6198	縄文土器	深鉢	—	(26.2)	[13.0]	胴部は沈線による3条一組の懸垂文間を磨り消している。地文はR Lの単節縄文。	長石・石英	普通	橙	覆土中層	
TP6179	縄文土器	深鉢	—	(5.6)	—	沈線が沿う隆帯による渦巻文。L R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	橙	覆土中層	

第1854号土坑（第435・436図）

**位置** 調査2区の北部，C3j7区。住居跡群域に位置する。

**重複関係** 北側で第1601号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 開口部の平面形は，径1.24mの円形である。底面は平坦で，平面形は長径1.96m，短径1.80mのほぼ円形である。深さは56cmで，壁は内傾している。

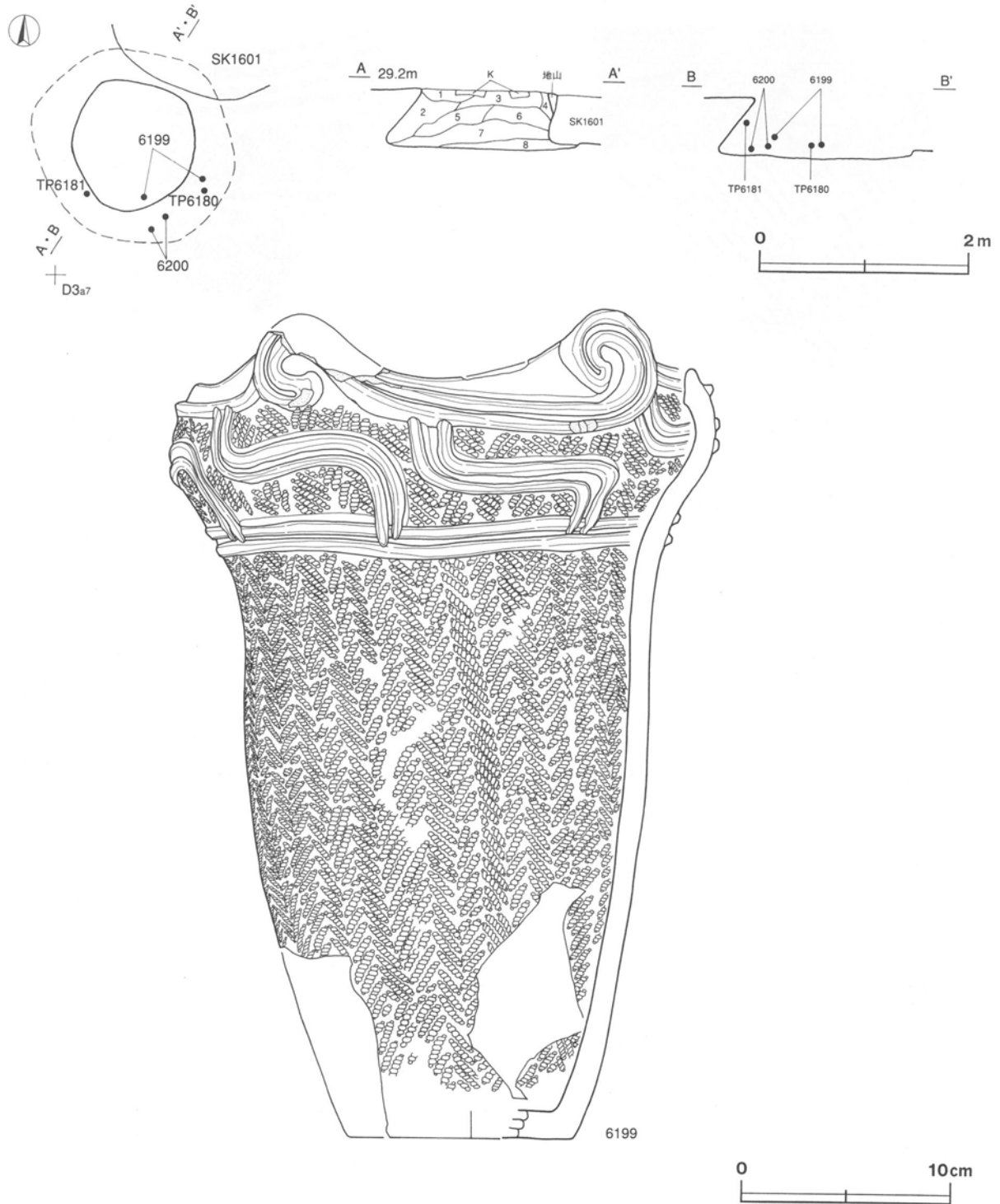
**覆土** 8層に分層される。第5～8層は中央部に凸状に堆積し，特に第7層には遺物が廃棄されたように出土していることから廃棄活動による人為堆積と考えられる。

土層解説

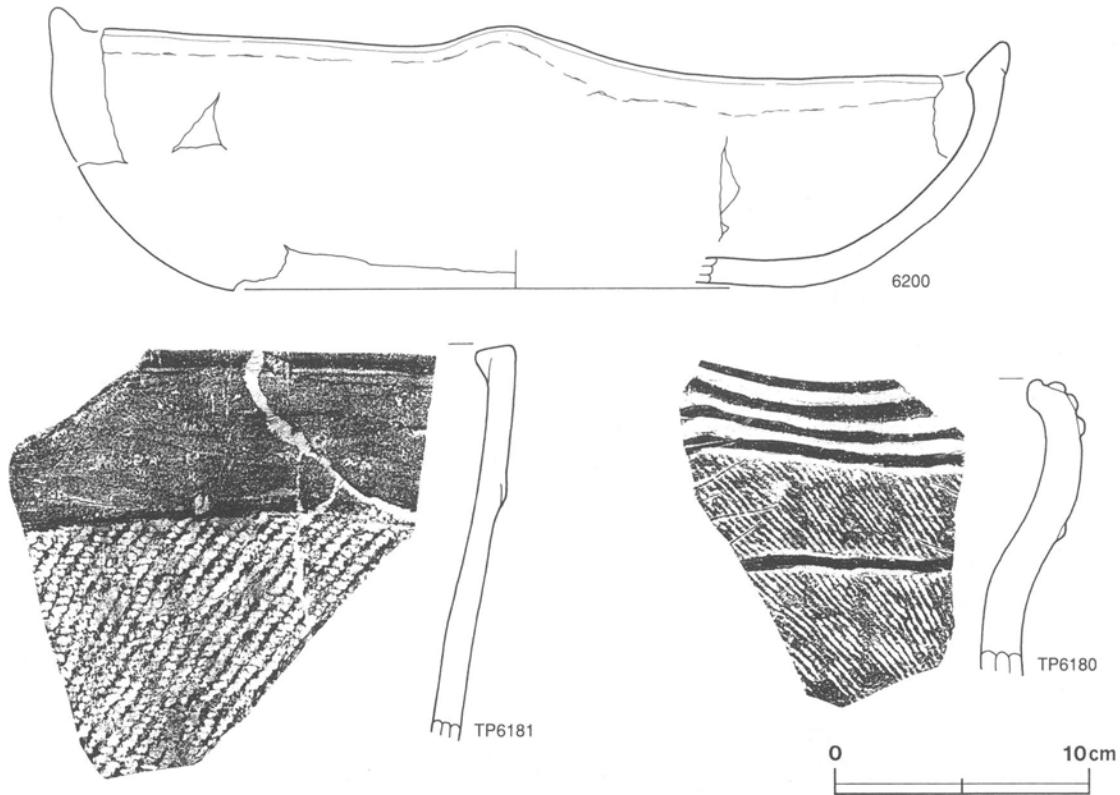
- |       |                 |        |                   |
|-------|-----------------|--------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量         | 5 黒褐色  | ローム粒子・炭化物少量       |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック少量      | 6 黒褐色  | ローム小ブロック少量, 炭化物微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 7 暗褐色  | ロームブロック中量         |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック少量      | 8 極暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片119点が出土している。主な遺物は覆土下層（第7層）に廃棄されたような状態で出土している。6199の深鉢と6200の浅鉢は、覆土下層から廃棄されたような状態で出土している。

所見 覆土下層に遺物が集中し、一括廃棄されたことがうかがわれる。時期は、覆土下層から出土した6199の深鉢から中期後葉（加曾利 E I 式期）と考えられる。



第435図 第1854号土坑・出土遺物実測図



第436図 第1854号土坑出土遺物実測図

第1854号土坑出土遺物観察表（第435・436図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6199	縄文土器	深鉢	23.4	39.7	[10.6]	波頂部は横S字状文。口縁部は隆帯によるクランク文。LRとRLの単節縄文による羽状縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙にぶい褐	覆土下層	P L 54
6200	縄文土器	浅鉢	[37.0]	10.2	[23.0]	無文で、入念に研磨。	長石・石英	普通	黒褐暗赤褐	覆土下層	P L 54
TP6180	縄文土器	深鉢	—	(11.7)	—	口縁部は隆帯により文様を描出。Lの無節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	覆土下層	
TP6181	縄文土器	深鉢	—	(15.6)	—	口縁部は無文。以下はRLRの複節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	橙	覆土中層	内・外面赤彩痕

第1855号土坑（第437・438図）

位置 調査2区の北部，C3h5区。住居跡群域に位置する。

重複関係 上面に第211号住居の炉がつくられている。

規模と形状 開口部の平面形は、径1.33mの円形である。底面はほぼ平坦で、平面形は長径2.70m，短径2.55mのほぼ円形である。深さは78cmである。壁は内傾し，北東壁は中位でくびれ，上位は直立している。くびれ部までの高さは54cmである。

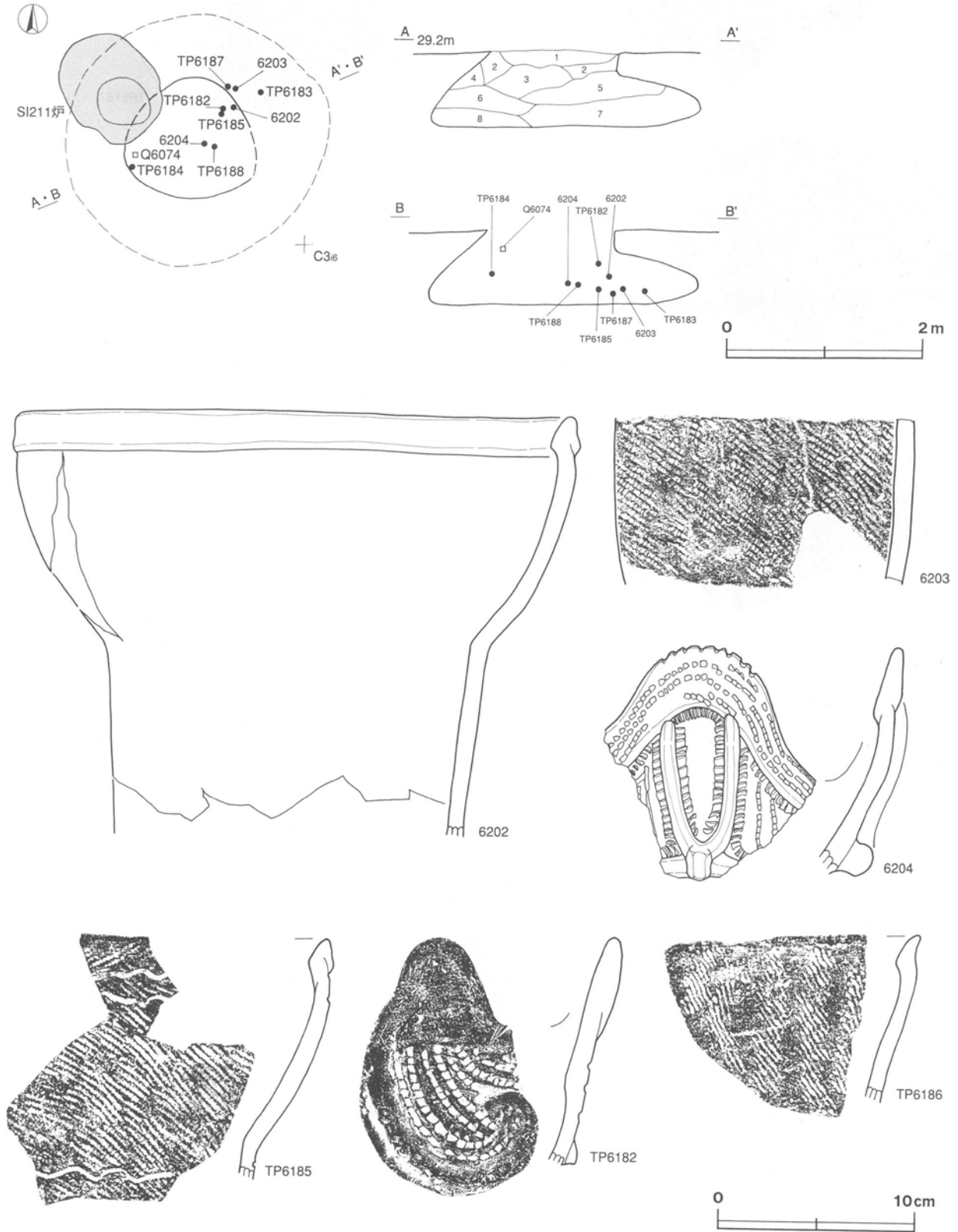
覆土 8層に分層される。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

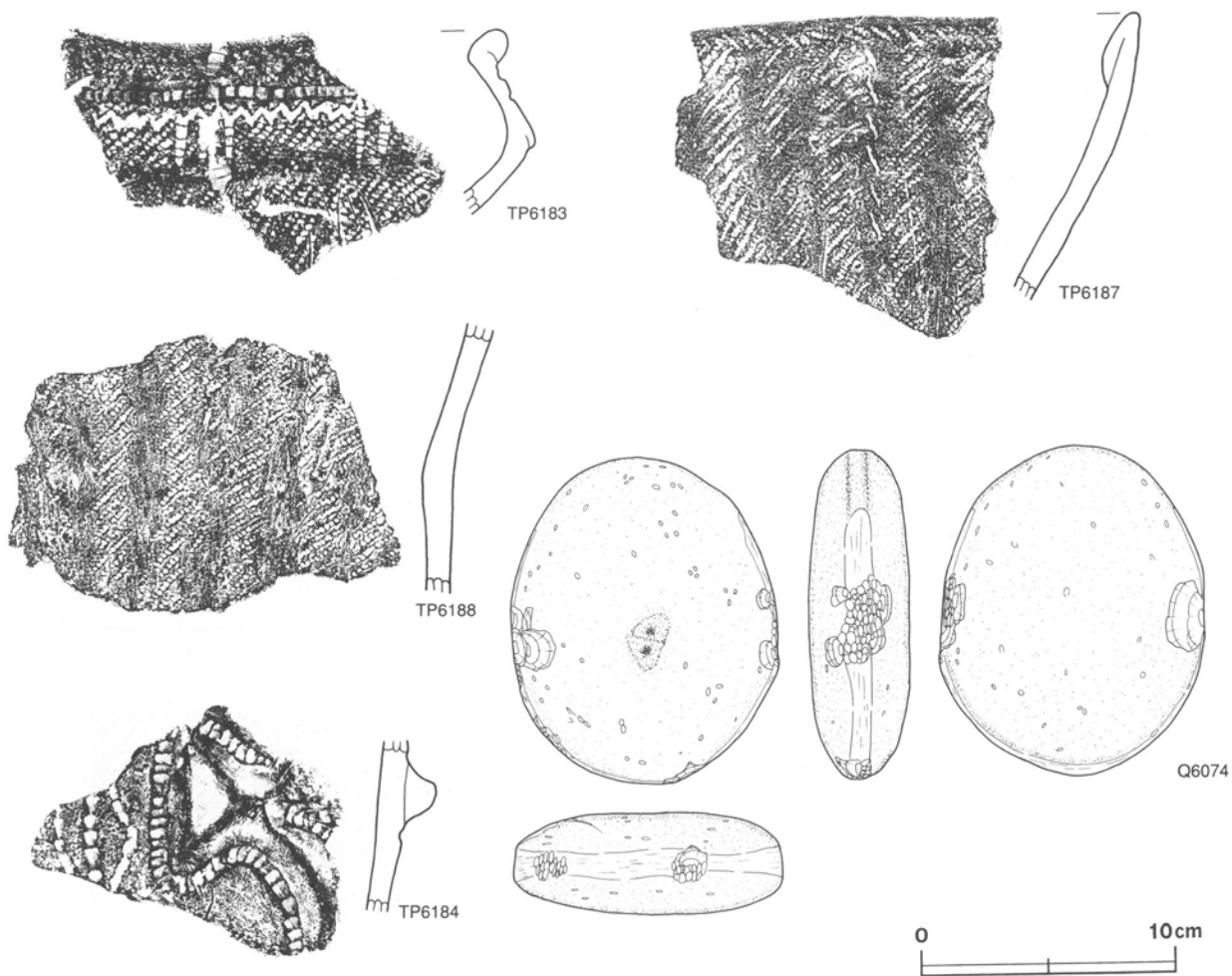
- |       |                   |       |                 |
|-------|-------------------|-------|-----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量           | 5 黒色  | ローム粒子・炭化粒子少量    |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子微量    | 6 黒色  | ローム小ブロック少量      |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化物微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量           | 8 暗褐色 | ロームブロック中量       |

遺物出土状況 縄文土器片341点、磨石1点、磨製石斧片1点、敲石片2点が、主に覆土下層から覆土中層にかけて出土している。6202の深鉢と6203・6204の深鉢片は覆土下層から出土している。

所見 時期は、覆土下層から出土した6202・6203・6204の深鉢片から中期中葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。



第437図 第1855号土坑・出土遺物実測図



第438図 第1855号土坑出土遺物実測図

第1855号土坑出土遺物観察表（第437・438図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6202	縄文土器	深鉢	28.1	(21.8)	—	無文で、研磨。	長石・石英・雲母	普通	黒褐 にぶい赤褐	覆土下層	
6203	縄文土器	深鉢	—	(8.6)	—	L Rの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土下層	
6204	縄文土器	深鉢	—	(11.8)	—	口縁部は波頂部下に隆帯によるU字状文を施し、隆帯に沿って爪形文を施している。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土下層	
TP6182	縄文土器	深鉢	—	(11.7)	—	口縁部は隆帯により文様を描出し、隆帯に沿って結節沈線文を施している。	長石・石英・雲母	普通	褐灰	覆土中層	
TP6183	縄文土器	深鉢	—	(7.3)	—	結節沈線文により文様を描出。R Lの単節縄文を口唇部には横方向に、以下は縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土下層	
TP6184	縄文土器	深鉢	—	(6.8)	—	隆帯により文様を描出し、隆帯に沿って爪形文を施している。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土下層	
TP6185	縄文土器	深鉢	—	(12.4)	—	口縁部上位と胴部上位に沈線による波状文を巡らしている。L Rの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土下層	
TP6186	縄文土器	深鉢	—	(8.6)	—	Lの無節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土	

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP6187	縄文土器	深鉢	—	(11.2)	—	R Lの単節縄文を口唇部外面は横方向に、以下は縦方向に施文。一部に綾織文を施文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土下層	
TP6188	縄文土器	深鉢	—	(10.7)	—	R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土下層	TP6187と同一個体

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q6074	磨石	13.4	10.6	4.0	853.7	安山岩	周縁に擦痕。両側縁に敲打痕。	覆土上層	P L62

### 第1856号土坑 (第439・440図)

**位置** 調査2区の北部、C3j6区。住居跡群域に位置する。

**重複関係** 北東側の一部を第1854号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 開口部の平面形は、長径1.84m、短径1.74mのほぼ円形である。底面は平坦で、平面形は長径2.24m、短径1.80mの楕円形である。深さは55cmで、壁は南西壁が直立している以外は内傾している。

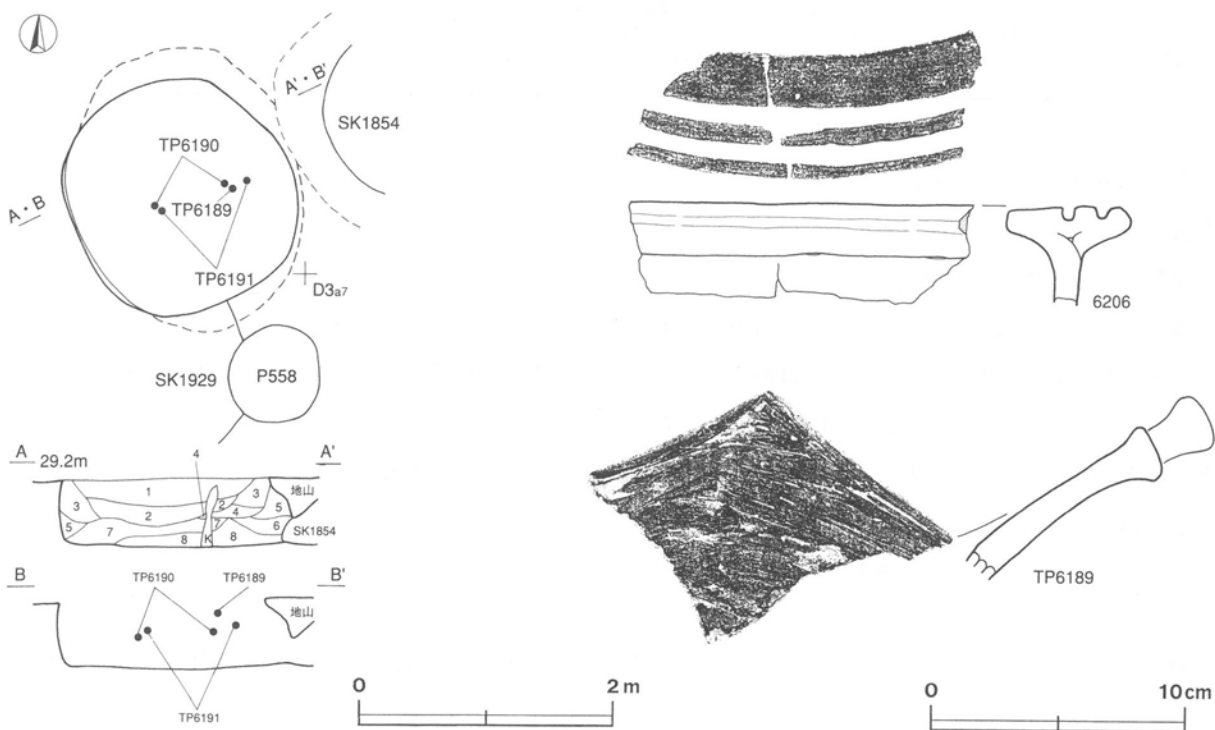
**覆土** 8層に分層される。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- |        |                |        |                |
|--------|----------------|--------|----------------|
| 1 黒褐色  | ローム粒子少量、炭化物微量  | 5 極暗褐色 | ローム粒子多量        |
| 2 黒褐色  | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 6 暗褐色  | ロームブロック中量      |
| 3 黒褐色  | ローム粒子中量        | 7 極暗褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子微量 |
| 4 極暗褐色 | ローム粒子中量        | 8 黒褐色  | ローム粒子多量、炭化粒子微量 |

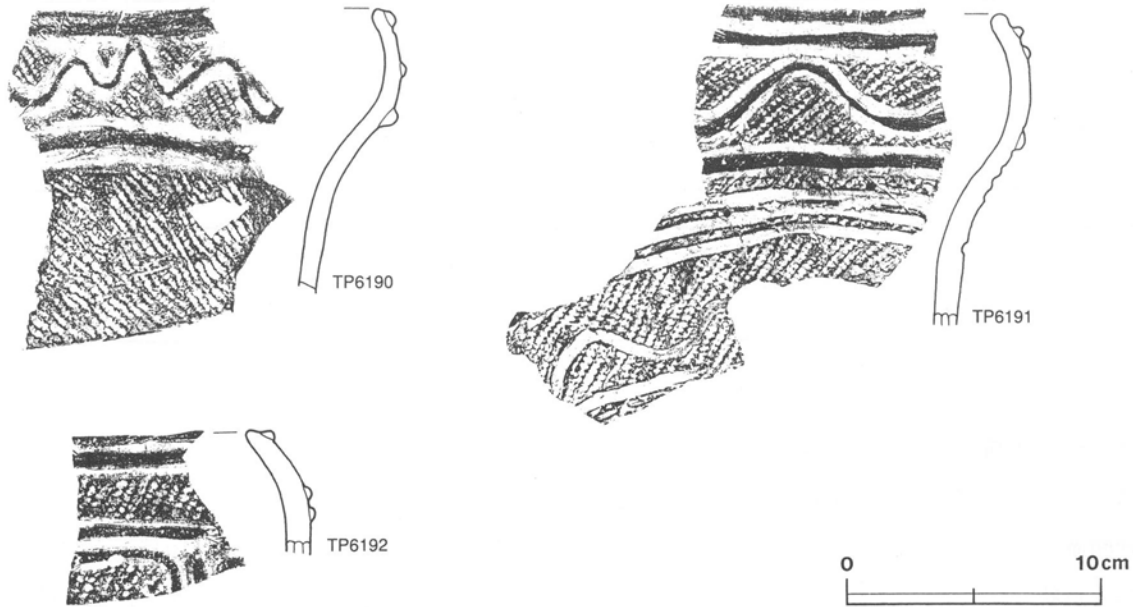
**遺物出土状況** 縄文土器片161点、石皿片1点が出土している。TP6189～TP6191の深鉢片は覆土上層から出土している。

**所見** 底面や覆土下層から出土した土器がないため本跡の廃絶時期を明確にすることはできないが、覆土上層の堆積時期は出土土器から中期後葉（加曾利E I式期）と考えられる。



第439図 第1856号土坑・出土遺物実測図





第440図 第1856号土坑出土遺物実測図

第1856号土坑出土遺物観察表（第439・440図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6206	縄文土器	鉢	—	(4.0)	—	口唇部は内・外面に突出させ、沈線文を巡らしている。	長石・石英	普通	赤褐色にぶい橙	覆土	
TP6189	縄文土器	浅鉢	—	(7.3)	—	無文で、入念に研磨。	長石・石英	良好	にぶい橙	覆土上層	内・外面赤彩
TP6190	縄文土器	深鉢	—	(11.2)	—	口縁部は隆帯による波状文。L Rの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	良好	灰褐色	覆土上層	
TP6191	縄文土器	深鉢	—	(12.3)	—	口縁部は隆帯による波状文。胴部は沈線による波状文。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	良好	にぶい橙	覆土上層	
TP6192	縄文土器	深鉢	—	(5.0)	—	口縁部は細い隆帯により文様を描出。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	良好	にぶい橙	覆土	

### 第1857号土坑（第441図）

**位置** 調査2区の北部，D3b9区。住居跡群域に位置する。

**重複関係** 第1858・1872号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 開口部の平面形は，長径2.62m，短径1.90mの楕円形である。底面はほぼ平坦で，深さは52cmである。壁は南壁が外傾している以外は直立している。ピットは2か所で，いずれも北西壁寄りに位置している。ピットの深さは，P1が51cm，P2が46cmである。

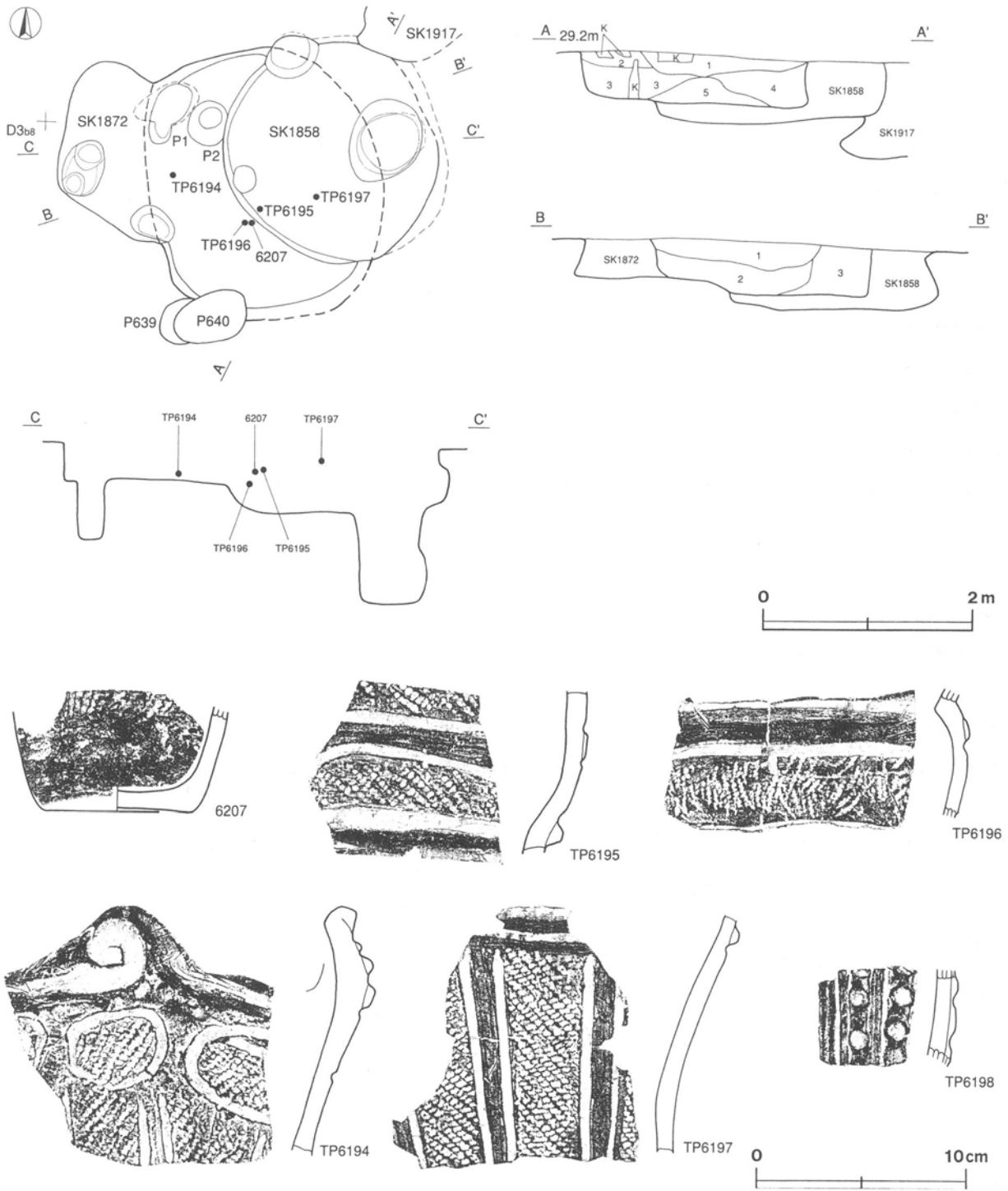
**覆土** 5層に分層される。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- |       |                 |       |                   |
|-------|-----------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量    | 4 黒褐色 | ローム小ブロック少量，炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量    | 5 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量    |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック・炭化粒子微量 |       |                   |

**遺物出土状況** 縄文土器片106点が覆土から出土している。6207とTP6194～TP6197の深鉢片及び鉢片は覆土下層から出土している。

**所見** 時期は，覆土下層から出土したTP6194の深鉢片から中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。



第441図 第1857号土坑・出土遺物実測図

第1857号土坑出土遺物観察表（第441図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6207	縄文土器	深鉢	—	(5.1)	7.1	R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土下層	
TP6194	縄文土器	深鉢	—	(12.0)	—	波頂部下に隆帯による渦巻文。口縁部は沈線による区画文。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	良好	黒褐	覆土下層	
T 6195	縄文土器	深鉢	—	(7.7)	—	沈線が沿う隆帯により文様を描出。L Rの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	良好	褐灰	覆土下層	

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP6196	縄文土器	鉢	—	(6.2)	—	胴部上位は沈線に沿う隆帯により文様を描出。RLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	良好	橙	覆土下層	
TP6197	縄文土器	深鉢	—	(11.5)	—	胴部は沈線による懸垂文間を磨り消している。LRの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	良好	黒褐	覆土中層	
TP6198	縄文土器	深鉢	—	(4.6)	—	押圧文を有する隆帯による懸垂文。半截竹管による平行沈線文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	良好	橙	覆土	

### 第1858号土坑 (第442・443図)

**位置** 調査2区の北部, D3b9区。住居跡群域に位置する。

**重複関係** 西側を第1857号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 開口部の平面形は, 第1857号土坑に掘り込まれているため, 現状では径2.19mの円形である。底面はほぼ平坦で, 平面形は長径2.20m, 短径2.05mのほぼ円形である。深さは66cmで, 壁は残存している東壁は内傾している。ピットは3か所で, 壁寄りに位置している。ピットの深さは, P1が94cm, P2が31cm, P3が27cmである。

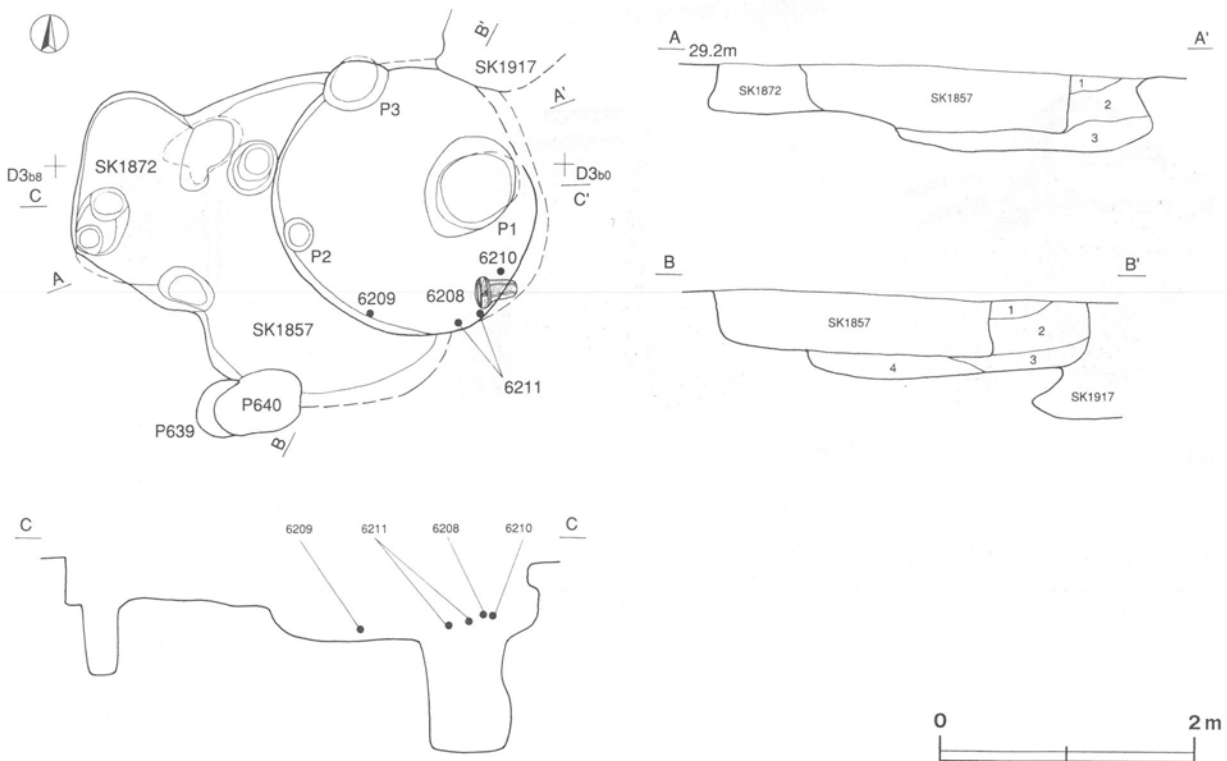
**覆土** 4層に分層される。レンズ状に堆積していることから, 自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

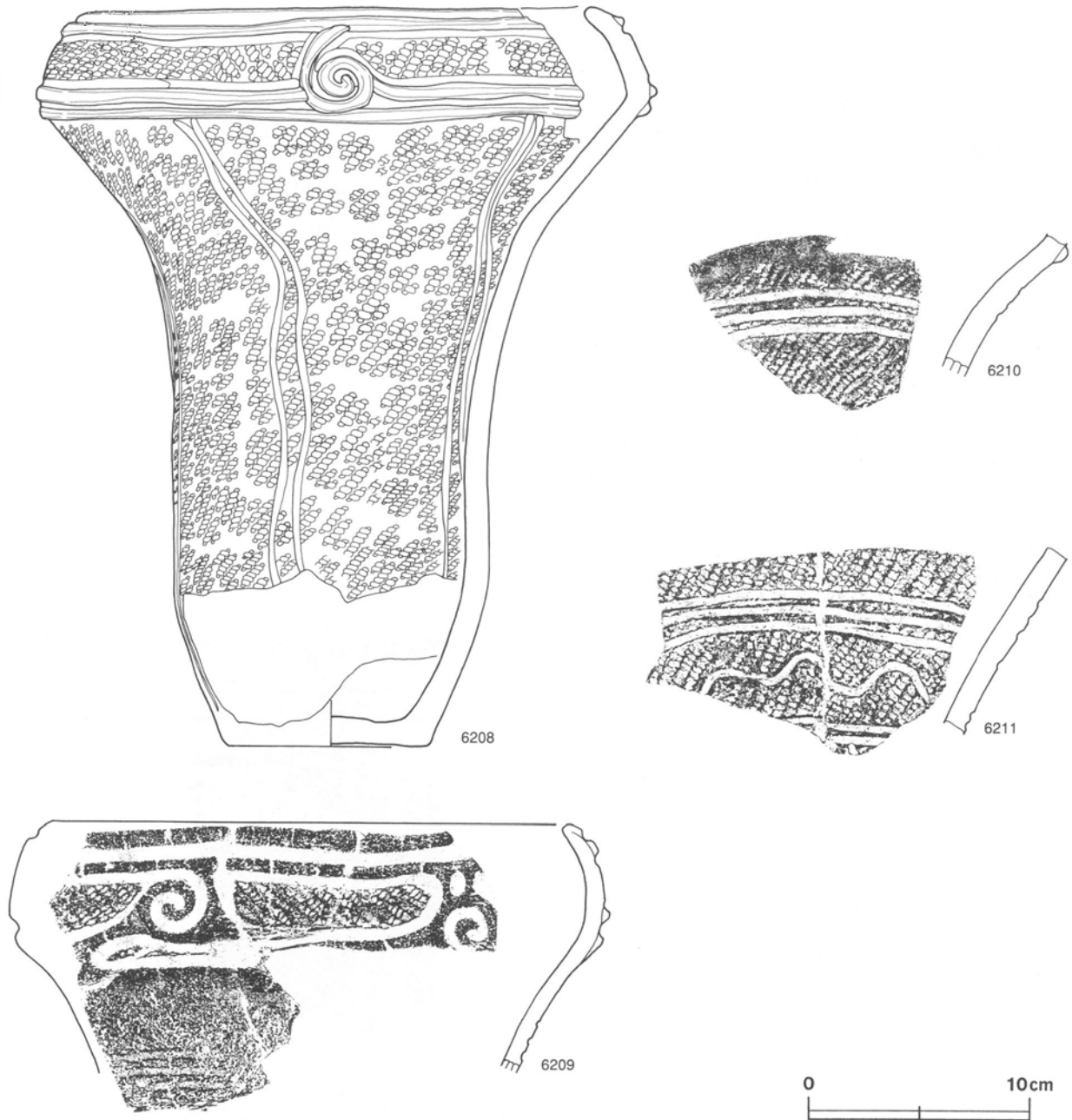
- |       |                    |        |                    |
|-------|--------------------|--------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量    | 3 極暗褐色 | ローム小ブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量 | 4 暗褐色  | ロームブロック中量          |

**遺物出土状況** 縄文土器片84点が出土している。6208の深鉢は, 覆土下層から横位の状態で出土している。

**所見** 時期は, 覆土下層から出土した6208の深鉢から中期後葉(加曾利E I式期)と考えられる。



第442図 第1858号土坑出土遺物実測図



第443図 第1858号土坑出土遺物実測図

第1858号土坑出土遺物観察表（第443図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6208	縄文土器	深鉢	22.6	33.5	9.1	口縁部は沈線に沿う隆帯による渦巻文。胴部は沈線による懸垂文。R Lの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐にぶい黄橙	覆土下層	P L 55
6209	縄文土器	深鉢	[23.2]	(11.4)	—	口縁部は沈線に沿う隆帯による渦巻文。頸部は無文。R Lの単節縄文。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土下層	
6210	縄文土器	深鉢	—	(6.6)	—	口縁部と頸部の境に隆帯文、頸部に沈線文を巡らしている。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	橙	覆土下層	
6211	縄文土器	深鉢	—	(8.6)	—	頸部は沈線文と沈線による波状文を巡らしている。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	覆土下層	

第1859号土坑（第444～446図）

位置 調査2区の中央部，D3 d5区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第2017号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状 開口部の平面形は，第2017号土坑と重複しているため，径1.56mの円形と推定される。くびれ部の平面形は，長径1.46m，短径1.26mの楕円形である。底面は平坦で，平面形は長径2.50m，短径2.18mの楕円形である。深さは74cmで，壁は内傾して立ち上がり，上位でくびれ，確認面付近は外傾している。

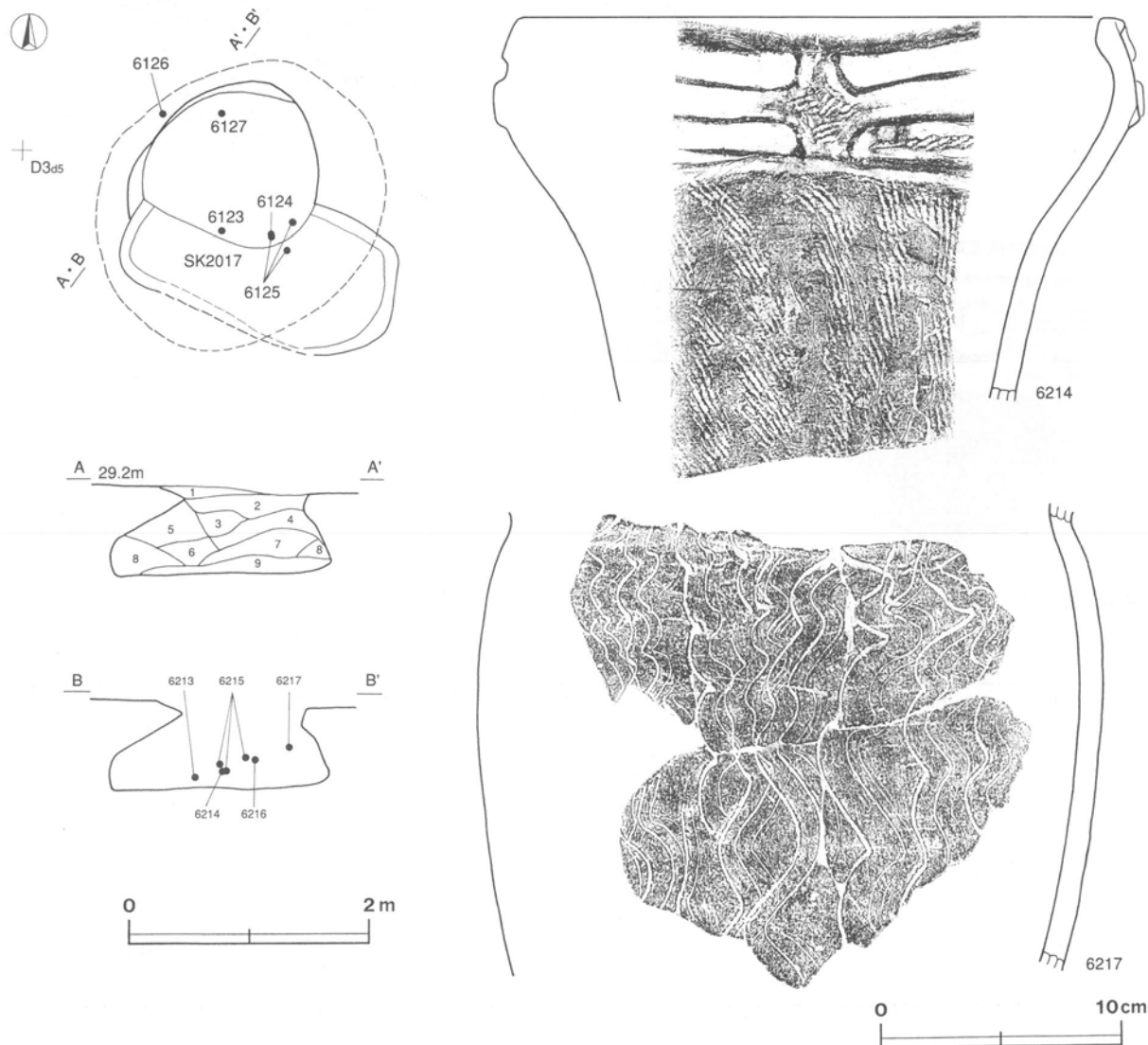
覆土 9層に分層される。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

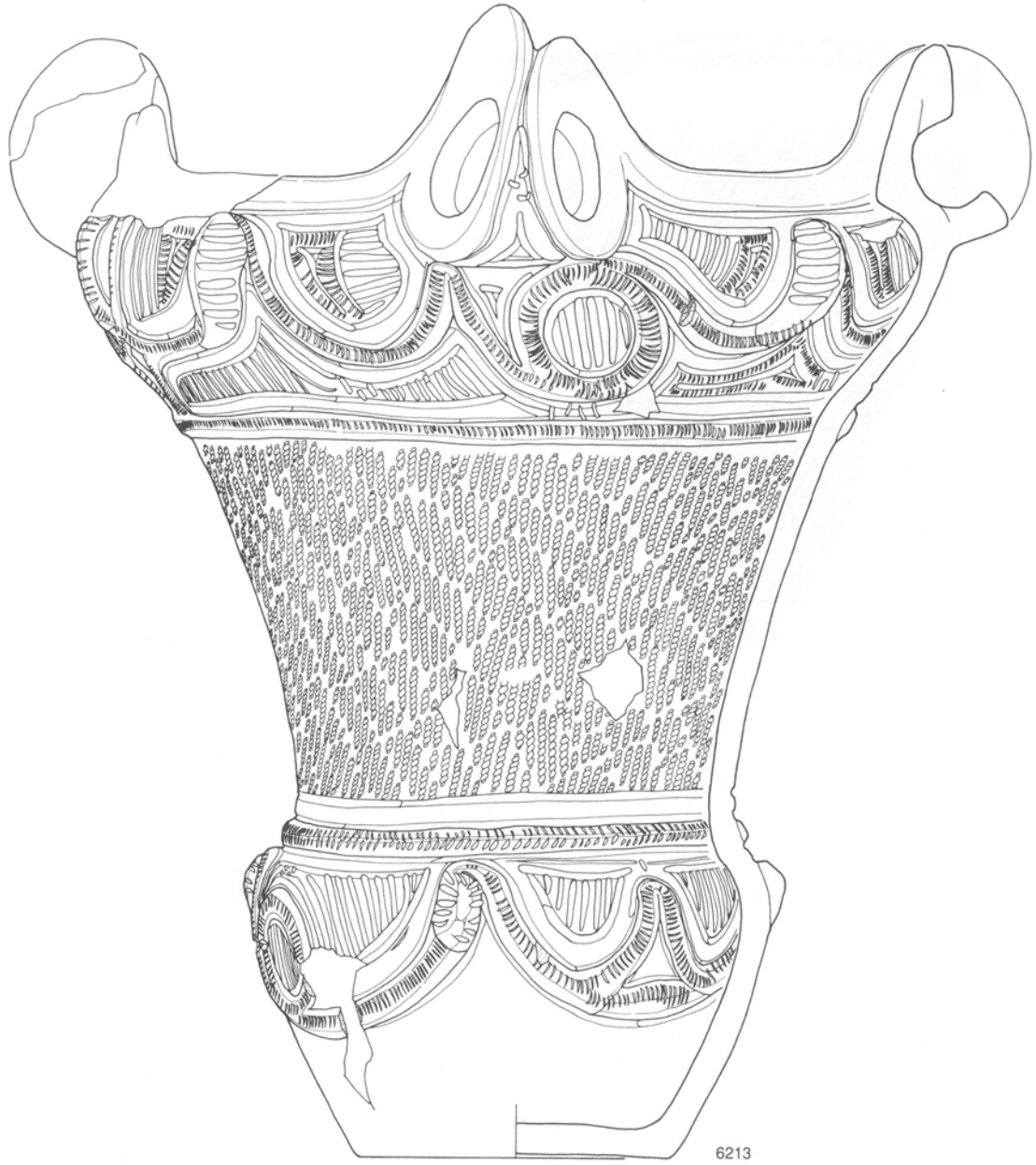
- |       |                |       |                   |
|-------|----------------|-------|-------------------|
| 1 黒色  | ローム粒子・炭化粒子微量   | 6 黒色  | 炭化粒子少量，ロームブロック微量  |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量   | 7 黒褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量    |
| 3 黒色  | 炭化粒子少量，ローム粒子微量 | 8 黒色  | ローム粒子少量，炭化粒子微量    |
| 4 黒褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子中量，鹿沼バミス粒子少量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック少量      |       |                   |

遺物出土状況 縄文土器片120点，石皿1点，磨石片1点，磨製石斧1点が出土している。6213の深鉢は覆土下層から壁際の斜位の状態で，6214の深鉢片は覆土下層から出土している。

所見 6213の深鉢は勝坂Ⅲ式土器である。時期は，覆土下層から出土した6213の深鉢から中期中葉（阿玉台Ⅳ式併行期）と考えられる。



第444図 第1859号土坑・出土遺物実測図



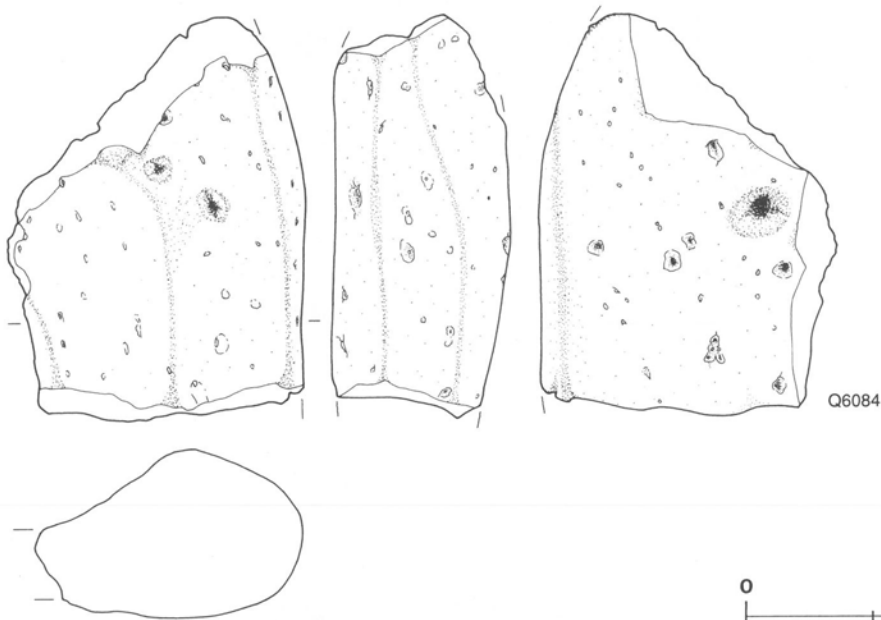
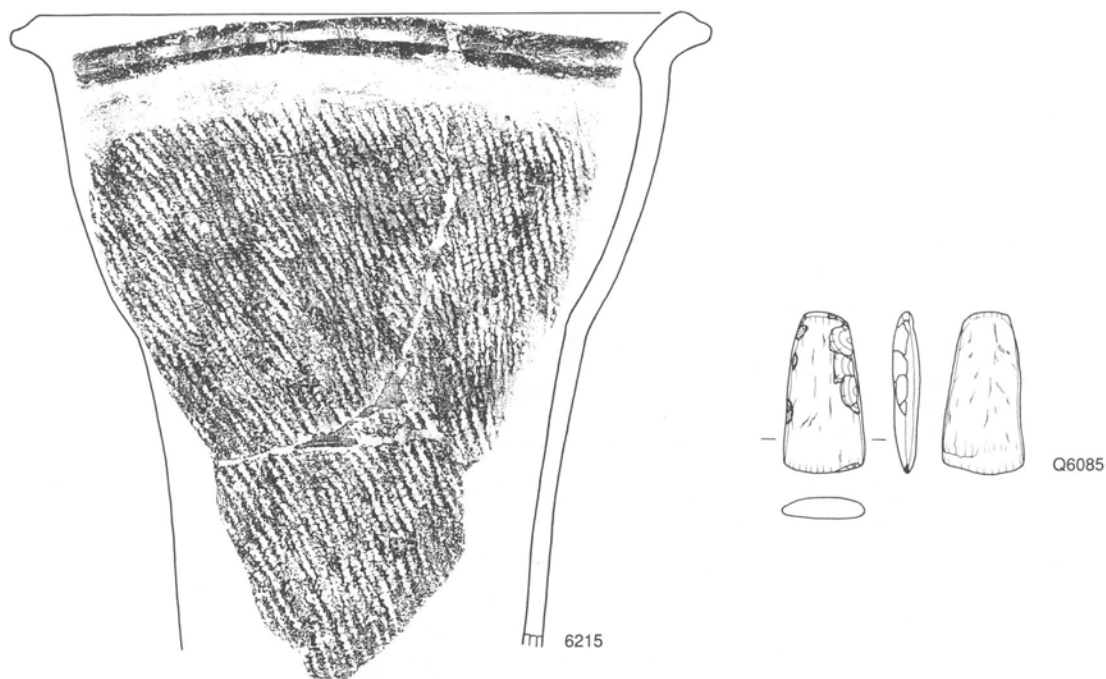
6213



6216



第445图 第1859号土坑出土遗物实测图(1)



第446図 第1859号土坑出土遺物実測図(2)

第1859号土坑出土遺物観察表(第444~446図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6213	縄文土器	深鉢	33.8	48.4	13.3	口縁部と胴部下位はキザミを有する隆帯文。区画内内は沈線文を充填。胴部はRLの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐にぶい橙	覆土下層	P L 54
6214	縄文土器	深鉢	[24.5]	(16.0)	—	口縁部は隆帯により文様を描出している。Lの無節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	褐灰	覆土下層	
6215	縄文土器	深鉢	25.4	(25.0)	—	Lの無節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土中層	

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6216	縄文土器	深鉢	[32.3]	(14.4)	—	口唇部に隆帯による波状文を施している。Lの無節縄文を横方向に、一部を縦方向に施文。	長石・石英・雲母・針状鉱物	普通	にぶい褐	覆土中層	
6217	縄文土器	甕	—	(19.2)	—	半截竹管による波状の平行沈線文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土中層	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q6084	石皿	(16.0)	(11.8)	7.2	(1410.8)	安山岩	表面に皿状のくぼみを有する。凹石に併用。	覆土	
Q6085	磨製石斧	6.3	3.1	1.0	31.6	凝灰岩	器体研磨入念。	覆土	P L60

### 第1860号土坑 (第447・448図)

**位置** 調査2区の北部, C3i8区。住居跡群域に位置する。

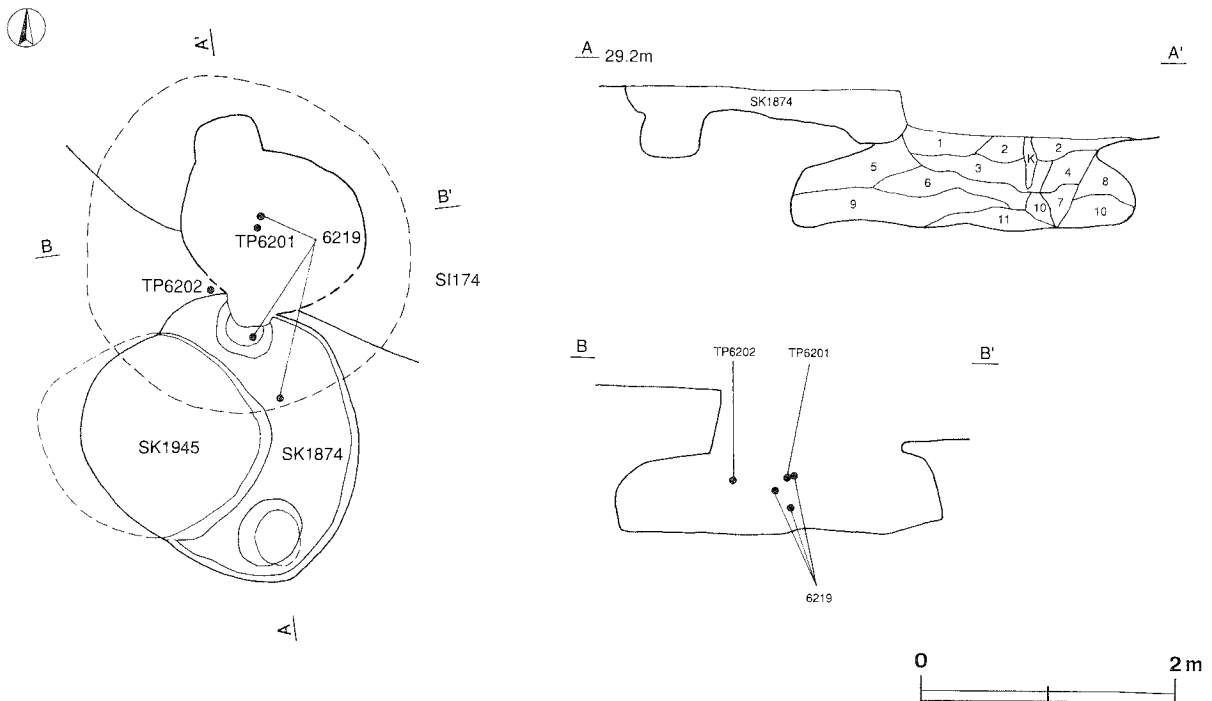
**重複関係** 第1874号土坑と第174号住居に掘り込まれている。

**規模と形状** 開口部の平面形は、第1874号土坑と第174号住居に掘り込まれているため、現状では長径1.46m, 短径1.18mの楕円形である。底面は平坦で、平面形は長径2.68m, 短径2.55mのほぼ円形である。深さは74cmで、壁は内傾している。

**覆土** 11層に分層される。第9～11層はロームブロックを多く含む褐色土で、内傾する壁の崩落土と考えられる。第3～8層はレンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。第1・2層は締まりがある緻密な褐色土で、その上面が第174号住居の床面であることから、第174号住居の貼床と考えられる。

#### 土層解説

- |       |                      |       |                          |
|-------|----------------------|-------|--------------------------|
| 1 褐色  | ローム粒子極めて微量           | 7 暗褐色 | ローム小ブロック少量, 鹿沼パミス小ブロック微量 |
| 2 褐色  | ローム粒子微量              | 8 黒褐色 | ローム粒子・鹿沼パミス粒子微量          |
| 3 黒褐色 | ローム粒子微量              | 9 褐色  | ロームブロック中量, 鹿沼パミス粒子少量     |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック微量           | 10 褐色 | ロームブロック多量, 鹿沼パミス粒子少量     |
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量      | 11 褐色 | ロームブロック中量                |
| 6 黒褐色 | ロームブロック少量, 鹿沼パミス粒子微量 |       |                          |

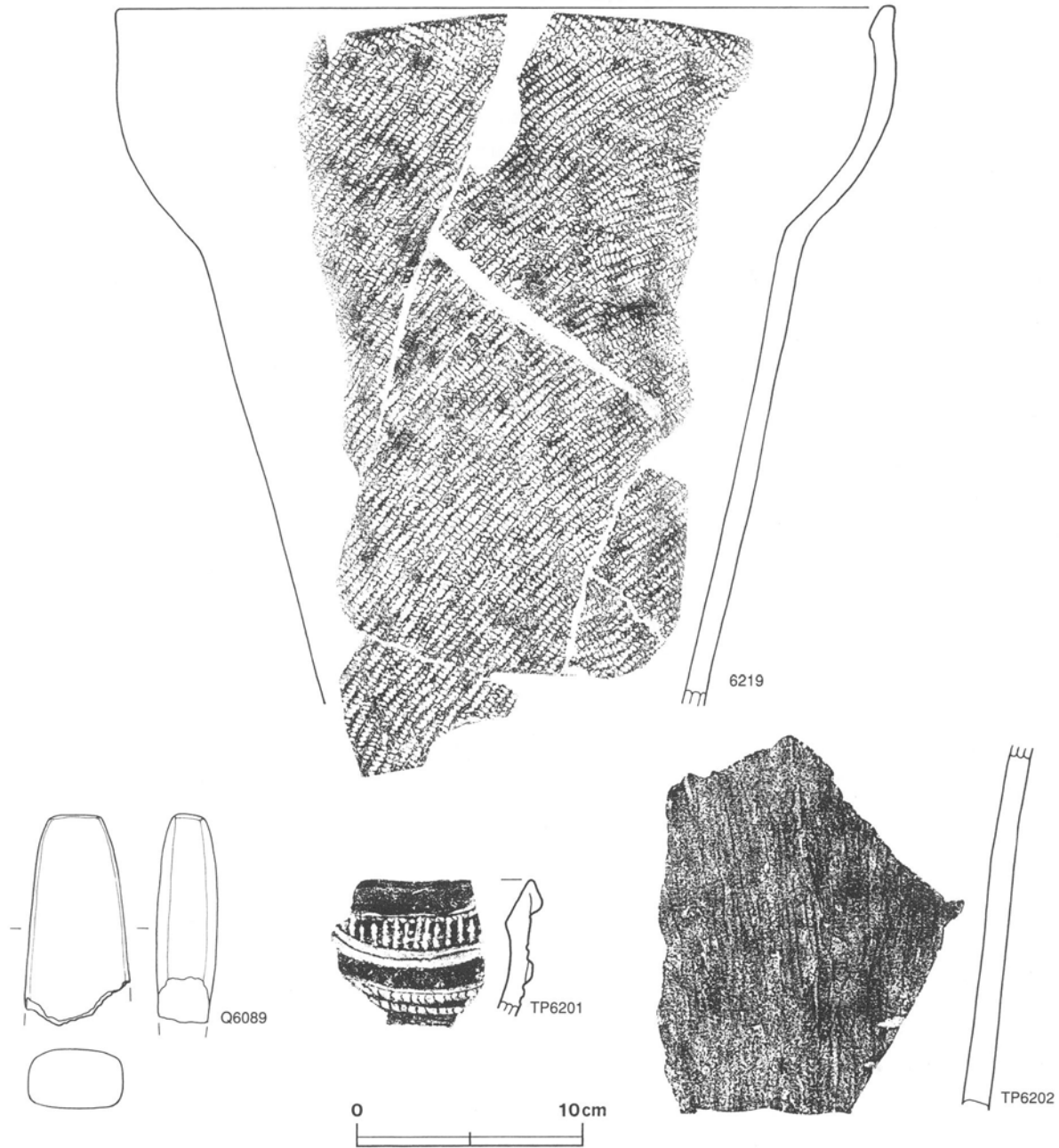


第447図 第1860号土坑実測図



**遺物出土状況** 縄文土器片209点、磨製石斧1点が出土している。6219の深鉢と TP6201の深鉢片は覆土下層から出土している。

**所見** 時期は、覆土下層から出土した6219の深鉢と TP6201の深鉢片から中期中葉（阿玉台Ⅱ・Ⅲ式期）と考えられる。



第448図 第1860号土坑出土遺物実測図

第1860号土坑出土遺物観察表（第448図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6219	縄文土器	深鉢	[33.8]	(30.1)	—	R Lの単節縄文を口唇部外面は横方向に、それ以外は縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐 にぶい褐	覆土下層	
TP6201	縄文土器	深鉢	—	(6.2)	—	隆帯により文様を描出している。隆帯に沿って結節沈線文を施している。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	覆土下層	

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP6202	縄文土器	深鉢	—	(16.2)	—	無文で、研磨。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土下層	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q6089	磨製石斧	(9.3)	4.7	2.6	(207.1)	斑駁岩	器体研磨入念。刃部欠損。	覆土	

### 第1862号土坑 (第449～451図)

**位置** 調査2区の北部, D3b7区。住居跡群域に位置する。

**確認状況** 平安時代の住居跡である第179号住居跡の調査中に確認する。

**重複関係** 西側で第179号住居に, 南側で第704号ピットに掘り込まれている。

**規模と形状** 開口部の平面形は, 第179号住居と第704号ピットに掘り込まれているため, 径0.90mの円形と推定される。底面は皿状で, 平面形は長径2.48m, 短径2.20mの楕円形である。深さは118cmで, 壁は内傾して立ち上がり, 中位でくびれ, 残存している北東壁の上位だけが外傾している。くびれ部までの高さは65cmである。

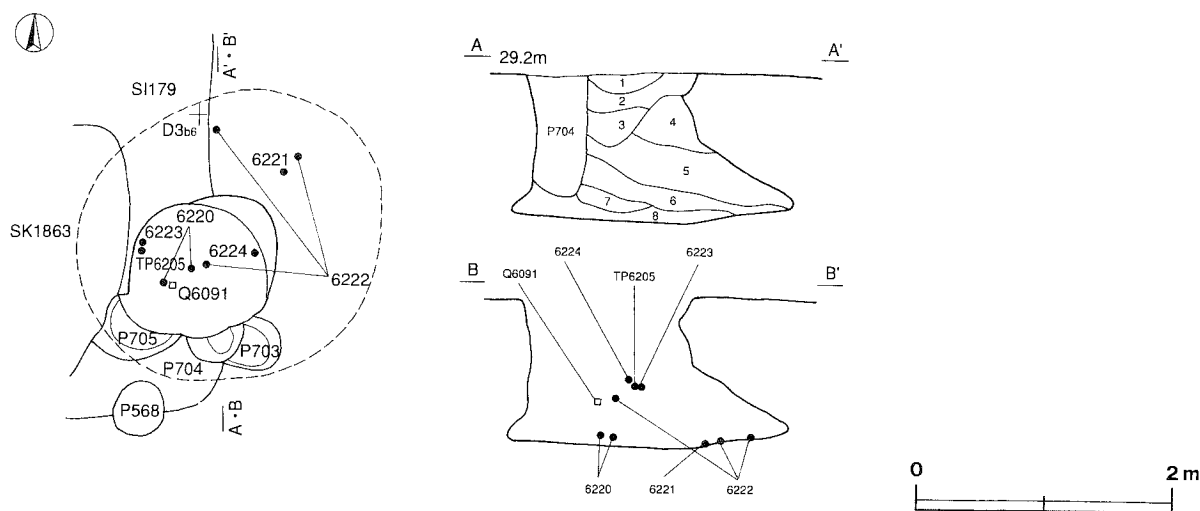
**覆土** 8層に分層される。第5層と第7・8層はローム粒子が多く, 遺物が廃棄されたような状態で出土していることから, 廃棄活動による人為堆積と考えられる。第1～4・6層はレンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

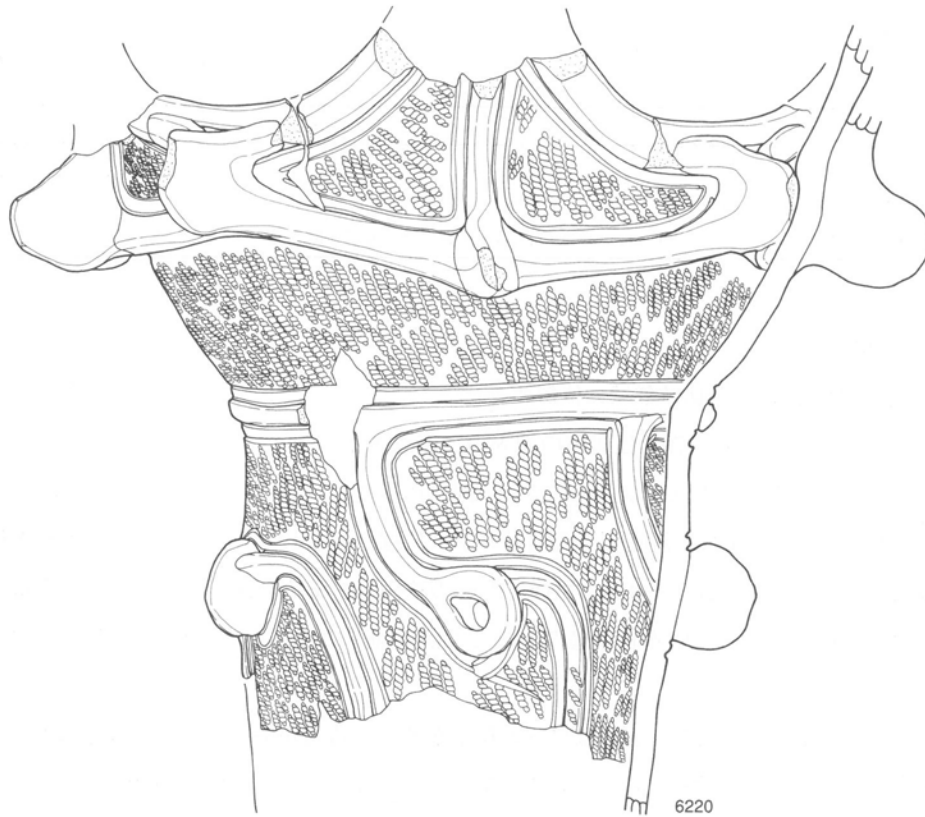
- |       |                              |       |                             |
|-------|------------------------------|-------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量            | 5 褐色  | ロームブロック中量, 炭化物少量, 鹿沼バミス粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量            | 6 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量       |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック少量, 焼土粒子・鹿沼バミス粒子微量   | 7 褐色  | ローム粒子中量, 鹿沼バミス粒子少量, 炭化粒子微量  |
| 4 暗褐色 | ローム小ブロック中量, 炭化物少量, 鹿沼バミス粒子微量 | 8 褐色  | ローム粒子・鹿沼バミス粒子少量             |

**遺物出土状況** 縄文土器片285点, 磨製石斧片2点, 磨石1点, 石核片1点が出土している。遺物の多くは覆土下層と覆土中層にそれぞれ廃棄されたような状態で出土している。6220の深鉢は覆土下層から, 6221・6222の深鉢は底面から, 6223・6224の深鉢片は覆土中層から出土している。

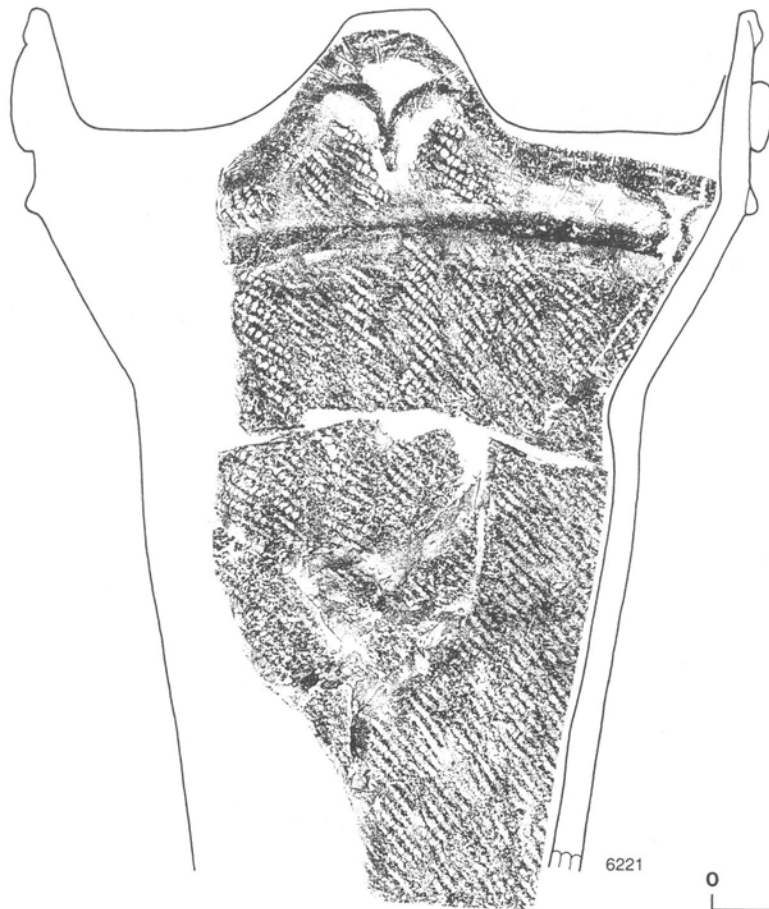
**所見** 覆土下層と覆土中層に遺物が集中し, それぞれ一括廃棄されたことがうかがわれる。時期は, 覆土下層から出土した6220の深鉢から中期中葉(阿玉台IV式期)と考えられる。



第449図 第1862号土坑実測図



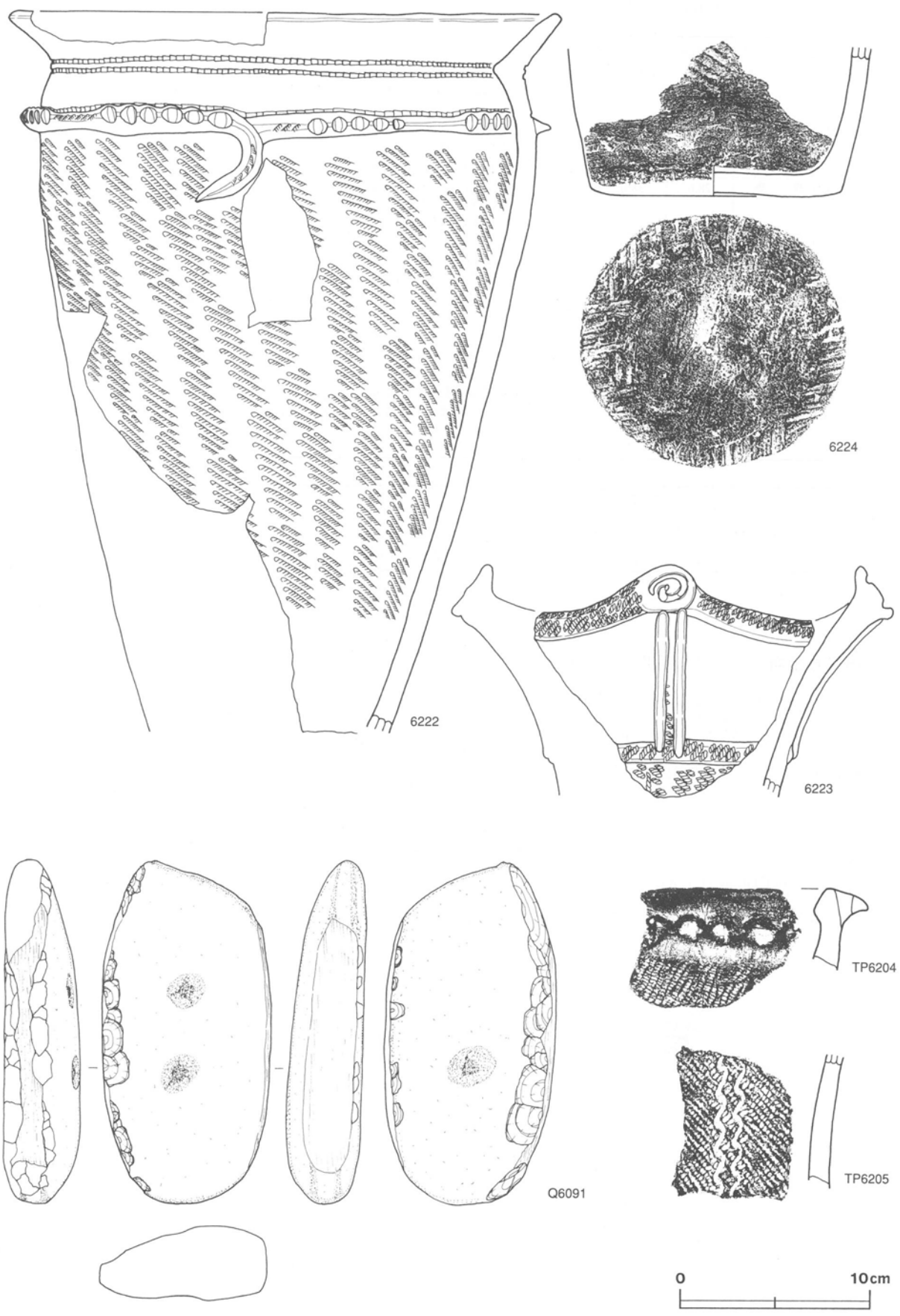
6220



6221



第450图 第1862号土坑出土遗物实测图(1)



第451图 第1862号土坑出土遗物实测图(2)

第1862号土坑出土遺物観察表（第450～451図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6220	縄文土器	深鉢	(30.0)	(31.1)	—	口縁部と胴部は突起を有する隆帯文と隆帯に沿う半載竹管による平行沈線文。LRの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	褐灰 明赤褐	覆土下層	P L 55
6221	縄文土器	深鉢	[28.4]	(34.0)	—	口縁部と頸部の境に隆帯文。波頂部下にV字状文、波底部下にX字状文。LRの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	底面	
6222	縄文土器	甕	28.6	(38.0)	—	口縁部は無文。胴部上位は結節沈線文が沿う隆帯文。胴部はLの無節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐 にぶい橙	底面	
6223	縄文土器	深鉢	[20.0]	(20.0)	—	波頂部下は隆帯による渦巻文。口縁部は隆帯文を懸垂させ、以外は無文。胴部はLRの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	褐灰	覆土中層	
6224	縄文土器	深鉢	—	(8.0)	13.8	Lの無節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土中層	
TP6204	縄文土器	深鉢	—	(4.4)	—	口唇部外面に押圧文を有する隆帯を巡らしている。RLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	覆土	
TP6205	縄文土器	深鉢	—	(7.0)	—	LRの単節縄文と綾線文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土	

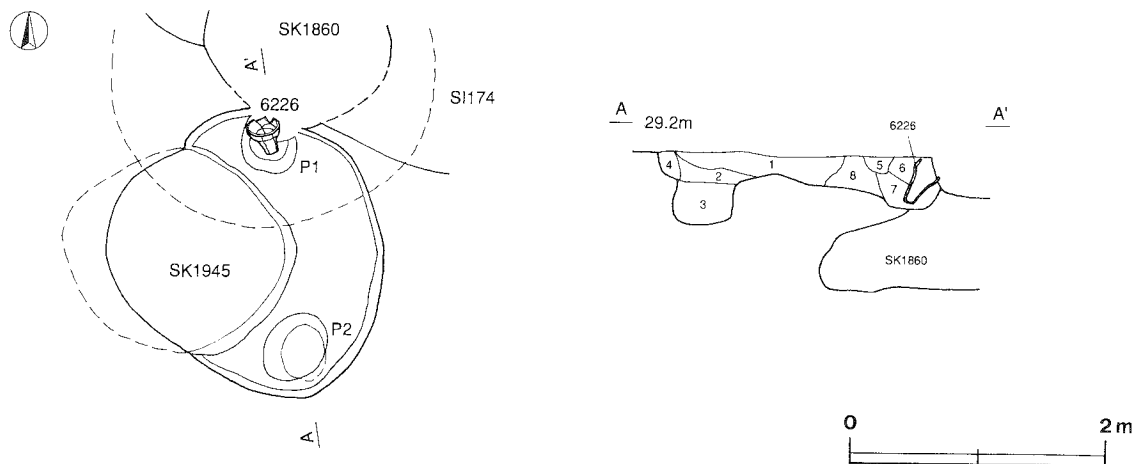
番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q6091	磨石	18.3	9.0	4.0	968.3	砂岩	両側縁に擦痕。凹石に併用	覆土中層	P L 61

第1874号土坑（第452・453図）

位置 調査2区の北部、C3j8区。住居跡群域に位置する。

重複関係 北側で第1860号土坑を掘り込んでいる。第1945号土坑との新旧関係は、出土遺物から本跡が新しい。

規模と形状 平面形は、第1945号土坑と重複しているため長径2.34m、短径は推定で1.78mの楕円形である。底面はほぼ平坦であるが、第1860号土坑と重複している北側は沈下して深くなっている。深さは44cmで、壁は外傾している。ピットは2か所で、いずれも壁際に位置している。P1は6226の深鉢が出土していることから土器埋設土坑の可能性もあるが、P1とP2は壁際に位置し、相対していること、ピットの覆土は近似していることから、本跡のピットと判断した。ピットの深さは、P1が11cm、P2が43cmである。



第452図 第1874号土坑実測図

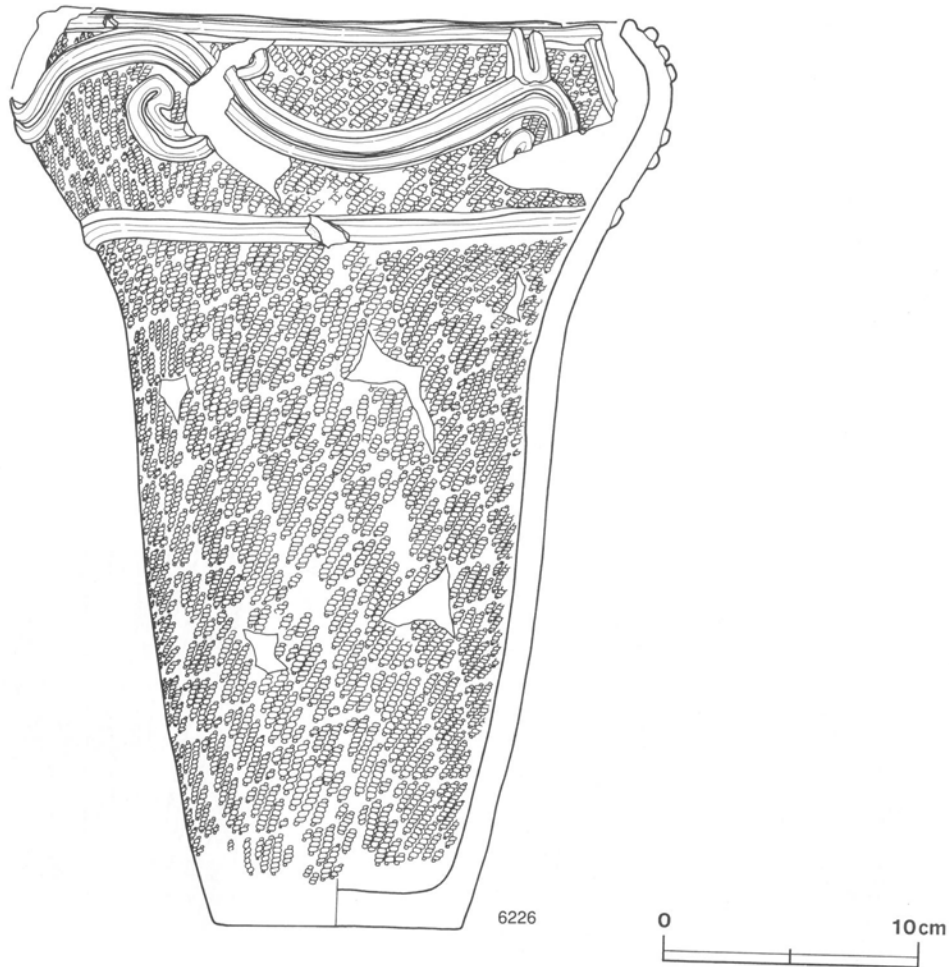
覆土 8層に分層される。第3層はP2の覆土で、第7層はP1の覆土である。それ以外はレンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- |       |              |       |                        |
|-------|--------------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子微量、第2層より色調が明るい    |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量      | 6 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量           |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック少量   | 7 暗褐色 | ローム小ブロック少量、第3層より色調が明るい |
| 4 暗褐色 | ローム小ブロック微量   | 8 暗褐色 | ローム小ブロック中量             |

遺物出土状況 縄文土器片101点が出土している。6226の深鉢はほぼ完形で、P1の覆土下層から口縁部をやや北側に向けた斜位の状態で出土している。

所見 時期は、P1の覆土下層から出土した6226の深鉢から中期後葉（加曾利E I式期）と考えられる。



第453図 第1874号土坑出土遺物実測図

第1874号土坑出土遺物観察表（第453図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6226	縄文土器	深鉢	[22.3]	35.9	9.6	口縁部は2本一組の隆帯により文様を描出。RLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐色	P1覆土下層	P L55

第1876号土坑（第454・455図）

位置 調査2区の北部、D3d5区。住居跡群域に位置する。

重複関係 南東側で第1877号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 開口部の平面形は、長径1.58m、短径1.43mの楕円形である。底面はほぼ平坦で、平面形は長径

2.16m, 短径1.94mの楕円形である。深さは118cmである。壁は内傾して立ち上がり, 中位でくびれ, 上位は外傾している。ピットは2か所で, 壁寄りに位置している。ピットの深さは, P1が50cm, P2が42cmである。

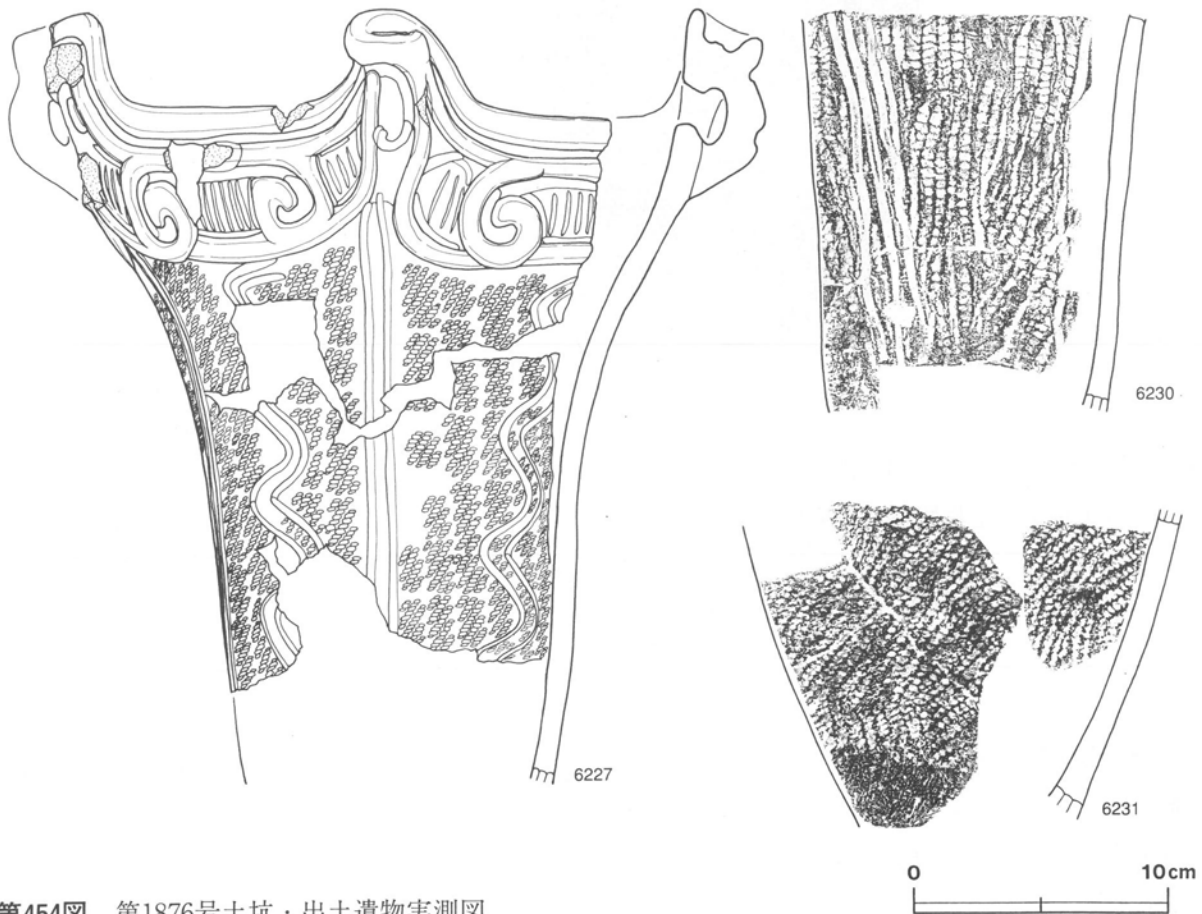
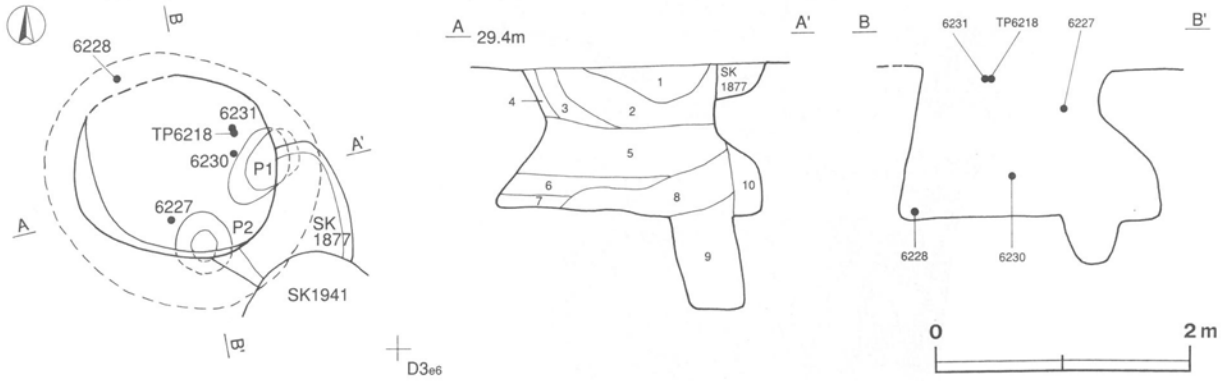
**覆土** 10層に分層される。レンズ状に堆積していることから, 自然堆積と考えられる。

**土層解説**

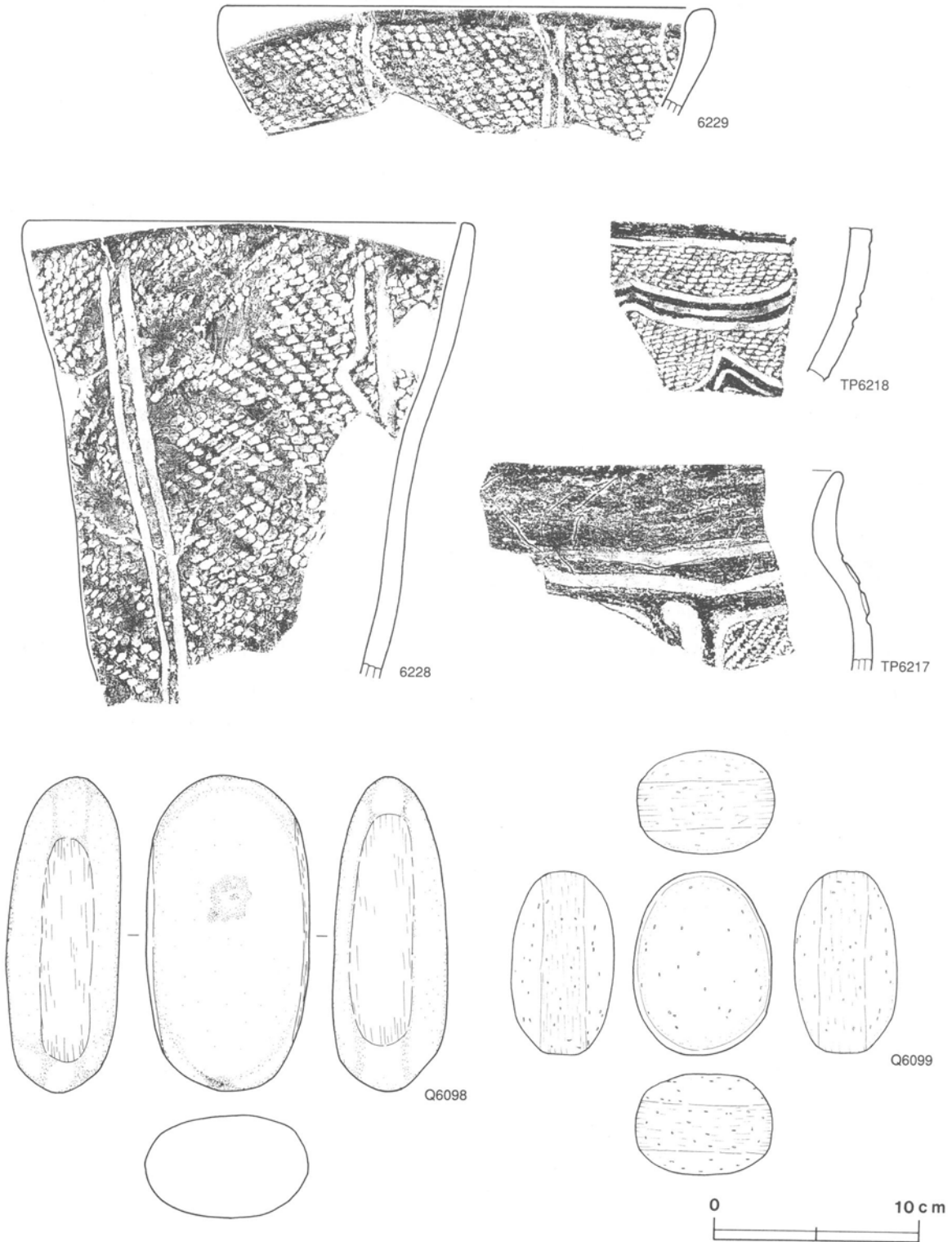
- |       |                      |        |                   |
|-------|----------------------|--------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量              | 6 黒褐色  | ローム小ブロック少量        |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック少量, 炭化物微量    | 7 黒褐色  | ローム小ブロック少量, 炭化物微量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック・鹿沼バミス粒子微量   | 8 暗褐色  | ローム小ブロック微量        |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量            | 9 黒褐色  | ローム小ブロック微量        |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・鹿沼バミス小ブロック微量 | 10 暗褐色 | ローム小ブロック中量        |

**遺物出土状況** 縄文土器片310点, 磨石4点, 打製石斧片1点, 石核1点, 剥片1点が出土している。6228と6230の深鉢片は覆土下層から, 6227と6231の深鉢片は覆土上層から出土している。

**所見** 時期は, 出土土器から中期後葉(加曾利E II式期)と考えられる。



第454図 第1876号土坑・出土遺物実測図



第455図 第1876号土坑出土遺物実測図

第1876号土坑出土遺物観察表 (第454・455図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6227	縄文土器	深鉢	[24.0]	(30.5)	—	口縁部は隆帯文と縦位の沈線文。胴部は沈線による懸垂文間を磨り消す。RLの単節縄文。	長石・石英	普通	黒褐 赤褐	覆土上層	
6228	縄文土器	深鉢	21.4	(21.1)	—	沈線による2条一組の懸垂文。LRLの複節縄文を口縁部は横方向、胴部は縦方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい褐	覆土下層	



番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6229	縄文土器	深鉢	[23.5]	(5.3)	—	沈線による2条一組の懸垂文。L R Lの複節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	黒褐	覆土	
6230	縄文土器	深鉢	—	(16.2)	—	沈線による3条一組の懸垂文。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	灰褐	覆土下層	
6231	縄文土器	深鉢	—	(12.2)	—	R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土上層	
TP6217	縄文土器	鉢	—	(9.6)	—	口縁部は無文。胴部上位は隆帯により文様を描出。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	橙	覆土	
TP6218	縄文土器	深鉢	—	(7.4)	—	沈線による連弧文。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい褐	覆土上層	

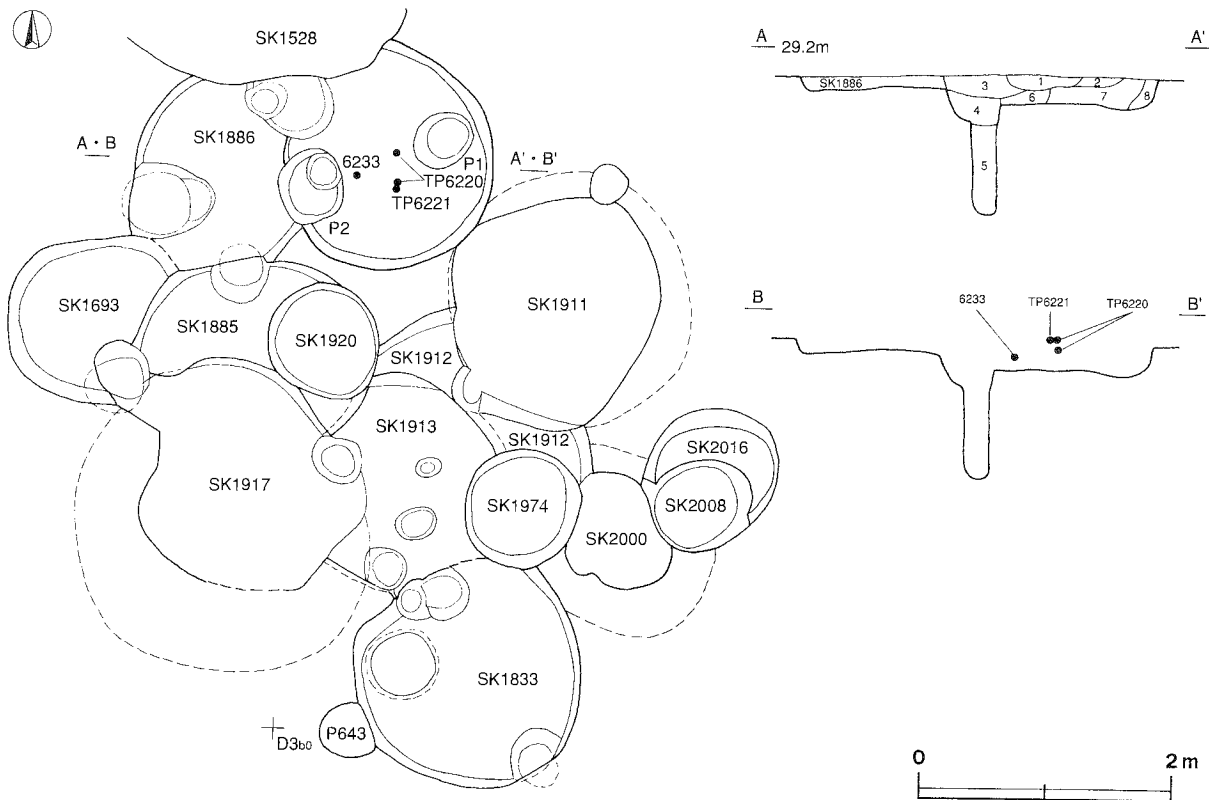
番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q6098	磨石	15.2	7.8	5.5	969.3	砂岩	両側縁に擦痕。凹石に併用。	覆土	P L62
Q6099	磨石	8.8	6.7	5.0	444.6	石英斑岩	周縁に擦痕。	覆土	赤色顔料痕 P L61

### 第1884号土坑（第456・457図）

位置 調査2区の北部，C3j0区。住居跡群域に位置する。

重複関係 西側で第1886号土坑を掘り込んでいる。第1528号土坑との新旧関係は，出土遺物から本跡が新しい。

規模と形状 平面形は，第1528号土坑と重複しているため，長径は推定で1.78m，短径1.66mのほぼ円形である。底面はほぼ平坦である。深さは26cmで，壁は外傾している。ピットは2か所で，いずれも壁際に位置している。ピットの深さは，P1が52cm，P2が88cmである。



第456図 第1884号土坑実測図

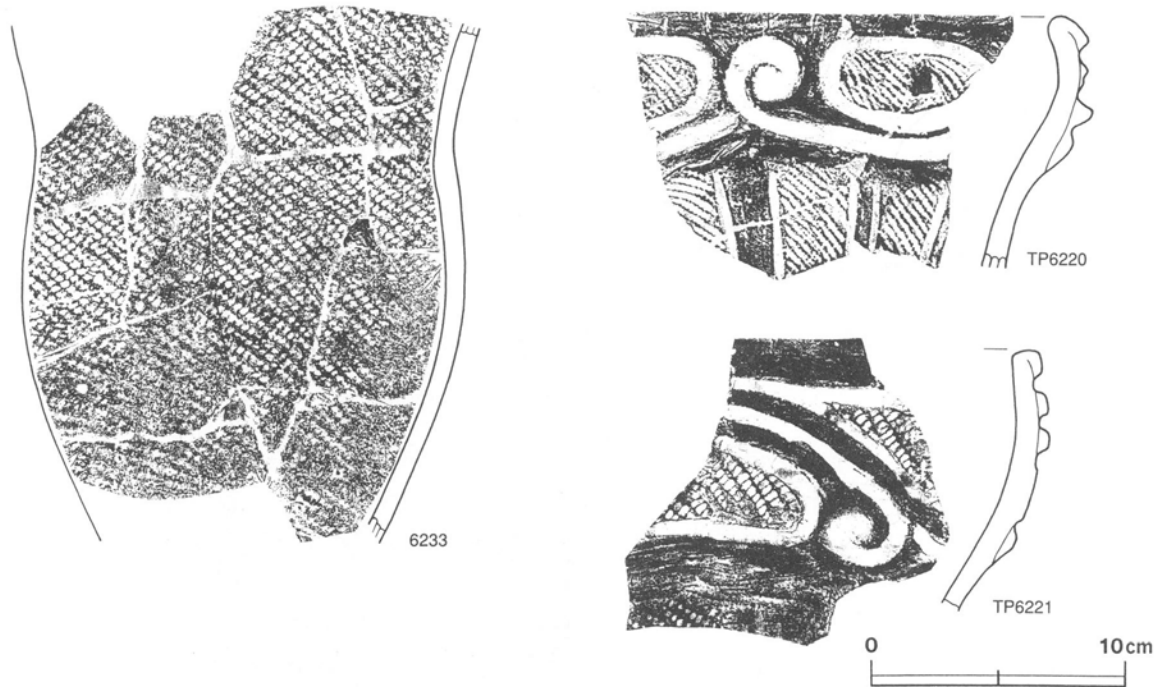
**覆土** 8層に分層される。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

**土層解説**

- |       |              |       |                    |
|-------|--------------|-------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック少量          |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化物微量  | 6 黒褐色 | ロームブロック中量          |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック少量   | 7 黒褐色 | ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック中量   | 8 暗褐色 | ローム粒子微量            |

**遺物出土状況** 縄文土器片75点, 石核1点が出土している。6233の深鉢片は覆土下層から出土している。

**所見** 時期は, 出土土器から中期後葉(加曾利EⅡ式期)と考えられる。



第457図 第1884号土坑出土遺物実測図

第1884号土坑出土遺物観察表(第457図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6233	縄文土器	深鉢	—	(20.6)	—	L Rの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい褐	覆土下層	
TP6220	縄文土器	深鉢	—	(10.0)	—	口縁部は隆帯により文様を描出。胴部は沈線による懸垂文間を磨り消す。L Rの単節縄文。	長石・石英	普通	黒褐	覆土上層	
TP6221	縄文土器	深鉢	—	(10.4)	—	口縁部は2本一組の隆帯により文様を描出。L Rの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい褐 黒褐	覆土上層	

**第1889号土坑(第458・459図)**

**位置** 調査2区の北部, D3f6区。住居跡群の外周域に位置する。

**重複関係** 南東側で第1888号土坑を掘り込んでいる。第1887号土坑との新旧関係については不明である。

**規模と形状** 開口部の平面形は, 現状では長径1.72m, 短径1.24mの楕円形である。底面はほぼ平坦で, 平面形は径2.38mほどの円形である。深さは84cmである。壁は内傾して立ち上がり, 中位でくびれ, 上位は直立している。くびれ部までの高さは56cmである。

**覆土** 4層に分層される。レンズ状に堆積していることから, 自然堆積と考えられる。

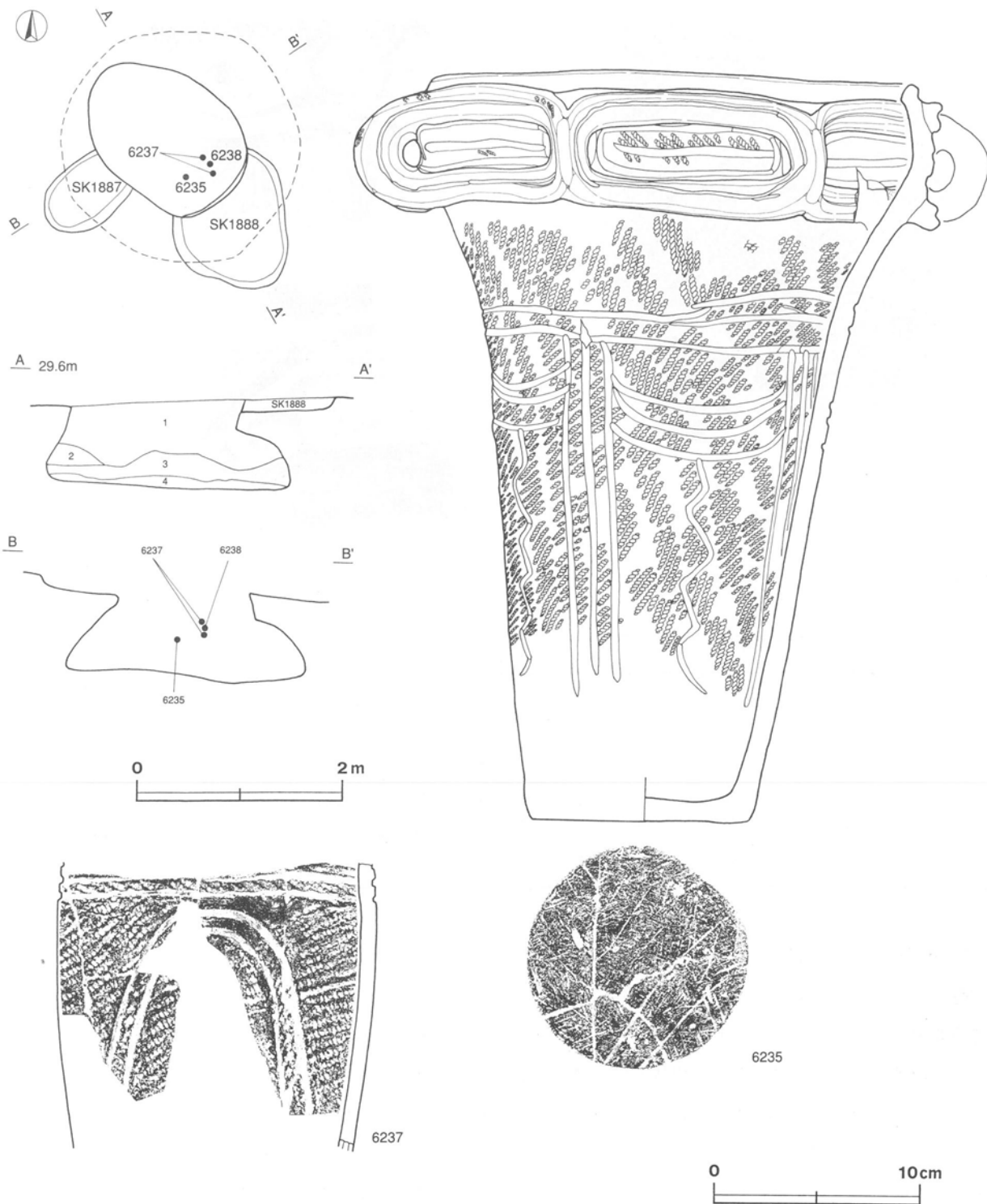
土層解説

- 1 黒褐色 炭化物少量, ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量

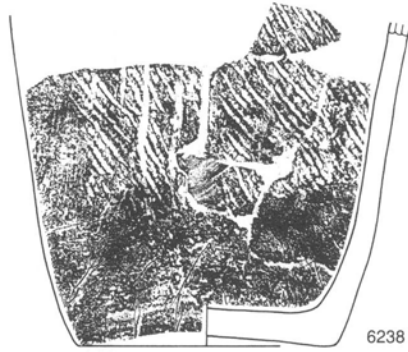
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ロームブロック・鹿沼バミス粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片208点, 不明土製品1点, 磨石片1点が出土している。6235の深鉢と6237・6238の深鉢片は覆土中層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から中期後葉(加曾利E I式期)と考えられる。



第458図 第1889号土坑・出土遺物実測図



第459図 第1889号土坑出土遺物実測図

第1889号土坑出土遺物観察表 (第458・459図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6235	縄文土器	深鉢	23.2	36.5	10.6	口縁部は橋状把手を起点に背に沈線を有する隆帯文。胴部は沈線文。RLの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐 明赤褐	覆土中層	底部木 葉痕 P L 55
6237	縄文土器	深鉢	—	(14.0)	—	胴部には2条一組の沈線による逆U字状文を施している。RLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土中層	
6238	縄文土器	深鉢	—	(12.8)	10.2	沈線による懸垂文を施している。Lの無節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土中層	

番号	器種	計測値				胎土・色調	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
DP6019	不明土製品	(3.3)	3.4	(1.6)	(8.1)	長石・石英 ぶい褐	キノコ形。下部欠損。	覆土	

第1892号土坑 (第460・461図)

**位置** 調査2区の北部, D3c8区。住居跡群域に位置する。

**重複関係** 南東側を平安時代の第1894号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 平面形は、径2.30mほどの円形である。底面は平坦である。深さは50cmで、壁は直立している。ピットは1か所で、壁際に位置し、底面は二段となる。深さは65cmである。

**覆土** 11層に分層される。第1・5層は焼土粒子と炭化物を多く含む層である。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

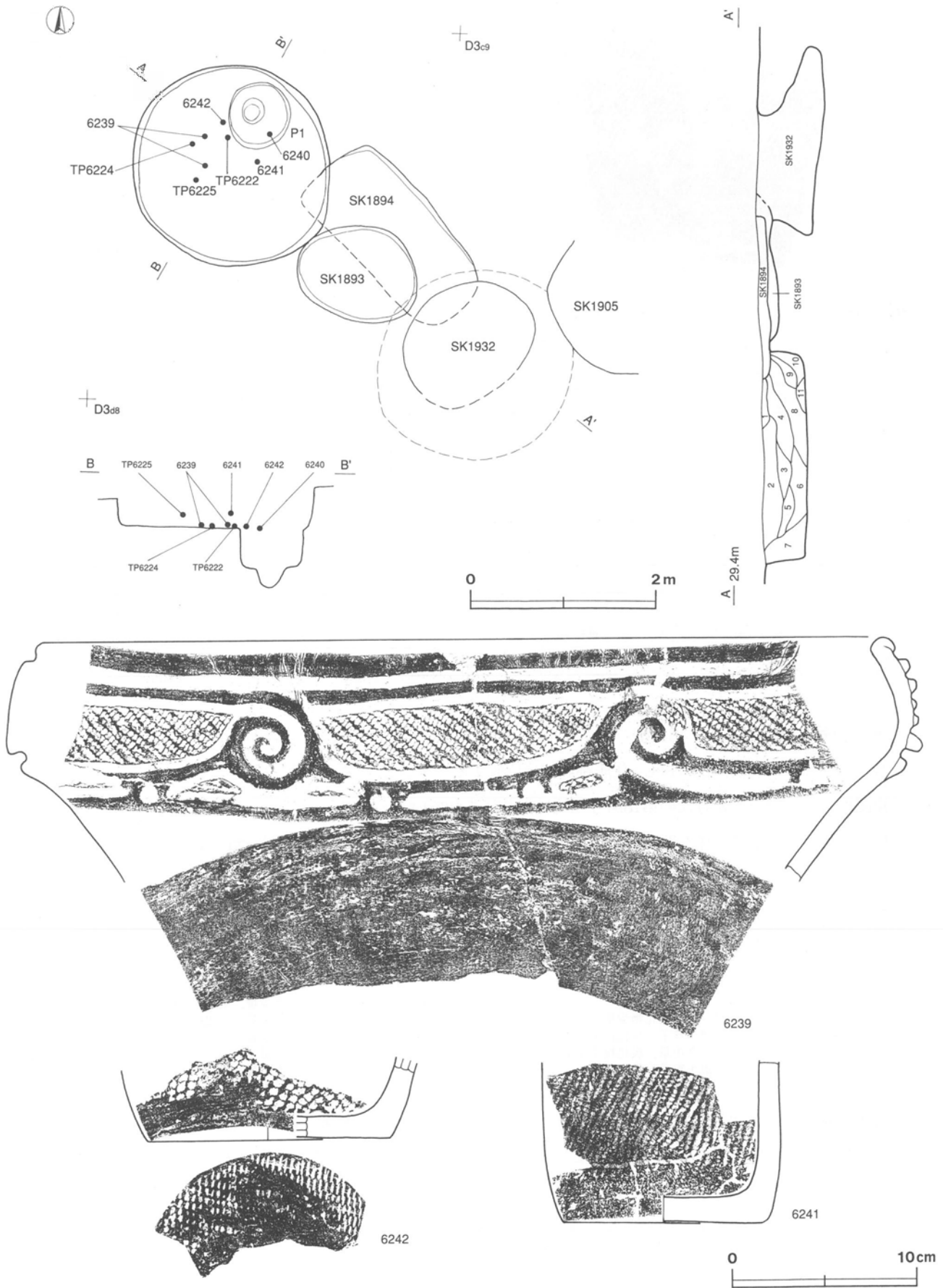
**土層解説**

- |        |                    |         |                    |
|--------|--------------------|---------|--------------------|
| 1 黒褐色  | 焼土小ブロック・炭化物少量      | 7 黒褐色   | ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色  | ローム小ブロック・炭化物少量     | 8 極暗褐色  | ローム小ブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色  | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量  | 9 黒褐色   | ローム小ブロック少量         |
| 4 黒褐色  | ローム小ブロック中量, 炭化粒子少量 | 10 褐色   | ロームブロック中量          |
| 5 暗赤褐色 | 炭化物中量, 焼土粒子少量      | 11 極暗褐色 | ローム小ブロック少量         |
| 6 黒褐色  | ローム粒子中量, 炭化粒子微量    |         |                    |

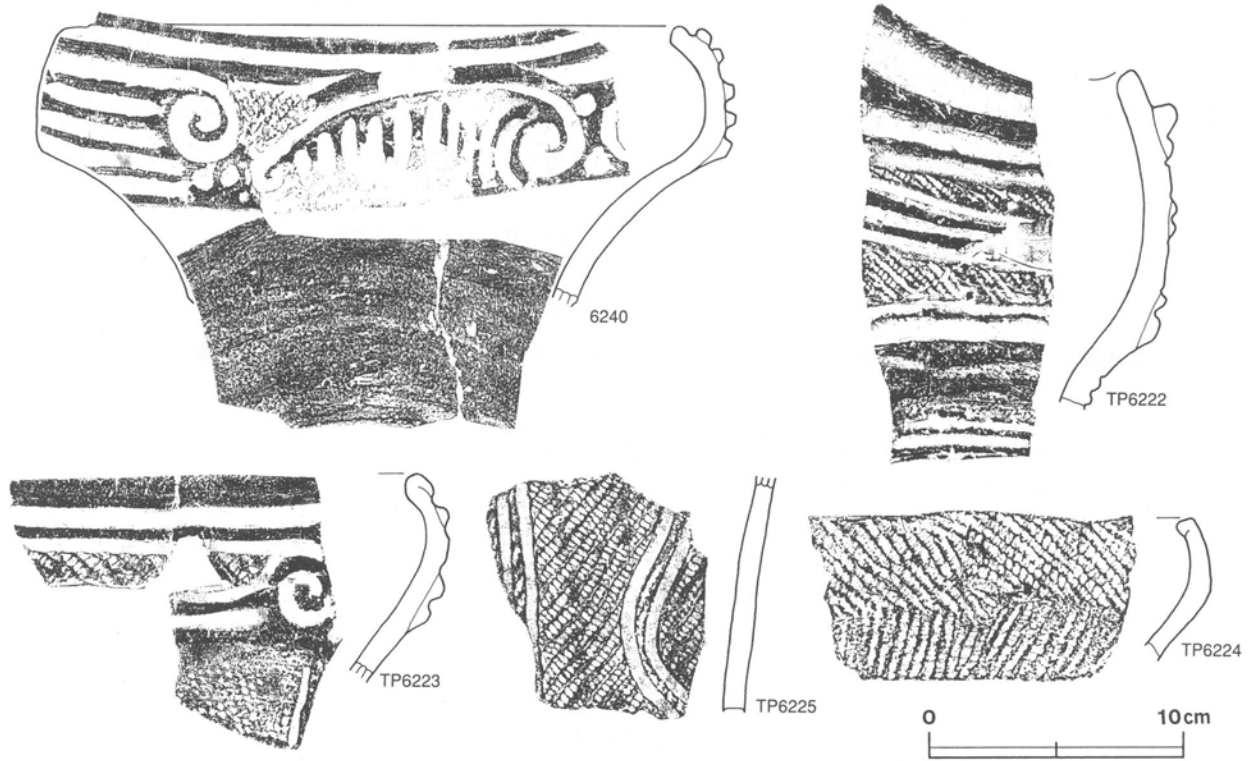
**遺物出土状況** 縄文土器片238点が、主に覆土中層から底面にかけて廃棄されたような状態で出土している。

6239と6240の深鉢片は覆土下層から出土している。

**所見** 覆土下層に遺物が集中し、一括廃棄されたことがうかがわれる。時期は、底面から出土している6239と6240の深鉢片から中期後葉(加曾利E I式期)と考えられる。



第460图 第1892号土坑·出土遺物实测图



第461図 第1892号土坑出土遺物実測図

第1892号土坑出土遺物観察表（第460・461図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6239	縄文土器	深鉢	[46.0]	(13.4)	—	口縁部は沈線に沿う隆帯による渦巻文。頸部は無文。R Lの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	底面	
6240	縄文土器	深鉢	[23.0]	(11.0)	—	口縁部は沈線に沿う隆帯による渦巻文。区画内は沈線を充填している。頸部は無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	底面	
6241	縄文土器	深鉢	—	(8.7)	11.0	R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土下層	
6242	縄文土器	深鉢	—	(4.0)	[13.2]	R L Rの複節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	底面	底部網代痕
TP6222	縄文土器	深鉢	—	(13.4)	—	口縁部は背に沈線を有する隆帯文。胴部上位は半截竹管による平行沈線文。L Rの単節縄文。	長石・石英	普通	黒褐 橙	底面	
TP6223	縄文土器	深鉢	—	(8.3)	—	口縁部は沈線に沿う隆帯による渦巻文。胴部は沈線による懸垂文。L Rの単節縄文。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土下層	
TP6224	縄文土器	深鉢	—	(5.7)	—	R Lの単節縄文を口縁部は横方向に、以外は縦方向に施文。	長石・石英	普通	暗赤褐	底面	
TP6225	縄文土器	深鉢	—	(9.3)	—	沈線による懸垂文。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	黒褐	覆土下層	

第1905号土坑（第462・463図）

位置 調査2区の北部，D3c9区。住居跡群域に位置する。

重複関係 西側で第1932号土坑を掘り込み，北東側を第1906号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形は，第1906号土坑に掘り込まれているため，現状では長径1.92m，短径1.84mのほぼ円形である。底面は平坦で，平面形は長径1.88m，短径1.74mのほぼ円形である。深さは76cmで，壁は

第1906号土坑に掘り込まれているため内傾している。ピットは1か所で、壁際に位置している。P1の深さは、56cmである。

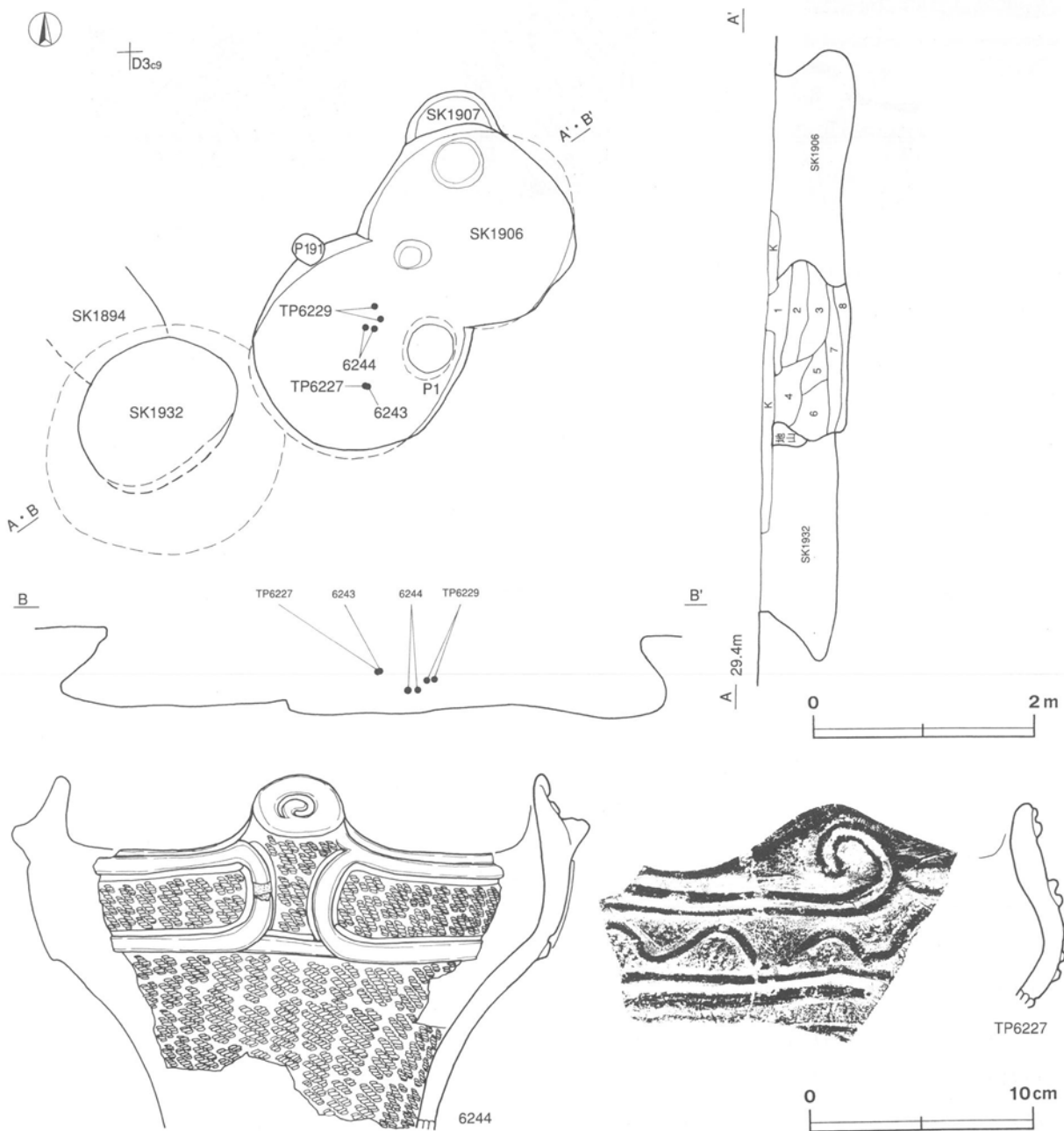
**覆土** 8層に分層される。第7・8層は褐色を呈し、ロームブロックを多く含む層で、特に第8層はしまりが強い。第1～6層はレンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

**土層解説**

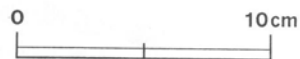
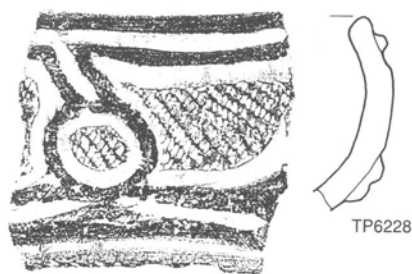
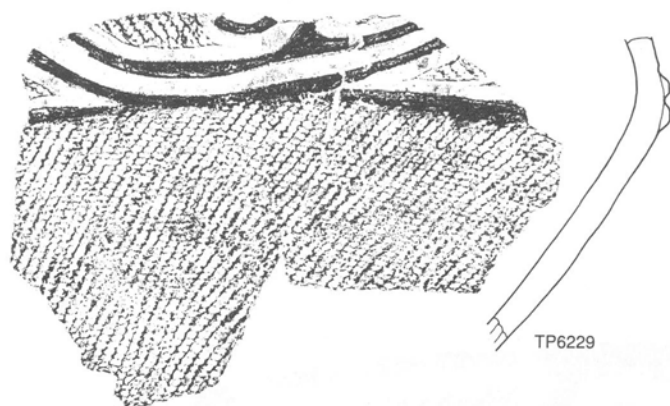
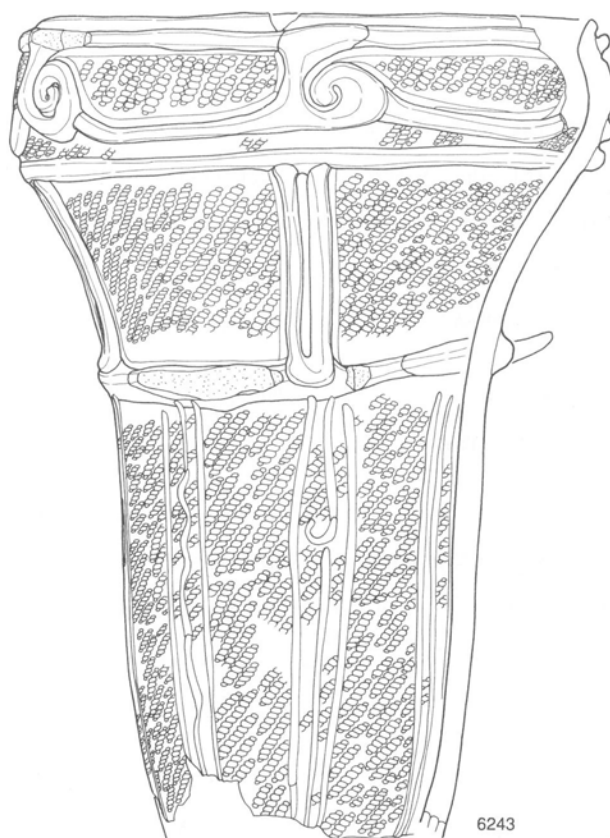
- |       |                |       |            |
|-------|----------------|-------|------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量   | 5 黒褐色 | ローム小ブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化物微量    | 6 黒褐色 | ローム小ブロック中量 |
| 3 黒色  | 炭化物少量, ローム粒子微量 | 7 褐色  | ロームブロック中量  |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック微量     | 8 褐色  | ロームブロック少量  |

**遺物出土状況** 縄文土器片37点が出土している。6243は覆土中層から横位の状態で、6244は覆土下層から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利 E I 式期）と考えられる。



第462図 第1905号土坑・出土遺物実測図



第463図 第1905号土坑出土遺物実測図

第1905号土坑出土遺物観察表 (第462・463図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6243	縄文土器	深鉢	[21.6]	(32.2)	—	口縁部は隆帯による渦巻文。頸部は突起を有する隆帯文。胴部は沈線文。RLの単節縄文。	長石・石英	普通	褐灰橙	覆土中層	P L55
6244	縄文土器	深鉢	[21.6]	(16.1)	—	波頂部下に隆帯による渦巻文。口縁部は隆帯文。地文はLRの単節縄文で、縦方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい赤褐	覆土下層	
TP6227	縄文土器	深鉢	—	(9.4)	—	波頂部下に沈線を有する隆帯による渦巻文。口縁部は隆帯文。RLの単節縄文。	長石・石英	普通	黒褐	覆土中層	
TP6228	縄文土器	深鉢	—	(7.8)	—	口縁部は沈線に沿う隆帯により描出。RLの単節縄文を横方向に施文。	長石・石英	普通	暗赤褐	覆土	
TP6229	縄文土器	深鉢	—	(12.6)	—	口縁部は2本一組の隆帯により文様を描出。RLの単節縄文。	長石・石英	普通	明褐	覆土下層	



第1906号土坑（第464～466図）

**位置** 調査2区の北部，D3c9区。住居跡群域に位置する。

**重複関係** 南西側で第1905号土坑を掘り込んでいる。第1907号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

**規模と形状** 平面形は，現状では径1.80mの円形である。底面はほぼ平坦で，深さは74cmである。壁は北壁が直立するが，それ以外は内傾して立ち上がり，中位でくびれ，上位は外傾している。ピットは2か所で，壁際に位置している。ピットの深さは，P1が62cm，P2が59cmである。

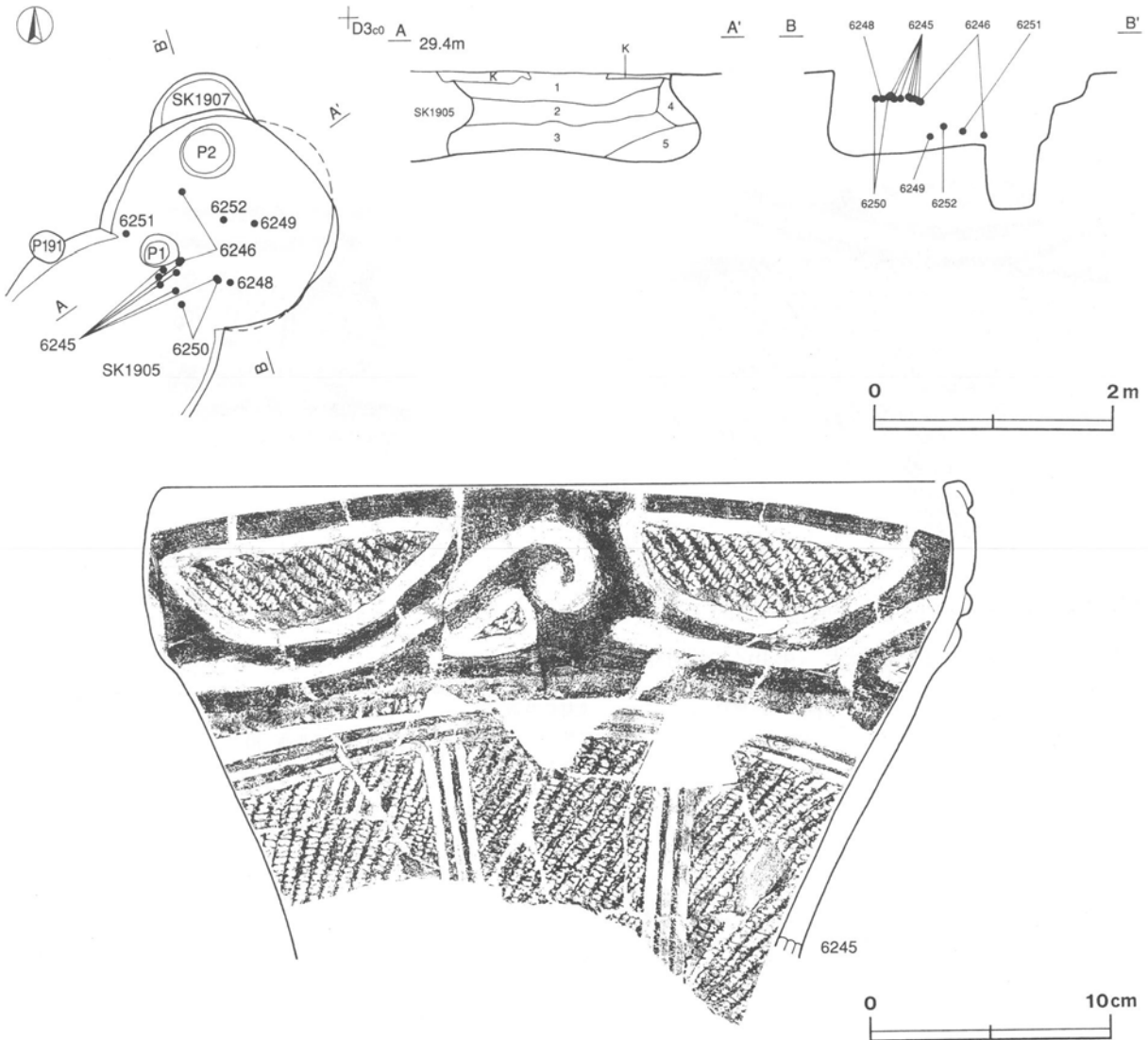
**覆土** 5層に分層される。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

**土層解説**

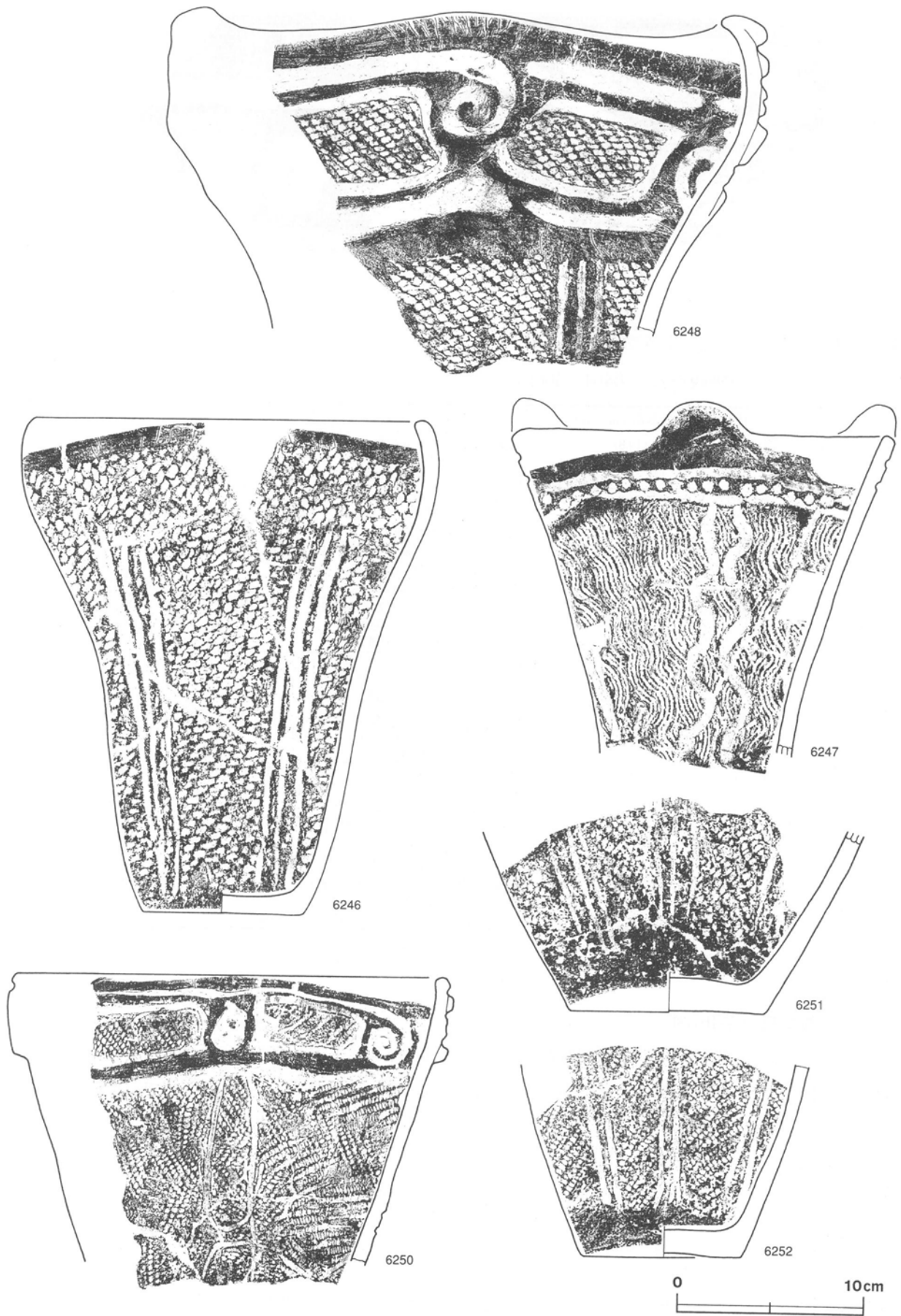
- |       |                   |        |                   |
|-------|-------------------|--------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・炭化粒子少量   | 4 極暗褐色 | ローム小ブロック中量        |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック中量，炭化粒子少量 | 5 極暗褐色 | ローム小ブロック少量，炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック少量，炭化粒子微量 |        |                   |

**遺物出土状況** 縄文土器片63点が出土している。大形破片が多く，覆土下層と覆土上層に廃棄されたような状態で出土している。6249・6251・6252の深鉢片は覆土下層から出土している。

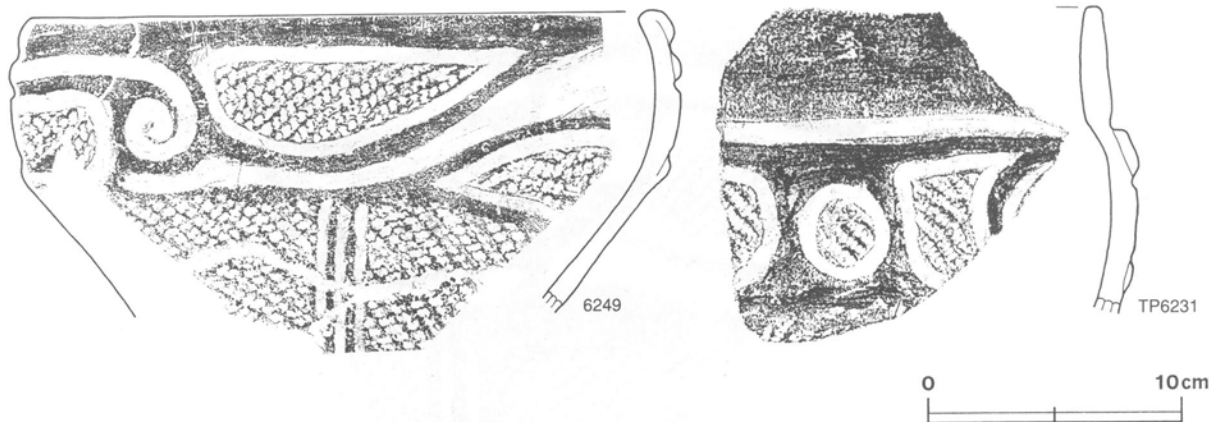
**所見** 遺物が覆土下層と覆土上層に集中し，二度にわたる廃棄活動が行われたことがうかがわれる。時期は，出土土器から中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。



第464図 第1906号土坑・出土遺物実測図



第465图 第1906号土坑出土遗物实测图(1)



第466図 第1906号土坑出土遺物実測図(2)

第1906号土坑出土遺物観察表(第464~466図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6245	縄文土器	深鉢	[33.3]	(19.8)	—	口縁部は隆帯による渦巻文。胴部は3条一組の懸垂文間を磨り消す。RLの単節縄文。	長石・石英	普通	にぶい褐 灰褐	覆土上層	
6246	縄文土器	深鉢	20.8	26.8	8.7	胴部は3条一組の沈線による懸垂文。RLRの複節縄文を口縁部は横方向、胴部は縦方向に施す。	長石・石英 ・雲母	普通	黒褐 にぶい褐	覆土下層	P L 55
6247	縄文土器	深鉢	[19.8]	(19.3)	—	口縁部は沈線文と刺突文を巡らす。胴部は沈線による懸垂文。櫛歯状工具による波状文。	長石・石英	普通	灰褐	P 2 覆土	
6248	縄文土器	深鉢	[28.6]	(17.4)	—	口縁部は隆帯による渦巻文。胴部は沈線による3条一組の懸垂文間を磨り消す。LRの単節縄文。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土上層	
6249	縄文土器	深鉢	[24.8]	(12.0)	—	口縁部は沈線に沿う隆帯文。胴部は3条一組の懸垂文間を磨り消す。地文はRLRの複節縄文。	長石・石英	普通	灰褐	覆土下層	
6250	縄文土器	深鉢	[22.6]	(15.6)	—	口縁部は隆帯による渦巻文。胴部は沈線により文様を描出。地文はRLとLRの単節縄文。	長石・石英 ・雲母	普通	黒褐	覆土上層	
6251	縄文土器	深鉢	—	(9.5)	10.5	胴部は沈線による3条一組の懸垂文間を磨り消す。LRの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英 ・雲母	普通	橙	覆土下層	
6252	縄文土器	深鉢	—	(10.5)	8.4	胴部は沈線による2条一組の懸垂文間を磨り消す。LRの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	橙	覆土下層	
TP6231	縄文土器	鉢	—	(12.2)	—	口縁部は無文。胴部上位は沈線に沿う隆帯による区画文。RLの単節縄文を横方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土	

第1908号土坑(第467図)

位置 調査2区の北部, D4 e2区。住居跡群の外周域に位置する。

規模と形状 開口部の平面形は、長径2.04m, 短径1.90mのほぼ円形である。底面は平坦で、平面形は長径2.10m, 短径1.72mの楕円形である。深さは66cmで、壁は北壁が内傾している以外は直立している。ピットは1か所で、深さは42cmである。

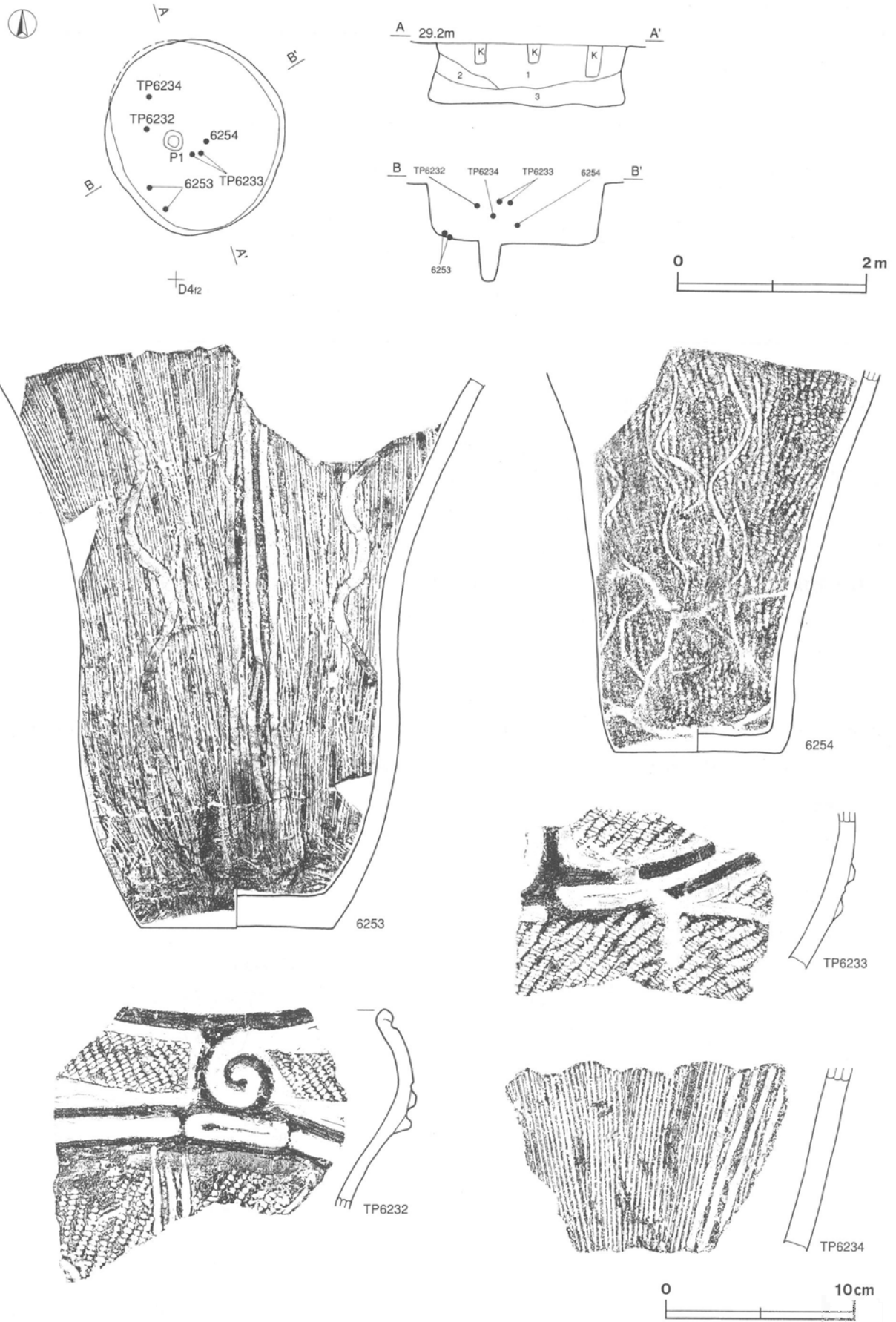
覆土 3層に分層される。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片98点が出土している。6253の深鉢片は底面から出土している。

所見 時期は、底面から出土した6253の深鉢片から中期後葉(加曾利E I 式期)と考えられる。



第467图 第1908号土坑·出土遺物実測図

第1908号土坑出土遺物観察表（第467図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6253	縄文土器	深鉢	—	(29.3)	10.4	胴部は沈線による3条一組の懸垂文間を磨り消す。地文は櫛歯状工具による条線文。	長石・石英	普通	灰褐	底面	
6254	縄文土器	深鉢	—	(20.2)	8.6	胴部は沈線による波状の懸垂文施している。RLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	黒褐 赤褐	覆土上層	
TP6232	縄文土器	深鉢	—	(10.6)	—	口縁部は沈線に沿う隆帯により文様を描出。胴部は沈線による懸垂文。RLの単節縄文。	長石・石英	普通	暗赤褐	覆土上層	
TP6233	縄文土器	深鉢	—	(8.4)	—	口縁部は沈線に沿う隆帯により文様を描出。RLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	黒褐 にぶい橙	覆土上層	
TP6234	縄文土器	深鉢	—	(9.8)	—	沈線による3条一組の懸垂文。櫛歯状工具による条線文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	橙	覆土上層	

第1913号土坑（第468・469図）

位置 調査2区の北部，D3a0区。住居跡群域に位置する。

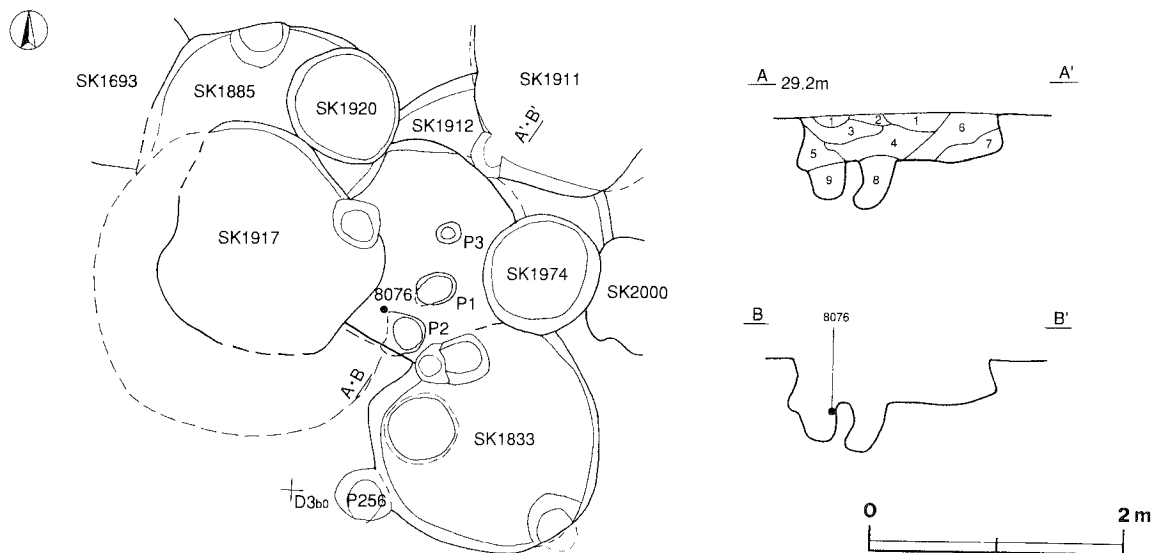
重複関係 第1912号土坑を掘り込み，第1974号土坑に掘り込まれている。第1885・1911・1917・1920号土坑と重複しており，土層では確認することができなかったが，出土土器からはそれらより新しいと考えられる。第1833号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状 重複遺構に掘り込まれているため明瞭ではないが，開口部の平面形は径1.56mほどの円形と推定される。底面はほぼ平坦で，平面形は径1.68mほどの円形と推定される。深さは39cmほどで，壁の現状は，下位からくびれ部にかけて内傾して立ち上がり，上位はほぼ直立する。底面からくびれ部までの高さは平均18cmである。ピットは3か所で，深さはP1が29cm，P2が42cm，P3が28cmである。

覆土 9層に分層される。全体的にロームブロック・粒子を含み，やや締まりがある。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。なお第8層はP1の，第9層はP2の覆土である。

土層解説

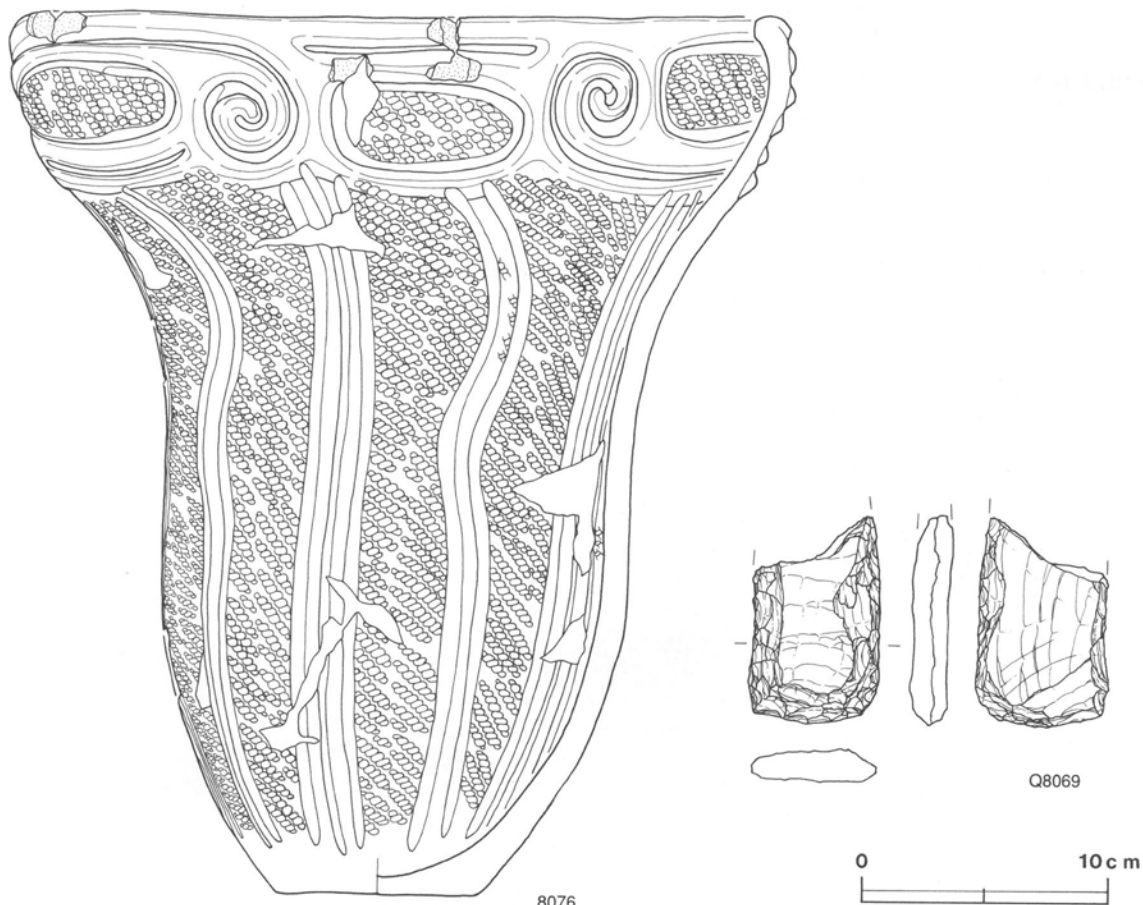
- |        |                       |       |                |
|--------|-----------------------|-------|----------------|
| 1 黒褐色  | ローム粒子・炭化粒子微量          | 6 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量   |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量      |
| 3 暗褐色  | ロームブロック少量             | 8 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量   |
| 4 暗褐色  | ロームブロック中量             | 9 黒褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量 |
| 5 暗褐色  | ロームブロック微量             |       |                |



第468図 第1913号土坑実測図

**遺物出土状況** 縄文土器片124点、磨石2点、打製石斧1点が出土している。8076は完形の深鉢で、底面から横位で出土している。

**所見** 時期は、底面から出土している8076などから、中期後葉（加曽利EⅡ式期）と考えられる。



第469図 第1913号土坑出土遺物実測図

第1913号土坑出土遺物観察表（第469図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
8076	縄文土器	深鉢	24.9	35.7	8.0	口縁部は沈線に沿う隆帯文。胴部は沈線による懸垂文間を磨り消す。LRの単節縄文。	長石・石英・雲母	良好	にぶい橙	底面	PL55

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q8069	打製石斧	(8.4)	5.3	1.6	(112.9)	緑泥片岩	刃部及び両側縁に調整加工痕あり。	覆土	

### 第1924号土坑（第470・471図）

**位置** 調査2区の北部、D3b7区。住居跡群域に位置する。

**規模と形状** 開口部の平面形は楕円形と推定され、現状では長径1.83m、短径1.59mである。底面はほぼ平坦で、平面形は長径1.95m、短径1.78mの円形である。深さは53cmで、壁は下位からくびれ部にかけて内傾して立ち上がり、上位はほぼ直立する。底面からくびれ部までの高さは平均34cmである。ピットは2か所で、P1・P2ともに西壁際で検出された。深さはP1が61cm、P2が50cmである。

**覆土** 7層に分層される。全体的にロームブロック・粒子を含み、やや締まりがある。レンズ状の堆積状況か

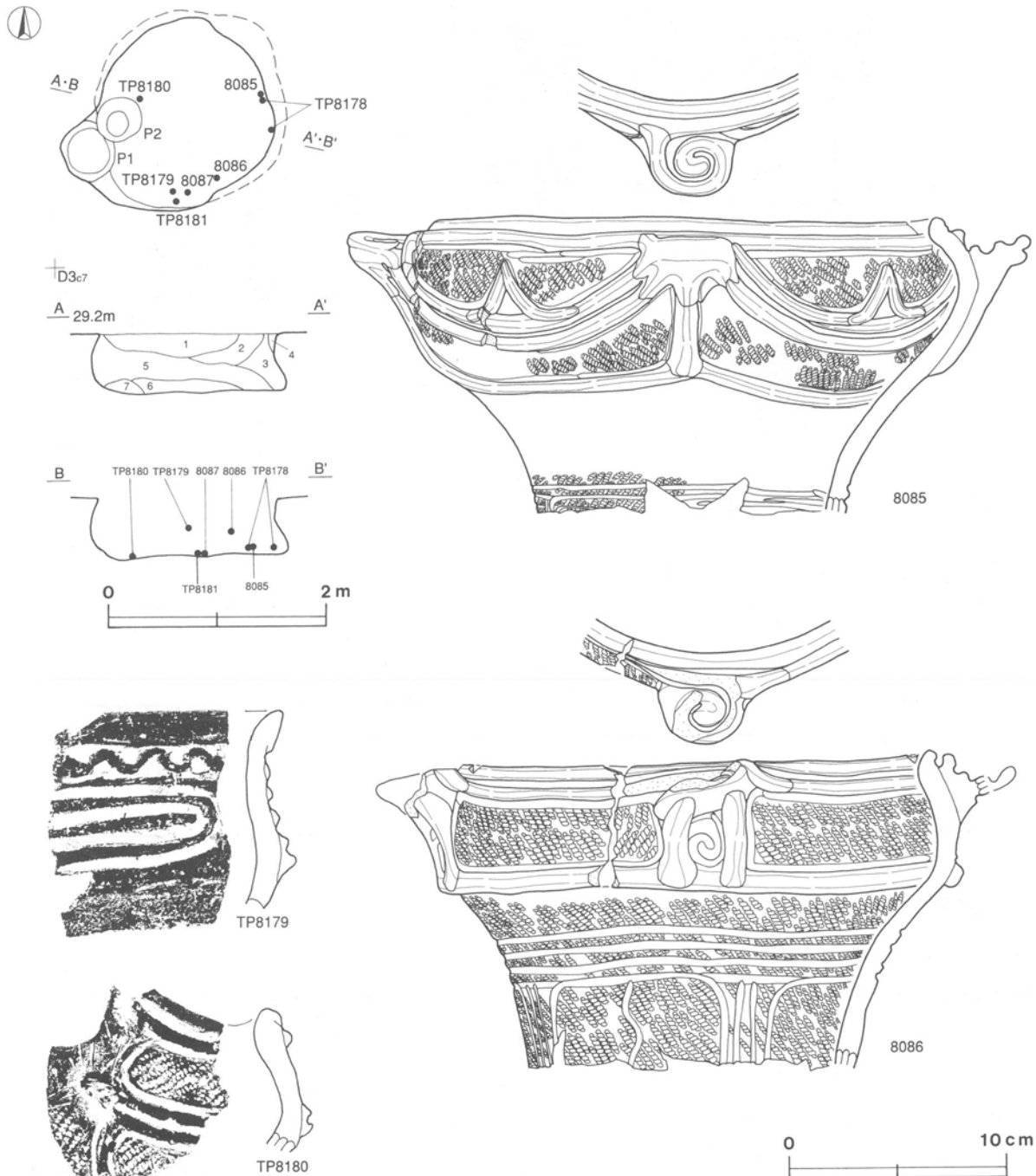
ら自然堆積と考えられる。

**土層解説**

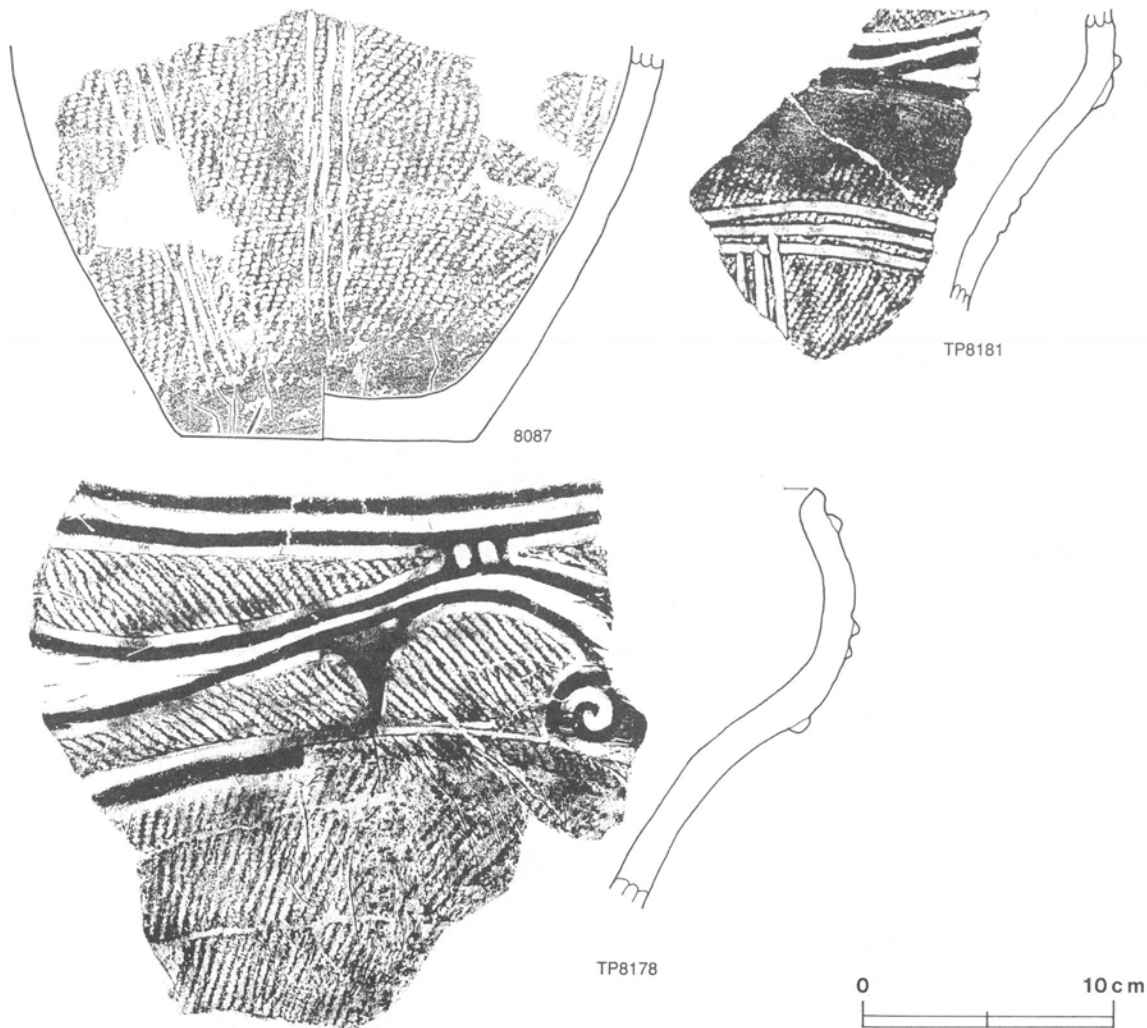
- |       |                   |        |                   |
|-------|-------------------|--------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量   | 5 極暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 6 黒褐色  | ロームブロック中量         |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量   | 7 極暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量         |        |                   |

**遺物出土状況** 縄文土器片178点が出土している。遺物は、覆土上層から底面にかけて散在する状況で出土している。中層から底面にかけて出土した遺物は、壁際に集中する傾向が見られる。8085~8087及びTP8178・TP8179・TP8181はいずれも深鉢片で、壁際の中層から底面にかけて出土している。またTP8180の深鉢片は底面から出土している。

**所見** 時期は、壁際の中層から底面にかけて出土している8085~8087などから、中期後葉（加曾利 E I 式期）と考えられる。



第470図 第1924号土坑・出土遺物実測図



第471図 第1924号土坑出土遺物実測図

第1924号土坑出土遺物観察表（第470・471図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
8085	縄文土器	深鉢	23.0	(13.3)	—	口縁部は沈線が沿う隆帯文。頸部無文。胴部は沈線により文様を描出。RLの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	暗褐	覆土下層	
8086	縄文土器	深鉢	22.7	(14.3)	—	口縁部は沈線が沿う隆帯文。胴部は4条一組の沈線と波状沈線を施す。LRの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	覆土中層	
8087	縄文土器	深鉢	—	(15.7)	11.5	3条一組の沈線による懸垂文。RLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	橙	底面	
TP8178	縄文土器	深鉢	—	(16.6)	—	口縁部は沈線が沿う隆帯文。RLの単節縄文を口縁部は横方向、胴部は縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土下層	
TP8179	縄文土器	深鉢	—	(10.0)	—	口唇部直下に交互刺突による連続コの字状文が巡る。口縁部は沈線が沿う隆帯文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土中層	
TP8180	縄文土器	深鉢	—	(7.4)	—	沈線を有する隆帯文。隆帯には沈線が沿う。LRの単節縄文を横方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	底面	
TP8181	縄文土器	深鉢	—	(12.1)	—	口縁部は沈線が沿う隆帯文。胴部は3条一組の沈線により文様を描出。RLの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	底面	



第1927号土坑（第472図）

位置 調査2区の北部，D3c7区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第245号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 開口部の平面形は楕円形と推定され，現状では長径1.10m，短径0.92mである。底面はほぼ平坦で，平面形は長径2.32m，短径2.03mの楕円形である。深さは112cmで，壁は下位からくびれ部にかけて内傾し，上位は外傾して立ち上がる。底面からくびれ部までの高さは平均68cmである。

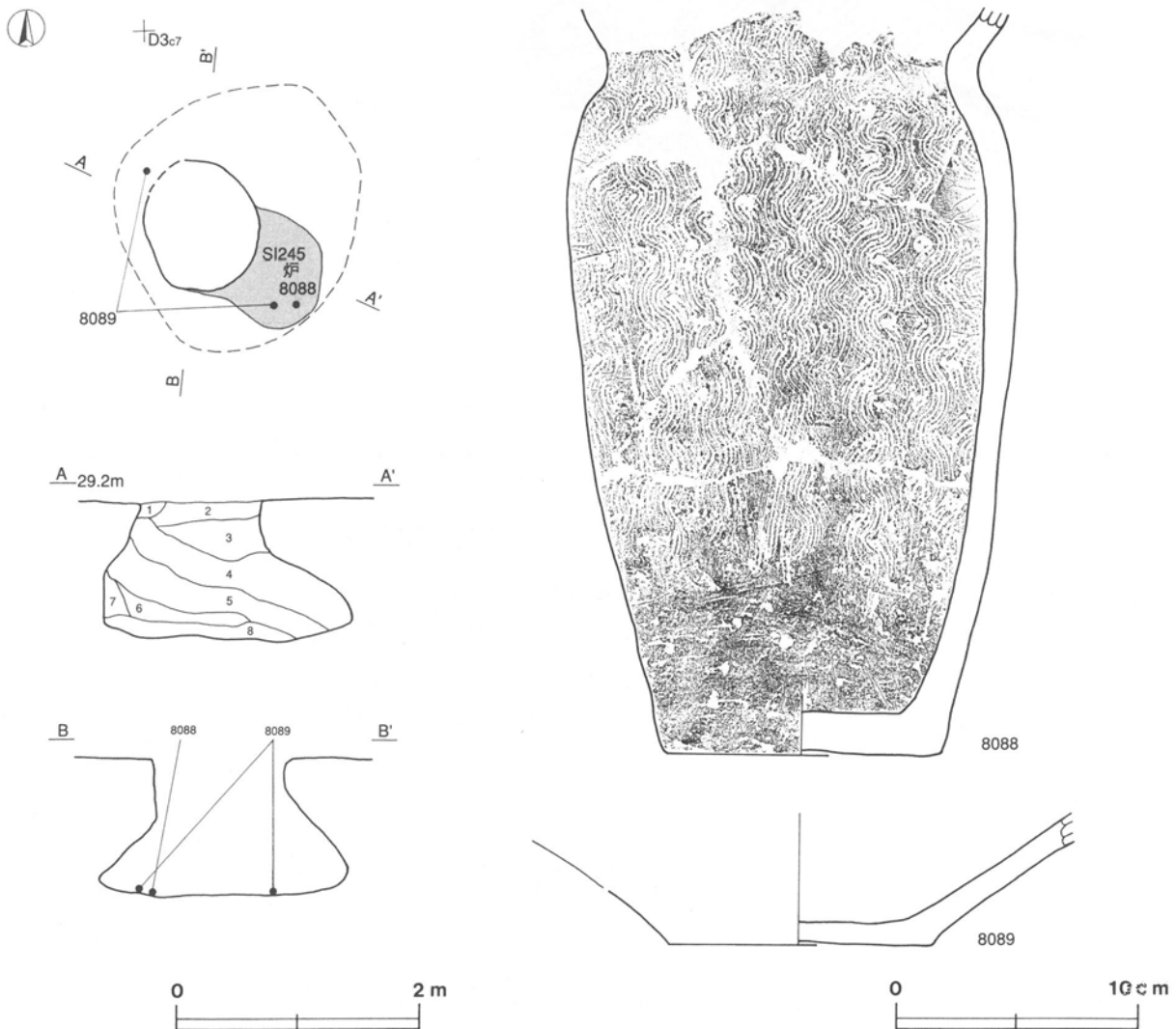
覆土 8層に分層される。中層から下層にかけて鹿沼パミスを含んでいる。第8層が堆積した後，西側の壁から徐々に崩落し，自然堆積したものと考えられる。

土層解説

- |       |                       |       |                       |
|-------|-----------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量，白色粒子微量      | 5 褐色  | ロームブロック中量，鹿沼パミス粒子微量   |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子中量，鹿沼パミス粒子微量     |
| 3 褐色  | ロームブロック中量，鹿沼パミス粒子少量   | 7 暗褐色 | ロームブロック少量，鹿沼パミスブロック微量 |
| 4 褐色  | ロームブロック・鹿沼パミス粒子少量     | 8 黒色  | ロームブロック中量，鹿沼パミスブロック微量 |

遺物出土状況 縄文土器片139点が出土している。ほとんどの遺物が覆土から出土している。8088の深鉢片及び8089の浅鉢片は，いずれも底面から出土している。

所見 時期は，底面から出土している8088・8089などから，中期中葉（加曾利E I式期）と考えられる。



第472図 第1927号土坑・出土遺物実測図

第1927号土坑出土遺物観察表 (第472図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
8088	縄文土器	深鉢	—	(30.4)	11.2	櫛歯状工具による波状条線文を縦位に施文。	長石・雲母	普通	にぶい褐	底面	底部網代痕 P L 56
8089	縄文土器	浅鉢	—	(5.4)	10.7	無文。	長石・石英・雲母	良好	にぶい橙	底面	

第1941号土坑 (第473図)

**位置** 調査2区の中央部, D3d5区。住居跡群の外周域に位置する。

**重複関係** 第230号住居に掘り込まれている。第1877号土坑と重複しているが, 新旧関係は不明である。

**規模と形状** 開口部の平面形は楕円形と推定され, 上層が削平されているため現状では長径1.52m, 短径1.34mである。底面はほぼ平坦で, 平面形は長径1.68m, 短径1.56mの円形である。深さは43cmで, 壁は内傾して立ち上がる。

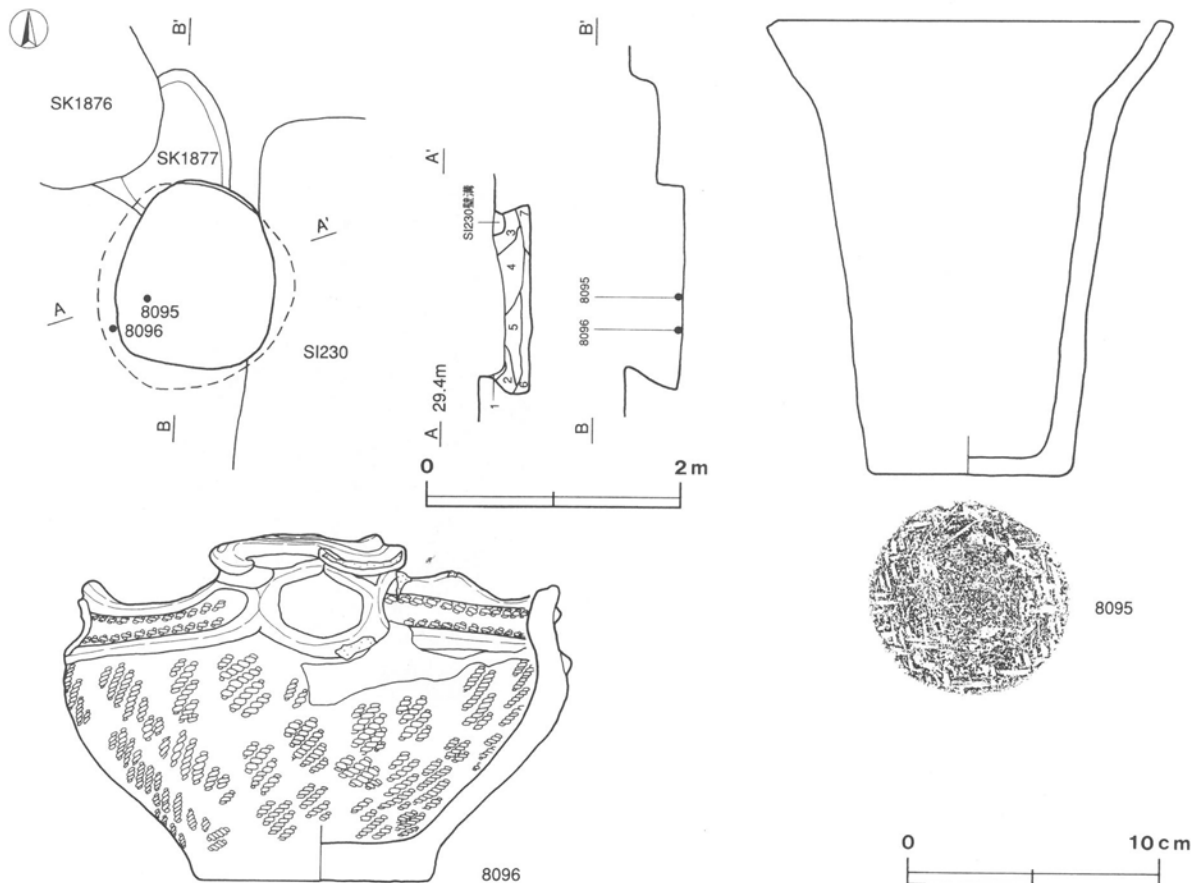
**覆土** 7層に分層される。全体的にやや締まりがある。不自然な堆積状況から人為堆積と考えられる。

**土層解説**

- |       |                |       |                   |
|-------|----------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量        | 5 黒褐色 | ロームブロック微量         |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック微量      | 7 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量    |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量      |       |                   |

**遺物出土状況** 縄文土器片25点が覆土から出土している。8095の深鉢は底面から横位で, 8096の鉢は底面から逆位で出土している。

**所見** 時期は, 底面から出土している8095・8096などから, 中期中葉(阿玉台Ⅱ~Ⅲ式期)と考えられる。



第473図 第1941号土坑・出土遺物実測図

第1941号土坑出土遺物観察表（第473図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
8095	縄文土器	深鉢	16.0	17.8	7.8	無文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐 橙	底面	PL57 底部 網代痕
8096	縄文土器	鉢	18.2	13.7	9.1	口縁部は隆帯文に沿って2条の押捺縄文が巡る。胴部はRLの単節縄文を施文。	長石・石英・雲母・赤色粒子	普通	黒褐 にぶい褐	底面	PL56

第1942号土坑（第474・475図）

位置 調査2区の北部，C3h9区。住居跡群域に位置する。

規模と形状 開口部の平面形は円形と推定され，現状では長径0.70m，短径0.65mである。底面はほぼ平坦で，平面形は径2.34mほどの円形である。深さは86cmで，壁は下位からくびれ部にかけて内傾して立ち上がり，上位はほぼ直立する。また底面からくびれ部までの高さは平均68cmである。

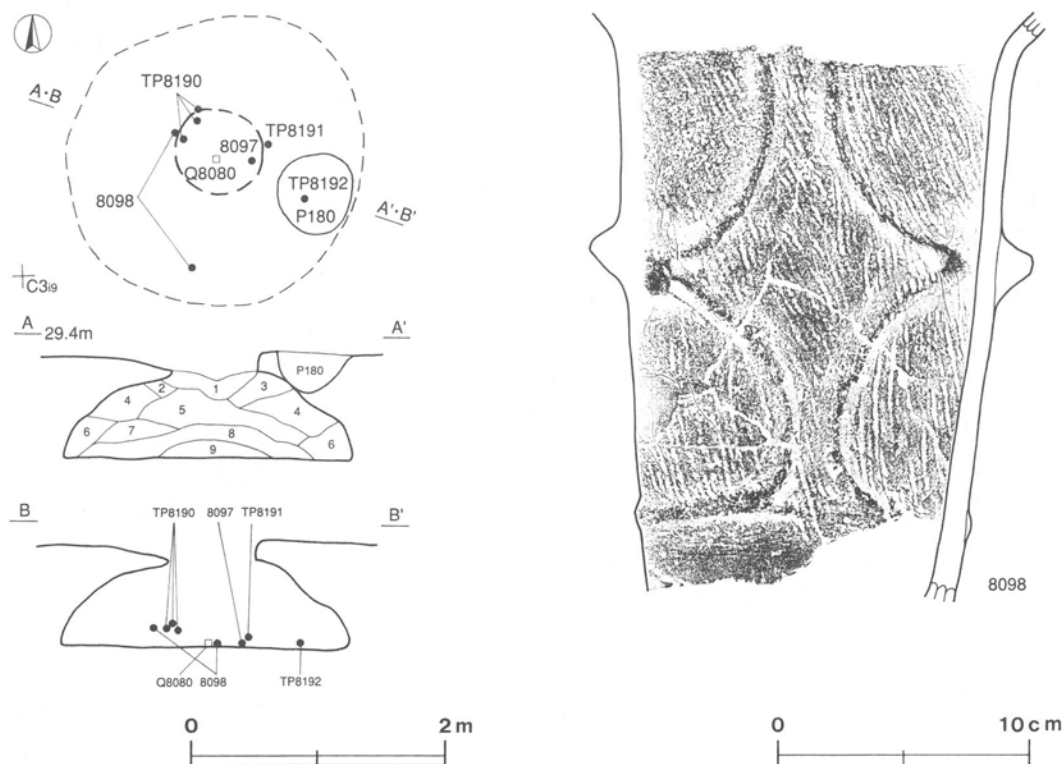
覆土 9層に分層される。第9層はロームブロックを多量に含んでおり，ローム粒子を含む第8層とともに開口部付近の壁の崩落層と考えられる。遺物は第8・9層に集中している。堆積状況に乱れがみられないことから，自然堆積と考えられる。

土層解説

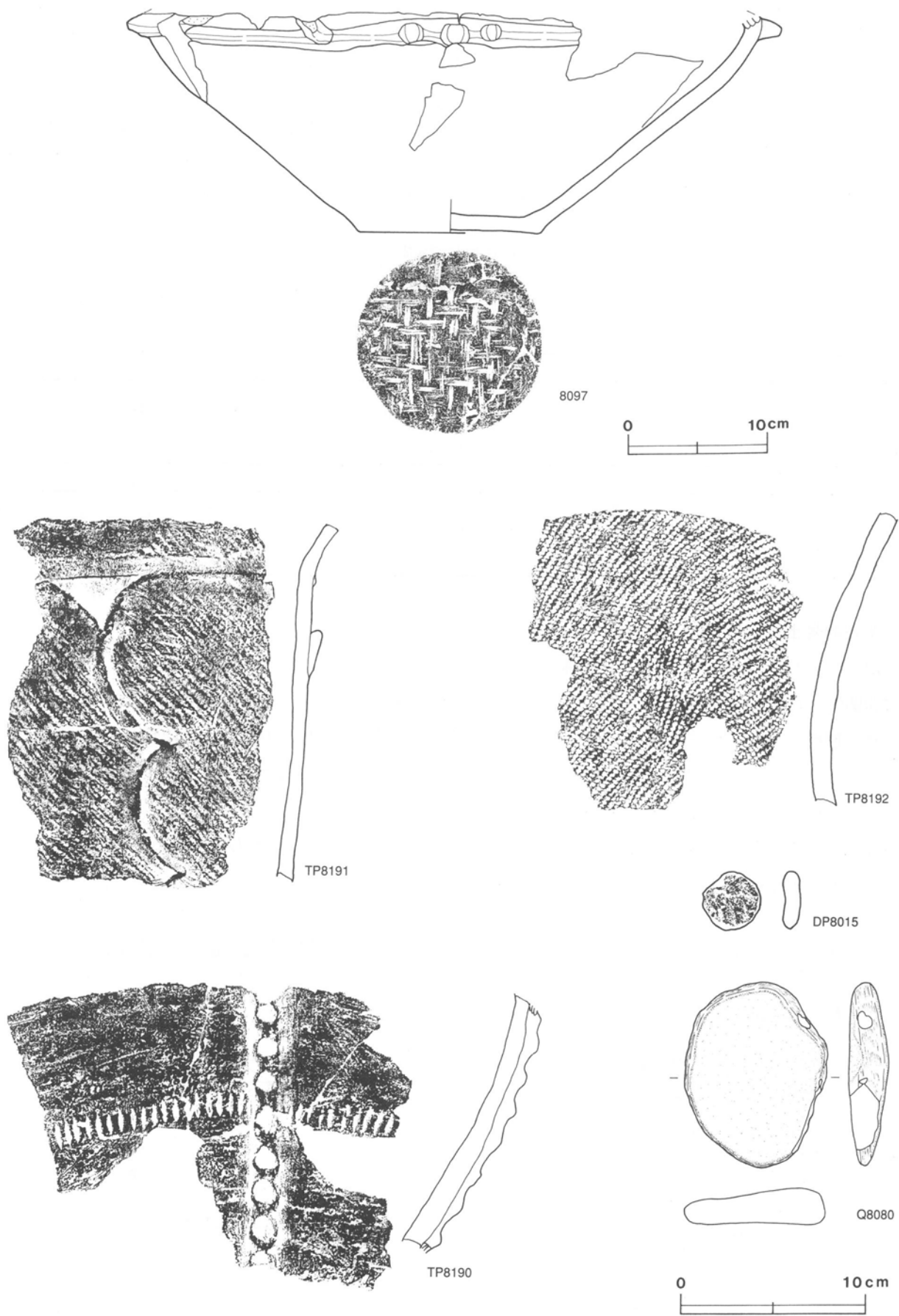
- |       |                  |       |                     |
|-------|------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量     | 6 黒褐色 | ローム粒子微量             |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量    |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量     | 8 黒色  | ローム粒子・炭化物少量         |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量   | 9 褐色  | ロームブロック多量，鹿沼バミス粒子少量 |
| 5 黒色  | 炭化物少量，ロームブロック微量  |       |                     |

遺物出土状況 縄文土器片156点，土器片円盤1点，磨石1点が出土している。遺物は覆土下層から底面にかけて集中している。8097の浅鉢及びQ8080の磨石は，底面から出土している。8098の深鉢片は，覆土下層から底面にかけて散在していた破片が接合したものである。またTP8190～8192の深鉢片は覆土下層から出土している。

所見 時期は，出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅱ式期）と考えられる。



第474図 第1942号土坑・出土遺物実測図



第475图 第1942号土坑出土遗物实测图

第1942号土坑出土遺物観察表（第474・475図）

番号	種別	器種	L径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
8097	縄文土器	浅鉢	—	(15.7)	13.0	口唇部直下に押圧痕を有する隆帯が巡る。胴部は無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	底面	底部網代痕 P L 56
8098	縄文土器	深鉢	—	(23.3)	—	隆帯により上下に対抗する弧状文を描出。Lの無節縄文を縦・斜方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	明赤褐	覆土下層～底面	
TP8190	縄文土器	深鉢	—	(13.9)	—	押圧文を有する隆帯が垂下し、1列のキザミ目列が巡る。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	覆土下層	
TP8191	縄文土器	深鉢	—	(19.2)	—	頸部は1列の微隆帯が巡る。V字状文を起点に隆帯が垂下する。LRの単節縄文を施文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	覆土下層	
TP8192	縄文土器	深鉢	—	(15.5)	—	R Lの単節縄文を縦及び斜方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	覆土下層	

番号	器種	計測値				胎土・色調	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
DP8015	土器片円盤	3.2	3.0	0.9	10.9	長石・石英・雲母・褐灰	無文。襷状の輪積痕を残す。	覆土	P L 59

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q8080	磨石	10.0	(8.4)	2.1	(185.0)	砂岩	使用面は全側縁。	底面	

第1944号土坑（第476・477図）

位置 調査2区の北部、D3b8区。住居跡群域に位置する。

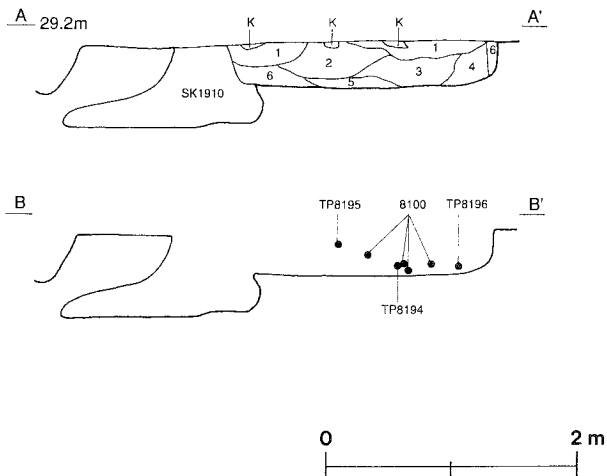
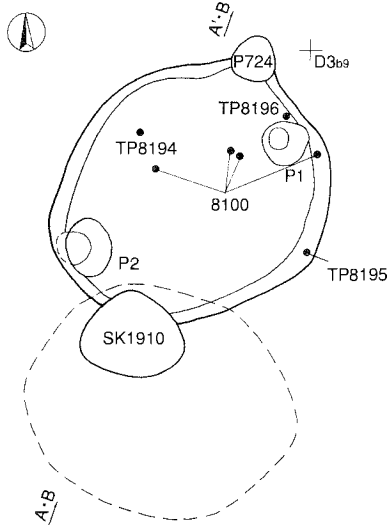
重複関係 第1910号土坑を掘り込んでいる。第724号ピットと重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 平面形は長径2.28m、短径1.97mの楕円形である。底面はほぼ平坦で、深さは35cmである。壁は外傾して立ち上がる。ピットは2か所で、深さはP1が67cm、P2が68cmである。なおP2は中央部に向かって傾斜して掘り込まれている。

覆土 6層に分層される。全体的にロームブロック・粒子を含み、やや締まりがある。遺物の出土状況などから、土器の廃棄活動に伴う人為堆積と考えられる。

土層解説

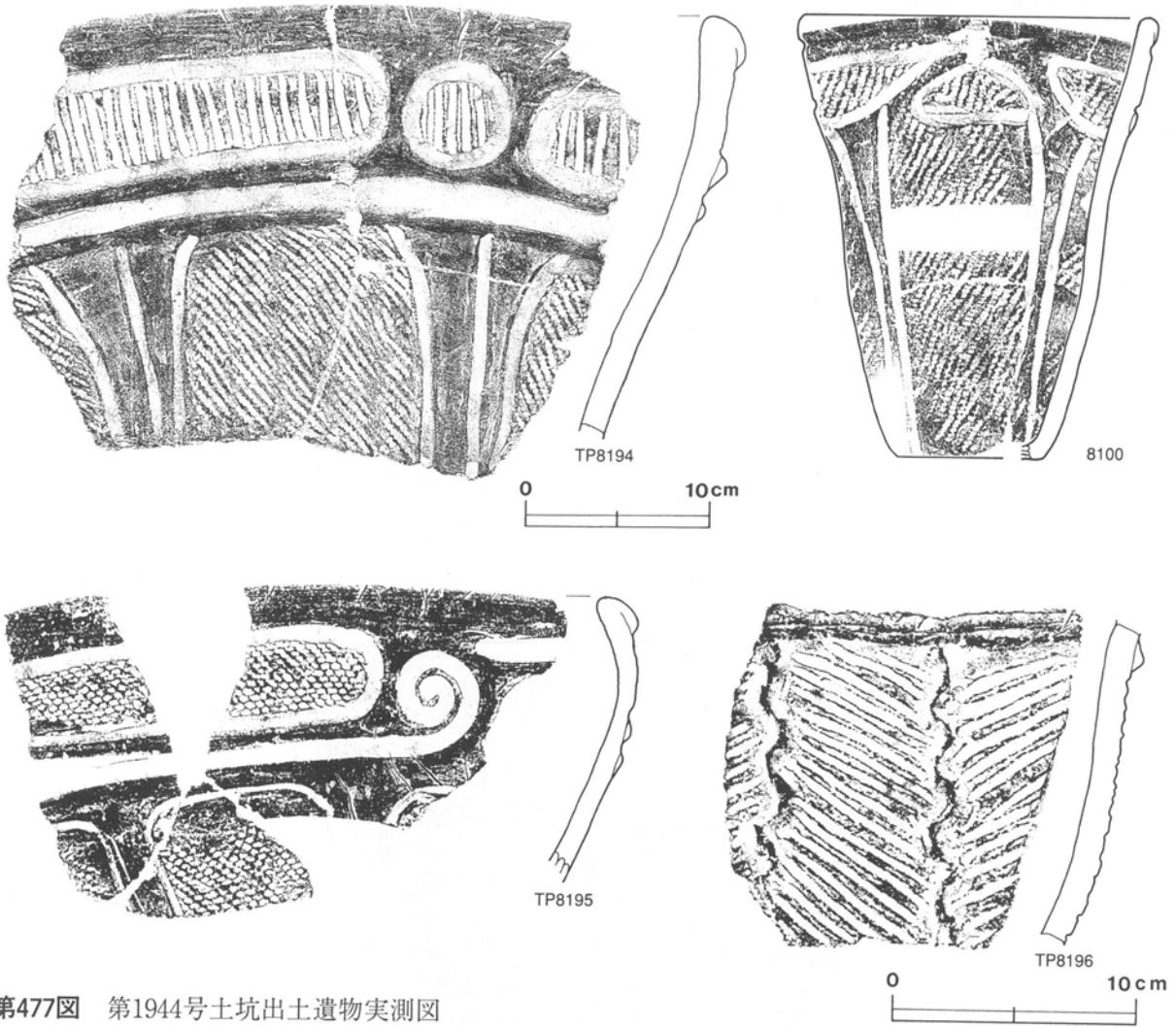
- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 極暗褐色 ローム粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量、鹿沼パミス粒子微量
- 6 暗褐色 ロームブロック中量



第476図 第1944号土坑実測図

**遺物出土状況** 縄文土器片224点、磨製石斧1点、敲石1点、凹石1点が出土している。遺物は覆土中層に廃棄されたような状況で集中して出土している。8100の深鉢は、中層から下層にかけて散在していた破片が接合したものである。また TP8194・TP8196の深鉢片は覆土下層から、TP8195の深鉢片は覆土中層からそれぞれ出土している。

**所見** 時期は、廃絶時に廃棄されたと想定できる8100などから、中期後葉（加曾利 E Ⅲ式期）と考えられる。



第477図 第1944号土坑出土遺物実測図

第1944号土坑出土遺物観察表（第477図）

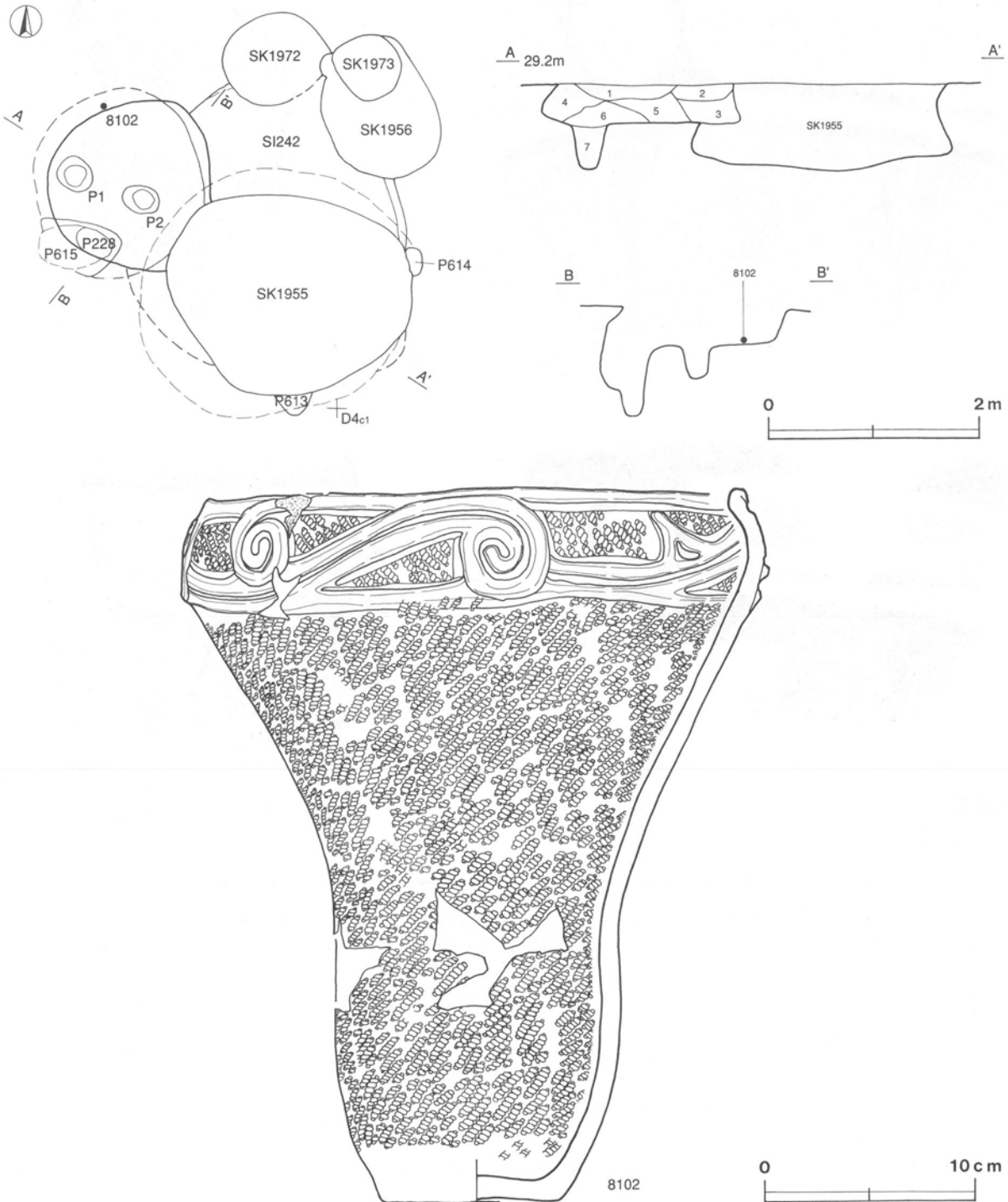
番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
8100	縄文土器	深鉢	14.7	18.0	[6.0]	口縁部は沈線に沿う隆帯文。胴部は沈線による懸垂文間を磨り消す。R L Rの複節縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土中層～下層	P L 57
TP8194	縄文土器	深鉢	—	(23.0)	—	口縁部は沈線に沿う隆帯文。胴部は沈線による懸垂文間を磨り消す。L Rの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい黄橙	覆土下層	
TP8195	縄文土器	深鉢	—	(11.5)	—	口縁部は沈線に沿う隆帯文。胴部は沈線による懸垂文間を磨り消す。L Rの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	赤褐	覆土中層	
TP8196	縄文土器	深鉢	—	(13.5)	—	胴部に巡る隆帯文を起点に蛇行隆帯が垂下。棒状工具による斜方向の沈線文を施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐橙	覆土下層	

第1954号土坑（第478図）

位置 調査2区の北部，D3b0区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第242号住居跡及び第1955号土坑を掘り込んでいる。第228・615号ピットと重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状 開口部の平面形は円形と推定され，現状では長径1.57m，短径1.50mである。底面はほぼ平坦で，平面形は長径1.80m，短径1.70mの円形である。深さは37cmで，壁は内傾して立ち上がる。くびれ部は確認されなかった。ピットは2か所で，深さはP1が48cm，P2が32cmである。



第478図 第1954号土坑・出土遺物実測図

**覆土** 7層に分層される。第6層は凸状に堆積しており、開口部からの土砂の流入によるものと考えられる。また第7層はP1の覆土である。第1～5層は不自然な堆積状況であり、人為堆積と考えられる。

**土層解説**

- |       |                |        |                     |
|-------|----------------|--------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量   | 5 黒褐色  | ロームブロック少量、炭化粒子微量    |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 6 極暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量    |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量・炭化粒子微量 | 7 暗褐色  | ロームブロック中量、鹿沼バミス粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |        |                     |

**遺物出土状況** 縄文土器片127点、打製石斧1点が覆土から出土している。8102の深鉢は底面からやや浮いて横位で出土している。

**所見** 時期は、床面からやや浮いた状況で出土している8102などから中期後葉（加曾利E I式期）と考えられる。

第1954号土坑出土遺物観察表（第478図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
8102	縄文土器	深鉢	24.8	33.2	8.0	口縁部は沈線に沿う隆帯文。R Lの単節縄文を口縁部は横方向、胴部は縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	褐灰にぶい橙	底面	PL56

**第1955号土坑（第479～481図）**

**位置** 調査2区の北部、D3b0区。住居跡群域に位置する。

**重複関係** 第242号住居跡を掘り込み、第1954号土坑に掘り込まれている。第613・614号ピットと重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模と形状** 開口部の平面形は楕円形と推定され、現状では長径2.33m、短径2.13mである。底面はほぼ平坦で、平面形は長径2.45m、短径2.15mの円形である。深さは83cmで、壁は内傾して立ち上がる。また土層断面から一部で確認できた底面からくびれ部までの高さは68cmである。

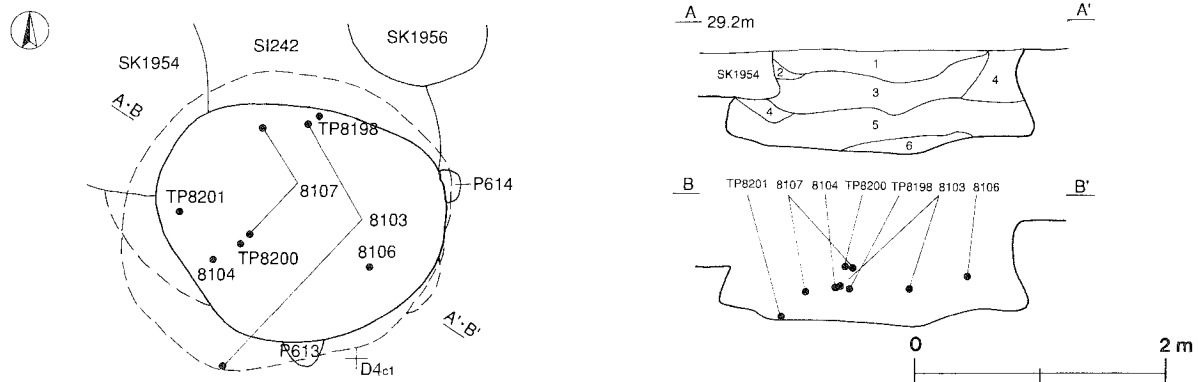
**覆土** 6層に分層される。第6層は開口部からの土砂流入により凸状に堆積した層と考えられ、ローム粒子を多目に含み、粘性が高い。堆積状況に乱れがみられないことから自然堆積と考えられる。

**土層解説**

- |       |                  |       |                  |
|-------|------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量   | 4 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量   |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量     | 5 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 3 黒色  | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子中量          |

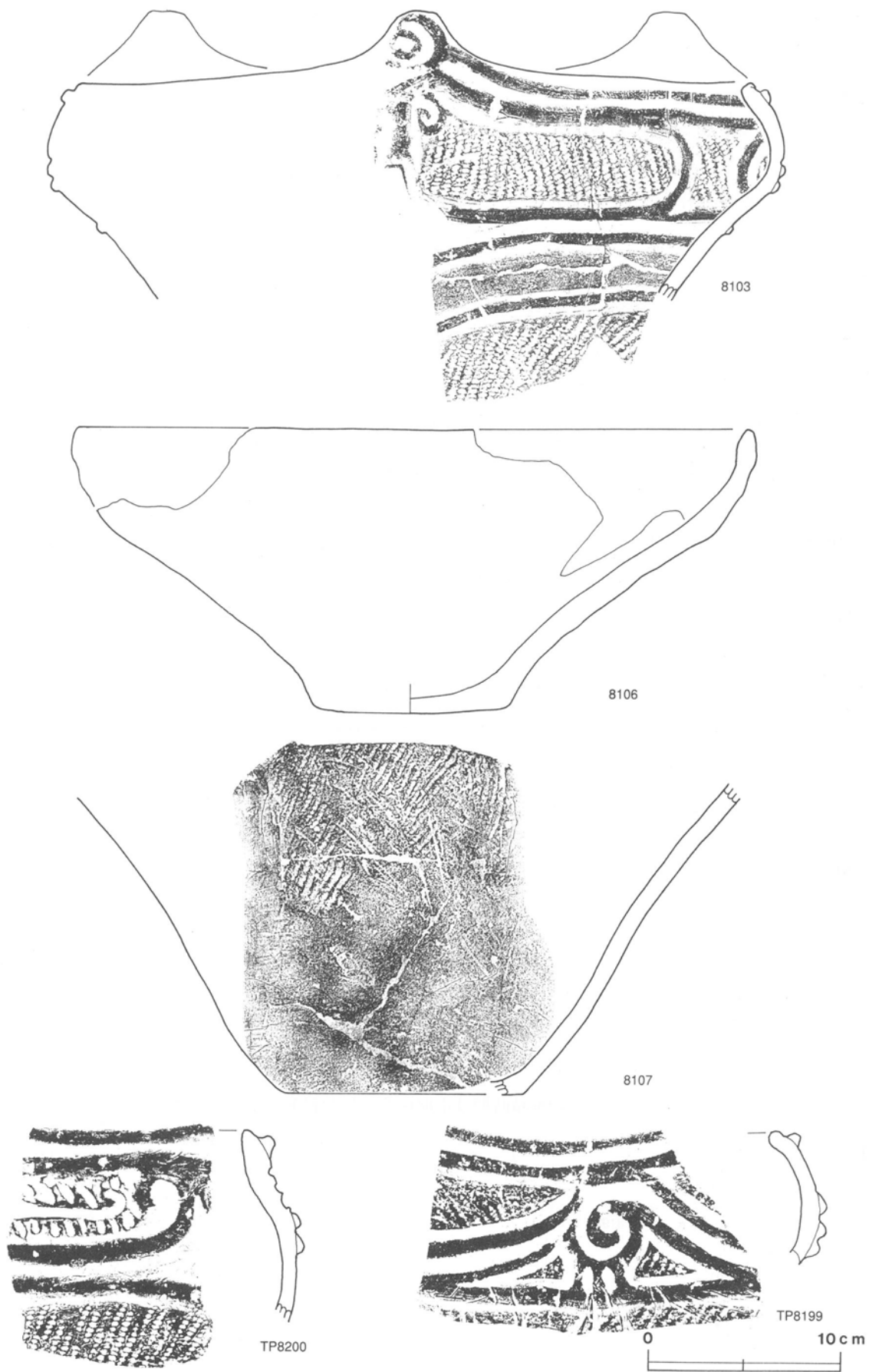
**遺物出土状況** 縄文土器片902点、磨石1点、石核1点が出土している。遺物は覆土中層から底面にかけて多く出土している。8103・8104・TP8198・TP8200の深鉢片及び8106・8107の浅鉢はいずれも覆土中～下層から出土しており、一括して廃棄されたものと考えられる。またTP8201は床面から出土している。

**所見** 本跡の廃絶後、第5・6層が堆積した後に一括して土器が廃棄されたと考えられるため、出土土器からの時期決定は難しいが、覆土中～下層の堆積時期は中期後葉（加曾利E I式期）と考えられる。

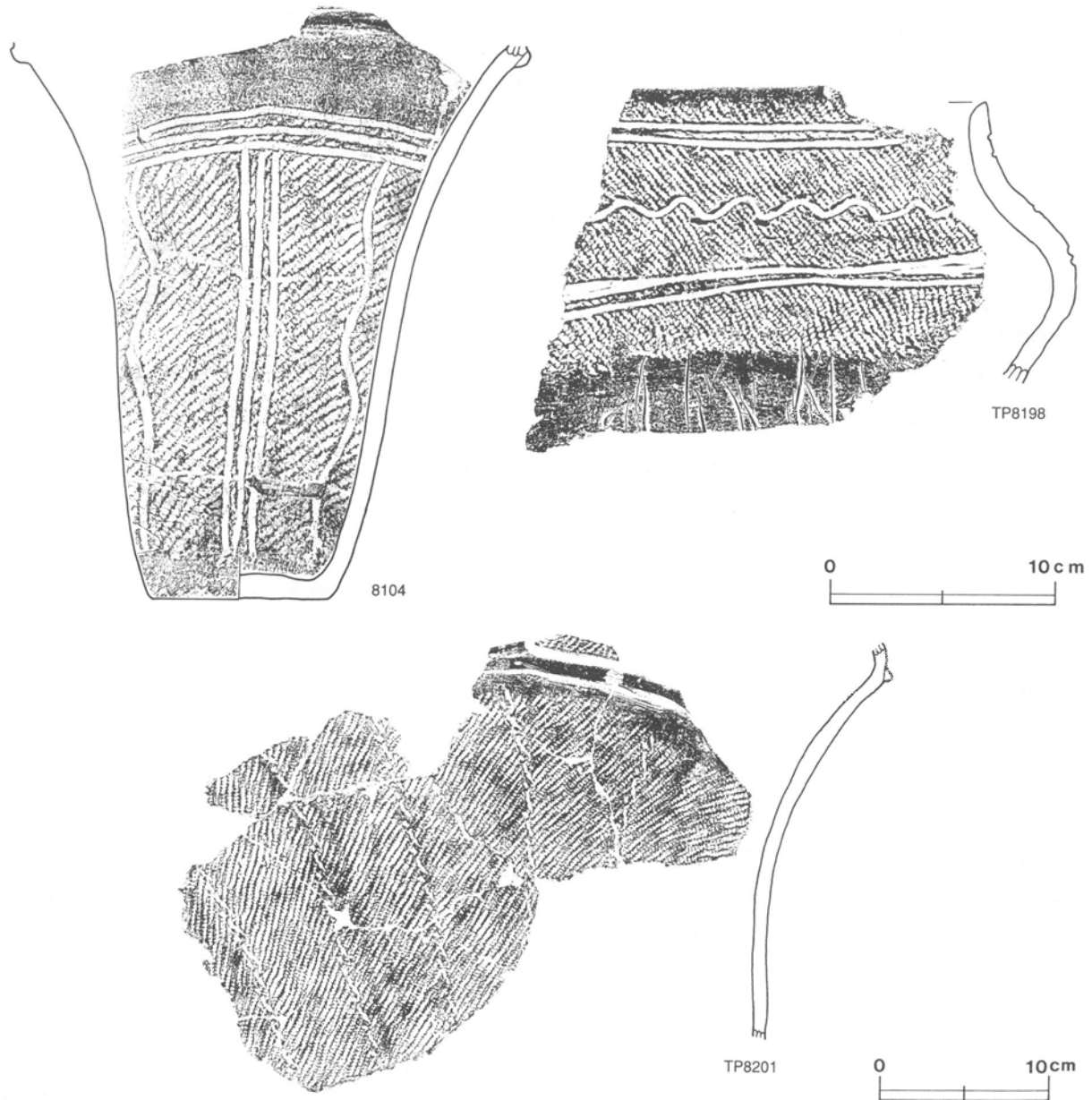


第479図 第1955号土坑実測図





第480图 第1955号土坑出土遗物实测图(1)



第481図 第1955号土坑出土遺物実測図(2)

第1955号土坑出土遺物観察表(第480・481図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
8103	縄文土器	深鉢	[34.4]	(15.0)	—	口縁部は沈線に沿う隆帯文。頭部に1本の隆帯が巡る。R Lの単節縄文を施文。	長石・石英・雲母	普通	褐灰	覆土中層	
8104	縄文土器	深鉢	—	(24.6)	7.8	3条一組の沈線と波状沈線により文様を描出。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土中層	
8106	縄文土器	浅鉢	[34.6]	14.7	9.7	無文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土中層	
8107	縄文土器	浅鉢	—	(15.2)	[12.0]	R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土上層～中層	
TP8198	縄文土器	深鉢	—	(12.4)	—	2条一組の沈線と波状沈線により文様を描出。L Rの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい黄橙	覆土中層	
TP8199	縄文土器	深鉢	—	(7.0)	—	沈線に沿う隆帯による区画文。R Lの単節縄文を施文。	長石・石英・雲母	普通	灰黄褐	覆土	

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP8200	縄文土器	深鉢	—	(10.0)	—	口縁部は沈線に沿う隆帯による区画文。胴部はR Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	良好	灰黄褐	覆土上層	
TP8201	縄文土器	深鉢	—	(23.7)	—	口縁部は沈線に沿う隆帯文。胴部は結節したR Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	底面	

### 第1970号土坑（第482・483図）

**位置** 調査2区の北部，C4 il区。住居跡群域に位置する。

**重複関係** 第182号住居に掘り込まれている。

**規模と形状** 開口部の平面形は長径1.18m，短径1.10mの円形である。底面はほぼ平坦で，平面形は長径2.06m，短径1.98mの円形である。深さは90～94cmで，壁は下位からくびれ部にかけて内傾し，上位は外傾して立ち上がる。また底面からくびれ部までの高さは平均60cmである。

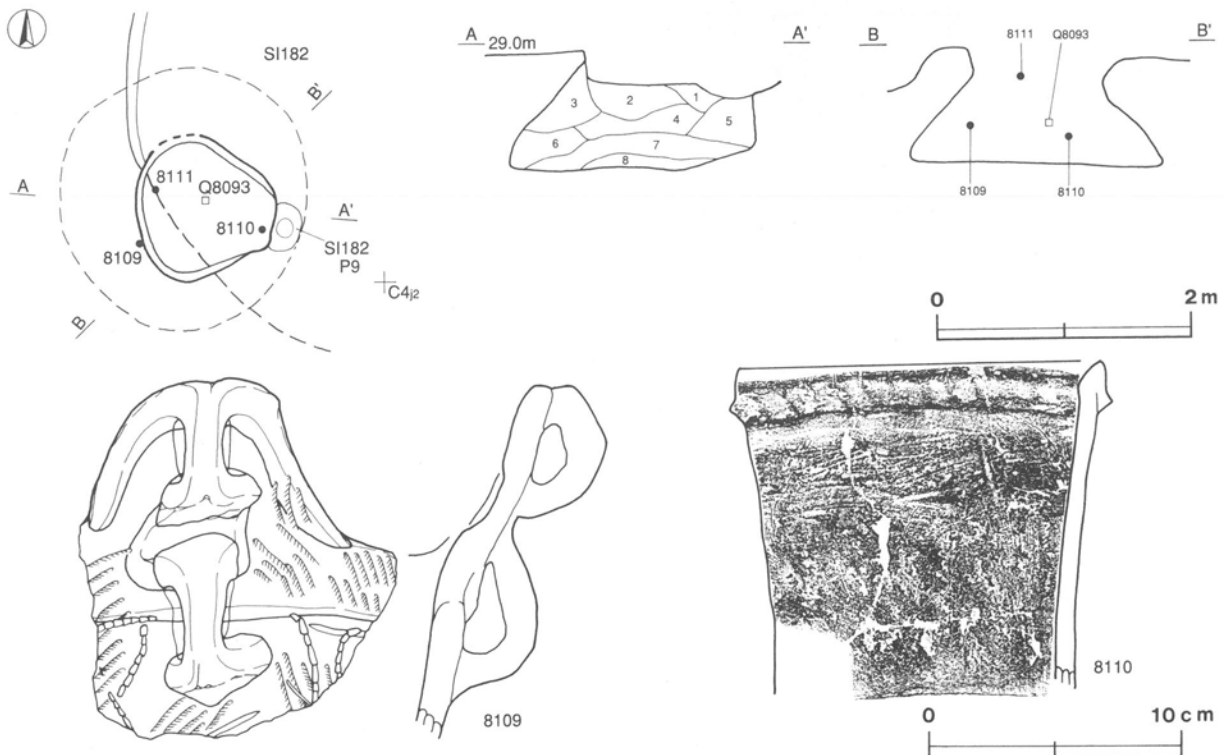
**覆土** 8層に分層される。第8層は開口部からの土砂流入により凸状に堆積した層と考えられ，ロームブロックを多量に含んでいる。第7層には，鹿沼パミスブロックが多量に含まれ，鹿沼パミスを掘り抜いた壁の崩落層と考えられる。遺物は上層から中層に集中しているため，開口部及び壁が崩落し第7・8層が堆積した後廃棄され，一気に埋め戻されたものと考えられる。

#### 土層解説

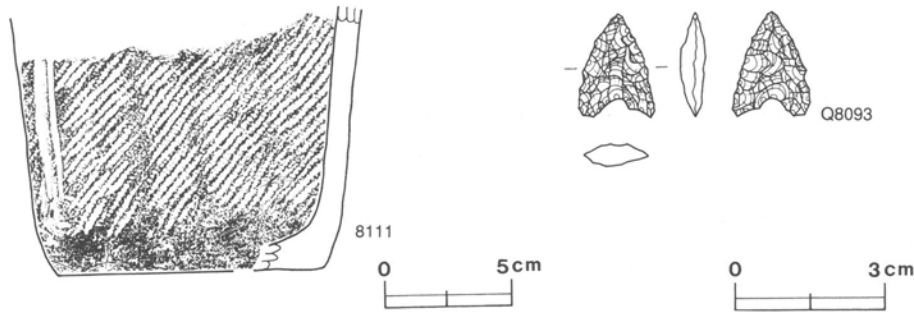
- |       |                            |       |                     |
|-------|----------------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・鹿沼パミス粒子微量            | 5 暗褐色 | ロームブロック微量           |
| 2 暗褐色 | 鹿沼パミスブロック少量，ロームブロック・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量，鹿沼パミス粒子微量   |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量      | 7 貴褐色 | 鹿沼パミスブロック多量，ローム粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 炭化物少量，ロームブロック・焼土粒子微量       | 8 褐色  | ロームブロック多量           |

**遺物出土状況** 縄文土器片240点，打製石斧1点，石鎌1点が出土している。8110の深鉢片は覆土下層，8109の深鉢片及びQ8093の石鎌は覆土中層から出土している。

**所見** 壁などの崩落後に土器片が廃棄されたと考えられるため，出土土器からの時期判断は難しいが，覆土中層の堆積時期は中期中葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。



第482図 第1970号土坑・出土遺物実測図



第483図 第1970号土坑出土遺物実測図

第1970号土坑出土遺物観察表 (第482・483図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
8109	縄文土器	深鉢	—	(14.2)	—	波頂部から口縁部にかけて橋状把手を有する。結節沈線文とRの無節縄文を施文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	覆土中層	
8110	縄文土器	深鉢	[14.2]	(12.7)	—	口唇部直下に三角形の断面形をもつ隆帯が巡り、内面に稜を有する。胴部は無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土下層	
8111	縄文土器	深鉢	—	(10.2)	[10.6]	2条一組の平行沈線文が沿う隆帯が垂下。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土上層	

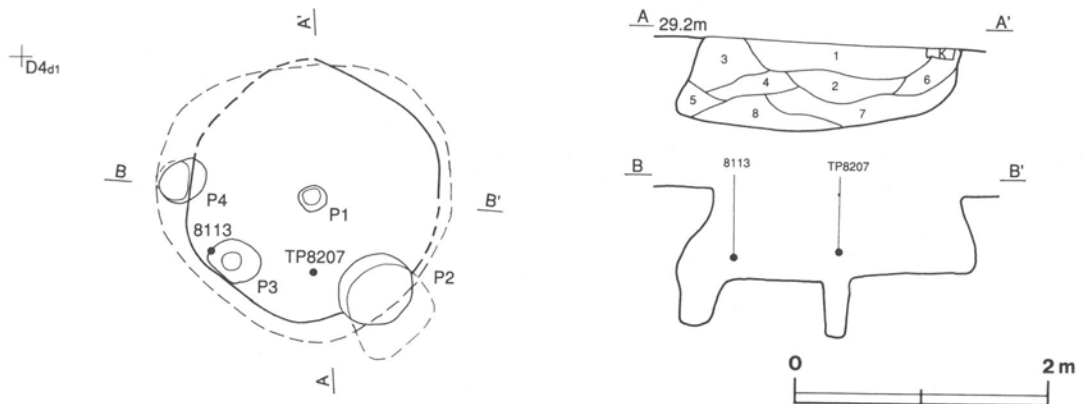
番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q8093	石 鏃	2.1	1.5	0.5	1.0	黒曜石	基部中央が湾入。	覆土中層	P L 59

第1989号土坑 (第484～486図)

位置 調査2区の北部, D4 d1区。住居跡群の外周域に位置する。

規模と形状 開口部の平面形は長径2.07m, 短径1.97mの円形である。底面はほぼ平坦で、平面形は長径2.33m, 短径2.19mの円形である。深さは60~70cmで、壁は下位からくびれ部にかけて内傾して立ち上がり、上位はほぼ直立する。また底面からくびれ部までの高さは平均46cmである。ピットは4か所で、深さはP1が46cm, P2が48cm, P3が30cm, P4が40cmである。

覆土 8層に分層される。全他的にロームブロック・粒子を含み、やや締まりがある。第8層は開口部の崩落により凸状に堆積した層と考えられ、ロームブロックを中量含んでいる。第5・7層は壁の崩落層と考えられロームブロックを中量含んでいる。上層から中層にかけては、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。



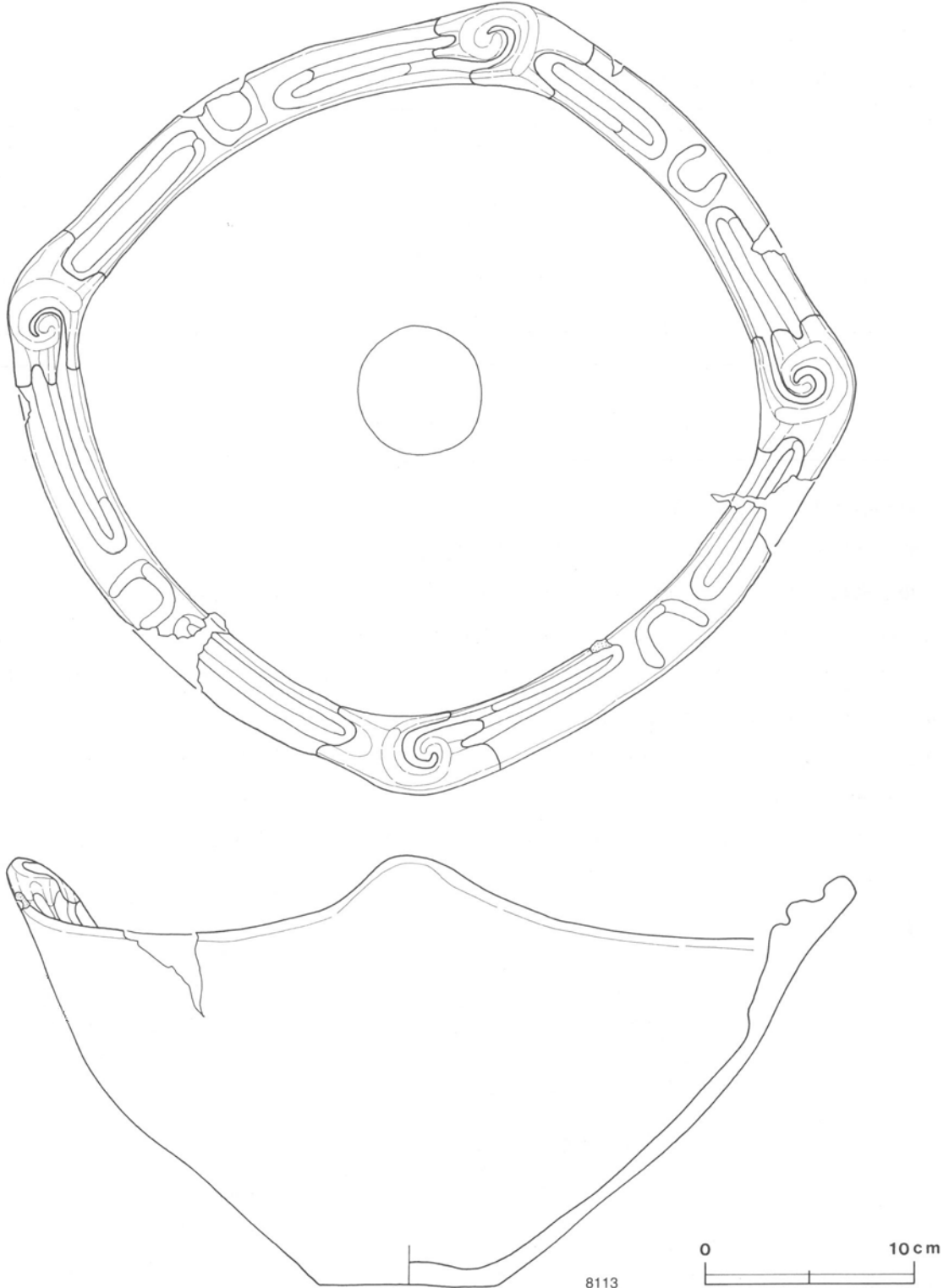
第484図 第1989号土坑実測図

土層解説

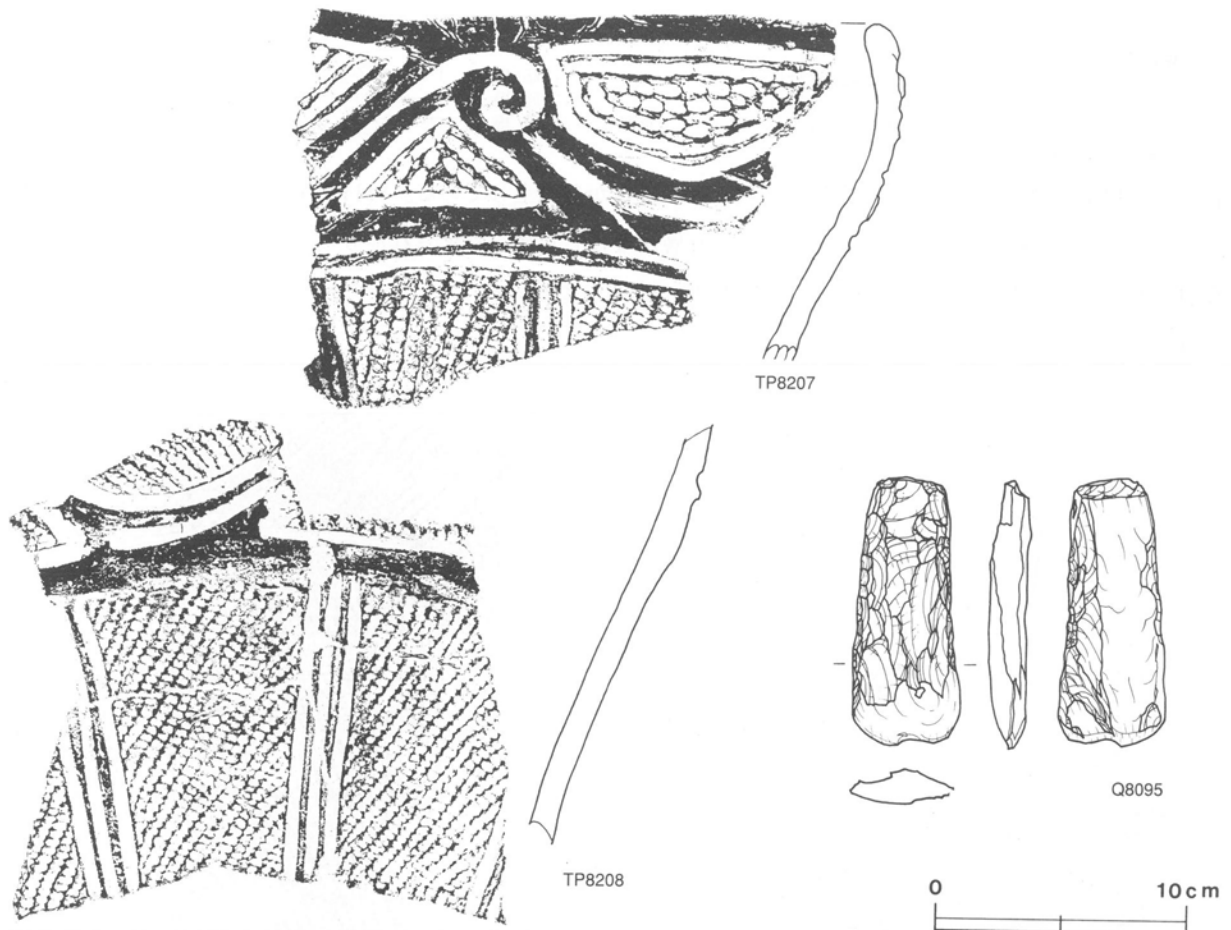
- |       |                   |        |                      |
|-------|-------------------|--------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量      | 5 極暗褐色 | ロームブロック中量            |
| 2 黒色  | 炭化粒子少量, ロームブロック微量 | 6 極暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量       |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 7 暗褐色  | ロームブロック中量, 炭化粒子微量    |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 8 極暗褐色 | ロームブロック中量, 鹿沼バミス粒子少量 |

遺物出土状況 縄文土器片220点, 磨石1点, 磨製石斧1点が覆土から出土している。8113の浅鉢及びTP8207の深鉢片は, 覆土下層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から中期後葉(加曾利EⅡ式期)と考えられる。



第485図 第1989号土坑出土遺物実測図(1)



第486図 第1989号土坑出土遺物実測図(2)

第1989号土坑出土遺物観察表(第485・486図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
8113	縄文土器	浅鉢	39.6	20.4	8.4	口唇部は隆帯による渦巻文と沈線による区画文で文様を描出。胴部は無文。	長石・石英	普通	浅黄橙 黒褐	覆土下層	内外面 赤彩 P L 56
TP8207	縄文土器	深鉢	—	(13.5)	—	口縁部は沈線に沿う隆帯文。胴部は沈線による懸垂文間を磨り消す。R Lの単節縄文。	長石・石英 ・雲母	普通	黒褐	覆土下層	
TP8208	縄文土器	深鉢	—	(17.1)	—	口縁部は沈線に沿う隆帯文。胴部は沈線による懸垂文間を磨り消す。R Lの単節縄文。	長石・石英 ・雲母	普通	にぶい橙	覆土	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q8095	磨製石斧	10.6	4.3	1.5	86.3	粘板岩	両面調整加工後、刃部付近を局部研磨。	覆土	P L 60

### 第1992号土坑(第487図)

**位置** 調査2区の北部, D3c0区。住居跡群の外周域に位置する。

**重複関係** 第1991・1994号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 開口部の平面形は径0.95mほどの円形である。底面はほぼ平坦で、平面形は長径3.00m, 短径2.90mの円形である。深さは82cmで、壁は下位からくびれ部にかけて内傾して立ち上がり、上位はほぼ直立する。また底面からくびれ部までの高さは平均60cmである。

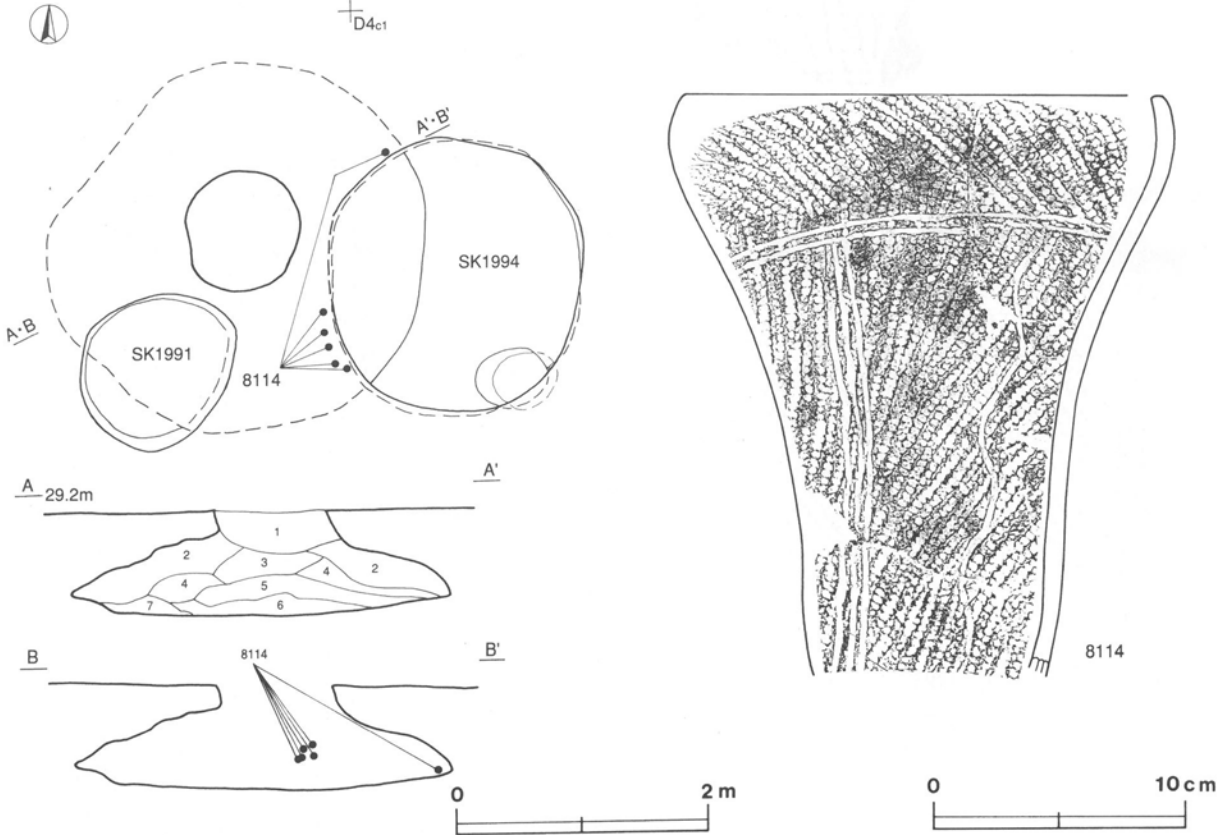
**覆土** 7層に分層される。第5・6層は開口部からの土砂流入により凸状に堆積した層と考えられ、ロームブロック・粒子を多量に含んでいる。第1～4層は堆積状況に乱れがみられないことから自然堆積と考えられる。

**土層解説**

- |        |                           |       |                        |
|--------|---------------------------|-------|------------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量         | 5 暗褐色 | ローム粒子多量, 鹿沼バミスブロック微量   |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量         | 6 暗褐色 | ロームブロック多量, 鹿沼バミスブロック少量 |
| 3 黒色   | ローム粒子・炭化粒子少量, 鹿沼バミスブロック微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量      |
| 4 黒褐色  | ロームブロック少量                 |       |                        |

**遺物出土状況** 縄文土器片27点, 土器片円盤1点が覆土から出土している。8114の深鉢は, 第5層の上面に散在していた破片が接合したものであり, 第5・6層が堆積した後, 廃棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は, 出土土器から中期後葉(加曾利E I式期)と考えられる。



第487図 第1992号土坑・出土遺物実測図

第1992号土坑出土遺物観察表(第487図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
8114	縄文土器	深鉢	18.7	(23.0)	—	口縁部に沈線が巡る。胴部は3本一組の沈線と波状沈線による懸垂文。RLの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐にぶい橙	覆土中層～下層	P L 56

**第1994号土坑(第488・489図)**

**位置** 調査2区の北部, D4c1区。住居跡群の外周域に位置する。

**重複関係** 第1992号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 開口部の平面形は長径2.16m, 短径2.04mの円形である。底面はほぼ平坦で, 平面形は長径2.20m, 短径2.06mの円形である。深さは42cmで, 壁は一部で内傾するが, 全体的にはほぼ直立する。ピットは1か所で, P1の深さは38cmである。

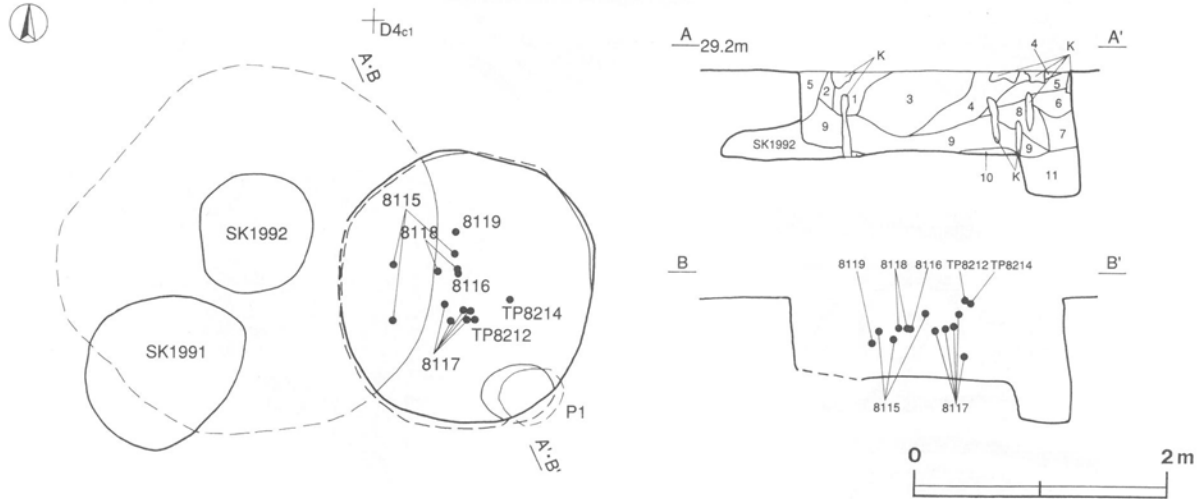
**覆土** 11層に分層される。第5～9層にはロームブロック・粒子が多目に含まれている。遺物の出土状況などから, 土器の廃棄活動に伴う人為堆積と考えられる。なお第11層はP1の覆土である。

土層解説

- |       |                  |        |                   |
|-------|------------------|--------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック，炭化粒子微量   | 7 暗褐色  | ロームブロック多量         |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 8 極暗褐色 | ロームブロック中量         |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量    | 9 極暗褐色 | ローム粒子多量，鹿沼バミス粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック少量         |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量        | 11 暗褐色 | ロームブロック中量         |
| 6 暗褐色 | ローム粒子多量          |        |                   |

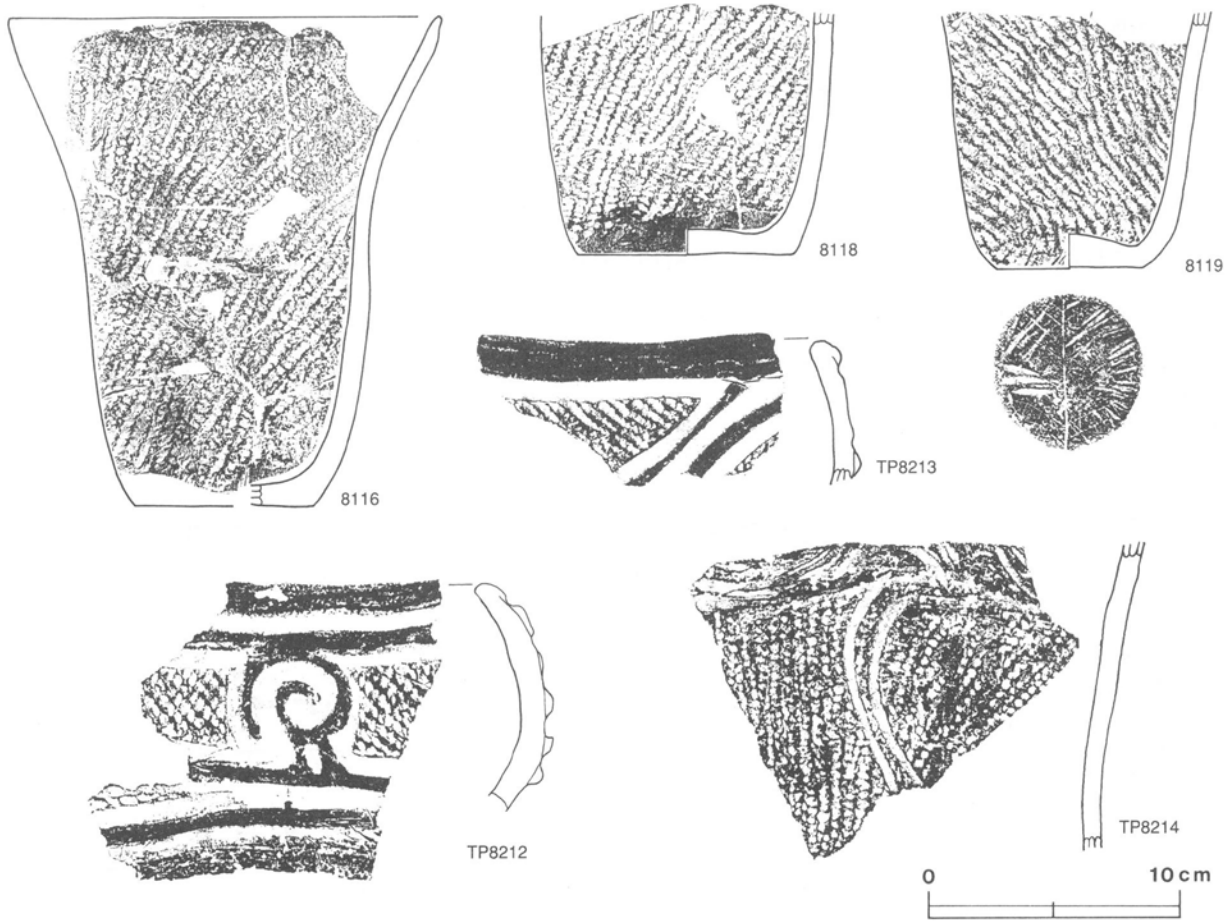
遺物出土状況 縄文土器片104点，剥片1点が覆土から出土している。遺物は上層から中層にかけて集中して出土しており，下層及び底面のは少ない。8115～8119及びTP8212～8214はいずれも深鉢で，覆土上層から中層にかけて廃棄されたような状況で出土している。

所見 時期は，出土土器から中期中葉（加曾利 E I 式期）と考えられる。



第488図 第1994号土坑・出土遺物実測図





第489図 第1994号土坑出土遺物実測図

第1994号土坑出土遺物観察表（第488・489図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
8115	縄文土器	深鉢	—	(33.6)	—	2本一組の沈線が沿う隆帯により文様を描出。L Rの単節縄文を施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐 にぶい橙	覆土上層 ～中層	P L 57
8116	縄文土器	深鉢	17.0	19.3	[7.0]	R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土中層	
8117	縄文土器	深鉢	19.2	25.1	7.6	櫛歯状工具による条線文を縦位に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐 にぶい橙	覆土中層 ～下層	P L 56
8118	縄文土器	深鉢	—	(9.5)	8.5	R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土中層	
8119	縄文土器	深鉢	—	(10.0)	5.8	Lの無節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土中層	底部木 葉痕
TP8212	縄文土器	深鉢	—	(9.0)	—	沈線が沿う隆帯により区画文、渦巻文を描出。R Lの単節縄文を横方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	覆土上層	
TP8213	縄文土器	深鉢	—	(5.6)	—	沈線が沿う隆帯による区画文 R Lの単節縄文を横方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土	
TP8214	縄文土器	深鉢	—	(11.9)	—	2条一組の沈線により文様を描出。R Lの単節縄文を縦及び斜方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	覆土上層	

表4 土坑一覽表

番号	位置	開口部 平面形	規 模			壁面	底面	土質	主な出土遺物	重複関係 (旧→新)	発掘 番号	
			開口部:長径×短径m	底部:長径×短径m	深さ cm							
953	B 3j2	不整形	(1.56)×1.14	—	73	緩斜	U字状	—	人為	土器片円盤		SK2006
954	B 3h4	隅丸方形	0.86×0.76	—	23	外傾	平坦	—	自然			SK2008
955	B 3g1	不整楕円形	3.20×2.86	3.04	104	内傾	平坦	—	自然 人為	深鉢, 浅鉢, 打製石斧	本跡→SK956	SK2011
956	B 3g2	楕円形	1.22×(0.96)	—	38	直立	平坦	—	自然		SK955→本跡	SK2012
957	B 3g2	楕円形	1.44×1.30	—	27	外傾	皿状	—	自然		SK1030→本跡	SK2013
958	B 3i1	不整形	1.64×1.40	1.86×1.58	60	内傾	平坦	—	自然			SK2020
959	C 3b2	楕円形	1.45×1.24	—	16	緩斜	平坦	1	自然		本跡→第1号土器埋設土坑	SK2021
960	C 2b7	楕円形	2.56×2.40	2.60×2.38	54	内傾	平坦	5	人為	深鉢, ミニチュア土器		SK2027
961	C 2e5	不整楕円形	1.28×1.19	—	40	外傾	平坦	—	自然			SK2028
962	C 2e4	不整楕円形	2.05×1.75	1.94	73	内傾	平坦	2	人為	深鉢, 磨製石斧	SK963→本跡	SK2029A
963	C 2e4	不整形	2.00×1.72	—	42	外傾	平坦	—	自然		本跡→SK962	SK2029B
964	B 3i2	円形	0.72	0.86×0.48	37	内傾	平坦	—	—			SK2032
965	B 3i1	楕円形	1.10×(0.36)	(1.66×1.20)	95	内傾	平坦	—	自然			SK2033
966	B 3i2	楕円形	1.40×(1.26)	—	65	緩斜	皿状	—	自然			SK2035
967	C 2a7	円形	0.50×(0.20)	—	46	緩斜	平坦	—	自然			SK2036
968	C 2f2	不整形	1.50×1.00	2.64×2.32	105	内傾	平坦	—	自然		本跡→SD23	SK2037A
969	C 2f2	楕円形	1.46×1.42	—	42	外傾	平坦	—	—		本跡→SD23	SK2037B
970	C 2g4	不整楕円形	1.22×1.14	—	26	外傾	平坦	—	自然			SK2038
971	C 2g5	不整楕円形	2.34×2.10	2.57×2.33	73	内傾	平坦	—	人為	深鉢, 浅鉢, 打製石斧, 磨製石斧, 石皿	本跡→S1138	SK2039
972	C 2i4	楕円形	2.41×1.96	[2.50×2.00]	54	内傾	平坦	—	人為	深鉢		SK2040
973	B 3i1	不整楕円形	1.00×(0.52)	—	38	外傾	不明	—	自然			SK2043
974	B 2i0	不整形	2.24×(1.14)	2.80×(1.08)	79	内傾	平坦	1	自然			SK2044
975	B 2i0	楕円形	1.09×0.97	2.84	124	内傾	平坦	—	自然	深鉢, 石皿, 凹石	本跡→SD22	SK2045
976	C 2a7	不整楕円形	1.04×0.84	—	49	緩斜	平坦	—	人為	深鉢		SK2048
977	B 3h1	楕円形	[1.38×1.16]	3.13×(1.19)	116	内傾	平坦	—	人為	深鉢, 浅鉢, 凹石, 敲石	本跡→T30	SK2049
978	C 2i5	楕円形	1.80×(1.06)	2.12×(1.18)	57	内傾	平坦	—	—	深鉢, 磨石		SK2050
979	C 2d4	不整円形	(1.12)	—	53	外傾	平坦	—	—		本跡→S1139	SK2051
980	C 2d5	楕円形	1.54×(0.64)	1.72×(0.68)	53	内傾	平坦	—	自然		本跡→S1139, SD23	SK2052
981	C 2d7	円形	1.10	1.20	118	内傾	平坦	—	自然		本跡→SK983, 984, 1000	SK2053
982	C 2b7	楕円形	1.00×(0.48)	—	107	直立	平坦	—	自然			SK2054
983	C 2c6	不整六角形	2.46×2.14	—	30	外傾	平坦	7	自然	深鉢, 土器片鉢, 土器片円盤, 凹石, 耳飾	SK985・1000・1066→本跡	SK2055
984	C 2b7	楕円形	(1.82)×1.68	—	48	外傾	傾斜	—	自然			SK2056
985	C 2c6	不整円形	1.26×1.06	—	72	直立	平坦	—	自然			SK2057
986	C 2a9	不整楕円形	2.88×[2.66]	—	56	直立	平坦	7	自然			SK2058
987	B 2j9	瓢箪形	2.22×1.60	—	112	外傾	平坦	—	自然	深鉢, 打製石斧, 磨石		SK2059
988	B 2j9	不明	—×2.09	—	56	外傾	凹凸	5	自然	深鉢, 土器片円盤		SK2060
989	B 2j8	不整楕円形	2.17×(1.66)	—	67	直立	凹凸	2	自然	深鉢, 磨石, 石鏃		SK2061
990	C 2a8	不整円形	1.48×(0.57)	—	61	直立	平坦	—	自然			SK2062
991	C 2c7	楕円形	[1.42×0.90]	—	48	緩斜	凹凸	—	自然			SK2063
992	C 2a8	不整形	2.71×2.17	—	57	直立	平坦	2	自然			SK2064
993	C 2a8	楕円形	[1.19×1.00]	2.11×[1.82]	91	内傾	平坦	—	自然			SKK2065
994	C 2a9	楕円形	[1.94×1.66]	—	50	緩斜	平坦	3	自然			SK2066A
995	C 2a9	不明	(0.59)×—	—	22	外傾	平坦	—	自然			SK2066B
996	C 2a9	楕円形	[2.57]×(1.71)	—	65	直立	平坦	—	自然			SK2067A
997	B 2j9	不明	(0.72)×—	—	41	外傾	傾斜	—	自然			SK2067B
998	C 2a7	不整形	2.74×(1.43)	[2.34]×(1.30)	不明	不明	不明	—	不明			SK2069

番号	位置	開口部 平面形	規 模			壁面	底面	ピット	覆土	主な出土遺物	重 複 関 係 (旧→新)	発 掘 号
			開口部(長径×短径m)	底部(長径×短径m)	深さ(cm)							
999	C 2a7	不 整 形	0.97×(0.45)	—	49	緩斜	平坦	—	自然			SK2070
1000	C 2b6	楕 円 形	[1.22]×1.10	—	46	緩斜	平坦	—	人為			SK2072
1001	C 2c7	円 形	0.83×0.80	—	98	外傾	傾斜	—	—			SK2073
1002	C 2b8	楕 円 形	1.09×(0.81)	—	16	緩斜	傾斜	—	自然			SK2074
1003	C 2b8	不整楕円形	2.08×1.48	1.92	57	内傾	平坦	—	自然	深鉢, 凹石	SK1002→本跡→SK1004・1007	SK2075
1004	C 2b8	楕 円 形	1.44×1.30	2.02×1.80	60	内傾	平坦	—	自然	深鉢, 土器片円盤, 磨石	SK1003・1005→本跡→SK992	SK2076
1005	C 2a8	不 明	不 明	—	46	不明	平坦	—	自然			SK2077
1006	C 2a9	楕 円 形	[1.46×1.23]	2.03×1.71	47	内傾	平坦	1	人為			SK2078
1007	C 2b8	楕 円 形	1.76×1.43	2.24×1.90	66	内傾	平坦	—	自然			SK2080
1008	C 2b9	円 形	0.84×0.83	—	110	直立	平坦	—	人為	深鉢, 器台, 土器片円盤		SK2081
1009	C 2b9	不整円形	2.98	—	57	直立	平坦	2	人為	深鉢, 磨製石斧, 磨石, 円磔		SK2082
1010	C 2a9	円 形	[1.70]	2.53×2.37	105	内傾	平坦	1	自然	深鉢, 器台, 敲石		SK2083
1011	B 2j9	楕 円 形	0.80×0.65	2.69×2.44	108	内傾	平坦	—	自然	深鉢		SK2084
1012	C 2j6	不整円形	1.25×1.22	—	29	外傾	平坦	—	自然	深鉢, 土器片円盤, 軽石製品		SK2085
1013	C 2i6	不整楕円形	1.76×1.41	—	28	外傾	平坦	—	自然	深鉢, 磨製石斧, 磨石		SK2086
1014	C 2i7	長 方 形	1.77×0.70	—	52	外傾	U字状	—	自然			SK2087
1015	C 2i6	不整楕円形	1.90×1.56	—	10	緩斜	平坦	4	自然			SK2088
1016	C 2j7	不整楕円形	1.71×1.42	—	18	外傾	平坦	—	自然			SK2089
1017	B 3ji	楕 円 形	3.03×(1.30)	—	87	外傾	平坦	—	自然	深鉢, ミニチュア土器, 不明土製品, 磨製石斧, 石皿, 石鏃		SK2090
1018	B 3ii	不 明	不 明	—	66	外傾	平坦	1	自然			SK2091
1019	B 2j9	不 明	(0.73)×—	—	不明	不明	不明	—	—			SK2092
1020	B 2j8	不 明	(1.29)×—	—	不明	不明	不明	1	—			SK2093
1021	C 2a9	楕 円 形	0.83×(0.71)	—	22	不明	不明	—	—			SK2094
1022	C 2c5	楕 円 形	1.39×1.12	—	37	直立	平坦	—	自然			SK2095
1023	C 2d5	不整楕円形	1.45×(1.40)	—	60	不明	皿状	—	自然			SK2096
1024	C 2d6	不 明	(1.58×1.43)	—	55	緩斜	平坦	—	自然			SK2097
1025	C 2d5	不整楕円形	2.08×1.79	2.41×2.32	80	内傾	平坦	—	自然			SK2098
1026	C 2a9	円 形	0.65×0.61	—	46	外傾	傾斜	—	—			SK2099
1027	C 2a9	楕 円 形	1.12×(1.03)	(0.92)×0.89	85	不明	平坦	—	—			SK2100
1028	C 2a9	楕 円 形	0.88×0.75	—	73	外傾	平坦	—	—			SK2101
1029	C 2i5	楕 円 形	2.57×1.95	2.44×1.86	不明	不明	不明	—	—			SK2102
1030	B 3g2	楕 円 形	1.01×(0.35)	—	8	緩斜	円凸	—	自然			SK2103
1032	C 2b0	不整楕円形	2.28×(1.02)	2.00×(0.94)	47	不明	平坦	1	自然	深鉢, 土器片円盤, 磨製石斧		SK2105
1033	C 3b1	不整楕円形	3.63×2.99	—	76	外傾	平坦	1	自然	深鉢, 打製石斧, 磨石		SK2106
1034	C 3b1	不整楕円形	[2.08]×1.48	3.10	134	内傾	平坦	—	人為	深鉢	本跡→SK1033	SK2107
1035	C 2d7	楕 円 形	2.24×1.90	2.24×2.08	94	内傾	平坦	1	人為	深鉢, 打製石斧, 磨石, 塊状耳飾	SI141・145, SK1050・1182→本跡	SK2108
1036	C 2e8	不整楕円形	2.48×2.24	3.28×2.47	102	内傾	平坦	4	人為	深鉢, ミニチュア土器, 磨石, 凹石, 敲石	SK1043・1044→本跡→SI145	SK2109
1037	C 2d5	楕 円 形	(1.22×0.96)	(1.10×0.89)	不明	不明	不明	—	—			SK2110
1038	C 2e5	楕 円 形	2.00×(1.80)	1.77×(1.72)	37	不明	不明	—	自然			SK2111
1039	C 2e5	円 形	1.57×1.52	—	37	外傾	平坦	1	自然			SK2112
1040	C 2e6	楕 円 形	2.90×2.86	—	35	緩斜	平坦	8	自然	深鉢, 石鏃		SK2113
1041	C 2b7	不 整 形	(2.20)	—	37	外傾	凹凸	4	—			SK2114
1042	C 2j5	不整円形	1.20	1.00	不明	不明	不明	—	—	深鉢, 磨製石斧		SK2115
1043	C 2e8	隅丸長方形	2.66×(2.12)	—	40	緩斜	平坦	—	自然			SK2116
1044	C 2b8	楕 円 形	2.45×(2.00)	—	49	外傾	平坦	—	自然	深鉢, 磨製石斧		SK2117
1045	C 2j5	楕 円 形	0.82×(0.55)	—	116	直立	平坦	—	自然			SK2118

番号	位置	開口部 平面形	規 模			壁面	底面	ピット	覆土	主な出土遺物	重複関係 (旧→新)	発掘 番号
			開口部(長径×短径m)	底部(長径×短径m)	深さ(cm)							
1046	C 2b9	楕円形	2.62×1.96	2.50×1.92	86	内傾	平坦	5	自然	深鉢, 磨製石斧	SK1047・1063・1068・1080→本跡→SK1009	SK2119
1047	C 2b9	不 明	不 明	—	71	内傾	平坦	—	自然			SK2120
1048	B 2j9	不整楕円形	(1.70)×1.22	—	53	外傾	平坦	1	自然			SK2121
1049	B 2j0	不 整形	(1.13)×1.01	—	44	外傾	傾斜	—	自然			SK2122
1050	C 3c7	楕円形	1.38×(1.01)	1.14×(0.95)	47	不明	不明	1	—			SK2123
1051	C 3a1	楕円形	[0.90]×0.76	—	104	直立	平坦	—	—			SK2124
1052	C 3a1	楕円形	[1.84]×[1.27]	—	98	外傾	不明	2	自然			SK2125
1053	C 3a1	楕円形	1.29×1.17	—	72	直立	平坦	1	自然	深鉢, 土器片錐		SK2126
1054	C 3a1	円 形	1.01×[1.00]	2.87×2.57	113	内傾	平坦	—	自然	深鉢, 土器片円盤, 磨製石斧, 凹石		SK2127
1055	C 2e6	不整楕円形	1.80×[1.41]	2.06×2.04	56	内傾	平坦	—	自然			SK2128
1056	C 2c6	楕円形	1.33×(0.58)	—	47	外傾	皿状	—	—			SK2129
1057	C 2d6	不 整形	0.85×(0.56)	0.64×(0.54)	不明	不明	不明	—	—			SK2130
1058	C 2d5	不 整形	1.53×—	—	40	外傾	皿状	—	—			SK2131
1059	C 2d6	不 整形	(3.80)×2.08	—	23	緩斜	平坦	—	自然			SK2132
1060	B 2j0	楕円形	2.35×1.96	2.10×1.67	57	内傾	平坦	—	自然			SK2133
1061	B 2j0	楕円形	2.10×0.98	—	53	直立	平坦	—	自然			SK2134
1062	C 2d6	楕円形	[2.47]×2.08	—	26	緩斜	平坦	—	自然			SK2135
1063	C 2b9	円 形	[0.89×0.80]	—	74	内傾	平坦	—	自然			SK2136
1065	C 2a0	楕円形	1.92×1.14	2.92×2.64	101	内傾	平坦	—	人為	深鉢		SK2138
1066	C 2c6	楕円形	0.96×0.96	—	14	外傾	平坦	—	—			SK2139
1067	B 2i0	不整楕円形	1.97×(0.62)	1.04×(0.50)	不明	不明	不明	—	—			SK2140
1068	C 2b9	不 明	1.87×—	1.62×—	50	不明	平坦	—	自然			SK2141
1069	C 2c9	楕円形	2.35×(1.42)	—	48	外傾	平坦	2	自然		SK1070・1084→本跡→SK1074	SK2142
1070	C 2c9	円 形	2.68×2.65	—	30	緩斜	平坦	—	自然		本跡→SK1069・1074・1084	SK2143
1071	C 2a9	円 形	1.71×[1.69]	—	61	直立	傾斜	—	自然			SK2144
1072	C 2e8	楕円形	2.90×2.08	—	45	外傾	皿状	6	自然	深鉢, 土器片円盤, 石鏃, 磨石, 搔器		SK2145
1073	C 2a9	楕円形	[0.92]×—	1.80×1.75	73	内傾	平坦	—	自然		本跡→SI145	SK2146
1074	C 2c9	楕円形	2.54×(1.04)	—	80	外傾	平坦	—	自然		SK1069・1070→本跡	SK2147
1075	C 2d9	円 形	[2.10×1.96]	—	58	外傾	傾斜	1	自然		SI145→本跡	SK2148A
1076	C 2a9	楕円形	[2.10]×1.80	[1.80]×1.66	不明	不明	不明	—	不明			SK2148B
1077	C 2e6	円 形	[2.30]×2.12	—	29	外傾	平坦	3	自然			SK2149
1078	C 2e7	円 形	1.60	—	78	直立	平坦	—	自然		本跡→SI145	SK2150
1079	C 2f7	楕円形	2.42×1.89	—	33	外傾	平坦	—	自然	深鉢	SK1124・1143→本跡	SK2151
1080	C 2b9	楕円形	[1.50]×1.18	[1.30×1.08]	不明	不明	不明	—	不明			SK2152
1081	C 2e7	楕円形	(2.38×1.90)	(2.38×2.10)	50	内傾	平坦	—	自然	深鉢	F8→本跡	SK2153
1082	C 2e7	不整楕円形	1.68×1.26	1.56×1.16	不明	不明	不明	—	不明		F8→本跡	SK2154
1083	C 3a1	円 形	[1.34]	—	34	直立	平坦	—	不明			SK2155
1084	C 2c9	円 形	1.58	1.40	38	内傾	凹凸	—	自然		SK1070→本跡→SK1069	SK2156
1085	C 2d0	不 明	(1.34×0.46)	—	88	緩斜	平坦	—	自然		SK1110・1111→本跡	SK2157
1086	C 2d9	円 形	[0.62]	—	31	外傾	傾斜	—	自然		SK1109→本跡	SK2158
1087	C 2e9	楕円形	1.28×1.08	—	63	外傾	平坦	—	自然			SK2159
1088	C 2e8	楕円形	0.64×(0.24)	—	47	直立	不明	—	人為		SK1109→本跡	SK2160
1089	C 2f8	円 形	[0.78]×0.72	2.08×1.74	78	内傾	平坦	—	人為		本跡→SK1090	SK2161
1090	C 2e8	楕円形	1.80×1.54	—	58	直立	凹凸	—	自然		SK1089→本跡	SK2162
1091	C 3d1	楕円形	1.94×1.76	1.80×1.44	85	内傾	平坦	—	人為	深鉢	SK1095→本跡	SK2163
1092	C 3d1	円 形	1.49	[1.92×1.48]	80	内傾	平坦	—	自然		SK1123→本跡	SK2164

番号	位置	開口部 平面形	規 模			壁面	底面	ピット	覆土	主な出土遺物	重 複 関 係 (旧→新)	発 掘 番 号
			開口部:長径×短径[m]	底部:長径×短径[m]	深さ[cm]							
1093	C 3d1	円 形	2.08	—	78	直立	平坦	—	自然		本跡→SK1094	SK2165
1094	C 2d0	隅丸方形	[1.24]×1.73	—	54	外傾	平坦	—	自然		SK1093→本跡→SK1096	SK2166
1095	C 3d1	円 形	[2.06]	[1.75]	不明	不明	不明	—	不明			SK6167
1096	C 2d0	楕円形	[2.00]×(1.46)	—	32	外傾	平坦	—	不明	深鉢, 打製石斧	SK1094→本跡	SK2168
1097	C 2f8	楕円形	2.22×2.00	2.08	64	内傾	平坦	3	人為	深鉢	SK1105→本跡	SK2169
1098	C 2a0	楕円形	2.37×(1.14)	—	38	外傾	平坦	1	—			SK2170
1099	C 2b9	楕円形	1.73×[1.50]	—	38	外傾	平坦	3	自然		SK1100→本跡	SK2171
1100	C 2b0	不 明	不 明	—	67	外傾	平坦	1	自然	深鉢, 石皿	SK1102→本跡→SK1099	SK2172
1101	C 2b0	不 明	不 明	—	48	外傾	凹凸	2	人為	深鉢, 石皿, 石鏃	本跡→SK1126	SK2173
1102	C 2b0	楕円形	2.00×1.73	2.87×2.70	(71)	内傾	平坦	1	人為	深鉢	本跡→SK1100・1098	SK2174
1103	C 2e7	円 形	1.18	—	47	緩斜	皿状	2	自然			SK2175
1104	C 2c8	円 形	0.78	—	107	外傾	平坦	—	人為		SI145→本跡	SK2176
1105	C 2e8	楕円形	[2.25]×1.61	—	51	直立	平坦	3	自然	深鉢	SI145→本跡→SK1097	SK2177
1106	C 2f8	楕円形	2.04×[1.70]	—	43	外傾	平坦	1	—	深鉢		SK2178
1107	C 2f8	円 形	1.30×1.20	—	35	直立	平坦	2	—			SK2179
1108	C 2c6	不 明	不 明	—	45	外傾	平坦	—	自然		本跡→SI140	SK2180
1109	C 2e8	不 明	不 明	—	40	不明	平坦	1	自然		本跡→SK1088	SK2181
1110	C 2d9	不 明	不 明	不 明	60	内傾	凹凸	—	自然		P371→本跡→SK1085	SK2182
1111	C 2e0	不 明	不 明	—	49	不明	凹凸	—	自然		本跡→SK1085	SK2183
1112	C 2g6	楕円形	3.22×2.83	—	54	直立	平坦	4	自然	凹石	SK1115→本跡	SK2184
1113	C 2e9	不 明	不 明	—	不明	不明	不明	—	—			SK2185A
1114	C 2e9	不 明	不 明	—	不明	不明	不明	—	—			SK2185B
1115	C 2g6	不整楕円形	1.83×1.40	3.05	108	内傾	平坦	2	自然	深鉢, 石皿, 石鏃	本跡→SK1112・1116	SK2186
1116	C 2f6	円 形	2.43	—	62	外傾	凹凸	1	自然	土器片円盤	SK1115→本跡	SK2187
1117	C 3a2	円 形	1.27	—	41	直立	平坦	—	人為		本跡→SK1118・1119	SK2188
1118	C 3a2	楕円形	0.93×0.82	—	83	外傾	平坦	—	人為		SK1117→本跡	SK2189A
1119	C 3a2	円 形	0.57	—	90	直立	平坦	—	—		SK1117→本跡	SK2189B
1120	C 3b2	楕円形	1.38×0.95	2.60×2.40	112	内傾	平坦	—	自然	磨製石斧, 剥片		SK2190
1121	C 3c2	不整楕円形	1.30×1.22	—	77	外傾	平坦	—	人為			SK2191
1122	C 3c1	楕円形	1.13×0.87	2.60×2.51	99	内傾	平坦	—	自然			SK2192
1123	C 3e1	不 明	不 明	[1.95]	76	内傾	平坦	—	人為	深鉢	本跡→SK1092	SK2193
1124	C 2f7	楕円形	2.55×2.25	2.48×2.32	82	内傾	平坦	4	人為	深鉢, 磨石, 石鏃	本跡→SK1079,P387	SK2194
1125	C 2d7	楕円形	1.17×[0.91]	—	不明	不明	不明	1	—			SK2195
1126	C 2b0	円 形	[2.71]	—	65	外傾	平坦	1	人為		SK1127→本跡	SK2196
1127	C 2e0	円 形	[2.92]×(1.58)	[3.08]×(1.65)	83	内傾	平坦	—	人為 自然	深鉢, 磨石	SK1128・1149→本跡→SK1126	SK2197
1128	C 3c1	楕円形	(2.40×0.80)	—	35	外傾	凹凸	—	自然		本跡→SK1127	SK2198
1129	B 3j1	楕円形	[2.60]×2.50	[3.80]×3.00	120	内傾	平坦	—	自然	浅鉢	本跡→SK1017,P722	SK2199
1130	C 2d6	楕円形	0.83×0.58	—	64	外傾	平坦	—	—			SK2200
1131	C 2d6	円 形	0.89	—	20	緩斜	平坦	1	—			SK2201
1132	C 2g7	楕円形	—	2.65×2.45	84	内傾	平坦	—	自然	深鉢, 敲石, 土器片円盤	本跡→SI152,SK1134	SK2202
1133	C 2g6	楕円形	1.95×(1.35)	—	40	不明	平坦	—	自然		SK1256→本跡→SK1134	SK2203
1134	C 2g7	不整楕円形	[2.93]×2.20	—	43	緩斜	平坦	1	自然		SK1133→本跡	SK2204
1135	C 2g7	円 形	2.81	—	68	外傾	平坦	4	人為	凹石, 石鏃		SK2205
1136	C 3c1	不 明	不 明	—	(38)	内傾	凹凸	—	自然	深鉢		SK2206
1137	C 2d4	楕円形	[1.47]×0.66	—	9	外傾	平坦	—	不明			SK2207
1138	C 2f6	楕円形	1.38×[1.10]	—	78	外傾	凹凸	—	—			SK2208

番号	位置	開口部 平面形	規 模			壁面	底面	ヒット	覆土	主な出土遺物	重 複 関 係 (旧→新)	発 掘 号
			開口部(長径×短径m)	底部(長径×短径m)	深さ(cm)							
1139	C 2f6	楕円形	[1.15]×1.05	—	不明	不明	不明	—	—			SK2209
1140	C 2h6	不整楕円形	1.76×1.43	—	30	外傾	平坦	4	人為		本跡→SK1141	SK2210
1141	C 2h7	不整楕円形	1.30×1.10	—	45	外傾	平坦	4	人為		SK1140→本跡	SK2211
1142	C 2e9	不明	不明	—	不明	不明	不明	1	—			SK2212
1143	C 2e7	円形	不明	—	30	外傾	平坦	1	—		本跡→SK1079	SK2213
1144	F 3e9	円形	1.34	1.36	40	内傾	平坦	—	自然		本跡→SI144	SK2214
1145	C 3e1	不明	不明	—	不明	不明	不明	—	自然	磨製石斧, 磨石, 凹石	SK1123→本跡	SK2215
1146	C 3e1	楕円形	[1.55]×0.93	2.10×1.90	95	内傾	平坦	—	自然	深鉢, 楔形石器	本跡→SK1145・1166, SI149	SK2216
1147	C 3e1	円形	[1.58]	—	不明	不明	不明	3	自然	深鉢	SK1123→本跡	SK2217
1148	C 2d7	円形	0.85	—	71	直立	平坦	—	人為	土器片・凹盤	SK1182→本跡	SK2218
1149	C 3e1	楕円形	[1.73×1.28]	—	43	外傾	平坦	—	自然		本跡→SK1127	SK2219
1150	C 2d0	不明	不明	—	51	不明	平坦	1	—			SK2220
1151	C 2d0	不明	不明	—	54	不明	不明	—	人為		SK1152・1192→本跡	SK2221
1152	C 2e0	不明	不明	—	42	内傾	平坦	—	人為		本跡→SK1151	SK2222
1153	C 3e1	楕円形	[1.86]×1.64	—	58	直立	平坦	1	人為	深鉢	SK1154・1155→本跡	SK2223
1154	C 2e0	不明	不明	—	不明	不明	不明	—	自然		SI242→本跡→SK1153・1155	SK2224
1155	C 2e0	円形	[1.21]	2.17×2.08	60	内傾	平坦	—	自然	深鉢, 剥片	SI242, SK1154→本跡→SK1153	SK2225
1156	C 3e2	円形	2.25×[1.90]	—	50	外傾	平坦	3	自然	深鉢	SI242→本跡→SK1157・1176	SK2226
1157	C 3e2	不明	不明	—	14	緩斜	平坦	—	不明		本跡→SK1157・1176	SK2227
1158	C 3e1	楕円形	1.32×[1.10]	—	20	緩斜	平坦	—	不明			SK2228
1159	C 2e0	不整楕円形	2.10×1.65	1.92×1.70	64	内傾	平坦	—	人為			SK2229
1160	C 2h6	円形	2.17×2.05	2.52	68	内傾	平坦	1	人為	深鉢, 甕, 打製石斧	本跡→SD23	SK2230
1161	C 2h6	楕円形	1.45×1.30	3.08×2.78	110	内傾	平坦	—	自然	深鉢	本跡→SK1162	SK2231
1162	C 2h6	不明	不明	—	35	不明	平坦	—	自然		SK1161→本跡→SK1163	SK2232
1163	C 2i7	円形	3.16×2.98	—	52	外傾	平坦	5	人為	深鉢	SK1162→本跡→P401	SK2233
1165	C 3e1	円形	0.93×0.85	—	65	外傾	平坦	—	不明			SK2236
1166	C 3e1	楕円形	1.02×[0.72]	[1.65]	82	内傾	平坦	—	自然	深鉢	SK1146→本跡→SI149	SK2237
1167	C 2e0	楕円形	2.48×2.24	2.62×2.03	43	内傾	平坦	2	人為	深鉢, 浅鉢, 土器片・凹盤, 石皿	本跡→SK1255, SI146	SK2238
1168	C 2h7	不整楕円形	1.98×1.62	1.74×1.65	66	内傾	平坦	1	人為	深鉢, 石皿	本跡→SK1169	SK2239
1169	C 2h8	円形	[2.36]	—	56	外傾	平坦	6	自然 人為	深鉢, 磨石	SK1168→本跡→P393・726	SK2240
1170	C 2h8	楕円形	2.07×1.95	—	43	直立	平坦	4	自然		SI162, SK1171→本跡	SK2241
1171	C 2h8	楕円形	[2.35×1.75]	—	50	直立	平坦	4	自然	深鉢, 剥片	本跡→1170	SK2242
1172	C 2h9	楕円形	2.03×1.91	—	24	外傾	平坦	4	自然		SI157→本跡	SK2243
1173	C 2g8	円形	2.08×1.90	—	57	直立	平坦	2	自然	凹石	本跡→第31号土坑墓	SK2244
1174	C 2g8	楕円形	2.73×[1.95]	—	43	直立	平坦	4	自然		本跡→SK1173・1175	SK2245
1175	C 2g8	楕円形	2.54×[2.15]	—	29	外傾	平坦	6	自然	深鉢, 石鏃, 剥片	SK1174→本跡→SK1195	SK2247
1176	C 3e2	楕円形	[1.41]×0.75	[1.25]×0.59	63	内傾	平坦	—	自然		SK1156・1157→本跡	SK2248
1177	C 2f7	楕円形	0.95×0.55	—	101	直立	平坦	—	自然			SK2249
1178	C 2g9	不整楕円形	2.66×2.00	2.83×2.08	81	内傾	平坦	1	自然	磨製石斧	本跡→SK1181	SK2250
1179	C 2f9	不整楕円形	2.51×2.23	2.38×1.88	58	内傾	平坦	2	人為	深鉢, 磨製石斧, 石鏃	本跡→SI152, SK1183・1215, P408	SK2251
1181	C 2g9	不整楕円形	1.78×1.55	—	45	外傾	平坦	3	自然	深鉢, 磨製石斧	SI157, SK1178→本跡	SK2252
1182	C 2d7	円形	[1.70]	—	不明	不明	不明	—	—			SK2253
1183	C 2f8	円形	1.14	—	62	外傾	平坦	—	人為	深鉢, 磨製石斧, 凹石, 敲石	SI152, SK1179→本跡	SK2254
1184	D 2a7	楕円形	4.50×1.84	—	81	緩斜	皿状	—	人為		本跡→SK1185	SK2255
1185	C 2j7	楕円形	[1.25]×0.99	—	34	外傾	皿状	—	自然	深鉢	SK1184→本跡	SK2256
1186	D 2a8	楕円形	[2.28×2.03]	—	50	緩斜	平坦	1	自然		SK1187→本跡	SK2257

番号	位置	開口部 平面形	規 模			壁面	底面	ピット	覆土	主な出土遺物	重 複 関 係 (旧→新)	発 掘 番 号
			開口部(長径×短径m)	底部(長径×短径m)	高さ(cm)							
1187	D 1j8	楕 円 形	[2.85]×1.83	—	35	外傾	平坦	—	自然			SK2258
1188	D 2a8	楕 円 形	1.02×0.89	1.04×0.82	104	内傾	平坦	—	自然	深鉢		SK2259
1189	D 2a6	楕 円 形	2.28×1.72	—	13	緩斜	平坦	3	自然		SK1184→本跡	SK2260
1190	C 2f9	楕 円 形	3.02×2.38	3.21×2.55	58	内傾	平坦	3	人為	深鉢, 浅鉢, 打製石斧, 敲石	本跡→SK1191	SK2261
1191	C 2f9	円 形	1.18×1.10	—	85	直立	平坦	2	自然	深鉢	SK1190→本跡	SK2262
1192	C 2d9	楕 円 形	不 明	2.32	105	内傾	平坦	—	人為	深鉢, 磨石	本跡→SK1096・1151	SK2263
1193	C 2d0	楕 円 形	1.00×(0.30)	—	38	緩斜	平坦	—	—			SK2264
1195	C 2h8	楕 円 形	1.05×0.60	1.00×0.65	113	内傾	平坦	—	自然	石鏃	SK1175→本跡	SK2266
1196	C 2j8	楕 円 形	1.88×1.52	2.33×2.04	67	内傾	平坦	1	人為	深鉢, 浅鉢, 石鏃		SK2267
1197	C 2d7	楕 円 形	1.82×1.63	2.00×1.88	55	内傾	平坦	—	自然	深鉢, クッキー状炭化物	本跡→SK1198	SK2268
1198	C 2d8	楕 円 形	2.95×2.30	—	21	外傾	平坦	2	自然	深鉢	SK1197→本跡	SK2269
1199	C 2f8	楕 円 形	1.85×1.65	—	不明	不明	不明	—	—	磨石, 石鏃		SK2270
1200	C 2j8	円 形	2.50×2.40	—	48	外傾	平坦	4	自然	深鉢, 鉢, ミニチュア土器, 打製石斧		SK2271
1201	C 2j8	楕 円 形	1.13×1.02	—	30	外傾	平坦	1	人為			SK2272
1202	C 2b7	不 明	不 明	—	33	不明	不明	—	—			SK2273
1204	C 2g7	楕 円 形	1.74×1.57	—	22	緩斜	平坦	3	自然		SI152→本跡	SK2276
1205	C 2i9	円 形	1.98	—	50	緩斜	皿状	5	自然	深鉢	SI159→本跡	SK2277
1206	C 2i9	楕 円 形	1.78×1.42	2.78×2.32	65	内傾	平坦	—	人為	深鉢	本跡→SI159	SK2278
1207	C 2i8	不 定 形	2.15×(2.01)	—	40	緩斜	平坦	9	自然	深鉢		SK2279
1208	C 3d1	不 明	不 明	—	85	緩斜	平坦	—	—			SK2280
1209	C 2i8	不整楕円形	2.28×2.08	3.23	114	内傾	平坦	—	人為	深鉢, 鉢, 浅鉢	本跡→SI150	SK2281
1210	C 2e8	楕 円 形	不 明	—	12	外傾	平坦	—	自然		本跡→SK1088	SK2282
1211	C 2d0	円 形	0.91×0.88	—	36	外傾	平坦	—	自然		本跡→SI164	SK2283
1212	D 2a7	楕 円 形	1.32×1.13	—	52	直立	平坦	—	自然			SK2284
1213	C 2i7	楕 円 形	2.12×[1.72]	—	42	外傾	平坦	2	人為			SK2285
1214	C 2h8	円 形	0.63	—	43	緩斜	不明	—	—			SK2286
1215	C 2i9	不整楕円形	[2.25×2.02]	—	27	外傾	平坦	4	不明		SK1179→本跡→SK1216	SK2287
1216	C 2i9	不整楕円形	1.61×1.28	—	53	直立	平坦	2	自然	深鉢, 石皿	SK1215→本跡	SK2288
1217	C 2h7	楕 円 形	1.72×1.50	—	10	緩斜	平坦	—	—	深鉢		SK2289
1218	D 2a9	円 形	2.38×2.22	2.53×2.28	57	内傾	平坦	1	人為 自然	深鉢, 磨製石斧	SI160→本跡→SK1235	SK2290
1219	C 2g9	不 明	不 明	—	44	外傾	平坦	—	—			SK2291
1220	C 2h7	楕 円 形	1.27×0.75	—	20	外傾	平坦	1	自然			SK2292
1221	C 2j9	円 形	2.08	—	102	直立	平坦	1	人為 自然	深鉢, 磨製石斧	SI160,SK1238→本跡	SK2293
1222	C 2j9	円 形	[1.93]	—	42	外傾	平坦	2	自然	深鉢	SK1233→本跡→SK1235	SK2294
1223	C 2j9	楕 円 形	2.11×1.85	—	45	外傾	平坦	3	—	深鉢	SI160→本跡	SK2295
1224	C 2i9	楕 円 形	1.98×1.82	2.69×2.29	65	内傾	平坦	4	自然	深鉢, 鉢, 磨石	本跡→SI159,SK1225	SK2296
1225	C 2i0	楕 円 形	2.60×2.10	—	57	外傾	平坦	3	自然		SK1224→本跡→SK1233	SK2297
1226	C 2i9	楕 円 形	0.90×0.78	—	25	外傾	平坦	—	自然		本跡→SK1225	SK2298
1227	C 2h0	不 明	不 明	[2.70×2.12]	57	内傾	平坦	—	自然		本跡→SK1229→SK1228	SK2299
1228	C 2h0	円 形	1.95×1.82	—	110	直立	平坦	—	自然		SK1227・1228・1230→本跡	SK2300
1229	C 2i9	不整円形	2.08×[1.92]	1.98×[1.58]	44	内傾	平坦	2	—	深鉢	SK1227→本跡→SK1228	SK2301
1230	C 2h0	円 形	3.15	—	58	外傾	皿状	6	人為	深鉢, 浅鉢	本跡→SK1228・1232	SK2302
1231	C 3i1	円 形	1.55	—	55	外傾	平坦	1	—	深鉢, 浅鉢		SK2303
1232	C 2h0	円 形	2.36	—	85	外傾	平坦	—	自然	深鉢	SKL1227→本跡	SK2304
1233	C 2j0	楕 円 形	[2.81×2.05]	—	35	緩斜	平坦	4	自然		SK1225→本跡→SK1222	SK2305
1234	C 2j9	円 形	0.77	—	62	直立	平坦	—	自然	土製耳飾	SI160,SK1222→本跡→SK1221	SK2306

番号	位置	開口部 平面形	規 模			壁面	底面	ピット	覆土	主な出土遺物	重 複 関 係 (旧→新)	発 掘 番 号
			開口部(長径×短径m)	底部(長径×短径m)	深さ(cm)							
1235	D 2a9	楕 円 形	[2.23×1.73]	—	32	外傾	平坦	—	自然		SK1218・1221→本跡	SK2307
1236	C 2j9	円 形	[1.15]	—	50	直立	平坦	—	自然		SK1238→本跡	SK2308
1237	C 2h0	不 明	不 明	—	不明	内傾	不明	—	自然		本跡→SK1232	SK2309
1238	C 2j9	不 明	不 明	—	不明	不明	不明	1	—			SK2310
1239	C 2j9	円 形	0.55	—	40	外傾	平坦	—	—	深鉢		SK2311
1240	C 2i8	円 形	(0.75)	—	35	不明	不明	—	—	深鉢		SK2312
1241	C 2g0	楕 円 形	0.85×0.55	—	61	外傾	平坦	—	自然			SK2313
1242	C 2f0	楕 円 形	1.98×[1.70]	2.52×[1.50]	55	内傾	平坦	—	自然			SK2314
1243	C 3d3	楕 円 形	2.73×2.32	—	57	外傾	平坦	6	自然	浅鉢, 敲石, 凹石		SK2315
1244	C 3e3	円 形	2.75	—	113	直立	平坦	5	自然	深鉢, 浅鉢, 敲石		SK2316
1245	D 2a8	円 形	0.79	—	90	直立	平坦	—	自然		本跡→第17号地下式塋	SK2317
1246	C 3gi	楕 円 形	1.93×1.72	2.30×2.20	48	内傾	平坦	—	人為	深鉢, 鉢, 打製石斧, 磨製石斧	本跡→SI154,SK1263	SK2318
1247	C 3fi	楕 円 形	[2.40]×1.62	[2.45]×1.95	45	内傾	平坦	1	自然	石鏃	本跡→SK1248	SK2319
1248	C 2f0	楕 円 形	[0.93×0.65]	—	23	外傾	平坦	—	自然		SK1247→本跡	SK2320
1249	C 3fi	円 形	2.12	—	57	外傾	平坦	—	自然	深鉢	SK1250→本跡→SI154	SK2321
1250	C 3fi	円 形	[2.45]	—	28	外傾	平坦	1	人為	深鉢	本跡→SI154,SK1249	SK2322
1251	C 3hi	不整楕円形	1.93×1.14	2.15×1.83	48	内傾	平坦	1	自然	深鉢	本跡→SI156	SK2323
1252	C 2g0	楕 円 形	[1.63×1.40]	—	48	外傾	平坦	2	—			SK2324
1253	C 2g0	楕 円 形	[1.50×1.20]	2.13×[1.85]	55	内傾	平坦	1	人為	深鉢	SK1254→本跡→P416	SK2325
1254	C 2g0	楕 円 形	2.04×1.56	—	23	外傾	平坦	5	自然		本跡→SK1253	SK2326
1255	C 2e0	楕 円 形	[1.95]×1.77	—	不明	不明	平坦	—	不明			SK2328
1256	C 2g6	楕 円 形	1.16×0.75	—	56	外傾	平坦	—	—			SK2329
1257	C 3h2	楕 円 形	[1.98×1.65]	2.38×2.20	84	内傾	平坦	—	自然	石皿	本跡→1258	SK2330
1258	C 3h2	円 形	3.39×[3.30]	—	58	直立	平坦	4	人為	深鉢, 敲石, 石鏃	SK1257・1259→本跡	SK2331
1259	C 3h2	楕 円 形	2.85×[1.70]	—	36	外傾	平坦	1	自然		本跡→SI164,SK1258・1260	SK2332
1260	C 3h2	楕 円 形	1.15×0.95	—	45	外傾	平坦	—	自然		SK1258・1259・1262→本跡	SK2333
1261	C 3hi	楕 円 形	0.71×(0.62)	—	80	外傾	平坦	—	—			SK2334
1262	C 3hi	楕 円 形	2.04×(1.35)	[1.98]×1.77	46	内傾	平坦	—	人為	深鉢	SI156→本跡→SK1260	SK2335
1263	C 3gi	楕 円 形	[2.60×1.80]	—	36	不明	平坦	3	自然			SK2336
1264	C 3gi	円 形	[1.41]	—	52	直立	平坦	1	自然		SK1265→本跡	SK2337
1265	C 2g0	楕 円 形	[2.02×1.55]	—	55	外傾	平坦	—	自然		SK1266・1298→本跡→SK1264	SK2338
1266	C 2g0	不 明	不 明	—	41	外傾	平坦	—	自然		SK1267→本跡→SK1265	SK2339
1267	C 2g0	不 明	不 明	—	38	外傾	皿状	—	自然		本跡→SK1254・1266	SK2340
1268	C 2g0	円 形	1.12×1.04	—	31	外傾	平坦	1	自然		SK1254→本跡	SK2341
1269	C 3j0	円 形	1.46	—	43	外傾	平坦	—	人為		SK1252→本跡	SK2342
1270	C 2j0	不整楕円形	[2.76]×2.26	[2.54]×2.17	57	内傾	平坦	1	人為	深鉢	本跡→SK1271, P413・415	SK2343
1271	C 2j0	円 形	1.75	—	35	緩斜	平坦	—	人為		SI160,SK1270→本跡	SK2344
1272	D 2a0	円 形	2.12	—	40	外傾	平坦	2	人為	深鉢, 敲石, 凹石	本跡→SI160	SK2345
1273	D 2a9	不整楕円形	[2.24]×1.85	2.54	63	内傾	平坦	—	人為	深鉢, 浅鉢	本跡→SI160	SK2346
1274	C 3c3	楕 円 形	1.17×1.02	—	82	外傾	平坦	—	自然		SK1275→本跡	SK2347
1275	C 3c3	楕 円 形	[1.77×1.18]	—	28	外傾	平坦	—	自然		本跡→SK1274	SK2348
1276	C 3c3	円 形	1.24	—	65	外傾	平坦	—	自然			SK2349
1277	C 3fi	不 明	不 明	—	20	外傾	平坦	—	不明		本跡→SK1278	SK2351
1278	C 3fi	楕 円 形	[2.60]×2.36	—	36	外傾	平坦	—	自然		SK1277→本跡	SK2352
1279	D 2a0	不 明	不 明	—	28	不明	平坦	1	自然		P422→本跡→SI160,P420	SK2353
1280	C 2i8	楕 円 形	0.77×0.66	—	27	緩斜	皿状	—	自然	土器片円盤	SI162→本跡	SK2354



番号	位置	開口部 平面形	規 模			壁面	底面	ピット	覆土	主な出土遺物	重複関係 (旧→新)	発掘 番号
			開口部(長径×短径m)	底部(長径×短径m)	深さ(cm)							
1281	C2g6	楕円形	[1.33]×1.17	—	12	緩斜	平坦	—	人為		本跡→SK1282	SK2355
1282	C2g6	楕円形	1.05×0.80	—	15	緩斜	平坦	1	人為		SK1281→本跡	SK2356
1283	C3h2	楕円形	1.45×0.75	2.48	97	内傾	平坦	—	人為	深鉢, 磨製石斧		SK2357
1284	C3g3	円形	1.75	1.98	61	内傾	平坦	1	自然	磨製石斧	本跡→SI170,SK1285	SK2358
1285	C3g3	円形	[1.38]	[1.78]	48	内傾	平坦	—	自然		SK1284・1286→本跡→SI170	SK2359
1286	C3g3	楕円形	2.46×2.20	2.55×2.40	87	内傾	平坦	4	人為	深鉢, 打製石斧, 石鏃	SK1289→本跡→SK1285・1287	SK2360
1287	C3g4	楕円形	2.93×[2.88]	—	55	外傾	平坦	—	自然		SK1286→本跡→SK1288	SK2361
1288	C3g4	円形	0.66	—	52	外傾	平坦	—	自然		SK1287→本跡	SK2362
1289	C3g3	楕円形	[2.70]×2.08	—	36	外傾	平坦	1	人為	深鉢, 敲石	本跡→SI155,SK1286・1304・1305	SK2363
1290	C3d2	楕円形	1.05×0.95	—	22	不明	平坦	—	自然		本跡→P群P9	SK2365
1291	C3d2	不整楕円形	[1.55]×0.95	—	不明	不明	不明	—	—		本跡→第2号土器埋設土坑	SK2366
1292	C3d2	楕円形	1.1×0.75	—	15	外傾	平坦	—	自然		本跡→第2号土器埋設土坑	SK2367
1293	C3d2	円形	1.05	—	18	外傾	平坦	—	人為			SK2368
1294	C3d1	円形	[1.08]	—	32	外傾	平坦	—	不明		本跡→P群P8	SK2369
1295	C3c2	楕円形	1.05×0.90	—	38	緩斜	皿状	—	人為			SK2370
1296	C3d2	不整楕円形	1.22×0.62	—	25	外傾	平坦	1	人為			SK2371
1297	C2h9	楕円形	[1.77×1.49]	—	不明	不明	不明	4	—			SK2372
1298	C2g0	楕円形	1.12×0.85	—	77	外傾	平坦	—	自然		本跡→SK1265	SK2373
1299	C3i2	不整楕円形	[0.41×0.20]	—	45	緩斜	丸底	—	自然		SK1300→本跡	SK2374
1300	C3i2	不整楕円形	[1.78×1.25]	2.58×2.38	87	内傾	平坦	—	人為	深鉢, 磨製石斧	本跡→SK1299	SK2375
1301	C3j2	円形	2.18	—	53	直立	平坦	2	人為	深鉢, 磨製石斧, 門石	SK1302→本跡	SK2376
1302	C3j2	楕円形	[1.65]×1.23	[1.65]×1.22	65	内傾	平坦	—	自然		本跡→SK2301	SK2377
1303	C3i2	楕円形	[1.30]×1.02	—	28	外傾	平坦	1	—			SK2378
1304	C3g2	楕円形	2.18×1.67	[2.34]×2.13	65	内傾	平坦	1	人為	深鉢	本跡→SK1305	SK2379
1305	C3g2	楕円形	0.76×0.50	0.90×0.37	105	内傾	平坦	—	自然		SK1304・1289→本跡	SK2380
1306	C3f2	不明	不明	[2.15×1.90]	70	内傾	平坦	—	自然	深鉢, 磨製石斧	本跡→SI164,SK1348	SK2381
1307	C3f2	楕円形	[3.27×2.98]	—	73	直立	平坦	4	自然		SI164,SK1308→本跡	SK2382
1308	C3e3	楕円形	2.71×2.27	—	25	直立	平坦	4	自然		本跡→SK1307	SK2383
1309	C3j2	円形	[1.25]×1.20	1.45×1.25	55	内傾	平坦	—	—	深鉢		SK2384
1310	C3e3	円形	1.25	—	48	緩斜	平坦	—	自然		本跡→P群P82,SB53	SK2385
1311	C2f0	楕円形	1.38×1.10	2.27×[2.10]	43	内傾	平坦	—	不明		本跡→SI153,SK1255	SK2387
1312	C3e5	楕円形	[1.97]×1.83	—	71	直立	平坦	2	自然		SI172,SK1315→本跡→SK1313	SK2388
1313	C3e5	楕円形	2.45×2.12	2.34×2.06	61	内傾	平坦	—	人為		SK1312→本跡	SK2389
1314	C3e5	楕円形	0.74×0.64	—	55	外傾	平坦	—	自然		SI172,SK1312→本跡	SK2390
1315	C3f5	円形	[2.38]×2.32	—	94	直立	平坦	5	人為	鉢	本跡→SK1312	SK2391
1316	C3f5	楕円形	[1.95×1.22]	—	不明	不明	平坦	—	—			SK2392
1317	C3e5	楕円形	1.73×1.15	—	23	外傾	平坦	3	自然		本跡→P417	SK2393
1318	C2g0	楕円形	[1.58×1.10]	—	不明	不明	不明	—	—			SK2394
1319	C3f4	楕円形	3.32×2.12	—	48	外傾	平坦	1	自然		本跡→SK1320	SK2395
1320	C3f4	円形	1.18	—	105	外傾	平坦	—	自然		SK1319・1336→本跡	SK2396
1321	C3g1	不整楕円形	1.04×0.54	—	43	外傾	丸底	—	自然			SK2397
1322	C3h1	不整楕円形	0.93×0.67	—	25	緩斜	平坦	—	自然			SK2398
1323	C3h1	円形	0.73	—	55	外傾	丸底	—	自然		SI156→本跡	SK2399
1324	C3e4	楕円形	1.65×1.42	—	17	外傾	平坦	—	人為		本跡→P418	SK2403
1325	C3g2	不整楕円形	1.52×[1.38]	2.22×2.08	68	内傾	平坦	—	人為	深鉢, 磨製石斧, 打製石斧		SK2404
1326	C3g2	楕円形	[1.54]×1.40	1.81×1.78	84	内傾	平坦	1	自然	深鉢	本跡→SK1327・1333・1334	SK2405

番号	位置	開口部 平面形	規 模			壁面	底面	ヒット	覆土	主な出土遺物	重複関係 (旧→新)	発掘 番号
			開口部(長径×短径m)	底部(長径×短径m)	高さ(cm)							
1327	C 3h3	楕円形	3.43×[2.43]	—	69	外傾	平坦	7	人為	深鉢, 土器片・門盤	SK1326・1330→本跡	SK2406
1328	C 3e4	楕円形	[0.75]×0.62	—	30	緩斜	皿状	—	不明			SK2407
1329	C 3g2	楕円形	[2.45]×1.95	—	46	外傾	平坦	—	自然		本跡→SK1327	SK2408
1330	C 3h2	不整楕円形	1.42×1.05	1.95×1.85	45	内傾	平坦	—	人為		本跡→SK1327	SK2409
1331	D 3a1	楕円形	[2.35×2.15]	[2.72×2.63]	109	内傾	平坦	—	人為		本跡→SI163,SK1339	SK2410
1332	C 3f2	楕円形	1.55×[1.18]	3.07×2.94	102	内傾	平坦	1	人為	深鉢, 浅鉢, 敲石	本跡→SI154,SK1250	SK2411
1333	C 3g2	不明	不明	—	不明	不明	不明	—	—			SK2412
1334	C 3g2	不明	不明	—	不明	不明	不明	—	—			SK2413
1335	C 3e2	楕円形	[1.05×0.82]	—	26	外傾	平坦	—	自然			SK2414
1336	C 3f4	円形	[2.02]	—	67	不明	平坦	—	自然		本跡→SK1320	SK2415
1337	C 3f4	楕円形	1.82×[1.63]	—	不明	不明	不明	3	—			SK2416
1338	C 3j1	楕円形	1.68×[1.02]	—	55	外傾	平坦	1	自然		本跡→SK1352	SK2417
1339	D 3a1	円形	[2.62]	[2.64]	60	内傾	平坦	2	自然	凹石	SK1331→本跡→SI163	SK2418
1340	D 3a1	楕円形	[2.41×2.23]	—	65	不明	平坦	1	不明		本跡→SI163,SK1339	SK2419
1341	D 3a1	不明	不明	—	55	外傾	平坦	—	自然		本跡→SI163	SK2420
1342	C 3f4	不明	不明	—	26	外傾	平坦	—	人為		本跡→SI154	SK2421
1343	C 3h1	楕円形	[1.82×1.65]	—	25	不明	平坦	—	人為		本跡→P436・447	SK2422
1344	C 3h1	楕円形	1.73×[1.52]	—	14	外傾	平坦	1	自然		本跡→SI156,P447	SK2423
1345	C 3i1	楕円形	[1.04]×0.85	1.75×1.65	94	内傾	平坦	—	人為	深鉢	SK1358→本跡	SK2424
1346	D 2a9	不明	不明	—	不明	不明	不明	1	—			SK2425
1347	C 3j1	不明	不明	—	27	不明	平坦	—	自然		本跡→P422	SK2426
1348	C 3f2	楕円形	1.62×1.46	—	39	直立	平坦	—	人為		SK1306→本跡	SK2427
1349	C 3j4	円形	1.54	1.63	不明	内傾	平坦	—	自然			SK2428
1350	D 3b1	楕円形	1.45×1.31	—	35	外傾	平坦	1	—		SK1360→本跡	SK2429
1351	C 3j1	円形	2.1×[1.93]	—	60	直立	平坦	1	—			SK2430
1352	C 3j1	楕円形	[1.94×1.68]	—	82	直立	平坦	1	人為	深鉢	SK1338・1353・1368→本跡	SK2431
1353	C 3j1	円形	[2.31]×2.12	—	55	外傾	平坦	4	自然	深鉢	SK1354・1403→本跡→SK1352	SK2432
1354	C 3j1	楕円形	[2.78]×1.53	2.64×2.16	82	内傾	平坦	—	人為	深鉢, 磨石	SK1403→本跡→SK1353・1401・1355, P455	SK2433
1355	C 3i1	円形	[2.10]×1.9	—	35	外傾	平坦	1	自然			SK2434
1356	C 3i1	円形	1.07	1.18	50	内傾	平坦	—	自然			SK2435
1357	C 2i0	円形	0.82	—	18	緩斜	平坦	—	自然		P433→本跡	SK2437
1358	C 3i1	楕円形	[1.12×0.64]	—	14	不明	平坦	—	不明		本跡→SK1345	SK2441
1359	C 3i1	円形	[1.20]×1.10	—	35	外傾	平坦	—	自然		P434→本跡	SK2442
1360	D 3b1	円形	1.06	1.09	84	内傾	平坦	—	自然		本跡→SK1350	SK2456
1361	D 3h1	円形	[1.48]	—	25	外傾	平坦	2	—		本跡→SI163	SK2458
1362	D 3b1	楕円形	[1.95×1.45]	—	不明	不明	不明	1	—			SK2459
1363	C 3g2	楕円形	1.02×0.81	2.19×1.82	97	内傾	平坦	—	人為	深鉢, 磨製石斧		SK2460
1364	D 3a2	楕円形	[1.85]×1.45	—	29	外傾	平坦	1	人為		本跡→SK1367	SK2461
1365	D 3a2	楕円形	[2.25×1.52]	—	26	不明	平坦	2	不明			SK2462
1366	D 3a3	不明	不明	—	不明	不明	不明	1	不明			SK2463
1367	D 3a3	楕円形	2.03×1.72	—	64	外傾	平坦	1	人為	深鉢	SK1364・1366→本跡→SI158	SK2464
1368	C 3j1	楕円形	1.4×1.02	2.25×1.93	102	内傾	平坦	—	自然		本跡→SK1352	SK2465
1369	D 3c1	円形	1.08	1.97	46	内傾	平坦	—	人為			SK2467
1370	D 3a1	楕円形	[2.22]×1.42	—	25	外傾	平坦	1	自然		本跡→SK1371	SK2468
1371	D 3a1	円形	1.48	—	57	外傾	平坦	2	自然	打製石斧, 凹石	SK1370→本跡	SK2469
1372	D 3a1	不明	不明	—	45	不明	平坦	—	自然		本跡→SK1371・1373	SK2470

番号	位置	開口部 平面形	規 模			壁面	底面	ピット	覆土	主な出土遺物	重 複 関 係 (旧→新)	発 掘 番 号
			開口部(長径×短径m)	底部(長径×短径m)	深さ(cm)							
1373	C 3j1	円 形	[0.95]	[1.05]	62	内傾	平坦	—	自然		SK1372→本跡	SK2471
1374	B 3g4	不整楕円形	0.96×0.85	—	15	外傾	平坦	—	自然		本跡→P448	SK2479
1375	C 3i1	楕 円 形	[1.32×0.55]	—	31	外傾	平坦	—	—			SK2486
1376	C 3f2	楕 円 形	0.82×0.68	—	12	外傾	平坦	—	自然			SK2487
1377	C 3j2	円 形	[0.97]	—	42	外傾	平坦	1	自然			SK2488
1378	D 3a2	円 形	1.12×0.98	—	19	外傾	平坦	—	人為			SK2489
1379	D 2b0	楕 円 形	1.08×0.94	0.93×0.83	98	内傾	平坦	—	自然	深鉢	本跡→SK1362	SK2490
1380	D 2b0	円 形	0.79	—	66	直立	平坦	—	自然			SK2491
1381	C 3e4	楕 円 形	1.16×0.73	—	18	感謝	平坦	—	自然		本跡→P群P122	SK2492
1382	D 3c2	楕 円 形	[2.57×2.39]	[3.02×2.67]	40	内傾	平坦	—	自然			SK2498
1383	D 3c3	楕 円 形	[2.28×1.70]	—	34	外傾	平坦	1	自然		本跡→SK1385	SK2499
1384	D 3c3	楕 円 形	2.10×1.87	2.35×2.02	82	内傾	平坦	—	人為	深鉢, 浅鉢, 敲石, 打斧	本跡→SK1385	SK2500
1385	D 3c3	楕 円 形	[2.17×1.91]	—	32	外傾	平坦	7	自然		SK1384→本跡	SK2501
1386	D 3c2	楕 円 形	[0.96×0.87]	—	30	外傾	平坦	—	自然	深鉢, 石鏃	SK1389・1395→本跡	SK2502
1387	D 3b3	不整楕円形	2.13×[1.88]	2.45×2.25	76	内傾	平坦	2	人為	深鉢	本跡→SK1389・1413	SK2503
1388	D 3c2	楕 円 形	[2.05×1.82]	—	不明	不明	不明	1	—			SK2504
1389	D 3c2	楕 円 形	[2.88×1.47]	—	26	外傾	平坦	1	自然		本跡→SK1386・1390	SK2505
1390	D 3b2	楕 円 形	1.95×1.68	—	52	外傾	平坦	1	人為		SK1389・1391→本跡	SK2506
1391	D 3b2	楕 円 形	[2.15×1.95]	[2.20×1.95]	42	内傾	平坦	—	人為		本跡→SK1390・1392・1410	SK2507
1392	D 3b2	楕 円 形	[2.15×1.76]	—	46	外傾	平坦	1	人為	深鉢, 鉢, 磨製石斧	SI165, SK1391・1423→本跡→SK1410	SK2508
1393	D 3b1	楕 円 形	1.78×[1.53]	—	26	外傾	平坦	2	自然		本跡→SK1423	SK2509
1394	D 3b1	円 形	0.87	—	63	外傾	平坦	—	—			SK2510
1395	D 3c2	楕 円 形	[2.90×1.62]	—	27	外傾	平坦	1	自然		本跡→SK1385・1286	SK2511
1396	C 3j2	楕 円 形	[1.36×0.84]	2.07×1.54	110	内傾	平坦	—	自然			SK2512
1397	D 2b0	不 明	不 明	—	18	緩斜	平坦	—	—	深鉢	本跡→SI163	SK2513
1398	D 3b1	円 形	[1.96]	—	不明	不明	平坦	—	—			SK2514
1399	B 3i6	楕 円 形	0.95×0.82	—	40	外傾	平坦	—	自然			SK2524
1400	C 3i1	円 形	0.59	—	55	外傾	丸底	—	自然			SK2527
1401	C 3c1	不 明	不 明	—	40	外傾	平坦	1	自然			SK2528
1402	D 3a2	楕 円 形	[1.18×1.04]	—	28	外傾	平坦	1	自然		SK1425→本跡	SK2543
1403	C 3j1	円 形	0.72	0.98	45	内傾	平坦	—	人為			SK2553
1404	C 3i1	楕 円 形	0.72×0.58	—	不明	不明	不明	—	—			SK2554
1405	C 3j2	楕 円 形	[2.05×1.65]	—	55	不明	平坦	1	自然	磨製石斧	本跡→SK1411	SK2562
1406	D 3c2	楕 円 形	1.12×0.98	—	78	外傾	平坦	1	自然		本跡→SK1412	SK2563
1407	C 3j3	楕 円 形	1.12×0.86	—	56	直立	凸凹	—	自然	深鉢		SK2564
1408	C 3j3	円 形	[2.42]	[2.38]	50	内傾	平坦	—	人為			SK2565
1410	D 3b2	楕 円 形	0.85×0.63	—	105	直立	平坦	—	自然		SK1392・1423→本跡	SK2577
1411	C 3j2	円 形	[1.08]	—	52	外傾	平坦	—	人為			SK2588
1412	D 3c2	楕 円 形	[1.98×1.58]	—	24	外傾	平坦	3	自然		SK1406→本跡	SK2595
1413	D 3b3	楕 円 形	1.72×1.45	—	20	外傾	平坦	—	不明		SI167, SK1387→本跡	SK2596
1414	D 3a4	円 形	[1.55]	[2.12×1.83]	38	内傾	平坦	—	人為		本跡→SK1415	SK2604
1415	D 3a4	円 形	[2.25]×2.13	[2.30×2.26]	72	内傾	平坦	1	自然	深鉢	SI169, SK1414・1416→本跡	SK2605
1416	D 3b4	不整楕円形	1.95×1.53	2.32×2.28	75	内傾	平坦	—	人為	深鉢	本跡→SK1415, SI167・169	SK2606
1417	D 3b4	楕 円 形	2.55×2.25	—	85	外傾	平坦	—	自然		SI167, SK1418→本跡	SK2607
1418	D 3b4	楕 円 形	1.42×1.15	1.58×1.42	20	内傾	平坦	2	人為	深鉢	本跡→SK1417	SK2608
1420	B 3i6	不整楕円形	0.55×0.45	—	24	直立	平坦	—	自然			SK2616

番号	位置	開口部 平面形	規 模			壁面	底面	ドット	覆土	主な出土遺物	重複関係 (旧→新)	発掘 番号
			開口部(長径×短径m)	底部(長径×短径m)	深さ(cm)							
1421	C3c8	楕円形	2.70×2.35	—	60	外傾	平坦	3	人為	深鉢		SK2620
1422	C3c7	楕円形	1.15×1.01	—	90	外傾	平坦	—	自然			SK2621
1423	D3b2	楕円形	1.92×[1.45]	—	46	外傾	平坦	—	自然	双門土器		SK2624
1424	D3c2	円形	[0.91]	—	42	直立	平坦	—	—			SK2625
1425	D3a2	円形	0.66	—	50	外傾	平坦	—	自然		SI166,SK1402→本跡	SK2626
1426	D3a3	楕円形	[2.45]×2.02	—	40	外傾	平坦	3	人為	深鉢	SI169→本跡→SI170	SK2656
1427	D3a3	楕円形	0.98×0.69	—	115	直立	平坦	—	自然		SK1426→本跡	SK2657
1428	D3b3	円形	1.18	—	20	外傾	平坦	—	不明			SK2658
1429	C3b4	楕円形	0.54×0.32	—	15	外傾	平坦	—	不明		本跡→第190号土坑墓	SK2669
1430	C3i3	楕円形	[0.98]×0.76	[1.48]	83	内傾	平坦	—	人為		本跡→SE10	SK2681
1431	C3i3	円形	[1.80]×1.75	2.02×1.95	45	内傾	平坦	4	自然	深鉢	本跡→SK1432	SK2684
1432	C3j3	円形	[2.45]	—	44	直立	平坦	3	自然	深鉢, 敲石, 土器片円盤	SK1431・1433→本跡	SK2686
1433	C3j2	楕円形	[1.62]×0.98	—	25	外傾	平坦	—	自然	深鉢	本跡→SK1432,P466	SK2687
1434	D3c2	楕円形	0.77×0.61	0.65	不明	内傾	丸底	—	人為		本跡→SK1386	SK2694
1435	C3h4	円形	[2.05]	2.17×2.04	37	内傾	平坦	—	人為	深鉢	本跡→SI170,SK1436-1437,P701	SK2695
1436	C3i4	楕円形	1.96×[1.52]	2.38×1.85	48	内傾	平坦	—	人為		SK1435→本跡→SI170	SK2696
1437	C3i3	楕円形	[2.05×1.27]	—	20	外傾	平坦	—	自然		SI170→本跡	SK2697
1438	C3h4	円形	[2.08]	[2.35]×2.20	45	内傾	平坦	—	自然	深鉢, 剥片	本跡→SI170	SK2701
1439	C3i4	楕円形	[1.18]×0.98	2.20×1.70	75	内傾	平坦	1	人為	深鉢	本跡→SI170,P470	SK2702
1440	C3g4	不整楕円形	[2.35]×1.95	[2.42]×1.78	61	内傾	平坦	—	人為	深鉢, 磨石	SK1441→本跡	SK2709
1441	C3g4	楕円形	1.92×[1.35]	—	38	外傾	平坦	3	不明	深鉢, 石鏝	本跡→SI170,SK1440	SK2710
1442	C3g5	楕円形	[2.02]×1.55	1.97×1.78	74	内傾	平坦	3	人為 自然	深鉢		SK2711
1443	C3g5	楕円形	2.25×1.69	—	72	直立	平坦	4	人為			SK2712
1444	C3g4	楕円形	[1.52×1.35]	[1.73×1.40]	57	内傾	平坦	—	人為		SK1445→本跡→SI170	SK2713
1445	C3g4	不整楕円形	[2.45]×2.05	2.82×2.60	97	内傾	平坦	—	人為	深鉢, ミニチュア土器, 敲石, 凹石	本跡→SI170,SK1444	SK2714
1446	C3g5	楕円形	1.07×[0.94]	—	58	直立	平坦	—	自然			SK2715
1447	C3g5	楕円形	1.13×0.77	—	不明	不明	不明	—	—			SK2716
1448	C3g5	楕円形	0.64×0.43	—	不明	不明	不明	—	—			SK2717
1449	C3i3	楕円形	[2.18]×1.95	2.38×2.20	102	内傾	平坦	3	自然	深鉢, 鉢	SK1450→本跡	SK2723
1450	C3i4	楕円形	[2.90]×1.72	—	45	外傾	平坦	1	自然		本跡→SK1449・1539	SK2728
1451	C3e8	楕円形	2.35×2.12	—	51	外傾	平坦	4	自然		本跡→SK1452	SK2729
1452	C3d8	楕円形	3.25×2.65	—	45	直立	平坦	5	人為	磨石	SK1453→本跡	SK2730
1453	C3d8	円形	2.03	—	60	外傾	平坦	2	自然		本跡→SK1452	SK2731
1454	C3h6	楕円形	2.22×1.98	2.37×1.87	43	内傾	平坦	—	自然	磨製石斧, 凹石		SK2734
1455	C3h6	楕円形	[1.98]×1.27	2.33×1.97	84	内傾	平坦	1	人為	深鉢, 器台	本跡→SK1455	SK2735
1456	C3h4	楕円形	0.91×0.76	—	34	直立	平坦	—	自然		本跡→SI170,SK1435	SK2736
1457	C3g5	楕円形	0.98×0.82	—	53	直立	平坦	—	自然		P479→本跡	SK2737
1458	C3f5	楕円形	[2.52×2.32]	—	75	外傾	平坦	3	人為	石鏝	SK1459→本跡	SK2738
1459	C3g6	楕円形	[2.15]×1.85	2.12×2.05	106	内傾	平坦	—	自然	深鉢, 石皿	本跡→SK1458・1460・1474	SK2739
1460	C3g6	楕円形	[2.62×1.92]	[2.08×1.82]	56	内傾	平坦	2	人為	深鉢	SK1459・1465→本跡→SK1474	SK2740
1461	C3d0	楕円形	[1.72]×1.52	—	18	外傾	平坦	1	不明		本跡→SK1462,P472	SK2747
1462	C3e9	円形	[2.45]	—	50	外傾	平坦	8	人為		SK1461・1464→本跡→SK1466	SK2748
1463	C3e9	楕円形	[2.35]×1.95	—	43	直立	平坦	—	人為		SK1464→本跡	SK2749
1464	C3e9	楕円形	2.42×2.18	2.25×1.98	60	内傾	平坦	6	人為		本跡→SK1462・1463	SK2750
1465	C3g6	楕円形	[1.40×1.02]	1.50×1.28	88	内傾	平坦	1	自然	深鉢	SK1455→本跡→SK1460	SK2751
1466	C3d9	不整形	0.95×[0.75]	0.75×[0.72]	19	外傾	平坦	—	自然		SK1462→本跡	SK2752

番号	位置	開口部 平面形	規 模			壁面	底面	ピット	覆土	主な出土遺物	重複関係 (旧→新)	発掘 番号
			開口部(長径×短径m)	底部(長径×短径m)	高さ(cm)							
1467	C3e6	楕円形	3.18×2.70	2.94×2.60	85	外傾	平坦	7	自然	深鉢, 土器片円盤	本跡→T233・F16	SK2753
1468	C3e8	円形	0.95	0.82	38	外傾	平坦	—	不明			SK2755
1469	C3g0	楕円形	2.80×2.53	2.71×2.66	45	内傾	平坦	6	自然			SK2757
1470	C3f0	円形	2.10	—	26	緩斜	平坦	3	自然		本跡→SK1471	SK2758
1471	C3f0	円形	2.66×2.54	2.42×2.30	45	直立	平坦	9	自然	深鉢	SK1470・1472→本跡→P486	SK2759
1472	C3f9	不整形	2.11×(0.77)	—	36	外傾	平坦	—	自然		本跡→SK1471	SK2760
1473	C3e0	円形	[2.20]	[2.45]	63	内傾	平坦	2	自然	鉢, 深鉢		SK2761
1474	C3g6	不整形	[1.59×0.99]	—	130	外傾	平坦	—	不明			SK2762
1475	C3e8	不明	—	—	45	外傾	平坦	—	不明			SK2763
1476	D3b2	楕円形	2.22×1.92	—	30	直立	平坦	3	自然	深鉢		SK2764
1477	C4f1	楕円形	1.56×[1.30]	—	18	外傾	平坦	1	自然		SK1478→本跡	SK2765
1478	C4f1	楕円形	2.51×2.21	—	30	外傾	平坦	1	自然	深鉢	本跡→SK1477・1491	SK2766
1479	C3g0	円形	1.94	—	24	直立	平坦	—	自然	深鉢	本跡→SK1482	SK2767
1480	C3g9	楕円形	[2.26]×1.98	—	42	内傾	平坦	2	自然	深鉢	SK1481→本跡→SK1482	SK2768
1481	C3g9	円形	[2.10]	—	30	外傾	平坦	—	自然		本跡→SK1480・1482	SK2769
1482	C3g9	円形	[2.12]	—	30	内傾	平坦	—	自然		SK1479・1481→本跡	SK2770
1483	C3g9	円形	[1.64]	—	27	外傾	平坦	1	不明			SK2771
1484	C3h0	楕円形	1.89×1.23	—	25	外傾	平坦	2	自然		本跡→SK1485	SK2772
1485	C3h0	楕円形	2.13×1.92	—	33	外傾	平坦	2	自然		SK1484→本跡	SK2773
1486	C3d7	楕円形	(1.30)×1.27	—	29	外傾	平坦	—	自然			SK2775
1487	C4g1	楕円形	[2.26]×1.96	2.24×2.10	52	内傾	平坦	—	自然	深鉢, 敲石, 石鏃	SK1493→本跡	SK2776
1488	C3g0	円形	2.03	—	25	外傾	平坦	1	自然			SK2777
1489	C3f9	楕円形	1.76×[1.40]	—	27	外傾	平坦	—	自然			SK2778
1490	C3f9	楕円形	[2.09×1.75]	—	26	外傾	平坦	1	自然			SK2779
1491	C4f1	不明	(1.25)×(0.54)	—	43	内傾	平坦	—	自然		SK1478→本跡	SK2780
1492	C4g1	楕円形	[1.93]	—	75	内傾	平坦	—	自然		SK1493→本跡	SK2781
1493	C4g1	楕円形	1.78×1.52	1.88×1.48	37	内傾	平坦	—	自然	深鉢, 打製石斧	本跡→SK1487・1492, P484	SK2782
1494	C4h1	楕円形	1.35×(0.95)	1.65×1.30	45	内傾	平坦	1	自然		SK1501→本跡→SK1542	SK2783
1495	C3g7	楕円形	2.88×2.32	2.88×2.30	88	内傾	平坦	6	自然	深鉢	SK1496→本跡	SK2784
1496	C3g7	楕円形	2.70×(1.32)	—	38	直立	平坦	3	自然		SK1497→本跡→SK1495	SK2785
1497	C3f8	楕円形	2.04×1.86	—	54	直立	平坦	1	自然		SK1498→本跡→SK1496	SK2786
1498	C3f8	不整形	[1.62]	—	36	不明	平坦	—	自然		本跡→SK1497・1499	SK2787
1499	C3f8	円形	[2.22]	—	46	外傾	平坦	3	自然		SK1498→本跡→SK1500	SK2788
1500	C3f8	円形	[2.42]	—	40	外傾	平坦	5	自然		SK1499・1508・1548・1557・1558→本跡	SK2789
1501	C3h0	円形	1.34	—	67	直立	平坦	—	自然		SK1494→本跡	SK2790
1502	C3h3	円形	[1.86]	—	16	外傾	平坦	—	自然		本跡→SI170	SK2791
1503	C3f7	楕円形	3.20×2.39	—	55	緩斜	平坦	8	自然		SK1531→本跡→SK1514, P489	SK2792
1504	C3f5	円形	0.70	—	48	直立	平坦	—	不明		SK1458→本跡	SK2793
1505	C4i1	楕円形	[2.03]×1.75	—	30	外傾	平坦	4	自然			SK2794
1506	C3h0	楕円形	1.50×1.35	2.00×1.67	62	内傾	平坦	—	自然	深鉢	SK1490→本跡→SK1507・1549	SK2795
1507	C3i0	不明	(1.52×1.24)	—	30	内傾	平坦	—	自然		SK1485・1506→本跡→SK1549・1550	SK2797
1508	C3g9	円形	[2.68]	—	40	外傾	平坦	5	不明		本跡→SK1500	SK2798
1509	C3i0	楕円形	1.61×—	—	38	緩斜	平坦	2	自然		SK1489→本跡	SK2799
1510	C3i0	円形	[1.35]	—	46	内傾	平坦	—	自然			SK2800
1511	C3i5	楕円形	2.20×[1.60]	2.50×[1.94]	57	内傾	平坦	—	自然	深鉢, 磨製石斧	SK1512→本跡→SK1518	SK2801
1512	C3i6	円形	[1.12]	2.26×2.24	72	内傾	平坦	—	人為	深鉢, 鉢	本跡→SK1511・1518	SK2802

番号	位置	開口部 平面形	規 模			壁面	底面	ジット	覆土	主な出土遺物	重 複 関 係 (旧→新)	発 掘 番 号
			開口部(長径×短径m)	底部(長径×短径m)	深さ(cm)							
1513	C3e7	円形	[1.26]	—	不明	不明	不明	—	不明	T233→本跡	SK2803	
1514	C3f7	円形	2.36×2.20	—	64	直立	平坦	4	自然	深鉢, 土製耳飾	SK1503・1538→本跡→SE11	SK2804
1515	C3h8	円形	1.72	1.86×1.82	28	内傾	平坦	—	人為		本跡→SI174	SK2805
1516	C3h8	円形	1.26	—	115	直立	平坦	—	自然		SK1522・1523, SI175→本跡→SI174	SK2806
1517	C3f9	円形	0.94	—	不明	不明	不明	—	不明			SK2807
1518	C3j6	不整形	2.34×1.60	—	24	緩斜	平坦	1	自然		SK1511・1512・1592→本跡	SK2808
1519	C3i9	楕円形	1.70×1.50	1.80×1.62	40	内傾	平坦	—	自然		本跡→SI177	SK2809
1520	C3h9	楕円形	[1.20×0.90]	1.72×1.64	64	内傾	平坦	—	自然		本跡→SK1521	SK2810
1521	C3h9	楕円形	2.24×[1.95]	—	36	内傾	平坦	1	自然		SK1520→本跡→SI175	SK2811
1522	C3h8	不明	不明	—	16	外傾	平坦	—	自然		SK1523→本跡→SI175, SK1516	SK2812
1523	C3h8	円形	[0.64]	—	30	直立	平坦	—	自然		本跡→SI175, SK1512・1516	SK2813
1524	C3i9	楕円形	2.00×1.60	2.50×2.20	60	内傾	平坦	—	人為		本跡→SI177	SK2814
1525	C3j9	円形	1.04	—	16	外傾	平坦	1	自然		本跡→SI177	SK2815
1526	C3j9	不整楕円形	2.18×1.80	—	30	外傾	平坦	—	自然	深鉢	SK1527→本跡→SI177	SK2816
1527	C3j9	円形	1.66×[1.56]	—	30	内傾	平坦	—	自然		本跡→SI177, SK1526	SK2817
1528	C3j9	楕円形	2.38×1.96	—	54	内傾	平坦	6	自然		本跡→SI177	SK2818
1529	C3f8	円形	1.48	—	70	外傾	平坦	—	自然		SK1531・1583→本跡→SK1560	SK2819
1530	C3f8	円形	1.06	—	32	外傾	平坦	1	自然		SK1531→本跡	SK2820
1531	C3f8	楕円形	2.09×[1.52]	—	28	外傾	平坦	—	自然		本跡→SK1529・1530	SK2821
1532	C3d9	円形	1.03	—	23	外傾	平坦	—	自然			SK2822
1533	C3d9	楕円形	0.97×0.87	—	23	外傾	平坦	—	自然			SK2823
1534	C3h8	円形	[0.86]	—	100	内傾	平坦	—	不明			SK2825
1535	C3h8	不明	不明	—	不明	内傾	不明	—	不明			SK2826
1536	C3i6	楕円形	2.45×[1.65]	2.62×1.96	92	内傾	平坦	—	自然	深鉢	SK1537→本跡	SK2827
1537	C3i6	楕円形	[0.94×0.82]	2.70×2.20	128	内傾	平坦	—	自然	深鉢, 土製耳飾, 石錐	本跡→SK1536	SK2828
1538	C3f6	不整円形	2.68	—	46	外傾	平坦	1	自然		本跡→SE11, P491, SK1514・1599	SK2829
1539	C3j4	円形	2.52	2.70×2.34	48	内傾	平坦	3	自然	深鉢	SK1540→本跡	SK2830
1540	C3i4	円形	[2.36]	—	42	—	平坦	—	自然		本跡→SK1539・1541, F6	SK2831
1541	C3i5	円形	2.34	—	43	内傾	平坦	—	自然	深鉢	SK1540・1676→本跡→P702	SK2832
1542	C4h1	不明	不明	2.09×2.04	91	内傾	平坦	—	自然		SK1494→本跡→SK1543	SK2833
1543	C4h1	円形	1.67	—	67	直立	平坦	—	自然		SK1542・1544→本跡	SK2834
1544	C4g1	不明	不明	—	15	内傾	平坦	1	自然		本跡→SK1543	SK2835
1545	C4h1	円形	[2.46]	—	34	外傾	平坦	3	自然		本跡→SI182, SK1546	SK2836
1546	C4i1	円形	1.42×1.28	—	60	外傾	平坦	1	自然		SK1545→本跡	SK2837
1547	C3f7	円形	[0.82]	—	55	外傾	平坦	—	自然			SK2838
1548	C3f9	楕円形	—×2.22	—	31	外傾	平坦	—	自然		SK1551→本跡	SK2839
1549	C3h0	楕円形	1.24×(0.68)	—	29	内傾	平坦	—	不明			SK2840
1550	C3i0	楕円形	0.68×0.57	0.64×0.61	48	内傾	平坦	—	自然	深鉢		SK2841
1551	C3f9	楕円形	2.24×1.94	—	30	外傾	平坦	3	自然		SI171→本跡→SK1548, P492	SK2842
1552	C3j4	不明	不明	—	—	外傾	不明	—	不明			SK2843
1553	D2f8	円形	1.46	—	44	外傾	平坦	—	自然		本跡→SK1554	SK2844
1554	D2f8	円形	[1.04]	—	15	直立	平坦	—	自然		SK1553→本跡	SK2845
1555	C3g8	不明	不明	—	24	直立	平坦	—	自然		本跡→SI175, SK1556	SK2846
1556	C3g9	楕円形	2.28×2.02	—	47	外傾	平坦	2	自然		SK1555→本跡	SK2847
1557	C3g8	円形	[2.27]	—	34	外傾	平坦	3	自然			SK2848
1558	C3g8	不明	不明	—	20	外傾	平坦	—	自然			SK2849

番号	位置	開口部 平面形	規 模			壁面	底面	ピット	覆土	主な出土遺物	重 複 関 係 (旧→新)	発 掘 番 号
			開口部(長径×短径m)	底部(長径×短径m)	深さ(cm)							
1559	D 2g9	円 形	1.67	1.75	99	内傾	平坦	1	自然	深鉢, 鉢		SK2850
1560	C 3f8	円 形	1.16	—	73	直立	平坦	—	自然			SK2851
1561	C 3f9	不 整 形	0.91×0.74	—	74	外傾	平坦	—	自然			SK2852
1562	D 2b6	楕 円 形	0.84×0.70	—	8	外傾	平坦	—	自然		本跡→SK1563	SK2853
1563	D 2b6	円 形	0.84	—	10	緩斜	平坦	—	自然		SK1562→本跡	SK2854
1564	D 2b7	楕 円 形	0.96×0.84	—	7	外傾	平坦	—	自然			SK2855
1565	D 2b7	楕 円 形	1.12×0.86	—	48	外傾	凹凸	—	人為			SK2856
1566	D 2b7	円 形	0.56	—	7	外傾	平坦	—	自然			SK2857
1567	D 2b7	円 形	0.88	—	8	直立	凹凸	—	自然			SK2858
1568	D 2b6	楕 円 形	0.68×[0.56]	—	10	緩斜	平坦	—	自然		本跡→SK1569	SK2859
1569	D 2b7	楕 円 形	0.78×0.64	—	8	外傾	平坦	—	自然		SK1568→本跡	SK2860
1570	D 2b8	円 形	0.64	—	12	外傾	平坦	—	自然			SK2861
1571	D 2b7	不 整 円 形	1.02	—	16	外傾	平坦	—	自然			SK2862
1572	D 2a8	楕 円 形	[0.86]×0.76	—	14	外傾	平坦	—	自然		SK1573→本跡	SK2863
1573	D 2a8	円 形	[0.54]	—	12	外傾	平坦	—	自然		本跡→SK1572	SK2864
1574	D 2a8	円 形	0.85	—	23	外傾	平坦	—	自然			SK2865
1575	D 2c7	円 形	0.60	—	40	直立	皿状	—	自然			SK2866
1576	D 2c7	円 形	0.86	—	66	直立	平坦	—	自然			SK2867
1577	D 2b9	不 整 円 形	2.22	—	20	外傾	平坦	2	自然			SK2868
1578	D 2b9	円 形	0.50	—	8	外傾	平坦	1	自然		本跡→SK1579	SK2869
1579	D 2b9	楕 円 形	0.98×0.84	—	32	外傾	平坦	—	自然		SK1578→本跡	SK2870
1580	D 3g7	楕 円 形	1.43×1.15	—	30	外傾	平坦	—	自然			SK2871
1581	D 2g0	楕 円 形	2.41×2.16	—	34	外傾	平坦	3	自然	深鉢	本跡→SI181	SK2872
1582	D 2e9	楕 円 形	0.80×0.72	—	60	外傾	平坦	—	自然			SK2873
1583	C 3f8	不 整 円 形	[0.81]	—	29	直立	平坦	—	不明			SK2874
1584	C 3h6	不 明	不 明	—	52	不明	平坦	—	不明			SK2879
1585	D 3j4	円 形	2.32	—	50	直立	平坦	1	自然			SK2880
1586	D 2e8	楕 円 形	0.91×0.79	—	27	外傾	平坦	—	自然			SK2881
1587	D 2e9	円 形	2.16	2.20×2.14	41	内傾	平坦	—	自然			SK2882
1588	D 2d9	円 形	1.16	—	50	直立	平坦	—	自然		SK1589→本跡	SK2883
1589	D 2d9	楕 円 形	[2.41]×2.18	—	47	直立	平坦	5	自然		本跡→SK1588	SK2884
1590	D 2d9	楕 円 形	2.50×1.98	—	22	外傾	平坦	3	自然			SK2885
1591	C 3e9	円 形	[2.20]×2.10	—	45	外傾	平坦	8	自然			SK2887
1592	C 3j6	円 形	0.96	—	36	直立	平坦	—	自然		本跡→SK1518	SK2888
1593	D 2d8	楕 円 形	1.29×1.08	—	18	外傾	平坦	—	自然			SK2889
1594	D 2f0	不 明	0.80×—	—	8	緩斜	平坦	—	自然			SK2891
1595	D 2f0	楕 円 形	[1.68]×1.42	—	31	外傾	平坦	—	自然			SK2892
1596	D 2f0	楕 円 形	—×0.70	—	12	外傾	平坦	—	自然			SK2893
1597	D 2f0	不 明	—×1.05	—	38	外傾	平坦	1	自然			SK2894A
1598	D 2f0	不 明	—×[0.69]	—	不明	不明	不明	—	不明			SK2894A
1599	C 3f6	不 明	不 明	—	20	緩斜	平坦	—	不明		本跡→SE11	SK2895
1600	C 3j6	楕 円 形	[1.14]×1.03	1.78×1.50	90	内傾	平坦	—	自然	深鉢	本跡→SK1601, P495	SK2896
1601	C 3j7	楕 円 形	2.56×2.00	—	65	内傾	平坦	—	自然		SK1600→本跡	SK2897
1602	D 2d0	不 明	[1.68]	—	15	外傾	平坦	—	自然			SK2898
1603	D 3d1	円 形	2.45×[2.37]	—	25	外傾	平坦	3	自然			SK2899
1604	D 3j5	円 形	2.29	2.56×2.01	85	内傾	平坦	2	自然	深鉢, 鉢, 打製石斧, 磨石	本跡→SK1605	SK2900

番号	位置	開口部 平面形	規 模			壁面	底面	ピット	覆土	主な出土遺物	重 複 関 係 (旧→新)	発 掘 番 号
			開口部(長径×短径m)	底部(長径×短径m)	深さ(cm)							
1605	D 3j5	楕円形	[1.41]×1.21	—	32	外傾	平坦	—	自然		SK1604→本跡	SK2901
1606	D 3f2	円形	2.12×2.00	—	25	外傾	平坦	1	自然			SK2902
1607	D 3g2	円形	[2.05]×2.04	—	73	緩斜	皿状	—	自然		SK1608→本跡	SK2903
1608	D 3g2	円形	2.36×2.20	2.30×2.00	110	内傾	平坦	8	人為	深鉢, 鉢, 磨製石斧, 石鏃	SK1627→本跡→SK1607	SK2904
1609	D 2f8	円形	2.14×[1.95]	—	46	内傾	平坦	3	自然			SK2905
1610	D 2h8	円形	0.89	—	49	外傾	平坦	—	自然		本跡→SI180	SK2906
1611	D 3d2	楕円形	2.30×2.02	—	34	内傾	平坦	1	自然		本跡→SK1612	SK2907
1612	D 3d2	楕円形	1.96×1.75	—	78	直立	平坦	2	自然	深鉢, 鉢	SK1611→本跡	SK2908
1613	D 3d2	楕円形	1.34×[0.93]	—	21	外傾	平坦	—	自然		本跡→SK1614	SK2909
1614	D 3d3	楕円形	2.13×1.72	2.01×1.85	44	内傾	平坦	—	自然	深鉢	SK1613→本跡→SK1659	SK2910
1615	D 3i5	楕円形	1.86×1.68	—	30	外傾	平坦	2	自然			SK2911
1616	D 3h3	円形	2.19	—	40	外傾	平坦	1	自然		SK1617・1620→本跡	SK2912
1617	D 3h3	楕円形	1.29×[1.05]	—	23	外傾	平坦	—	自然		SK1618→本跡→SK1616	SK2913
1618	D 3h3	円形	[1.58]	—	8	緩斜	平坦	—	自然		本跡→SK1617	SK2914
1619	D 3i3	円形	1.78	—	15	緩斜	平坦	1	自然		本跡→SK1620, SI212	SK2915
1620	D 3h3	不明	1.65×(0.76)	—	26	外傾	平坦	—	自然		SK1619→本跡→SK1616	SK2916
1621	D 3e3	不明	不明	—	23	外傾	平坦	—	自然		本跡→SK1622	SK2917
1622	D 3e3	円形	[2.83]	—	37	外傾	平坦	3	自然	深鉢	SK1621・1623・1659→本跡	SK2918
1623	D 3e3	円形	1.98	2.29×2.11	49	内傾	平坦	1	自然	深鉢	本跡→SK1622	SK2919
1624	D 3e3	楕円形	1.42×1.17	—	29	外傾	平坦	3	自然			SK2920
1625	D 2g0	楕円形	1.05×0.92	—	49	直立	平坦	—	自然			SK2921
1626	D 3f3	円形	1.35	—	9	緩斜	平坦	2	自然			SK2922
1627	D 3g3	円形	[1.53]	[2.10]×2.08	62	内傾	平坦	—	自然	深鉢, 浅鉢, 石皿	本跡→SK1608	SK2923
1628	D 3i4	円形	2.12×2.10	—	30	緩斜	平坦	1	自然		本跡→SI212, SK1629・1870, P524	SK2924
1629	D 3j4	楕円形	1.40×1.29	—	102	段状	平坦	—	自然		本跡→SI212, SK1628, P525	SK2925
1632	E 3a6	楕円形	1.46×0.95	—	26	外傾	平坦	—	自然			SK2928
1633	D 2g9	楕円形	1.82×1.56	2.00×1.88	115	内傾	平坦	—	自然	深鉢, 鉢		SK2929
1634	D 3d3	楕円形	(1.05)×1.03	—	32	不明	不明	—	自然		本跡→SK1635・1909	SK2930
1635	D 3d3	楕円形	(1.85)×1.18	—	63	外傾	平坦	—	自然		SK1634→本跡→SK1636	SK2931
1636	D 3d3	楕円形	2.46×2.00	2.50×2.10	54	内傾	平坦	1	自然	深鉢	SK1635・1637・1638→本跡	SK2932
1637	D 3e4	楕円形	2.27×[1.90]	—	47	直立	平坦	4	自然		SK1640→本跡→SK1636	SK2933
1638	D 3d4	不明	不明	—	20	緩斜	平坦	—	自然		SK1639→本跡→SK1636	SK2934
1639	D 3d3	楕円形	1.75×1.38	2.00×1.92	68	内傾	平坦	—	自然		本跡→SK1638	SK2935
1640	D 3e4	楕円形	2.26×2.00	—	19	緩斜	平坦	2	自然		本跡→SK1637	SK2936
1641	D 3f3	円形	1.82	1.90	36	内傾	平坦	—	自然	深鉢, 甕		SK2937
1642	D 3a5	円形	1.75	—	60	直立	平坦	3	自然	深鉢, 鉢	SK1849→本跡	SK2938
1643	D 3b5	不明	不明	—	22	緩斜	平坦	1	自然		本跡→SK1644・1849	SK2939
1644	D 3b5	楕円形	0.86×0.68	—	130	内傾	平坦	—	自然		SK1643→本跡	SK2940
1645	D 3b4	不明	不明	—	38	外傾	凹凸	1	自然		本跡→SK1646	SK2941
1646	D 3b4	不整形	[1.51]	—	70	直立	平坦	4	自然	浅鉢, 敲石	SK1645・1647→本跡	SK2942
1647	D 3b5	不明	不明	—	32	不明	平坦	—	自然		SK1648→本跡→SK1646	SK2943
1648	D 3c5	不明	不明	—	45	直立	平坦	1	自然		本跡→SK1647	SK2944
1649	D 3c4	円形	[1.87]	—	42	外傾	平坦	1	自然	深鉢	SK1647・1650・1651→本跡	SK2945
1650	D 3c4	不明	不明	—	13	外傾	平坦	1	自然		SK1651→本跡→SK1649	SK2946A
1651	D 3c4	不明	不明	—	9	外傾	平坦	—	自然		本跡→SK1650・1649	SK2946B
1652	C 3i5	楕円形	1.45×1.03	—	20	緩斜	平坦	—	自然			SK2947



番号	位置	開口部 平面形	規 模			壁面	底面	ピット	覆土	主な出土遺物	重 複 関 係 (旧→新)	発 掘 番 号
			開口部(長径×短径m)	底部(長径×短径m)	深さ(cm)							
1653	C 3i5	楕 円 形	1.67×1.34	2.21×1.74	68	内傾	平坦	—	自然		本跡→P499	SK2948
1654	D 3b5	円 形	1.60	—	34	不明	平坦	2	不明			SK2949
1655	D 3b5	不 明	不 明	—	36	外傾	平坦	—	自然	SK1643→本跡→SK1647		SK2950
1656	D 3b4	楕 円 形	1.18×1.03	—	14	緩斜	平坦	—	自然	SK1664→本跡		SK2951
1657	D 3b5	不 明	(0.50)×0.54	—	19	外傾	平坦	—	自然	本跡→SK1692		SK2952
1658	D 3c1	円 形	1.84	2.36×2.14	36	内傾	平坦	—	自然			SK2953
1659	D 3d3	楕 円 形	[2.35]×[1.52]	—	12	外傾	平坦	—	自然	SK1614→本跡→SK1622		SK2954
1660	D 3c6	楕 円 形	1.90×1.74	—	16	外傾	平坦	3	自然			SK2955
1661	D 3c6	楕 円 形	[1.10]×[0.66]	—	32	外傾	平坦	—	自然			SK2956
1662	D 3c6	円 形	2.35	—	32	直立	平坦	4	自然	深鉢, 土器片円盤	本跡→P691	SK2957
1663	C 3h4	円 形	0.78	2.68×2.32	92	内傾	平坦	—	人為	深鉢, 磨石		SK2958
1664	D 3b5	円 形	[0.84]	—	15	外傾	平坦	—	自然		本跡→SK1656, P497	SK2959
1665	C 3j4	円 形	1.00	—	22	外傾	平坦	—	自然			SK2960
1666	C 3h7	円 形	[0.80]	2.75×2.64	84	内傾	平坦	—	自然	深鉢		SK2961
1667	D 3a3	楕 円 形	0.94×0.74	—	不明	不明	不明	—	不明			SK2962
1668	D 3b2	楕 円 形	0.86×0.65	—	不明	不明	不明	—	不明			SK2963
1669	D 3c4	不 明	不 明	—	32	外傾	平坦	3	自然		SK1671→本跡→SI246	SK2964
1670	D 3c5	円 形	0.60	—	28	外傾	平坦	—	不明			SK2965
1671	D 3c4	楕 円 形	2.02×1.62	—	52	外傾	平坦	2	自然	深鉢, 器台	SK1669→本跡→SI246	SK2966
1672	D 3e4	楕 円 形	[2.38]×1.88	[2.54]×1.98	34	内傾	平坦	—	自然	深鉢	SK1681→本跡→SK1673	SK2967
1673	D 3e5	楕 円 形	1.61×1.46	1.90×1.45	100	内傾	平坦	—	自然	深鉢	SK1672→本跡	SK2968
1674	D 3i5	円 形	0.90	—	18	緩斜	平坦	—	自然		本跡→SK1675	SK2969
1675	D 3i5	楕 円 形	1.90×1.63	—	18	外傾	平坦	4	自然		SK1674→本跡	SK2970
1676	C 3j5	円 形	1.12	2.74×2.43	85	内傾	平坦	—	自然	深鉢		SK2971
1677	C 3i6	楕 円 形	2.20×1.78	—	20	外傾	平坦	4	自然			SK2972
1678	C 3h7	楕 円 形	2.02×1.82	2.30×1.94	72	内傾	平坦	—	自然			SK2973
1679	C 4i2	円 形	1.30	—	47	外傾	平坦	—	自然			SK2974
1680	C 4i2	円 形	[1.86]	—	40	直立	平坦	3	自然	深鉢	本跡→SI173・182, SK1839	SK2975
1681	D 3d4	円 形	[1.72]	[2.16]	56	内傾	平坦	1	自然	深鉢	本跡→SK1672・1682	SK2976
1682	D 3d4	楕 円 形	1.90×1.60	2.07×1.94	108	内傾	平坦	—	自然	深鉢, 磨製石斧	SK1681→本跡	SK2977
1683	D 3e4	円 形	1.72	1.76	30	内傾	平坦	4	自然			SK2978
1684	D 3f4	円 形	1.18	—	12	外傾	平坦	1	自然			SK2979
1685	D 3f4	円 形	1.88	2.30	52	内傾	平坦	—	自然	深鉢, 鉢		SK2980
1686	C 3j5	不 明	不 明	—	不明	不明	不明	—	不明			SK2981
1687	C 3j6	円 形	1.26	2.22	78	内傾	平坦	—	自然	深鉢, 浅鉢	本跡→SI178・SK1686	SK2982
1688	C 3j8	円 形	1.48	1.38	20	内傾	平坦	—	自然			SK2983
1689	C 3i8	楕 円 形	1.10×0.96	1.36	38	内傾	平坦	—	自然			SK2984
1690	C 3h9	楕 円 形	2.48×2.20	—	41	内傾	平坦	—	自然	深鉢, 磨石	本跡→SI175, SK1522	SK2985
1691	C 3g8	円 形	0.81	—	60	直立	平坦	—	自然		本跡→SI175, SK1557	SK2986
1692	D 3b5	不 明	不 明	—	27	外傾	平坦	1	不明		本跡→SK1655	SK2987
1693	D 3a9	円 形	[1.49]	—	40	外傾	平坦	—	自然			SK2988
1694	D 3h4	楕 円 形	1.14×0.99	—	30	外傾	平坦	—	自然			SK2990
1695	D 3i7	円 形	1.34	—	48	外傾	平坦	—	自然			SK2991
1696	C 3j0	不 明	不 明	—	39	直立	平坦	—	自然		本跡→SK1697	SK2992
1697	C 3j0	円 形	2.13	—	57	内傾	平坦	3	自然	深鉢, 鉢, 磨石	SK1996-1699→本跡→SK1698, P571	SK2993
1698	C 3j0	楕 円 形	0.66×0.59	—	96	直立	平坦	—	自然	深鉢	SK1697→本跡	SK2994

番号	位置	開口部 平面形	規 模			壁面	底面	ピット	覆土	主な出土遺物	重複関係 (旧→新)	発掘 番 号
			開口部(長径×短径m)	底部(長径×短径m)	深さ(cm)							
1699	C 3j0	不 明	不 明	—	43	外傾	平坦	2	自然		SK170 →本跡 →SK1697	SK2995
1700	C 4j1	楕 円 形	2.35×1.70	—	46	外傾	平坦	3	自然		本跡→SK1699, P572	SK2996
1701	C 3i9	円 形	1.66	—	40	外傾	平坦	2	自然	深鉢	本跡→S1175	SK2997
1702	C 3h7	楕 円 形	1.13×0.98	2.20×1.16	74	内傾	平坦	—	自然			SK2998
1703	D 3a4	円 形	[1.20]	1.56×1.44	34	内傾	平坦	—	自然		本跡→P510	SK2999
1704	F 3e8	不 整 形	2.75×2.60	2.62×2.29	72	内傾	平坦	—	自然			SK20001
1705	F 3d8	円 形	1.62	—	90	直立	平坦	—	自然			SK20002
1706	F 3d8	楕 円 形	1.59×1.28	—	29	外傾	平坦	—	自然			SK20003
1707	F 3d8	楕 円 形	1.37×1.16	—	30	外傾	平坦	—	自然			SK20004
1708	F 4b2	楕 円 形	2.16×1.96	1.73×1.64	111	直立	平坦	—	不明			SK20005
1709	F 4a1	円 形	1.84	—	71	外傾	平坦	1	自然			SK20007
1710	F 5b5	円 形	1.12	—	85	外傾	段状	—	自然			SK20008
1711	F 3b5	楕 円 形	1.08×0.94	—	18	外傾	平坦	—	自然			SK20009
1712	F 3b5	楕 円 形	1.14×0.95	—	41	外傾	段状	1	自然			SK20010
1713	F 3c4	楕 円 形	1.40×1.09	—	41	緩斜	平坦	—	自然			SK20011
1715	F 3b3	円 形	1.51	—	56	外傾	平坦	—	自然			SK20013
1716	F 3a4	円 形	0.87	—	103	外傾	平坦	—	自然			SK20014
1717	F 3a4	楕 円 形	1.72×1.46	—	74	外傾	平坦	—	自然			SK20015
1718	F 3a3	円 形	1.10	—	48	外傾	平坦	—	自然			SK20016
1719	F 3a3	円 形	1.75	—	50	外傾	平坦	—	自然			SK20017
1720	F 3d7	円 形	1.48	—	28	緩斜	平坦	—	自然			SK20018
1721	F 3d8	円 形	1.26	—	140	外傾	平坦	—	自然			SK20019
1723	F 3b9	円 形	1.60	—	64	外傾	平坦	—	自然			SK20021
1724	E 3j7	円 形	1.02	—	25	外傾	平坦	—	自然			SK20022
1725	F 3a5	楕 円 形	1.38×1.14	—	40	外傾	平坦	—	自然			SK20023
1727	E 3j5	不 整 形	1.50×1.00	—	36	外傾	平坦	1	自然			SK20025
1728	F 3b3	楕 円 形	1.56×(1.15)	—	33	緩斜	平坦	—	自然			SK20026
1729	F 3b7	楕 円 形	1.20×1.06	—	48	外傾	平坦	—	自然			SK20027
1730	E 3j8	円 形	[1.90]	—	80	直立	平坦	—	自然			SK20028
1732	F 3a4	不整楕円形	1.10×0.95	—	52	外傾	平坦	—	自然			SK20030
1733	F 3a5	円 形	1.27	—	30	外傾	平坦	—	自然			SK20031
1736	F 3g6	不 整 形	1.48×1.08	—	76	緩斜	平坦	—	自然			SK20034
1737	E 3j6	楕 円 形	1.16×0.80	—	16	緩斜	平坦	—	自然			SK20035
1738	F 3a6	楕 円 形	1.16×1.04	—	28	外傾	平坦	—	自然			SK20036
1739	E 3i6	円 形	0.94	—	32	外傾	平坦	—	自然			SK20037
1740	E 3h6	不整楕円形	2.38×1.76	—	32	外傾	平坦	—	自然			SK20038
1741	E 3i6	円 形	1.14	—	46	外傾	平坦	—	自然			SK20039
1742	E 3i6	楕 円 形	1.16×0.94	—	26	緩斜	平坦	1	自然			SK20040
1743	E 3j6	円 形	1.04	—	38	外傾	平坦	—	自然			SK20041
1744	F 3h4	円 形	0.88	—	12	緩斜	平坦	—	自然			SK20042
1745	F 3h5	円 形	0.81	—	22	直立	平坦	—	自然			SK20043
1746	E 3i7	円 形	1.07	—	28	外傾	平坦	—	自然			SK20044
1749	E 3h6	不整楕円形	1.95×1.58	—	74	緩斜	平坦	—	自然			SK20047
1750	E 3i6	円 形	1.74	—	22	緩斜	平坦	—	自然			SK20048
1751	E 3h7	楕 円 形	2.40×2.18	—	26	外傾	平坦	1	自然			SK20049
1753	E 3g1	円 形	1.82	—	57	外傾	平坦	1	自然			SK20052

番号	位置	開口部 平面形	規 模			壁面	底面	ピッチ	覆土	主な出土遺物	重 複 関 係 (旧→新)	発 掘 番 号
			開口部(長径×短径m)	底部(長径×短径m)	深さ(cm)							
1754	E 3g1	楕円形	1.56×1.11	—	14	直立	凹凸	—	自然			SK20053
1756	E 3f1	円形	2.09	—	36	緩斜	平坦	2	自然			SK20055
1757	E 2f0	楕円形	(0.96)×0.72	—	21	緩斜	凹凸	—	自然	本跡→SK1758		SK20056
1758	E 2f0	円形	1.81	—	35	緩斜	平坦	1	自然	SK1757→本跡		SK20057
1759	E 2e7	楕円形	2.92×(1.34)	—	50	緩斜	平坦	1	自然			SK20058
1760	E 2f0	楕円形	2.33×1.83	—	24	外傾	凹凸	1	自然			SK20059
1761	E 2e0	円形	2.12	—	58	直立	平坦	1	自然	深鉢, 石皿, 打製石斧		SK20060
1762	E 3f7	楕円形	1.78×1.56	—	26	外傾	平坦	—	自然			SK20061
1763	E 2f0	楕円形	2.21×1.92	—	15	緩斜	平坦	1	自然			SK20062
1764	E 2d0	円形	1.96	—	21	緩斜	平坦	—	自然			SK20063
1765	E 3d1	円形	1.84	—	43	緩斜	平坦	1	自然			SK20064
1767	E 3e2	楕円形	1.96×1.77	—	47	緩斜	平坦	1	自然			SK20066
1769	E 3e1	不明	不明	—	48	外傾	平坦	2	自然			SK20068
1770	E 3f9	楕円形	1.32×1.15	—	49	直立	平坦	—	自然			SK20069
1771	E 3e4	楕円形	2.34×2.06	—	71	直立	平坦	1	自然	深鉢		SK20070
1772	E 3e2	楕円形	2.18×1.96	—	118	直立	平坦	—	自然	深鉢		SK20071
1773	E 3d9	不明	(0.76)×0.89	—	48	外傾	皿状	—	自然	本跡→P706		SK20072
1775	E 3d0	楕円形	2.81×2.24	—	35	緩斜	平坦	4	自然			SK20074
1776	E 4d1	楕円形	0.92×0.83	—	31	直立	平坦	—	自然			SK20075
1777	E 4d1	円形	0.95×0.83	—	30	外傾	平坦	—	自然			SK20076
1778	E 3e8	楕円形	2.74×2.50	—	50	緩斜	平坦	1	自然			SK20079
1779	E 3e9	円形	1.45	—	43	外傾	平坦	—	自然			SK20080
1780	E 3f2	楕円形	2.64×[1.50]	—	34	段状	凹凸	—	自然	本跡→SK1791		SK20081
1781	E 3f2	不明	不明	—	35	外傾	平坦	1	自然	SK1780→本跡→SK1782		SK20082
1782	E 3e2	楕円形	2.01×1.90	—	24	外傾	平坦	—	自然	SK1781→本跡		SK20083
1783	E 3e5	円形	1.15	—	51	直立	平坦	—	自然			SK20084
1785	E 3f5	楕円形	1.16×0.92	—	51	緩斜	皿状	—	自然			SK20086
1786	E 4h1	楕円形	1.60×1.38	—	44	外傾	平坦	—	自然			SK20087
1787	E 3e5	楕円形	1.83×[1.20]	—	34	外傾	平坦	1	自然	本跡→SK1784		SK20088
1788	E 3f7	円形	1.03	—	32	外傾	U字状	—	自然			SK20089
1789	E 3g4	円形	1.28	—	28	外傾	平坦	—	自然			SK20090
1790	E 3d4	楕円形	1.72×1.24	—	80	外傾	平坦	—	自然			SK20091
1791	E 3f4	円形	1.01	—	55	直立	平坦	—	自然			SK20092
1792	E 3a7	円形	1.40	—	70	直立	平坦	—	不明			SK20093
1793	E 2f5	楕円形	1.78×1.44	—	76	緩斜	U字状	—	自然			SK20094
1794	E 3g5	円形	1.42	—	60	外傾	平坦	—	自然			SK20095
1796	E 4h1	不整楕円形	0.84×0.72	—	40	外傾	U字状	—	自然			SK20097
1797	E 3f8	楕円形	2.62×1.56	—	80	緩斜	平坦	—	自然			SK20098
1799	E 3g9	楕円形	1.36×1.20	—	54	外傾	平坦	—	自然			SK20100
1800	F 3d4	楕円形	[1.15]	—	28	外傾	平坦	—	自然	SK2021→本跡		SK20101
1801	F 3c4	不整楕円形	1.80×1.48	—	30	外傾	平坦	1	自然	本跡→P682		SK20102
1803	F 3e5	円形	2.02	—	48	外傾	平坦	—	自然			SK20105
1805	F 3e6	円形	1.44	—	55	外傾	平坦	—	自然			SK20107
1806	F 3e6	不整楕円形	1.40×1.18	—	30	外傾	平坦	—	自然			SK20108
1808	F 3d6	楕円形	2.36×1.74	—	30	緩斜	平坦	—	自然			SK20110
1811	F 3e8	円形	1.34	—	68	外傾	平坦	—	自然			SK20114

番号	位置	開口部 平面形	規 模			壁面	底面	ピット	覆土	主な出土遺物	重 複 関 係 (旧→新)	発 掘 番 号
			開口部(長径×短径m)	底部(長径×短径m)	深さ(cm)							
1812	F 3 b7	円 形	1.06	—	34	外傾	平坦	—	自然			SK20115
1814	E 3 g7	不整円形	1.14	—	52	直立	平坦	—	自然	深鉢	本跡→SK1815	SK20117
1815	E 3 g8	円 形	1.44	—	62	直立	平坦	—	自然		SK1814→本跡	SK20118
1816	C 3 h7	楕円形	2.42×1.76	—	48	直立	平坦	—	自然		本跡→SK1817	SK20119
1817	C 3 h7	円 形	[1.86]	—	38	直立	平坦	—	自然	深鉢	SK1816→本跡→SK1820	SK20120
1818	D 3 b6	円 形	1.45	—	28	外傾	平坦	1	自然		P523→本跡	SK20121
1819	C 3 g7	楕円形	1.83×1.33	—	31	外傾	平坦	—	自然		P521・522→本跡	SK20122
1820	C 3 g7	楕円形	2.01×1.40	1.86×1.60	97	内傾	平坦	—	自然		SK1817→本跡	SK20123
1821	D 3 a5	円 形	1.96	2.26	96	内傾	平坦	5	自然	深鉢	本跡→SK1822	SK20124
1822	D 3 a5	楕円形	[1.56×0.94]	—	25	外傾	平坦	—	自然		SK1821→本跡	SK20125
1824	D 3 b4	円 形	2.04	2.07	47	内傾	平坦	4	自然		本跡→P718	SK20127
1825	D 3 i5	楕円形	0.92×0.82	—	26	外傾	平坦	—	自然			SK20128
1829	D 3 a8	楕円形	2.16×1.62	2.88×2.24	68	内傾	平坦	1	自然	深鉢	SK1830→本跡→SI217-218, SK1831	SK20132
1830	D 3 a8	楕円形	1.52×1.09	3.21×2.82	102	内傾	平坦	—	自然	深鉢	本跡→SI217-218, SK1829	SK20133
1831	D 3 a7	円 形	[2.04]	—	65	直立	平坦	2	自然	深鉢	SK1829→本跡→SI217, SK1843	SK20134
1832	D 3 a8	楕円形	1.37×1.23	—	92	外傾	平坦	1	自然	深鉢	SI218→本跡	SK20135
1833	D 3 a0	円 形	1.84	—	54	外傾	平坦	4	自然			SK20136
1834	D 3 j5	円 形	0.91	—	16	外傾	平坦	—	自然			SK20137
1835	D 3 g2	円 形	1.04	—	51	外傾	平坦	—	自然			SK20138
1836	E 3 g0	楕円形	1.36×0.92	—	53	外傾	平坦	—	自然		SI209→本跡	SK20139
1838	D 3 a8	不 明	不 明	—	20	外傾	平坦	—	自然		本跡→SI218, P631・658	SK20142
1839	C 4 j2	円 形	2.08	2.25×1.81	43	内傾	平坦	4	不明		SK1853→本跡	SK20143
1840	C 3 j8	円 形	1.14	1.49	50	内傾	平坦	2	自然			SK20144
1841	C 3 i7	円 形	[1.24]	2.64×2.38	64	内傾	平坦	—	自然	深鉢	本跡→SK1842	SK20145
1842	C 3 i7	円 形	[1.30]	1.82×1.52	45	内傾	平坦	—	自然	深鉢, 磨製石斧	SK1841→本跡	SK20146
1843	D 3 a7	円 形	[1.12]	1.72×1.44	83	内傾	平坦	—	自然	深鉢	SK1831・1844→本跡	SK20147
1844	D 3 a7	不 明	不 明	2.46×[2.26]	62	内傾	平坦	—	自然		本跡→SK1843	SK20148
1845	E 4 i4	楕円形	2.37×1.65	—	30	外傾	平坦	—	自然			SK20149
1846	E 4 g2	楕円形	1.67×1.34	—	30	外傾	平坦	—	自然			SK20150
1847	D 3 b9	楕円形	1.78×1.54	1.88×1.66	43	内傾	平坦	3	自然	深鉢, 鉢		SK20151
1848	D 3 a5	不 明	[1.30]	—	不明	不明	不明	—	不明			SK20152
1849	D 3 b5	不 明	不 明	—	24	外傾	平坦	1	自然		SK1643→本跡→SK1642	SK20153
1850	D 3 a7	円 形	1.03	1.16×0.94	37	内傾	平坦	—	自然		本跡→SK1851	SK20154
1851	D 3 a7	円 形	1.36×1.21	1.29×1.18	56	内傾	平坦	—	自然	深鉢, 浅鉢	SK1850→本跡	SK20155
1853	C 4 i2	不 明	不 明	—	45	外傾	不明	—	自然		本跡→SK1839	SK20157
1854	C 3 j7	円 形	1.24	1.96×1.80	56	内傾	平坦	—	人為	深鉢, 浅鉢	本跡→SK1601, P495	SK20158
1855	C 3 h5	円 形	1.33	2.70×2.55	78	内傾	平坦	—	自然	深鉢, 磨石	本跡→SI211	SK20159
1856	C 3 j6	円 形	1.79	2.24×1.80	55	内傾	平坦	—	自然	深鉢	本跡→SK1854・1929	SK20160
1857	D 3 b9	楕円形	2.62×1.90	—	52	直立	平坦	2	自然	深鉢	SK1858・1872→本跡	SK20161
1858	D 3 b9	円 形	2.19	2.20×2.05	66	内傾	平坦	3	自然	深鉢	SK1917→本跡→SK1857	SK20162
1859	D 3 d5	円 形	[1.56]	2.50×2.18	74	内傾	平坦	—	自然	深鉢, 石皿, 磨製石斧		SK20163
1860	C 3 i8	楕円形	1.46×1.18	2.68×2.55	74	内傾	平坦	—	自然	深鉢, 磨製石斧	本跡→SI174, SK1874	SK20164
1861	E 3 j3	不整楕円形	2.14×1.75	—	38	緩斜	平坦	—	自然		本跡→SI222	SK20165
1862	D 3 b7	円 形	[1.90]	2.48×2.20	118	内傾	皿状	—	自然	深鉢, 磨石	本跡→SI179, P704	SK20166
1863	D 3 b6	楕円形	2.30×2.03	—	41	直立	平坦	1	自然			SK20167
1864	D 3 a6	円 形	1.25	1.40	35	内傾	平坦	—	自然		本跡→SK1865	SK20168

番号	位置	開口部 平面形	規 模			壁面	底面	ピット	覆土	主な出土遺物	重 複 関 係 (旧→新)	発 掘 番 号
			開口部(長径×短径m)	底部(長径×短径m)	深さ(cm)							
1865	D 3 a6	円 形	1.76	—	83	外傾	平坦	—	自然		SK1864→本跡	SK20169
1866	D 3 b6	円 形	0.73	—	95	不明	不明	—	不明			SK20170
1868	E 3 i5	楕 円 形	1.35×[1.17]	—	75	段状	皿状	—	自然			SK20172
1869	E 3 j5	不 明	1.43×(0.75)	—	25	緩斜	平坦	1	自然			SK20173
1870	D 3 i3	円 形	0.64	0.54×0.48	71	内傾	平坦	—	自然			SK20174
1871	C 3 g7	不 明	不 明	—	42	外傾	平坦	2	自然			SK20175
1872	D 3 b9	不 明	不 明	—	38	直立	平坦	3	自然		本跡→SK1857	SK20176
1873	C 3 i5	楕 円 形	0.85×0.69	1.90×1.80	85	内傾	平坦	—	自然			SK20177
1874	C 3 j8	楕 円 形	2.34×[1.78]	—	30	外傾	平坦	2	自然	深鉢	SK1860→本跡	SK20178
1875	D 3 b8	楕 円 形	1.97×[1.00]	—	20	外傾	凹凸	—	自然			SK20179
1876	D 3 d5	楕 円 形	1.58×1.43	2.16×1.94	118	内傾	平坦	2	自然	深鉢, 磨石	SK1877→本跡	SK20180
1877	D 3 d5	不 明	不 明	—	26	外傾	平坦	—	自然		本跡→SK1876	SK20181
1878	E 3 i4	不整楕円形	1.67×0.84	—	32	外傾	平坦	—	自然			SK20182
1881	E 3 h5	円 形	1.84	—	54	直立	凹凸	—	自然			SK20185
1882	E 3 h5	楕 円 形	0.82×0.69	—	42	緩斜	皿状	—	自然			SK20186
1883	D 4 h2	楕 円 形	0.38×[1.00]	—	95	外傾	平坦	—	自然			SK20187
1884	C 3 j0	円 形	[1.72]	—	26	外傾	平坦	2	自然	深鉢	SK1528・1886→本跡	SK20188
1885	D 3 a9	不 明	[1.82]	—	48	不明	平坦	—	自然		SK1886・1917→本跡	SK20189
1886	C 3 i9	不 明	不 明	—	12	外傾	平坦	2	自然		本跡→SK1884・1885	SK20190
1887	D 3 f6	楕 円 形	(0.78)×0.64	—	15	外傾	平坦	—	自然		本跡→SK1889	SK20191
1888	D 3 f6	楕 円 形	1.14×(0.82)	—	12	外傾	平坦	—	自然		本跡→SK1889	SK20192
1889	D 3 f6	楕 円 形	1.72×1.24	2.38	84	内傾	平坦	—	自然	深鉢, 不明土製品	SK1887, 1888→本跡	SK20193
1890	D 3 h7	円 形	1.14	—	36	外傾	平坦	—	自然		本跡→SI216・SK1891	SK20194
1891	D 3 h7	楕 円 形	1.18×0.86	—	22	外傾	平坦	—	自然		SK1890→本跡→SI216	SK20195
1892	D 3 e8	円 形	2.30	—	50	外傾	平坦	1	自然	深鉢	本跡→SK1894	SK20196
1893	D 3 e8	楕 円 形	1.36×1.06	—	12	外傾	平坦	—	自然		本跡→SK1894	SK20197
1895	D 3 f9	楕 円 形	1.92×1.62	—	18	外傾	平坦	1	自然			SK20199
1896	D 4 g1	円 形	1.98	—	15	外傾	平坦	1	自然			SK20200
1897	D 4 e1	円 形	1.06	—	10	外傾	平坦	—	自然			SK20201
1898	F 3 a6	楕 円 形	1.60×1.42	—	44	外傾	平坦	—	自然			SK20202
1900	F 3 e4	円 形	1.10	—	28	外傾	平坦	—	自然			SK20204
1901	F 3 e4	楕 円 形	2.14×1.16	1.85×1.22	72	外傾	平坦	—	自然			SK20205
1902	F 3 f4	不 明	2.85×(2.22)	—	60	外傾	平坦	1	自然			SK20206
1903	E 3 h4	楕 円 形	1.38×1.16	—	62	外傾	平坦	—	自然			SK20207
1905	D 3 c9	円 形	1.88	1.88×1.74	76	内傾	平坦	1	自然	深鉢	SK1932→本跡→SK1906	SK20209
1906	D 3 c9	円 形	1.80	2.12×1.72	74	内傾	平坦	2	自然		SK1905→本跡	SK20211
1907	D 3 c9	円 形	[0.86]	—	26	直立	皿状	—	不明			SK20212
1908	D 4 e2	円 形	1.97	2.10×1.72	66	内傾	平坦	1	自然	深鉢		SK20213
1909	D 3 c3	円 形	0.82×0.80	—	不明	外傾	不明	—	不明			SK20214
1910	D 3 b8	楕 円 形	0.82×0.52	2.13×1.83	62	内傾	平坦	—	自然	深鉢	本跡→SK1944	SK20215
1911	C 3 a0	楕 円 形	1.87×1.67	1.96×2.00	57	内傾	平坦	2	人為	深鉢	本跡→SK1912・1918	SK20216
1912	C 3 a0	円 形	[2.07]	—	30	外傾	平坦	—	自然	深鉢	SK1911→本跡→SK1913	SK20217
1913	D 3 a0	円 形	[1.56]	[1.68]	39	内傾	平坦	3	自然	深鉢, 打製石斧, 磨石	SK1885・1911・1912・1917・1920→本跡→SK1974	SK20218
1914	D 3 f7	円 形	1.87×1.81	—	46	外傾	平坦	2	自然			SK20219
1915	D 3 i8	楕 円 形	1.34×1.16	—	45	直立	平坦	—	自然	深鉢		SK20220
1916	D 3 f6	円 形	[2.63]	—	52	外傾	平坦	6	自然	深鉢	本跡→SK1185	SK20221

番号	位置	開口部 平面形	規 模			壁面	底面	ピット	覆土	主な出土遺物	重 複 関 係 (旧→新)	発 掘 番 号
			開口部(長径×短径m)	底部(長径×短径m)	深さ(cm)							
1917	D 3a9	楕円形	2.31×1.85	2.40×2.30	39	内傾	平坦	3	人為	深鉢	本跡→SK1858・1885	SK20222
1918	D 3h7	円形	[1.96]	—	50	不明	不明	—	不明	深鉢		SK20223
1919	D 3i7	楕円形	1.23×1.00	—	42	外傾	平坦	1	自然			SK20224
1920	D 3a0	円形	1.90×0.87	—	125	直立	平坦	—	自然	深鉢, 磨石	SK1885→本跡	SK20226
1921	D 3a6	楕円形	0.70×0.60	—	63	直立	平坦	—	不明			SK20228
1922	C 3g7	円形	2.16×[2.02]	—	43	外傾	平坦	—	不明	深鉢	本跡→SK1871	SK20229
1923	E 3i0	円形	1.10×1.00	—	20	外傾	皿状	—	自然			SK20230
1924	D 3b7	楕円形	1.83×1.59	1.95×1.78	53	内傾	平坦	2	自然	深鉢		SK20231
1925	E 4j2	楕円形	1.13×0.75	—	13	外傾	平坦	—	自然			SK20232
1926	D 3h6	円形	1.36	—	25	外傾	平坦	—	自然			SK20233
1927	D 3c7	楕円形	1.10×0.92	2.32×2.03	112	内傾	平坦	—	自然	深鉢, 浅鉢	SI245→本跡	SK20234
1928	D 3a7	楕円形	1.00×0.81	1.54×1.35	90	内傾	平坦	—	人為	深鉢, 打製石斧, 磨製石斧	本跡→P557	SK20235
1929	D 3a6	楕円形	[2.24×1.28]	—	17	外傾	平坦	—	自然		本跡→P558	SK20236
1930	D 3b7	円形	0.78×0.72	—	100	外傾	平坦	—	自然		SK1931→本跡	SK20237
1931	D 3b7	楕円形	1.45×1.20	—	65	外傾	平坦	1	自然	深鉢	本跡→SK1930	SK20238
1932	D 3c9	楕円形	[1.40×1.20]	2.15×2.05	68	内傾	平坦	—	自然	深鉢	本跡→SK1894	SK20239
1933	D 3e9	円形	1.08×1.10	—	27	外傾	平坦	—	自然			SK20240
1934	F 4a1	円形	1.93×1.90	—	50	外傾	平坦	—	自然		本跡→SI1197	SK20241
1935	D 3f8	楕円形	0.50×0.44	—	42	直立	平坦	—	不明			SK20242
1936	D 3g8	楕円形	0.92×0.65	—	60	外傾	平坦	—	自然			SK20243
1937	D 3b8	楕円形	1.43×[1.05]	—	19	外傾	平坦	2	不明			SK20244
1938	D 3g7	楕円形	2.50×2.15	—	22	外傾	平坦	2	自然			SK20245
1939	D 3g5	楕円形	1.18×1.06	—	34	外傾	平坦	—	自然			SK20246
1940	D 3b7	不整楕円形	0.84×0.74	1.02×0.81	36	内傾	平坦	—	自然	深鉢		SK20247
1941	D 3d5	楕円形	1.52×1.34	1.68×1.56	43	内傾	平坦	—	人為	深鉢, 鉢	本跡→SI230	SK20248
1942	C 3h9	円形	0.70×[0.65]	2.34	86	内傾	平坦	—	自然	深鉢, 浅鉢, 土器片円盤		SK20249
1943	D 3c7	楕円形	2.08×1.62	—	不明	外傾	不明	2	不明	深鉢	SI245, SK2012→本跡	SK20250
1944	D 3b8	楕円形	2.28×1.97	—	35	外傾	平坦	2	人為	深鉢, 磨製石斧, 敲石	SK1910→本跡	SK20251
1945	C 3j7	不整円形	1.63×1.50	1.75×1.58	50	内傾	平坦	—	自然	深鉢	本跡→SK1874	SK20252
1946	D 3c7	不整形	1.04×0.90	—	70	外傾	凹凸	—	自然			SK25253
1947	D 4f3	楕円形	1.38×(0.95)	—	21	緩斜	平坦	1	自然		本跡→SK1948	SK20254
1948	D 4f3	楕円形	1.32×1.13	—	45	緩斜	平坦	—	自然		SK1947・1949→本跡	SK20255
1949	D 4g3	楕円形	1.65×0.80	—	25	緩斜	平坦	—	人為		本跡→SK1948	SK20256
1950	D 4g3	円形	1.25	—	25	緩斜	平坦	—	自然			SK20257
1951	D 4h4	円形	1.45×1.36	—	45	外傾	平坦	—	人為			SK20258
1952	D 4g3	楕円形	1.50×0.95	—	64	外傾	皿状	—	自然			SK20259
1953	D 4g4	円形	1.17×1.15	—	33	緩斜	平坦	—	自然			SK20260
1954	D 3b0	円形	1.57×[1.50]	1.80×[1.70]	37	内傾	平坦	2	人為	深鉢, 打製石斧	SI242, SK1955→本跡	SK20262
1955	D 3b0	楕円形	2.33×2.13	2.45×2.15	83	内傾	平坦	—	自然	深鉢, 浅鉢, 磨石	SI242→本跡→SK1954	SK20263
1956	D 4b1	楕円形	1.25×1.10	1.15×1.00	20	内傾	平坦	—	自然		SI242・SK1973→本跡	SK20264
1957	D 3f7	円形	1.88×1.78	1.77×1.75	45	内傾	平坦	2	自然	深鉢	SK1958→本跡	SK20265
1958	D 3f7	円形	2.60×2.55	2.90×2.75	70	内傾	平坦	—	人為		本跡→SK1957・1959	SK20266
1959	D 3f7	楕円形	1.55×1.30	—	40	外傾	平坦	—	不明		SK1958→本跡	SK20267
1960	D 4a1	不整楕円形	1.80×1.70	—	25	緩斜	平坦	1	自然		本跡→SK1961・1971	SK20270
1961	D 4a1	楕円形	0.90×0.75	—	36	外傾	平坦	—	自然		SK1960・1962→本跡	SK20271
1962	D 4a1	不整楕円形	1.61×1.30	1.63×1.09	26	内傾	平坦	—	人為		本跡→SK1961	SK20272

番号	位置	開口部 平面形	規 模			壁面	底面	ピット	覆土	主な出土遺物	重 複 関 係 (旧→新)	発 掘 号
			開口部(長径×短径m)	底部(長径×短径m)	深さ(cm)							
1963	D 3a9	不整楕円形	1.18×1.04	—	60	外傾	平坦	—	自然		SK1964→本跡	SK20273
1964	D 3a9	円 形	1.84×1.62	2.28×2.10	75	内傾	平坦	—	自然		本跡→SK1963	SK20274
1965	D 4a1	不整円形	0.90	—	70	外傾	平坦	1	自然		SK1966→本跡	SK20275
1966	D 4b1	楕 円 形	1.40×1.28	1.52×1.30	55	内傾	凹凸	2	人為		本跡→SK1965	SK20276
1967	E 3d7	隅丸長方形	(1.20)×1.05	—	26	外傾	平坦	—	自然			SK20277A
1968	E 3d6	円 形	1.20×1.10	1.26×1.10	23	内傾	平坦	—	自然			SK20277B
1969	D 4c3	不整楕円形	2.59×2.31	3.75×3.41	85	内傾	平坦	—	自然			SK20278
1970	C 4i1	円 形	1.18×1.10	2.06×1.98	90~94	内傾	平坦	—	人為	深鉢, 打製石斧, 石鏃	本跡→SI182	SK20279
1971	C 4j1	楕 円 形	1.45×(0.22)	—	21	外傾	平坦	—	不明		SK1960→本跡	SK20280
1972	D 3b0	楕 円 形	1.02×0.83	—	12	外傾	平坦	—	不明			SK20281
1973	D 4b1	円 形	0.86×0.62	—	49	外傾	皿状	—	自然		本跡→SK1956	SK20282
1974	D 3a0	円 形	0.95×0.91	—	98	外傾	平坦	—	人為	有孔鐔付土器		SK20286
1975	D 3f0	楕 円 形	1.74×1.38	—	33	外傾	皿状	—	自然		SK1999→本跡	SK20287
1977	C 4g1	不 明	(1.45×0.59)	—	51	外傾	平坦	—	自然		SK1978→本跡→SK1492	SK20289
1978	C 4h2	不 明	1.34×(0.49)	—	38	外傾	平坦	—	自然		SK1979→本跡→SK1977	SK20290
1979	C 4h2	不 明	1.91×(1.44)	—	36	緩斜	平坦	2	自然		本跡→SK1978	SK20291
1980	D 3d7	円 形	1.37×1.29	—	66	直立	平坦	—	人為			SK20293
1981	D 3b9	円 形	1.01×0.94	—	32	外傾	平坦	—	自然			SK20294
1982	D 3b9	円 形	0.77×0.76	0.69×0.62	55	内傾	平坦	—	自然			SK20295
1983	D 3i8	円 形	1.03×0.92	—	41	外傾	平坦	—	自然			SK20296
1984	D 3i7	円 形	0.78×0.74	—	15	外傾	平坦	—	自然			SK20297
1985	D 4f3	楕 円 形	1.25×0.96	—	10	緩斜	平坦	—	不明		本跡→SI226	SK20298
1986	D 3g6	円 形	1.59×[1.52]	—	11	外傾	平坦	—	不明		本跡→SI183	SK20299
1987	D 3i0	円 形	1.26×1.17	—	27	緩斜	平坦	—	自然			SK20300
1988	D 3d8	楕 円 形	1.08×0.89	—	31	外傾	平坦	—	自然			SK20301
1989	D 4d1	円 形	2.07×1.97	2.33×2.19	60~70	内傾	平坦	4	自然	深鉢, 浅鉢, 磨製石斧		SK20302
1990	D 4d1	楕 円 形	20.6×1.84	—	58	外傾	平坦	—	人為		本跡→SI237	SK20303
1991	D 3e0	楕 円 形	1.33×1.14	—	51	緩斜	平坦	—	自然		SK1992→本跡	SK20304
1992	D 3e0	円 形	0.95×0.90	3.00×2.90	82	内傾	平坦	—	自然	深鉢, 土器片円盤	本跡→SK1991・1994	SK20305
1993	D 3d9	円 形	1.06×0.98	—	94	直立	平坦	—	自然			SK20307
1994	D 4c1	円 形	2.16×2.04	—	42	直立	平坦	1	人為	深鉢	SK1992→本跡	SK20308
1995	D 4c1	楕 円 形	1.39×1.18	1.08×0.89	46	内傾	平坦	—	自然			SK20309
1996	D 4c2	円 形	1.09×0.99	—	13	外傾	平坦	—	不明			SK20310
1997	D 4c3	円 形	0.99×0.93	—	15	緩斜	平坦	—	不明			SK20311
1998	D 4f3	円 形	1.06×[1.01]	—	11	外傾	平坦	—	不明		本跡→SI226	SK20312
1999	D 3f0	隅丸方形	[1.72]×1.68	—	43	外傾	平坦	1	自然		本跡→SI234, SK1975	SK20313
2000	D 3a0	不 整 形	0.94×(0.74)	1.58×(0.92)	44	内傾	平坦	—	不明		本跡→SK2008	SK20314
2001	D 3e5	楕 円 形	1.90×[1.60]	—	12	緩斜	平坦	—	自然			SK20315
2002	D 3g7	楕 円 形	1.10×(0.50)	—	29	外傾	平坦	—	不明	F17→本跡		SK20316
2003	D 3d9	楕 円 形	0.94×0.82	—	14	直立	凹凸	—	自然			SK20317
2004	D 3d9	楕 円 形	0.88×0.73	—	23	直立	平坦	1	不明			SK20318
2005	D 3j9	隅丸方形	1.41×1.35	—	48	直立	平坦	—	自然			SK20319
2006	D 4b5	円 形	1.21×1.11	—	51	外傾	平坦	1	不明			SK20320
2007	E 3b0	楕 円 形	2.27×[2.05]	2.07×2.02	88	内傾	平坦	1	人為		本跡→SI213・231	SK20321
2008	D 3a0	円 形	0.81×0.74	—	142	直立	平坦	—	自然		SK2000→本跡	SK20323
2009	D 3e6	不整楕円形	1.71×1.06	—	36	緩斜	皿状	—	自然		本跡→SI230	SK20325

番号	位置	開口部 平面形	規 模			壁面	底面	ピット	覆土	主な出土遺物	重 複 関 係 (旧→新)	発 掘 号
			開口部(長径×短径m)	底部(長径×短径m)	深さ(cm)							
2010	D 3 e6	楕 円 形	0.79×0.68	—	41	外傾	平坦	—	不明		本跡→SI230	SK20326
2011	D 3 e5	楕 円 形	1.30×(0.62)	—	20	外傾	平坦	—	不明			SK20327
2012	D 3 b7	楕 円 形	0.90×(0.67)	1.33×0.98	85	内傾	平坦	—	自然	鉢	本跡→SK1943	SK20328
2013	D 3 d4	楕 円 形	0.95×0.73	0.80×0.76	100	内傾	平坦	—	不明	深鉢		SK20329
2014	D 3 e2	楕 円 形	1.04×0.91	—	24	外傾	皿状	—	自然		SK2015→本跡	SK20330
2015	D 3 e2	楕 円 形	0.68×(0.40)	—	7	緩斜	皿状	—	不明		本跡→SK2014	SK20331
2016	D 3 a0	円 形	0.68×(0.40)	0.80×(0.30)	不明	外傾	不明	—	不明			SK20332
2017	D 3 d5	隅丸長方形	2.32×[1.21]	2010×[1.06]	不明	外傾	不明	—	不明			SK20333
2018	D 3 d7	楕 円 形	0.94×0.67	—	34	外傾	平坦	—	不明			SK20334
2019	C 2 d7	不整楕円形	0.70×0.40	—	不明	不明	不明	—	不明			SK20335
2020	E 2 e0	隅丸長方形	1.22×0.62	—	30	緩斜	平坦	I	不明			SK20326
2021	F 3 d4	不整楕円形	1.20×0.90	—	60	外傾	平坦	—	自然		P681→本跡→SK1800	—
2022	C 2 c6	不 明	(0.61×0.34)	—	28	緩斜	不明	—	不明		本跡→SK983	SK20337
2023	C 2 c8	不 明	不 明	—	不明	不明	不明	—	不明			—